絵目次
警告ラベル
1 必読！安全・快適に運転するために
2 お車をたいせつに
3 各部の開閉
4 シート・シートベルトの取り扱い
5 スイッチ・運転装置の取り扱い
6 メーター・警告灯・表示灯の見方
7 ヒーター・エアコンの取り扱い
8 アクセサリー・装備品の取り扱い
9 正しい運転操作
10 冬期・夏期の取り扱い
11 キャブチルト
12 日常（運行前）点検
13 点検・手入れ
14 給油・給脂
15 故障時の処置
サービスデータ
さくいん

このたびは日野車をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本書は、安全・快適で社会環境にもやさしい運転をしていただくために正しい取り扱いと簡単な点検・手入れについて説明してあります。

取り扱いや点検・手入れを誤りますと故障や事故の原因になります。また、保証をお受けできない場合がありますので、お車のご使用前に必ずお読みください。

- ⚠危険、⚠警告、⚠注意のマークの記載事項を守らないと傷害を負ったり事故の原因になりますので、本文とあわせて必ずよく読んで遵守してください。

⚠危険

取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。

⚠警告

取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がある事項です。

⚠注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車などの物的損害につながる可能性がある事項です。

お車のために必ず守っていただきたいことや、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

アドバイス

車両の正規性能を確保するため、また車の故障や破損を防ぐために守っていただきたい事項です。

知識

知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことです。

- ■、▶、●のマークは、項目の大きさを順に示します。
- ＊のマークは、取り扱い、運転方法、点検整備に関しての参考となる事項です。
- 保証については、「メンテナンスノート」に記載していますのであわせてお読みください。
- 本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されていない場合があります。
- 取扱説明書は、いつも使用できるように自動車検査証およびメンテナンスノートとともに必ずお車の中に、大切に保管してください。
- 本書は車両本体（シャシ）の説明書です。架装物の取り扱いについては、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。
- 排出ガス規制適合車を表す記号は省略した型式で表示してあります。
- お車をおゆずりになるときは、次に所有されるかたのために本書とメンテナンスノートを必ずお車につけておいてください。
- 本書の内容でご不明な点がありましたら、最寄りの日野販売会社までお問い合わせください。
- お車の仕様などの変更により、本書の内容の一部があなたのお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
- 単位について：SI 単位と従来単位を併記し、従来単位は｛　｝内に示してあります。
- AdBlue®（アドブルー）はドイツ自動車工業会の登録商標です。
- Bluetooth® は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。

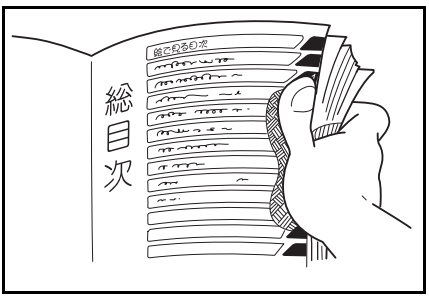
日野自動車株式会社

本書には、知りたいことが簡単にさがせるようういろいろな目次を用意してあります。
目的に応じてお使いください。

■総目次

この本の構成を知りたいときは、こちらをご覧ください。

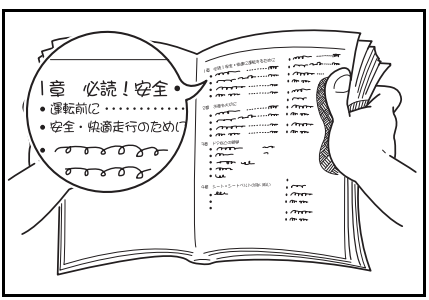
絵目次・警告ラベル・1 ～ 15 章・サービスデータ・さくいんのタイトルが書いてあります。



■章ごとの目次

各章の構成を知りたいときは、こちらをご覧ください。

各章の項目と記載ページが書いてあります。

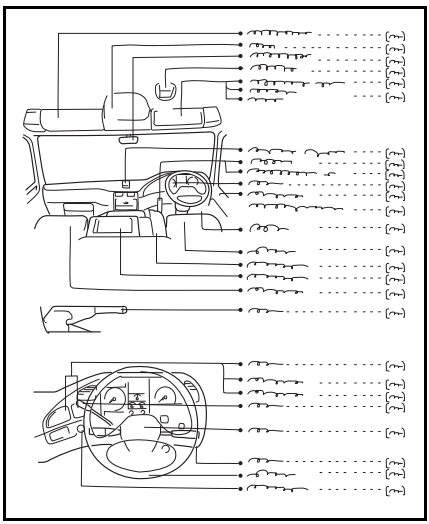


■絵目次

名称がわからないときは、こちらをご覧ください。

装置の名称と記載ページがイラストからさがせます。

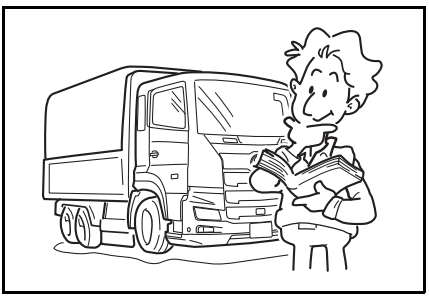
- 室内の紹介と記載ページ
- スイッチ類の紹介と記載ページ
- メーター類の紹介と記載ページ
- 車両周りの紹介と記載ページ
- 注目装置の紹介と記載ページ



■**必読！安全・快適に運転するために（→ P.1-2）**

お車を運転する前に必ずご覧ください。

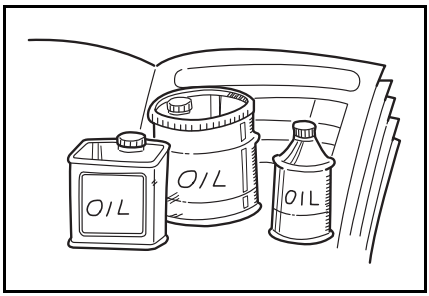
知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことが要約して書いてあります。



■**油脂一覧表（→ P.14-39）**

油脂類交換に関することは、こちらをご覧ください。

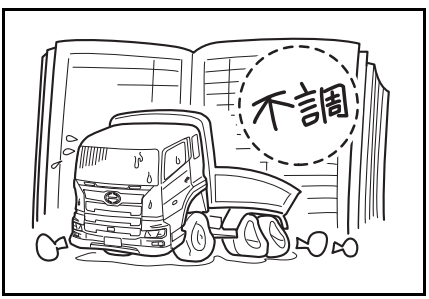
油脂類の名称・容量・交換時期・作業要領の記載ページなどが書いてあります。



■**不調時の原因と処置（→ P.15-2）**

不調だな！と思ったときは、こちらをご覧ください。

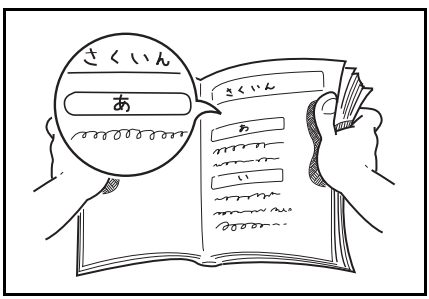
不調の原因と、その処置方法の記載ページが書いてあります。



■**さくいん**

名称がわかっているときは、こちらをご覧ください。

各項目が、あいうえお順に書いてあります。

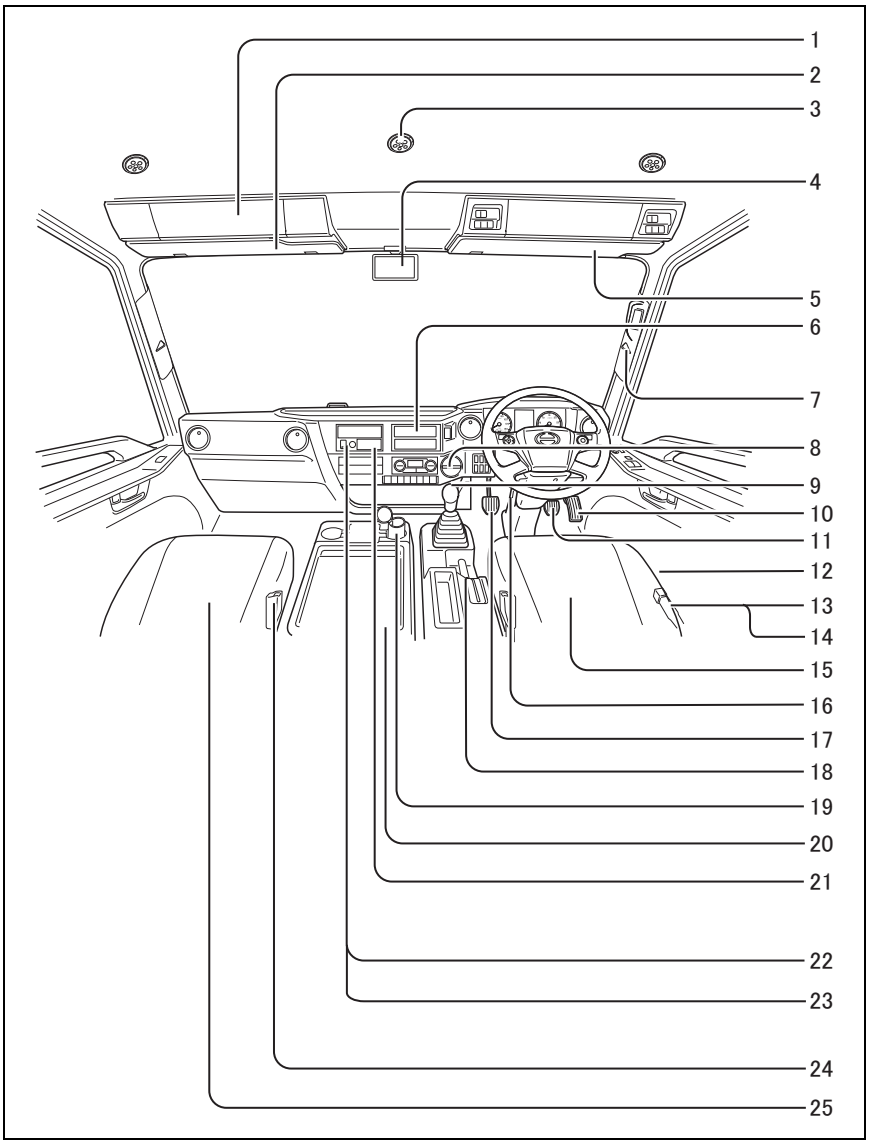


絵目次

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

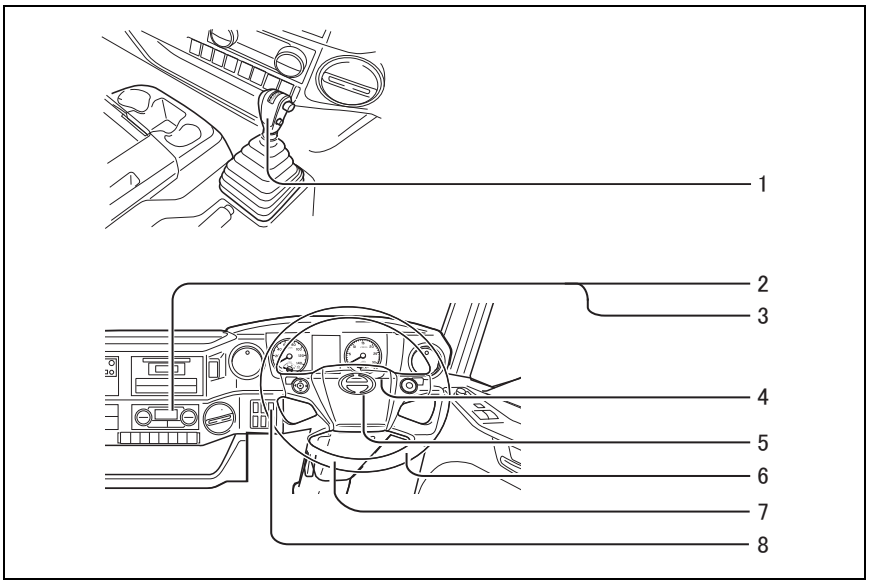
室内の紹介と記載ページ

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. コンソールボックス類（→ P.8-42）
2. サンバイザー（助手席側）★（→ P.8-38）
3. LED 室内灯（→ P.8-35）
4. バックアイ★（→ P.5-228）
5. サンバイザー（運転席側）★（→ P.8-38）
6. AM/FM ラジオ（→ P.8-9）
7. サイトアラウンドモニターシステム表示灯★（→ P.5-216）
8. カードホルダー（→ P.8-45）
9. チェンジレバー（→ P.5-16）
10. アクセルペダル（→ P.5-15）
11. ブレーキペダル（→ P.5-15）
12. ステップランプ（→ P.8-38）
13. ダンプレバー（→ P.5-110）
14. ミキサーコントロールレバー★（→ P.5-114）
15. 運転席（→ P.4-2）
16. アジャスタブルステアリングロックレバー（→ P.5-52）
17. クラッチペダル（→ P.5-15）
18. パーキングブレーキレバー（→ P.5-48）
19. 灰皿（→ P.8-42）
20. センターシート★（→ P.4-6）
21. ETC 2.0（自動料金収受システム）★（→ P.8-16）
22. アクセサリーソケット（→ P.8-39）
23. USB ソケット★（→ P.8-40）
    非常用フライホイール PTO スイッチ★（→ P.5-108）
24. シートベルト（→ P.4-9）
25. 助手席（→ P.4-6）

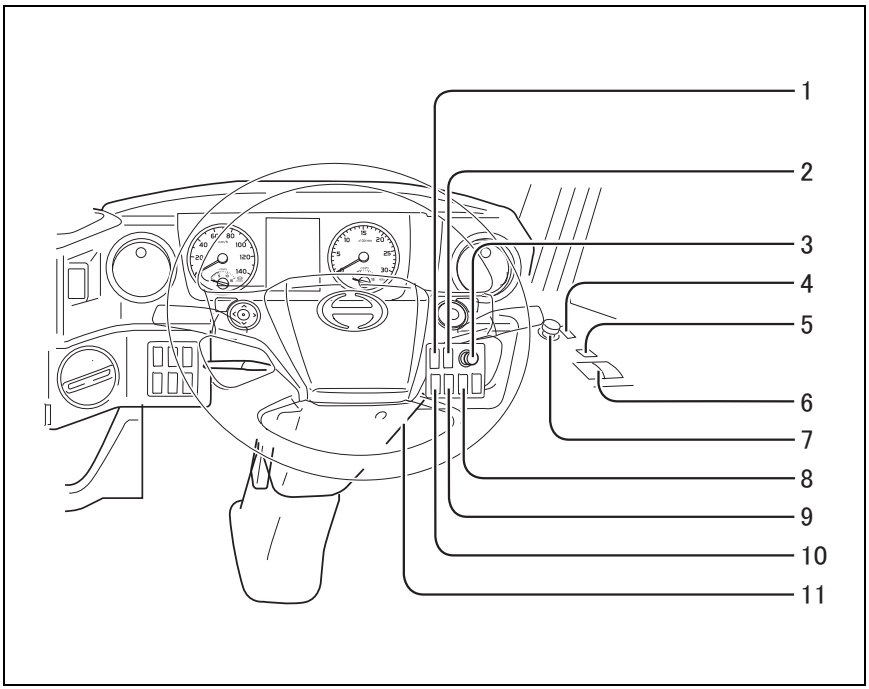
本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. セレクトレバー★
・オートマチックトランスミッション（P.5-19、5-35）
2. フルオートエアコン★（→P.7-3）
3. マニュアルエアコン★（→ P.7-12）
4. 運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）（→ P.5-53）
5. ホーンボタン（→P.5-53）
6. フロントパネル用レバー（→P.3-17）
7. ハンドル（→P.5-52）
8. デジタルタコグラフ（シンプルタイプ）（→P.6-11）

スイッチ類の紹介と記載ページ

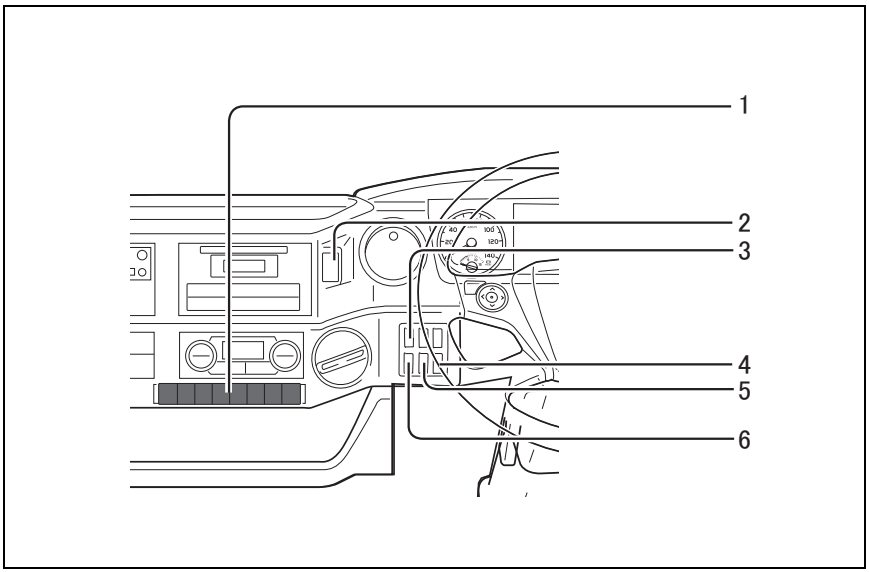
本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. 後部席左側パワーウインド〔ダブルキャブ車〕（→ P.3-11）
   架装ウィングメイン〔ウィング仕様車〕★（→ P.5-92）
2. 後部席右側パワーウインド〔ダブルキャブ車〕（→ P.3-11）
   架装庫内灯〔ウィング仕様車〕★（→ P.5-91）
3. アイドルセットボタン（→ P.5-9）
4. パワーミラー（→ P.5-86）
5. ウインドロック（→ P.3-13）
6. パワーウインド（→ P.3-11）
7. バックミラー角度調整★（→ P.5-84）
8. 発進アイドルアップキャンセル★（→ P.5-93）
9. アイドルストップキャンセル★（→ P.5-122）
10. ワイパーマニュアルストップ★（→ P.5-61）
11. スターター（→ P.5-4）

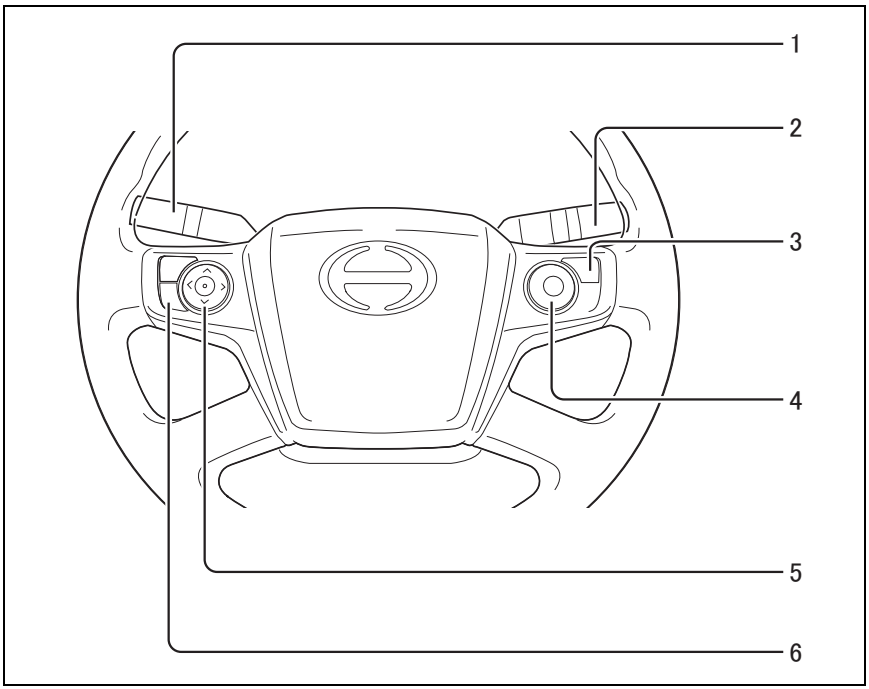
本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

＊ 網掛け部分のスイッチの配置はお車の仕様によって異なります。



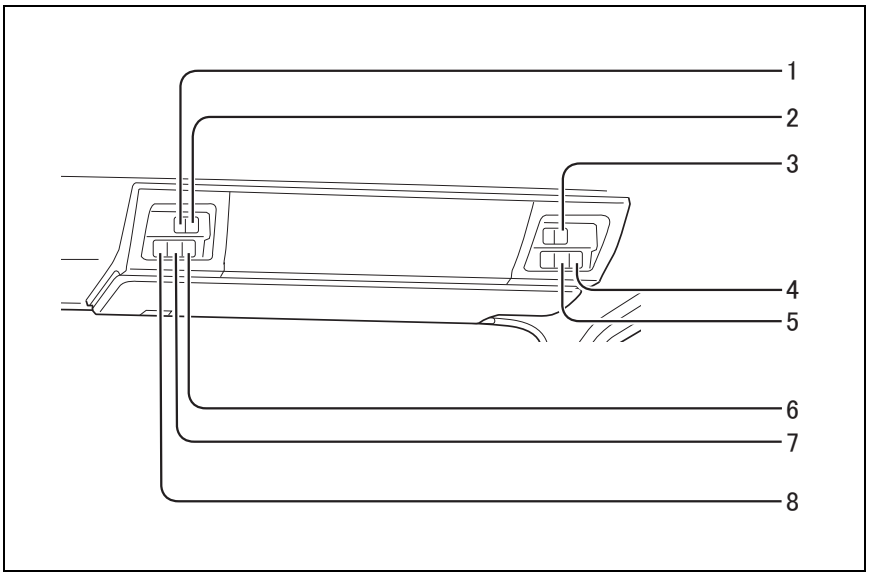
1. フライホイールPTO★（→P.5-107）
   トランスミッション PTO ★（→P.5-105）
   エコモード★（→ P.5-79）
   排出ガス浄化装置再生（→ P.5-80）
   PCS OFF ★（→ P.5-192）
   車線逸脱警報OFF★（→P.5-167）
   VSC/ASR　OFF（P.5-117、P.5-119）
   バックブザー減音スイッチ（→P.5-258）
   ミラーヒーター★（→ P.5-88）
2. ハザード（→ P.5-71）
3. ブレーキロック（作業用補助制動装置）★（→ P.5-114）
4. センターデフロック〔FX・GX車〕（→ P.5-88）
5. シートヒーター★（→ P.4-8）
   バッテリーカット〔消防車〕（→ P.5-3）
6. ES スタート（坂道発進補助装置）★（→ P.5-94）

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. ワイパー&ウォッシャー（→P.5-59）
   可変間欠ワイパー（→P.5-59）
   エキゾーストブレーキ（→P.5-73）
   エンジンリターダー（→P.5-75）
   電磁式リターダーコントロール★（→P.5-77）
   ヘッドランプウォッシャー★（→P.5-62）
2. ターンシグナル（→P.5-71）
   ライティング（→P.5-62）
   フォグランプ★（→P.5-73）
3. ドライバー異常時対応システム(EDSS)★（→P.5-205）
4. リジューム★（P.5-131、5-142、5-155）
   セット★（P.5-131、5-142、5-155）
   キャンセル★（P.5-131、5-142、5-155）
   クルーズメイン★（P.5-131、5-142、5-155）
   タイミング★（→P.5-155）
5. ステアリング（→P.6-29）
6. ハンズフリー★（→P.8-4）

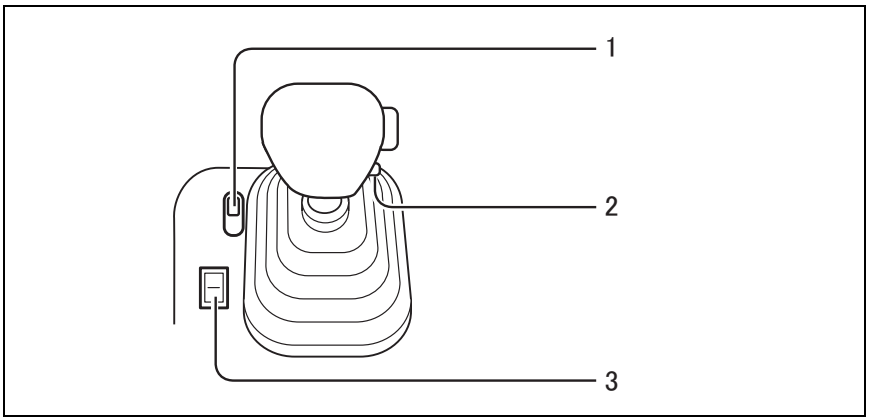
本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. LED 室内灯（→ P.8-35）
2. LED 室内灯ドア連動（→ P.8-35）
3. 車高復元★（→ P.5-251）
4. ヘッドランプ光軸調整★（→ P.5-72）
5. オートハイビーム（AHB）★（→ P.5-66）
6. 架装路肩灯★（→ P.5-90）
7. 散光灯★（→ P.5-90）
   架装マーカー灯★（→ P.5-91）
8. エキゾーストブレーキ点検（→ P.5-74）
   暖機（→ P.5-11）

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

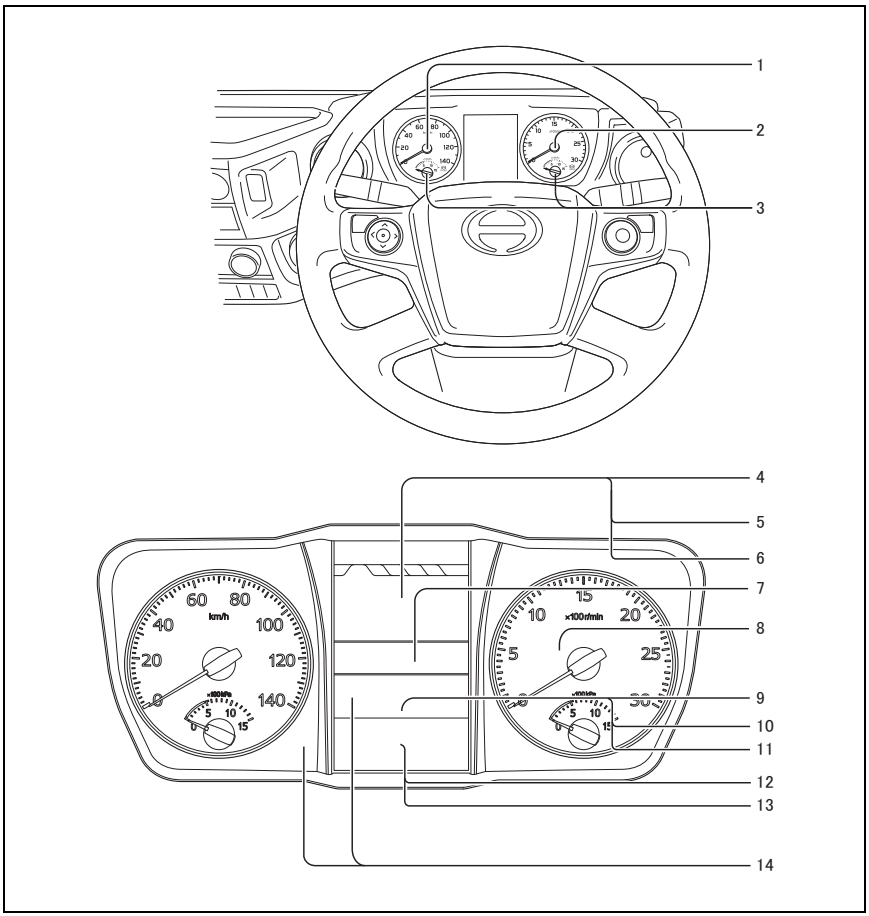
〔オートマチックトランスミッション搭載車〕



1. シフトロック解除ボタン★(P.5-24、5-40)
2. オーバードライブ（O / D）★(P.5-22、5-37)
3. 走行モード選択★(P.5-23、5-38)

メーター類の紹介と記載ページ

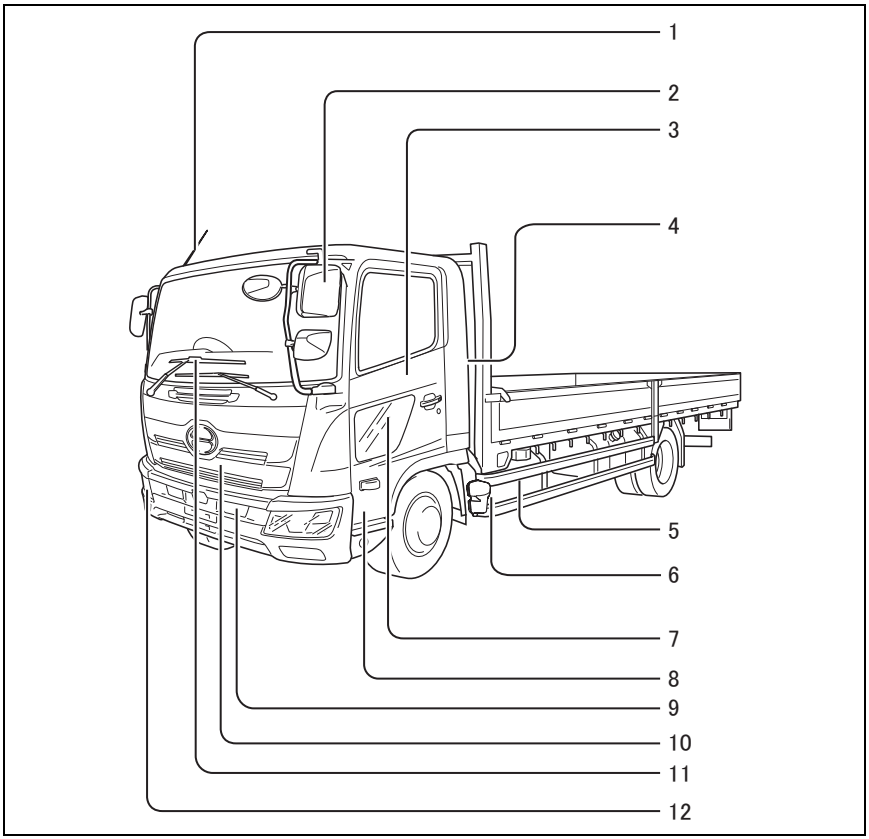
本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. スピードメーター（速度計）（→ P.6-4）
2. タコメーター（エンジン回転計）（→ P.6-4）
3. 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）（→ P.6-5）
4. エンジン油温計★（オイルテンパレーチャーゲージ）〔消防車〕（→ P.6-9）
5. 電圧計（→ P.6-8）
6. トリップメーター（→ P.6-10）
7. マルチインフォメーション（シフト表示部）（→ P.6-28）

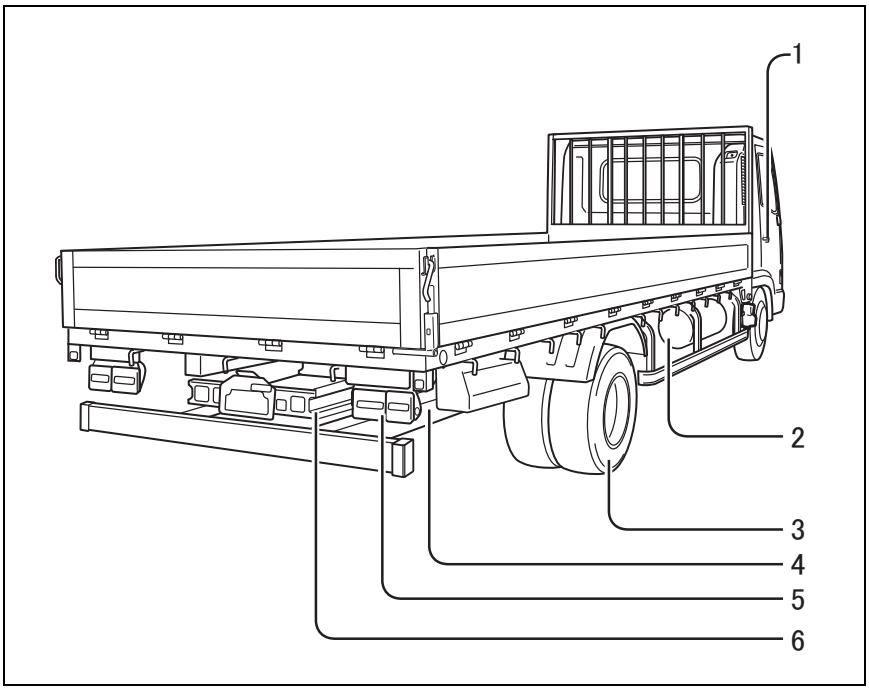
8. ウォーニングランプ・インジケーターランプ（→ P.6-72）
9. 水温計（→ P.6-6）
10. 尿素水計★（→ P.6-7）
11. 燃料計（フューエルゲージ）（→ P.6-7）
12. オドメーター（→ P.6-10）
13. アワーメーター（→ P.6-10）
14. ウォーニングランプ・インジケーターランプ（→ P.6-72）

車両周りの紹介と記載ページ

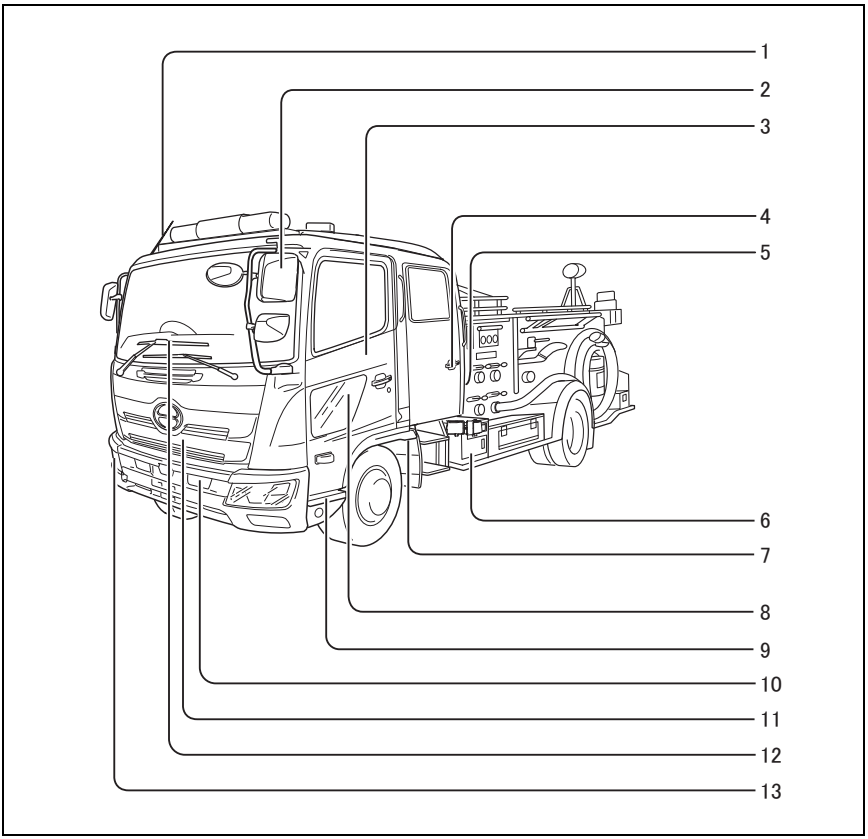


1. アンテナ（→ P.8-3）
2. バックミラー（→ P.13-89）
3. ドア
   ・開閉（→ P.3-10）
   ・施錠・解錠（→ P.3-4）
4. キャブチルト（P.11-2、11-6）
5. 尿素水タンク（→ P.13-114）
6. プレフューエルフィルター（→ P.13-14）
7. 側方確認窓（→ P.3-14）
8. ステップ（→ P.3-15）
9. けん引フック（→ P.15-55）
10. フロントパネル（→ P.3-17）
11. ワイパー（→ P.13-94）
12. ランプ類（→ P.15-27）

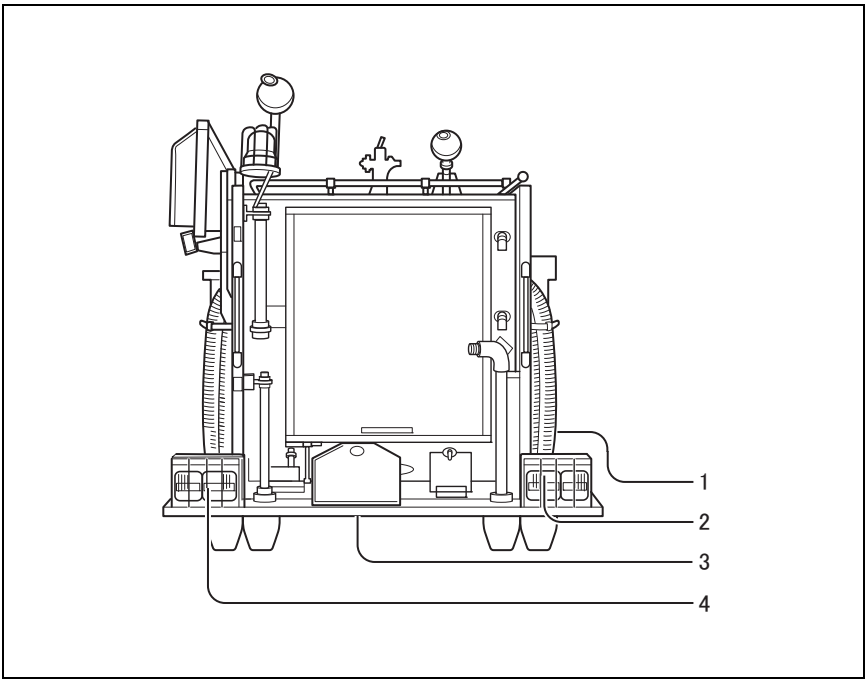
本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. アウトサイドハンドル（P.3-4、3-10）
2. エアドライヤー（→ P.13-45）
   バッテリー（→ P.13-96）
3. タイヤ（→ P.13-59）
4. スペアタイヤ★（→ P.13-70）
5. ランプ類（→ P.15-27）
6. けん引フック★（→ P.15-55）



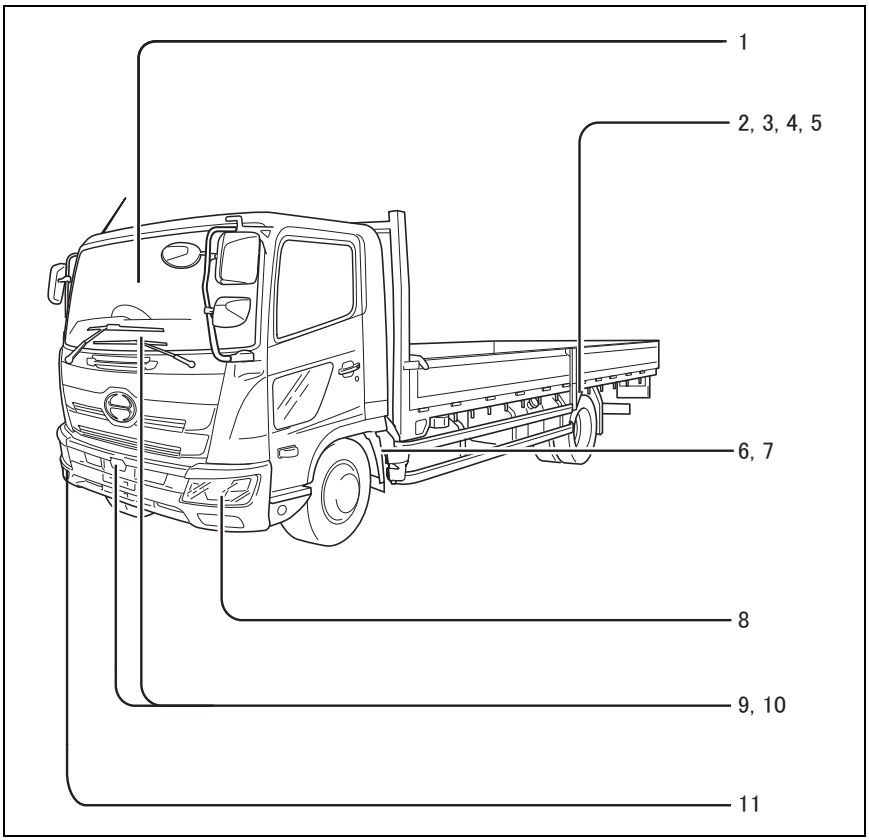
1. アンテナ（→ P.8-3）
2. バックミラー （→ P.13-89）
3. ドア
・開閉（→ P.3-10）
・施錠・解錠（→ P.3-4）
4. アウトサイドハンドル（P.3-5、3-10）
5. キャブチルト （→ P.11-6）
6. バッテリー（→ P.13-96）
7. プレフューエルフィルター（→ P.13-14）
8. 側方確認窓（→ P.3-14）
9. ステップ（→ P.3-15）
10. けん引フック（→ P.15-55）
11. フロントパネル（→ P.3-17）
12. ワイパー（→ P.13-94）
13. ランプ類（→ P.15-27）



1. エアドライヤー（→ P.13-45）
2. タイヤ（→ P.13-59）
3. けん引フック（→ P.15-55）
4. ランプ類（→ P.15-27）

注目装置の紹介と記載ページ

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. プリテンショナー付きシートベルト（運転席側）（→ P.4-14）
（前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを瞬時に巻き取り、運転者をシートに拘束します。）
2. ABS（アンチロックブレーキシステム）（→ P.9-11）
（積雪路など滑りやすい路面でブレーキをかけたとき、ロック傾向を減少させます。）
3. ASR（アンチスリップレギュレーションシステム）★（P.5-117、9-13）
（積雪路など滑りやすい路面でタイヤの空転を減少させます。）
4. VSC（ビークルスタビリティコントロール）（→ P.5-119）
（横転の危険性、雪道や滑りやすい道路での横滑り（スピン、ドリフトアウトなど）を軽減します。）

5. リヤエアサス★（→ P.5-246）
（走行時や荷役作業などで、優れたクッション性を発揮し、運転者や積荷に優しく、輸送効率が向上します。）

6. DPR（排出ガス浄化装置）（→ P.5-80）
（排出ガス中に含まれる PM（すす）を DPR -クリーナー内の触媒部を通すことにより減少させて排出する装置です。）

7. 尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）（→ P.1-34）
（マフラー内に AdBlue®（尿素水）を噴射することにより排出ガス中の NOx を水と窒素に分解し排出する装置です。）

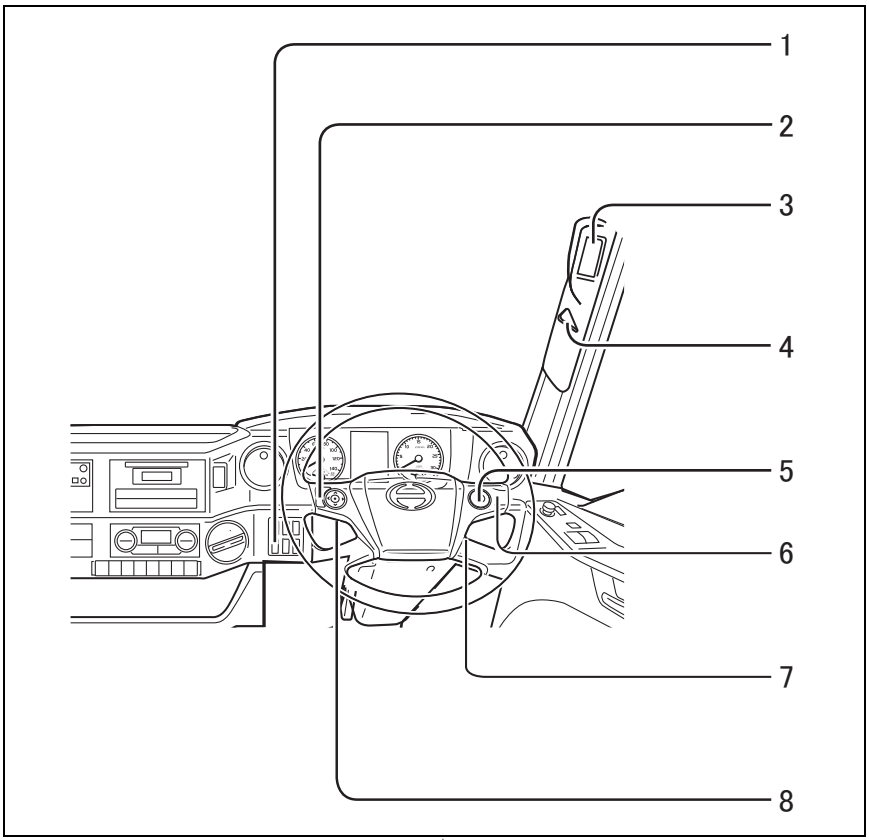
8. オートハイビーム（AHB）★（→ P.5-66）
（画像センサーにより、対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。）

9. PCS（プリクラッシュセーフティ）★（→ P.5-174）
（進路上の車両や歩行者を前方センサーで検出し、危険段階に応じて警報とブレーキを作動させ万一の衝突時の被害を軽減します。）

10. 車線逸脱警報装置★（→ P.5-166）
（車両が通行区分帯を外れると、逸脱方向のスピーカーから警報音を発するとともに、マルチインフォメーションに警告を表示すると同時にランプが点滅し運転者に注意を促します。）

11. サイトアラウンドモニターシステム★（→ P.5-216）
（車両前端部、車両側面部のレーダーセンサーにより、接近する移動物を検知し、車両前側方および後側方に接近する移動物に応じて音とピラー部のサイトアラウンドモニターシステム表示灯で運転者に注意を促します。）

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。



1. ES スタート（坂道発進補助装置）★（→ P.5-94）
（坂道発進時のブレーキ操作を補助します。）
2. ハンズフリー★（→ P.8-15）
（Bluetooth 対応電話とのペアリング後、ハンズフリーで通話が行えます。）
3. ドライバーモニターⅡ★（→ P.5-171）
（ドライバーモニターカメラで運転者の顔の向きや眼の開き具合、姿勢崩れなどをモニターします。集中力低下による不安全状態を、マルチインフォメーションの表示とブザーで運転者へ警告します。）

4. サイトアラウンドモニターシステム表示灯★（→ P.5-216）
（車両前端部、車両側面部のレーダーセンサーにより、接近する移動物を検知し、車両前側方および後側方に接近する移動物に応じて音とピラー部のサイトアラウンドモニターシステム表示灯で運転者に注意を促します。）

5. スキャニングクルーズⅡ（車間クルーズ）★（→ P.5-148）
（先行車両との車間距離確保を補助します。）

6. ドライバー異常時対応システム（EDSS）★（→ P.5-205）
（健康起因などにより運転者に異常が発生したことをセンサーにより自動検知し、車内外へ異常事態を報知するとともにブレーキを作動させ停車させます。）

7. イモビライザー機能付きキー（→ P.3-2）
（車両の盗難防止のために、メインキーに信号発信器を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにしています。）

8. 電磁式リターダー★（→ P.5-77）
（主に高速走行、降坂時に使用する補助ブレーキです。
通常走行でも積極的にお使いいただくと、ライニングの寿命向上につながります。作動させるとストップランプが点灯します。）

警告ラベル

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

- 以下の警告ラベルは重要ですので、ご使用前には必ずお読みください。
- 記載事項が見にくいものや、損傷のあるもの、はがれているものがある場合には、最寄りの日野販売会社にお申し付けください。
  なお、これらの警告ラベルは車両本体（シャシ）についているものです。架装物に関するものは架装メーカーのものをご覧ください。

■ラベルのシンボルマークと意味

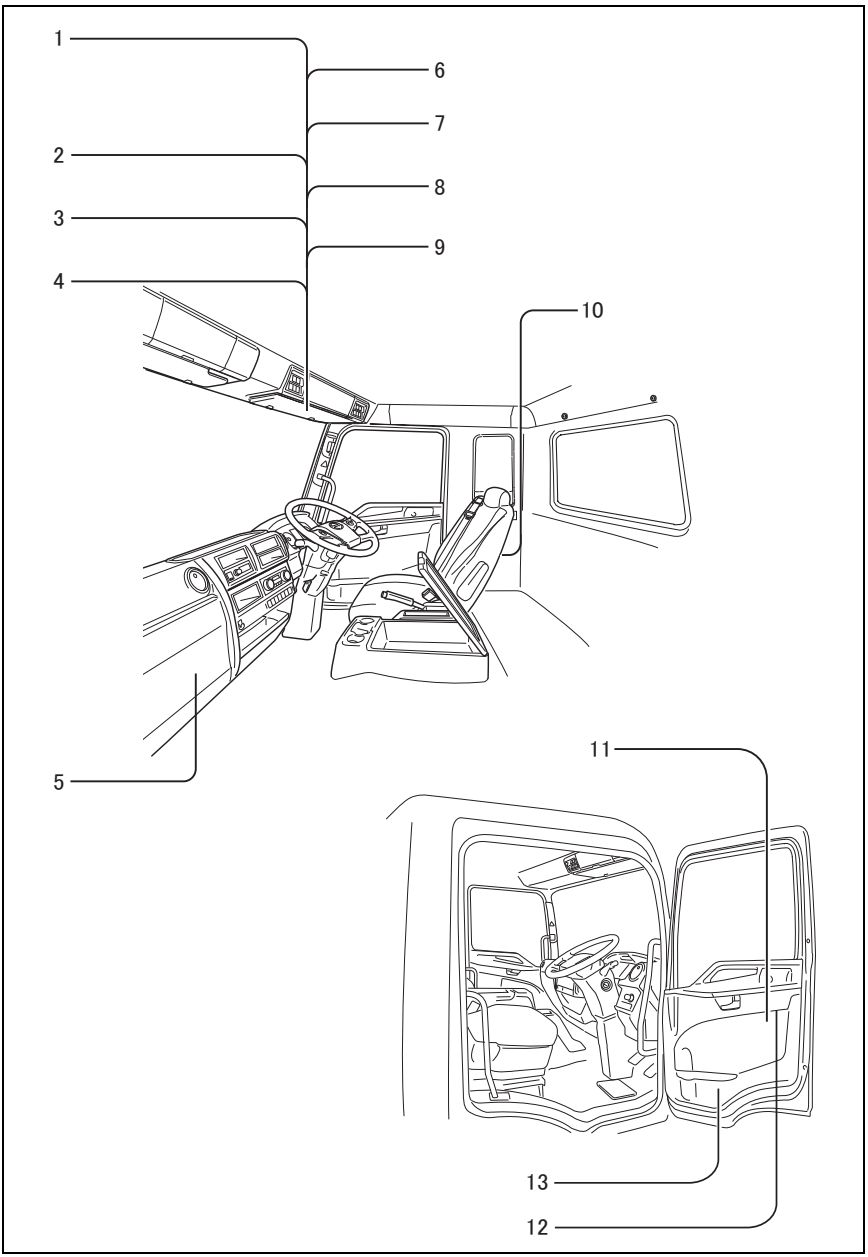
シンボルマーク	意味
⚠ 危険	取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる事項です。
⚠ 警告	取り扱いを誤った場合、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がある事項です。
⚠ 注意	取り扱いを誤った場合、傷害を負ったり車などの物的損害につながる可能性がある事項です。

＊ お車の仕様により取り付け位置が異なります。

警告ラベル

■貼り付け位置

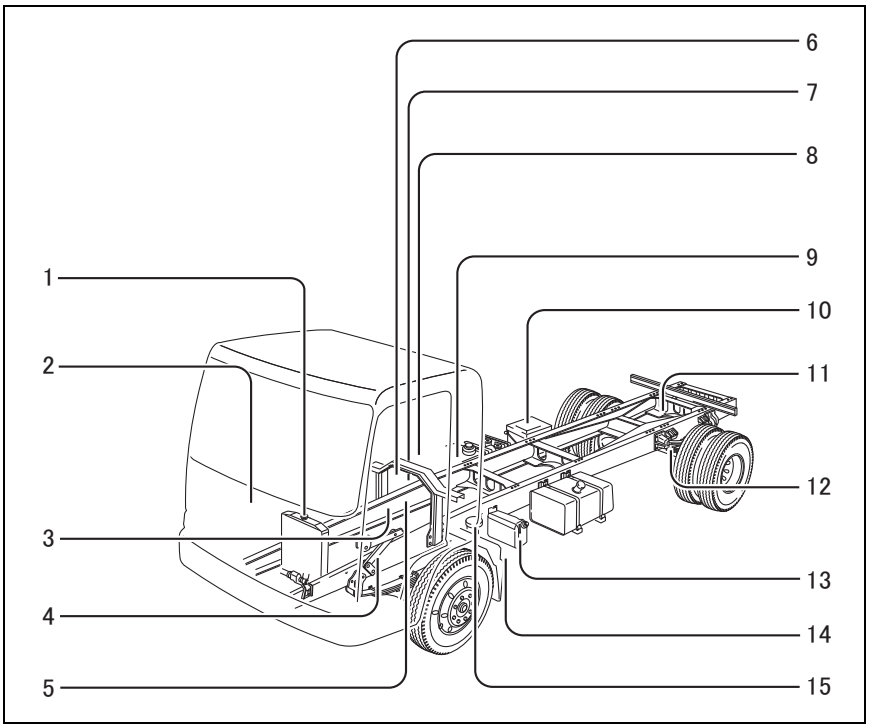
▶ キャブ内



1. 後部架装物
   ⚠ 注意
2. ブレーキロック★
   ⚠ 注意
3. SRS エアバッグ
   ⚠ 警告
4. センターデフロック★〔FX・GX車〕
   ⚠ 注意
5. ヒューズ
   ⚠ 注意
6. 排出ガス浄化装置
   ⚠ 注意
7. 尿素 SCR
   ⚠ 警告・注意
8. ES スタート★
   ⚠ 警告
9. ブレーキ保持★
   ⚠ 警告
10. シートベルト巻き取り装置★
    ⚠ 警告
11. ダンプ★
    ⚠ 警告
12. キャブロック（手動キャブチルト）
    ⚠ 警告
13. ディスクホイール
    ホイールボルト
    ホイールナット
    ⚠ 警告

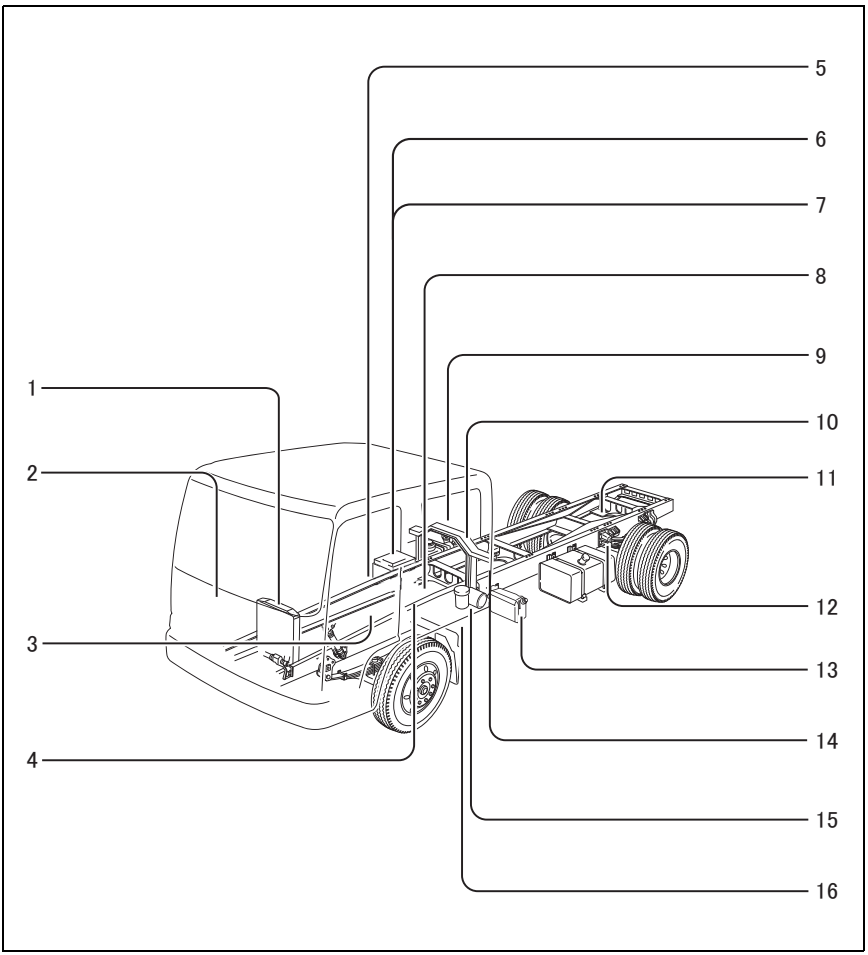
▶ キャブ外

〔手動キャブチルト車〕



1. ラジエーターキャップ
   ⚠ 警告
2. ワイパーリンク
   ⚠ 注意
3. ロッカーアーム
   ⚠ 注意
4. セフティストッパ
   ⚠ 警告
5. ヘッドカバー感電
   ⚠ 警告
6. オイルフィラーキャップ
   ⚠ 注意
7. サイドレーダーセンサー★
   ⚠ 注意
8. VSC 用電磁弁カバー
   ⚠ 注意
9. マフラー
   ⚠ 注意
10. バッテリー
    ⚠ 危険
11. スペアタイヤ★
    ⚠ 注意
12. スプリングブレーキ
    ⚠ 警告
13. 尿素 SCR★
    ⚠ 注意
14. サイドレーダーセンサー★
    ⚠ 注意
15. キャブチルト（手動）
    ⚠ 警告

〔ダブルキャブ車〕



1. ラジエーターキャップ
   ⚠ 警告
2. ワイパーリンク
   ⚠ 注意
3. ロッカーアーム
   ⚠ 注意
4. ヘッドカバー感電
   ⚠ 警告
5. サイドレーダーセンサー★
   ⚠ 注意
6. バッテリー
   ⚠ 危険
7. バッテリーキャリア
   ⚠ 注意
8. オイルフィラーキャップ
   ⚠ 注意
9. マフラー
   ⚠ 注意
10. VSC 用電磁弁カバー
    ⚠ 注意

11. スペアタイヤ★
    ⚠ 注意
12. スプリングブレーキ
    ⚠ 警告
13. 尿素 SCR★
    ⚠ 注意
14. キャブチルト（電動〔ダブルキャブ車〕）
    ⚠ 警告
15. 安全支柱
    ⚠ 警告
16. サイドレーダーセンサー★
    ⚠ 注意

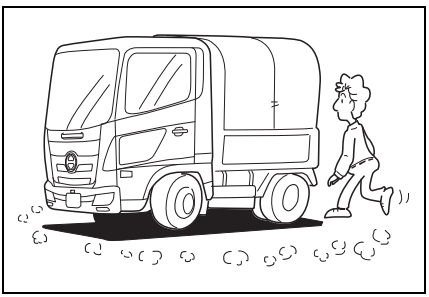
必読！安全・快適に運転するために 1

運転前に.....P.1-2
安全・快適走行のために.....P.1-10
オートマチック車★を運転するにあたって.....P.1-17
4WD 車★を運転するにあたって.....P.1-19
駐・停車するとき.....P.1-20
お子さまを乗せるときの気配り.....P.1-22
これは危ない！気をつけて.....P.1-24
運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）について.....P.1-28
DPR（排出ガス浄化装置）の取り扱い.....P.1-30
尿素 SCR （尿素選択式還元触媒）システム.....P.1-34
知っておいていただきたいこと.....P.1-36

運転前に

■まず、出発する前に日常（運行前）点検を行ってください（→P.12-3）

いつも安全で快適にご使用していただくために、運転する前に必ず日常（運行前）点検を行い、異状がないことを確認してください。点検時、異状があるときはご自身で整備するか、あるいは最寄りの日野販売会社の整備工場で整備を受けてからご使用ください。なお、道路運送車両法により使用者または運行する人は、この日常（運行前）点検が義務付けられています。



アドバイス

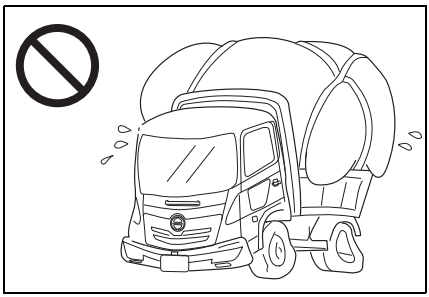
日常（運行前）点検は道路運送車両法により運転者に義務付けされています。

一日一回お車を運転する前に必ず日常（運行前）点検を行い、不正な電子機器の取り付けや、電装品の交換、欠落、破損等の異常がないことをチェックしてください。

車の性能や機能を損なうことがあり、故障や事故の原因になります。

点検時、異常がある場合、または前日や前回の運転で異常があったときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

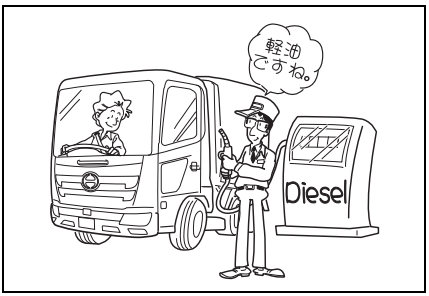
■積荷は正しく（→P.9-16）



⚠警告

積みすぎや片寄った積み方は、故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。決められた最大積載量を守り正しい積み方をしてください。
過積載は法律で禁止されています。

■指定された燃料を



⚠警告

- 燃料は超低硫黄軽油〔S10：硫黄成分 10 ppm 以下、標準として JIS 軽油 2 号〕を使用してください。（寒冷地では地域に合った燃料を補給してください。）指定以外の燃料や、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用したりすると、火災の原因になるほかサプライポンプおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良やエンジンへの悪影響により、故障の原因となるおそれがあります。また、煤煙の発生により排出ガスが悪化し、白煙の発生や触媒を劣化させる原因にもなります。給油時は指定されている燃料であることを確認してください。万一、誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。
- 指定以外の燃料を使用したために生じたエンジン損傷については保証に応じられません。

⚠警告

- 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - 車両のドア・窓は閉めてください。
  - 引火するおそれがあり危険ですので、給油口にタバコなど火気を近づけないでください。
  - フューエルキャップの取り外し、取り付けはていねいに行ってください。
  - フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて体の静電気除去を行ってください。体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあり危険です。
  - フューエルキャップを開ける場合は、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに「シュー」という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
  - 給油ガンは、フィラーに損傷を与えぬようにていねいに挿入してください。
  - 給油ガンは確実にフィラーの奥に突き当たるまで挿入し、給油中に外れることがないように確認してください。
  - 給油中、再び車内のシートに戻ったり、帯電している人や物に触れないでください。（再帯電することがあります。）
  - 給油口には静電気除去を行った方以外の人を近づけないでください。

⚠ 警告

- 給油終了後は、フューエルキャップが確実に閉まっていることを確認してください。
- 車両に合った日野純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

● 給油時に、気化した燃料を吸わないように注意してください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

■バイオディーゼル燃料を使用する際は最寄りの日野販売会社にお問い合わせください

⚠ 警告

● バイオディーゼル燃料は人体に有害です。取り扱うときは必ず保護手袋および保護メガネを着用してください。

● エンジン損傷の原因になりますので、バイオディーゼル燃料を使用する際は、次のことを必ずお守りください。

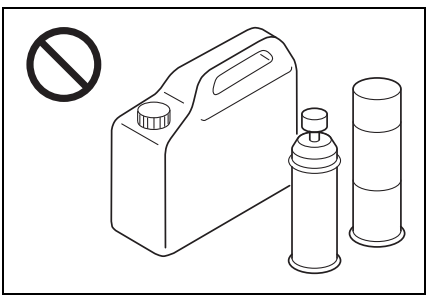
- バイオディーゼル燃料を使用すると、従来の燃料に比べて水の蓄積が多くなります。フューエルフィルターの水抜きを確実に行ってください。水抜きを怠ると ランプが点灯します。ランプが点灯した場合はすぐにフューエルフィルターの水抜きを行ってください。
- バイオディーゼル燃料は製造日から 6 カ月以内のものを使用してください。また、燃料補給後 3 カ月以内に使い切ってください。
- バイオディーゼル燃料を使用する際は、「揮発油等の品質の確保等に関する法律」に準拠した 5%以下のものを使用してください。指示されたもの以外のバイオディーゼル燃料を使用すると、エンジン損傷の原因になります。
- JIS K2204 に適合していないバイオディーゼル燃料に切り替える場合は、タンク及び配管の洗浄を行い、燃料フィルターエレメントを新品に交換してください。
- 水の蓄積や微生物の発生を防ぐために、バイオディーゼル燃料の保管タンクは十分清掃してください。
- エンジンオイルの量は、取扱説明書に従って、正しく点検してください。

■燃料に添加物を加えたり、燃料タンク内に装置を取り付けたりしないで

⚠ 注意

- 燃料添加剤や燃料水抜き剤、燃費向上添加剤等を使用すると煤煙の発生やサプライポンプおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良により故障の原因となる場合があります。
- 燃料タンク内に燃費向上装置等を取り付けないでください。取り付けた装置（市販品）の摩耗粉や破片等が、サプライポンプおよびインジェクターの故障の原因となる場合があります。

■燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで

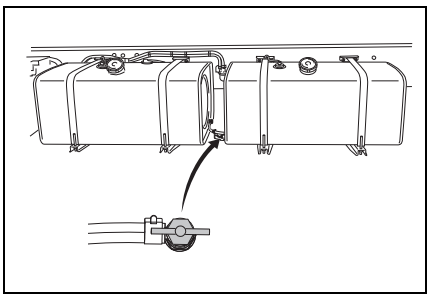


⚠ 警告

車内に燃料の入った容器やスプレー缶などを持ち込まないでください。
万一のとき、破裂または引火するおそれがあり危険です。

■増設燃料タンクの取り扱い

- 燃料を給油するときは燃料タンクの接続コックを閉めておきます。
- 燃料が空に近づいたら（燃料計の針がＥに近づいたら）、燃料タンクの接続コックを開けます。



⚠ 警告

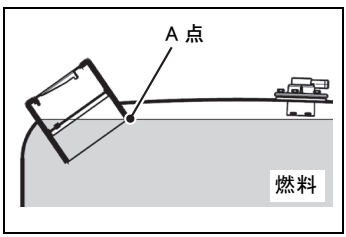
- 燃料を給油するときは必ず接続コックを閉めてください。燃料が満タンに近いときに接続コックが開いていると坂道走行時や坂道での駐車時に片方の燃料タンクに燃料がかたよるため、燃料タンクのブリーザーホースから燃料が漏れ思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブリーザーバルブ（息継ぎ穴）が付いている燃料タンクに装着するキャップは、日野純正燃料タンクとセットの密閉式キャップにしてください。

⚠ 警告

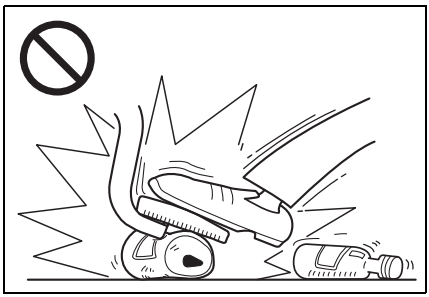
- 燃料タンクとタンクキャップはセットで UN-R34（協定規則第 34 号）の認可を取得しております。燃料タンクキャップキーとスタータキーは同一品となります。燃料タンクを増設する場合も必ずスタータキーと連動したキーを使用してください。

⚠ 注意

- 燃料はフィラーパイプの上面 A 点以上入れないでください。上面まで入れると、燃料があふれるおそれがあります。
- 燃料温度が上昇し、膨張した際の燃料漏れをふせぐため、図中 A 点以上の給油を行わないでください。



■運転席付近の整理整頓



⚠ 警告

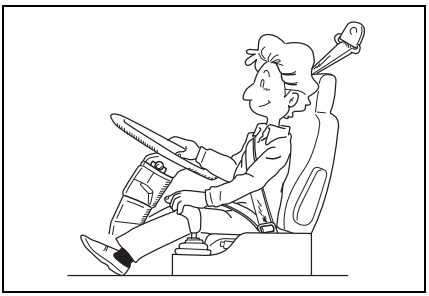
- フロアマットは日野純正品を正しく使用し、フロアマットを重ねての使用はしないでください。フロアマットがずれてペダルに引っかかり、ペダルの正確な操作ができなくなり、事故や車両故障の原因となるおそれがあります。
- 運転席の床周りに空き缶などの障害物がある場合には取り除いてください。ペダルの下に障害物がはさまると、ペダルの正確な操作ができなくなり、事故や車両故障の原因となるおそれがあります。
- 運転する前に以下のことを確認してください。

・ フロアマットが正しい位置に敷かれていることを定期的に確認し、特に車両清掃後は、必ず確認を行ってください。

・ エンジン停止およびチェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★が N（「P」レンジ付き車では P）位置で、各ペダルを踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

■正しい運転姿勢がとれるように

▶ シートの調整（→ P.4-2）



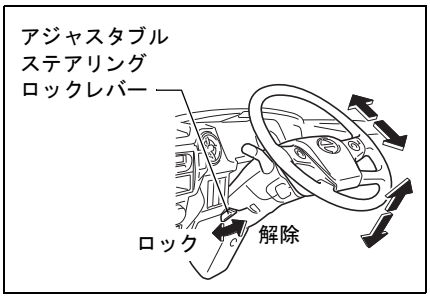
⚠ 警告

- シートの調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整するとシートが大きく動いて運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 思わぬ事故につながるおそれがあるため、シートを調整するときは次のことに注意してください。

・ ペダルが十分に踏み込めること
・ ハンドルが楽に操作できること
・ チェンジレバーの操作が楽にできること
・ 背もたれから肩が離れないこと
・ シートベルトが正しく着用できること
・ 後頭部がヘッドレストに当たること

- シートを調整しているときはシートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手がはさまり思わぬケガをするおそれがあります。

▶ ハンドル位置の調整（→ P.5-52）



⚠ 警告

- ハンドル位置の調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整すると運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調整後は、ハンドルが確実にロックされていることを確認してください。ロックが不十分だとハンドル位置が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

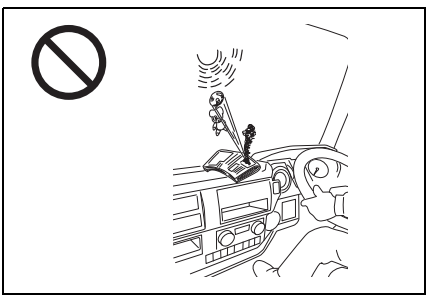
▶ シートベルトの調整（→ P.4-9）



⚠ 警告

- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アジャスタブルショルダーベルトアンカー（運転席側のみ）の高さは、肩部のベルトが首・あご・顔にあたらないよう、また、肩に十分かかるように調節してください。衝突したときに重大なケガにつながるおそれがあります。

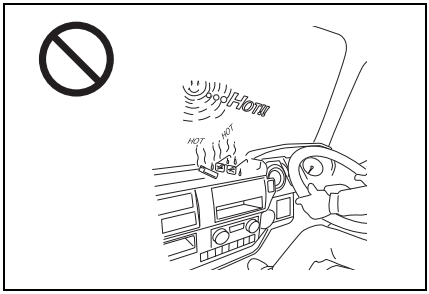
■ウインドガラスなどにアクセサリーを取り付けないで



⚠ 警告

アクセサリー類は運転をさまたげ思わぬ事故につながるおそれがあるほか、アクセサリーの吸盤がレンズの働きをして火災の原因にもなります。

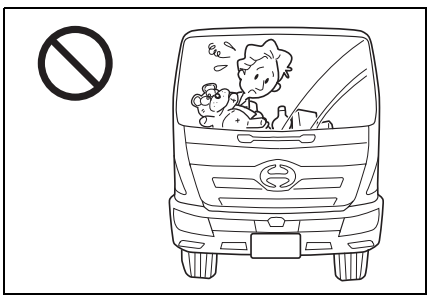
■メガネやライターを放置したまま車から離れないで



⚠ 警告

車内にライターを放置したままにしておくと、ライターが爆発し、火災の原因となるおそれがあります。また、メガネを車両に放置するとプラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネの変形・ひび割れを起こすことがあります。

■インストルメントパネルやダッシュボードの上に物を置いたまま走行しないで



⚠ 警告

運転者の視界をさまたげるほか、発進時や走行中に動いて運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■フロントガラスに装飾板を取り付けたりフィルムなどを貼らないで



⚠警告

フロントガラスに装飾板を取り付けたりフィルムなどを貼らないでください。前方の視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■側方確認窓の視界をさまたげないで

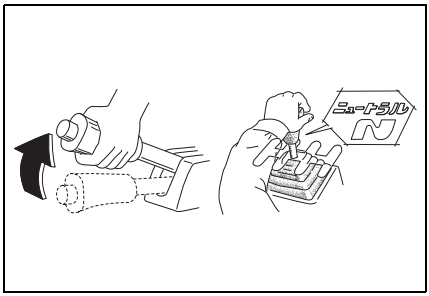


⚠警告

側方確認窓に紙などを貼ったり、側方確認窓付近に物を置かないでください。また、助手席シートバックを前方に倒したままで走行しないでください。左側方の視界がさまたげられ安全確認ができなくなるおそれがあります。

■エンジンを始動するときは（→P.5-5）

（例）



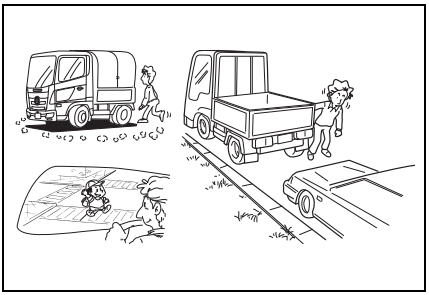
⚠警告

パーキングブレーキが確実に効き、チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★が N（「P」レンジ付き車では P）位置にあることを確認してください。

N または P 位置以外でエンジンを始動させると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全・快適走行のために

■発進前の安全確認

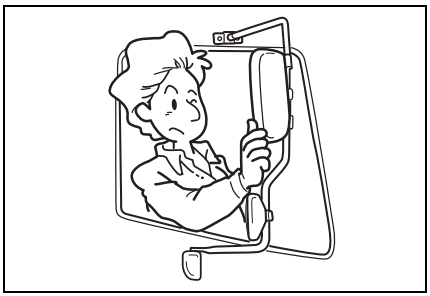


⚠警告

- 車の前後に人や障害物がないことをミラーだけでなく直接自分の目で見て確認してください。ミラーでは確認しきれない死角があります。
- 信号待ちなどで停車したときは、いつも周りの状況に目を配り安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。

■ミラーを調整する（→ P.5-84）

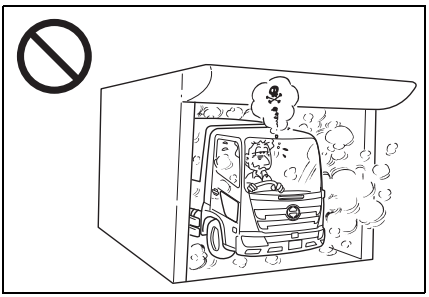
（例）



⚠警告

- 走行前に、必ずミラーを正しく調整してください。
  ミラーによる周囲の視界が確認できず事故につながるおそれがあります。
- 走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤って、重大な事故につながるおそれがあります。

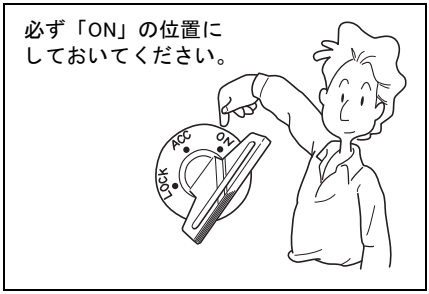
■排出ガスには十分気をつけて



⚠警告

- 排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。特に車庫や屋内など囲まれた場所では排出ガスが充満し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 排気管は定期的に点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また排気管の異常などに気づいたら、必ず最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 車内に排出ガスが侵入してきたと感じたら、すべての窓を全開にしたり、ヒーターの内外気切り替えを外気導入にするなどして、新鮮な外気を車内に入れてください。また、すみやかに安全な場所に停車してエンジンを止め、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。そのまま放置すると排出ガスによる一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■走行中はスタータースイッチを切らないで（→ P.5-4）

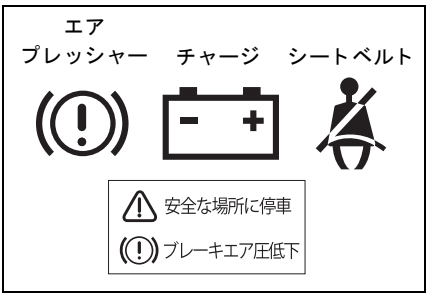


⚠警告

走行中は、スターターキーを絶対に「ON」の位置以外にしないでください。「ACC」や「LOCK」の位置にするとエンジンが止まるばかりでなく、次のような状態になり危険です。

- ブレーキの効きが悪くなります
- ハンドルやクラッチ操作が極端に重くなります
- ウォーニングランプ類や計器などの電気回路が全て作動しなくなります
- 「LOCK」の位置にするとハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です

■警告灯が点灯したときは（→ P.6-55）



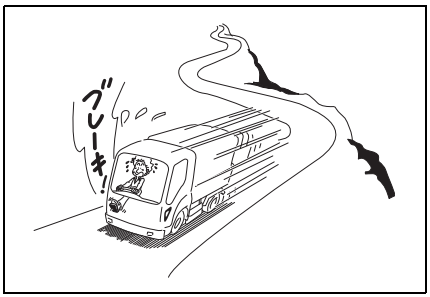
⚠警告

ウォーニングランプが点灯したりブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、各部を点検してください。ウォーニングランプ・計器類の警報を無視して運転すると思わぬ事故の原因になります。

原因がわからないときや自分で整備できないときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

上記のウォーニングランプは一例で、お車の仕様により異なります。

■坂道を下るときは（→ P.9-7）



⚠警告

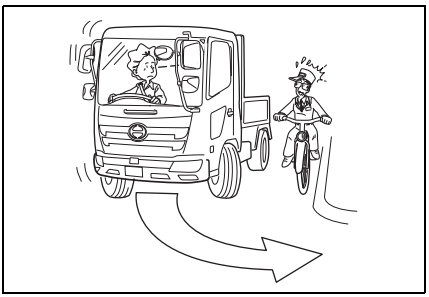
坂道を下るときは、フットブレーキにたよらずエンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー★、電磁式リターダー★を併用してください。

フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して「フェード現象」や「ベーパーロック現象」を起こし、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

知識

- エンジンブレーキとは
  走行中、アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力です。低速ギヤほどよく効きます。
- フェード現象とは
  ブレーキの摩擦面が過熱すると摩擦力が減少するため、同じ力でブレーキペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象です。
- ベーパーロック現象とは
  ブレーキの摩擦熱によりブレーキ液が過熱されて沸騰し、気泡が発生して、ブレーキペダルを踏み込んでも気泡を圧縮するだけでブレーキがかからなくなる現象です。

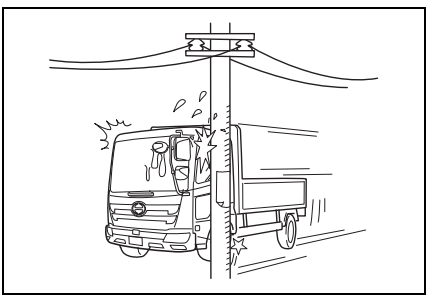
■カーブの手前では減速を



⚠警告

カーブの手前では十分に減速してください。カーブ途中での急ブレーキや急ハンドルは、荷くずれやタイヤスリップ、横転など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、内輪差に注意し、ミラーや側方確認窓で左右および後方の安全を確認し走行してください。内輪差はホイールベースが長くなるほど大きくなります。

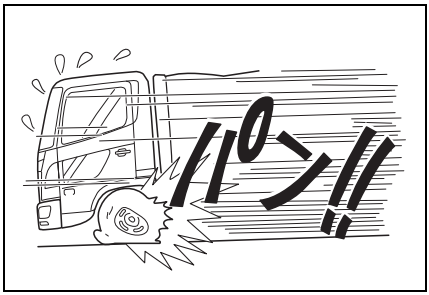
■狭い道路を走行するときはミラーに気をつけて



⚠注意

- ミラーは車体より張り出しています。狭い道路を走行するときは、障害物などに注意してください。
- 運転中ミラーを見ると視線が大きく移動します。前方の安全に注意しながらミラーでの確認を行ってください。

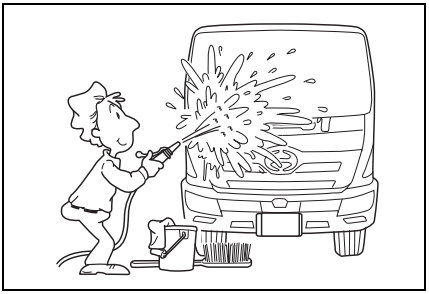
■走行中にタイヤがパンクやバーストしたときは（P.13-59、15-51）



⚠警告

急ブレーキをかけないでください。ハンドルを強くとられ危険です。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。また、そのまま走り続けるとタイヤの過熱から出火につながるおそれがあり危険です。

■洗車後や水たまりを走行した後は



⚠警告

- 洗車後や水たまりを走行した後は、低速でブレーキペダルを踏み効き具合を確認してください。ブレーキドラムに水が入ると効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキの効きが悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキを踏みブレーキの湿りを乾かしてください。
- エアホーンに水がかかったときは、ホーンを 2 ～ 3 度鳴らし、正しく作動することを確認してください。

■ターボ車の取り扱いについて



⚠注意

エンジンの故障につながるおそれがありますので、次のことを必ずお守りください。

- 水温計の目盛りが動き出すまで暖機運転を行ってください。
- 始動直後はエンジンを高回転にしないでください。
- 登坂や高速走行後は、アイドリング運転を行いターボチャージャーを冷却してからエンジンを停止してください。
- ターボ性能を保つためには、日野純正エンジンオイル、オイルフィルターの定期的な交換、そしてエアクリーナーエレメントの定期的な清掃と交換が必要です。（→ P.14-4）

＊ ターボチャージャーのメンテナンスについては最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

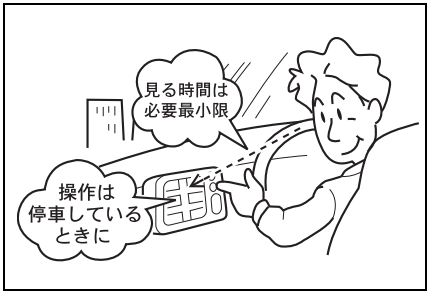
■運転中は、携帯電話を使用しないで



⚠警告

運転者が自動車電話や携帯電話を使用する場合は、安全な場所に停車してから使用してください。走行中の使用は、わき見運転や前方不注意による追突事故などにつながるおそれがあるほか、法律で禁止されています。

■カーナビゲーションシステム★を使うときは



⚠警告

- 安全のため、運転者は走行中に操作をしないでください。走行中の操作は、わき見運転や前方不注意、またはハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停止させてから操作してください。
- 画面を見る時間は、必要最小限としてください。
- 表示パネル（モニター）は視野のさまたげにならない場所に取り付けてください。
- カーナビゲーションシステムの取扱説明書に従って、正しく取り付けてください。

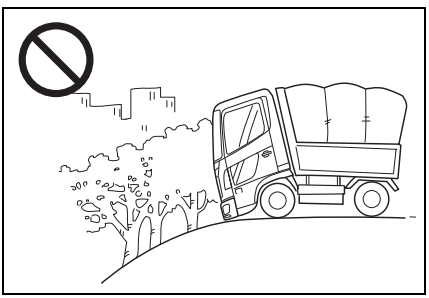
■悪天候時の走行は（→ P.9-10）



⚠警告

悪天候時は、速度を控えて走行してください。視界が悪くなるほか、路面が滑りやすくなるため停止距離は乾燥路よりも長くなります。また、急ブレーキ・急ハンドルはスリップしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー★、電磁式リターダー★を併用して減速してください。

■車を移動するときは、必ずエンジンを始動して

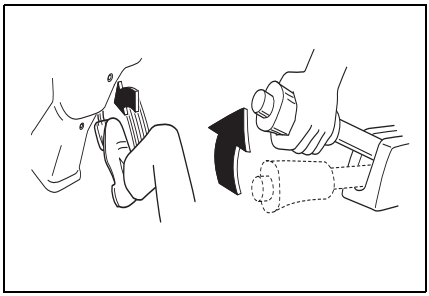


⚠警告

エンジンをかけずに坂道を利用して車両を移動しないでください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが極端に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ES スタート（坂道発進補助装置）★を使うときは（→ P.5-94）

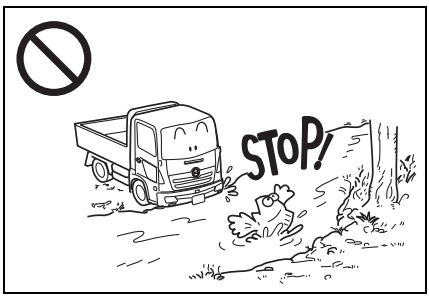
（例）



⚠警告

ES スタート作動時、ブレーキ保持力が十分でないと車両が動きだし、思わぬ事故につながる場合があります。このときはブレーキペダルを増し踏みするか、パーキングブレーキを使用してください。

■渡河などの水中走行はしないで



⚠警告

- 水中走行はできません。水中で車両が停止し、車両が流されたり乗員が脱出できなくなるおそれがあります。
- エアクリーナー、排気管やマフラーからエンジンに水が入るとエンジンを破損するおそれがあります。（ウォーターハンマー現象）

■冠水路脱出後の車両点検

⚠警告

- ブレーキの効き具合を確認します。効きが悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏みブレーキの湿りを乾かします。
- 必ず最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。そのまま放置すると部品などが破損するおそれがあります。

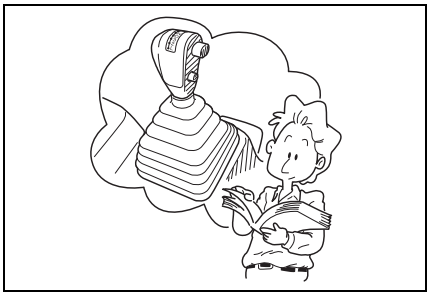
■車両が水没した場合は

⚠警告

車両が水没した場合は、すみやかに日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

オートマチック車★を運転するにあたって

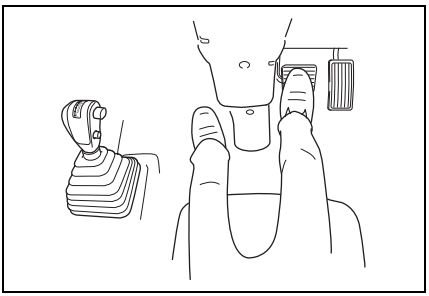
■オートマチック車の運転操作方法を十分理解して



アドバイス

オートマチック車の運転は固有の特性がありますので運転操作方法を十分理解して正しく操作する習慣をつけてください。

■オートマチック車の発進時のシフトチェンジはブレーキペダルを踏んだままで（→ P.5-19）



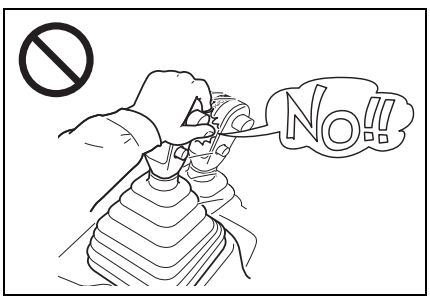
⚠警告

- 発進時には、必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車では P）位置から D、または R 位置にしてください。
  ブレーキペダルを踏まないと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン回転が高いとき（始動直後など）は、ブレーキペダルを踏んでいない状態でセレクトレバーを D または R 位置に入れると急発進するおそれがあり危険です。
- シフト位置を確かめ、周りの安全を確認してから発進してください。

知識

- エンジン始動後、最初のセレクトレバー操作時はシフトロック機構が働き、ブレーキペダルを踏んだままでないと N（「P」レンジ付き車では P）位置から他の位置へシフトすることができません。
- セレクトレバーを R 位置に入れるとブザーが鳴り、R 位置であることを知らせます。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上のとき、セレクトレバーを操作してもギヤが変速されず保留状態となります。セレクトレバーを操作してから 3 秒以内にエンジン回転数が 1,000 rpm 以下になるとギヤが変速されます。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上で 3 秒以上経過したときは、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、エンジン回転数 1,000 rpm 以下で再度セレクトレバーを操作するとギヤが変速されます。

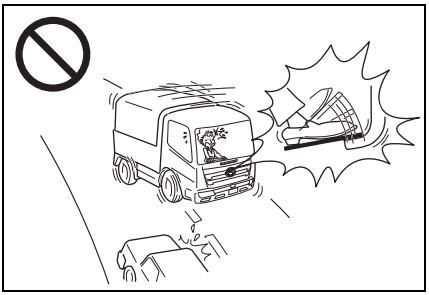
■セレクトレバー操作時、必要なとき以外はロックノブを押さないで（→ P.5-19）



⚠警告

常にロックノブを押して操作すると意に反したギヤ位置に入れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

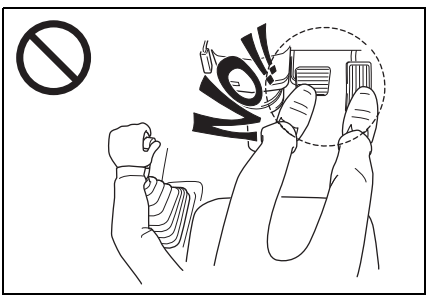
■ぬれた路面・凍結路などではアクセルペダルを急激に踏み込まないで



⚠警告

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的にシフトダウンしますので、滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。
タイヤが空転し、車の方向性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■オートマチック車のブレーキペダル操作は必ず右足で



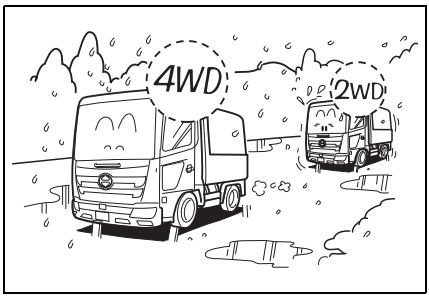
⚠注意

右足をアクセルペダルにのせたまま、左足でブレーキペダル操作をすると、ブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキライニングの摩耗を早めるおそれがあります。

4WD 車★を運転するにあたって

〔FX・GX 車（フルタイム 4WD）〕

■FX・GX 車を運転するときは



アドバイス

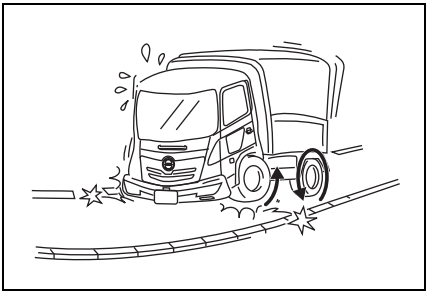
- FX・GX 車は、不整地走行を主目的としたものではなく、最低地上高を 2WD 車と同等にしてあることを念頭に運転してください。
- 冬期に一般路が積雪・凍結したときに、従来の 2WD 車にくらべ、走りやすくなっていますが 4WD を過信した無理な走行はしないでください。

■ぬかるみなどを走行するとき

アドバイス

ぬかるみなどでは路面状態がわかりにくいため、走行中の急加速・急ハンドルは避けてください。深みにはまり脱出できない場合があります。

■4WD でハンドルをいっぱいにきったとき



アドバイス

乾燥した舗装路面を 4WD でハンドルをいっぱいにきって右左折や U ターンをしようとしたとき、タイトコーナーブレーキング現象を起こす場合があります。この場合は、ハンドルを直進状態に戻すと、この現象は解消されます。

知識

タイトコーナーブレーキング現象とは
乾燥した舗装路面のカーブなどで前輪・後輪に回転差が生じるために起きる 4WD 特有のブレーキがかかったような現象です。

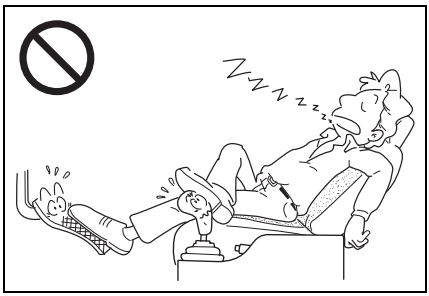
駐・停車するとき

■パーキングブレーキは確実に効かせて

⚠ 警告

パーキングブレーキレバーはいっぱいに引いてください。パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。

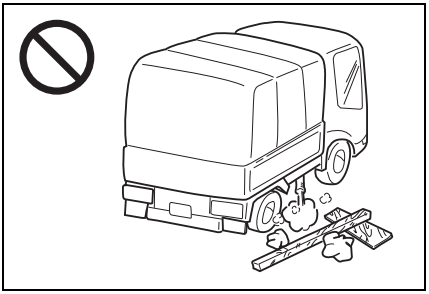
■エンジンをかけたまま運転席で仮眠しないで



⚠ 警告

- 仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりチェンジレバーを動かしたりして、事故やエンジン・排気管などの異常過熱による火災の原因になり危険です。
- 風通しの悪い所で駐停車しないでください。周囲の状況によっては、排出ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

■燃えやすい物の付近に車を止めないで

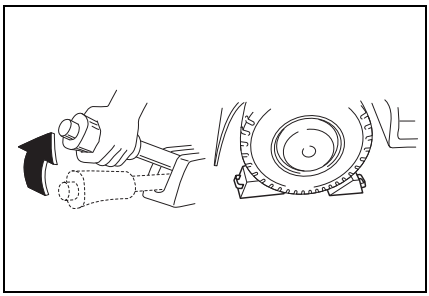


⚠警告

枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後や排出ガス浄化装置（DPR）のクリーニングモード中は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

■お車から離れるときは

（例）



⚠警告

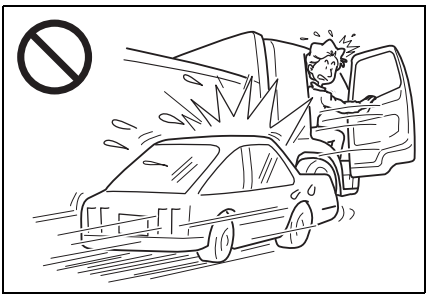
- 坂道の駐車は避け、平らな場所を選んで駐車してください。坂道に駐車すると、駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- パーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止め、ドアは施錠してください。坂道に駐車するときや長時間の駐車は、タイヤの前後に輪止めを併用してください。無人で車が動いたり、車両盗難のおそれがあります。また、施錠していても車内に貴重品をおいたままにしないでください。

■やむを得ず坂道に駐車するときは

⚠警告

やむを得ず坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してからタイヤの前後に輪止めをかけてください。

■ドアを開けるときは（→ P.3-10）

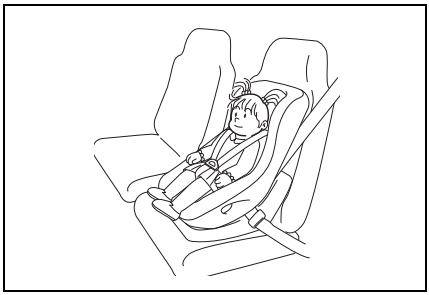


⚠警告

前後の安全を十分確かめてください。
いきなり開けると後続車や歩行者などにぶつかるおそれがあります。

お子さまを乗せるときの気配り

■お子さまにもシートベルトを（→ P.4-9）



⚠警告

- ひざの上にお子さまを抱いて乗せていると、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができずお子さまが重大なケガをするおそれがあります。
- シートベルトが首やあごにあたる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまには、年令や体重にあったチャイルドシートまたはジュニアシートを取り付け、そのシートベルトを使用してください。

■ドア、ガラスなどはお子さまに操作させないで（→ P.3-11）

⚠警告

パワーウインドは必ずウインドロックスイッチを使用し、運転席側で操作してください。
お子さまが操作すると、手や頭などをはさんだり思わぬケガをするおそれがあり危険です。

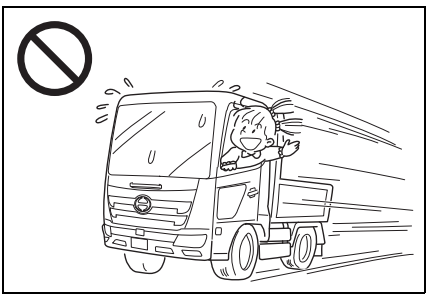
■運転装置や装備品には触れさせないで



⚠警告

お子さまのいたずらなどにより、思わぬ事故や故障の原因になります。

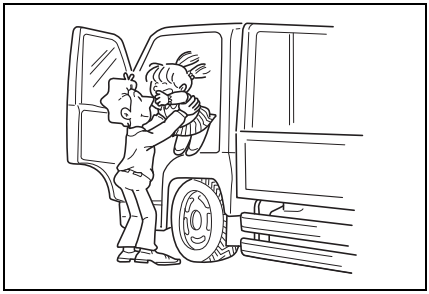
■窓から手や顔を出させないで



⚠警告

車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬケガをするおそれがあります。

■車から離れるときは、お子さまを車内に残さないで



⚠警告

- お子さまのいたずらにより車が発進したり、火災を起こすなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 炎天下の車内は高温となり、熱中症になるなどのおそれがあり危険です。

これは危ない！気をつけて

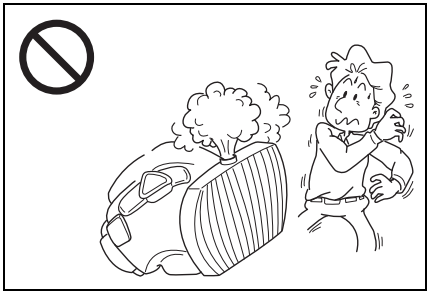
■灰皿を開けたままにしないで（→ P.8-42）



⚠警告

- マッチ・タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。火がついたままで入れると吸いがらに燃え移り火災の原因になります。
- 使用後は必ずふたを閉めてください。
- 灰皿の中には吸いがら以外の物を入れないでください。特に紙くずや空箱など燃えやすいものはタバコの火が燃え移り火災の原因になります。
- 灰皿の中には吸いがらをためすぎないでください。
- 火のついたタバコや吸いがらなどは絶対に窓の外に投げ捨てないでください。
  道路を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸いがらが火災の原因になります。

■ラジエーターキャップに気をつけて（→ P.13-33）

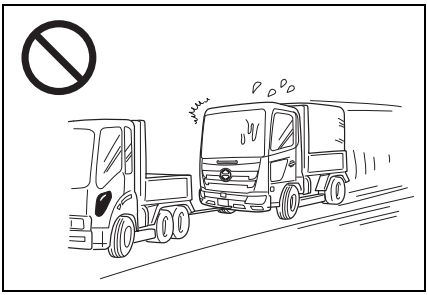


⚠警告

- 水温計の目盛りがゲージの「C」に下がるまでは、絶対にラジエーターキャップを開けないでください。不用意にキャップを開けると熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。（→ P.6-6）
- キャップを確実に締めておかないとオーバーヒートしたとき、高温の冷却水が噴き出し、やけどをするおそれがあります。

■バッテリーがあがったときは （→ P.15-54）

本車両は、24V バッテリーを使用しております。



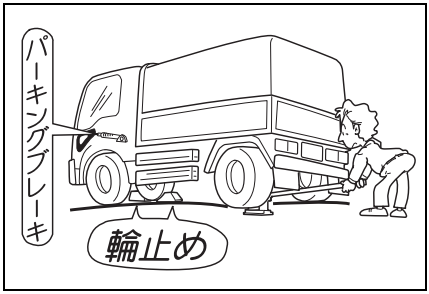
⚠ 警告

引きがけや坂道で車を動かしてエンジンをかけないでください。追突事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

ブースターケーブルで他車のバッテリーと接続するときは、故障車と同じ電圧の車を使用してください。故障または他車の電装品を破損するおそれがあります。

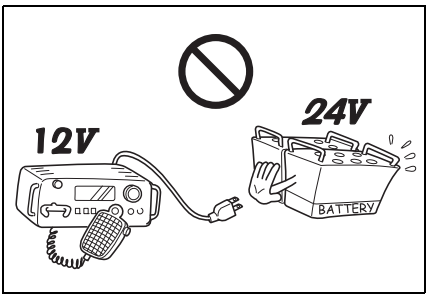
■ジャッキアップは安全な場所で （→ P.13-54）



⚠ 警告

地面がかたい平坦な場所を選んでください。また、パーキングブレーキを確実に効かせ、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛けてください。坂道および地面の柔らかいところでは、ジャッキが傾いたり滑ったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■電装品を取り付けるときは



⚠警告

- 電装品（無線機、オーディオなど）を取り付ける際は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 市販の電装品を取り付けるために不適切に配線すると装置の誤作動や電線の過熱により火災の原因になります。
- ヘッドランプ、クリアランスランプ、テールランプ、光センサー及び関連回路は改造しないでください。
- テールランプを増設する場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- ターンシグナルランプを増設する場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 故障診断コネクタなどに点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

アドバイス

無線機について

- 電源に注意してください（12 V 仕様の無線機は直接取り付けることはできません）。
- コンピューターやハーネスからできるだけ離して取り付けないと電子部品が誤作動を起こすことがあります。

■アルミホイールを使用するときは（→ P.13-78）

⚠ 警告

ホイールボルトおよびホイールナット（JIS 方式）はアルミホイール用とスチールホイール用でそれぞれ専用品になっておりますので、絶対に混用しないでください。混用すると、長さや形状が異なるため、ねじの底付きや、ねじのかみ合い長さ不足によるホイール締め付け不足が発生しホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

アドバイス

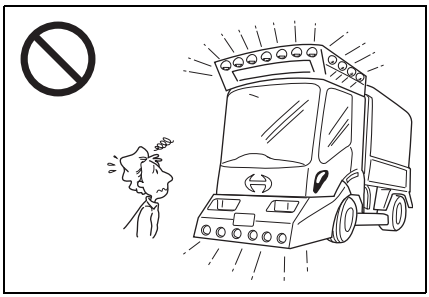
- アルミホイールを洗うときは、中性洗剤でスポンジなど柔らかい物を使ってください。
- アルミホイールは傷つきやすいので取り扱いには注意してください。

■サイドゲート★を降ろしたまま走行しないでください

⚠ 警告

荷台のサイドゲートを降ろしたまま走行しないでください。降ろしたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管からの熱でサイドゲートを損傷するおそれがあります。

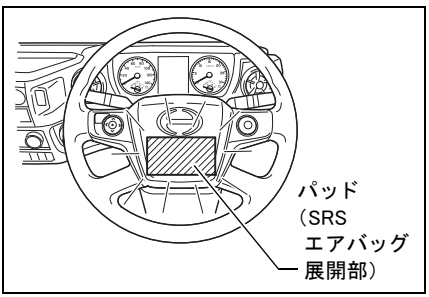
■違法改造はしないで



⚠ 警告

- 日野自動車が国土交通省に届出をした部品以外の物を取り付けたり、部品を取り外すと法規違反になることがあります。
- 日野純正部品以外の部品を取り付けると、車の性能や機能を損なうことがあり、故障や事故の原因になります。アクセサリーを取り付けるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）について



知識

運転席 SRS エアバッグは、運転者に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて、運転者の頭や顔などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能があります。

■シートベルトを必ず着用してください

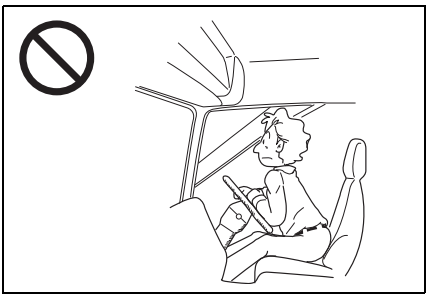
SRS エアバッグはシートベルトの補助拘束装置です（→ P.5-53）



⚠ 警告

SRS エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。シートベルトを正しく着用しないと、衝突や急ブレーキなどで前方に放り出されたと同時に、SRS エアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け、生命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

■シートは正しい位置に調整し、SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車しないでください（→ P.4-2）



⚠ 警告

- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。
- 運転者は正しい運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

■SRS エアバッグ展開部に物を置かないでください

⚠ 警告

カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- SRS エアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。
- 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

■車や SRS エアバッグを修理や廃棄するときの注意



⚠ 警告

- SRS エアバッグにかかわる改造や修理を行う場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。
- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ず最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずケガをするおそれがあります。

DPR（排出ガス浄化装置）の取り扱い

DPR は、フィルターに捕集したすすが一定量堆積すると（走行距離で換算すると一般道走行で約 200 km*）自動的に捕集したすすを燃焼（再生）するクリーニングモードとなります。排出ガス浄化装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。
（＊お客様の走り方によって距離は異なります。）

知識

DPR とは

Diesel Particulate active Reduction system の略で DPR フィルター内に排出ガス中のすすが一定量堆積すると自動的に捕集したすすの燃焼（再生）処理を行います。これにより、すすなどが異常に堆積するのを防ぎ、DPR の浄化能力を常に良好に保ちます。また、高性能触媒とコモンレール式燃料噴射システムにより、走行中のすすの燃焼（再生）処理を可能としています。

■指定以外の燃料を補給しないでください

⚠ 警告

燃料は超低硫黄軽油〔S10：硫黄成分 10 ppm 以下、標準として JIS 軽油 2 号〕を使用してください。（寒冷地では地域に合った超低硫黄軽油を補給してください）指定以外の燃料を補給すると、エンジンや排出ガス浄化装置などに悪影響をおよぼし、白煙の発生や故障の原因となるおそれがあります。

■指定銘柄のエンジンオイルを使用してください

アドバイス

排出ガス浄化装置の機能を維持するために指定銘柄のエンジンオイルをお使いになることを推奨します。

■テールパイプの改造はしないでください

注意

テールパイプの向きや長さを変更すると排出ガス浄化装置に悪影響をおよぼすおそれがありますので、テールパイプの改造は行わないでください。架装上やむを得なく改造が必要な場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場へご相談ください。

■DPR 再生時の注意

警告

- 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後や DPR のクリーニングモード中は排気管やマフラー付近および排出ガスが高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。また、高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。
- 再生は風通しの良い野外の広い場所で行ってください。排出ガスを吸い一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

アドバイス

- 車両をアイドリング状態で長時間放置すると白煙排出防止のためアイドリング回転数が上がり、排気コントロールバルブが作動することがあります。
- アイドルストップシステムが機能中に、自動的にクリーニングモードになった場合、アイドルストップシステムは作動しません。

⚠ 注意

- 運転条件によっては、排出ガス浄化装置内に捕集したすすの燃焼（再生）が完了しない場合があります。排出ガス浄化装置再生スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内のインジケーターランプが点滅したときは、排出ガス浄化装置再生スイッチを押して、すすの燃焼（再生）を行ってください。
- 再生中および完了直後にエンジンを止めると、マフラー周辺が高温になり、マフラー周辺の部品の故障につながるおそれがあります。
  再生完了後エンジンを停止させる場合はアイドリング運転を行い、マフラーを冷却してからエンジンを停止してください。

知識

DPR は、次の場合、アイドリング中にエンジン回転数が上がり、エキゾーストブレーキを兼用する排気コントロールバルブが作動することがあります。これは排気温度を上昇させて排出ガスを浄化するためで、故障ではありません。

- メーターパネル内のインジケーターランプと排出ガス浄化装置再生スイッチ内蔵のインジケーターランプが点滅し、排出ガス浄化装置再生スイッチを押してすすを燃焼（再生）させているとき
- 排気温度の低い状態が長く続いたとき（長時間のアイドリング時など）

・ 走行するためにギヤを入れるなどの操作をするといったん作動は中断しますが、一定処理時間に満たない場合は、停車後再作動することがあります。

- 走行中、自動的にクリーニングモードになったとき

⚠ 注意

- DPR は、メーターパネルの DPR すす堆積量表示の目盛りの数に関わらず、排出ガス浄化装置再生スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内のインジケーターランプが点滅することがありますが、DPR の触媒性能を維持するためで、異常ではありません。すすの燃焼（再生）と同様に排出ガス浄化装置再生スイッチを押して、すすの燃焼（再生）を行ってください。
- SCR 触媒も尿素 SCR 触媒同様に燃料に含まれる水分や HC により一時的に性能が低下する場合があります。通常は DPR 再生中に触媒の温度を上げて触媒劣化を回復させますが、運転状況により触媒温度を上げられなかった場合、手動で再生を行い触媒性能を回復させることが必要になります。後処理システムウォーニングランプが点灯、排出ガス浄化装置インジケーターランプが点滅しましたら、触媒回復要求をしていますので、安全な場所に停車し、DPR 手動再生同様に DPR スイッチを押して再生を開始してください。再生開始後マルチインフォメーションに DPR 再生中が表示されます。触媒回復再生は DPR 再生と同時に行います。

■DPR には次のような特徴があります

アドバイス

- DPR により、排出ガスを浄化して放出するため、従来のディーゼル車とは排出ガスの臭いが異なります。
- 始動時にテールパイプから白い煙が出ることがありますが、これは水蒸気ですので異常ではありません。
- すすの燃焼（再生）中にマフラーの周辺から白い煙が出ることがありますが、これはマフラー周辺に溜まった水分が水蒸気として排出されているもので異常ではありません。

尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システム

尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システムは、マフラー内に AdBlue®（尿素水）を噴射することにより排出ガス中の有毒な NOx を水と窒素に分解して、NOx を低減します。

AdBlue®（アドブルー）はドイツ自動車工業会の登録商標です。

■装置の故障を防ぐために、必ず以下の点をお守りください。

▶ 使用する AdBlue®（尿素水）

必ず日本工業規格（JIS）に適合した AdBlue®（尿素水）を使用してください。

▶ 指定の AdBlue®（尿素水）以外を補給しないでください。（→ P.6-100）

⚠ 注意

AdBlue®（尿素水）以外のものや水で薄めた AdBlue®（尿素水）をタンクに入れると排出ガスが悪化するだけでなく尿素水ポンプや尿素水インジェクター故障の原因となります。

誤って指定の AdBlue®（尿素水）以外のものを入れた場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡し、指示を受けてください。また、指示があるまでスターターキーを「ON」の位置に回さないでください。

■アフターランについて

知識

アフターランとは

AdBlue®（尿素水）の噴射が終了した状態では、尿素水ポンプや配管の中に AdBlue®（尿素水）が残ったままとなっています。それらに残った AdBlue®（尿素水）が寒冷時に凍結したり、乾燥して結晶化しないよう、エンジン停止後、AdBlue®（尿素水）をタンクへ引き戻すシステムです。

アドバイス

- エンジンが停止した後にアフターランが作動するとポンプの駆動音が聞こえます。
- メンテナンスを行う際は、アフターランが終了した後に作業してください。

▶ アフターラン作動時について

⚠ 注意

アフターランが終了するまで尿素 SCR システムは作動しています。

- エンジン停止直後にバッテリーを切ったり、ハーネスなどのコネクターを外さないでください。
- AdBlue®（尿素水）の配管を外さないでください。

■寒冷時の AdBlue®（尿素水）解凍・保温システムについて

知識

AdBlue®（尿素水）解凍システム

AdBlue®（尿素水）は −11 ℃以下で凍結します。低温時でも尿素 SCR システムが正常に作動するようにエンジン冷却水等を用いて尿素水タンク、尿素水ポンプおよび尿素水配管の解凍と保温を行う装置が搭載されています。

解凍

エンジン始動時に各温度センサーにて AdBlue®（尿素水）が凍結していると判断した際は、エンジン冷却水等を用いてタンク、ポンプおよび配管の解凍を行います。その際、凍結した AdBlue®（尿素水）がポンプや配管内を傷めないよう尿素水ポンプは停止しています。

保温

システム作動中に温度低下が起こり、AdBlue®（尿素水）が配管内で凍結する可能性があると判断した際は、エンジン冷却水等を用いてタンク、ポンプおよび配管の保温を行います。尿素水ポンプは、排出ガスを浄化するため稼働しています。

⚠ 注意

外気温度センサー、尿素水タンク温度センサーおよび尿素水ポンプの温度をもとに AdBlue®（尿素水）の温度が算出されるため、車両付近に熱源物を近づけないでください。解凍・保温システムが作動しないおそれがあります。

■AdBlue®（尿素水）の保管方法

AdBlue®（尿素水）は、直射日光の当たらない風通しの良い場所で、容器を密閉した状態で保管してください。

⚠ 注意

- AdBlue®（尿素水）は、−11 ℃で凍結します。凍結による体積膨張で、容器を破損するおそれがありますので、満水位以上の保管はしないでください。
- AdBlue®（尿素水）を、他の薬剤と混合したり、加熱したり、希釈しないでください。

知識

高温となる場所での保管は AdBlue®（尿素水）の寿命が低下する原因となります。30 ℃以下の場所での保管が好ましい条件です。

知っておいていただきたいこと

■データロガー

お車には一部の車両を除きデータロガーが装備されています。データロガーは車両の走行データを集計し記録するものです。タコグラフやドライブレコーダのように車両の状態を時間の経過に沿って常時記録し続けるものではありません。

データロガーは主に次のようなデータを記録します。

- 車両の一部のシステムの作動状態（PCS やドライバーモニターⅡ等）
- 車両の車速やエンジン回転数などの頻度情報
- 車両の位置情報

■データの取り扱いについて

車両をご安心にご利用いただくために、日野自動車は記録されたデータをソフトウェアのセキュリティ分析を目的として、取得・利用することがあります。

当社の個人情報保護方針に従い、適正に取り扱います。
詳細につきましては当社ホームページで公表している「個人情報の取り扱い」をご確認ください。

■サイバー攻撃のリスクについて

- 電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関して日野自動車は保証いたしません。
- 他車両から外した電子機器や無線機を取り付けるとサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。他車両から外した部品は取り付けないでください。
- 施錠しない状態での駐車や不特定の人が容易に触れることが可能な状態での車両の長期保管は意図せぬ不正機器の取付や改造のリスクにつながります。車両の施錠及び防犯対策をお願いいたします。

■ソフトウェアアップデートについて

機能改善などを目的としてソフトウェアをアップデートする場合があります。アップデート内容についてご確認したい場合は、日野販売会社にお申し出ください。

お車をたいせつに 2

保証について .....P.2−2
車の点検について .....P.2−3
新車時の取り扱い .....P.2−6
車台番号・エンジン番号
.....P.2−6

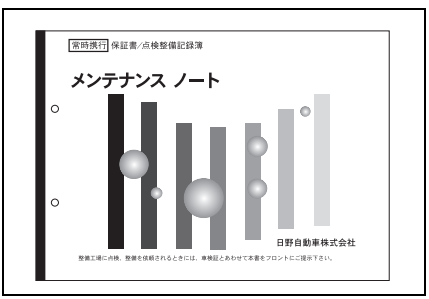
保証について

お買い上げいただいたお車は、高度な技術と徹底した品質管理のもとに製造しておりますので、性能と機能ともに十分お客様にご満足いただけるものと確信しております。しかし、万一材料または製造上の不具合がありました場合、保証書に記載されている範囲内において無料で整備させていただきますので、保証書をご持参のうえ、日野販売会社にお申し付けください。

保証書は「メンテナンスノート」にとじ込まれています。

■点検整備と取り扱いについて

取り扱いの不注意による故障、および「メンテナンスノート」に定められた点検整備を怠ったために生じた故障については保証に応じられません。日頃から正しい取り扱いと点検整備を実施してください。



■保証の対象外

次のことも保証いたしかねますので日頃から十分注意くださるようお願いいたします。

▶ 純正品以外の部品の使用による故障

純正以外の部品、油脂類および追加装着部品の使用による故障については保証できません。

▶ 違法改造による故障

法律で定められている基準に適合しなくなるような改造（用品類の違法な取り付け方も含みます。）は禁止されています。したがって、これらに伴う故障についても保証できません。

■純正部品について

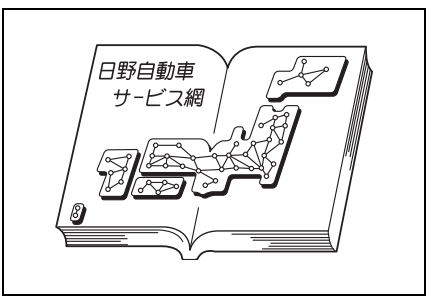
・ 部品、油脂類などを購入するときは、「日野純正部品」をご指定ください。「日野純正部品」は、弊社がその品質を保証しておりますので、安心してご使用いただけます。
「日野純正部品」には、 または Hinoマークのラベルが貼付されているか、 または Hinoマーク入りの包装紙・化粧箱に入っており、日野販売会社で販売しております。



■日野サービス網

・ 別冊の「サービスネットワーク」には、全国の日野の整備工場の所在地が記載されています。

・ 点検整備や一般整備は、最寄りの日野販売会社の整備工場をご利用ください。



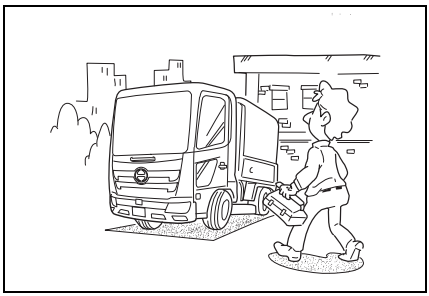
車の点検について

お車をいつも安全・快適に、また末永くご使用いただくためには、定期的な点検・整備を実施することが大切です。

■日常（運行前）点検

・ 1日1回お車を運転する前に必ず日常（運行前）点検を行い、異状がないことを確認してください。
簡単な点検により、常にお車の状態を知っておくと、思わぬトラブルを未然に防止できます。
なお、「日常（運行前）点検」は道路運送車両法でその実施が義務づけられています。

・ 点検方法の詳細は（→ P.12-3）



■新車時点検

・ ご使用開始後 1,000 km と 5,000 km 走行時の 2 回については、「点検整備記録簿」にもとづき工賃無料（油脂液代・部品代などは有料）で点検・調整をいたします。別冊の「メンテナンスノート」をご持参のうえ、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。
なお、お車の性能維持のためにも、「新車時点検」時に、次のオイル交換をお勧めします。

▶ 60 時間

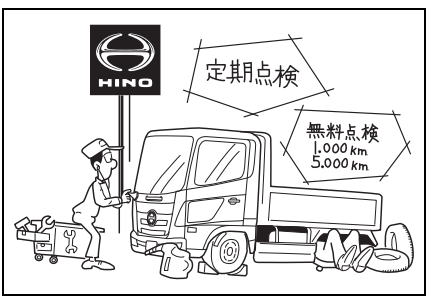
・ エンジンオイル〔消防車〕

▶ 1,000 km 時

・ エンジンオイル〔消防車以外〕
・ トランスミッションオイル
・ トランスファーオイル〔FX・GX〕
・ フロントデファレンシャルオイル〔FX・GX〕
・ リヤデファレンシャルオイル

▶ 5,000 km 時

・ パワーステアリングオイル

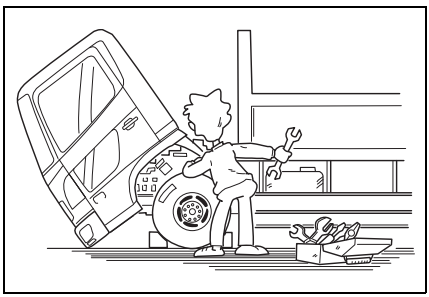


■定期点検

お車の性能を維持し、安全・快適にご使用いただくためには、予防整備として定期点検を実施していただくことが不可欠です。

定期点検では法令で定められた期間（自家用自動車は 6 カ月ごと・12 カ月ごと、事業用自動車は 3 カ月ごと・12 カ月ごと）での実施が義務づけられています。また、法定点検に加え弊社では一部のメーカー指定点検項目を定めてあります。

別冊の「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿にしたがって実施してください。



アドバイス

お車は使用する期間と使い方に応じて劣化が進みその構成部品や装置に性能低下が生じます。故障を未然に防ぎ社会環境に悪影響をおよぼす公害の防止のためにも定期点検・整備を必ず実施してください。

知識

車両総重量 8 トン以上の車またはレンタカー（乗用車は除く）は、事業用車と同じ取り扱いとなりますので事業用定期点検項目および期間で実施しなければなりません。

▶ 走行距離（稼働時間）ごとに行う点検整備

・ 油脂液類・エレメント類は使用期間よりも走行距離に大きく影響されますので、使用期間とは別に走行距離ごとの点検・交換（有料）を行ってください。

■定期交換部品

・ 自動車部品のうち安全上重要なゴム部品などは、時間の経過とともに材質が変化して劣化が進みます。定期点検時の点検では、いつまで安全に使用できるか予測がしにくいものです。
お車の機能、性能と安全を保持するために重要な役割をもっている部品ですから、弊社が指定する期間ごとに定期交換を行ってください。
この定期交換部品および時期は、別冊の「メンテナンスノート」に詳しく記載してありますのでご覧ください。

アドバイス

- 定期交換は、お客様の責任と費用のご負担により実施していただくもので保証修理とは異なりますのであらかじめご了承ください。
- この交換時期は弊社が標準的な走行距離（1 カ月に 5,000 km）にもとづいて期間を定めたものです。お車の走行条件その他の事情により、定期交換時期前であっても早めに交換が必要となることがありますので、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

■点検・手入れ

・ お車の性能を維持していただくために、「メンテナンスノート」に定められた定期点検項目のうち、車両の構造と装置の基礎知識があれば皆様にもできる点検項目に加えて、また、お車を快適にお使いいただくための点検・手入れについてまとめてあります。

・ 安全のために「点検・調整作業にあたっての注意」を必ずお読みください。（→ P.13-4）

新車時の取り扱い

■ならし運転

・ 新車時の取り扱いかたによっては、お車の性能や寿命に影響がでます。
走行距離が 1,000 km ぐらいまでは、エンジン回転数を控えめにし、速度をおさえて走行してください。その後、徐々に低速から高速までならし運転を行ってください。

新車時のエンジン最高回転数使用範囲 (r/min)	
A05C 型	1,800 ～ 1,900

車台番号・エンジン番号

■車台番号・エンジン番号

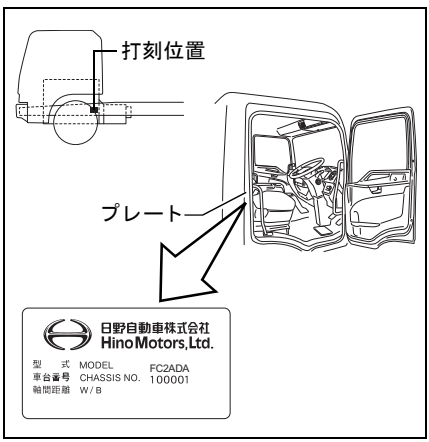
・ お車の登録および車検時に必要です。また、部品注文や整備をお申し付けの際、車台番号・エンジン番号を一緒にご連絡いただければより適切な処理が行えます。

▶ 車台番号

・ 車両左側フレームのフロントホイール付近に、車両型式と車台番号が打刻してあります。

例 : FC2AA ～ 100001

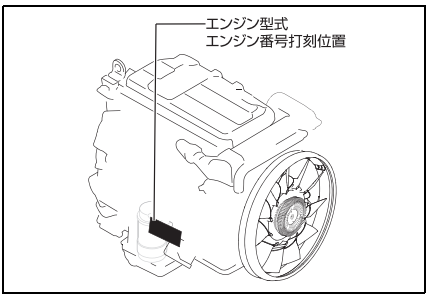
・ キャブの右側ドアを開いたピラー部にも車両型式と車台番号を打刻したプレートが取り付けてあります。



▶ エンジン番号

· クーリングファン側より見て左側にエンジン型式とエンジン番号が打刻してあります。

例 : A05C TE10003



各部の開閉 3

イモビライザー機能付きキー P.3-2
キーナンバープレート P.3-4
ドアの施錠・解錠 P.3-4
キーレスエントリー（応答式）★ P.3-6
ドアの開閉 P.3-10
ドアガラスの開閉 P.3-11
側方確認窓 P.3-14
車両への乗り降り P.3-15
手すりの取り扱い★ P.3-16
フロントパネルの開閉 ...P.3-17
荷台★ P.3-19

イモビライザー機能付きキー

このキーには、イモビライザー機能（車両盗難防止システム）が付いています。

⚠ 注意

■ イモビライザーシステムについて

- イモビライザーシステムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。
- 故障診断コネクタや車両内外に不審な機器が設置されていないかご確認ください。

■ イモビライザー機能付きキーについて

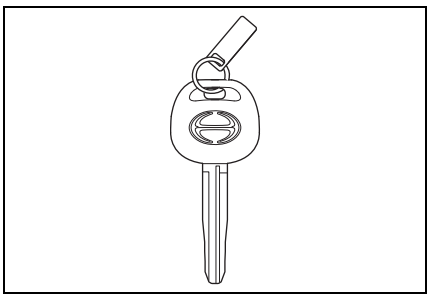
キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。

- キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- インストルメントパネルの上など高温になる場所に置かないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けないでください。
- キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。
- 車両を離れる際はドアを施錠し、キー保管時は車両から離れた場所に確実に保管してください。

知識

イモビライザー機能とは

- 車両の盗難防止のために、キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにした機能です。
- キーに登録された信号は車ごとに異なります。
- 登録されたキーを、スタータースイッチに差し込むと機能が解除されます。
- キー操作状況・環境等により、ごくまれにエンジンの始動ができないことがありますが異常ではありません。エンジンの始動ができなかった場合は、いったんキーを抜き、10 秒以上待ってからエンジンの始動をしてください。



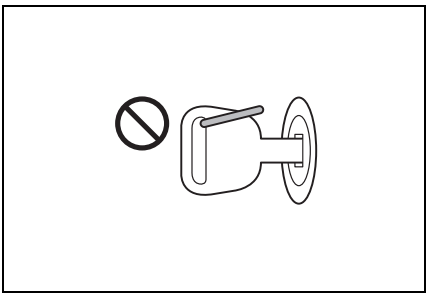
・ キーは、エンジンの始動・停止用のほかにドアの施錠・解錠用に使用します。

知識

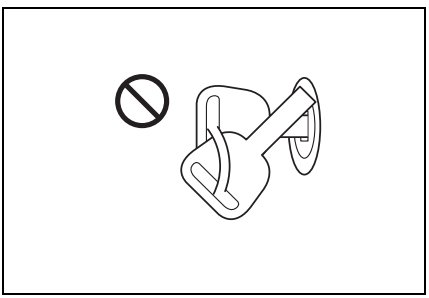
キーは、同じ車でメインキーは最大 5 本、サブキーは最大 3 本まで使用することができます。詳しくは最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

・ 次のときは、車がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。

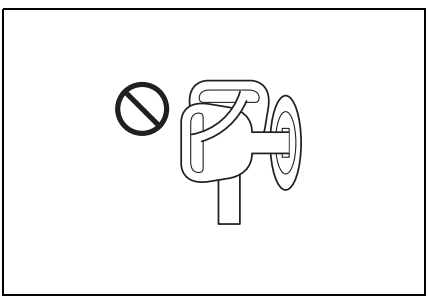
・ キーグリップに金属製のリングをのせたままのとき



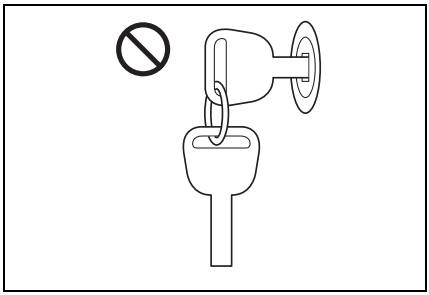
・ キーグリップに他のキーの金属部が接しているとき



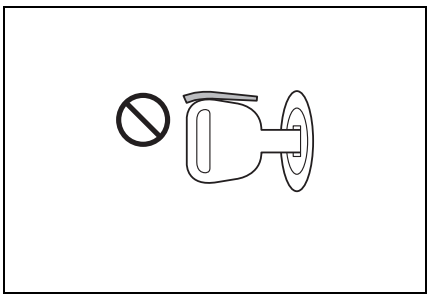
・ キーが他の車のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と重なっているとき



・ キーが他の車のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵のもの）と近いとき

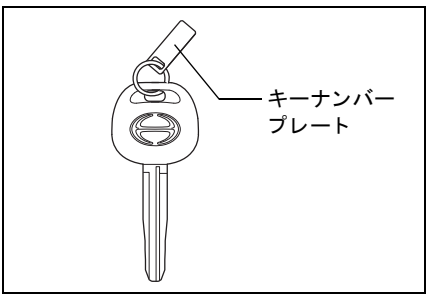


・ キーグリップに金属製のものが接しているとき



キーナンバープレート

・ お客様以外の方にキーナンバーをわからないようにするため、キーナンバーをキーナンバープレートに打刻してあります。（キーにはナンバーが打刻されていません。）



知識

キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。

万一、キーを紛失したときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にキーナンバーをご連絡いただければ新しいキーをお求めになることができます。

ドアの施錠・解錠

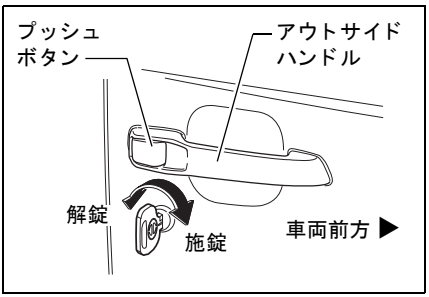
⚠ 警告

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止めドアを施錠してください。ドアガラスも閉め忘れないようにしてください。
- 坂道に駐車するときや長時間の駐車はタイヤの前後に輪止めを併用してください。無人で車が動いたり車両盗難のおそれがあります。
  また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。
- お子さまづれのときは、車内にお子さまを残したままお車を離れないでください。

⚠ 注意

車外からドアを施錠するときは、ドア外面にある差し込み穴にキーを差し込んでください。また、キーを使わないで施錠するときは、必ずキーを持って操作してください。キーを車内に置き忘れるおそれがあります。

■車外から



施錠するときはキーを差し込み、車両前方に回します。解錠するときは車両後方に回します。

■車外からキーを使わないで施錠するとき

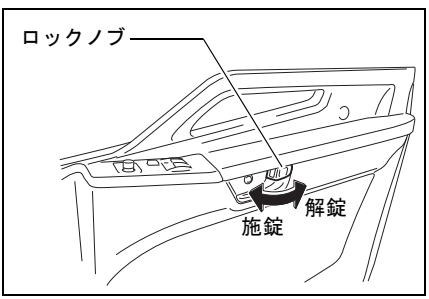
・ ロックノブを「施錠」側にし、アウトサイドハンドルのプッシュボタンを押したままドアを閉めます。

アドバイス

車内にキーを置き忘れないように注意してください。

■車内から

・ 施錠するときはロックノブを「施錠」側に動かします。解錠するときはロックノブを「解錠」側に動かします。



■電磁ドアロック★

・ 運転席側のドアをキー、またはロックノブで操作すると、他のドア（助手席側・後部席側★）も同時に施錠・解錠ができます。

キーレスエントリー（応答式）★

リモートキーの操作により、離れたところからドアの施錠・解錠ができます。また、車両のハザードランプ点滅による応答で施錠・解錠の確認ができます。

リモートキーのスイッチを押しても作動しないときやリモートキーを紛失したときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。



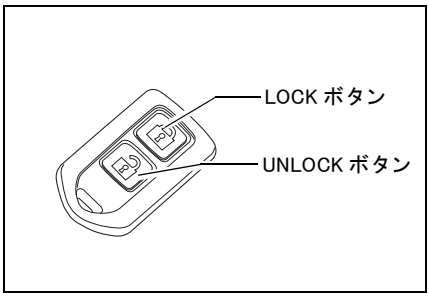
⚠ 注意

- リモートキーは、水にぬらしたり、分解したり、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因になります。
- リモートキーを、高温になる場所に放置しないでください。電池の寿命低下や故障の原因になります。

知識

航空機にリモートキーを持ち込む場合は、航空機内でリモートキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。

■操作方法



ボタン操作	ハザードランプ点滅回数	作動結果
LOCK	1 回	施錠
UNLOCK	2 回	解錠

＊ ドアが開いている、または半ドアの状態では施錠されずハザードランプは点滅しません。

● キーレス連動パワーミラー

キーレス連動パワーミラー機能は通常、OFF に設定されています。車両の設定により、OFF/ON/ 格納時のみ連動を切り替えることができます。設定の方法については、「キーレス連動ミラー」を参照してください。（→ P.6-46）

リモートキーの「LOCK」側または「UNLOCK」側を 1.5 秒以上押し続けることにより、ドアの施錠・解錠に加え、左側ミラーステーの CLOSE（格納）または SET（定位置）を行うことができます。

パワーミラー作動中にリモートキーの「LOCK」側または「UNLOCK」側を押すと、作動途中の位置で停止します。再度、リモートキーの「LOCK」側または「UNLOCK」側を 1.5 秒以上押し続けることにより、CLOSE（格納）または SET（定位置）まで作動を再開します。

⚠ 警告

リモートキーを使ってパワーミラーを操作するとき

- 周囲の人や車両などにぶつかるおそれがないことを十分に確認して操作してください。
- 必ず目視できる場所で、安全を十分に確認して操作してください。
- 走行前にミラーを「SET」位置に戻してください。
- リモートキーをポケットなどに入れたり、リモートキーの上に物を載せたりすると、意図せずボタンが押し続けられて、パワーミラーが作動する場合があります。リモートキーの取り扱いには十分ご注意ください。

⚠ 注意

- リモートキーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。故障の原因になります。
- リモートキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。
  - 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。
  - 必ず日本国内でご使用ください。
- リモートキーは、水にぬらしたり、分解したり、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。故障の原因になります。
- リモートキーを、高温になる場所に放置しないでください。電池の寿命低下や故障の原因になります。
- リモートキーのスイッチを押しても作動しないときやリモートキーを紛失したときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- ドアを施錠しているときはリモートキーの「開」ボタンを押さないでください。施錠機構の故障の原因になります。

アドバイス

- リモートキーによるパワーミラー操作をしない場合は、連動設定を OFF で使用ください。
- 狭い駐車場や、壁の近くに駐車する場合は、CLOSE（格納）機能のみの連動を選択することもできます。

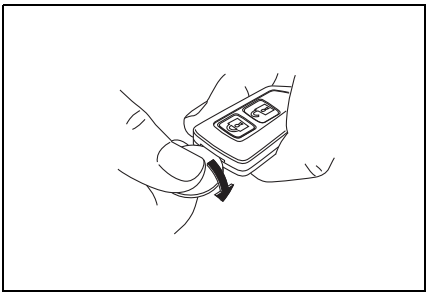
知識

- キャブ中心から約 10 m 以内で作動します。なお、周囲の状況や電波ノイズなどにより、作動距離が変わることがあります。
- リモートキーで解錠したときは、30 秒以内にドアを開けなければ、自動的に再び施錠されます。
- 次のようなときは、作動しません。
  - エンジンがかかっているとき
  - スターターキーが「LOCK」位置以外のとき
  - ドアが開いているとき
- 次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。
  - 近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき
  - 無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器、金属または磁気を帯びた製品を一緒に携帯しているとき。
  - 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
  - ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
  - 近くで他の車が電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
  - ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

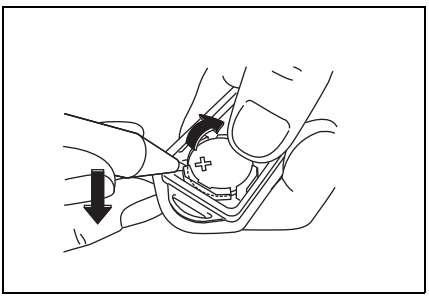
■電池の交換

ボタンを押しても施錠・解錠できないときは電池の消耗が考えられます。電池が消耗したときは、新しい電池と交換してください。

1. 凹部にコインなどを差し込み、カバーを外します。



2. 保護テープを巻いた先の尖ったものを使用して、電池を取り外し、新品の電池と交換します。



3. 電池交換後は、取り外しの逆の手順で取り付けます。

知識

電池の寿命は約 2 年です。なお、電池の寿命は使用条件により変わることがあります。

使用電池	数量
リチウム電池 CR2032	1 個

⚠ 警告

取り外した電池と部品はお子さまに触らせないでください。部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

電池交換の際は、故障を避けるために次のことを必ずお守りください。

- 錆の原因になるため、ぬれた手で電池を交換しないでください。
- 電池以外の部品に触れたり動かしたりしないでください。
- 電極を曲げないでください。

アドバイス

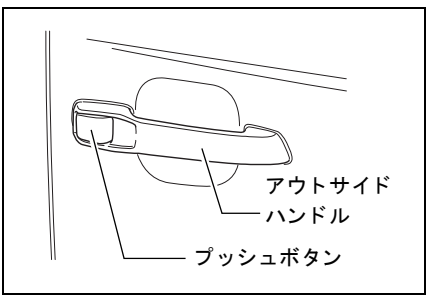
- 使用済みの電池は、地方自治体の条例または規則にしたがって、適切に処置してください。
- リモートキーを紛失したときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

ドアの開閉

⚠警告

- ドアを開けるときは、前後の安全を十分確かめてください。いきなり開けると後続車や歩行者などにぶつかるおそれがあります。
- 風の強いときにドアを開閉すると、ドアが風にあおられ急に開くことがあります。注意して開閉してください。
- 下り坂でドアを開けると、車の傾きによりドアが急に開くことがありますので注意してください。
- ドアは確実に閉めてください。半ドア（完全に閉まっていない状態）では、走行中にドアが突然開き思わぬ事故につながったり、運転者や同乗者が車から投げ出されるおそれがあります。

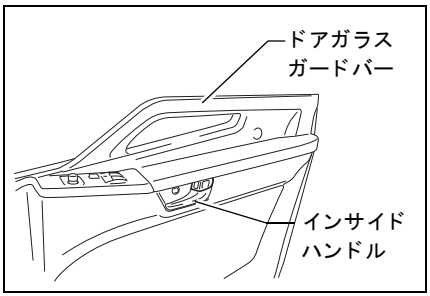
■車外から



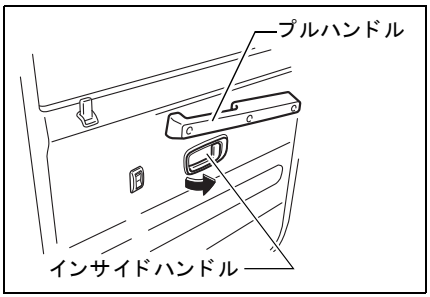
・ 開けるときはプッシュボタンを押しながらアウトサイドハンドルを引きます。
閉めるときはアウトサイドハンドルを持って、ドアを押します。

■車内から

〔運転席・助手席〕



〔後部席（ダブルキャブ車）〕



・ 開けるときはインサイドハンドルを引きドアを押します。
閉めるときはドアガラスガードバー（運転席・助手席）またはプルハンドル（後部席）を持って、ドアを引きます。

▶ キー抜き忘れ防止警報（ブザー）

・ スターターキーを「LOCK」または「ACC」の位置にして運転席ドアを開けると、ブザーが鳴り、キーの抜き忘れを知らせます。

ドアガラスの開閉

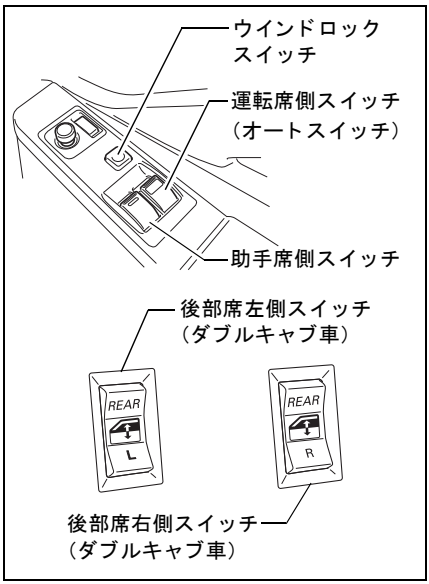
■パワーウインド

・ スターターキーが「ON」の位置のときに操作できます。スイッチ操作でドアガラスの開閉ができます。

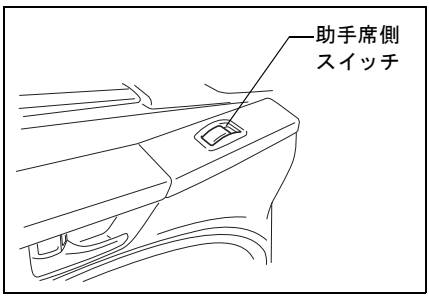
⚠警告

- ドアガラスを閉めるときは、必ず窓から手や頭を出していないことを確認してから、操作してください。万一、ドアガラスにはさまれるとケガをするおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せるときは、お子さまが自分で開閉しないように、必ずウインドロックスイッチを「LOCK」にしておいてください。お子さまがパワーウインドスイッチをいたずらして手や頭などをはさんだりするおそれがあり危険です。

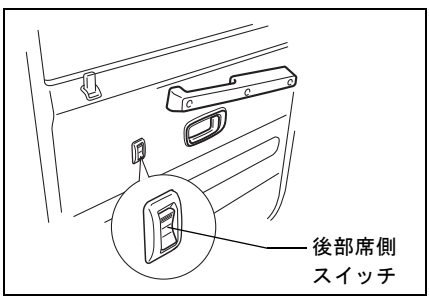
〔運転席〕



〔助手席〕



〔後部席（ダブルキャブ車）〕



アドバイス

全開／全閉したあともスイッチを操作し続ける、または、短時間の間に連続してドアガラスを開閉させるとドアガラスが開閉できなくなることがあります。ドアガラスの開閉ができないときは、しばらく待ってから再度操作してください。

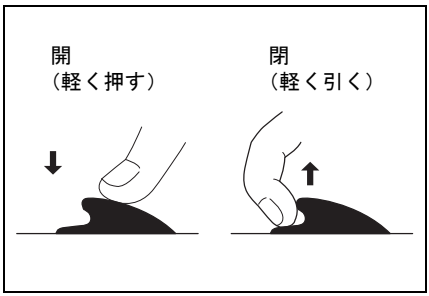
▶ 運転席側スイッチ

・ 運転席側のドアガラスの開閉ができます。

〔手動開閉〕

・ スイッチを軽く押している間は開き、指を離すと止まります。

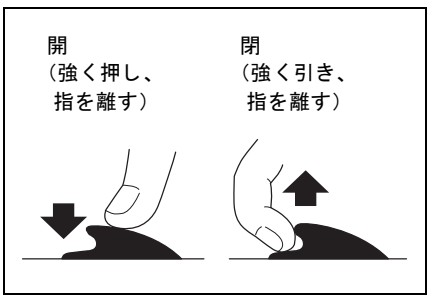
・ スイッチを軽く引いている間は閉まり、指を離すと止まります。



〔自動開閉〕

・ スイッチを強く押すと自動で全開します。途中で止めたいときは、スイッチを軽く引きます。

・ スイッチを強く引くと自動で全閉します。途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。

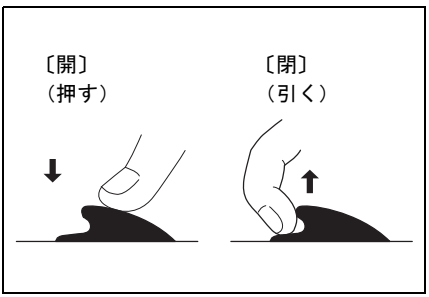


▶ 助手席側スイッチ

・ 助手席側のドアガラスの開閉ができます。

・ スイッチを軽く押している間は開き、指を離すと止まります。

・ スイッチを軽く引いている間は閉まり、指を離すと止まります。



＊ ただし、ウインドロックスイッチが「LOCK」されているときは、スイッチを操作しても作動しません。

▶ 後部席側スイッチ（ダブルキャブ車）

・ 後部席のドアガラスの開閉ができます。

・ スイッチの下側を押している間は開き、指を離すと止まります。

・ スイッチの上側を押している間は閉まり、指を離すと止まります。

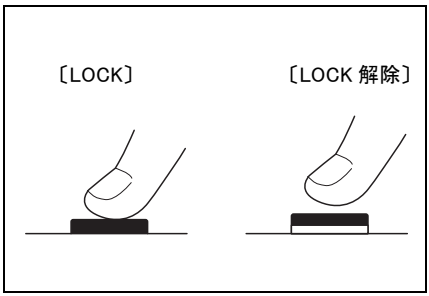
＊ ただし、ウインドロックスイッチが「LOCK」されているときは、スイッチを操作しても作動しません。

▶ ウインドロックスイッチ

・ 助手席側および後部席側（ダブルキャブ車）のパワーウインドをロックするスイッチです。

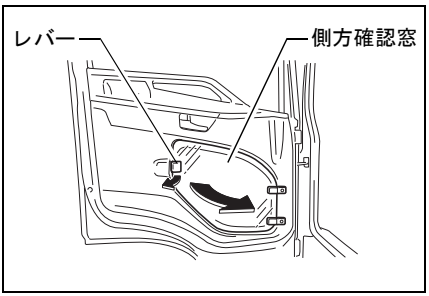
・ スイッチを押し込むと「LOCK」され、開閉ができなくなります。

・ もう一度押すと、「LOCK」が解除されます。



側方確認窓

助手席側ドアには、運転者の死角となる左側方を確認するため、側方確認窓があります。



⚠ 警告

側方確認窓に紙などを貼ったり、側方確認窓内や付近に物を置かないでください。左側方の視界がさまたげられ安全確認ができなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

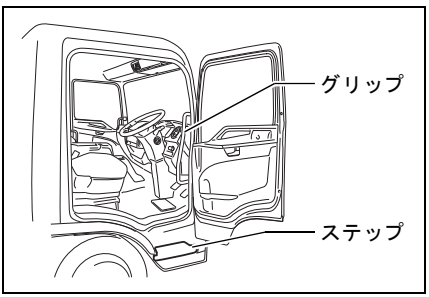
- 側方確認窓を開けたままで助手席側ドアガラスを開閉しないでください。ドアガラスに手などをはさみケガをするおそれがあります。
- 側方確認窓を開けたままでドアの開閉を行わないでください。破損するおそれがあります。
- 側方確認窓を開けたまま走行しないでください。ガラスの破損やケガをするおそれがあります。

- 左折時などでは、バックミラーなどによる間接視界と、側方確認窓を通しての直接視界とで、車両左側の安全を確認してください。
- 側方確認窓の内側がくもったり汚れたときは、レバーを引いて側方確認窓を開けて清掃することができます。
  清掃後は「カチッ」と音がするまで押しつけ確実に閉めてください。

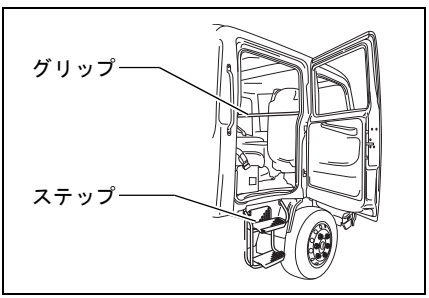
車両への乗り降り

車両への乗り降りをするときは、必ずグリップとステップを利用します。

〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車〕



〔ダブルキャブ車〕



■乗降のしかた

- 周囲の安全を確認した後、ドアを開けグリップを握ってステップに足をかけ乗降します。
- グリップおよびステップを利用し、常に 3ヵ所以上で身体を保持するようにしてください。

⚠警告

車両への乗り降りは必ずステップを使用してください。ホイールやタイヤに足をかけての乗降は滑りやすく危険です。また、車両からの飛び降りは転倒したり思わぬケガの原因になります。

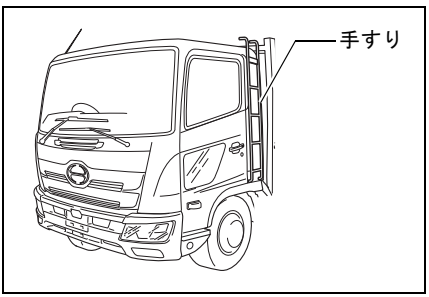
⚠注意

- くつ底に油やグリース、雪などが付着していると乗降時やペダル操作時に滑ったりするおそれがあります。くつ底の油やグリース、雪などを落としてから乗降してください。
- 降雨、降雪時などはステップがぬれていたり着氷している場合があります。この場合は滑らないようにゆっくり乗降してください。
- 風の強いときなどは、乗降中に突然ドアが開閉することがありますので十分注意してください。
- グリップ以外の装置をつかんで乗降しないでください。破損の原因になります。

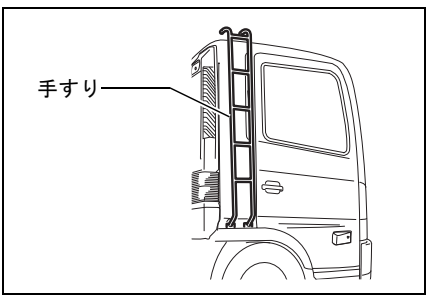
手すりの取り扱い★

キャブサイドに純正の手すりを取り付ける場合には、必ず付属の手すり取り付け要領書をお読みください。

〔FD・GD・FE・FX・GX 車〕



〔FC・GC・FJ 車〕



使用するときは次の点に注意してください。

⚠ 警告

- 取り付け部のボルト・ナットのゆるみや、各部の腐食・損傷がないことを確認してください。
- 手すりは 1 人用です。同時に 2 人以上で乗らないでください。許容荷重は 120 kg までです。
- 手すりを使用するときは、必ずヘルメットを使用して両手で手すりをつかみ、気を付けて乗り降りしてください。滑ったりして思わぬケガをするおそれがあります。

フロントパネルの開閉

フロントパネルを開けると次の点検・整備ができます。

㋑ラジエーターリザーブタンク

㋺ブレーキバルブ

㋩クラッチフルードリザーブタンク

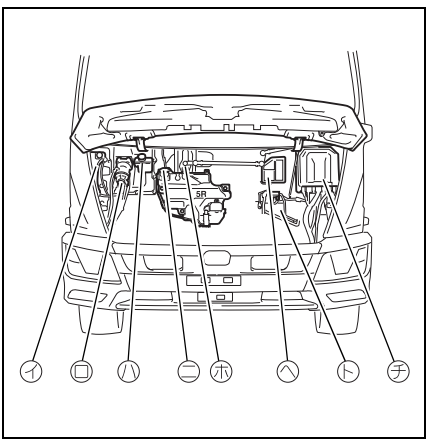
㋥ウインドウォッシャータンク注水口

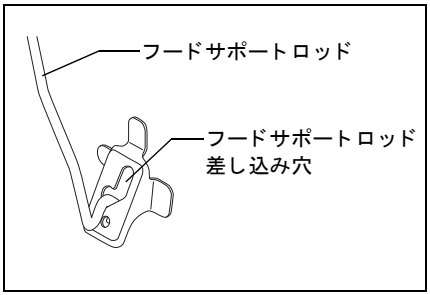
㋭ワイパーモーター＆リンク

㋬外気エアフィルター・内気エアフィルター

㋣冷媒（ガス）量

㋠キャブシャシハーネスボックス





フロントパネルを開けて点検・整備を行うときは、必ず、フードサポートロッドをフードサポートロッド差し込み穴に確実に差し込んでください。

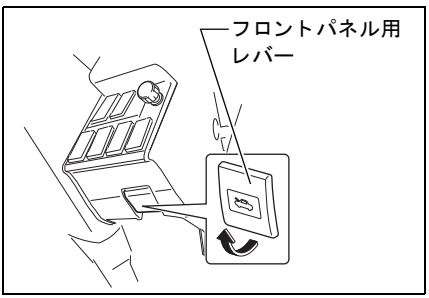
■開け方

1. スターターキーを抜き取ります。また、ワイパースイッチは必ず「OFF」にします。

⚠ 注意

スターターキーが「ON」または「ACC」の位置にあると突然ワイパーモーターが作動し、ワイパーのリンクに手をはさまれてケガをするおそれがあります。

2. インストルメントパネル右下部のフロントパネル用レバーを手前に引きます。フロントパネルのロックが解除され、フロントパネルが少し浮き上がります。



⚠ 警告

走行中、フロントパネル用レバーを引かないでください。走行中にフロントパネルが開いて視界がさまたげられ事故の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

ワイパーアームを起こした状態でフロントパネルを開けないでください。ワイパーを起こしている場合は、格納してください。フロントパネルやワイパーが損傷します。また、キャブチルトをした状態及びキャブチルトを行う場合は、フロントパネルを必ず閉めてください。

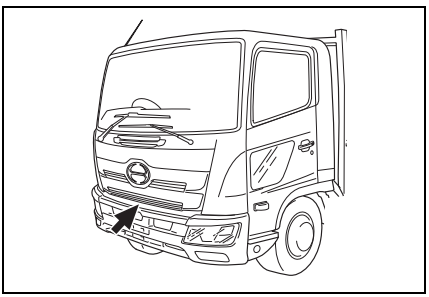
＊ フロントパネルが固定されていることを確認してください。

■閉め方

⚠ 注意

フロントパネルを降ろす際、手をはさまないように十分注意してください。

1. フロントパネルを手で支えながらステーを外し、元の位置に戻します。
2. フロントパネルをロックが掛かるまで静かに降ろします。
3. フロントパネルの中央下端を「カチッ」と音がするまで押しつけ確実に閉めます。



＊ 確実にロックされていることを確認してください。

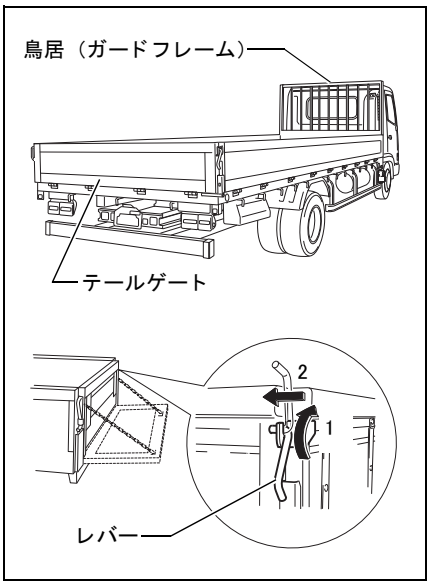
⚠ 警告

走行前にフロントパネルが確実にロックされていることを確認してください。ロックが不十分なまま走行するとフロントパネルが開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷台★

この荷台は、3 方または 5 方の開放型ゲートにより多様な荷物が積める構造となっています。床板には積荷保護のため、軽量で耐久性に優れた木材を使用していますが、降雨や炎天下で長期間車両を放置すると、すきまやそりが発生するおそれがありますので、表面の保護に十分注意してください。

■テールゲート



- 左右のレバーを上に回し内側に押すとテールゲートが降ろせます。

⚠ 警告

- レバーを外すときは、テールゲートをしっかり支えてください。車両の傾斜や積荷の重みで急に開き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- テールゲートの開閉時は、手などをはさまないように十分注意してください。
- テールゲートを開いたまま走行しないでください。開いたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

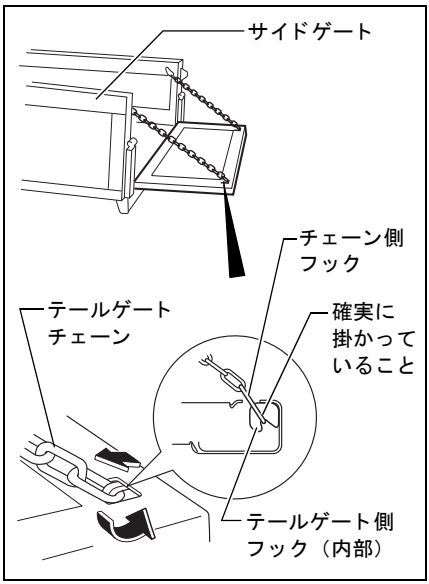
アドバイス

テールゲート、鳥居（ガードフレーム）には重量物を載せないでください。

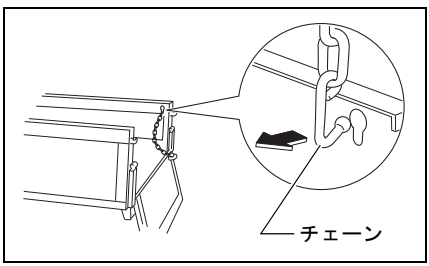
■テールゲートチェーン

▶ チェーンの外し方

1. テールゲートを少し持ち上げるようにして、テールゲート側のチェーンを外します。



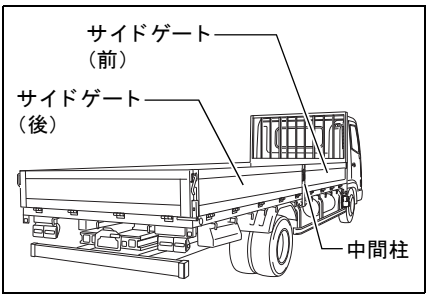
2. サイドゲート側のチェーンを外します。



⚠ 注意

テールゲートチェーンを使用した状態で、テールゲートの上に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。テールゲートに傷が付いたり、テールゲートチェーンの破損によるテールゲートの落下のおそれがあります。

■サイドゲート



⚠警告

- レバーを外すときやハンドルを引き上げるときは、サイドゲートをしっかり支えてください。車両の傾斜や積荷の重みで急に開き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- サイドゲートは重いので、開閉するときは注意してください。
- サイドゲートの開閉時は、手などをはさまないように十分注意してください。
- サイドゲートを開いたまま走行しないでください。開いたまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

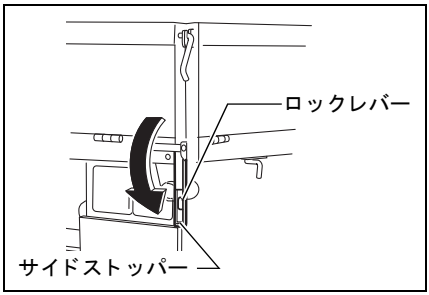
サイドゲートには、重量物を載せないでください。

知識

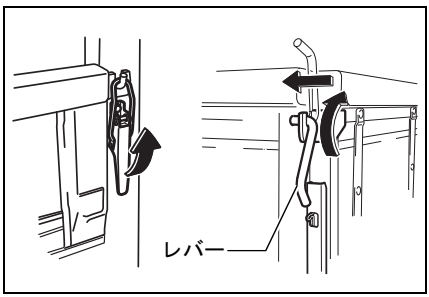
サイドゲートを左右ともに開くときは、先にテールゲートを開いてから行います。

▶ 3 方開

1. ロックレバーを外側に押しながらサイドストッパーを後方に倒します。



2. サイドゲート前後にあるレバーを引き上げてロックを外すとサイドゲートが降ろせます。

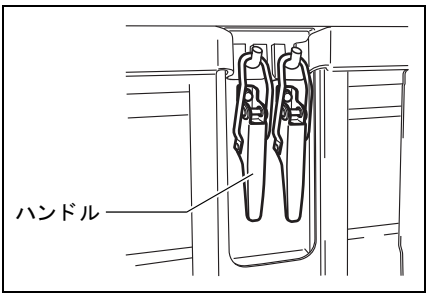


3. 閉じるときは逆順序で行ってください。

▶ 5 方開

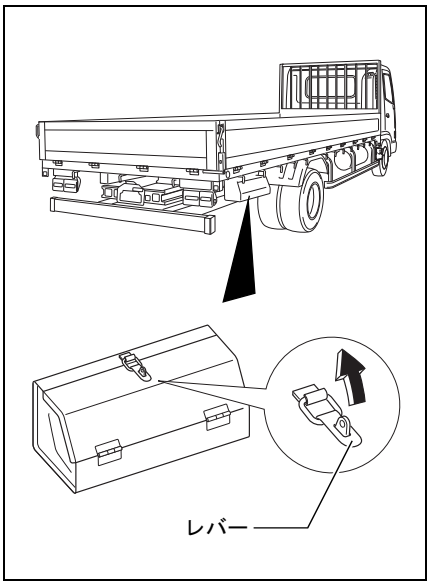
・ サイドゲートの前側と後側を別々に開閉することができます。

1. 後側は 3 方開と同様に開閉し、前側は前後ともハンドルを引き上げロックを外して開きます。



2. 中間柱は、上に引き上げれば取り外せます。
3. 閉じるときは、逆順序で行います。また、中間柱を確実に取り付けてからサイドゲートを閉じます。

■ツールボックス



・ レバーを持ち上げるとロックが外れます。

アドバイス

走行中にふたが開かないように、ふたのロックを確実にかけ、錠前を取り付けてください。

シート・シートベルトの取り扱い

4

シート .....P.4−2
シートヒーター★ .....P.4−8
シートベルト .....P.4−9

シート

■運転席〔ドライバーシート〕

シート各部の調整により、正しい運転姿勢が選べます。シートに深く腰掛け、シートバック（背もたれ）から背を離さずにペダルを十分に踏み込め、ハンドル・各スイッチ・ペダル類の操作が楽に行え、また各ウォーニングランプ・計器類を視認できるゆとりのある位置に調整します。

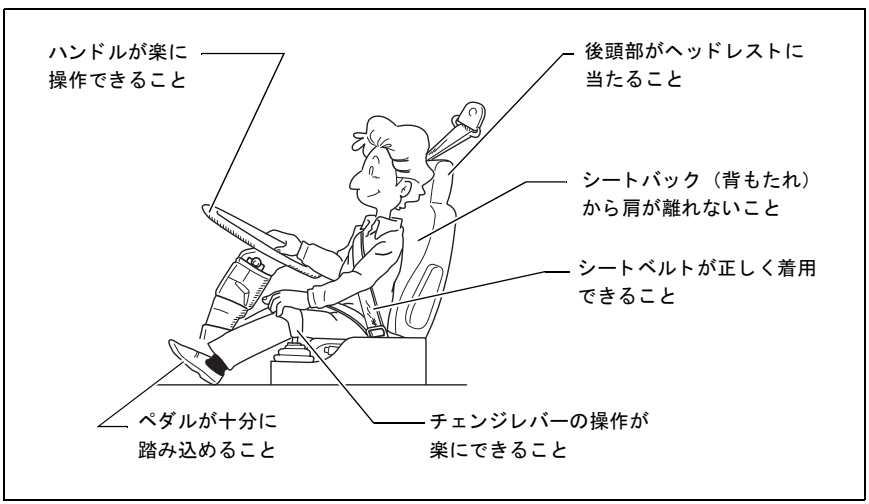
⚠警告

- シートの調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整するとシートが大きく動いて運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調整した後は、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動いて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手がはさまり思わぬケガをするおそれがあります。

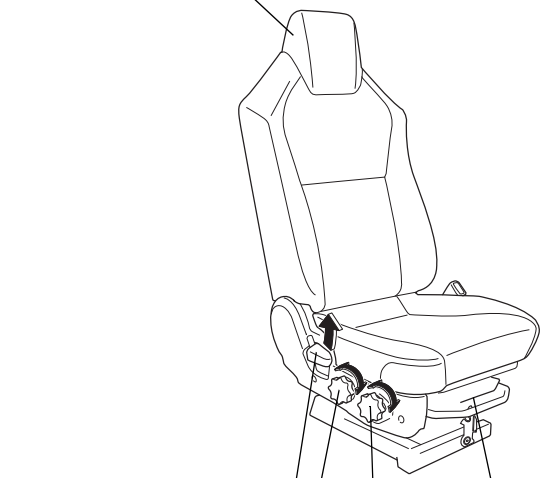
⚠注意

シートを調整するときは、同乗者や荷物に当たらないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物を破損するおそれがあります。

〔正しい運転姿勢〕



▶ 固定シート



シートバック（背もたれ）角度

- レバーを引くと、シートバック（背もたれ）の角度が調整できます。

シートの前後位置

- レバーを引き上げると、シートを前後に調整できます。
  調整後、レバーから手を離し、シートを少し前後させてロックします。

シートの高さ

- ダイヤルを回すと高さが調整できます。
  （右回し : 下がる、左回し : 上がる）

シートの角度

- ダイヤルを回すと角度が調整できます。
  （右回し : 前下がり、左回し : 前上がり）

▶ エアサスペンションシート★

ヘッドレスト

ランバーサポート★

● レバーを操作すると、腰部のあたり具合が無段階に調節できます。



シートバック（背もたれ）角度

● レバーを引くと、シートバック（背もたれ）の角度が調整できます。

シートの高さ

● ダイヤルを回すと高さが調整できます。
（右回し：下がる、
左回し：上がる）

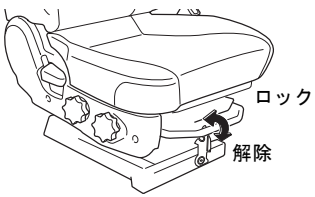
シートの角度

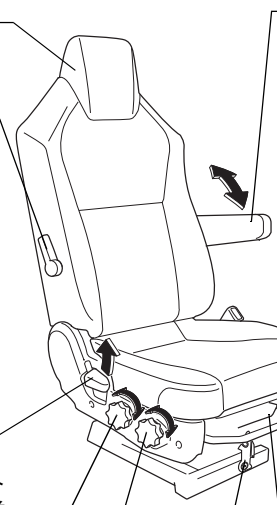
● ダイヤルを回すと角度が調整できます。
（右回し：前下がり、左回し：前上がり）

エアサスペンションロックレバー

● 悪路などでの激しい揺れを防止するときは、エアサスペンションロックレバーで、ロックできます。
ロック後、シートを若干上下させ確実にロックしていることを確認します。

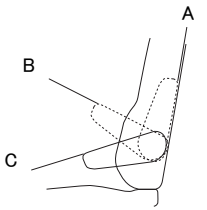
● ロックレバーが硬くて解除しにくいときは、座った状態で体を上下に動かしてください。





アームレスト（角度調整式）

● 角度調整式のひじかけです。



A：格納位置

● B～C間のお好みの角度で固定することができます。固定した位置より上げるときは、B位置まで上げることができます。下げるときは、一度B位置より上に上げたらC位置まで下げることができます。A位置から使用するときは、一度C位置まで下げ「カチッ」と音が聞こえてから、お好みの角度に調整してください。

シートの前後位置

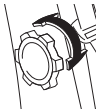
● レバーを引き上げると、シートを前後に調整できます。
調整後、レバーから手を離し、シートを少し前後させてロックします。

▶ 高機能シート★

ヘッドレスト

ランバーサポート

● ダイヤルを操作すると、腰部のあたり具合が 3 段階に調節できます。



シートバック（背もたれ）角度

● レバーを引くと、シートバック（背もたれ）の角度が調整できます。

シートの座り心地

● レバーを操作するとシートの座り心地（減衰力）が調整できます。



シートの高さ

● ダイヤルを回すと高さが調整できます。（右回し : 上がる、左回し : 下がる）

シートの角度

● ダイヤルを回すと角度が調整できます。（右回し : 前上がり、左回し : 前下がり）

エアサスペンション強制排気レバー

● レバーを下げるとエアサスペンションのエアを強制排気し、シートの高さを最下段まで下げることができます。

● レバーをもとの位置に戻すとシートの高さがもとの位置に戻ります。

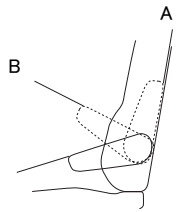


シートの前後位置

● レバーを引き上げると、シートを前後に調整できます。
調整後、レバーから手を離し、シートを少し前後させてロックします。

アームレスト（角度調整式）

● 角度調整式のひじかけです。



A : 格納位置
B ～ C : 角度調整可能位置

● B～C間のお好みの角度で固定することができます。
固定した位置より上げるときは、B 位置まで上げることができます。
下げるときは、一度 B 位置より上に上げたら C 位置まで下げることができます。
A 位置から使用するときは、一度 C 位置まで下げ「カチッ」と音が聞こえてから、お好みの角度に調整してください。

シートクッション（座面）前後位置

● レバーを操作するとシートクッションの前後位置を調整することができます。

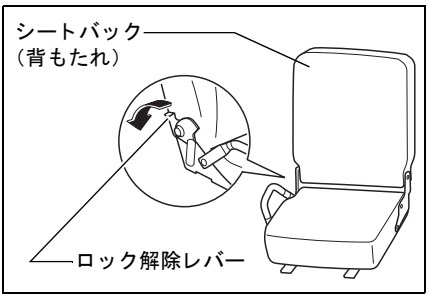
＊ シートバック（背もたれ）の前後位置は調整されません。
シートバック（背もたれ）の前後位置も同時に調整する場合はシートの前後位置調整レバーを操作してください。



■センターシート★

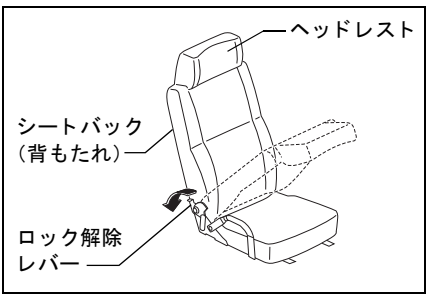
〔標準シート〕

・ シートバック（背もたれ）を前方に倒すときは、ロック解除レバーを車両後方に倒します。



〔ヘッドレスト付きシート〕

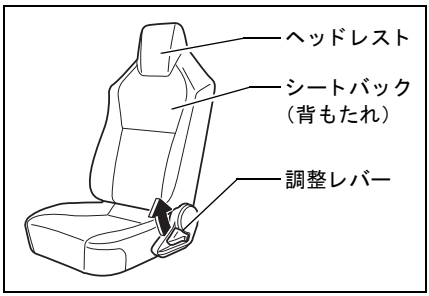
・ シートバック（背もたれ）を前方に倒すときは、ロック解除レバーを車両後方に倒します。



■助手席〔アシスタントシート〕

・ 調整レバーを車両前方に倒すと、シートバック（背もたれ）を前方に倒すことができます。

・ シートバック（背もたれ）を前方に倒すときは、調整レバーを車両前方に倒します。また、シートバック（背もたれ）を起こすときも、調整レバーを車両前方に倒します。

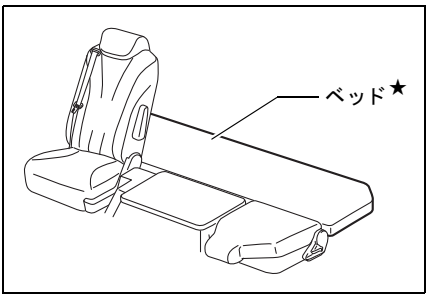


⚠警告

シートバック（背もたれ）を前方に倒したまま走行しないでください。側方確認窓の視界のさまたげになり、安全確認ができなくなるおそれがあります。

■フルフラットシート機構

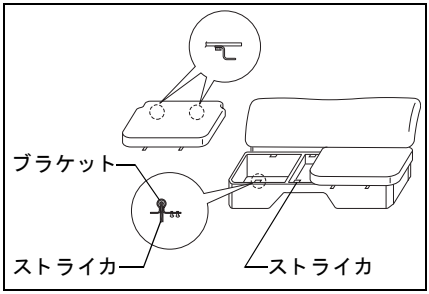
・ アシスタントシート（助手席）のシートバック（背もたれ）を前方に倒すと、ベッド★とほぼ同じ高さとなり、幅広く利用できます。



⚠警告

- 走行中は、ベッドを使用しないでください。万一の衝突や急停車のときに、体を拘束するものがないため重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ベッドを使用するときは、車を安全な場所に止めてパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- シートバック（背もたれ）を前方に倒したまま走行しないでください。側方確認窓の視界のさまたげになり、安全確認ができなくなるおそれがあります。

■リヤシート（ダブルキャブ車）★



・ リヤシートは、ブラケットとストライカがはめ込んだ状態になっていますので、取り外した後に再び取り付ける場合は、ブラケットとストライカを確実にはめ込んでください。

＊ リヤシートは、架装メーカーにより仕様が異なる場合があります。

■チャイルドシートを使用する場合

・ ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの取り扱い、取り付けについての詳細は各製品の取扱説明書をご覧ください。

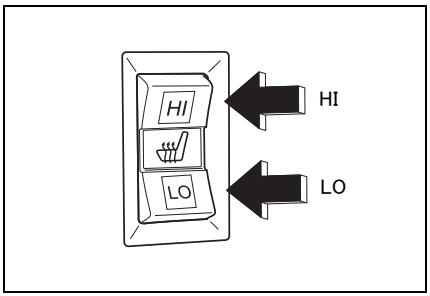
⚠警告

- お子さまを乗車させる場合でも、シートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いて乗せていると、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトが首やあごにあたる場合や腰骨にかからないような小さなお子さまは年齢や体格にあったチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。使用しないと衝突したときなどに強い圧迫を受け、シートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ひとり座りできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。なお、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートについては最寄りの日野販売会社にご相談ください。

選択の目安

	体重（kg）	身長（cm）	参考年齢
ベビーシート	～10未満	70以下	～1才頃
チャイルドシート	9～18前後	100以下	6カ月～4才頃
ジュニアシート	15～36前後	135以下	4才頃～10才頃

シートヒーター★



・ スターターキーが「ON」位置のとき使用できます。停止するときは中立位置にしてください。

HI：運転席を早く暖めたいときに使用してください。運転席が暖まったあとは、″LO″に切り替えてください。

LO：保温するときに使用してください。

⚠警告

- 下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
  - ・ 皮ふの弱い方
  - ・ 疲労の激しい方
- 毛布や座ぶとんなど保温性のよい物をかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。

⚠ 注意

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。

アドバイス

- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。
- スターターキーが「ON」の位置で、エンジンをかけた状態で使用してください。「ACC」の位置ではバッテリーあがり防止のため作動しません。

シートベルト

着用は法律によって義務づけられています。シートベルトの注意事項を十分理解し、正しく取り扱ってください。



⚠ 警告

- シートベルトは走行前に必ず着用してください。また、同乗者にも必ず着用させてください。シートベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰を掛けた状態で着用してください。シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと効果が半減するだけでなく重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部からずれていると衝突したときなどに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。
- シートベルトはねじれたまま着用しないでください。衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができずケガをするおそれがあります。

⚠警告

- シートベルトは首・あご・顔にあたらないように着用してください。衝突したときに、首やあごがしめつけられ、ケガをするおそれがあり危険です。
- 3 点式シートベルトは、腕の下に通して着用しないでください。ベルトが十分かかっていないと衝突したときなどに体が前方に投げ出されケガをするおそれがあります。
- シートベルトは 1 人用です。2 人以上で 1 組のシートベルトを使用しないでください。衝突したときなどにベルトの機能が正常に働かないおそれがあります。
- シートのシートバック（背もたれ）を必要以上に傾けて走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。
- 炎天下に車両を屋外に停車させているとシートベルトのタングなどの金属部分が高温となりやけどをするおそれがありますので、直接手を触れないように注意してください。

⚠警告

- 衝突したときなどにベルトの機能が正常に働かなくなるおそれがありますので、以下のことを必ず守ってください。

・ シートベルトをドアやシートにはさんで傷をつけないように注意してください。

・ シートベルトにほつれ・すり切れがあったりバックルが正常に作動しないときは、シートベルトを新品に交換してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・ 万一事故を起こした後は、必ずシートベルトを新品に交換してください。シートベルトが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
外観上に異常がなくても正常に作動しないことがあります。軽い衝撃でも最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

・ 車に付いているシートベルトは改造や取り外しをしないでください。また、バックルや巻き取り部に異物などを入れないでください。ベルトの機能が低下し危険です。

・ シートベルトの汚れは中性洗剤を用いて洗い落としてください。ガソリン・シンナーなどの揮発剤は、シートベルト地を著しく弱める原因になりますので絶対に使用しないでください。

・ シートベルトをクリップ等でゆるめないでください。ベルトの機能が低下し思わぬ事故につながるおそれがあります。

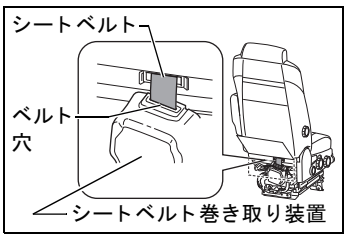
▶ 高機能シートについて

⚠ 警告

- シートには背もたれの下部にシートベルト巻き取り装置が装備されています。事故の際、シートベルトの正常な作動のさまたげとなり、生命の危険や重大な傷害につながる可能性がありますので以下のことを必ず守ってください。

・ シートベルトには、荷物やシートカバーなど、物が当たらないようにしてください。

・ ベルト穴にごみや異物、液体などを入れないでください。

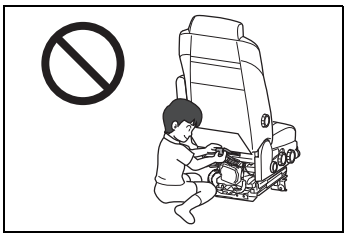


- シートの後ろにあるベルト穴付近に足などをのせないでください。プリテンショナー付きシートベルトが作動したとき、やけどをするおそれがあり危険です。

- 日野純正部品以外のものを取り付けると、シートベルトの正常な作動のさまたげとなり、生命の危険や重大な傷害につながる可能性があります。なお、日野純正シートカバーなどを装着するときは、商品に付属の取扱説明書をよくお読みになり、正しく取り付けてください。

⚠ 注意

シートベルトを背もたれ後ろにあるベルト穴からひっぱり出したり、ベルトに物を引っ掛けたりしないでください。シートベルトがロックしたまま引き出せなくなります。ベルトが引き出せなくなったときは、一度背もたれを前に倒すと引き出すことができます。



▶ 妊娠中の女性または疾患のある方のシートベルト着用について

⚠ 警告

- 妊婦・疾患のある方がシートベルトを着用するときは、かかりつけの医師と相談してから使用してください。衝突のときなど腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
- 妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

・ 妊娠中の女性の着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

・ 妊娠中の女性が正しくベルトを着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 疾患のある方も必ずシートベルトを正しく着用してください。（ただし、医師に注意事項をご確認ください。）

▶ お子さまのシートベルト着用について

⚠ 警告

- お子さまでもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いて乗せていると、急ブレーキや衝突したときなどに十分に支えることができずお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な大人の体格を持った人用に設計されています。
- シートベルトが首やあごに当たる場合や、腰骨にかからないような小さなお子さまは年齢や体格にあったチャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受けシートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、ひとりで座ることのできない小さなお子さまはベビーシートを使用してください。
  なお、ベビーシート・チャイルドシート・ジュニアシートについては最寄りの日野販売会社にご相談ください。

〈選択の目安〉

	体重（kg）	身長（cm）	参考年齢
ベビーシート	～ 10 未満	70 以下	～ 1 才頃
チャイルドシート	9 ～ 18 前後	100 以下	6 カ月～ 4 才頃
ジュニアシート	15 ～ 36 前後	135 以下	4 才頃～ 10 才頃

⚠警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。ベルトを首や体に巻き付けて遊んでいると窒息等の重大な事故につながるおそれがあります。万一バックルが外せなくなった場合はベルトをはさみ等で切断してください。
- 炎天下に車両を屋外に停車させているとシートベルトのタングなどの金属部分が高温となりやけどをするおそれがありますので、お子さまが誤って触らないよう注意してください。

■3 点式シートベルト

・ 運転席・助手席のシートベルトは ELR 付きシートベルトが装着されています。

知識

ELR（緊急ロック式巻き取り装置）とは

- 通常は体の動きに合わせてベルトは自由に伸縮できますが、万一の衝突や急停車のとき、自動的に固定し体を守ります。
- シートベルトロックの解除方法について

・ ベルトはゆっくり引き出してください。急に引き出すと途中で固定することがあります。このようなときはいったんベルトを戻すか、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。また高機能シートのベルトが引き出せないときは、一度背もたれを前に倒すとベルトを引き出すことができます。

〔運転席〕

・ 運転席のシートベルトにはプリテンショナーが装着されています。

知識

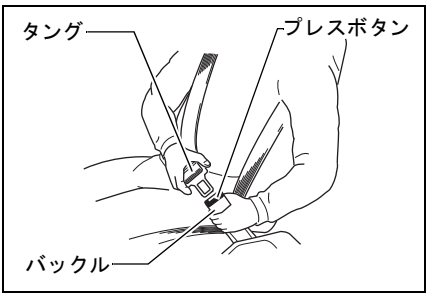
プリテンショナーとは

前方から一定以上の強い衝撃を受けたとき、着用しているシートベルトが瞬時に巻き取られ、運転者をシートに拘束し、衝撃を緩和するとともに SRS エアバッグの効果を高める装置です。

● 装着

・ 使用する際は、以下の手順で取り扱ってください。

1. シートバック（背もたれ）は倒さずにシートに深く腰掛けて座ります。
2. タングをつかんでベルトをゆっくり引き出し、バックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



＊ ベルトがねじれていないことを確認してください。腰部のベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。

＊ 肩ベルトは首にかからないように着用してください。

● 取り外し

・ プレスボタンを押します。ベルトは自動的に巻き込まれます。

▶ プリテンショナー付きシートベルト

⚠ 警告

- シートベルトの取り外し、取り付け、分解などをしないでください。不適切に扱うと、シートベルトが正常に作動しなくなったり、誤って引き込み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 下記を修理するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。不適切な修理を行うと、シートベルトが正常に作動しなくなったり、誤って引き込み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  - 運転席側シートベルト付近の修理
  - キャブの板金、塗装
  - シートベルトの交換
  - 事故後のシートベルトの点検
- プリテンショナー付きシートベルトは、運転者の身体を守るための装置です。正しく着用しないと重大な傷害を受けるおそれがあります。
- プリテンショナー付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなりますので、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。
- 車やプリテンショナー付きシートベルトを廃棄するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。プリテンショナー付きシートベルトが思いがけなく作動しケガをするおそれがあります。

＊ SRS エアバッグについては（→ P.5-53）

〔助手席〕

● 装着

・ 使用する際は、以下の手順で取り扱ってください。

1. シートバック（背もたれ）は倒さずにシートに深く腰掛けて座ります。
2. タングをつかんでベルトをゆっくり引き出し、バックルに「カチッ」と音がするまで、確実に差し込みます。

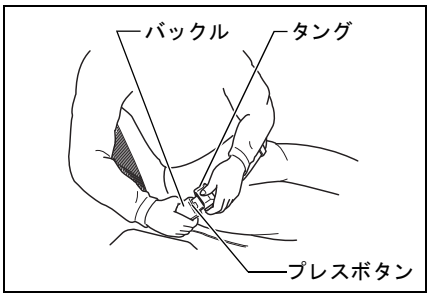
＊ ベルトがねじれていないことを確認してください。腰部のベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。

＊ 肩ベルトは首にかからないように着用してください。

● 取り外し

・ プレスボタンを押します。ベルトは自動的に巻き込まれます。

■2 点式シートベルト★
〔センターシート・リヤシート〕



● 装着

1. シートに深く腰掛けて座ります。
2. タングをベルトに直角にしてベルトを引き出し、腰骨のできるだけ低い位置に密着するよう長さを調整します。
3. ベルトがねじれないようにタングをバックルに「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。

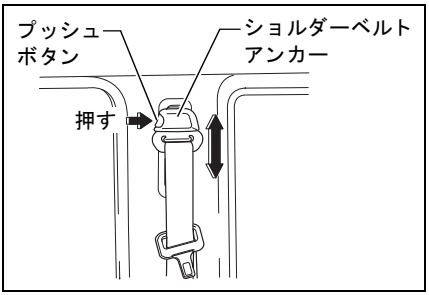
● 取り外し

・ プレスボタンを押します。

＊ 外したタングはバックルにはめてシートの上に置いてください

■アジャスタブルショルダーベルトアンカー

〔運転席側のみ〕



- ベルトが肩に十分かからないときに使用します。高さは 5 段階に調節できます。
- 上げるときは、ショルダーベルトアンカーを持ち、そのまま動かします。
- 下げるときは、プッシュボタンを押しながらショルダーベルトアンカーを動かし、ベルトが肩に十分かかる位置でボタンから手を離し固定します。調節後、ショルダーベルトアンカーが確実に固定されていることを確認します。

⚠ 警告

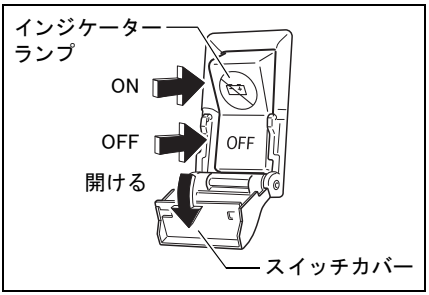
ショルダーベルトアンカーは、肩部のベルトが首・あご・顔にあたらないよう、また、肩に十分かかるように調節してください。衝突したときに重大なケガにつながるおそれがあります。

バッテリーカットスイッチ〔消防車〕.....P.5-3
スタータースイッチ P.5-4
エンジンのかけ方 P.5-5
オイルパンヒーター用コンセント〔消防車〕.....P.5-8
アイドルセットボタン P.5-9
暖機システム P.5-11
エンジンの止め方 P.5-13
ペダル類 P.5-15
マニュアルトランスミッション P.5-16
オートマチックトランスミッション P.5-19
パーキングブレーキレバー P.5-48
ハンドル P.5-52
ホーンボタン P.5-53
運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置） P.5-53
ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.5-59
ワイパーマニュアルストップスイッチ★ P.5-61
ヘッドランプウォッシャースイッチ★ P.5-62
ライティングスイッチ ...P.5-62
オートハイビーム（AHB）★ P.5-66
ハザードスイッチ P.5-71
ターンシグナルスイッチ P.5-71
ヘッドランプ光軸調整スイッチ★ P.5-72
フォグランプスイッチ★ P.5-73
エキゾーストブレーキスイッチ P.5-73
エキゾーストブレーキ点検スイッチ P.5-74
エンジンリターダースイッチ P.5-75
電磁式リターダーコントロールレバー・エキゾーストブレーキスイッチ★ P.5-77
エコモードスイッチ★.....P.5-79
排出ガス浄化装置再生スイッチ P.5-80
ミラーの調整の仕方.....P.5-84
パワーミラースイッチ....P.5-86
ミラーヒータースイッチ★ P.5-88
センターデフロックスイッチ〔FX・GX 車〕.....P.5-88
散光灯スイッチ★.....P.5-90
架装路肩灯スイッチ★.....P.5-90
架装マーカー灯スイッチ★ P.5-91
架装庫内灯（ウィング仕様車）スイッチ★.....P.5-91
架装ウィングメイン（ウィング仕様車）スイッチ★ P.5-92
スピードリミッター★.....P.5-92
発進アイドルアップ★ P.5-93

ES スタート（坂道発進補助装置）★.....P.5-94
アイドルストップ時のブレーキ保持★（オートマチックトランスミッション車）.....P.5-102
トランスミッション PTO（パワーテイクオフ）★.....P.5-105
フライホイール PTO（パワーテイクオフ）★〔消防車〕.....P.5-107
ダンプ★.....P.5-109
ミキサー★.....P.5-114
ブレーキロック（作業用補助制動装置）★.....P.5-114
ASR（アンチスリップレギュレーションシステム）★.....P.5-117
VSC（ビークルスタビリティコントロール）.....P.5-119
アイドルストップシステム★〔マニュアルトランスミッション車〕.....P.5-121
アイドルストップシステム★〔オートマチックトランスミッション車〕.....P.5-126
FS スピードリミッター★.....P.5-130
FS クルーズ★.....P.5-142
スキャニングクルーズⅡ（車間クルーズ）★.....P.5-148
車線逸脱警報装置★.....P.5-166
ふらつき警報★.....P.5-170
ドライバーモニターⅡ★.....P.5-171
PCS（プリクラッシュセーフティ）★.....P.5-174
標識認識システム.....P.5-196
ドライバー異常時対応システム（EDSS）★.....P.5-205
サイトアラウンドモニターシステム★.....P.5-216
バックアイ★.....P.5-228
リヤエアサスハイトコントロール★.....P.5-246
左右任意エアサスハイトコントロール★.....P.5-254
バックブザー減音スイッチ.....P.5-258

バッテリーカットスイッチ〔消防車〕

バッテリー回路の ON/OFF の切り替えを行います。



⚠ 警告

走行中および停車中にかかわらず、エンジン回転中は絶対にバッテリーカットスイッチを「OFF」にしないでください。「OFF」にすると電源が切れ、各電気装置が作動せず危険です。

- エンジンをかける際は、スイッチカバーを開けバッテリーカットスイッチを「ON」にしてからスターターキーを「ON」の位置にしてください。

＊ 走行中は、スイッチカバーを閉じてください。

- エンジンを停止する際は、スターターキーを「LOCK」の位置にしてからバッテリーカットスイッチを「OFF」にしてください。
- スイッチを「OFF」にするときは、スイッチカバーを開け、スイッチの「OFF」側を押してください。

アドバイス

長時間にわたり駐車する際などは、必ずバッテリーカットスイッチを「OFF」にしておいてください。「ON」の状態にしておくとバッテリーあがりを起こし、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。

スタータースイッチ

⚠警告

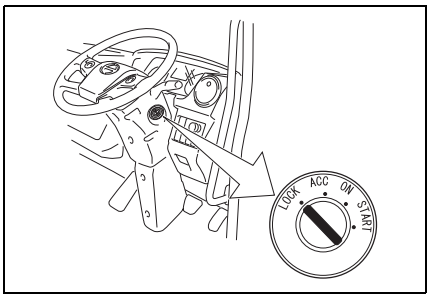
- スターターキーを抜いたまま、絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。
- 走行中は、スターターキーを絶対に「ON」の位置以外にしないでください。「ACC」や「LOCK」の位置にするとエンジンが止まるばかりでなく、次のような状態になり危険です。

・ブレーキの効きが悪くなります
・ハンドルやクラッチ操作が極端に重くなります
・ウォーニングランプ類や計器などの電気回路が全て作動しなくなります
・「LOCK」の位置にするとハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です

知識

- スターターキーはスタータースイッチの奥まで確実に押し込んでください。
- キーの抜き差しや「LOCK」の位置に回しにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら行ってください。

■キーポジション



▶「LOCK」の位置

・スターターキーを抜き差しする位置です。また、キーを抜きハンドルがロックするまで回すとハンドルが固定されます。

＊「ACC」から「LOCK」の位置にするときは、キーを押し付けながら回します。

▶「ACC」の位置

・エンジンを止める位置です。エンジンが止まった状態でもラジオなどは使用できます。

▶「ON」の位置

・エンジン回転中の位置です。

▶「START」の位置

・エンジンを始動する位置です。スターターキーから手を離せば自動的に「ON」の位置に戻ります。

アドバイス

- スターターキーはエンジン始動後に、「START」の位置に回さないでください。スターターの故障の原因になります。
- エンジン始動時は、エンジンが完全に停止している状態でスタータースイッチを操作してください。エンジンが完全に停止する前にスターターキーを「START」の位置に回すと、スターターが作動しない場合があります。
- エンジン始動時、スターターキーを繰り返し「START」の位置に回すと、スターターが作動しない場合があります。3 秒以上間隔をあけて操作してください。
- エンジンを止めた状態で、「ON」や「ACC」の位置のまま長時間放置しないでください。
  バッテリーあがりを起こし、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。
- 長時間駐車するときは、スターターキーを抜いておいてください。
- エンジンを止めたあとで、ラジオなどを長時間使用しないでください。
  バッテリーあがりを起こし、エンジンが始動できなくなるおそれがあります。

エンジンのかけ方

■エンジンをかける前に

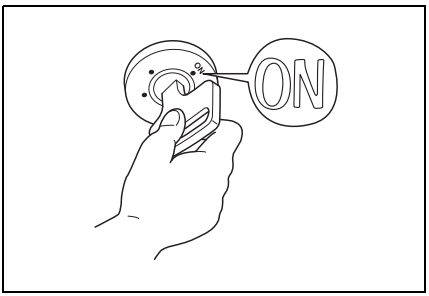
1. 車の前後に人や障害物がないことを確認します。
2. ハンドルや各スイッチおよびペダル類が楽に操作できるようシートやハンドルの位置を調整します。
3. シートベルトを正しく着用します。
4. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。
5. チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターが N（「P」レンジ付き車では P）位置にあることを確認します。

⚠ 警告

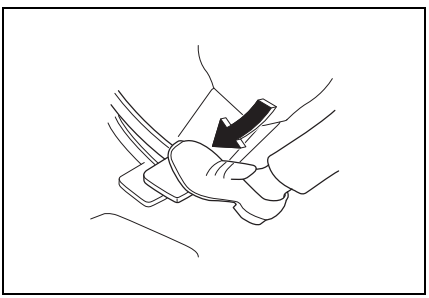
運転席に座っていない状態でエンジンをかけないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。エンジンをかけるときは、万一の急発進にそなえ必ず運転席に座り、必ず上記の 1. ～ 5. を行ってエンジンをかけてください。

■通常またはエンジンが暖まっているとき

1. バッテリーカットスイッチ（消防車のみ）を「ON」側にしたあと、スターターキーを差し込み、「ON」の位置まで回します。このとき各メーター類の作動状態を確認します。



2. クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車のみ）をいっぱいに踏み込んで、スターターキーを「START」の位置に回し、エンジンをかけます。



- このときアクセルペダルは踏まないでください。ただし気候またはエンジンの状態によりエンジンがかかりにくいときは、アクセルペダルを軽く踏んでください。

⚠ 注意

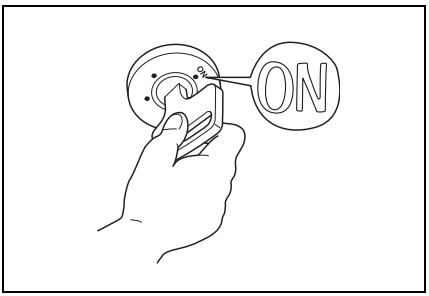
エンジン始動直後、急にエンジン回転数を上昇させないでください。ターボチャージャーにエンジンオイルが行きわたる前にエンジン回転数が上昇することによりベアリングの焼きつきの原因となります。

アドバイス

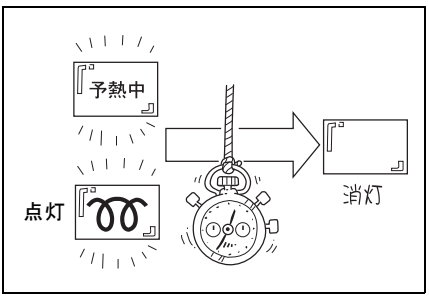
- 1 度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のためスターターキーを「ACC」の位置に戻し、30 秒ほど待ってからかけなおしてください。
- スターターは、15 秒以上連続して回さないでください。スターターが故障したり、過熱（マルチインフォメーションに“スターター過熱注意”を表示）したり、バッテリーあがりを起こす原因となります。
- スターターを 30 秒連続して回した場合、連続通電防止機能が作動します。スターターキーを「ON」の位置に戻すと、連続通電防止機能が解除されます。
- スターターキーを「START」の位置に回すときは、エンジンが完全に停止している状態で操作してください。エンジンが完全に停止していない状態でスターターキーを「START」の位置に回すと、スターターが作動しない場合があります。
- スターターキーを繰り返し「START」の位置に回すと、スターターが作動しない場合があります。3 秒以上間隔をあけて操作してください。
- 始動時にアクセルペダルを必要以上に踏まないでください。黒煙の発生につながります。

■寒冷時にエンジンをかけるとき〔プレヒート（始動補助装置）付き車〕

1. アイドルセットボタンが標準アイドリング回転数となる位置（左いっぱいに回した状態）に戻っていることを確認します。（→ P.5-9）
2. スターターキーを差し込み「ON」の位置まで回します。



3. 冷却水温が 0 ℃以下のとき ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 予熱中 ”を表示します。予熱完了後消灯します。



＊ プレヒート（始動補助装置）に異常が発生した場合、マルチインフォメーションに“ 予熱装置異常 ”を表示または ランプが 2 秒間隔で点滅します。その際は、最寄りの日野販売会社の整備工場で、点検・整備を受けてください。

4. 消灯と同時に、クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車のみ）とアクセルペダルをいっぱいに踏み込んでスターターキーを「START」の位置に回し、エンジンをかけます。

アドバイス

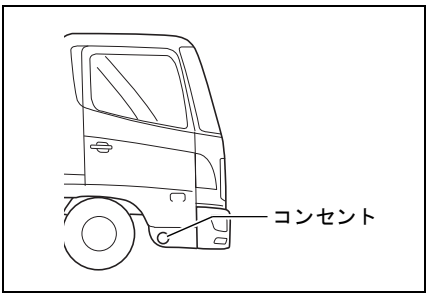
プレヒート（始動補助装置）は消費電力が大きいため、繰り返し作動させることは、バッテリーの負担を大きくしますので、できるだけ避けてください。

知識

- ランプおよびマルチインフォメーションの“ 予熱中 ”表示の消灯後 5 秒以内にスターターキーを「START」の位置に回すと、エンジンが容易に始動します。
- アクセルペダルはスターターキーを「ON」の位置にしてから踏み込みます。「LOCK」や「ACC」の位置からアクセルペダルを踏み込んでも、寒冷時始動用の燃料（増量）噴射機能が作動しません。
- 寒冷地域では大容量バッテリー★を使用すると始動性が良好になります。

オイルパンヒーター用コンセント〔消防車〕

寒冷時に、エンジンオイルをあらかじめオイルパンヒーターで暖めておいて、エンジンの始動を容易にすることができます。



＊ オイルパンヒーターは、寒冷地以外で使用しないでください。

＊ コードのアースは、必ず取り付けてください。

＊ コードはドアにはさまったり、折れ曲がらないようにしてください。

＊ オイルパンヒーターの消費電力は500W です。

＊ 延長コードを接続する AC100V コンセントに十分な容量があることを確認してください。

オイルパンヒーターによるエンジンオイルの温度
常時約 30 ～ 40 ℃

1. エンジンオイル量を点検します。
2. コンセントに車載の専用コードを接続します。
3. コードのプラグを外部電源（AC100V）に接続します。

⚠ 警告

■ プラグや手をぬらしたときは、必ず乾かしてから接続してください

100 V 交流電源ですので、外部電源を接続すると感電するおそれがあり危険です。

■ 延長コードの接続や取りはずしは、正しい順序で行ってください

正しい順序で行わないと感電し、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ コンセント内に水滴などが付いているときは、完全に取り除いてください

コンセント内の水気を完全に取り除いてから、車両側プラグを挿し込んでください。水気を完全に取り除かないと、漏電の原因となり、感電など生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

■ コンセントを使用したあとは、すみやかに延長コードを取りはずしてください

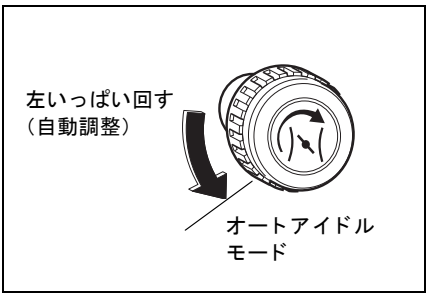
コードをはずし忘れたまま車を発進してしまうなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アイドルセットボタン

■アイドリング自動調整

・ ボタンを左いっぱいに回すとオートアイドルモードとなり、エンジンの冷却水温に応じてアイドリング回転数が自動的に調整されます。

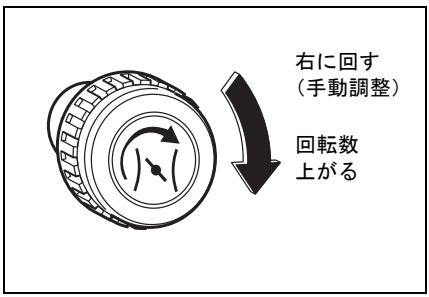
・ 通常は、左いっぱいに回した状態で使用してください。



■アイドリング手動調整

・ ボタンを右に回すとオートアイドルモードから手動調整モードとなり、エンジン回転数が上がり、約 1,000 r/min まで調整することができます。

＊ チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターが N（「P」レンジ付き車は P）位置以外のときは、アイドリング手動調整操作ができない機構になっており、標準アイドリング回転数のままとなります。



エンジン型式	標準アイドリング回転数 (r/min)
A05C	550

⚠警告

手動調整時は、不用意にボタンを右に回すとエンジン回転数が急に上がり、急発進の原因になり危険です。ボタンは、ゆっくり少しずつ右に回してください。

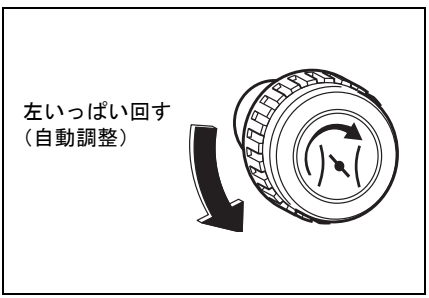
■暖機運転

⚠ 警告

- 換気の不十分な車庫や屋内での暖機運転はしないでください。排出ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 暖機運転は、排気管やマフラー付近に枯草や紙くずなどの燃えやすい物がないことを確認してから行ってください。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

▶ アイドリング自動調整

1. アイドルセットボタンを左いっぱいに回すとオートアイドルモードとなり、エンジンの冷却水温に応じてアイドリング回転数が自動的に調整されます。

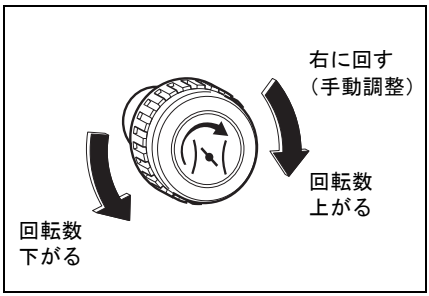


2. アイドリング回転数が標準アイドリング回転数まで下がったら暖機完了です。

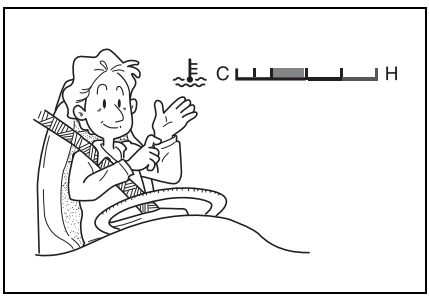
エンジン型式	標準アイドリング回転数 (r/min)
A05C	550

■アイドリング手動調整

1. エンジンがかかったら、アクセルペダルを徐々に戻し、アイドルセットボタンでやや高めのアイドリング回転数にし暖機運転をします。（→ P.5-9）



2. 暖機運転は水温計の目盛りが動き出すまで行います。



3. 水温計の目盛りが動き出したら、アイドルセットボタンで標準アイドリング回転数に戻します。

エンジン型式	標準アイドリング回転数 (r/min)
A05C	550

アドバイス

始動直後に空ぶかしや高速回転をさせないでください。エンジンの不調や故障の原因になります。また、燃料のムダ使いにもなります。

知識

アイドルセットボタン作動時にギヤを入れると作動が解除されます。解除後の再作動はチェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを N（「P」レンジ付き車は P）位置に操作してください。

暖機システム

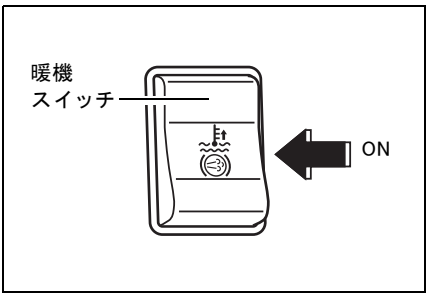
寒いときにエンジンを始動して、早くヒーター（暖房）およびデフロスターを効かせたいときや長時間停車中のヒーター（暖房）効果を高めたいときに使用します。

⚠ 警告

- 換気の不十分な車庫や屋内での暖機運転はしないでください。排出ガスにより一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 暖機運転は、排気管やマフラー付近に枯草や紙くずなどの燃えやすい物がないことを確認してから行ってください。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

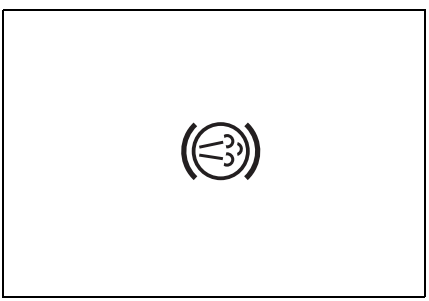
■作動

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを[N]（「P」レンジ付き車では[P]）位置にします。
2. 暖機スイッチを押すと、エキゾーストブレーキが作動します。



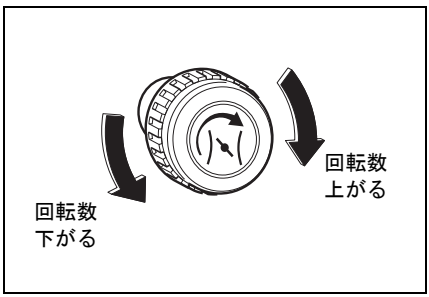
- 早くヒーター（暖房）を効かせたいときには、暖機スイッチを「ON」のまま、アイドルセットボタンでエンジン回転を標準アイドリング回転数よりやや高めにしてください。
- 暖機システム作動中は、メーターパネル内のインジケーターランプが点灯します。

● インジケーターランプ



■解除

- 暖機スイッチを押します。
- アイドルセットボタンでエンジン回転を標準アイドリング回転数に戻します。
  再びヒーターを暖めたいときは、この操作を繰り返します。



アドバイス

- 走行中は、暖機スイッチを「ON」にしないでください。
- このスイッチはエキゾーストブレーキ作動点検用スイッチもかねています。
  この操作方法は（→ P.12-28）

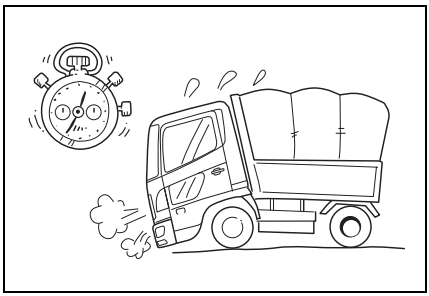
エンジンの止め方

⚠ 警告

- 坂道に駐車するときや、長時間の駐車および車両の点検・整備などの作業をするときは、車両が動き出すおそれがあるため、必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- トランスミッションのギヤを入れた状態で駐車する必要があるときは、パーキングブレーキを確実に効かせエンジンが始動しないように、スターターキーを抜き、さらにタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。走行直後や排出ガス浄化装置（DPR）のクリーニングモード中は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

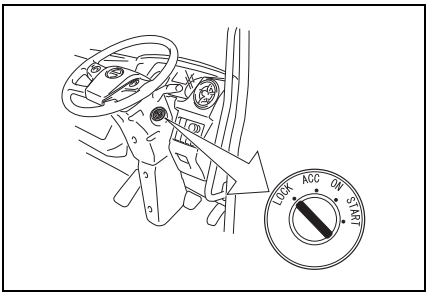
■停止前のアイドリング

1. 駐停車するときは、平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを N（「P」レンジ付き車では P）位置にします。
2. エンジンを停止させる前に、3～5分程アイドリングの状態でエンジンを冷却します。特に、登坂や高速走行直後はエンジン各部が高温になっていますので、十分にエンジンを冷却します。

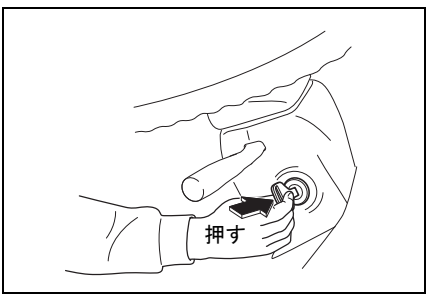


■停止方法

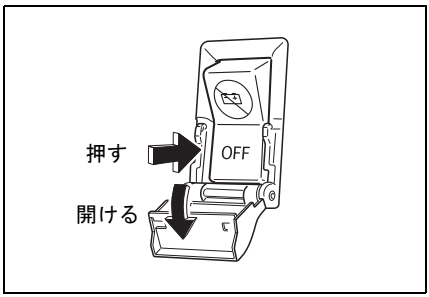
1. スターターキーを「ACC」の位置に回してエンジンを止めます。



2. スターターキーを抜き取るときは、キーを「ACC」の位置で押し付けながら「LOCK」の位置に回します。



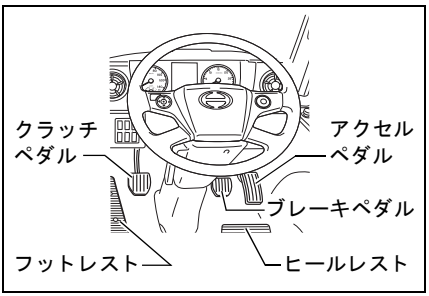
3. バッテリーカットスイッチ（消防車のみ）のスイッチカバーを開け、スイッチの「OFF」側を押し「OFF」にします。



⚠警告

走行中および停車中にかかわらず、エンジン回転中は、バッテリーカットスイッチ（消防車のみ）を「OFF」にしないでください。「OFF」にすると電源が切れ、各電気装置が作動せず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ペダル類



■ アクセルペダル

⚠ 警告

アクセルペダルの操作に異常（踏力軽すぎ、戻り不良、しぶりなど）を感じたときは、そのまま運転を続けずに、ただちに安全な場所へ停車してください。そのまま運転を続けると、速度のコントロールができなくなるおそれがあり危険です。
最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

知識

エンジンの空ぶかしはしないでください。燃料のムダ使いになります。

■ ブレーキペダル

・ ブレーキペダルを踏み込むと、踏みしろに応じてフットブレーキが作動します。

＊ ブレーキペダルの踏み方（ブレーキ操作のポイント）は（→ P.9-5）

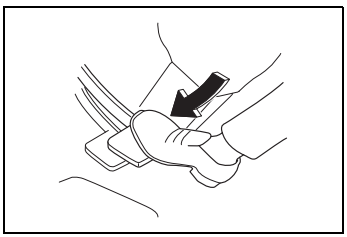
■ クラッチペダル

⚠ 警告

クラッチを切ったまま、またニュートラルのままでの走行を続けないでください。クラッチを切ったり、チェンジレバーをニュートラルに入れた状態では、エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

- クラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。半クラッチになり、力が出ないばかりでなくクラッチの寿命を縮めます。
- 変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。クラッチペダルの踏み込みが浅いと、半クラッチ状態となり、クラッチを損傷させるおそれがあります。



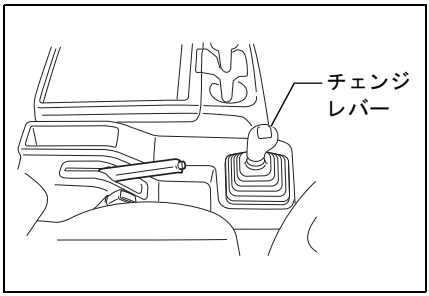
■フロアマット

各ペダルを確実に操作するため、ひっかかりやずれがないようにフロアマットを正しく敷いてください。

⚠警告

- フロアマットは日野純正品を正しく使用し、フロアマットを重ねての使用はしないでください。フロアマットがずれてペダルに引っかかると、ペダルの正確な操作ができなくなり、事故や車両故障の原因となるおそれがあります。
- 運転席の床周りに空き缶などの障害物がある場合には取り除いてください。ペダルに障害物がはさまると、ペダルの正確な操作ができなくなり、事故や車両故障の原因となるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション



- チェンジレバーのノブ上面に、各ギヤ位置が示してあります。
- 「R（後退）」の位置にシフトするとバックランプが点灯し、キャブ内および車両後方のバックブザーが鳴り「R（後退）」の位置にあることを知らせます。

＊ バックブザー減音スイッチが操作されているとき（メーター内のインジケーターが点灯中）は、車両後方のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。

＊ 後退するときは、車両後方および左右の安全を十分確認してください。

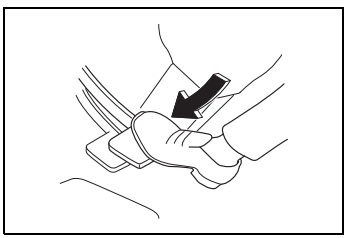
＊ オートマチックトランスミッションの取り扱いは（→ P.5-19）

⚠ 警告

クラッチを切ったまま、またニュートラルのままでの走行を続けないでください。クラッチを切ったり、チェンジレバーをニュートラルに入れた状態では、エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

- 変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでください。クラッチペダルの踏み込みが浅いと、半クラッチ状態となり、トランスミッションを損傷させるおそれがあります。

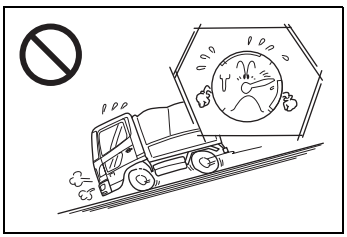


- 前進から後退、後退から前進に変速するときは、車両を完全に止めてから行ってください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- シフトダウンするときは、減速してから 1 段ずつ行ってください。エンジンがオーバーランを起こし、破損するおそれがあります。

知識

オーバーランとは

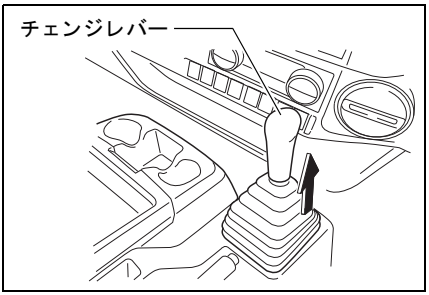
エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、この結果、各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることになります。



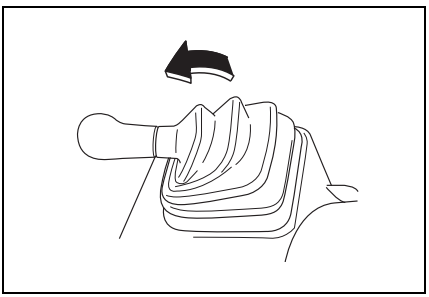
■可倒式チェンジレバー★

チェンジレバーを助手席側に倒すことができます。

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーを「N」の位置にして、上方に引き上げます。



2. チェンジレバーを引き上げたまま、助手席側へ倒します。



3. 戻すときは、チェンジレバーをそのままロックされるまで起こします。

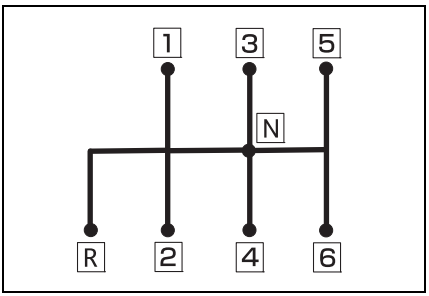
⚠警告

- チェンジレバーを倒すときは、必ず停車して、パーキングブレーキを確実に効かせてから行ってください。万一ギヤが入っていると車両が動きだし、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジン始動時には、チェンジレバーが確実にロックされていることを確認してください。

■シフトパターン（各ギヤ位置）

運転前には必ず、チェンジレバーのノブ上面に示してあるシフトパターンを確認してください。

● LX06、LX61 トランスミッション搭載車



オートマチックトランスミッション

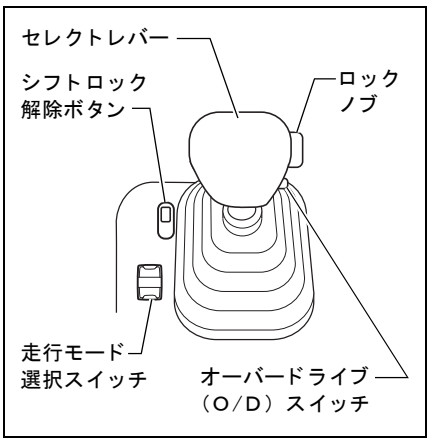
オートマチックトランスミッションは電子制御 6 速オートマチックで、セレクト位置に P 位置が無い〔タイプⅠ〕と、P 位置がある〔タイプⅡ〕の 2 種類があります。

■電子制御 6 速オートマチック（ロックアップ付き）

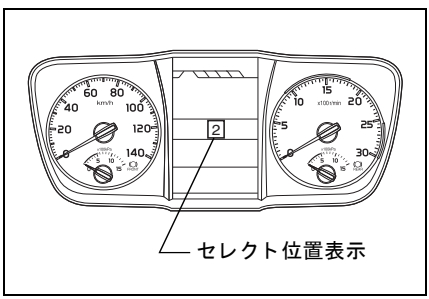
〔タイプⅠ（P 位置無し）〕

＊ タイプⅡ（P 位置付き）は（→ P.5-35）

▶ セレクトレバー



・ トランスミッションは前進 6 段、後退 1 段でセレクト位置はマルチインフォメーションに表示されます。



⚠ 警告

- 発進時には、必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま N 位置から D または R 位置にシフトしてください。エンジン回転が高いとき（始動直後など）は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で D または R 位置に入れると急発進するおそれがあり危険です。
- エンジン始動直後などアイドリング回転数が高いときはクリープ現象が強くなり、車両が動こうとする力が強まります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。

⚠ 注意

ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーが動かせないときは、シフトロック解除ボタンを押してセレクトレバーを操作してください。また、そのまま使用せずに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

知識

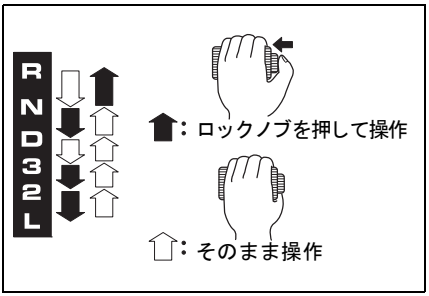
- エンジン始動後、最初のセレクトレバー操作するときは、ブレーキペダルを踏んだままでないと N 位置から D または R 位置へシフトできません。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上のとき、セレクトレバーを操作してもギヤが変速されず保留状態となります。セレクトレバーを操作してから 3 秒以内にエンジン回転数が 1,000 rpm 以下になるとギヤが変速されます。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上で 3 秒以上経過したときは、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、エンジン回転数 1,000 rpm 以下で再度セレクトレバーを操作するとギヤが変速されます。

クリープ現象とは

セレクトレバーが走行位置にあるとき、エンジンのアイドリング回転により、アクセルペダルを踏んでいなくても車両がゆっくり動き出す現象をいいます。

● セレクトレバーの操作

・ 変速時の操作は、次のように行ってください。



⚠警告

⇨の操作はロックノブを押さないで操作してください。いつもロックノブを押して操作すると意に反して R・2・L 位置に入れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

R：リバース

車両を後退させるときに使用します。

＊ R 位置に入れるとバックランプが点灯し、キャブ内および車両後方のバックブザーが鳴り「R（後退）」の位置にあることを知らせます。

＊ バックブザー減音スイッチが操作されているとき（メーター内のインジケーターが点灯中）は、車両後方のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。

N：ニュートラル

動力が伝わらない状態の位置です。エンジン始動時、暖機運転および駐車時に使用します。

＊ 駐車時は必ず N 位置にして、パーキングブレーキレバーをいっぱいに引きます。

＊ PTO（パワーテイクオフ）★を操作するときにも使用します。

D：ドライブ

通常の走行時に使用します。
オーバードライブ（O/D）スイッチを「ON」にしたときは 1 速～ 6 速まで、「OFF」のときは 1 速～ 4 速まで変速します。

3：サード

1 速～ 3 速まで変速します。市街地やなだらかな坂道の上り下りに使用します。

2：セカンド

1 速～ 2 速まで変速します。低速走行時・悪路走行時・坂道の上り下りに使用します。

L：ロー

1 速に固定されます。急な坂道の上り下りなど、強力な加速時やエンジンブレーキが必要なとき使用します。

知識

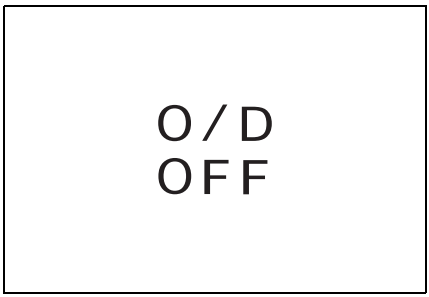
- ロックアップ付きのため、一定車速以上になるとロックアップが働き、トルクコンバーターの滑りを防いで効率よくエキゾーストブレーキの効きが得られます。
- D レンジでの走行中に、アクセルから足を離した状態で補助ブレーキを作動させると、マルチインフォメーションのセレクト位置表示が D から「5」に切り替わり、早めのシフトダウンがされることでエンジンブレーキの効果を高めて減速をアシストします。

▶ オーバードライブ（O/D）スイッチ

・ オーバードライブ（O/D）スイッチを「OFF」にするとマルチインフォメーションに O/D OFF ランプを表示し、1 速～ 4 速まで自動的に変速します。

	スイッチの状態
ON （オーバードライブ ON）	 スイッチが押された状態
OFF （オーバードライブ OFF）	 スイッチが突起した状態

● O/D　OFF 表示

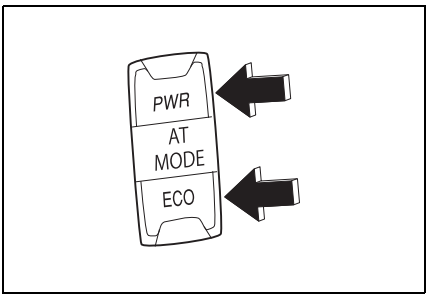


・ 通常走行時はオーバードライブ（O/D）スイッチを「ON」にしておきます。
D 位置で 1 速～ 6 速まで自動的に変速します。

・ オーバードライブ（O/D）スイッチを「OFF」にするとマルチインフォメーションに O/D OFF を表示し、1 速～ 4 速まで自動的に変速します。

・ 坂道走行時はオーバードライブ（O/D）スイッチを「OFF」にしておきます。
下り坂では、エンジンブレーキの効きがよくなります。上り坂では、変速回数の少ない滑らかな走行ができます。

▶ 走行モード選択スイッチ



● パワーモードスイッチ

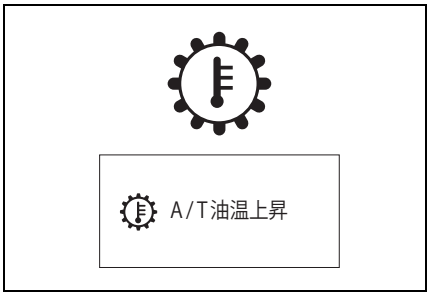
· スイッチの「PWR」側を押すと、パワーモードになります。上り坂・積載時や加速重視のときに使用します。

● エコモードスイッチ

· スイッチの「ECO」側を押すと、エコモードになります。空車時や燃費などの経済性重視のときに使用します。

▶ 油温ウォーニング

トランスミッションオイルの温度が高くなるとマルチインフォメーションに表示します。



· オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなると点灯および表示します。

1. ランプが点灯したときは、すみやかに車両を安全な場所に停止して、セレクトレバーを N 位置にし、パーキングブレーキを引きます。
2. エンジン回転数をアイドリング回転時より若干高めにし、冷却します。ランプが消灯すれば、通常走行ができます。

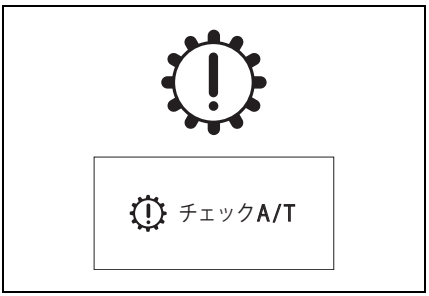
＊ 通常は数分以内に消灯します。

3. 冷却を続けてもランプが消灯しないとき、または走行中に頻繁に点灯するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

アドバイス

- すぐにエンジンを止めないでください。トランスミッション焼き付きの原因になります。
- ウォーニングランプが消灯してからエンジンを止めてください。

▶ オートマチックトランスミッションウォーニング



・ オートマチックトランスミッションの電子制御系統に異常が発生したときに点灯および表示します。

＊ ウォーニングランプが点灯したときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

▶ シフトロック解除ボタン

N 位置から D または R 位置へシフトする際、ブレーキペダルを踏んでいてもシフトができなくなったときは、シフトロック解除ボタンを押している間、シフト可能となります。

⚠ 注意

N 位置から D または R 位置へシフトする際、ブレーキペダルを踏んでいてもシフトができなくなったときは、そのまま使用せずに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

知識

シフトロックシステムとは

この装置は、エンジン始動後、最初のセレクトレバー操作時に、ブレーキペダルを踏んだままでないと位置から他の N 位置へシフトできないようになっています。

■運転操作

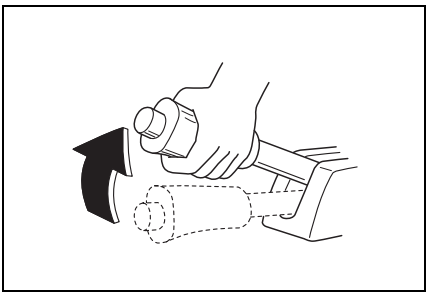
▶ エンジン始動前の確認

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルは必ず右足で踏み、その位置を確認し、足に覚えさせてください。

▶ エンジンの始動

1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

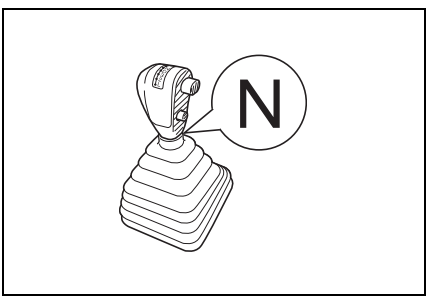
〔例〕



2. セレクトレバーが N 位置に入っていることを目で確認します。

＊ N 位置以外では、始動できません。

＊ 押しがけやけん引によるエンジン始動はできません。



3. エンジンを始動します。

▶ 発進および通常走行

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏んでおきます。セレクトレバーを D・3・2・L・R 位置に入れると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても車両が動き出します。ブレーキペダルをしっかり踏み、車両が動かないようにします。



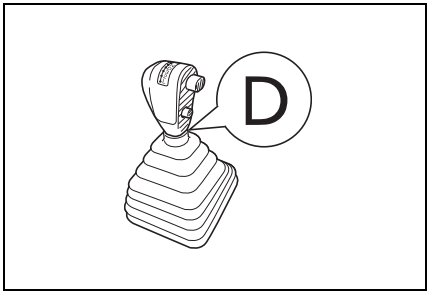
知識

- エンジン始動後、最初のセレクトレバー操作時は、ブレーキペダルを踏んだままでないと N 位置から D または R 位置へシフトできません。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上のとき、セレクトレバーを操作してもギヤが変速されず保留状態となります。セレクトレバーを操作してから 3 秒以内にエンジン回転数が 1,000 rpm 以下になるとギヤが変速されます。
- エンジン回転数が1,000 rpm以上で3 秒以上経過したときは、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、エンジン回転数 1,000 rpm 以下で再度セレクトレバーを操作するとギヤが変速されます。

クリープ現象とは

セレクトレバーが走行位置にあるとき、エンジンのアイドリング回転により、アクセルペダルを踏んでいなくても車両がゆっくり動き出す現象をいいます。

2. セレクトレバーを D または R 位置にします。

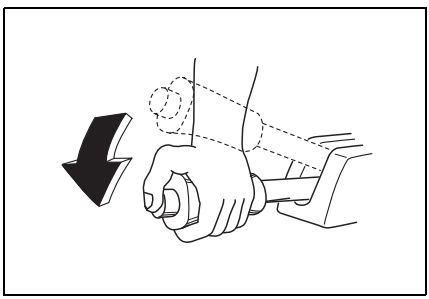


⚠ 警告

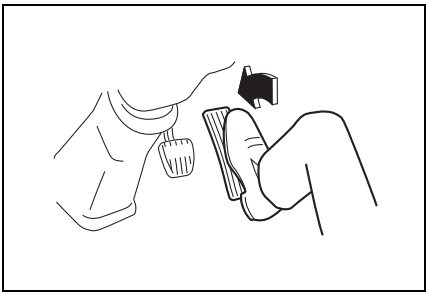
セレクトレバー操作時は絶対にアクセルペダルを踏み込まないでください。また、セレクトレバー操作直後にアクセルペダルを急に踏み込まないでください。車両が急発進し危険です。

3. パーキングブレーキレバーを戻し、ブレーキペダルから足を離します。

〔例〕



4. アクセルペダルをゆっくり踏みます。車速と負荷に応じて自動的に変速されます。



⚠ 警告

走行中は N 位置にしないでください。エンジンブレーキが効かず、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 注意

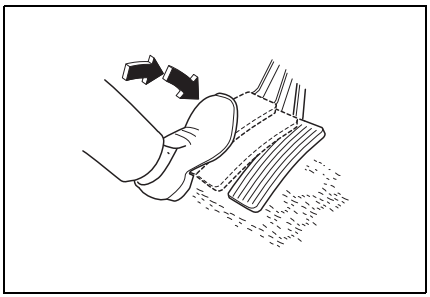
N 位置以外の位置で、ブレーキを踏みながらエンジンを継続して高回転させないでください。

アドバイス

セレクトレバーの操作

- 前進から後退、または後退から前進へとシフトするときは、必ず車両が停止してから行ってください。車両が動いている状態でシフトするとオートマチックトランスミッションの安全機能が働き、ギヤが入らない場合があります。
  また、レバー位置を必ず目で確認してください。
- ぬかるみから脱出するときは D ⇔ N 位置、または R ⇔ N 位置を交互にシフトしてください。

● 強い加速力が必要なとき

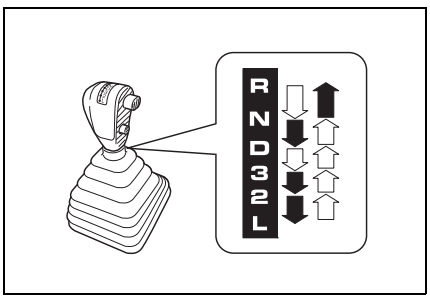


- D 位置で走行中、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンし、加速力が大きくなります。

⚠ 警告

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的にシフトダウンしますので、滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。タイヤが空転し、車の方向性を失うおそれがあります。

● マニュアルシフト走行



自動変速の最高段を以下のように選ぶことができます。

- D：1 ～ 6 段自動変速
- 3：1 ～ 3 段自動変速
- 2：1 ～ 2 段自動変速
- L：1 段

● 坂道走行



＊ 上り坂では勾配や積荷に応じて D・3・2・L を使い分けると、変速回数の少ない滑らかな走行ができます。

＊ 下り坂ではエキゾーストブレーキまたはエンジンリターダーを併用し、安全に走行してください。さらに、勾配に応じて D・3・2・L を使い分け、必要なエンジンブレーキ力を得てください。

⚠ 警告

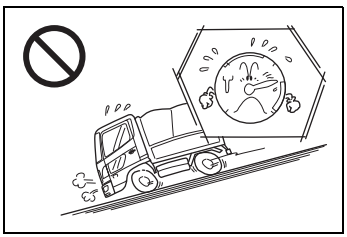
フットブレーキは使いすぎないでください。長い下り坂でブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

知識

- N 位置では、エキゾーストブレーキは作動しません。
- N 位置以外でも車速が約 15 km/h 以下では、エキゾーストブレーキが一時的に解除されます。車速が上がれば（約 25 km/h 以上）再び作動します。
- マニュアルシフトダウン時、車速が速すぎると、エンジンオーバーラン防止のため、シフトダウンされないときがあります。ブレーキペダルを踏んで減速してください。

オーバーランとは

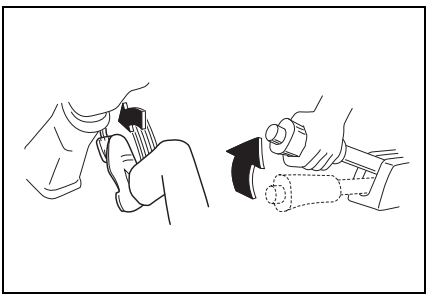
エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、この結果、各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることになります。



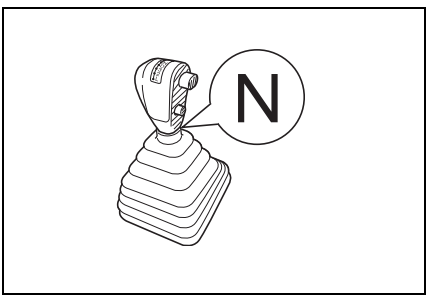
▶ 停車

・ セレクトレバーを D 位置のまま必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。坂道などではパーキングブレーキも確実に効かせます。

〔例〕



・ 停車時間が長くなるときはセレクトレバーを N 位置にシフトし、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、フットブレーキの他にパーキングブレーキも確実に効かせます。



⚠ 警告

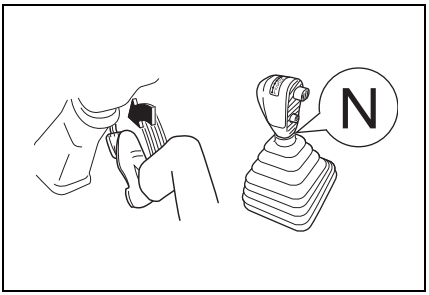
- 停車時エンジンの空ぶかしはしないでください。N 位置以外に入っていると急発進して危険です。
- P 位置無しの車両の場合、停車中セレクトレバーが N 位置以外のときにドアを開けると、警報ブザーが鳴りマルチインフォメーションに“ 駐車時は N レンジにしてください ”が表示されます。（最大で 15 秒間鳴り続けます。）
- 車両が動き出し事故につながるおそれがあるため、降車する場合は必ずパーキングブレーキを確実に作動させてください。

⚠ 注意

上り坂でブレーキを使用せずにエンジンの動力を使っての停車は避けてください。必ずパーキングブレーキレバーを引くか、または右足でブレーキペダルを踏んでおいてください。

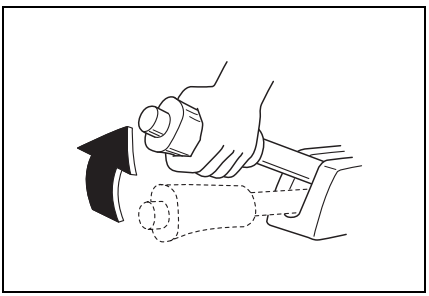
▶ 駐車

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま N 位置にシフトします。

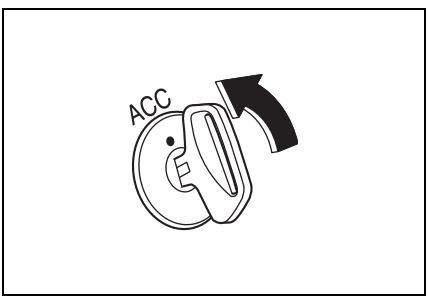


2. パーキングブレーキを確実に効かせます。

〔例〕



3. ブレーキペダルを離し、エンジンを止めます。



＊ 坂道に駐車するときは必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。

▶ けん引時の注意

⚠ 注意

オートマチックトランスミッション車をけん引するときは必ず後輪を持ち上げて行ってください。なお、後輪を持ち上げずにワイヤーロープなどでけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。外さないでけん引するとトランスミッション焼き付きの原因になります。

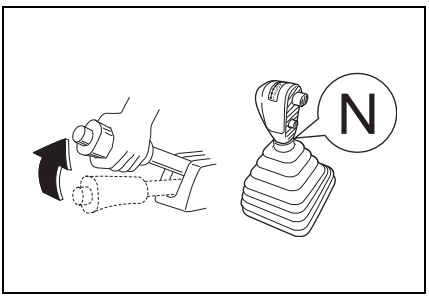
＊ オートマチックトランスミッション車は、車を引いたり押したりしてエンジンをかけることはできません。

■フライホイール PTO（パワーテイクオフ）★の操作〔消防車〕

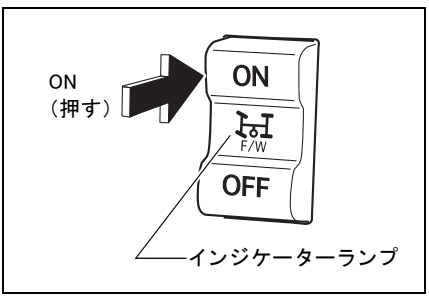
▶ 接続方法

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクトレバーを N 位置にします。

〔例〕



2. PTO スイッチの「ON」側を押して、「ON」にします。



＊ 上記 1. ～ 2. の順番で操作を行わないと、PTO が正常に作動せず、ブザーが鳴ります。

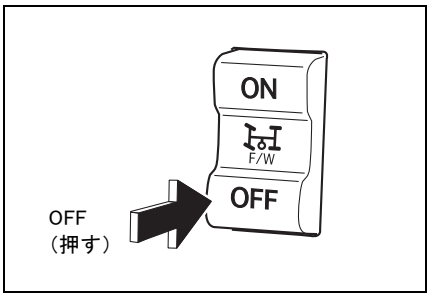
＊ 1. の操作の後に、アクセルペダルを踏んでいたり、またはアクセルペダルから足を離した後 3 秒間は、高回転での接続を防止するため、2. の操作を受け付けません。

知識

発電機搭載車の場合、フライホイール PTO が単独で作動しているときは、アイドリング回転数が約 700 r/min に上昇します。
ただし、トランスミッション PTO ★も同時に作動しているときは、アイドリング回転数は上昇しません。

▶ 解除方法

・ PTO スイッチの「OFF」側を押します。



注意

- PTO の接続／解除操作は必ずアイドリング回転で、架装側の負荷を下げた状態で行ってください。また PTO 接続後は、徐々に負荷を上げるようにしてください。高回転、高負荷での接続／解除や急激な負荷上げ操作は PTO やエンジンへの負担となるばかりでなく、放水等の作業時に操作員に過大な衝撃を与え転倒によるケガなどの原因になるおそれがあるため、必ず適正な操作方法を守ってください。
- 排出ガス浄化装置再生スイッチを押すときは、必ず PTO スイッチを「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が作動しません。

⚠ 注意

■ PTO 作業時の注意点

PTO 作業実施前に以下 4 点の動作確認を行い、意図した車両挙動となることを確認してください。

- 特装用アクセル
- エンジン停止スイッチ
- エンジン始動スイッチ
- PTO

正常作動しない場合、最寄りの日野販売会社の整備工場もしくは架装メーカーへ入庫し、点検整備を実施してください。

▶ 警報ブザーが鳴るとき

- 下記の操作を行うと、警報ブザーが鳴り PTO の作動が停止します。
- セレクトレバーを N 位置以外にしたとき
- パーキングブレーキを解除したとき
- 警報ブザーを止めるには、前記の操作を元に戻してから PTO スイッチの「OFF」側を押して、作動を停止させます。

アドバイス

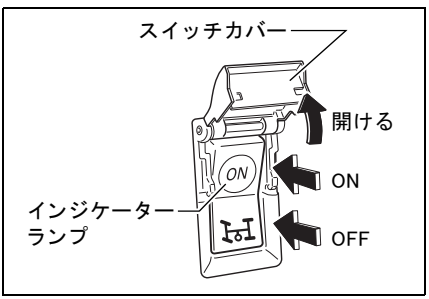
- 作動停止後、再度 PTO を接続するときには次のいずれかの操作を行ってください。
  - PTO スイッチを再び「ON」側にしてください。
  - スターターキーを「ACC」または「LOCK」の位置にした後、再びエンジンを始動させてください。
- エンジン冷間時には必ず暖機運転を行ってから PTO を接続してください。エンジン始動直後の急激な高速回転、高負荷運転は、PTO およびエンジンの不調や故障の原因となります。

知識

- フライホイール PTO 作動中にアクセルペダルを踏み込んでも、エンジン回転数は上がりません。
- 油圧多板クラッチの構造上、PTO スイッチを入れてから出力軸が回転を開始するまで、またスイッチを切ってから出力軸が完全に停止するまでに多少の時間差がありますが、異常ではありません。なお、時間差の長短は架装側の慣性マスや抵抗の大小、エンジンの暖機状態によって異なります。

〔非常用フライホイール PTO スイッチ〕

- 通常の PTO スイッチの電気回路に断線や故障があったときに、PTO の「ON」・「OFF」を行うスイッチです。
- スイッチカバーを開け、スイッチの「ON」側を押すと、PTO が作動します。同時にスイッチ内蔵のインジケータランプが点灯します。



＊ スイッチの「非常用 PTO」側を押すと「OFF」になり、PTO の作動が停止します。

アドバイス

- 緊急時以外は使用しないでください。
- 作業後は、必ずスイッチを「OFF」（解除）にしてください。
- 作業後は、そのまま使用せずにすみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- 車両の点検時は、スイッチが「OFF」になっていることを確認してください。
- 通常時は、スイッチカバーを閉じてください。

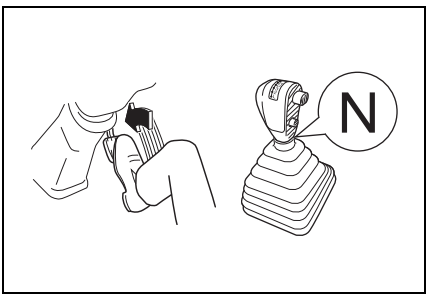
知識

フライホイール PTO が作動時にアクセルペダルを踏み込んでも、エンジン回転数は上がりません。

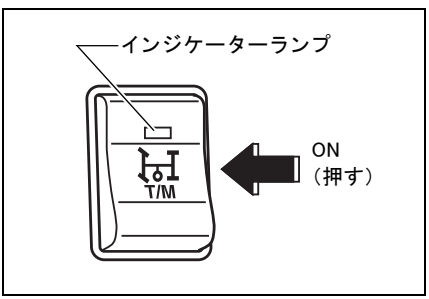
■トランスミッション PTO（パワーテイクオフ）★の操作

▶ 接続方法

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま車両を停止（6 km/h 以下）させます。エンジンはアイドリング回転（900 rpm 以下）でセレクトレバーを N 位置にします。



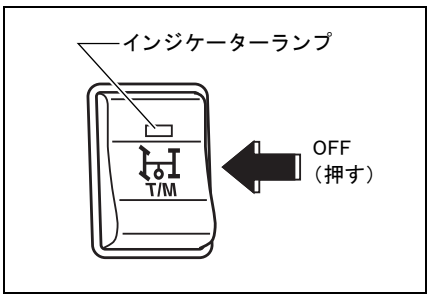
2. パーキングブレーキを確実に効かせ、アクセルペダルより足を離し、エンジンをアイドリング回転にします。
3. PTO スイッチを押して「ON」にします。（スイッチ内蔵のインジケーターランプとマルチインフォメーションの“ PTO 作動 ”表示および ランプ点灯）



＊ PTO 作動時はセレクトレバーを N 位置にしておいてください。ほかの位置にシフトすると PTO は解除されます。不用意にほかのレンジへシフトし PTO が解除した場合は、アクセルペダルより足を離し、エンジンをアイドリング回転にし、セレクトレバーを N 位置に戻すことにより PTO が再セットできます。

▶ 解除方法

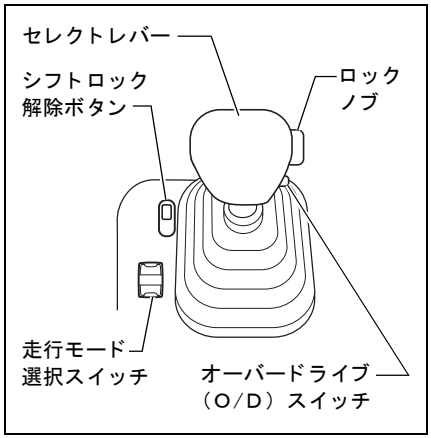
・ PTO スイッチをもう一度押して「OFF」にします。（スイッチ内蔵のインジケーターランプとマルチインフォメーションの“ PTO 作動 ”表示および ランプ消灯）



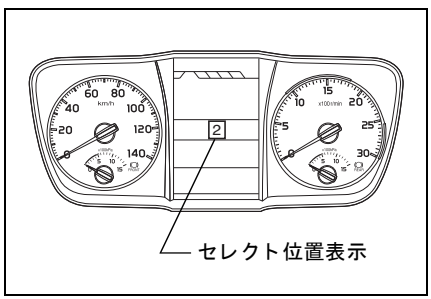
■電子制御 6 速オートマチック（ロックアップ付き）

〔タイプⅡ（P 位置付き）〕

▶ セレクトレバー



・ トランスミッションは前進 6 段、後退 1 段でセレクト位置はマルチインフォメーションに表示されます。



⚠ 警告

発進時には、必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま P 、N 位置から D または R 位置にシフトしてください。エンジン回転が高いとき（始動直後など）は、ブレーキペダルを踏んでいない状態で D または R 位置に入れると急発進するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- ブレーキペダルを踏んでもセレクトレバーが動かせないときは、シフトロック解除ボタンを押してセレクトレバーを操作してください。また、そのまま使用せずに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- エンジン始動直後などアイドリング回転数が高くなるとクリープ現象が強くなり、車両が動こうとする力が強まります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。

知識

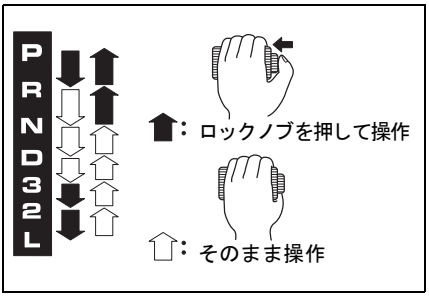
- エンジン始動後、最初にセレクトレバーを操作するときは、ブレーキペダルを踏んだままでないと P 位置からシフトできません。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上のとき、セレクトレバーを操作してもギヤが変速されず保留状態となります。セレクトレバーを操作してから 3 秒以内にエンジン回転数が 1,000 rpm 以下になるとギヤが変速されます。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上で 3 秒以上経過したときは、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、エンジン回転数 1,000 rpm 以下で再度セレクトレバーを操作するとギヤが変速されます。

クリープ現象とは

セレクトレバーが走行位置にあるとき、エンジンのアイドリング回転により、アクセルペダルを踏んでいなくても車両がゆっくり動き出す現象をいいます。

● セレクトレバーの操作

・ 変速時の操作は、次のように行ってください。



⚠警告

⇨の操作はロックノブを押さないで操作してください。いつもロックノブを押して操作すると意に反して P・R・2・L 位置に入れてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

P：パーキング

エンジン始動時、および駐車時に使用します。車輪が固定されます。駐車時は必ず P 位置にして、パーキングブレーキレバーをいっぱいに引きます。

＊ PTO（パワーテイクオフ）★を操作するときにも使用します。

＊ P 位置のみスタータースイッチからキーが抜き取れます。

R：リバース

車両を後退させるときに使用します。

＊ R 位置に入れるとバックランプが点灯し、キャブ内および車両後方のバックブザーが鳴り「R（後退）」の位置にあることを知らせます。

＊ バックブザー減音スイッチが操作されているとき（メーター内のインジケーターが点灯中）は、車両後方のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。

N：ニュートラル

動力が伝わらない状態の位置です。

＊ N 位置でもエンジンは始動できますが安全のため P 位置で行ってください。

D：ドライブ

通常の走行時に使用します。
オーバードライブ（O/D）スイッチを「ON」にしたときは 1 速～ 6 速まで、「OFF」のときは 1 速～ 4 速まで変速します。

3：サード

1 速～ 3 速まで変速します。
市街地やなだらかな坂道の上り下りに使用します。

2：セカンド

1 速～ 2 速まで変速します。
低速走行時・悪路走行時・坂道の上り下りに使用します。

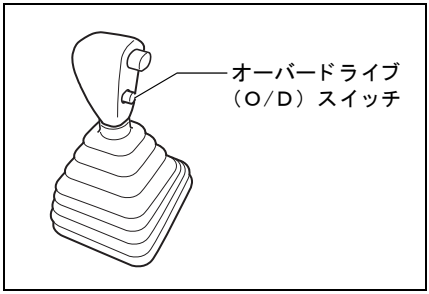
L：ロー

1 速に固定されます。
急な坂道の上り下りなど、強力な加速時やエンジンブレーキが必要なとき使用します。

知識

- ロックアップ付きのため、一定車速以上になるとロックアップが働き、トルクコンバーターの滑りを防いで効率よくエキゾーストブレーキの効きが得られます。
- D レンジでの走行中に、アクセルから足を離した状態で補助ブレーキを作動させると、マルチインフォメーションのセレクト位置表示が D から「5」に切り替わり、早めのシフトダウンがされることでエンジンブレーキの効果を高めて減速をアシストします。

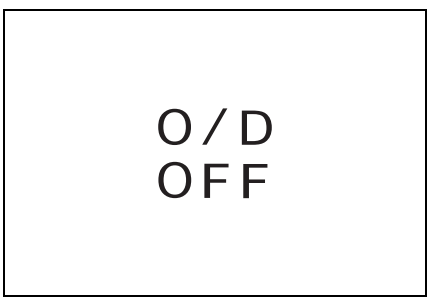
▶ オーバードライブ（O/D）スイッチ



・ オーバードライブ（O/D）スイッチを「OFF」にするとマルチインフォメーションに O/D OFF ランプを表示し、1 速～ 4 速まで自動的に変速します。

	スイッチの状態
ON （オーバードライブ ON）	 スイッチが押された状態
OFF （オーバードライブ OFF）	 スイッチが突起した状態

● O/D　OFF 表示

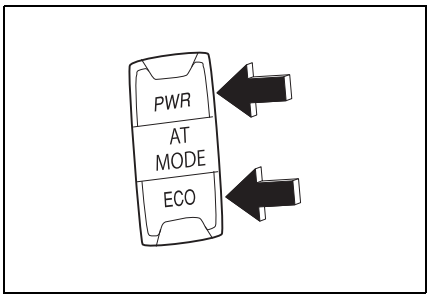


・ 通常走行時はオーバードライブ（O/D）スイッチを「ON」にしておきます。
D 位置で 1 速～ 6 速まで自動的に変速します。

・ オーバードライブ（O/D）スイッチを「OFF」にするとマルチインフォメーションに O/D OFF を表示し、1 速～ 4 速まで自動的に変速します。

・ 坂道走行時はオーバードライブ（O/D）スイッチを「OFF」にしておきます。
下り坂では、エンジンブレーキの効きがよくなります。
上り坂では、変速回数の少ない滑らかな走行ができます。

▶ 走行モード選択スイッチ



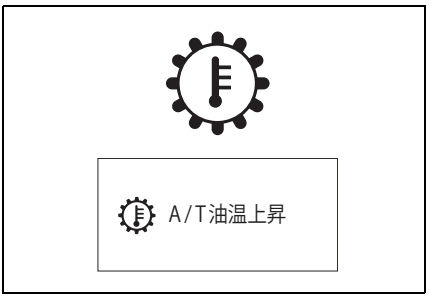
● パワーモードスイッチ

・ スイッチの「PWR」側を押すと、パワーモードになります。
上り坂・積載時や加速重視のときに使用します。

● エコモードスイッチ

・ スイッチの「ECO」側を押すと、エコモードになります。
空車時や燃費などの経済性重視のときに使用します。

▶ 油温ウォーニング



・ オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなると点灯および表示します。

1. ランプが点灯したときは、すみやかに車両を安全な場所に停止して、パーキングブレーキを引きセレクトレバーを P 位置にします。
2. エンジン回転数をアイドリング回転時より若干高めにし、冷却します。ランプが消灯すれば、通常走行ができます。

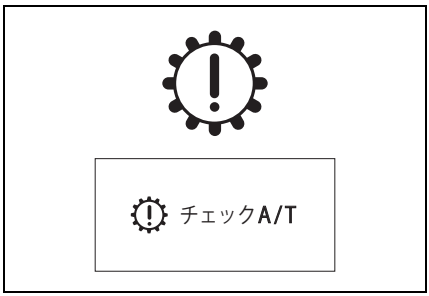
＊ 通常は数分以内に消灯します。

3. 冷却を続けてもランプが消灯しないとき、または走行中に頻繁に点灯するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

アドバイス

- すぐにエンジンを止めないでください。トランスミッション焼き付きの原因になります。
- ウォーニングランプが消灯してからエンジンを止めてください。

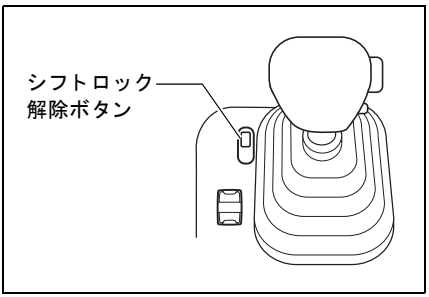
▶ オートマチックトランスミッションウォーニング



・ オートマチックトランスミッションの電子制御系統に異常が発生したときに点灯および表示します。

＊ ウォーニングランプが点灯したときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

▶ シフトロック解除ボタン



P 位置から他の位置へシフトする際、ブレーキペダルを踏んでいてもシフトができなくなったときは、シフトロック解除ボタンを押している間、シフト可能となります。

アドバイス

P 位置から他の位置へシフトする際、ブレーキペダルを踏んでいてもシフトができなくなったときは、そのまま使用せずに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

知識

シフトロックシステムとは

この装置は、ブレーキペダルを踏んだ状態でなければ P 位置からのレバー操作ができないようになっています。よく理解して正しい操作をしてください。

- スターターキーが「ACC」または「LOCK」位置にあるときは、ブレーキペダルを踏んでもレバー操作できません。
- セレクトレバーが P 位置以外ではスタースイッチからキーは抜けません。セレクトレバーを P 位置にしてからスターターキーを抜いてください。
- P 位置以外では、スターターキーを「ACC」から「LOCK」位置に回せません。
- セレクトレバーを R 位置に入れるとブザーが鳴り、R 位置であることを運転者に知らせます。
- P 位置から他の位置へシフトする際、セレクトレバーを R 位置方向に引いたまま、ブレーキペダルを踏んでも、シフトロックが解除されず、レバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでからレバー操作してください。

■運転操作

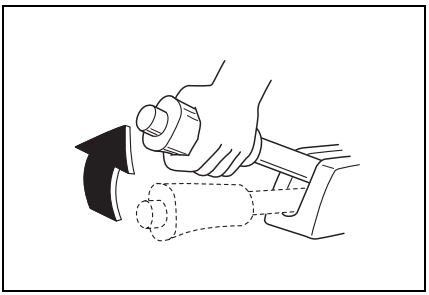
▶ エンジン始動前の確認

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルは必ず右足で踏み、その位置を確認し、足に覚えさせてください。

▶ エンジンの始動

1. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

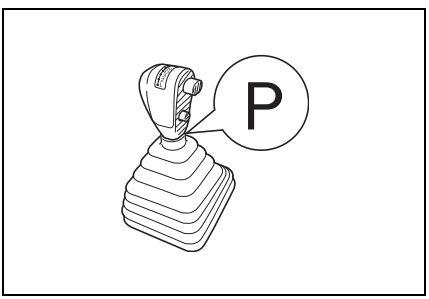
〔例〕



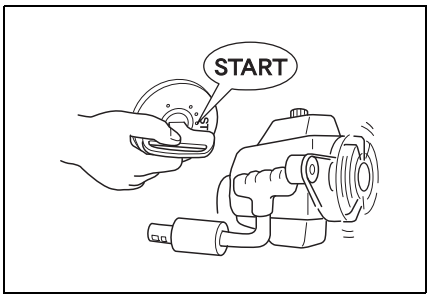
2. セレクトレバーが [P] 位置に入っていることを目で確認します。

＊ [N] 位置でも始動できますが、安全のため [P] 位置で行ってください。

＊ 押しがけやけん引によるエンジン始動はできません。



3. エンジンを始動します。



▶ 発進および通常走行

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏んでおきます。セレクトレバーを D・3・2・L・R 位置に入れると、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても車両が動き出します。ブレーキペダルをしっかり踏み、車両が動かないようにします。



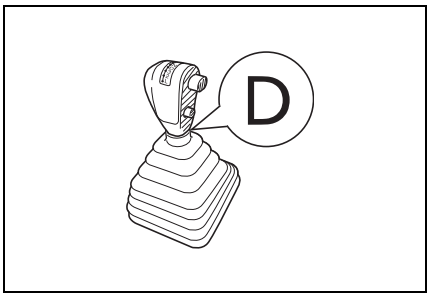
知識

- エンジン始動後、最初のセレクトレバー操作時は、ブレーキペダルを踏んだままでないと P 位置からシフトできません。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上のとき、セレクトレバーを操作してもギヤが変速されず保留状態となります。セレクトレバーを操作してから 3 秒以内にエンジン回転数が 1,000 rpm 以下になるとギヤが変速されます。
- エンジン回転数が 1,000 rpm 以上で 3 秒以上経過したときは、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、エンジン回転数 1,000 rpm 以下で再度セレクトレバーを操作するとギヤが変速されます。

クリープ現象とは

セレクトレバーが走行位置にあるとき、エンジンのアイドリング回転により、アクセルペダルを踏んでいなくても車両がゆっくり動き出す現象をいいます。

2. セレクトレバーを D または R 位置にします。

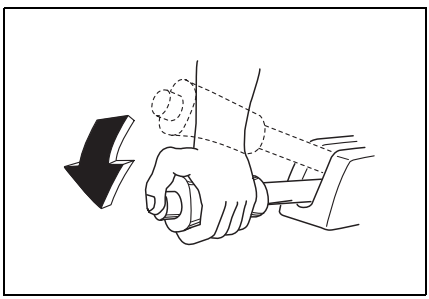


⚠ 警告

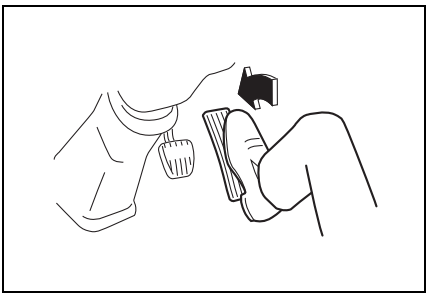
セレクトレバー操作時は絶対にアクセルペダルを踏み込まないでください。また、セレクトレバー操作直後にアクセルペダルを急に踏み込まないでください。車両が急発進し危険です。

3. パーキングブレーキレバーを戻し、ブレーキペダルから足を離します。

〔例〕



4. アクセルペダルをゆっくり踏みます。車速と負荷に応じて自動的に変速されます。



⚠ 警告

走行中は N 位置にしないでください。エンジンブレーキが効かず、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 注意

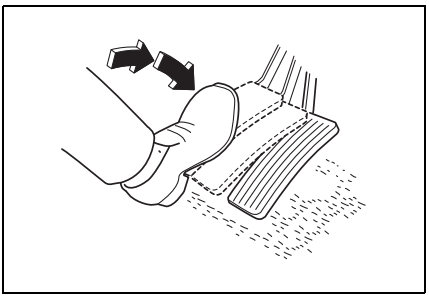
P 、N 位置以外の位置で、ブレーキを踏みながらエンジンを継続して高回転させないでください。

アドバイス

セレクトレバーの操作

- 前進から後退、または後退から前進へとシフトするときは、必ず車両が停止してから行ってください。車両が動いている状態でシフトするとオートマチックトランスミッションの安全機能が働き、ギヤが入らない場合があります。
  また、レバー位置を必ず目で確認してください。
- ぬかるみから脱出するときは D ⇔ N 位置、または R ⇔ N 位置を交互にシフトしてください。
- 坂道で P 位置のままパーキングブレーキ、フットブレーキを解除しないでください。P 位置からシフトするときレバー操作が重くなることがあります。

● 強い加速力が必要なとき

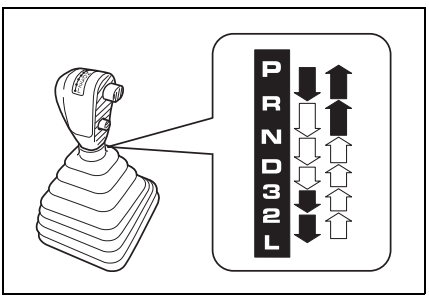


・ D 位置で走行中、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的にシフトダウンし、加速力が大きくなります。

⚠ 警告

アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと自動的にシフトダウンしますので、滑りやすい路面ではアクセルペダルを急激に踏み込まないでください。タイヤが空転し、車の方向性を失うおそれがあります。

● マニュアルシフト走行



自動変速の最高段を以下のように選ぶことができます。

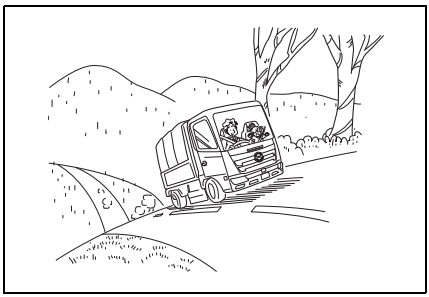
・ D：1 ～ 6 段自動変速

・ 3：1 ～ 3 段自動変速

・ 2：1 ～ 2 段自動変速

・ L：1 段

● 坂道走行



＊ 上り坂では勾配や積荷に応じて D・3・2・L を使い分けると、変速回数の少ない滑らかな走行ができます。

＊ 下り坂ではエキゾーストブレーキまたはエンジンリターダーを併用し、安全に走行してください。さらに、勾配に応じて D・3・2・L を使い分け、必要なエンジンブレーキ力を得てください。

⚠ 警告

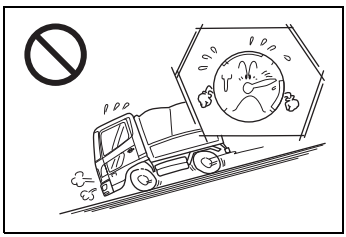
フットブレーキは使いすぎないでください。長い下り坂でブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

知識

- N 位置では、エキゾーストブレーキは作動しません。
- N 位置以外でも車速が約 15 km/h 以下では、エキゾーストブレーキが一時的に解除されます。車速が上がれば（約 25 km/h 以上）再び作動します。
- マニュアルシフトダウン時、車速が速すぎると、エンジンオーバーラン防止のため、シフトダウンされないときがあります。ブレーキペダルを踏んで減速してください。

オーバーランとは

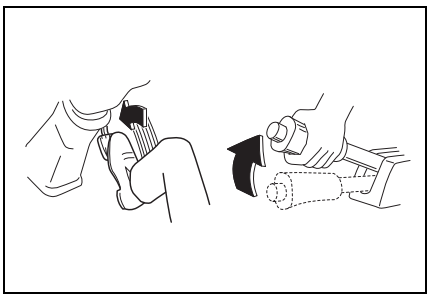
エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、この結果、各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることになります。



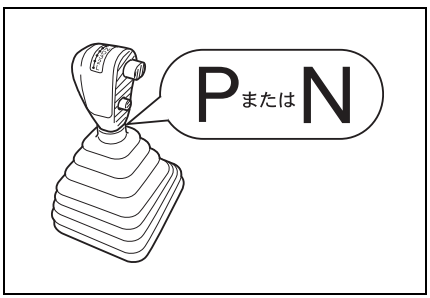
▶ 停車

・ セレクトレバーを D 位置のまま必ず右足でブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。坂道などではパーキングブレーキも確実に効かせます。

〔例〕



・ 停車時間が長くなるときはセレクトレバーを P または N 位置にシフトし、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、フットブレーキの他にパーキングブレーキも確実に効かせます。



⚠ 警告

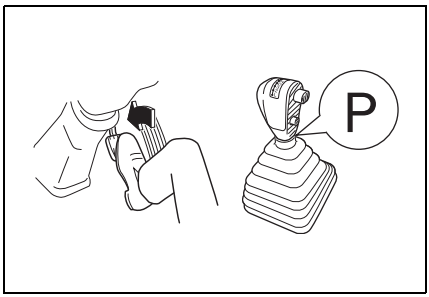
- 停車時エンジンの空ぶかしはしないでください。P または N 位置以外に入っていると急発進して危険です。
- P 位置付きの車両の場合、停車中セレクトレバーが P 位置以外のときにドアを開けると警告ブザーが鳴ります。（最大で 15 秒間鳴り続けます。）
- 車両が動き出し事故につながるおそれがあるため、降車する場合は必ずパーキングブレーキを確実に作動させてください。

⚠ 注意

- 上り坂でブレーキを使用せずにエンジンの動力を使っての停車は避けてください。必ずパーキングブレーキレバーを引くか、または右足でブレーキペダルを踏んでおいてください。
- 車輪が完全に止まらないうちに、セレクトレバーを P 位置にしないでください。無理な力がかかり、トランスミッションを破損させるおそれがあります。

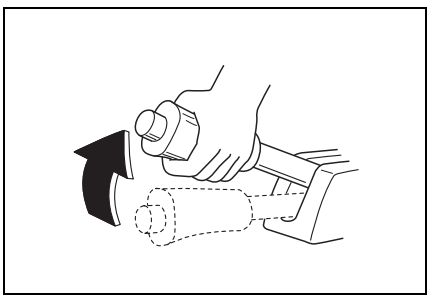
▶ 駐車

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま P 位置にシフトします。

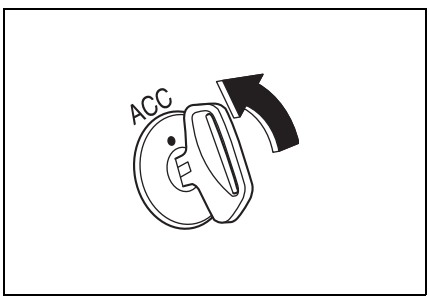


2. パーキングブレーキを確実に効かせます。

〔例〕



3. ブレーキペダルを離し、エンジンを止めます。



＊ 坂道に駐車するときは必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。

▶ けん引時の注意

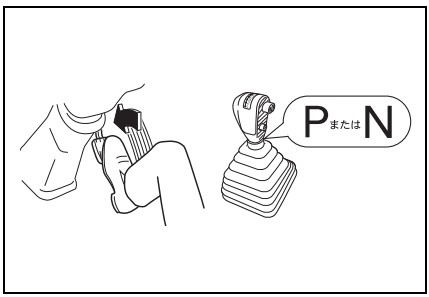
⚠ 注意

オートマチックトランスミッション車をけん引するときは必ず後輪を持ち上げて行ってください。なお、後輪を持ち上げずにワイヤーロープなどでけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。外さないでけん引するとトランスミッション焼き付きの原因になります。
オートマチックトランスミッション車は、車を引いたり押したりしてエンジンをかけることはできません。

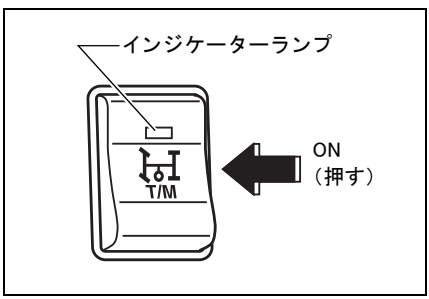
■トランスミッション PTO（パワーテイクオフ）★の操作

▶ 接続方法

1. 必ず右足でブレーキペダルを踏んだまま車両を停止（6 km/h 以下）させます。エンジンはアイドリング回転（900 rpm 以下）でセレクトレバーを P または N 位置にします。



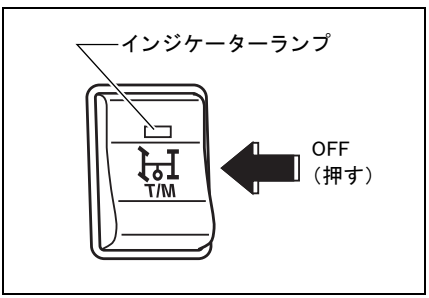
2. パーキングブレーキを確実に効かせ、アクセルペダルより足を離し、エンジンをアイドリング回転にします。
3. PTO スイッチを押して「ON」にします。（スイッチ内蔵のインジケーターランプとマルチインフォメーションの“ PTO 作動 ”表示および ランプ点灯）



＊ PTO 作動時はセレクトレバーを P または N 位置にしておいてください。ほかの位置にシフトすると PTO は解除されます。不用意にほかのレンジへシフトし PTO が解除した場合は、アクセルペダルより足を離し、エンジンをアイドリング回転にし、セレクトレバーを P または N に戻すことにより PTO が再セットできます。

▶ 解除方法

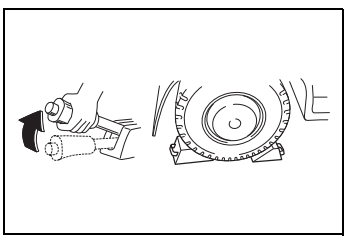
・ PTO スイッチをもう一度押して「OFF」にします。（スイッチ内蔵のインジケーターランプとマルチインフォメーションの“ PTO 作動 ”表示および ランプ消灯）



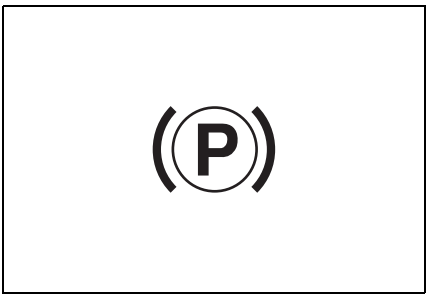
パーキングブレーキレバー

⚠ 警告

- 緊急時以外は走行中にパーキングブレーキを使用しないでください。走行中にパーキングブレーキを使用すると、後輪がロックして車両が不安定になり事故につながるおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品の早期摩耗を招くほか、過熱で効きが悪くなったり火災の原因ともなります。
- 駐停車のときは、パーキングブレーキレバーをいっぱいに引いて、手を離しても車両が停止状態を保持することを確認してください。
- 坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してから、タイヤの前後に輪止めを掛けてください。
〔例〕



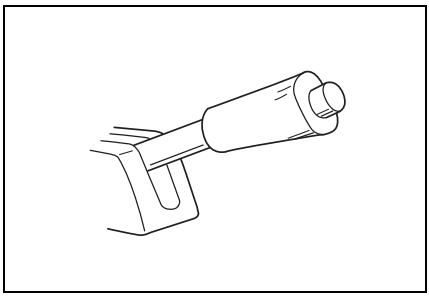
■ウォーニングランプ



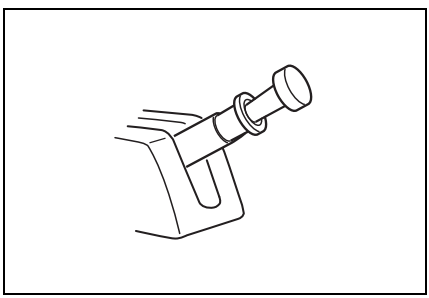
■パーキングブレーキレバー

パーキングブレーキには、センターパーキングブレーキとホイールパーキングブレーキの 2 種類があります。
お車にはどちらかが装着されています。パーキングブレーキの種類はレバー形状で判別できます。

▶ センターパーキング車
（スティックタイプ）
〔FC・FD・GC・GD・FX 車〕

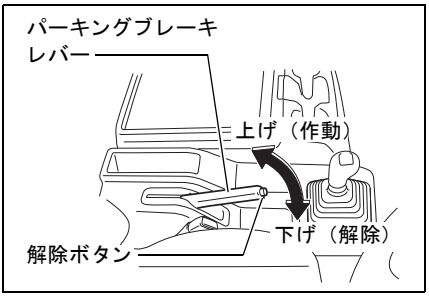


▶ ホイールパーキング車
（チューリップタイプ）
〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE・GX 車〕



■パーキングブレーキレバーの操作

▶ センターパーキング車

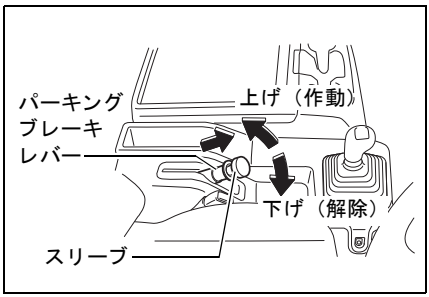


- 右足でブレーキペダルをしっかり踏み、解除ボタンを押さずに、レバーをいっぱいに引いてください。同時に (Ⓟ) ランプが点灯します。
- レバーを戻すときは、レバーを少し引き上げ先端の解除ボタンを押しながら完全に下まで戻します。
  このとき、(Ⓟ) ランプが消灯することを確認してください。

⚠警告

- パーキングブレーキレバーはいっぱいに引いてください。パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車両が動き、事故につながるおそれがあります。
- (Ⓟ) ランプの点灯とパーキングブレーキの効きは関係ありません。レバーは常にいっぱいに引いてください。
- ブレーキ引きずりによる火災を防止するため、走行前に必ず (Ⓟ) ランプが消灯していることを確認してください。

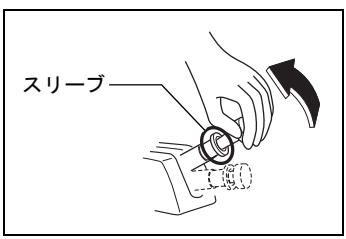
▶ ホイールパーキング車



- ホイールパーキング車のパーキングブレーキは、スプリングブレーキ式を採用しています。
- パーキングブレーキレバーを引き上げるとパーキングブレーキがかかり、同時に (Ⓟ) ランプが点灯します。
- パーキングブレーキレバーを途中で止めるとレバーは自動的に元の位置に戻り、ブレーキがかかりません。パーキングブレーキレバーから「カチッ」と音が鳴り、ロックする位置まで確実に引き上げてください。
- レバーを戻すときは、レバーを少し引き上げてからスリーブを前方いっぱい（矢印方向）にスライドさせます。
- ブレーキ用エアタンク内の空気圧が低いとき、パーキングブレーキレバーが解除位置にあっても (Ⓟ) ランプが点灯し、自動的にパーキングブレーキが作動していることがあります。

⚠警告

- スプリングブレーキチャンバーには強力なスプリングが圧縮状態で内蔵されており、不用意に分解などをすると、思わぬ事故につながるおそれがありますので、取り扱いに注意が必要です。必ず最寄りの日野販売会社の整備工場で整備を受けてください。
- 発進するときは (Ⓟ) ランプが消灯していることを確認してください。走行中 (Ⓟ) ランプが点灯したときは、パーキングブレーキが自動的に作動していることがあります。ただちに安全な場所に停車し、ブレーキ用エアタンク内の空気圧を点検、およびホイールパーキング配管系のエア漏れの有無を点検してください。(Ⓟ) ランプ点灯のまま走行すると、後輪がロックして車両が不安定になり事故につながるおそれがあります。またブレーキを引きずって火災の原因ともなります。
  空気圧が上昇せず、配管系に異常があったときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
- パーキングブレーキレバーの引き上げの操作をする際は、必ずレバー先端部を指に掛け、引き上げるように操作してください。イラスト中のスリーブを握り操作をした場合、レバーを引き上げてもロックしない可能性があり危険です。



■パーキングブレーキが解除できなくなったとき

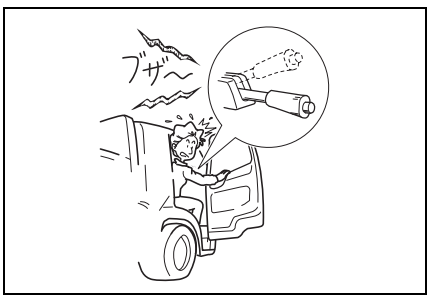
＊ パーキングブレーキ配管系の故障などでパーキングブレーキが作動して車両が停止したときの取り扱い〔解除方法（手動）〕は（→ P.15-48）

■パーキングブレーキレバー引き忘れ警報

パーキングブレーキが作動していない状態でドアを開くと、パーキングブレーキレバーの引き忘れを知らせる警報ブザーが鳴ります。

- 警報は、キーの位置に関係なくパーキングブレーキが作動していない・ドア開時に警報ブザーを鳴らします。
- 日野販売会社の整備工場で警報が鳴らないよう設定を OFF に変更することができます。設定の変更は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

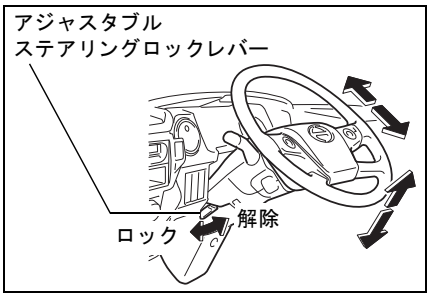
＊ 警報が鳴らないよう設定を OFF に変更した場合は、「駐・停車するとき」を再度ご一読ください。（→ P.1-20）



⚠ 警告

パーキングブレーキレバー引き忘れ警報を過信しないでください。運転者は降車する際、パーキングブレーキの作動を確実に行ってください。またパーキングブレーキレバー引き忘れ警報を「OFF」にしたことで発生した事故について、日野自動車は責任を負いかねます。

ハンドル



- ハンドルは上下と前後に動かして位置を調整できます。

1. アジャスタブルステアリングロックレバーを手前に引き上げて解除します。
2. ハンドル操作のしやすい高さと角度に調整します。
3. 調整後アジャスタブルステアリングロックレバーを押し下げて確実にロックします。
4. ハンドルを上下前後にゆすり、ハンドルがロックされたことを確認します。

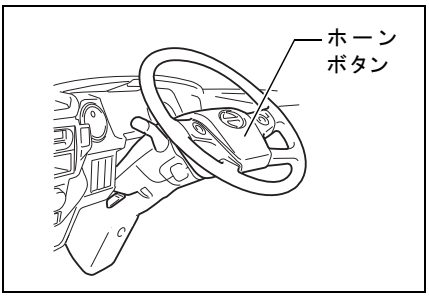
⚠ 警告

ハンドル位置の調整は停車しているときに行ってください。走行中に調整すると運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が故障する原因になります。

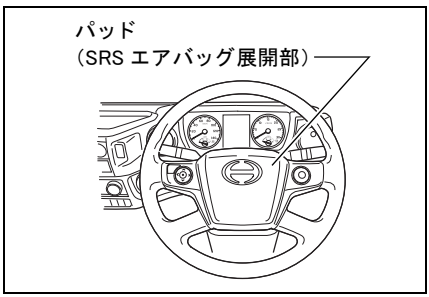
ホーンボタン



・ ハンドルの中央部のホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）

運転席 SRS エアバッグは、運転者に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて、運転者の頭や顔などの上体に作用する衝撃力を分散、緩和させる機能があります。



知識

SRS とは

Supplemental Restraint System の略で補助拘束装置の意味です。

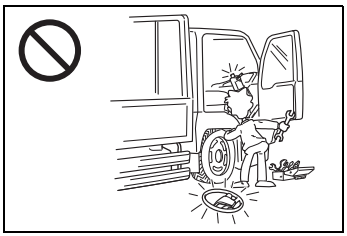
＊ シートベルトの取り扱いは（→ P.4-9）

⚠警告

- SRS エアバッグはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。
  乗車するときには必ず次のことをお守りください。守らないと衝突したときなどに SRS エアバッグの効果を十分に発揮させることができず、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと急ブレーキなどで前方に放り出されたと同時に、SRS エアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。
- シートを正しい位置に調整し、シートバック（背もたれ）に背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRS エアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。

⚠警告

- 車両の整備作業の場合には必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。これらの作業が必要なときは必ず最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- SRS エアバッグの取り外し、取り付け、分解修理などをしないでください。

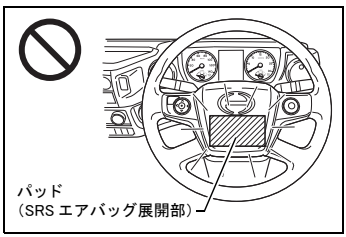


- サスペンションを改造しないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わると SRS エアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部または車両客室部の修理を行う場合は必ず最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。不適切な修理を行うと SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグが正常に作動しなくなります。
- 車両前部の改造や架装物の取り付けをしないでください。SRS エアバッグセンサーに伝わる衝撃が変わり、SRS エアバッグが正常に作動しなくなります。

⚠ 警告

- カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。守らないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・ SRS エアバッグの展開部をカバーやステッカーなどでおおわないでください。

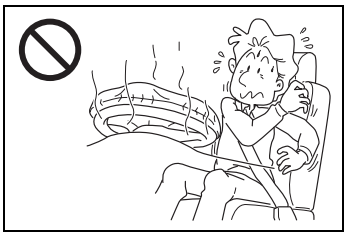


・ 無線機の電波などは、SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取り付けるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

- ステアリングパッドなど SRS エアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるなどして生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

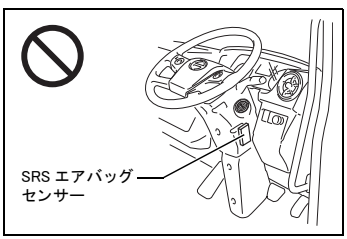
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は SRS エアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品は大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



- インストルメントパネル運転席部右側に SRS エアバッグセンサーが装着されています。次の事項をお守りください。守らないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・ インストルメントパネル運転席部周りを蹴ったり、強い衝撃を与えたりしないでください。

・ 水などをかけないでください。



- 車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ず最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。SRS エアバッグが思いがけなく作動し、ケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずケガをするおそれがあります。



アドバイス

SRS エアバッグは一度ふくらむと再使用できません。必ず最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。

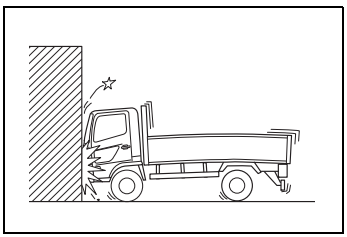
知識

- 衝突により車両前部が大きく変形しても、運転席への衝撃は大きくならない場合がありますので、車両の変形、損傷と SRS エアバッグの作動とは必ずしも一致しません。
- SRSエアバッグは強い前面衝突時において、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて運転者の頭や顔などの上体が受ける重大な傷害を軽減する装置です。したがってシートベルトを正しく着用している乗員が重大な傷害を受けるおそれのない衝突では、SRS エアバッグは作動しにくくなっています。
- SRS エアバッグは、車両前方から運転者に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

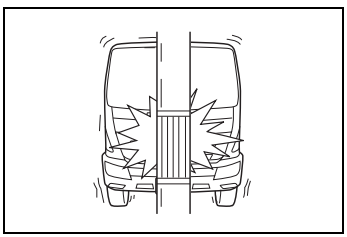
知識

- 車両前部が受ける衝撃が弱いときには、SRS エアバッグは作動しない場合があります。

・ 衝突時に変形、移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が低い場合。



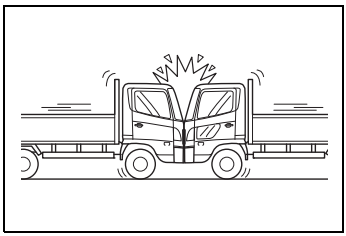
・ 衝突時に変形、移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても衝突速度が低い場合。



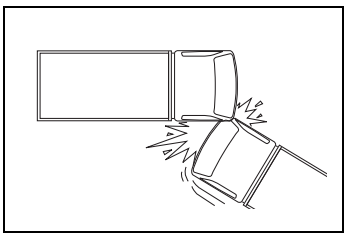
知識

● 衝突したものが変形したり、移動した場合は、衝突による衝撃がゆるめられるため、SRS エアバッグの作動する車速は高くなります。

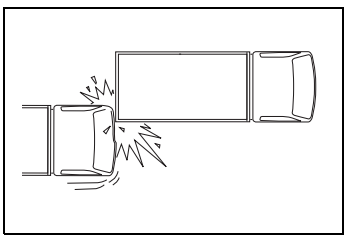
・ 停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、SRS エアバッグは作動しないことがあります。



・ 衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても SRS エアバッグは作動しないことがあります。



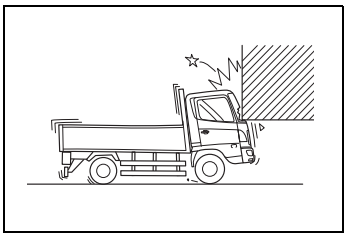
・ 片側衝突（オフセット衝突）した場合でも、ラップ量が小さいか、または衝突速度が低い場合には、SRS エアバッグは作動しないことがあります。



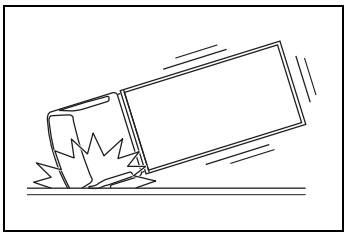
知識

● 次のような場合も衝突による衝撃が緩められるため、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

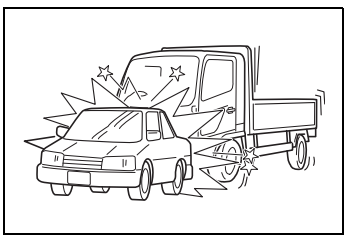
・ 障害物の下へもぐりこみ衝突したとき



・ 前方の斜めの方向から衝撃を受けたとき



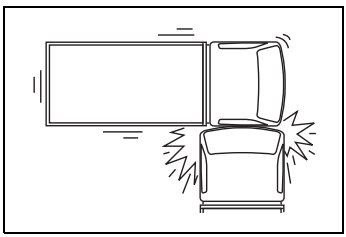
・ 乗用車と衝突した場合。



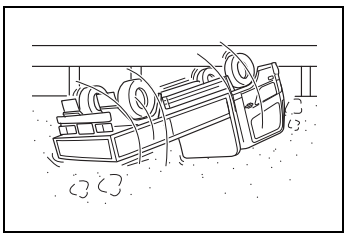
知識

● 次のような場合は、SRS エアバッグが作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

・ 側面や後方から衝撃を受けたとき



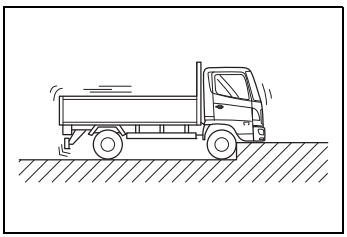
・ 車両が横転、転覆したとき



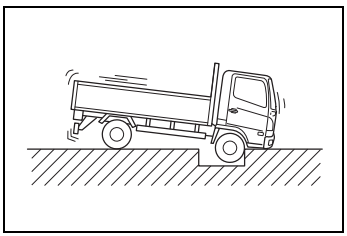
知識

● 次のような、車両下部に強い衝撃を受けた場合には、SRS エアバッグが作動することがあります。

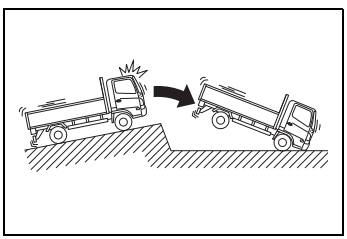
・ 縁石などにぶつかったとき



・ 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき



・ ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



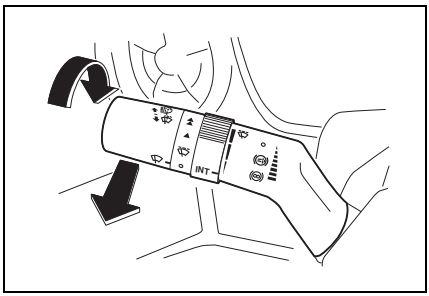
知識

- SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRS エアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また人体への影響もありません。
  ただし、SRS エアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚など身体に付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などで、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 一度作動した SRS エアバッグは、再使用できません。必ず、日野販売会社の整備工場で交換してください。
  同様に連続して衝突した場合、1 回目の衝突で SRS エアバッグが作動すれば、2 回目の衝突では SRS エアバッグは作動しません。

ワイパー& ウォッシャースイッチ

■ワイパースイッチ

〔可変間欠ワイパースイッチ付き車〕



- スイッチを回すとワイパーが作動し、ワイパー速度を 3 段階に調節できます。

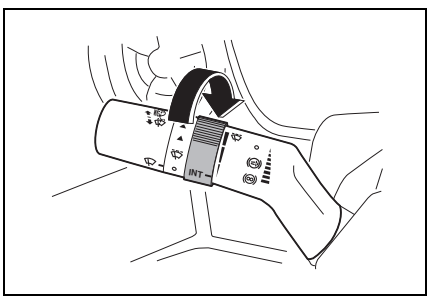
O ：停止

間欠作動

▲ ：低速作動

▲▲ ：高速作動

■可変間欠ワイパースイッチ



- ワイパースイッチが 位置のときノブを回すと、ワイパーの間欠時間を調整できます。
- 調整時間は、SLOW ～ FAST（約 12.5 ～ 2.5 秒）です。

■ウォッシャースイッチ

・ ワイパースイッチレバーを引き上げている間ウォッシャー液が噴射されます。また、レバーを約 1 秒以上引き上げるとウォッシャー液が噴射された後、ワイパースイッチが「OFF」の位置でもワイパーが 2 ～ 3 回作動します。
また、ヘッドランプウォッシャー装着車でヘッドランプが点灯しているときは、ヘッドランプウォッシャーが 1 回作動します。

⚠警告

寒冷時は、フロントガラスが暖まるまで、ウォッシャー液を噴射させないでください。ガラスに噴射された液が凍結し、視界不良を起こすおそれがあります。

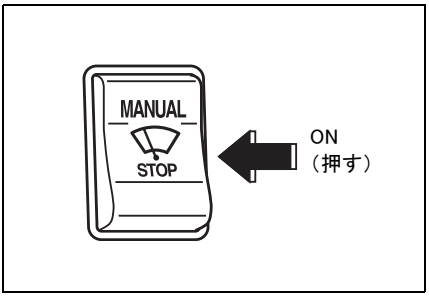
アドバイス

- ガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーブレードを傷つけるおそれがあります。必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。
- 凍結などでワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いているときは、ワイパーを作動させないでください。ワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。
- 1 回の噴射は 15 秒以内にしてください。また、ウォッシャー液がないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーターが故障するおそれがあります。
- ワイパーを長期間使用していなかったときには、ワイパーブレードとガラスの間にほこりや砂などがたまっていることがあります。
そのまま作動させるとガラスに傷をつけますので清掃してから使用してください。

＊ ウインドウォッシャー液の補給は（→ P.13-93）

＊ ワイパーブレードの交換は（→ P.13-95）

ワイパーマニュアルストップスイッチ★

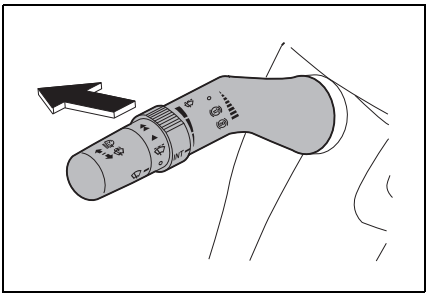


- ワイパーブレードを任意の位置に停止させることができます。
- ワイパーマニュアルストップスイッチを押して「ON」にしたあと、ワイパースイッチを「OFF」にするとワイパーブレードがその位置で停止します。
- もう一度ワイパーマニュアルストップスイッチを押して「OFF」にすると、ワイパーブレードが初期位置（下端）まで動きます。
- ワイパーブレードが画像センサーを覆う位置で停止したまま走行しないでください。PCS や車線逸脱警報装置が正常に作動しないおそれがあります。

⚠警告

- 走行中はワイパーマニュアルストップスイッチを使用しないでください。ワイパーブレードが作動途中の位置で停止したまま走行すると、視界の妨げとなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ワイパーブレードが作動途中の位置にある状態でワイパーマニュアルストップスイッチを押して「OFF」にすると、ワイパースイッチの ON・OFF にかかわらずワイパーが作動します。ワイパーマニュアルストップスイッチの操作は必ずワイパーブレード周辺の安全を確認してから行ってください。

ヘッドランプウォッシャースイッチ★



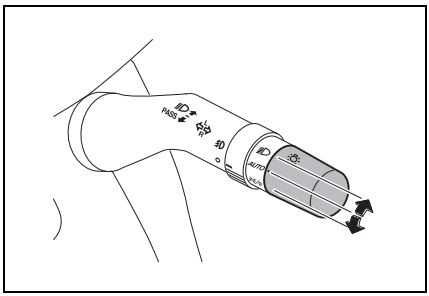
・ スタータースイッチが「ON」のとき、ライティングスイッチを「 」の位置に回した状態で、ワイパースイッチレバーを押し下げている間、ヘッドランプにウォッシャー液が噴射されます。

アドバイス

1 回の噴射は 15 秒以内にしてください。また、ウォッシャー液がないときは、ウォッシャースイッチを操作しないでください。ウォッシャーモーターが故障するおそれがあります。

＊ ウインドウォッシャー液の補給は（→P.13-93）

ライティングスイッチ



●「AUTO」の位置

・ ライティングスイッチが「AUTO」位置のときは、周囲の明るさに応じてヘッドランプ・テールランプなどが自動的に点灯、または消灯します。

・ オートライティングはスタータスイッチが「ON」位置で、ライティングスイッチが「AUTO」位置の時に動作します。

ランプ類	状況	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
クリアランスランプ テールランプ ナンバープレートランプ メーター照明	×	○
ヘッドランプ	×	○
デイライト★	○	×

（○印：点灯、× 印：消灯）

＊ 昼間のデイライト：
パーキングブレーキ作動状態で、スタータースイッチ位置を「LOCK」→「ON」にした時は消灯しています。パーキングブレーキ解除、メーター内パーキングランプ消灯のタイミングで点灯を開始します。（一度点灯した後は、パーキングブレーキを作動させても点灯を継続します）

＊ デイライト★は LED ヘッドランプ付き車のみの機能です。発光部をクリアランスランプと兼用しています。

＊ デイライト★はスタータースイッチが「ON」位置で、ライティングスイッチが「AUTO」位置の昼間のみ点灯します。

●「 ≡D 」の位置

・ ライティングスイッチが「 ≡D 」の位置のときは、ヘッドランプ・テールランプなどが常時点灯します。

＊ デイライトは点灯しません。

ランプ類	状況	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
クリアランスランプ テールランプ ナンバープレートランプ メーター照明	○	○
ヘッドランプ	○	○
デイライト★	×	×

（○印：点灯、× 印：消灯）

●「 ≡D/○ 」位置へ操作

ライティングスイッチを「 ≡D/○ 」位置へ操作した秒数により作動が異なります。スイッチは手を放すと「AUTO」の位置へ戻ります。

▶ 1 秒経過時：テールランプ類のみが点灯（夕暮れ・夜間・トンネル内では停車中のみ可能）

・「AUTO」の作動への復帰方法

1. 昼間の場合：「 ≡D/○ 」位置へ 1 秒未満操作を 1 回行う。(*1)
2. 夕暮れ・夜間・トンネル内の場合：走行復帰または「 ≡D/○ 」位置へ 1 秒未満操作を 1 回行う。(*1)

▶ 3 秒経過時：ヘッドランプ・テールランプなど全て消灯（パーキングブレーキを掛けた状態のみ）

・「AUTO」の作動への復帰方法

1. 昼間の場合：パーキングブレーキの解除または「 ≡D/○ 」位置へ 1 秒未満操作を 1 回行う。(*2)
2. 夕暮れ・夜間・トンネル内の場合：パーキングブレーキの解除または「 ≡D/○ 」位置へ 1 秒未満操作を 1 回行う。(*1)

＊ 1 「 ≡D/○ 」位置へ保持し続けた場合：1 秒経過すると「AUTO」の作動に復帰する。続けて 3 秒経過するとパーキングブレーキがかかっていれば、ヘッドランプ・テールランプなど全て消灯する。

＊ 2 「 ≡D/○ 」位置へ保持し続けた場合：1 秒経過するとテールランプ類のみが点灯。続けて 3 秒経過するとパーキングブレーキがかかっていれば、ヘッドランプ・テールランプなど全て消灯する。

ラ ン プ 類	「≫OC/O」位置へ操作した秒数	
	3秒経過時	1秒経過時
クリアランスランプ テールランプ ナンバープレートランプ メーター照明	× (*4)	○
ヘッドランプ	× (*3)	× (*3)
デイライト★	× (*5)	× (*5)

(○印：点灯、× 印：消灯)

＊3　夕暮れ・夜間・トンネル内走行中は消灯しません。

＊4　パーキングブレーキが解除された状態では消灯しません。

＊5　昼間に点灯するデイライトが消灯します。

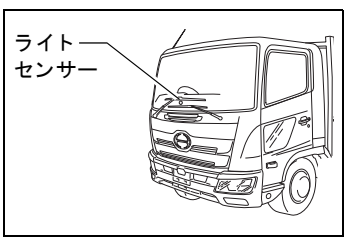
アドバイス

- トンネル等の多い地域ではオートライティングスイッチは使用せず、ヘッドランプを点灯させたままにすることを推奨します。頻繁な点灯・消灯の繰り返しはランプの寿命を短くする原因となります。
- ヘッドランプの不用な点灯、消灯の繰り返しはしないでください。ヘッドランプの寿命を短くする原因になります。
- 故障等により「AUTO」の位置で夜間にヘッドランプ・テールランプなどが点灯しない場合は、「≫O」の位置に操作し、走行をしてください。
- 故障等によりハイビームが消灯した場合はレバーを引き上げ、ロービームを点灯させてください。

知識

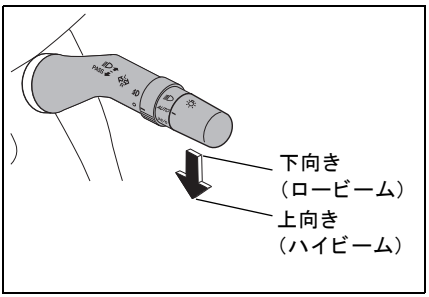
■ライトセンサーについて

本車両には周囲の明るさを検知するライトセンサーが装着されています。このセンサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。センサーが覆われたり、ガラスが著しく汚れることにより、周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

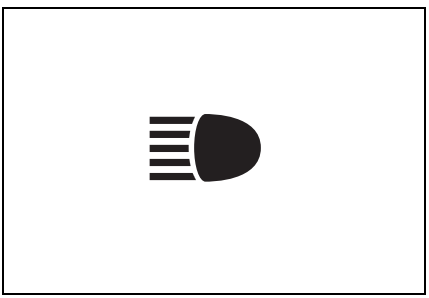


■ハイビーム

・ ヘッドランプを点灯させた状態でレバーを押し下げると、ヘッドランプが上向きに切り替わります。同時にインジケーターランプが点灯します。



● インジケーターランプ

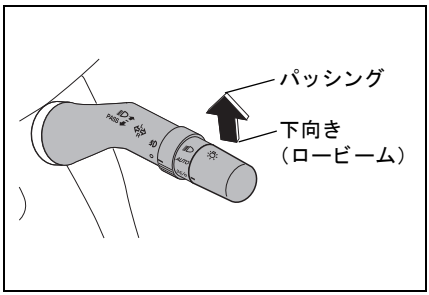


■パッシング

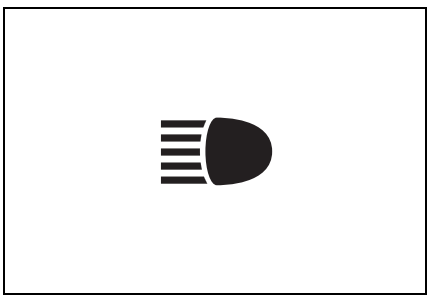
・ レバーを引き上げると、その間だけパッシングランプ（ヘッドランプが上向き）が点灯します。同時にインジケーターランプが点灯します。

・ 追い越しなどを他車に知らせるときに使用します。

・ ヘッドランプが消灯しているときでも使用できます。



● インジケーターランプ



■コーナーリングランプ

・ ヘッドランプ（ロービーム）を点灯、かつ、フォグ ランプ非点灯の状態で、車速が約 40 km/h 未満のとき、ターンシグナルスイッチの指示方向に連動してフォグランプが点灯します。

・ フォグランプがコーナリングランプとして点灯することにより曲がる方向の路面を照らします。

オートハイビーム（AHB）★

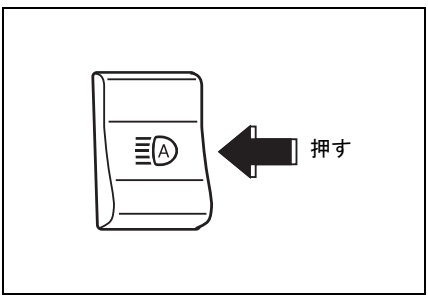
フロントガラスに設置された画像センサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠警告

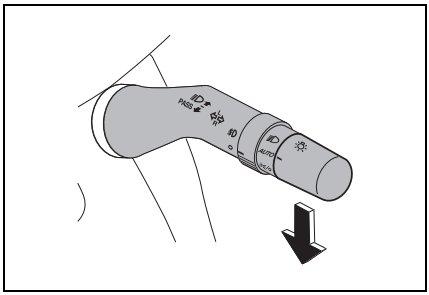
オートハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートハイビームの使い方

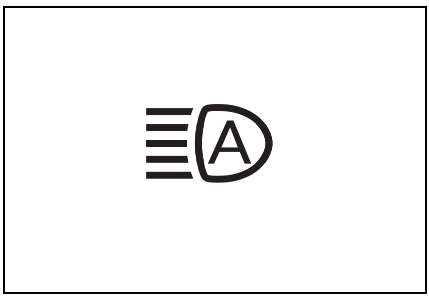
1. ライティングスイッチをAUTOまたはにする。
2. オートハイビームスイッチを押す。



3. レバーを押し下げると、オートハイビームインジケーターランプが点灯します。



● オートハイビームインジケーターランプ



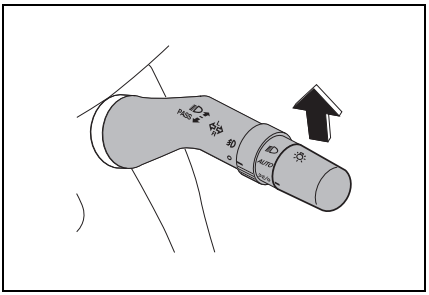
知識

- 手順を間違えると、操作途中でハイビームが点灯し歩行者や前方車両にまぶしさを与える可能性があります。オートハイビームを使用する際は、「オートハイビームの使い方」の手順に従って操作を行ってください。
- ライティングスイッチのレバーを押し下げずにオートハイビームスイッチを押すと、マルチインフォメーションディスプレイに約 5 秒間 “AHB はハイビーム点灯が必要です ” が表示されます。

■手動切りかえのしかた

▶ ロービームへの切りかえ

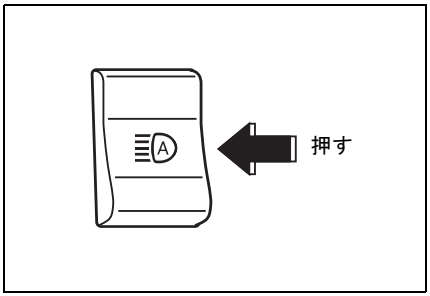
レバーをもとの位置にもどします。



- オートハイビームインジケータランプが消灯します。
- オートハイビームにもどすには、再度レバーを押し下げます。

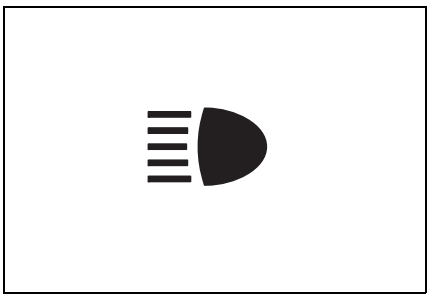
▶ ハイビームへの切りかえ

オートハイビームスイッチを押します。



- オートハイビームインジケータランプが消灯し、ハイビームインジケータランプが点灯します。
- オートハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

● ハイビームインジケーターランプ



■ハイビームとロービームの自動切り替え条件

・ 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・ 車速が約 30 km/h 超え

・ 画像センサーが車両前方を暗いと判定

・ 画像センサーがランプを点灯した対向車または先行車を検出していない

・ 次の条件のいずれかのとき、ハイビームを消灯します。

・ 車速が約 30 km/h 以下

・ 画像センサーが車両前方を明るいと判定

・ 画像センサーが前方にランプを点灯した車両を検出

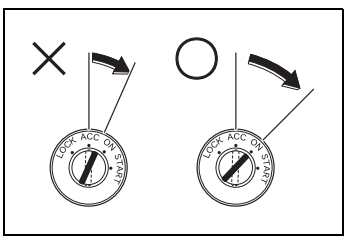
■オートハイビームの異常

オートハイビームに異常が発生した場合、メーター内の（橙色）が点灯します。

点灯したときは、オートハイビームは使用せず、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠ 注意

- スターターキーを「ACC」の位置から「ON」の位置へ操作する途中で数秒間操作を止めると、ヘッドライトが点灯せずメーター内の（橙色）または が点灯し、マルチインフォメーションに“ヘッドランプシステム故障”が表示されますが故障ではありません。
- スターターキーを正しい位置へ操作することで（橙色）または が消灯し、問題無くご利用いただけます。



知識

- オートライティングにより、ヘッドランプが点灯しても周囲が明るい場合は、ロービームが点灯します。
- 次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
  - 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
  - 他車が前方を横切ったとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームに切り替わる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームからロービームに切り替わる場合があります。
- 次のような要因により、ハイビームとロービームが切り替わるタイミングは、必ずしも毎回同一ではありません。
  - 対向車または先行車のランプの明るさ
  - 対向車または先行車の動きや向き
  - 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
  - 対向車または先行車が二輪車のとき
  - 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
  - 乗車人数や荷物の量
- オートハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。

知識

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されずハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。
  以下の場合はオートハイビームを使用せず、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
  - 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
  - ワイパーが高速作動しているとき
  - 炎天下に駐車するなど、室内温度が上昇し、画像センサーの周辺温度が非常に高いとき
  - フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
  - フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
  - フロントウインドウガラスにフィルムなどを貼っているとき
  - ダッシュボードの上に置いた物などが、フロントウインドウガラスに映り込んでいるとき
  - 画像センサーが変形しているときや、汚れているとき
  - 周囲にヘッドランプやテールランプなどに似た光があるとき
  - 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

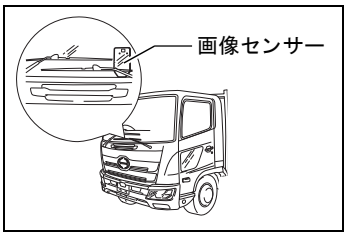
知識

- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンク、過積載やけん引などにより車両が傾いているとき
- メーターに≡Ⓐ（橙色）が点灯しているとき
- ハイビームとロービームの切り替えが頻繁に繰り返されるなど、違和感があるとき
- ハイビームにより、歩行者や前方車両にまぶしさを与えている可能性があるとき

⚠ 注意

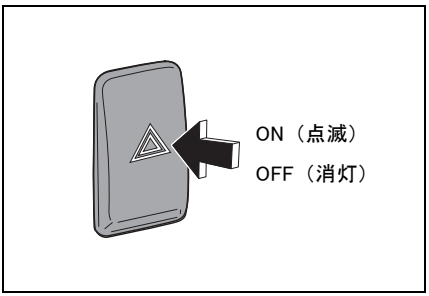
オートハイビームを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- 画像センサーのレンズにふれない



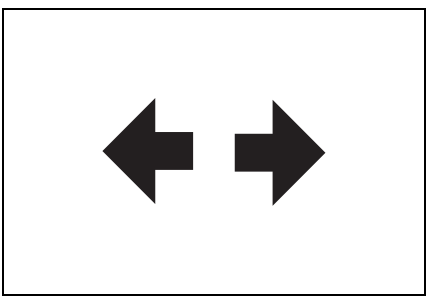
- 画像センサーに強い衝撃を与えない
- 画像センサーを分解しない
- 画像センサーに液体をかけない
- 画像センサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- 画像センサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- 日野純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

ハザードスイッチ



- 路上で緊急停車するときなどに使用します。
- スイッチを押すとすべてのターンシグナルランプが点滅します。同時にインジケーターランプが点滅します。もう一度押すと消灯します。

● インジケーターランプ

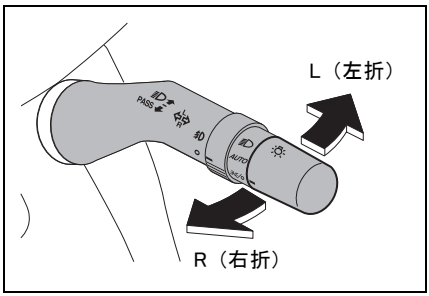


＊ このランプはスターターキーの位置に関係なく点滅します。

アドバイス

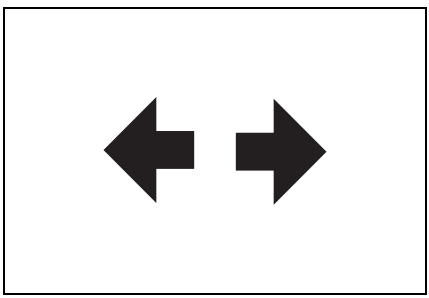
エンジンを止めたまま長時間使用しないでください。バッテリーあがりを起こし、エンジンの始動ができなくなるおそれがあります。

ターンシグナルスイッチ



- レバーを前側に押すと左側、手前に引くと右側のターンシグナルランプが点滅します。同時にインジケーターランプが点滅します。

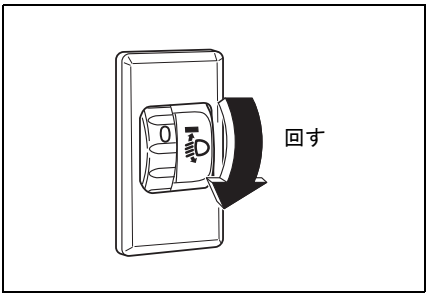
● インジケーターランプ



- レバーはハンドルを戻すと自動的に戻りますが、ゆるいカーブなどで自動的に戻らないときは手で戻してください。
- 左折警報付き車では、左側のターンシグナルランプの点滅と同時にブザーが吹鳴します。

＊ このランプはスターターキーの位置に関係なく点滅します。

ヘッドランプ光軸調整スイッチ★



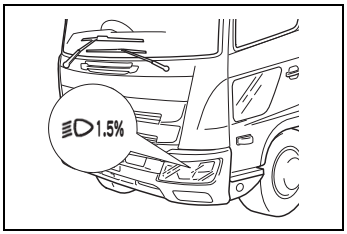
- ヘッドランプの照射角度を、積荷の状況に応じて調整できます。
- ヘッドランプを点灯させ、スイッチを回すとヘッドランプの照射角度を下向き 5 段階（1 ～ 5）に切り替えられます。
  スイッチは「0」の位置が標準です。

⚠警告

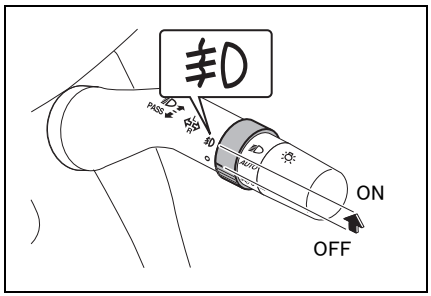
必要以上に照射角度を下向きにしないでください。夜間の視界が悪くなり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

知識

- 車検などで光軸調整するときは、光軸調整スイッチを「0」の位置（光軸が一番上向き）にしてから行ってください。
- 光軸調整時にスイッチ位置が「0」のときの光軸基準を示す数値が、ヘッドランプ上部に刻印してあります。



フォグランプスイッチ★

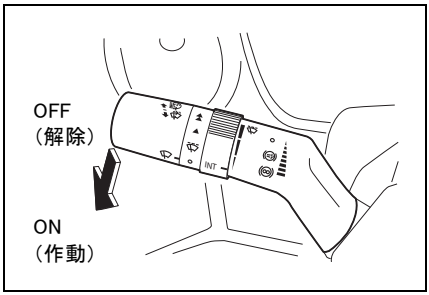


・ ヘッドランプまたはテールランプ類などが点灯している状態でフォグランプスイッチを「 ≢D 」位置に合わせるとフォグランプが点灯します。同時にインジケーターランプが点灯します。
スイッチを「 ○ 」位置に合わせると「OFF」になり、フォグランプが消灯します。同時にインジケーターランプが消灯します。

＊ 霧などで見通しが悪いときに使用してください。

エキゾーストブレーキスイッチ

■コントロールレバー



・ コントロールレバーを 1 段押し下げてアクセルおよびクラッチペダルから足を離すとエキゾーストブレーキが作動し、同時にメーターパネル内のインジケーターランプが点灯します。

＊ アクセルペダルまたはクラッチペダルを踏むと、エキゾーストブレーキは一時的に解除され、ペダルから足を離すと再び作動します。

＊ チェンジレバーが「ニュートラル」、セレクトレバー★が N または P 位置またはギヤセレクター★が N 位置のときは作動しません。

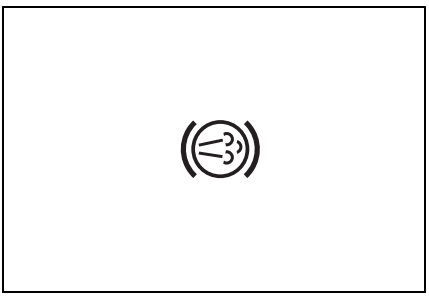
⚠ 警告

滑りやすい路面状態でエキゾーストブレーキを作動させるとスリップするおそれがありますので十分注意してください。

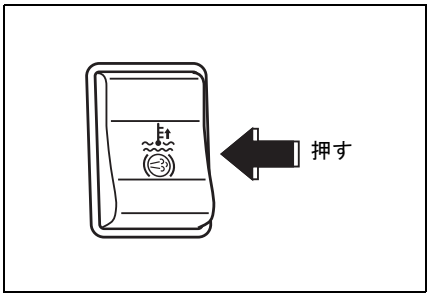
知識

- エキゾーストブレーキは、エンジンブレーキの効果をさらに高めるものです。下り坂や高速走行時などの補助ブレーキとして使用します。
- DPR（排出ガス浄化装置）が燃焼（再生）しているときは、自動的にエキゾーストブレーキが作動することがあります。この場合、インジケーターランプは点灯しません。

● インジケーターランプ

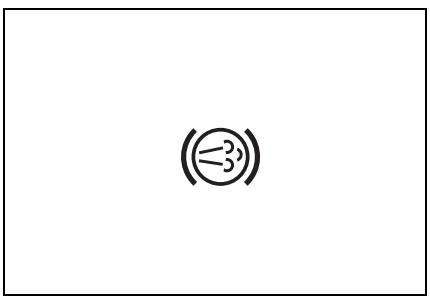


エキゾーストブレーキ点検スイッチ



- エンジン停止時にエキゾーストブレーキの作動点検をするスイッチです。
- 点検スイッチを 1 秒以上押すと、エキゾーストブレーキが作動します。同時にメーターパネル内のインジケーターランプも点灯し作動点検ができます。
- スイッチを操作するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーを「ニュートラル」、セレクトレバー★を N または P 位置およびギヤセレクター★を N の位置にしアクセルペダルおよびクラッチペダルを踏まないでください。
- 点検方法は（→ P.12-28）

● インジケーターランプ



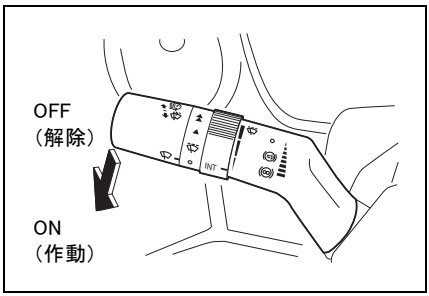
アドバイス

このスイッチは、暖機スイッチもかねています。暖機スイッチの取り扱いについては（→ P.5-11）

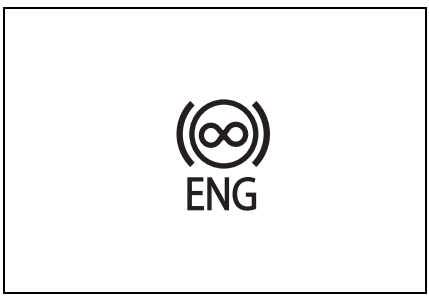
エンジンリターダースイッチ

エンジンブレーキとともに、下り坂や高速走行時などの補助ブレーキとして使用します。

■コントロールレバー



● インジケーターランプ



レバーの位置	作動状態	インジケーターランプ	ストップランプ
OFF	作動せず	—	—
ON	エンジンリターダー	ENG	*

＊ 発生する減速度によりストップランプが点灯する場合があります。

＊ 次の操作をするとエンジンリターダーは一時的に解除されます。

- アクセルペダルを踏む
- クラッチペダルを踏む
- ABS が作動している
- チェンジレバーを「ニュートラル」位置、セレクトレバー★を N または P 位置またはギヤセレクターを N 位置にする

知識

- エンジンリターダーを不必要に連続使用すると燃料の無駄使いになります。
- エンジンリターダーを使用しているときに、滑りやすい路面や段差のある路面を走行すると一時的に ABS が作動してエンジンリターダーが解除される場合があります。

- エンジン回転数が高いほど、効果的な減速度（ブレーキ力）が得られます。750 r/min 以上になるようにギヤチェンジをします。ただし、エンジンがオーバーランしないように注意してください。
- 冷却水温が低いとき（水温 40 ℃以下）には、エンジンリターダーは作動しません。

⚠ 注意

寒冷時は、エンジンが暖まるまでエンジンリターダーを作動させないでください。エンジンが冷えているときにエンジンリターダーを作動させると、白煙の発生・加速不良・異音などを起こすおそれがあります。

アドバイス

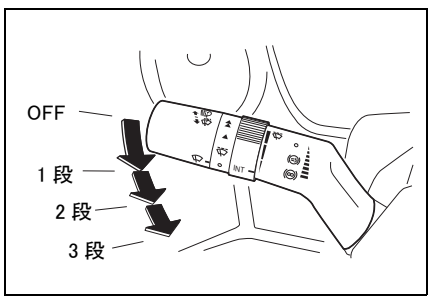
エンジンリターダーを作動中に急にアクセルペダルを踏まないでください。黒煙・白煙・異音の発生の原因になります。

電磁式リターダーコントロールレバー・エキゾーストブレーキスイッチ★

エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキおよびエンジンリターダーとともに、下り坂や高速走行時などの補助ブレーキとして使用します。
コントロールレバーは、エキゾーストブレーキおよびエンジンリターダーと共有しています。なお、リターダーには標準型と強力型の2種類があります。

	FC・FD	GC・GD・FJ・FE
標準型	○	—
強力型	—	○

■コントロールレバー



・ アクセルペダルおよびクラッチペダルから足を離した状態でコントロールレバーを1段目にするとエキゾーストブレーキまたはエンジンリターダーが働き、2段目にするとエキゾーストブレーキまたはエンジンリターダーのほかに電磁式リターダーが作動し同時にインジケーターランプおよびストップランプが点灯します。
なお、電磁式リターダーの強力型付き車は、レバーを3段目にすることによりさらに減速度（ブレーキ力）が大きくなります。

＊ コントロールレバーの操作は、1段ずつ順次切り替えてください。

レバー位置	作動の状態	ストップランプ	インジケーターランプ
OFF	OFF	消灯	消灯
1段目	エキゾーストブレーキまたはエンジンリターダー	＊	点灯
2段目	エキゾーストブレーキまたはエンジンリターダー＋電磁式リターダー	点灯	点灯
3段目（強力型）	エキゾーストブレーキまたはエンジンリターダー＋電磁式リターダー	点灯	点灯

＊ FJ・FE車の場合は、発生する減速度によりストップランプが点灯する場合があります。

＊ 次の操作をすると電磁式リターダーおよびエキゾーストブレーキは一時的に解除されます。

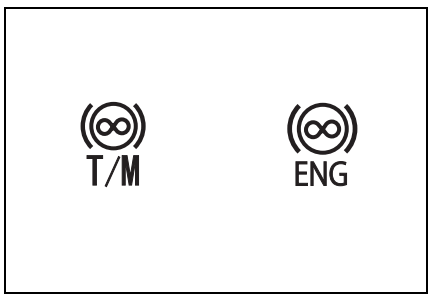
・ アクセルペダルを踏む
・ クラッチペダルを踏む
・ ABS が作動している
・ チェンジレバーを「ニュートラル」位置、セレクトレバー★を N または P 位置またはギヤセレクターを N 位置にする

＊ FC・FD 車は、車速が約 7 km/h 以下になると電磁式リターダーのみ解除されます。

＊ GC・GD・FJ・FE 車は、車速が約 10 km/h 以下になると電磁式リターダーのみ解除されます。

・ FC・FD 車は、スターターキーを「ON」の位置にしたとき、インジケーターランプが瞬時点灯します。機能が正常であることを示します。

● インジケーターランプ



アドバイス

● FC・FD 車の場合、インジケーターランプが点灯しないときは、電磁式リターダーの異常が考えられますので、コントロールレバーを「OFF」の位置にし、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

● FE・FJ・GC・GD 車の場合、インジケーターランプが点灯しないときは、電磁式リターダーの異常が考えられますので、コントロールレバーを「OFF」の位置にし、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

知識

FJ・FE 車の場合は、エンジンリターダーのみの作動時でも、一定の減速度以上になるとストップランプが点灯します。

＊ 電磁式リターダーの温度が上昇すると一時的に制動力が低下することがあります。

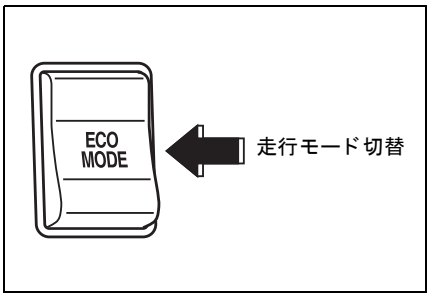
＊ FC・FD 車は、夜間走行中電磁式リターダーを作動させると、ヘッドランプが暗くなることがありますが異常ではありません。

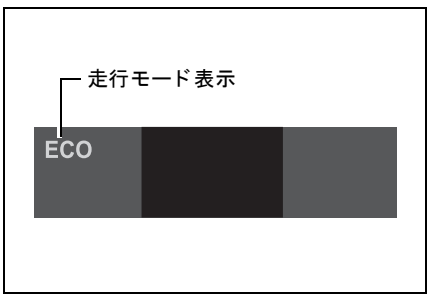
⚠警告

- コントロールレバーを減速度（ブレーキ力）の大きい 2 段目や 3 段目（強力型のみ）に直接入れないでください。急に減速し事故の原因となるおそれがあります。
- 空車時や積荷が軽いときの電磁式リターダーとエキゾーストブレーキまたはエンジンリターダーの併用は、ブレーキ力が大きいため、ぬれた路面ではスリップするおそれがありますので十分注意してください。
  また、凍結路など特に滑りやすい路面状態のときは使用しないでください。
- GC・GD・FJ・FE 車の場合インジケーターランプが点滅したときは、システムに異常が発生しています。すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
  そのまま走行し続けると電磁式リターダーが過熱し、破損するおそれがあります。

エコモードスイッチ★

エコモードスイッチを操作するたびに、走行モードが切り替わり、現在の走行モードがマルチインフォメーションに表示されます。
マルチインフォメーションに「ECO」が表示されているとき、エコラン制御が作動し低燃費運転をアシストするモードとなります。





	走行モード表示		
MT 車	ECO	表示なし	—
AT 車	—	表示なし	PWR

＊ パワーモードは上り坂や高積載時など高いエンジン回転数を保ちながら走行したいときに使用するモードです。

＊ オートマチックトランスミッション搭載車は走行モード選択スイッチを操作すると走行モードが切り替わります。

＊ 走行モード選択スイッチについては（→ P.5-23）

■エコラン制御作動（MT 車）

● 馬力制限

・ 平坦な道で加速するとき、走行ギヤ段別に最適な馬力制限を行い、ギヤの引っ張りすぎを防止して早めのシフトアップを促すことにより、低燃費走行を支援します。

● 馬力制限一時解除

車両走行状態（車両重量、道路勾配など）を認識し、走行状況に応じて制御作動が一時的に解除されます。

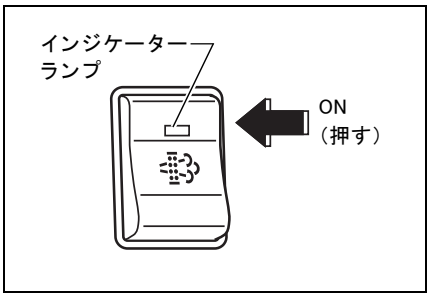
・ 積載量が多く、車両重量が増加しているとき

・ 道路勾配が大きな登坂路を走行しているとき

・ ターンシグナルスイッチ操作をしているとき

排出ガス浄化装置再生スイッチ

排出ガス浄化装置再生スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプが点滅したときは、排出ガス浄化装置再生スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集されたすすを燃焼（再生）させてください。



＊ この操作はインジケーターランプが点滅をはじめてから 150 km 走行以内に行ってください。インジケーターランプが点滅したまま、すす燃焼（再生）させずに走行を続けると DPR の目詰まりやシステムの故障を起こすおそれがあります。

■排出ガス浄化装置再生スイッチ

- 排出ガス浄化装置再生スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプの点検は、スターターキーを「ON」の位置にして、排出ガス浄化装置再生スイッチを押します。各インジケーターランプが点灯することを確認します。スイッチをもう一度押す、またはエンジンを始動させ、各インジケーターランプが消灯すれば正常です。
- 再生スイッチによる DPR 再生が始まると、スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ DPR 再生中 ”を表示します。再生が完了すると各インジケーターランプが消灯し、“ DPR 再生中 ”表示が消えます。



⚠ 注意

DPR ではすす堆積量表示の本数に関わらず、排出ガス浄化装置再生スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内のインジケーターランプが点滅することがあります。

これは触媒性能を維持するための機能であり異常ではありません。

すす再生と同様に排出ガス浄化装置再生スイッチを押して、すす燃焼（再生）を行ってください。

知識

- DPR は、DPR フィルター内に排出ガス中のすすが一定量堆積すると、捕集したすすの燃焼（再生）を自動的に行いますが、運転条件によってはすすの燃焼（再生）が完了しない場合があります。そのときは、スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプが点滅します。これは、排出ガス浄化装置の機能を回復するもので故障ではありません。
- すすの燃焼（再生）が自動で行われやすくするために、停車時はギアをニュートラルか P レンジ位置にすることを推奨します。
- システムが自動で捕集したすすを燃焼（再生）処理中（＝クリーニングモード中）に車両を停車させ、ギアをニュートラルか P レンジ位置にすると、排気コントロールバルブが作動してアイドリング回転数が上がります。これは排出ガス浄化のためで、故障ではありません。
- クリーニングモード中、アイドルストップシステム付き車ではアイドルストップしません。

知識

DPR とは

Diesel Particulate active Reduction system の略で DPR- クリーナー内に排出ガス中のすすが一定量堆積すると自動的に捕集したすすの燃焼（再生）処理を行います。これにより、すすなどが異常に堆積するのを防ぎ、DPR の浄化能力を常に良好に保ちます。また、高性能触媒とコモンレール式燃料噴射システムにより、走行中のすすの燃焼（再生）処理を可能としています。

■操作方法

1. 車両を安全な場所に停車させます。

⚠警告

- すすの燃焼（再生）処理は、風通しの良い屋外の広い場所で行ってください。
  排出ガスは無色・無臭ですが、有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。
  走行直後や排出ガス浄化装置（DPR）のクリーニングモード中は排気管やマフラー付近および排出ガスが高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。また、高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。塗装されている路面に停車している場合、路面が変色するおそれがあります。

2. エンジンをかけたままでパーキングブレーキを確実に効かせ、ギアをニュートラルか P レンジ位置にします。

＊ アイドルストップシステム付き車はアイドルストップメインスイッチが「ON」の場合、アイドルストップが作動してエンジンが止まります。その際は、スタータースイッチにてエンジンを再始動させてください。

3. 排出ガス浄化装置再生スイッチを押します。スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプが点滅から点灯に変わり、アイドリング回転数が上がり、排気コントロールバルブが作動します。

＊ スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプが点灯している間はお車から離れないでください。

アドバイス

排出ガス浄化装置再生スイッチを押すときは、必ずPTOスイッチ★を「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が作動しません。

4. スイッチ内蔵のインジケーターランプとメーターパネル内の ランプが消灯し、アイドリング回転数が元に戻ったらすすの燃焼（再生）処理は終了です。

⚠ 注意

すすの燃焼（再生）処理はできるだけ1回で完了させるようにしてください。すすの燃焼（再生）処理を頻繁に中断させると、エンジンオイルが燃料により、希釈させるなど、エンジン故障の原因になる場合があります。

アドバイス

- PTO★が「ON」（作動状態）のときに、長時間アイドリング運転を行わないでください。PTO★が「ON」（作動状態）で長時間アイドリング運転を行うと、排出ガス浄化装置の白煙防止機能が働きません。
  長時間アイドリング運転を行うときは、PTO★を「OFF」（非作動状態）にしてください。
- エンジン付近およびテールパイプ内への高圧洗浄は、行わないでください。
  エンジン運転中にディーゼルスロットルやセンサー等に直撃すると水が内部に入り込むおそれがあり、エンジンやセンサー等を破損する原因となります。
- すすの燃焼（再生）処理はエンジンが冷えているときよりも運転直後に行う方が早く終了します。

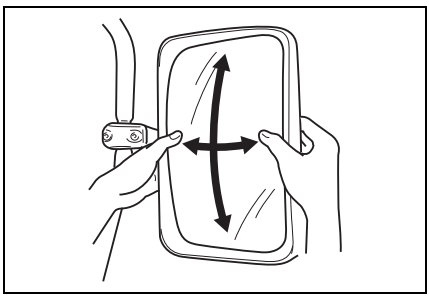
知識

- すすの燃焼（再生）処理は、約 15 分～ 30 分で終了します。
- すすの燃焼（再生）処理はマフラー内の温度を一定温度に上げますので、マフラー内の温度が高いほど早く終了します。
- エンジンが冷えている場合は、暖機を行った後に燃焼（再生）処理を行いますので 30 分以上の時間がかかる場合があります。
- メーターパネル内の ランプおよびスイッチ内蔵のインジケーターランプが点滅したまま長時間放置するとマルチインフォメーションに“ DPR 系統点検 ”が表示されます。マルチインフォメーションに“ DPR 系統点検 ”が表示されたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

ミラーの調整の仕方

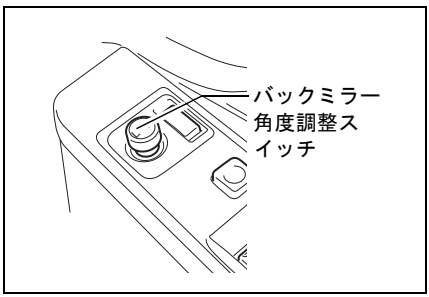
■マニュアルミラー

鏡面を動かしたい方向に指で押します。
調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



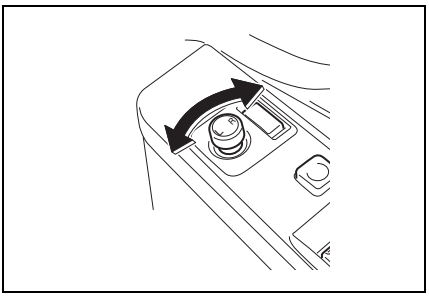
■リモコンミラー★

▶ バックミラー角度調整スイッチ★

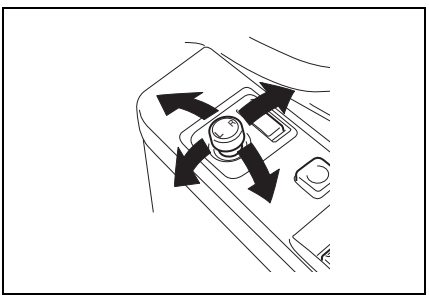


スイッチの操作で左右バックミラーの角度が調整できます。スターターキーが「ON」の位置のとき使用できます。

1. 車を安全な場所に停車させます。
2. バックミラー角度調節スイッチのノブを左右に回転させ、調整するバックミラーを選びます。左側は「L」側、右側は「R」側の位置です。



3. バックミラー角度調整スイッチのノブを前後左右に動かして、バックミラーの角度を調整します。ノブを前・後側に動かすと、ミラーの上下の調整ができ、また、左・右側に動かすとミラーの左右の調整ができます。

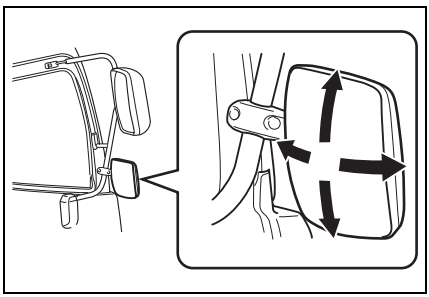


＊ 使用しないときは、スイッチを中央の位置にしておいてください。

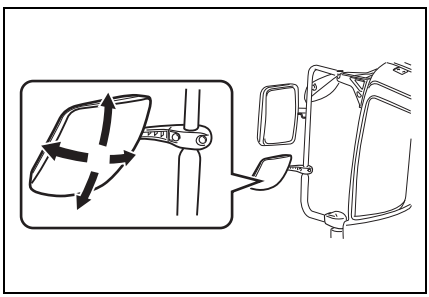
▶ その他のミラー

ミラー全体を手で動かして、鏡面の角度を調整します。
調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。

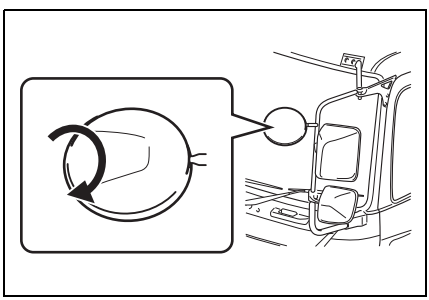
運転席側サイドアンダーミラー★



助手席側サイドアンダーミラー



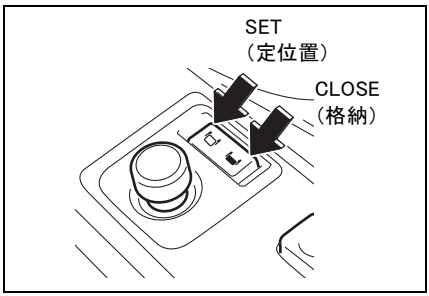
アンダーミラー



⚠警告

- 走行前に、必ずミラーを正しく調整してください。ミラーによる周囲の視界が確認できず事故につながるおそれがあります。
- 走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤って、重大な事故につながるおそれがあります。

パワーミラースイッチ



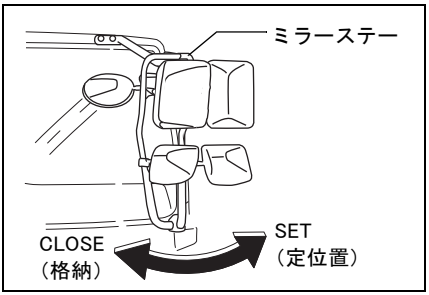
・ スイッチの操作で左側ミラーを格納することができます。
スターターキーが「ACC」または「ON」の位置のとき使用できます。

● CLOSE（格納）

スイッチの「CLOSE」側を押すと左側ミラーステーがフロントガラス側に格納されます。
また、作動中にスイッチの「SET」側を 1 秒以上押すことにより任意の位置でミラーステーを停止させることができます。

● SET（定位置）

スイッチの「SET」側を押すと左側ミラーステーが自動的にもとのセット位置に戻ります。
また、作動中にスイッチの「CLOSE」側を 1 秒以上押すことにより任意の位置でミラーステーを停止させることができます。



＊ 走行前にミラーを「SET」位置に戻してください。常に、バックミラーに後方視界が確保されていることを確認してください。

⚠警告

- ミラーを格納したまま走行しないでください。
  ミラーによる後方視界が確認できず事故につながるおそれがあります。
- 走行中は、ミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- パワーミラーを操作しているとき、ミラーステーに手で触れたりしないでください。手をはさまれてケガをするおそれがあり、またパワーミラーの故障の原因になります。

アドバイス

- ミラーステーにはつかまらないでください。故障の原因になります。
- パワーミラーのモーターに無理な力がかかると安全装置が働き、作動が停止することがあります。このときは一度スターターキーを「LOCK」の位置にし、数分後にスターターキーを「ON」の位置に戻して、パワーミラースイッチを操作し、正常に作動することを確認してください。
  たびたび作動が停止するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

＊ スイッチで操作できないときは、手で調整してください。この場合はすみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

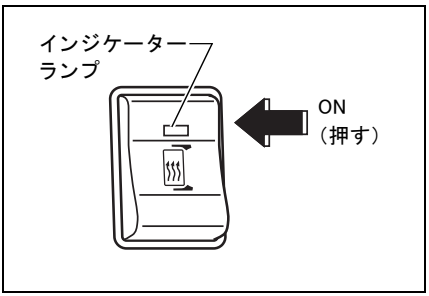
知識

パワーミラー作動時にドアロック動作（ロックまたはアンロック作動）を行った場合、ドアロック動作中はパワーミラー作動は一旦停止し、ドアロック動作が終了後に再開します。

■キーレス連動パワーミラー

キーレス連動パワーミラーについては（→ P.3-7）

ミラーヒータースイッチ★



- ミラーを暖め霜やくもりを取り除くときに使用します。
- スイッチを押すと「ON」になります。
  同時にスイッチ内蔵のインジケーターランプが点灯します。

＊ 霜やくもりが取り除けたらスイッチを押して「OFF」にしてください。

アドバイス

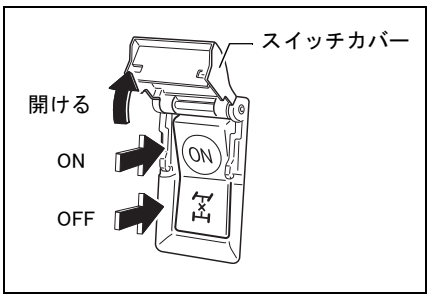
エンジン停止中は使用しないでください。バッテリーあがりを起こしエンジンが始動できなくなるおそれがあります。

⚠警告

ミラーヒータが作動しているとき鏡面が熱くなるので、触れないでください。

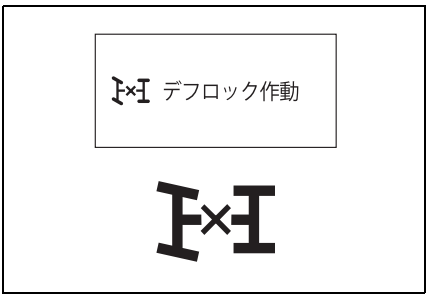
センターデフロックスイッチ〔FX・GX 車〕

この装置は、前軸と後軸の回転差をなくすもので、滑りやすい路面や脱輪などでタイヤが空転し動けないとき、また、ぬかるみや深い雪からの脱出時の使用に限ります。



- 車両を停止させます。
- スイッチカバーを開け、スイッチの「ON」側を押すと、ロックされます。同時にマルチインフォメーションの ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ デフロック作動 ”を表示し、チャイムが鳴り始めます。
- スイッチの「 」側を押すと、デフロックが解除されます。同時にマルチインフォメーションの ランプおよびマルチインフォメーションの“ デフロック作動 ”表示が消灯し、チャイムが鳴り止みます。

● インジケーターランプ



- 脱出後は、スイッチの「囧」側を押してください。デフロックが解除されます。
- スイッチを操作してもインジケーターランプが点灯しないときがありますが、走行し始めると点灯します。
- スイッチの「囧」側を押して「OFF」にしても、すぐにインジケーターランプが消灯しないときは、少し直進走行または後退をしてください。インジケーターランプが消灯します。

⚠ 注意

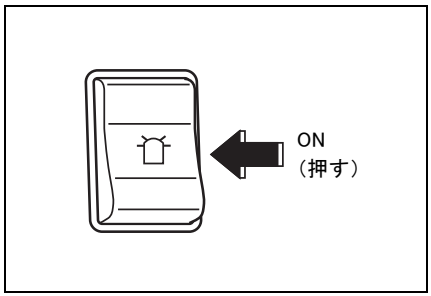
- 舗装道路など一般の路面では、ロックしないでください。タイヤが早期摩耗したり、スムーズな旋回ができなくなります。
- ロックしたままで急旋回を行わないでください。ロックしたまま急旋回を行うとブレーキをかけた状態と同じような現象が発生し運転しにくくなります。
- 車両が停止していてもタイヤが空転しているときは操作しないでください。
  タイヤが空転しているときに操作すると駆動系部品が損傷したり急発進するおそれがあります。

アドバイス

- スイッチを操作するときは、車両をいったん停止させてください。
- けん引されるときは、ロックしないでください。
- けん引については（→ P.15-55）

散光灯スイッチ★

・ スターターキーが「ON」位置のときにスイッチを押すと、散光灯が点灯します。

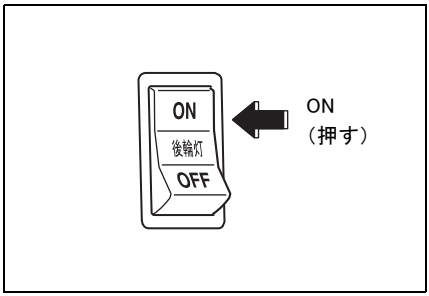


・ 夜間作業時などに使用してください。

＊ 通常走行時は、ほかの車の迷惑となりますのでスイッチを「OFF」にして、消灯させてください。

架装路肩灯スイッチ★

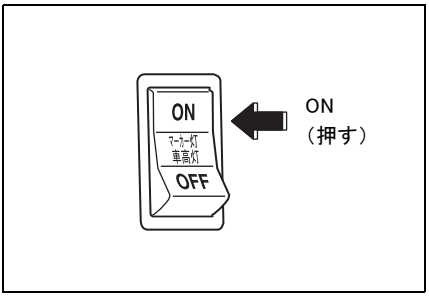
・ スイッチを押すと架装装置が作動します。



＊ 操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

架装マーカー灯スイッチ★

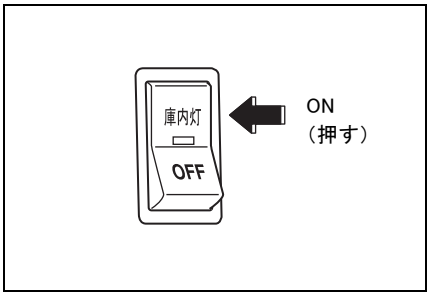
・ スイッチを押すと架装装置が作動します。



＊ 操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

架装庫内灯（ウィング仕様車）スイッチ★

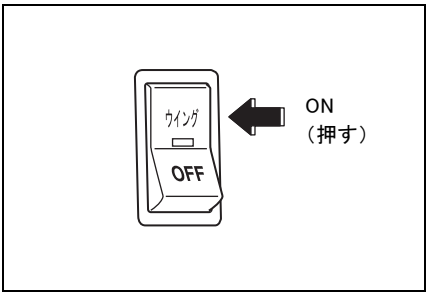
・ スイッチを押すと架装装置が作動します。



＊ 操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

架装ウィングメイン（ウィング仕様車）スイッチ★

・ スイッチを押すと架装装置が作動します。



＊ 操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

スピードリミッター★

この装置は、車速が規定速度の 90 km/h に達すると、自動的に燃料噴射量を抑制し、それ以上の加速を止める速度抑制装置です。

アドバイス

スピードリミッター装置は、保安基準（大型貨物自動車の速度抑制装置）に関係するもので改造は法律違反になりますので絶対に行わないでください。
規定速度（90 km/h）で車速が抑制されている状態でも、下り坂などを走行すると規定速度を超える場合があります。

● インジケーターランプ

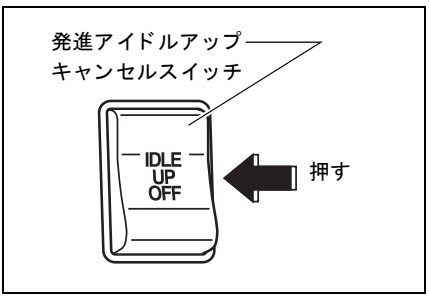


スターターキーを「ON」の位置にすると SLD ランプが点灯し、スピードリミッターが装着されていることを示します。

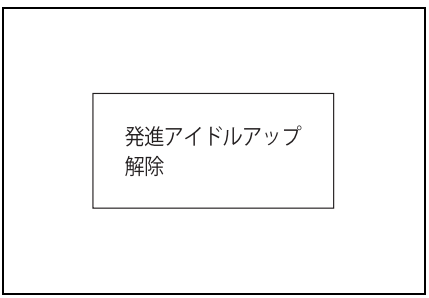
発進アイドルアップ★

この装置は、発進時に、エンジン回転数を高くして、楽に発進を行うことができる装置です。

■発進アイドルアップキャンセルスイッチ



● マルチインフォメーション



- スイッチを押すと発進アイドルアップ機能の待機状態が解除され、マルチインフォメーションに“発進アイドルアップ解除”が表示されます。
- スイッチをもう一度押すと発進アイドルアップ機能の待機状態になり、“発進アイドルアップ解除”表示が消灯します。

知識

スターターキーを「ON」の位置にした初期状態では、発進アイドルアップ機能が待機状態になります。

⚠警告

- 下り坂や渋滞路では、発進アイドルアップ機能の待機状態を解除してください。標準アイドリング回転数以上に回転数が上がったまま発進すると、急発進の原因になり危険です。
- エンジンがアイドリング状態のとき、バッテリーの放電を防ぐため、冷凍機の作動時にアイドルストップを停止し、任意のアイドル回転数となる回路が装着されています。冷凍コンプレッサ使用時に既定のアイドル回転数となっていることを確認してください。異常時は販売会社もしくは架装メーカーへ入庫し、点検整備を実施してください。

ES スタート（坂道発進補助装置）★

この装置は坂道発進のときブレーキの踏みかえ操作をなくし、運転者の負担を軽減するためのものです。ブレーキを使用して車両を完全に停止させ、約１秒以上ブレーキペダルを踏み続けると本装置が作動し、ブレーキペダルから足を離してもブレーキカを保持します。発進時クラッチをつなぐとブレーキ力が解除され、楽に発進が行えます。

⚠警告

■ES スタートの使用について

- ES スタートは、パーキングブレーキではありません。運転席を離れるときは、必ずパーキングブレーキを使用してください。ブレーキ保持力が十分でないと車が動き出す場合があり危険です。
- ES スタートは、ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルを踏み込み、車両が再発進するまでの一時的なブレーキカの保持を目的とするものです。長時間車両を停車する場合は、ブレーキペダルを踏み続けるかパーキングブレーキを使用してください。ES スタートは、ブレーキペダルを踏まずにブレーキカを保持し続けるための装置ではありません。
- ES スタートを使用して再発進する際は、必ず確実にブレーキペダルを踏んだ状態で、(P) ランプが点灯していることを確認してください。
  (P) ランプが点灯していない場合、車両が動き出し思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- メインスイッチが「ON」のとき、凍結した路面や雪路でブレーキペダルを踏むと ES スタートが作動し車輪がロックして事故につながるおそれがあり危険です。状況によりメインスイッチを「OFF」にしてください。

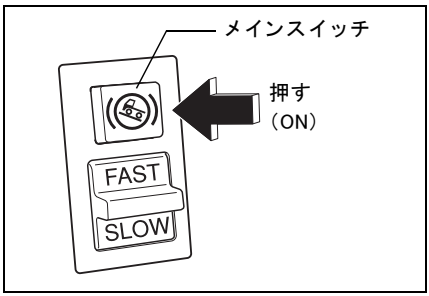
⚠ 警告

■ 次のいずれかの場合は、ES スタートは作動しません。

- パーキングブレーキを使用している場合
- ES スタートのメインスイッチが「OFF」の場合
- キーの位置が「ACC」または「LOCK」の場合

■ ES スタートスイッチ

▶ メインスイッチ



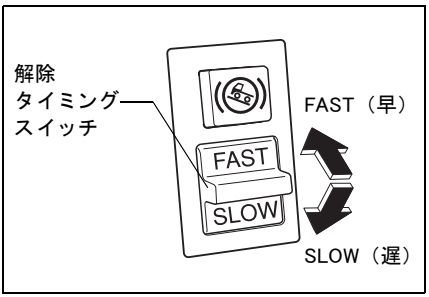
- メインスイッチを押し込んで「ON」になっているときに使用できます。
- メインスイッチをもう一度押すことにより、メインスイッチの解除ができます。
- メインスイッチが「OFF」のときには、ES スタートは作動せず、通常（ES スタートなし）の状態になります。

	メインスイッチの状態
ON	
OFF	

⚠ 注意

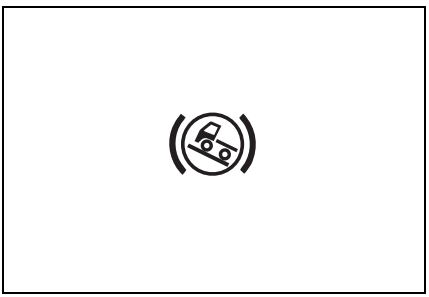
- ES スタートのメインスイッチが「OFF」の場合でも、アイドルストップシステムのエンジン自動停止中は ES スタートが作動します。
- ES スタートのメインスイッチが「OFF」のとき、Ⓐ OFF ランプが点灯している場合は、ES スタートは作動しません。

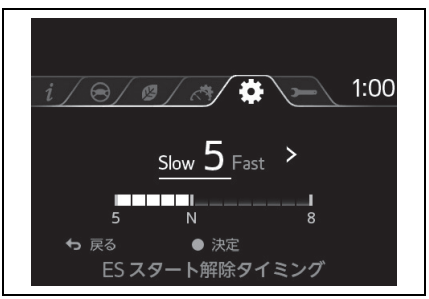
▶ 解除タイミングスイッチ



・ 解除タイミング（発進タイミング）を調整するスイッチです。

● マルチインフォメーション／インジケーターランプ





＊ スターターキーを「ON」の位置にすると、(ESS) ランプが瞬時点灯し、機能が正常であることを示します。

＊ マルチインフォメーションで、解除タイミング（発進タイミング）を調整することができます。調整方法は（→P.5-100）

■操作方法

▶ 作動

・ 運転席に運転者が座っている（運転席側、助手席側の両方のドアが閉まっている）ときに使用できます。

・ メインスイッチが「ON」になっているときに使用できます。

・ ブレーキを使用して車両を完全に停止させ、約１秒以上ブレーキペダルを踏み続けると ES スタートが作動します。

・ この機能が作動すると、マルチインフォメーションの (ESS) ランプが点灯します。（停車時）

⚠ 警告

(ESS) ランプの点灯を確認のうえ、ブレーキペダルから足を離してください。(ESS) ランプが点灯していない場合は、ES スタートが作動していないのでブレーキペダルから足を離すと、車が動き出すおそれがあります。

▶ 解除

通常の発進操作、またはパーキングブレーキレバーを引くと自動的に解除され、マルチインフォメーションの (P) ランプが消灯します。

- ES スタート作動中にドアを開けるとブザーが鳴ります。
- ES スタート作動中にスターターキーを「ACC」または「LOCK」の位置にすると、ES スタートが解除され、ブザーが鳴ります。

↓

パーキングブレーキレバーを引いてください。

⚠警告

- 坂道では、ES スタートを解除すると車が下がりますので注意してください。
- 空気圧、バッテリー電圧が低いときは、ES スタートが作動しないことがあります。
- 坂道で停車するときは、パーキングブレーキを使用してください。
- 急ブレーキやタイヤをロックさせて車を停止したときには、ES スタートが作動しないことがあります。

アドバイス

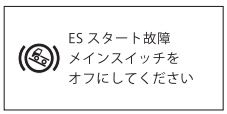
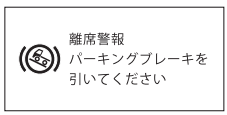
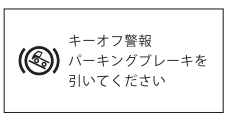
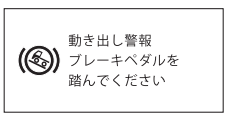
- 次の場合は ES スタートを解除した方が運転しやすいことがあります。
  - 発進・停止を繰り返して、車両の位置を調整したいとき
  - 凍結路や積雪路でブレーキペダルを踏むと ES スタートが作動するとき
- ES スタートは下り坂でも作動します。下り坂で作動させたくないときは、メインスイッチを「OFF」にしてください。

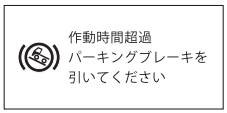
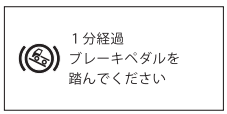
＊ メインスイッチを「OFF」にしたとき、ES スタートは登坂路でも作動しません。

知識

ES スタート作動中、ブレーキペダルから足を離しているときは、ストップランプは点灯しません。

▶ 警報表示されたときの対処方法

インジケーター	マルチインフォメーション画面表示	ブザー	種類	警報内容	対処方法
点滅	—	吹鳴せず	未調整警報	初期設定が行われていない。	最寄りの日野販売会社の整備工場で初期設定を行ってください。
点滅		連続吹鳴	故障警報	各種信号スイッチ・センサーの異常	メインスイッチを「OFF」にして、ES スタートを解除してください。 最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。
点灯		連続吹鳴	離席警報	作動中にドアを開けた。	パーキングブレーキレバーを確実に引いてください。
消灯		連続吹鳴	キーOFF警報	スターターキーを「ACC」や「LOCK」にした。	パーキングブレーキレバーを確実に引いてください。
点灯		連続吹鳴	動き出し警報	作動中に車両が動いた。	パーキングブレーキレバーを確実に引くか、またはブレーキペダルを増し踏みしてください。

インジケーター	マルチインフォメーション画面表示	ブザー	種類	警報内容	対処方法
点灯		連続吹鳴	作動時間情報	ES スタート作動してから 10 分以上が経過した。	パーキングブレーキレバーを確実に引くか、またはブレーキペダルを増し踏みしてください。 ブレーキペダルを増し踏みした場合は、警報音がリセットされ、再び 1 分後から警報音が作動します。
		単発吹鳴		作動時間を 1 分ごとに運転者に知らせます。	

＊「作動時間情報」のマルチインフォメーション画面表示には、作動時間 1 分毎に「1 分～ 9 分経過」までがあります。

⚠ 警告

- ランプが点滅し、警報ブザーが鳴ったとき（マニュアルトランスミッション車）
- ランプが点滅し、警報ブザーが鳴ったときは、ES スタートのメインスイッチを「OFF」にし、日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
  不意に車輪がロックし、事故の原因となるおそれがあります。

▶ 解除位置調整

次のときは、ES スタートの微調整を行ってください。

- 発進時にブレーキの引きずり感があるとき（解除が遅い）
- 坂道で発進時に車が下がることがあるとき（解除が早い）
- 発進時のブレーキ解除タイミングが自分の希望に合わないとき
- 通常のクラッチ操作でブレーキが解除しないとき（解除が遅すぎる、または早すぎる）（マニュアルトランスミッション車のみ）

▶ 調整方法

● 解除タイミングスイッチでの調節方法

1. スターターキーを「ON」の位置にします。同時に、メインスイッチが「ON」にあることを確認します。
2. 解除タイミングスイッチを調整したい方向（「FAST（早）」または「SLOW（遅）」側）へ倒します。
「FAST（早）」側に倒したときは、解除タイミングが早くなります。「SLOW（遅）」側に倒したときは、解除タイミングが遅くなります。また、スイッチを倒すたびにブザーが鳴ります。

＊ ブザーはそれぞれ、中立時“ピー”、FAST（早）“ピピッ”、SLOW（遅）“ピピッ”と吹鳴します。

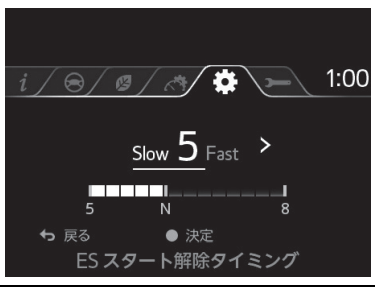
＊ 初期設定のときは、中立時“ピー”と吹鳴します。

● マルチインフォメーション画面での調節方法

1. スターターキーを「ON」の位置にします。同時に、メインスイッチが「ON」にあることを確認します。
2. ステアリングスイッチを操作し、車両システム各種設定タブの安全運転支援機能の設定画面から「ES スタート解除タイミング」を選択します。

＊ 車両システム各種設定タブの安全運転支援機能の設定画面の表示方法については（→ P.6-38）

3. ステアリングスイッチの右ボタンまたは左ボタンを押して解除タイミングの調節を行います。右ボタンを押すと解除タイミングが早くなり、左ボタンを押すと解除タイミングが遅くなります。



解除タイミングは「FAST（早）」側へ 8 段階、「SLOW（遅）」側へ 5 段階に調節できます。

4. 調節が完了したら決定ボタンを押して決定します。
設定が完了すると、マルチインフォメーションに“設定を完了しました”が表示されます。



設定ができない場合、マルチインフォメーションに“現在設定できません”が表示されます。この場合 2. からやり直してください。



⚠ 警告

調整が適切でない状態で使用すると、ブレーキやクラッチの早期摩耗や損傷が生じます。また、坂道で車両が下がり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

アドバイス

マニュアルトランスミッション車は、解除タイミングを「FAST（早）」側に調整した状態で、クラッチペダルを目一杯踏み込まずに発進すると、ブレーキが解除されないときがあります。このときは、解除タイミングを「SLOW（遅）」側に調整するか、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで発進してください。

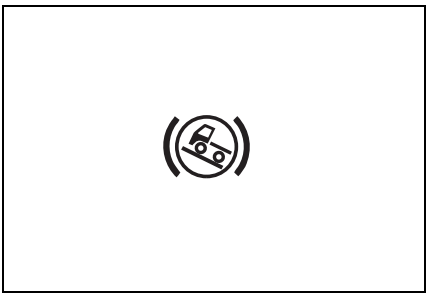
■解除位置の初期設定

- ESスタートの解除位置（クラッチのつながり点）の初期値をESスタートコントローラーへ記憶するために行います。
- 次の場合には、解除位置の初期設定を行ってください。
- クラッチペダルの部品の交換やクラッチペダルの遊び調整を行ったとき（マニュアルトランスミッション車のみ）
- 発進時、ブレーキ解除タイミングが大きくずれているとき

＊ 解除位置の初期設定は、最寄りの日野販売会社の整備工場で行ってください。

アイドルストップ時のブレーキ保持★（オートマチックトランスミッション車）

■インジケーターランプ



・ スターターキーを「ON」の位置にすると、インジケーターランプが瞬時に点灯し、機能が正常であることを示します。

■操作方法

▶ 作動

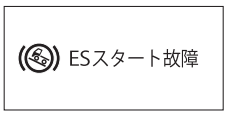
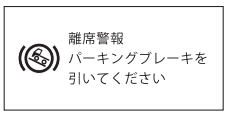
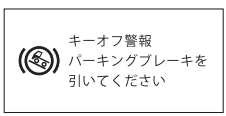
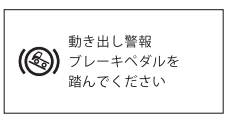
・ アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」（ Ⓐ OFF ランプ消灯）のときに使用できます。

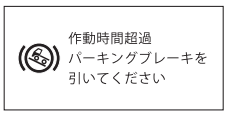
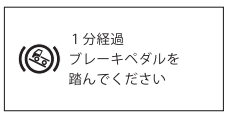
・ この機能が作動すると、マルチインフォメーションの (P) ランプが点灯します。（停車時）

▶ 解除

・ 通常の発進操作またはパーキングブレーキレバーを引くと自動的に解除されマルチインフォメーションの (P) ランプが消灯します。

▶ 警報表示されたときの対処方法

インジケーター	マルチインフォメーション画面表示	ブザー	種類	警報内容	対処方法
点滅	—	吹鳴せず	未調整警報	初期設定が行われていない。	最寄りの日野販売会社の整備工場で初期設定を行ってください。
点滅		連続吹鳴	故障警報	各種信号スイッチ・センサーの異常	アイドルストップキャンセルスイッチを押して、Ⓐ OFF ランプが点灯したことを確認してください。最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。
点灯		連続吹鳴	離席警報	作動中にドアを開けた。	パーキングブレーキレバーを確実に引いてください。
消灯		連続吹鳴	キーOFF警報	スターターキーを「ACC」や「LOCK」にした。	パーキングブレーキレバーを確実に引いてください。
点灯		連続吹鳴	動き出し警報	作動中に車両が動いた。	パーキングブレーキレバーを確実に引くか、またはブレーキペダルを増し踏みしてください。

インジケーター	マルチインフォメーション画面表示	ブザー	種類	警報内容	対処方法
点灯		連続吹鳴	作動時間情報	アイドルストップ時のブレーキ保持が作動してから 10 分以上が経過した。	パーキングブレーキレバーを確実に引くか、またはブレーキペダルを増し踏みしてください。 ブレーキペダルを増し踏みした場合は、警報音がリセットされ、再び 1 分後から警報音が作動します。
		単発吹鳴		作動時間を 1 分ごとに運転者に知らせます。	

⚠警告

- 不意に車両がずり下がり、思わぬ事故の原因となるおそれがありますので、次の警告に従ってください。
- アイドルストップ時のブレーキ保持は、ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルを踏み込み車両が再発進するまでの一時的なブレーキ力の保持を目的とするものです。
  長時間車両を停車するときは、ブレーキペダルを踏み続けるかパーキングブレーキを効かせてください。
  アイドルストップ時のブレーキ保持は、ブレーキペダルを踏まずにブレーキ力を保持し続けるための装置ではありません。
- 坂道での停車中は必ずパーキングブレーキを効かせてください。
- 次のいずれかの場合はアイドルストップ時のブレーキ保持は作動しません。

1. パーキングブレーキを効かせているとき
2. (A) OFF ランプが点灯しているとき
3. スターターキーが「ACC」または「LOCK」位置のとき
4. セレクトレバーがP位置のとき

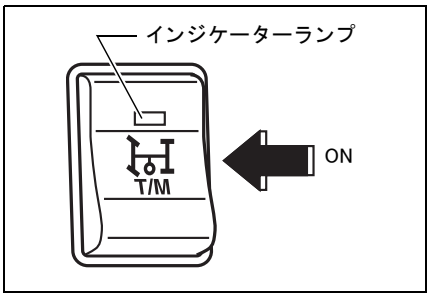
アイドルストップシステムのエンジン自動停止時は、ブレーキペダルから足を離す前に必ず (ABS) ランプが点灯していることを確認してください。

- (ABS) ランプが点滅し、警報が鳴った場合には、アイドルストップキャンセルスイッチを押し (A) OFF ランプが点灯したことを確認し、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
  不意に車輪がロックし、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

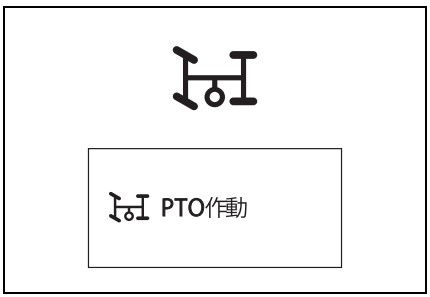
トランスミッション PTO（パワーテイクオフ）★

■トランスミッション PTO（パワーテイクオフ）スイッチ

- トランスミッションからの動力を取り出す PTO の「ON」・「OFF」を行うスイッチです。



- マルチインフォメーション



▶ 接続

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーを「ニュートラル」の位置にします。
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、PTO スイッチを押し込んで「ON」にします。スイッチ内蔵のインジケーターランプの点灯とマルチインフォメーションに“ PTO 作動 ”が表示および ランプが点灯されたことを確認し、クラッチを静かにつなげば PTO の接続ができます。

▶ 解除

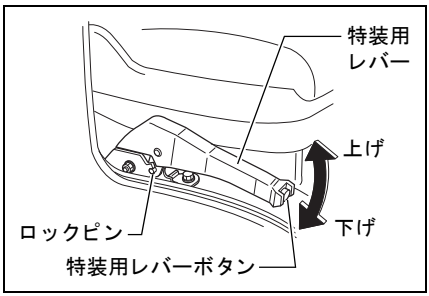
・ クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、PTO スイッチをもう一度押して「OFF」にします。スイッチ内蔵のインジケーターランプの消灯とマルチインフォメーションの“ PTO 作動 ”表示および ランプが消えたことを確認します。

⚠ 注意

- 走行中は、PTO スイッチを「ON」にしないでください。トランスミッションのギヤを破損させるおそれがあります。
- クラッチは急激につなげないでください。クラッチを破損させるおそれがあります。
- 排出ガス浄化装置再生スイッチを押すときは、必ず PTO スイッチを「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が動しません。

＊ オートマチックトランスミッション車のトランスミッション PTO の取り扱いは、〔タイプⅠ（P（パーキング）位置無し）〕、〔タイプⅡ（P（パーキング）位置付き）〕を参照してください。（P.5-34、5-47）

■特装用レバー★



▶ 操作方法

1. クラッチペダルを踏む
2. PTO スイッチ「ON」
3. クラッチをつなぐ

↓

特装用レバーボタンを押したまま

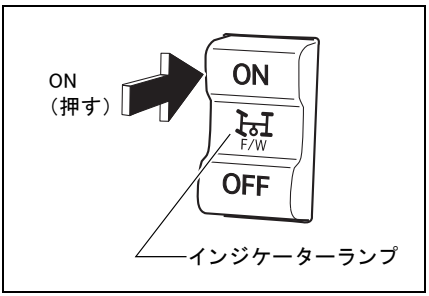
・ レバーを引き上げる — 荷台上昇

・ レバーを押し下げる — 荷台下降

＊ 操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

フライホイール PTO（パワーテイクオフ）★〔消防車〕

■フライホイール PTO（パワーテイクオフ）スイッチ



・ エンジンからの動力を取り出す PTO の「ON」・「OFF」を行うスイッチです。

▶ 接続方法

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーまたはギヤセレクターを N の位置にします。
2. PTO スイッチの「ON」側を押して「ON」にします。

＊ 上記 1. ～ 2. の順番で操作を行わないと、PTO が正常に作動せず、ブザーが鳴ります。

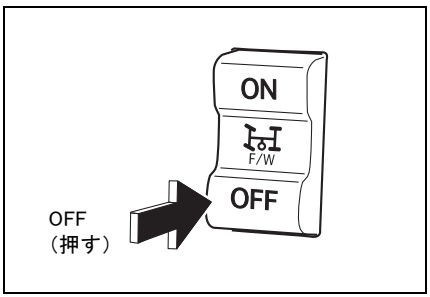
＊ 1. の操作の後に、クラッチペダル★またはアクセルペダルを踏んでいたり、クラッチペダル★またはアクセルペダルから足を離した後 3 秒間は、高回転での接続を防止するため、2. の操作は受け付けません。

知識

発電機搭載車の場合、フライホイール PTO が単独で作動しているときは、アイドリング回転数は約 700 r/min に上昇します。
ただし、トランスミッション PTO ★も同時に作動しているときは、アイドリング回転数は上昇しません。

▶ 解除方法

・ PTO スイッチの「OFF」側を押すと、PTO の作動が停止します。



注意

- PTO の断続操作は必ずアイドリング回転で、架装側の負荷を下げた状態で行ってください。また PTO 接続後は、徐々に負荷を上げるようにしてください。高回転、高負荷での断続や急激な負荷上げ操作は PTO やエンジンへの負担となるばかりでなく、放水等の作業時は操作員に過大な衝撃を与えることになるため、必ず適正な操作方法を守ってください。
- 排出ガス浄化装置再生スイッチを押すときは、必ず PTO スイッチを「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が作動しません。

▶ 警報ブザーが鳴るとき

・ 下記の操作を行うと、警報ブザーが鳴り作動が停止します。

・ チェンジレバーまたはギヤセレクターを N 位置以外にしたとき

・ パーキングブレーキレバーを解除したとき

・ 警報ブザーを止めるには、前記の操作を元に戻して PTO スイッチの「OFF」側を押して、作動を停止させます。

アドバイス

- 作動停止後、再度 PTO を接続するときには次のいずれかの操作を行ってください。

・ PTO スイッチを再び「ON」側にしてください。

・ スターターキーをいったん「ACC」または「LOCK」の位置にした後、再びエンジンを始動させてください。

- エンジン始動直後の急激な高速回転、高負荷運転は、PTO およびエンジンの不調や故障の原因となります。エンジン冷間時には必ず暖機運転を行ってください。

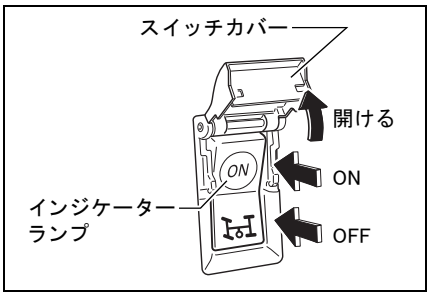
知識

- フライホイール PTO 作動中にアクセルペダルを踏み込んでも、エンジン回転数は上がりません。
- 油圧多板クラッチの構造上、PTO スイッチを入れてから出力軸が回転を開始するまで、またスイッチを切ってから出力軸が完全に停止するまでに多少の時間差がありますが、異常ではありません。
  なお、時間差の長短は架装側の慣性マスや抵抗の大小、エンジンの暖機状態によって異なります。

■非常用フライホイール PTO スイッチ

・ 通常の PTO スイッチの電気回路に断線や故障があったときに、PTO の「ON」・「OFF」を行うスイッチです。

・ スイッチカバーを開け、スイッチの「ON」側を押すと、PTO が作動します。同時にスイッチ内蔵のインジケーターランプが点灯します。



＊ スイッチの「非常用 PTO」側を押すと「OFF」になり、PTO の作動が停止します。

アドバイス

- 緊急時以外は使用しないでください。
- 作業後は、必ずスイッチを「OFF」（解除）にしてください。
- 作業後は、そのまま使用せずにすみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- 車両の点検時は、スイッチが「OFF」になっていることを確認してください。
- 通常時は、スイッチカバーを閉じてください。

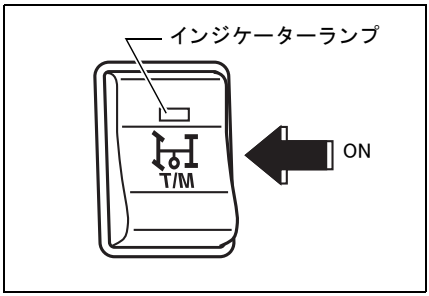
知識

フライホイール PTO が作業時にアクセルペダルを踏み込んでも、エンジン回転数は上がりません。

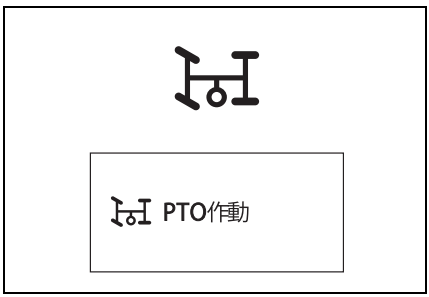
＊ オートマチックトランスミッション車★のフライホイール PTO の取り扱いは（→ P.5-31）

ダンプ★

■PTO（パワーテイクオフ）スイッチ



● マルチインフォメーション



・ トランスミッションからの動力を取り出す PTO の「ON」・「OFF」を行うスイッチです。

▶ 接続

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを N（「P」レンジ付き車は P）の位置にします。
2. マニュアルトランスミッション車は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、PTO スイッチを押し込んで「ON」にします。スイッチ内蔵のインジケーターランプの点灯とマルチインフォメーションに“ PTO 作動 ”が表示および ランプが点灯したことを確認し、クラッチを静かにつなげば PTO の接続ができます。

▶ 解除

・ クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、PTO スイッチをもう一度押して「OFF」にします。スイッチ内蔵のインジケーターランプの消灯とマルチインフォメーションの“ PTO 作動 ”表示および ランプが消えたことを確認します。

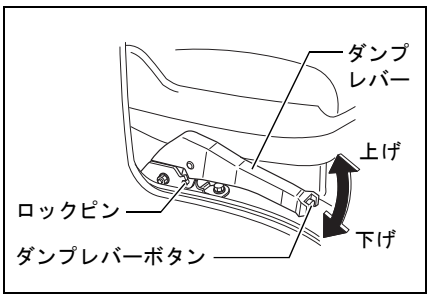
⚠ 注意

- 走行中は PTO スイッチを「ON」にしないでください。トランスミッションのギヤを破損させるおそれがあります。
- クラッチは急激につなげないでください。クラッチを破損させるおそれがあります。
- 排出ガス浄化装置再生スイッチを押すときは、必ず PTO スイッチを「OFF」にしてください。排出ガス浄化装置が作動しません。

■ダンプレバー

・ ダンプ車の荷台を上昇または下降させるレバーです。

・ ダンプレバーボタンを押しながら引き上げると、荷台が上昇します。押し下げると荷台が下降します。



アドバイス

- ダンプレバーはダンプレバーボタンを離すと自動的にロックピンにより「上げ」または「下げ」の位置でロックされます。
- ダンプレバーを押し下げるとエンジンの回転・停止にかかわらず荷台は下降します。

■ダンプ操作（マニュアルトランスミッション車）

ここでは一般的な操作方法を記載します。
ダンプ操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

⚠ 警告

ダンプ操作を行う前に周囲の安全を確認してください。荷台が動いたときに事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

ダンプ操作は静かに行ってください。

▶ ダンプ荷台を上げるとき

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーを「ニュートラル」の位置にします。
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
3. PTO スイッチを「ON」にします。
4. ランプ点灯を確認します。
5. クラッチを徐々につなぎます。
6. ダンプレバーボタンを押したままレバーを引き上げます。（荷台上昇中ブザーが鳴ります）

⚠ 警告

荷台を上げた状態で止めるときは、必ず「上げ」の位置でダンプレバーをロックし、ロックピンが掛かっていることを確認してください。
さらにサブフレームに設けてある安全ブロック（または安全棒）を起こし、サブフレームと荷台との間にはさんでください。荷台が落下し、人がはさまれるおそれがあります。

アドバイス

上昇速度はアクセルペダルの踏み加減で調節してください。

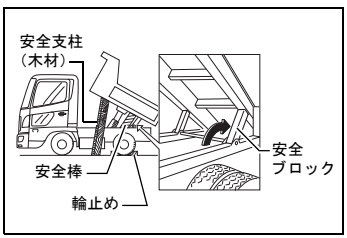
▶ ダンプ荷台を下げるとき

1. ダンプレバーボタンを押したままダンプレバーを押し下げます。（荷台下降）
2. 荷台が完全に下がったらクラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
3. PTO スイッチを「OFF」にします。
4. ランプ消灯を確認します。
5. クラッチペダルから足を離します。

⚠ 警告

- 荷台を上げた状態でダンプコントロール系には絶対に触れないでください。荷台が下がるおそれがあり危険です。
- 上がったままの荷台の下には、点検・整備などのために必要な場合を除き入らないでください。
  荷台を上げたまま荷台の下に入るときは、必ず運転室内のダンプレバーを「上げ」の位置にロックし、安全ブロック（または安全棒）を使用してください。安全処置をしないと荷台が下がってきたとき危険です。
- 下記の事項を守らないと事故につながるおそれがあり危険です。

・ 重整備のときは、安全支柱を必ず併用してください。



・ 点検・整備などで荷台を上げるときは空荷の状態にしてください。
・ 荷台を下げるときは、荷台周囲の安全を確認してからダンプレバーを押し下げてください。
・ 荷台が完全に下がったら、ダンプレバーが「下げ」の位置にあり、ロックピンが確実に掛かっていることを確認してください。
・ 走行するときは、必ず PTO スイッチが「OFF」になっていることおよびダンプレバーが「下げ」の位置でロックされていることを確認してください。

■ダンプ操作（オートマチックトランスミッション車）

ここでは一般的な操作方法を記載します。
ダンプ操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

⚠ 警告

ダンプ操作を行う前に周囲の安全を確認してください。荷台が動いたときに事故につながるおそれがあり危険です。

アドバイス

ダンプ操作は静かに行ってください。

▶ ダンプ荷台を上げるとき

1. パーキングブレーキを確実に効かせ、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車は P）の位置にします。
2. アクセルペダルから足をはなします。
3. PTO スイッチを「ON」にします。
4. ランプ点灯を確認します。
5. ダンプレバーボタンを押したままレバーを引き上げます。（荷台上昇中ブザーが鳴ります）

⚠ 警告

荷台を上げた状態で止めるときは、必ず「上げ」の位置でダンプレバーをロックし、ロックピンが掛かっていることを確認してください。
さらにサブフレームに設けてある安全ブロック（または安全棒）を起こし、サブフレームと荷台との間にはさんでください。荷台が落下し、人がはさまれるおそれがあります。

アドバイス

上昇速度はアクセルペダルの踏み加減で調節してください。

知識

PTO スイッチが「ON」のとき、セレクトレバーを N または P の位置以外にすると PTO は停止します。再度セレクトレバーを N または P の位置にセットすると復帰します。

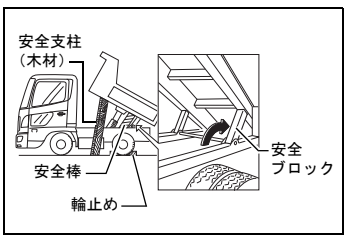
▶ ダンプ荷台を下げるとき

1. ダンプレバーボタンを押したままダンプレバーを押し下げます。（荷台下降）
2. PTO スイッチを「OFF」にします。
3. ランプ消灯を確認します。

⚠ 警告

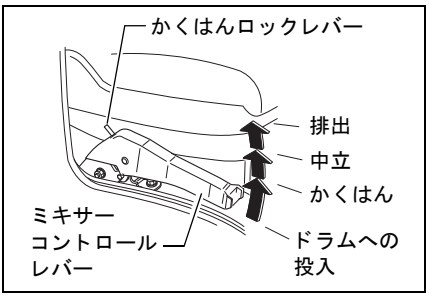
- 荷台を上げた状態でダンプコントロール系には絶対に触れないでください。荷台が下がるおそれがあり危険です。
- 上がったままの荷台の下には、点検・整備などのために必要な場合を除き入らないでください。
  荷台を上げたまま荷台の下に入るときは、必ず運転室内のダンプレバーを「上げ」の位置にロックし、安全ブロック（または安全棒）を使用してください。安全処置をしないと荷台が下がってきたとき危険です。
- 下記の事項を守らないと事故につながるおそれがあり危険です。

・ 重整備のときは、安全支柱を必ず併用してください。



・ 点検・整備などで荷台を上げるときは空荷の状態にしてください。
・ 荷台を下げるときは、荷台周囲の安全を確認してからダンプレバーを押し下げてください。
・ 荷台が完全に下がったら、ダンプレバーが「下げ」の位置にあり、ロックピンが確実に掛かっていることを確認してください。
・ 走行するときは、必ず PTO スイッチが「OFF」になっていることおよびダンプレバーが「下げ」の位置でロックされていることを確認してください。

ミキサー★



ここでは一般的な操作方法を記載します。
ミキサー操作および取り扱いの詳細については、架装メーカーの「取扱説明書」をご覧ください。

- ドラムへの投入、かくはん、中立、排出などの操作を行うレバーです。
- ミキサーコントロールレバーをいっぱいまで引き上げると「排出」位置になります。一段階押し下げると「かくはん」、「中立」位置になります。さらに押し下げると「ドラムへの投入」位置になります。
- 運搬中など、ミキサーコントロールレバーを「かくはん」位置でロックする場合は、「かくはん」位置まで引き上げ、かくはんロックレバーを下げて固定します。

アドバイス

ミキサーコントロールレバーが「かくはん」位置でロックされている状態から、ミキサーコントロールレバーを「投入」位置側へ押し下げるとロックが解除されます。

ブレーキロック（作業用補助制動装置）★

この装置は、エンジンをかけたままで一時停車して各種作業を行うときに、パーキングブレーキと併用して使用するものです。
パーキングブレーキレバーを引き、ブレーキロックを作動させることにより直接全輪のホイールブレーキに制動力を発生させます。

⚠警告

- 作業時以外はブレーキロックを使用しないでください。
- パーキングブレーキを確実に効かせてから使用してください。
- パーキングブレーキのみで停止できない急な坂道では、使用しないでください。
- エンジンをかけたままで使用してください。使用中はエンジンを止めないでください。
- 必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- 使用しているときは、車の近くから離れないでください。

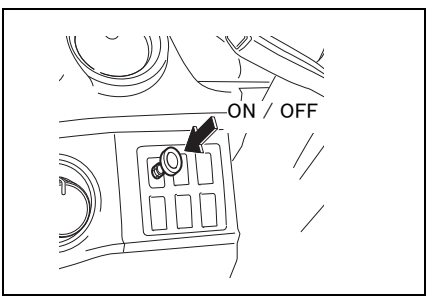
⚠ 注意

ブレーキロックは、パーキングブレーキではありません。パーキングブレーキとは使用目的が異なりますので、次の事項を厳守し使用してください。

- 連続 1 時間以上は使用しないでください。ブレーキ装置のゴム部品の劣化を早め、ブレーキカを低下させる原因になります。
- 使用中にブザーが鳴ったときは、すぐに使用を中止して車を安全な場所に移動してから、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
- この装置はブレーキ装置の各部品に大きな負担がかかりますので、安全のため定期点検時、必ず定期交換部品（別冊の「メンテナンスノート」を参照してください）の交換をしてください。

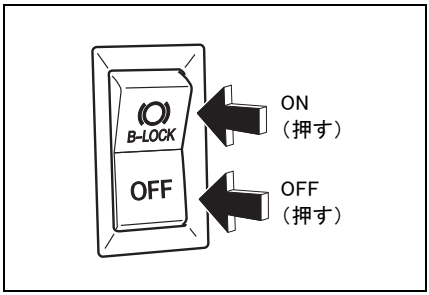
■ブレーキロックコントロールノブ（FC・FD・GC・GD・FX・GX 車の場合）

ブレーキロックの「ON」・「OFF」を行うスイッチです。



■ブレーキロックコントロールスイッチ（FE・FJ 車の場合）

ブレーキロックの「ON」・「OFF」を行うスイッチです。



● マルチインフォメーション

（作動準備）

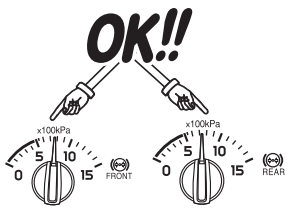


（圧力保持）



■操作方法

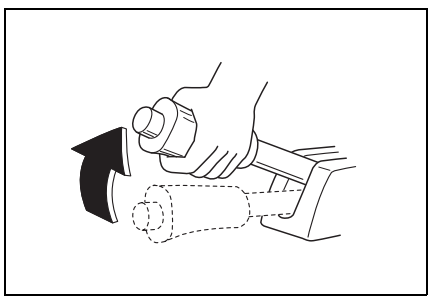
1. エンジンが回転していることを確認します。
2. 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）の指針が 780 kPa｛8.0 kgf/cm^2｝以上示していることを確認します。



空気圧が 780 kPa｛8.0 kgf/cm^2｝以上であること

3. パーキングブレーキレバーを確実に引き上げます。マルチインフォメーションに“ Ⓟ B-LOCK ブレーキロック準備 ”が表示され、メーターパネル内の (Ⓟ) ランプが点灯することを確認します。

〔例〕





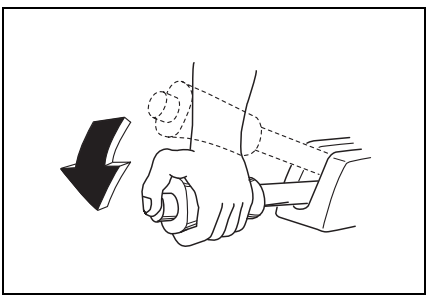
4. ブレーキロックコントロールノブを押し込む、またはスイッチを「ON」側に押すと、マルチインフォメーションに“ ◯ B-LOCK ブレーキロック作動 ”が表示され、メーターパネル内の (Ⓟ) ランプが点灯していればブレーキロックは作動しています。



■解除方法

1. ブレーキロックコントロールノブを引く、またはスイッチの「OFF」側を押すとブレーキロックは解除され、マルチインフォメーションの“ (◯) B-LOCK ブレーキロック作動 ”表示が消灯します。
   なお、坂道で解除する場合は必ずブレーキペダルを踏み込んだまま解除してください。
2. パーキングブレーキレバーを下げるとマルチインフォメーションの“ (Ⓟ) B-LOCK ブレーキロック準備 ”表示とパーキングブレーキウォーニングランプ (Ⓟ) が消灯し、パーキングブレーキも解除されます。

〔例〕



⚠警告

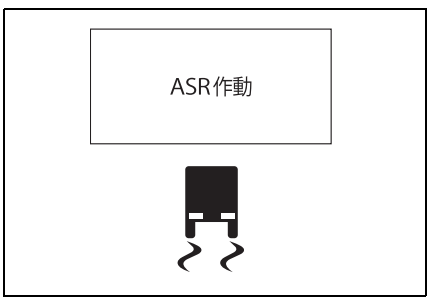
ブレーキロックを解除するときは、先にブレーキロックコントロールノブまたはスイッチを「OFF」の位置にしてから、パーキングブレーキレバーを下げてください。逆の順序で解除すると車が動き出すおそれがあります。

ASR（アンチスリップレギュレーションシステム）★

この装置は、積雪路・氷結路などの滑りやすい路面で、駆動輪の空転を減少させ、発進・加速性、直進性、登坂性を向上させます。
「ASR 付き車の運転上の注意」は（→ P.9-13）

■機能

- 駆動輪のスリップを検知し、スリップしている車輪の駆動力をコントロールします。また、左右両輪の空転状態が続くと、エンジンコントロールが働き、回転数を下げることにより発生トルクを抑制します。
- ASR 作動時は ランプが点滅、およびマルチインフォメーションに“ASR 作動 ”を表示し、路面が滑りやすい状態にあることを知らせます。



■VSC / ASR OFF スイッチ

▶ VSC / ASR OFF スイッチの使い方

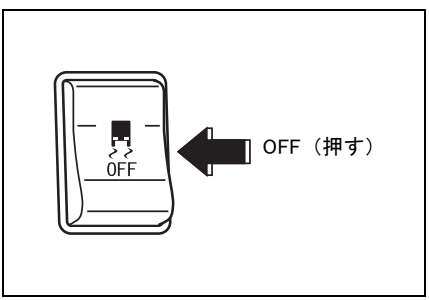
・ VSC / ASR OFF スイッチは、次のようなときに一時的に使用すると便利です。

・ 積載時に滑りやすい上り坂を走行するとき

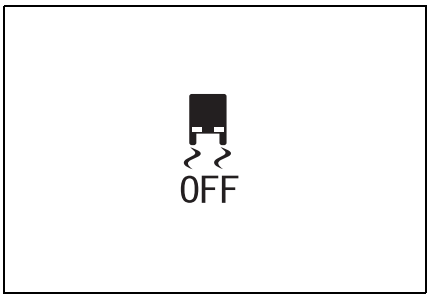
・ 積載時に滑りやすい路面で加速するとき

・ 空車で走行中に、路面の凹凸により駆動輪がはね上がり空転し、ASR のエンジン回転数抑制が作動してしまい、走りづらいとき

・ VSC/ASR OFF スイッチを押し込むと VSC/ASR が作動しなくなります。同時にメーターパネル内の OFF ランプが点灯（FE・FJ 車以外）または ランプおよび OFF ランプが点灯（FE・FJ 車）します。もう一度押すと VSC/ASR が復帰（作動状態）し、メーターパネル内の OFF ランプが消灯（FE・FJ 車以外）または ランプおよび OFF ランプが消灯（FE・FJ 車）します。



● インジケーターランプ



＊ VSC/ASR OFF スイッチが押された状態では、VSC も同時に解除されます。（→ P.5-119）

＊ 必要なくなったときは、すみやかに VSC/ASR OFF スイッチをもう一度押して ASR の作動状態に戻しておいてください。

VSC（ビークルスタビリティコントロール）

この装置は、急な運転操作や、旋回時などによって発生する車両のロール現象を軽減したり（RS アシスト機能）、スピン現象の主な原因となる車両の横滑りを軽減します。

知識

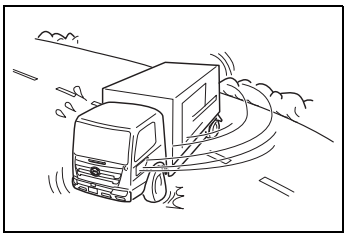
● VSC（ビークルスタビリティコントロール）とは

VSC- 車両安定制御システム。
予期せぬ障害物を避けるための急なハンドル操作時や、カーブ走行中の急なハンドル切り増し時など車両に大きな横加速度が発生したときに、場合によっては横転の危険があります。また、雪路などの滑りやすい路面でアクセル・クラッチ・ブレーキおよびハンドルの急な操作を行った場合に車両が横滑りして、場合によってはスピン現象が発生するおそれがあります。
この装置は、このような車両の危険状態を感知し、作動ブザーで運転者に知らせるとともに、必要に応じてエンジン、およびトラックのブレーキを制御し、横転およびスピン現象の危険性を軽減させるものです。

知識

● スピンとは

・ ヨーレイトが急増し、巻き込み状態になる現象。



・ トラックの後輪がロックすると発生することがあります。

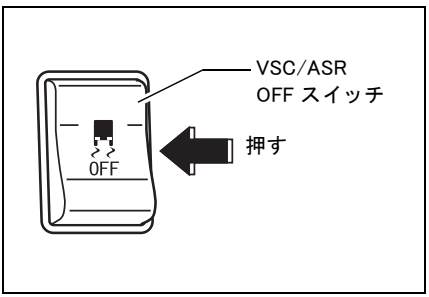
● ロールとは

走行中の車両が旋回したり横風を受けたときに、遠心力や風圧で車両が横方向に傾く現象。

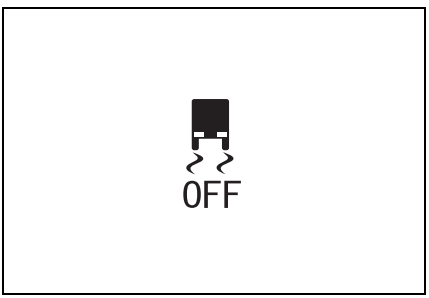
■VSC 機能を解除したいとき

・ VSC/ASR OFF スイッチを押し込むと VSC が作動しなくなります。同時にメーター内の OFF ランプが点灯（FE・FJ 車以外）または ランプおよび OFF ランプが点灯（FE・FJ 車）します。もう一度押すと VSC が復帰（作動状態）し、OFF ランプが消灯（FE・FJ 車以外）または ランプおよび OFF ランプが消灯（FE・FJ 車）します。

＊ VSC やその他のシステムに異常のある場合、 ランプが点灯します。 ランプが点灯したときは（→ P.6-90）



● インジケーターランプ

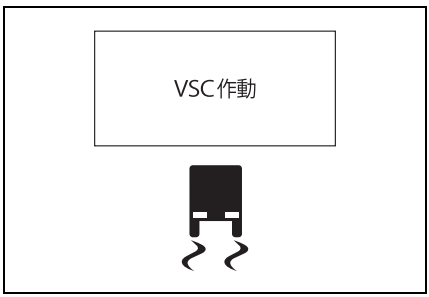


■作動警報

・ 車両に過度の横 G や、横滑りが発生したことを検出すると VSC が作動し、ブザーが吹鳴します。

・ VSC の作動時はメーター内の が点滅、マルチインフォメーションに“VSC 作動”を表示し、同時にブザーが吹鳴します。

● マルチインフォメーション・インジケーターランプ



■システムの異常

・ VSC システムに異常が発生した場合、メーター内のが 点灯します。

⚠警告

- VSC はあらゆる状況において、横転やスピン現象を回避するものではありません。常に法定速度を守り、安全運転を心掛けてください。
  また、以下のような状況では VSC が作動しなかったり、作動してもその効果が十分に得られない場合があり危険です。
- 速度が限界を超えているとき
- 非常に滑りやすい凍結した路面等を走行しているとき
- 横風・脱輪・パンクなど、旋回以外の危険要因が生じたとき
- 過積載や後荷、高荷など、荷の積み方が適正でない場合
- トラックのブレーキが整備不良の場合

アドバイス

通常走行時は、必ず VSC/ASR OFF スイッチを VSC の作動状態（ OFF ランプ消灯）にしておいてください。
スターターキーを「ON」の位置にした初期状態では VSC は作動状態になります。

アイドルストップシステム★〔マニュアルトランスミッション車〕

この装置は、車両が渋滞や信号待ちなど（エンジンがアイドリング回転）の停車時に、自動的にエンジンを停止させ、燃料の節約および排出ガスの低減を図り、発進操作時には自動的にエンジンを始動するシステムです。

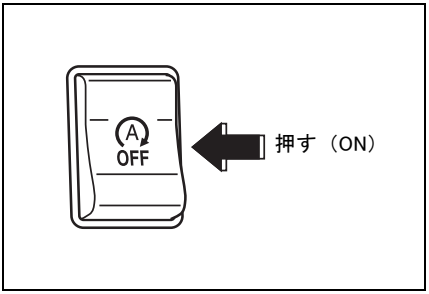
⚠警告

- エンジン自動停止中は、必ずブレーキペダルを踏んだままにしておいてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席を離れるときは、スターターキーを「LOCK」の位置にし、パーキングブレーキレバーを確実に引いてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

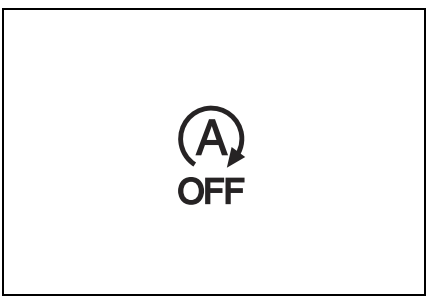
長時間停車するときは、スターターキーを「LOCK」の位置にしてください。自動停止のまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■アイドルストップキャンセルスイッチ



- スイッチを押すとアイドルストップシステムが作動しなくなります。同時にマルチインフォメーションの Ⓐ OFF ランプが点灯します。もう一度押すとアイドルストップシステムが復帰（作動状態）し、Ⓐ OFF ランプが消灯します。
  アイドルストップシステムが作動していない状態のままスターターキーを「LOCK」の位置にしたあと、再度始動したときはアイドルストップシステムは作動状態に戻っています。
- 自動停止中にアイドルストップキャンセルスイッチを押してからエンジンを始動すると、始動後にアイドルストップキャンセルします。

● インジケーターランプ



■エンジンの自動停止と自動始動

▶ 自動停止するとき

アイドルストップキャンセルスイッチが「アイドルストップ」側に押されていて、下記の全ての条件が満たされるとエンジンが自動停止します。

- システムに異常がない
- Ⓐ OFF ランプが消灯している
- Ⓐ OFF ランプが消灯してから 10 km/h 以上で走行した
- エア圧が十分ある
- エア配管に異常がない
- 暖機運転が終わっている
- 排出ガス浄化装置がクリーニングモードではない
- バッテリーの状態が良好である
- エンジンがアイドリング回転である
- 停車中（タイヤロックや急停車などせず、正常に停車した）
- 高負荷走行直後でない
- チェンジレバーが「ニュートラル」位置にある
- クラッチペダルから足を離している
- PTO スイッチが押されていない
- ハンドルを一定角度以上回していない
- バック走行後でない
- ターンシグナルランプまたはハザードランプが点滅していない
- 外気温度が低くないとき

- バッテリーが古くなく、十分な電流を流せる性能を確保しているとき
- エアコンが最大風量ではない（フルオートエアコン搭載車のみ）

アドバイス

ハンドルを回したままでエンジンを停止すると、パワーステアリングのアシストが停止するため、ハンドルにキックバック（跳ね返し衝撃）が発生します。ハンドルを回したままのときは、クラッチペダルを踏み続けるなどして自動停止しないように注意してください。

知識

- ヒーター・エアコン使用時にエンジンが自動停止したときは、ブロアモーターのみ作動し、約 1 分（マニュアルエアコン搭載車）または約 90 秒（フルオートエアコン搭載車）経過後自動的に停止します。
- 排出ガス浄化装置再生スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集されたすすを燃焼（再生）させるために車両を停車させたときに、アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」になっていると、エンジンの自動停止の条件が満たされていればエンジンは自動停止します。その際は、スタータースイッチにてエンジンを再始動させてください。
  排出ガス浄化装置再生スイッチの取り扱いについては（→ P.5-80）

▶ 自動始動するとき

アイドルストップキャンセルスイッチが「アイドルストップ」側に押されていて、自動停止中に下記の全ての条件が満たされるとエンジンが自動始動します。

- Ⓐ OFF ランプが消灯している
- チェンジレバーが「ニュートラル」位置にある
- クラッチペダルを踏んだ

⚠ 警告

安全のため、エンジンが確実に始動するまでブレーキペダルから足を離さないでください。車が動き出すおそれがあり、思わぬ事故につながります。

アドバイス

- クラッチペダルを踏んでもエンジンが始動しないときは、もう一度クラッチペダルを踏んでください。（クラッチペダルを踏み続けても自動始動しますが、踏み直すほうが早く自動始動することができます。）
- クラッチペダルを何度踏んでもエンジンが始動しないときは、スターターキーを回して手動で始動してください。
- エンジンが自動停止した直後にクラッチペダルを踏み込むと、自動始動が一瞬遅れることがありますが、これは機構上、エンジンが完全に停止してから始動するためであり、異常ではありません。
- エンジンが自動始動する前にチェンジレバーを「ニュートラル」位置以外に操作すると、エンジンが自動始動されません。このようなときは、いったんチェンジレバーを「ニュートラル」位置にしてからクラッチペダルを踏み直してください。なお、ギヤ入れ直後の一定時間内にクラッチを踏んだ場合は自動始動可能です。これにより、素早い操作でも確実にエンジン始動が可能になります。
- スターターキーを「ON」の位置にしたとき、Ⓐ OFF ランプが点滅し、その後点灯およびマルチインフォメーションに 🔧 ランプが点灯し、“ 🔧 スタータ・スタータリレー交換時期 ”を表示したときは、スターターメンテナンス時期であることを知らせています。最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。Ⓐ OFF ランプが点灯しているときはアイドルストップシステムは使用できません。スター関連部品の整備については（→P.13-19）

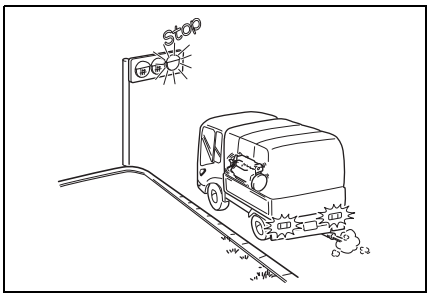
■アイドルストップ（エンジン自動停止と自動始動）の操作手順

・ アイドルストップキャンセルスイッチが「アイドルストップ」側に押されていて Ⓐ OFF ランプが消灯していることを確認します。

走　行

↓

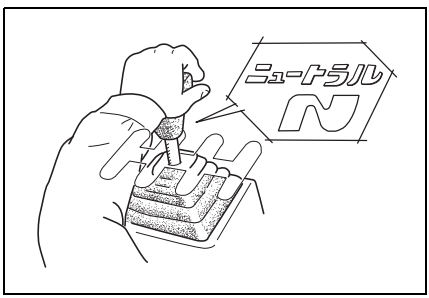
車　両　停　止



↓

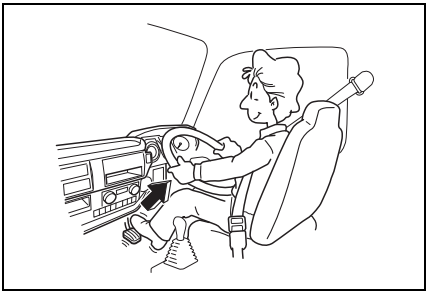
アイドルストップ

1. チェンジレバーをニュートラルにする



↓

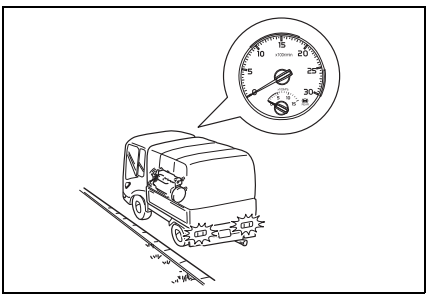
2. クラッチペダルから足を完全に離す



↓

3. エンジン自動停止

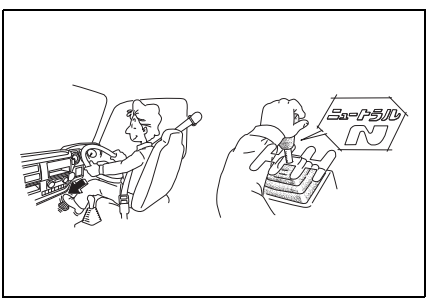
＊ 安全のためブレーキペダルを踏んだままにしておいてください。



エンジンが自動停止しないときは、自動停止するときの条件を参照してください。（→ P.5-122）

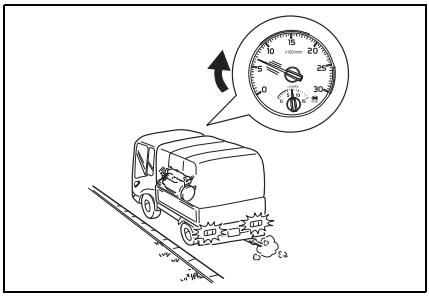
↓

4. クラッチペダルを踏み込む（チェンジレバーはニュートラル）



↓

5. エンジン自動始動



＊ エンジンが自動始動しないときは、自動始動するときの条件を参照してください。（→ P.5-123）

6. チェンジレバーを操作する

↓

走　行

アイドルストップシステム★〔オートマチックトランスミッション車〕

この装置は、車両が渋滞や信号待ちなど（エンジンがアイドリング回転）の停車時に、自動的にエンジンを停止させ、燃料の節約および排出ガスの低減を図り、発進操作時には自動的にエンジンを始動するシステムです。

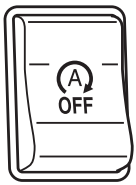
⚠ 警告

- エンジン自動停止中は、必ずブレーキペダルを踏んだままにしておいてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 運転席を離れるときは、スターターキーを「LOCK」の位置にし、パーキングブレーキレバーを確実に引いてください。車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

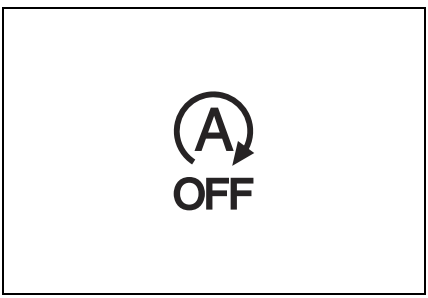
長時間停車するときは、スターターキーを「LOCK」の位置にしてください。自動停止のまま放置するとバッテリーあがりの原因になります。

■アイドルストップキャンセルスイッチ



・ スイッチを押し込むとアイドルストップシステムが作動しなくなります。同時にマルチインフォメーションの Ⓐ OFF ランプが点灯します。もう一度押すとアイドルストップシステムが復帰（作動状態）し、Ⓐ OFF ランプが消灯します。
アイドルストップシステムが作動していない状態のままスターターキーを「LOCK」の位置にしたあと、再度始動したときはアイドルストップシステムは作動状態に戻っています。

● インジケーターランプ



■エンジンの自動停止と自動始動

▶ 自動停止するとき

アイドルストップキャンセルスイッチが「アイドルストップ」側に押されていて、下記の全ての条件が満たされるとエンジンが自動停止します。

- システムに異常がない
- Ⓐ OFF ランプが消灯している
- Ⓐ OFF ランプが消灯してから 10 km/h 以上で走行した
- エア圧が十分ある
- エア配管に異常がない
- 暖機運転が終わっている
- 排出ガス浄化装置がクリーニングモードではない
- バッテリーの状態が良好である
- エンジンがアイドリング回転である
- 停車中（タイヤロックや急停車などせず、正常に停車した）
- 高負荷走行直後でない
- セレクトレバーが「D」、「3」、「2」または「L」位置にある
- ブレーキペダルを確実に踏み込んでいる
- PTO スイッチが押されていない
- ハンドルを一定角度以上回していない
- バック走行後でない
- ターンシグナルランプまたはハザードランプが点滅していない
- 外気温度が低くないとき
- バッテリーが古くなく、十分な電流を流せる性能を確保しているとき
- 停車した場所が急勾配のある場所でないとき
- エアコンが最大風量ではない（フルオートエアコン搭載車のみ）

アドバイス

- ハンドルを回したままでエンジンを停止すると、パワーステアリングのアシストが停止するため、ハンドルにキックバック（跳ね返し衝撃）が発生します。ハンドルを回したままのときは、セレクトレバーを「N」位置にするなどして自動停止しないように注意してください。
- エンジンが自動停止した直後にブレーキペダルから足を離すと、エンジン始動が若干遅れることがありますがこれは機構上、エンジンが完全に停止してから始動するためであり異常ではありません。

知識

- ヒーター・エアコン使用時にエンジンが自動停止したときは、ブロアモーターのみ作動し、約1分（マニュアルエアコン搭載車）または約90秒（フルオートエアコン搭載車）経過後自動的に停止します。
- 排出ガス浄化装置再生スイッチを押して排出ガス浄化装置に捕集されたすすを燃焼（再生）させるために車両を停車させたときに、アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」になっていると、エンジンの自動停止の条件が満たされていればエンジンは自動停止します。その際は、スタータースイッチにてエンジンを再始動させてください。排出ガス浄化装置再生スイッチの取り扱いについては（→ P.5-80）

▶ 自動始動するとき

アイドルストップキャンセルスイッチが「アイドルストップ」側に押されていて、Ⓐ OFF ランプが消灯している自動停止中に下記のいずれかの条件を満たすとエンジンが自動始動します。

- ブレーキペダルから足を離す
- セレクトレバーが「D」、「3」、「2」または「L」位置以外にシフトした
- アイドルストップキャンセルスイッチを押した

アドバイス

- ブレーキペダルから足を離してもエンジンが始動しないときは、もう一度ブレーキペダルを踏んでください。（ブレーキペダルから足を離し続けても自動始動しますが、踏み直すほうが早く自動始動することができます。）
- ブレーキペダルを何度踏み直してもエンジンが始動しないときは、セレクトレバーを「N」位置にし、スターターキーを回して手動で始動してください。
- エンジンが自動停止した直後にブレーキペダルから足を離すと、自動始動が一瞬遅れることがありますが、これは機構上、エンジンが完全に停止してから始動するためであり、異常ではありません。
- エンジンが自動始動する前にセレクトレバーを「D」、「3」、「2」または「L」位置以外に操作すると、エンジンが自動始動されます。
- 自動始動直後は、急発進を防ぐため、アクセルペダルを踏んでも、すぐにエンジン回転数が上昇しないように制御されています。
- スターターキーを「ON」の位置にしたとき、Ⓐ OFF ランプが点滅し、その後点灯およびマルチインフォメーションに 🔧 ランプが点灯し、“🔧 スタータ・スタータリレー交換時期”を表示したときは、スターターメンテナンス時期であることを知らせています。最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。Ⓐ OFF ランプが点灯しているときはアイドルストップシステムは使用できません。スターター関連部品の整備については（→ P.13-19）

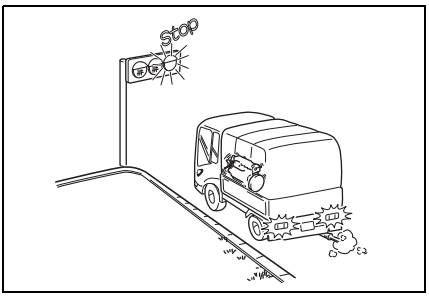
■**アイドルストップ（エンジン自動停止と自動始動）の操作手順**

・ アイドルストップキャンセルスイッチが「アイドルストップ」側に押されていて Ⓐ OFF ランプが消灯していることを確認します。

走　行

↓

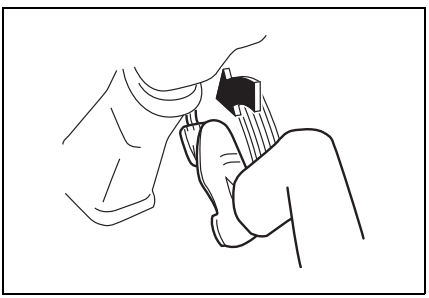
車　両　停　止



↓

アイドルストップ

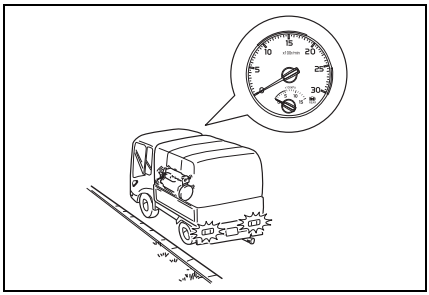
1. セレクトレバーを「D」、「3」、「2」または「L」位置のままにし、ブレーキペダルを踏み続ける。



↓

2. エンジン自動停止

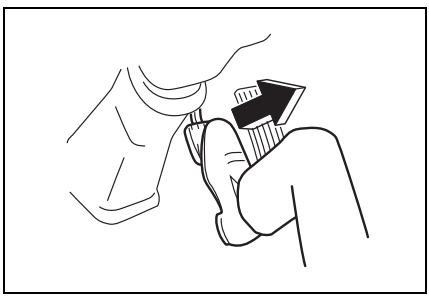
＊ 安全のため確実にブレーキペダルを踏んだままにしておいてください。



エンジンが自動停止しないときは、自動停止するときの条件を参照してください。（→ P.5-127）

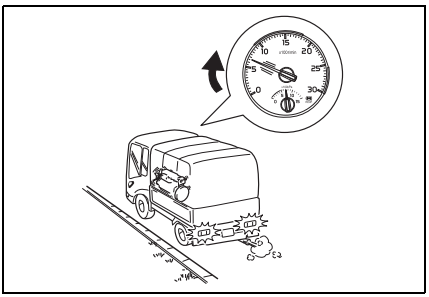
↓

3. ブレーキペダルから足を離す



↓

4. エンジン自動始動



＊ エンジンが自動始動しないときは、自動始動するときの条件を参照してください。（→ P.5-128）

↓

走　行

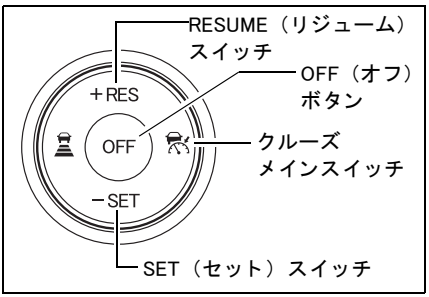
FS スピードリミッター★

・ この装置は、車の走行状態および車速を電子制御によりコントロールします。下限車速は約 35 km/h（MT 車）または約 50 km/h（AT 車）から法定速度上限までの範囲において、運転者が任意に設定できるスピードリミッターです。

⚠ 警告

- FS スピードリミッターは運転者が設定した車速が上限となるように設計されていますが、下り坂など条件によっては設定した車速を上回る場合があります。本システムの作動中も、運転者は常に安全運転を行ってください。
- 高速道路では、事前に FS スピードリミッターを解除しておき、本線への合流が完了するまで FS スピードリミッターを使用しないでください。適切な速度に設定されないままで本線に合流しようとすると FS スピードリミッターが意図せずに作動することにつながります。この結果、適切な合流速度に達せず、事故につながるおそれがあります。また、FS スピードリミッターは各道路の最低速度以上にセットしてください。道路状況に合った速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。

■スイッチ類



● クルーズメインスイッチ

クルーズの作動準備と解除を行うスイッチです。クルーズが作動準備状態（60 ランプ、60 ランプ点灯）のときは、FS スピードリミッターは使用できません。

● RESUME（リジューム）スイッチ

FS スピードリミッター制御の一時解除から制御再開をすることができます。また、セット車速の増速を行うスイッチです。

● OFF（オフ）ボタン

FS スピードリミッター制御を一時解除することができます。

● SET（セット）スイッチ

FS スピードリミッターのセット車速の設定と、セット車速の減速を行うスイッチです。

知識

FS スピードリミッターは RESUME（リジューム）スイッチ、OFF（オフ）ボタン、SET（セット）スイッチを操作することで、約 35 km/h（MT 車）または約 50 km/h（AT 車）から法定速度上限の範囲にセットされた車速のスピードリミッターが作動します。車速が約 30 km/h 以下の走行中では、RESUME（リジューム）スイッチおよび SET（セット）スイッチは使用できません。OFF（オフ）ボタンは車速にかかわらず使用できます。

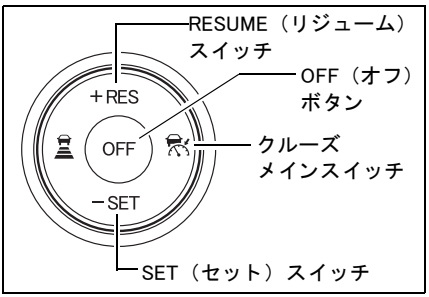
■マルチインフォメーション／インジケーターランプ

マルチインフォメーションにリミッター車速やインジケーターランプを表示します。



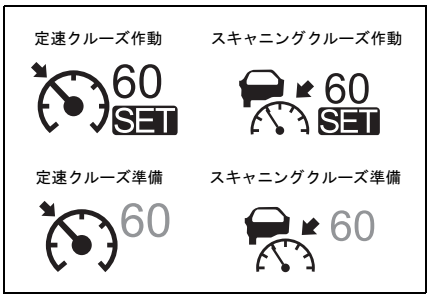


■操作方法



▶ 車速セットのしかた

1. クルーズが解除されていることを確認します。（60 SETランプ、60 SETランプ、60 ランプ、および60 ランプ消灯）



2. 通常走行中に SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押すと、そのときの車速が FS スピードリミッター車速にセットされます。同時に SLD ランプおよび SLD ランプが点灯、およびリミッタ車速が表示し FS スピードリミッターが作動します。

＊ 停車中でも車速をセットまたは変更することができます。

知識

停車中でも SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押すとマルチインフォメーションにリミット車速が表示され、走行前にスピードリミッター車速を設定することができます。

3. アクセルを戻す、もしくは減速して 2. でセットした車速より実車速が落ちた場合、SLD ランプが消灯します。

▶ FS スピードリミッター車速の変更

FS スピードリミッター制御中（SLD ランプ点灯中）、セットした FS スピードリミッター車速を変更できます。

● 増速したいとき

〔チップアップ〕

RESUME（リジューム）スイッチを押しすぐ戻す（0.5 秒以内）ことにより、設定車速を 1 km/h ずつ増加させることができます。

〔セットアクセル〕

RESUME（リジューム）スイッチを 0.5 秒以上押すと FS スピードリミッター設定車速を 5 km/h ずつ増加させることができます。

● 減速したいとき

〔チップダウン〕

SET（セット）スイッチを押しすぐ戻す（0.5 秒以内）ことにより、設定車速を 1 km/h ずつ減らすことができます。

〔セットコースト〕

SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押すと FS スピードリミッター設定車速を 5 km/h ずつ減らすことができます。

〔再セット〕

設定車速より低い車速で走行中、SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押しセットコーストになる直前にスイッチを戻すことにより、その時の車速を設定車速に設定することができます。

▶ FS スピードリミッターの解除

次のいずれかのとき解除されます。（SLD ランプ消灯）

㋑ OFF（オフ）ボタンを押したとき

㋺ クルーズメインスイッチを 0.5 秒以上押したとき（60 ランプ、または 60 ランプ点灯、SLD ランプ消灯）

㋩ FS スピードリミッターのシステムに異常が発生したとき

㋥ スターターキーを「LOCK」位置にしたとき

㋭ マルチインフォメーションの車両システム各種設定機能で FS スピードリミッターの動作設定を変更したとき

● FS スピードリミッターの復帰のしかた

RESUME（リジューム）スイッチを押すことにより、前回設定していた車速がセットされ SLD ランプが点灯します。ただし、現走行車速が前回セットした車速より 40 km/h 以上高い場合は急減速防止で FS スピードリミッターは復帰しません。

＊ 車両が停車中に FS スピードリミッターを解除した場合は、前回設定していた車速には復帰しません。

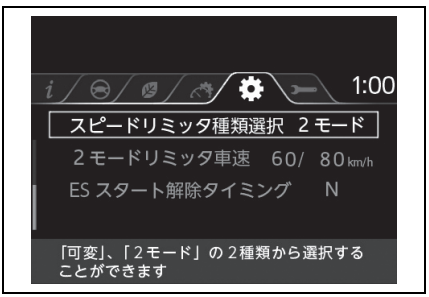
▶ FS スピードリミッターの動作設定の変更

マルチインフォメーションの車両システム各種設定タブの安全運転支援機能の設定画面から、FS スピードリミッターの動作設定を「2 モード」にすることにより、あらかじめ設定した 2 パターンのセット車速を選択し作動させるように設定できます。

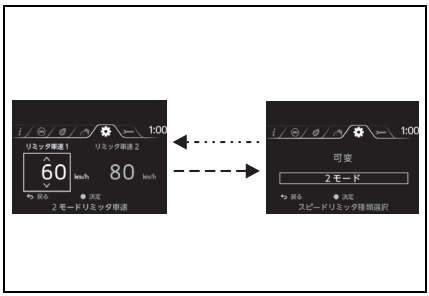
＊ 安全運転支援機能の設定画面の表示方法については（→ P.6-38）

● 設定方法

1. 安全運転支援機能の設定画面が表示されているときステアリングスイッチの決定ボタンを押してスピードリミッタ種類選択設定画面を表示させます。



2. 「2 モード」を選択したら、ステアリングスイッチの決定ボタンを押して決定します。決定すると画面がリミッタ車速設定画面に移ります。



3. それぞれのリミッタ車速を設定したら、ステアリングスイッチの決定ボタンを押して、決定すると画面が安全運転支援機能の設定画面に戻ります。

● 車速の切り替え方法

SET（セット）スイッチまたは RESUME（リジューム）スイッチを 0.5 秒以上押すと、それぞれ増加または減少させることができます。

■リミッター連動補助ブレーキ

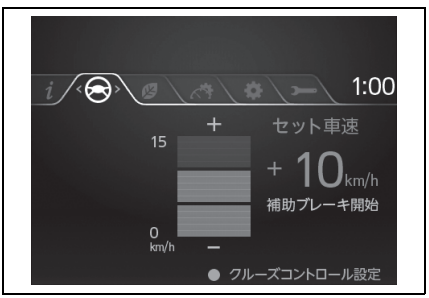
セットした車速を超えると補助ブレーキを自動的に制御し、セットした車速へ減速します。

● リミッター連動補助ブレーキの設定

・ マルチインフォメーションの安全運転支援情報タブから、リミッター連動補助ブレーキの作動車速を任意に設定することができます。

＊ 安全運転支援情報タブの表示方法については（→ P.6-33）

1. 安全運転支援情報タブが表示されているときステアリングスイッチの決定ボタンを押してリミッター連動補助ブレーキ設定画面を表示させます。



2. RESUME（リジューム）スイッチ、SET（セット）スイッチを押して、任意の車速に設定します。RESUME（リジューム）スイッチを押すと作動車速を 1 km/h ずつ増加することができ、SET（セット）スイッチを押すと作動車速を 1 km/h ずつ減らすことができます。

3. 車速を設定したら、決定ボタンを押して決定します。決定すると画面が安全運転支援情報タブに戻ります。

・ 走行モードがエコモードのときに、リミッター連動補助ブレーキを解除することができます。（一時的にリミッター連動補助ブレーキを解除したいときに有効です。）

＊ お客様のご希望により、最寄りの日野販売会社の整備工場で設定することができます。

＊ 詳しくは、最寄りの日野販売会社の整備工場へご相談ください。

▶ 標識連動型車速制御システム

この機能は、高速走行時に認識した速度標識の速度を FS スピードリミッターのセット車速に設定することで、速度超過による事故を防止することを目的としています。

高速道路などの自動車専用道路にて、FS スピードリミッターが作動状態で走行中に、60 km/h 以上の速度標識を認識した場合に作動し、ドライバがスイッチ操作によってセット車速の変更を承認した場合に、速度を制御し、制限速度を上限とした走行を支援するシステムです。

⚠ 警告

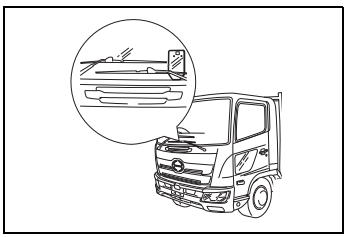
■ 車速について

- 道路状況や周辺環境に応じた適切な車速を設定し、制限速度を守ってください。
- 走行車速より低い車速に車速設定した場合、システムにより減速が行われます。システムを使用する場合は、必ず周囲の安全を確認してください。

⚠ 警告

■ 画像センサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、画像センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウは常にきれいにしておく
  - フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
  - フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、画像センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
  - フロントウインドウガラス内側の画像センサー取り付け部が汚れた場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。
  - フロントウインドウガラスの画像センサー前部にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。



- フロントウインドウガラスの画像センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く

⚠警告

- フロントウインドウガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーブレードのゴムまたはワイパーブレードを交換する

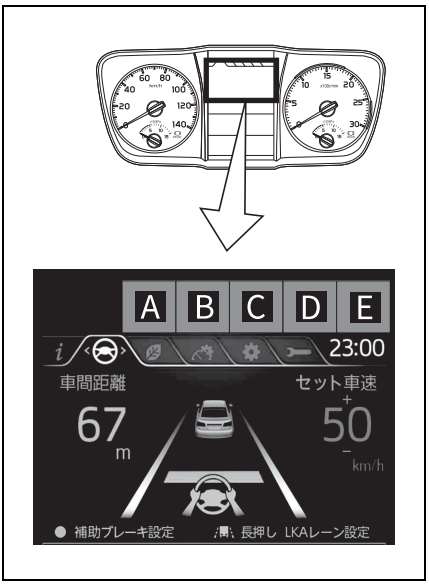
・ ワイパーブレードの交換（→ P.13-94）

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- 日野純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する。フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

⚠警告

- 画像センサーに液体をかけない
- 画像センサーに強い光を照射しない
- 画像センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 画像センサーに強い衝撃を加えない
- 画像センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 画像センサーを分解しない
- 画像センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどの画像センサー周辺部品や天井を改造しない
- ルーフ・フロントバンパーに、画像センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない。詳しくは日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 全長の長い荷物を積むときは、画像センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■マルチインフォメーション



● エリアB

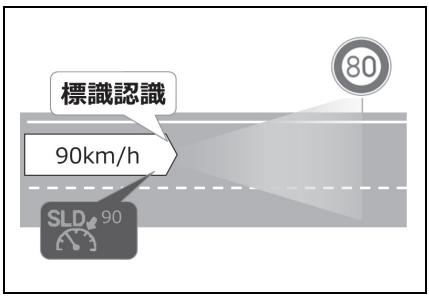
状態	メーター表示標識
リミッター車速のセット可能状態	白
車速セット中の状態	緑

告知される道路標識などの種類やエリアA～Eまでの詳しい内容については（→P.5-196）

■作動手順

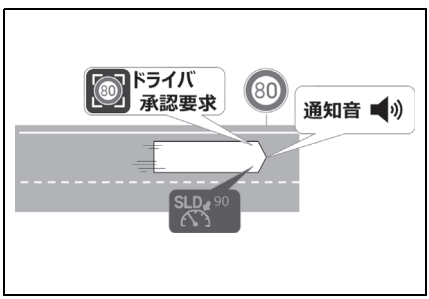
1. FSスピードリミッター作動中に画像センサーが速度標識を認識すると、標識を通過した後、メーター上にその速度標識とドライバー承認要求マークが表示され、通知音でお知らせします。

制限速度更新音設定で通知音のON/OFFを切り替えることができます。（→P.6-41）



自車：90 km/h

メーター：標識認識中



メーター：ドライバ承認要求中

ブザー：通知音吹鳴

■作動条件

- メーター設定画面で標識認識設定が ON に設定されているとき
- FS スピードリミッターの設定が可変モードであるとき
- FS スピードリミッターがセット状態のとき
- 車速が約 35 km/h 以上のとき
- 表示された標識が 60 km/h 以上のとき
- 表示された標識が FS スピードリミッターの設定上限値以下のとき
- 表示された標識と FS スピードリミッターのセット車速が異なるとき
- 標識通過時にリミッター連動補助ブレーキ設定画面を操作していないとき *
- 標識通過時にセット車速を変更していないとき *

＊ 標識通過から約 4 秒以内に操、作終了した場合は作動します。

2. リジュームスイッチまたはセットスイッチを押すと、標識の周りにセット状態マークが表示されるとともに、FS スピードリミッターのセット車速が標識速度にセットされます。



ドライバー承認要求マーク：白

スピードリミッター装着車は、90 km/h の速度標識で標識連動型車速制御システムを作動させた場合、FS スピードリミッターとともに標識連動型車速制御システムが作動終了します。

3. 標識連動型車速制御システム作動中に、表示中の速度標識と異なる速度標識を認識した場合、標識通過後、メーターに速度標識ともに、標識の周りにドライバ承認要求マークが表示されます。
   その後は手順 1. の状態に戻ります。

■解除条件

以下の場合、標識連動型車速制御システムの作動を解除します。

- リジュームスイッチ、セットスイッチを操作して、上限車速を変更したとき
- 車速が約 35 km/h を下回ったとき
- 60 km/h 未満の速度標識を通過したとき
- 表示中の速度標識と異なる速度標識を通過したとき
- 関連装置が故障したとき
- FS スピードリミッターがセット状態ではなくなったとき

⚠ 注意

■ 標識連動型車速制御システムが作動解除について

標識連動型車速制御システムが作動解除されても、FS スピードリミッターは制御を継続する場合があります。

■ 操作方法

- マルチインフォメーションの車両システム各種設定タブにある「安全運転支援機能」の設定画面から、標識連動機能・標識連動通知音を作動させるように設定できます。
- 本システムの作動には、標識認識設定が ON に設定されている必要があります。
  安全運転支援機能の設定画面の表示方法については（→ P.6-38）

以下の場合、システムが正しく動作しない場合があります。

- 標識認識システムで正しい速度標識を認識できないとき
- 標識認識設定が OFF に設定されているとき
- 標識連動設定が OFF に設定されているとき

マルチインフォメーション	内容と対処方法
前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい	・ システムの故障を検出しています。日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。
前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを 取って下さい	・ 画像センサーの前のフロントガラスに汚れ、雨滴、結露、氷雪などが付着しています。画像センサー前のフロントガラスの汚れなどを落としてください。
前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ち下さい	・ 画像センサー周辺が熱くなっているため、機能が一時停止しています。画像センサー周辺が冷えるのを待ってください。 ・ 画像センサー前方が遮蔽されています。遮蔽物を取り除いてください。 ・ 画像センサーの電圧値が異常になっています。バッテリーの電圧値を確認し、充電等を行ってください。

以下の場合、システムが正しく動作しない場合があります。

- 標識認識システムで正しい速度標識を認識できないとき
  標識認識システム（→ P.5-196）
- 標識認識設定が OFF に設定されているとき
- 標識連動設定が OFF に設定されているとき

⚠ 注意

■ 使用上の注意

システムは標識を正確に認識できないことがあります。必ず制限速度を確認し、制限速度を守って走行してください。

- 標識認識システムに異常が発生し作動できない状況が継続している間は、標識は認識されず、マルチインフォメーションに下記の内容が表示されます。

マルチインフォメーション	内容
 （橙色）	・ 標識認識システムの故障を検出しているとき ・ 画像センサーを利用できないとき

FS クルーズ★

この装置は、車の走行状態を電子制御によりコントロールします。走行中に車速のセットをするとアクセルペダルを踏まなくても、セットした車速で一定走行します。

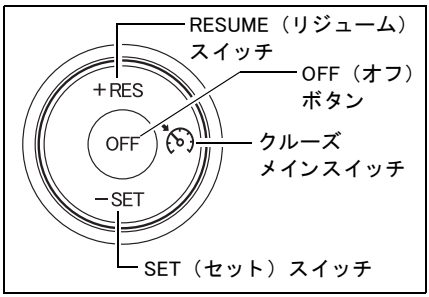
⚠警告

次のような道路状況では、FS クルーズは使用しないでください。事故につながるおそれがあり危険です。

- 凍結路、積雪路など滑りやすい道路
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂
  急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を超えてしまうおそれがあります。
- 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
  交通状況に合った速度で走行できないおそれがあります。
- 交通量の多い道路や急カーブのある道路
  道路の状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。

FS クルーズを使用しないときは、安全のために FS クルーズを解除（60ランプ消灯）しておいてください。「ON」のままにしておくと SET（セット）スイッチや RESUME（リジューム）スイッチに誤って手を触れたとき、意に反して FS クルーズが作動し、事故につながるおそれがあります。

■スイッチ類



- クルーズメインスイッチ

FS クルーズの作動準備と解除を行うスイッチです。

- RESUME（リジューム）スイッチ

FS クルーズの一時解除から制御の再開をすることができます。また、セット車速の増速を行うスイッチです。

- OFF（オフ）ボタン

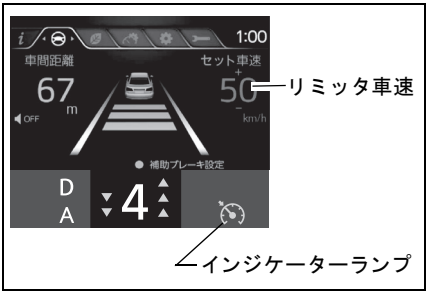
FS クルーズを一時解除することができます。

- SET（セット）スイッチ

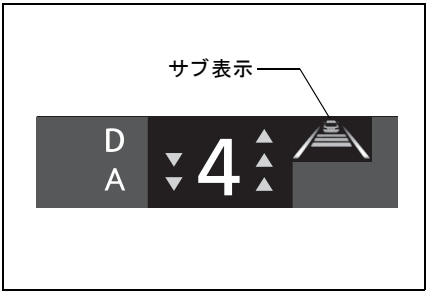
FS クルーズのセット車速の設定と、セット車速の減速を行うスイッチです。

■マルチインフォメーション／インジケーターランプ

マルチインフォメーションにセット車速やインジケーターランプを表示します。



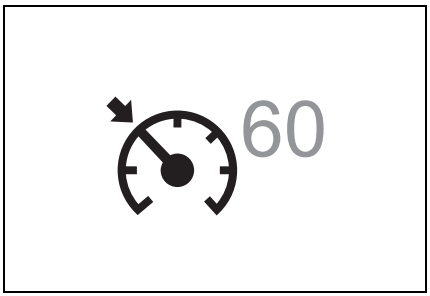
● 安全運転支援情報サブ表示



- 車線逸脱警報の車線認識状態、FS クルーズの作動状態をシフト表示部へ表示します。
- マルチインフォメーションが車線逸脱警報・クルーズ表示以外の以下条件時にサブ画面は表示されます。
- 安全運転支援画面へ一時的に切り替わったとき
- 安全運転支援系の警告・作動表示等が、マルチインフォメーション画面へ表示されたとき

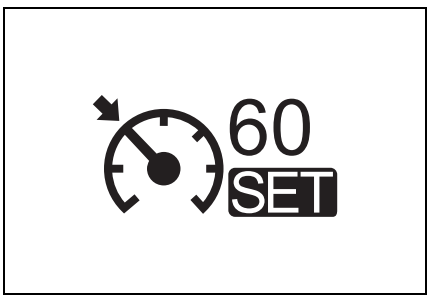
● クルーズ準備ランプ

- クルーズメインスイッチにて、FS クルーズの作動準備状態にしたとき点灯します。
- セット車速を右上に灰色で表示します。

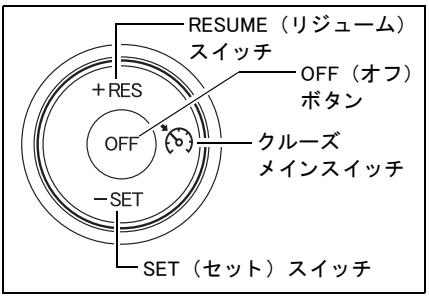


● 定速クルーズ作動ランプ

- FS クルーズの作動中に点灯します。
- セット車速を右上に緑色で表示します。



■操作方法



▶ 車速セットのしかた

1. エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー★または電磁式リターダー★スイッチが「OFF」の位置にあることを確認します。
2. クルーズメインスイッチを押すと60ランプが点灯し、そのまま押し続ける（0.5 秒以上）とFS クルーズが作動準備状態となります。
3. アクセルペダルを加減して、希望車速に達したところで、SET（セット）スイッチを押します。同時に60ランプが60SETランプに切り替わります。また、マルチインフォメーションにセットした車速を表示します。
4. 車速がセットされ、アクセルペダルを離しても一定車速で走行します。

アドバイス

- 法定速度を超えた車速にセットしないでください。
- セットできる速度は、スピードリミッター装着車は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 90 km/h、その他は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 100 km/h です。

▶ セット車速の変更

・ クルーズ走行中、セットした車速を変更できます。

● 増速したいとき

〔チップアップ〕

・ RESUME（リジューム）スイッチを押す（0.5 秒以内）ことにより、設定車速を 1 km/h ずつ増加させることができます。

〔セットアクセル〕

・ RESUME（リジューム）スイッチを 0.5 秒以上押すと設定車速を 5 km/h ずつ増加させることができます。

● 減速したいとき

〔チップダウン〕

・ SET（セット）スイッチを押しすぐ戻す（0.5 秒以内）ことにより、設定車速を 1 km/h ずつ減らすことができます。

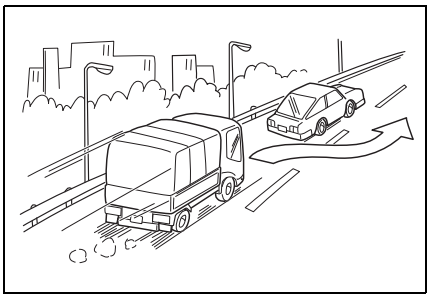
〔セットコースト〕

・ SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押すと FS スピードリミッター設定車速を 5 km/h ずつ減らすことができます。

〔再セット〕

・ 設定車速より低い車速で走行中、SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押しセットコーストになる直前にスイッチを戻すことにより、その時の車速を設定車速に設定することができます。

▶ 一時的に加速したいとき



・ クルーズ走行中、アクセルペダルを踏み込むと一時的に加速できます。
アクセルペダルを離すと、減速して元のセットした車速に戻ります。

▶ FS クルーズを解除するとき

・ 次のいずれかのとき、解除されます。

㋑クルーズメインスイッチを押したとき（60 SET ランプ消灯）

㋺エンジンが停止したとき

㋩PCS が作動したとき

㋥システムに異常が発生したとき

㋭ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動したとき

・ 次のいずれかのとき、一時解除されます。

㋬OFF（オフ）ボタンを押したとき

㋣チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを N 位置にしたとき

㋠クラッチペダルを踏んだとき（MT 車）

㋡ブレーキペダルを踏んだとき

㋢車速が約 35 km/h（MT 車）または約 50 km/h（AT 車）以下になったとき

㋦ABS、ASR、VSC が作動したとき

㋧エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー★または電磁式リターダー★を作動させたとき

㋮パーキングブレーキを引いたとき

㋯ドアを開けたとき

● FS クルーズの復帰のしかた

・ ㋑、㋺、㋩、㋥、㋭のときは最初からセットし直してください。（60 ランプが消灯しているときは、最初から操作してください）

・ ㋬、㋣、㋠、㋡、㋢、㋦、㋧、㋮、㋯のときは道路状況がセットした車速で走行できるようになったら、次の操作で FS クルーズを復帰することができます。

・ RESUME（リジューム）スイッチを押してアクセルペダルを離してください。増速してセットした車速（解除する前のセット車速）に復帰します。（60 ランプが点灯しているときは、リジュームから操作を行えます）

・ SET（セット）スイッチを押すと、解除後の現在の車速で再セットし直され、FS クルーズが復帰します。

＊ 上記以外の操作で解除したときは、最初からセットし直してください。

・ ㋥のときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■クルーズ連動補助ブレーキ

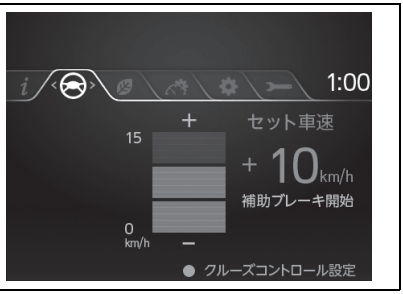
セットした車速を超えると補助ブレーキを自動的に制御し、セットした車速へ減速します。

● クルーズ連動補助ブレーキの設定

・ マルチインフォメーションの安全運転支援情報タブから、クルーズ連動補助ブレーキの作動車速を任意に設定することができます。

＊ 安全運転支援情報タブの表示方法については（→ P.6-33）

1. 安全運転支援情報タブが表示されているときステアリングスイッチの決定ボタンを押してクルーズ連動補助ブレーキ設定画面を表示させます。



2. RESUME（リジューム）スイッチ、SET（セット）スイッチを押して、任意の車速に設定します。RESUME（リジューム）スイッチを押すと作動車速を 1 km/h ずつ増加することができ、SET（セット）スイッチを押すと作動車速を 1 km/h ずつ減らすことができます。

3. 車速を設定したら、決定ボタンを押して決定します。決定すると画面が安全運転支援情報タブに戻ります。

・ 走行モードがエコモードのときに、クルーズ連動補助ブレーキを解除することができます。（一時的にクルーズ連動補助ブレーキを解除したいときに有効です。）

＊ お客様のご希望により、最寄りの日野販売会社の整備工場で解除することができます。

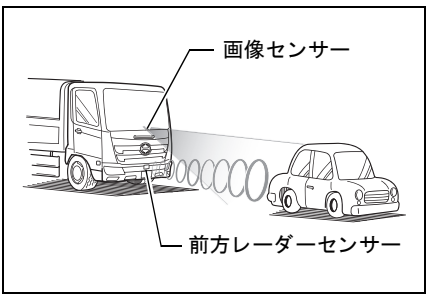
＊ 詳しくは、最寄りの日野販売会社の整備工場へご相談ください。

スキャニングクルーズⅡ（車間クルーズ）★

この装置は先行車との車間距離を確保して、高速走行における運転者の疲労を軽減することを目的としています。
この装置には、次の機能が搭載されています。

● スキャニングクルーズ

先行車との車間距離と相対速度、自車速度に応じて、アクセルと補助ブレーキ（エキゾーストブレーキ・エンジンリターダー★・電磁式リターダー★）を自動的に制御し、一定の車間距離を保持しながら追従走行します。（ブレーキ作動中はストップランプが点灯します）
先行車がいないときは、自動的にFS クルーズになります。



⚠警告

- スキャニングクルーズは、運転者の疲労軽減を目的とした装置であり、自動運転装置とは異なります。運転者はスキャニングクルーズを過信せず、常に先行車両との車間距離や周囲の状況に注意し、ブレーキペダルを踏んで減速して安全な車間距離を確保するなど、常に安全運転を行ってください。
- スキャニングクルーズは先行車の車両後端への電波反射を検知して制御を行っていますので、次のような場合は、先行車を正確に検知できず、車間距離が適切に保てなくなる結果、事故につながる場合があります。このため、次のような場合には、スキャニングクルーズを使用しないでください。
  - 先行車が、路上の水や雪などを巻き上げて走行しているとき
  - 先行車が、建機運搬車や車載車など車両後端面積が少ないとき
  - 先行車が急に割り込んできたとき
  - 同じ車線を二輪車が走行中のとき
  - 先行車の車高が極端に高いとき
- 次の場合はスキャニングクルーズの減速機能に使用する補助ブレーキが解除されます。解除されると、補助ブレーキによる減速力がなくなりますので注意してください。
  - クラッチやクルーズメインスイッチ操作時
  - 先行車との距離が約 5 m 以下のとき
  - ABS、ASR および VSC が作動したとき
  - 後輪がバウンドしたとき
  - 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況に注意して運転してください。

⚠警告

- 次のような道路状況では、スキャニングクルーズは使用しないでください。適切な制御ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

・ 悪天候時（雨・霧・雪のときなど）
先行車との車間距離が正確に測定できないときがあります。

・ 交通量の多い道路や急カーブ、カーブが連続する道路
道路の状況にあった速度で走行できないときがあります

・ 凍結路、積雪路など滑りやすい道路
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

・ 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では補助ブレーキが十分効かないため、セットした速度を超えてしまうおそれがあります

・ 頻繁に加速・減速を繰り返すような交通状況のとき
交通状況に合った速度で走行できないおそれがあります

・ 歩行者や自転車等が混在している道路

・ 高速道路や自動車専用道路の出入り口

・ 前方レーダーセンサー前面または画像センサー前面に雨滴や雪などが付着しているとき

・ 法による制限速度を超えた車速にセットしないでください。

⚠警告

- 前方レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ 前方レーダーセンサーと前方レーダーセンサーカバーは常にきれいにしておく

・ 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

・ 前方レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。前方レーダーセンサー・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ず日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

・ 前方レーダーセンサーを分解しない

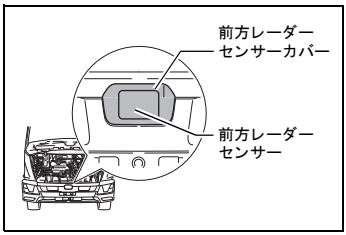
・ 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバーを改造したり、塗装したりしない

・ 前方レーダーセンサー・前方レーダーセンサーカバー・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、日野販売会社の整備工場にご相談ください

⚠警告

・前方レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください

・前方レーダーセンサーカバーは常に付けられている状態でご使用ください。（飛び石等が直接接触することでレーダーが破損するおそれがあります。）



⚠警告

■画像センサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、画像センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

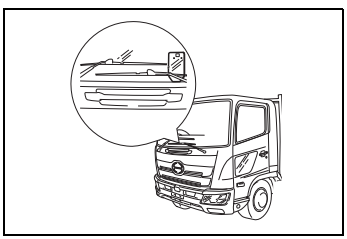
●フロントウインドウは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、画像センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の画像センサー取り付け部が汚れた場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

・フロントウインドウガラスの画像センサー前部にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。



●フロントウインドウガラスの画像センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く

⚠警告

- フロントウインドウガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーブレードのゴムまたはワイパーブレードを交換する

・ ワイパーブレードの交換（→ P.13-94）

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- 日野純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する。フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

⚠警告

- 画像センサーに液体をかけない
- 画像センサーに強い光を照射しない
- 画像センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 画像センサーに強い衝撃を加えない
- 画像センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 画像センサーを分解しない
- 画像センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどの画像センサー周辺部品や天井を改造しない
- ルーフ・フロントバンパーに、画像センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない。詳しくは日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 全長の長い荷物を積むときは、画像センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

⚠警告

スキャニングクルーズが効果を発揮できるように、次のことをお守りください。お守りいただかないと、システムが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 前方レーダーセンサーの前方をさえぎるものを取り付けないでください。次のような場合、障害物等を検出できない場合や、前方レーダーセンサーをさえぎっているものを汚れとして検出する場合があります。

・ 前方レーダーセンサー前方をさえぎるようなメッキ枠やバンパーの飾りなどを取り付けたとき

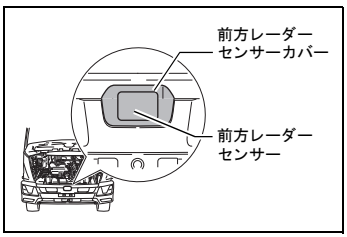
・ 前方レーダーセンサー本体へ塗装したとき

・ 前方レーダーセンサーカバーへ塗装またはステッカー等を貼付したとき

・ 前方レーダーセンサーおよび前方レーダーセンサーカバーに著しく泥、雪、氷着物などが付着したとき

⚠警告

- 軽衝突等により前方レーダーセンサー取り付け角度が変化した場合や故障が発生した場合（ブレーキ、サスペンション、タイヤ等）、正常に作動しない原因となりますので、スキャニングクルーズを解除して最寄りの日野販売会社の整備工場で前方レーダーセンサーの調整および故障箇所の修理を行ってください。
前方レーダーセンサーおよび前方レーダーセンサーカバーは日野純正部品以外を使用しないでください。



知識

安全車間距離とは

自車速度と先行車速度およびタイミングスイッチで設定した車間距離から求める距離です。走行状態の接近度合いによって距離は変化します。

- 先行車の減速度合いが大きいときや自車の前へ他車が割り込んだ場合などは十分な減速ができず、先行車に接近することがあります。この場合はマルチインフォメーションの表示による警報で注意を促します。
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両に対しては、スキャニングクルーズの制御は行いません。
- 高速道路でインターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアなどへ進入する（本線から出る）とき、本線上でスキャニングクルーズによりセット車速よりも遅い車に追従走行していた場合、自車が本線から出ると先行車がいなくなり、セット車速まで加速します。
- 道路形状（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線の位置）によっては、一時的に隣の車線の車両や周辺の物を検知して、車間距離警報やスキャニングクルーズ時の補助ブレーキが作動する場合があります。

■スキャニングクルーズでの走行

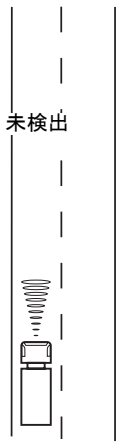
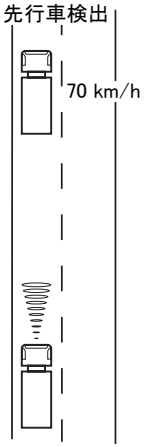
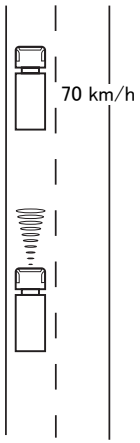
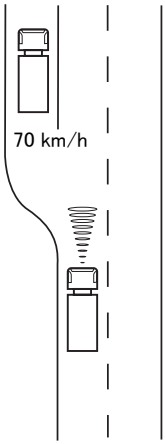
● 先行車がいないとき

運転者がセットした車速｛スピードリミッター装着車は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 90 km/h、その他は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 100 km/h｝で定速走行します。

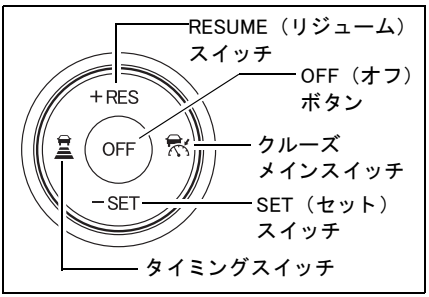
● 先行車がいるとき

運転者がセットした車速｛スピードリミッター装着車は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 90 km/h、その他は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 100 km/h｝を上限として、車速に比例した車間距離を保つように加速・減速します。したがって、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます。
また、先行車がいなくなったときは、セットした車速までゆっくりと加速し、定速走行を行います。

＊ セットした車間距離は車速に比例して変わり、車速が低くなるほど短くなります。

定速走行 （先行車が いないとき）	減速走行 （セットした車速 より遅い先行車が 現れたとき）	追従走行 （セットした車速 より遅い先行車に 追従するとき）	加速走行 （セットした車速 より遅い先行車が 消えたとき）
例：80 km/h に セット	例：80 km/h で定速 走行時に、70 km/h の先行車が いる場合	例：80 km/h にセッ トしているときに、 70 km/h の先行車が いる場合	例：80 km/h にセッ トしているときに、 70 km/h の先行車が 消えた場合
			
80 km/h （セット車速）	80 km/h → 70 km/h	70 km/h	70 km/h → 80 km/h （セット車速）

■スイッチ類



● クルーズメインスイッチ

スキャニングクルーズの作動準備と解除を行うスイッチです。

● タイミングスイッチ

スキャニングクルーズ中の保持する車間距離の調整を行うスイッチです。タイミングスイッチを押すごとに保持する車間距離を 3 段階に変更することができます。

● RESUME（リジューム）スイッチ

スキャニングクルーズ制御の一時解除から制御再開をすることができます。また、セット車速の増速を行うスイッチです。

● OFF（オフ）ボタン

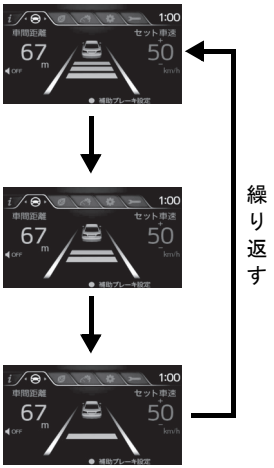
スキャニングクルーズ制御を一時解除することができます。

● SET（セット）スイッチ

スキャニングクルーズ制御のセット車速の設定と、セット車速の減速を行うスイッチです。

〔設定例〕

3 段階の設定が可能。

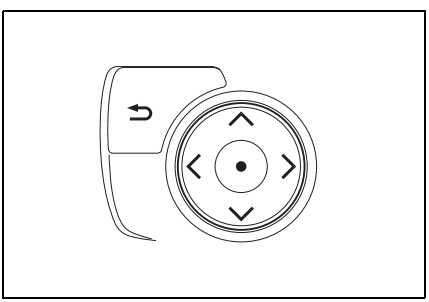
道路状況	スイッチの設定	保持する車間距離	マルチインフォメーション
閑散・夜間	遠	ゆとりのある車間距離	
≀	≀	≀	
混雑	近	割り込まれない程度の車間距離	

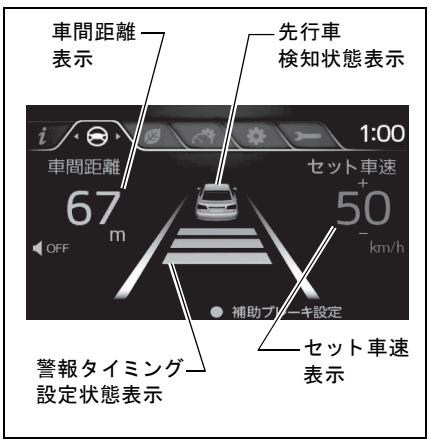
⚠ 警告

保持する車間距離の設定は、運転者が十分な安全を確保できる車間距離に設定してください。過剰な追従運転は事故の原因となるおそれがあります。

■マルチインフォメーション／インジケーターランプ

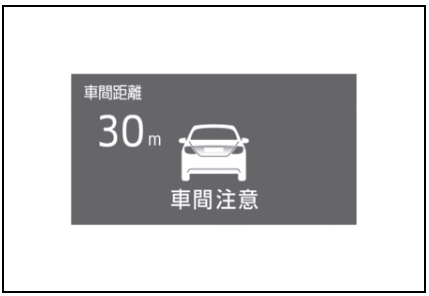
・ ステアリングスイッチを操作することによりセット車速や先行車との車間距離を表示します。



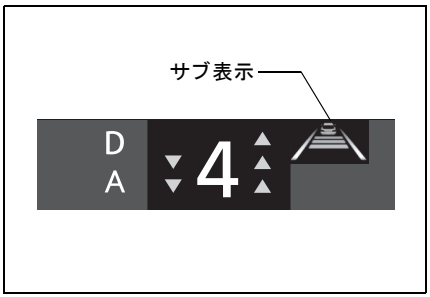


＊ マルチインフォメーションについては（→ P.6-28）

・ 先行車に近づきすぎると“車間注意”をマルチインフォメーションに表示して、警報ブザーを発します。ブレーキ操作などで減速してください。



● 安全運転支援情報サブ表示



・ 車線逸脱警報の車線認識状態、スキャニングクルーズの作動状態をシフト表示部へ表示します。

・ マルチインフォメーションが車線逸脱警報・クルーズ表示以外の以下条件時にサブ画面は表示されます。

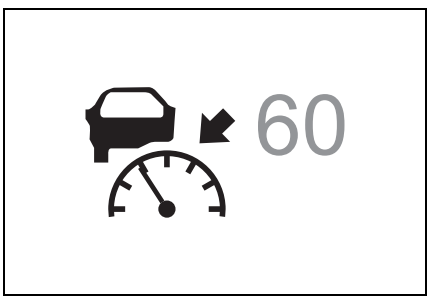
・ 安全運転支援画面へ一時的に切り替わったとき

・ 安全運転支援系の警告・作動表示等が、マルチインフォメーション画面へ表示されたとき

● スキャニングクルーズ準備ランプ

・ クルーズメインスイッチにて、スキャニングクルーズを作動準備状態にしたとき点灯します。

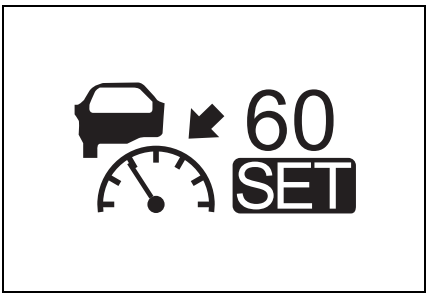
・ セット車速を右上に灰色で表示します。



● スキャニングクルーズ作動ランプ

・ スキャニングクルーズの作動中に点灯します。

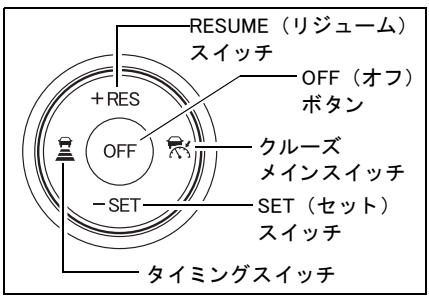
・ セット車速を右上に緑色で表示します。



■操作方法

⚠ 警告

- スキャニングクルーズを使用しないときは安全のためにスキャニングクルーズを解除（ 60 ランプ消灯）にしておいてください。解除していないと SET（セット）スイッチや RESUME（リジューム）スイッチに誤って手を触れたとき、意に反してスキャニングクルーズが作動し事故につながるおそれがあります。
- 走行中は、スターターキーを「ON」の位置以外にしないでください。
- 無線機の使用は、スキャニングクルーズへ悪影響をおよぼすおそれがあります。
  無線機を取り付ける際は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- オーバーヒート気味のときは、スキャニングクルーズを使用しないでください。
  車が正常でない状態でクルーズ走行するとエンジンなどの寿命を縮めるおそれがあります。



▶ セットのしかた

1. エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー★または電磁式リターダー★スイッチが「OFF」の位置にあることを確認します。
2. クルーズメインスイッチを押すとランプが点灯し、そのまま押し続ける（0.5 秒以上）とスキャニングクルーズが作動準備状態となります。
3. アクセルペダルを加減して、希望車速に達したところで、SET（セット）スイッチを押します。同時に、ランプがランプに切り替わります。
   また、セットした車速がマルチインフォメーションに表示されます。
4. これで車速がセットされ、アクセルペダルを離しても一定速度で走行し、先行車があれば追従して走行します。

アドバイス

- 法定速度を超えた車速にセットしないでください。
- セットできる速度は、スピードリミッター装着車は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 90 km/h、その他は約 35 km/h（オートマチックトランスミッション車は約 50 km/h）～約 100 km/h です。

知識

ワイパースイッチが「HI」（高速作動）のときは、スキャニングクルーズモードは使用できません。

5. タイミングスイッチによって保持する車間距離を調整できます。

＊ タイミングスイッチの取り扱いは（→P.5-155）

▶ セット車速の変更

・ クルーズ走行中、セットした車速を変更できます。

● 増速したいとき

〔チップアップ〕

・ RESUME（リジューム）スイッチを押す（0.5 秒以内）ことにより、設定車速を 1 km/h ずつ増加させることができます。

〔セットアクセル〕

・ RESUME（リジューム）スイッチを 0.5 秒以上押すと設定車速を 5 km/h ずつ増加させることができます。

● 減速したいとき

〔チップダウン〕

・ SET（セット）スイッチを押す（0.5 秒以内）ことにより、設定車速を 1 km/h ずつ減らすことができます。

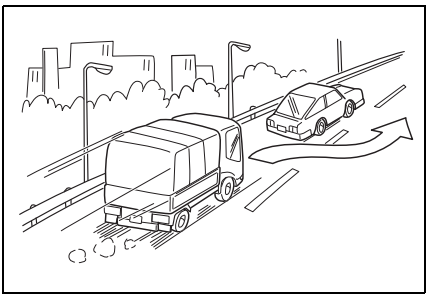
〔セットコースト〕

・ SET（セット）スイッチを 0.5 秒以上押すと設定車速を 5 km/h ずつ減らすことができます。

〔再セット〕

・ 設定車速より低い車速で走行中、SET（セット）スイッチを押し（0.5 秒以上）セットコーストになる直前にスイッチを戻すことにより、その時の車速を設定車速に設定することができます。

▶ 一時的に加速したいとき



・ クルーズ走行中、アクセルペダルを踏み込むと一時的に加速できます。
アクセルペダルを離すと、減速して元のセットした車速に戻ります。

▶ スキャニングクルーズを解除するとき

・ 次のいずれかのとき、解除されます。

㋑クルーズメインスイッチを押したとき（60ランプ消灯）

㋺エンジンが停止したとき

㋩PCS が作動したとき

㋥システムに異常が発生したとき

㋭ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動したとき

・ 次のいずれかのとき、一時解除されます。

㋬OFF（オフ）ボタンを押したとき

㋣チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを N 位置にしたとき

㋠クラッチペダルを踏んだとき（MT 車）

㋡ブレーキペダルを踏んだとき

㋢車速が約 35 km/h（MT 車）または約 50 km/h（AT 車）以下になったとき

㋦ABS、ASR、VSC が作動したとき

㋧エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー★または電磁式リターダー★を作動させたとき

㋮ワイパースイッチを「HI」位置（高速作動）にしたとき

㋷パーキングブレーキを引いたとき

㋕ドアを開けたとき

● スキャニングクルーズの復帰のしかた

・ ㋑、㋺、㋩、㋥、㋭のときは最初からセットし直してください。(60ランプが消灯しているときは、最初から操作してください)

・ ㋬、㋣、㋠、㋒、㋮、㋦、㋷、㋶、㋸のときは道路状況がセットした車速で走行できるようになったら、次の操作でスキャニングクルーズを復帰することができます。

・ RESUME（リジューム）スイッチを押してアクセルペダルを離してください。増速してセットした車速（解除する前のセット車速）に復帰します。(60ランプが点灯しているときは、リジュームから操作を行えます)

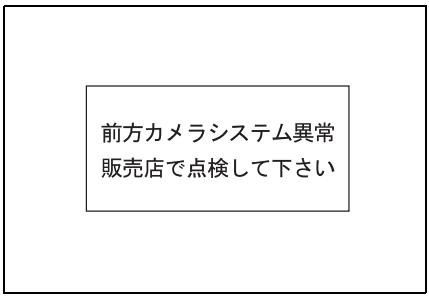
・ SET（セット）スイッチを押すと、解除後の現在の車速で再セットし直され、スキャニングクルーズが復帰します。

＊ 上記以外の操作で解除したときは、最初からセットし直してください。

・ ㋥のときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

▶ スキャニングクルーズ制御系統の異常

マルチインフォメーションに“前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい”を表示し、同時にブザーが鳴ります。



▶ 標識連動型車速制御システム

この機能は、高速走行時に認識した速度標識の速度をセット車速に設定することで、ドライバの負担軽減や速度超過による事故を防止することを目的としています。

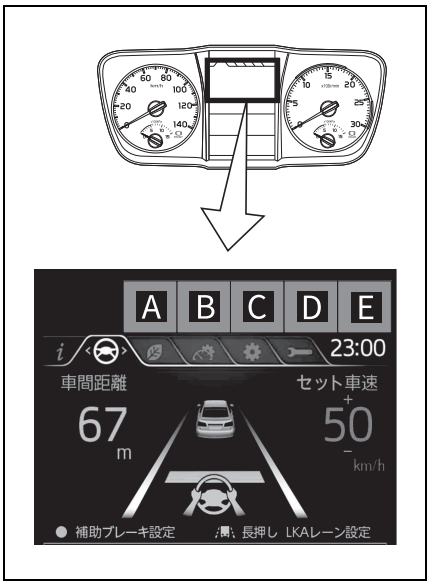
高速道路などの自動車専用道路にて、スキャニングクルーズⅡが作動状態で走行中に、60 km/h 以上の速度標識を認識した場合に作動し、ドライバがスイッチ操作によってセット車速の変更を承認した場合に、速度を制御し、制限速度での車速維持を支援するシステムです。

⚠ 警告

■車速について

- 道路状況や周辺環境に応じた適切な車速を設定し、制限速度を守ってください。
- 走行車速より低い車速に車速設定した場合、システムにより減速が行われます。システムを使用する場合は、必ず周囲の安全を確認してください。

■マルチインフォメーション



● エリア B

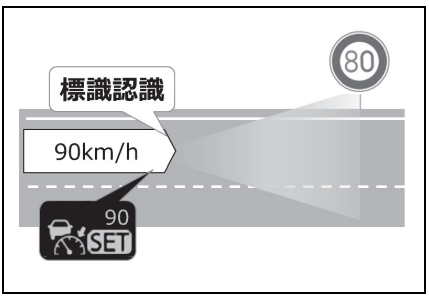
状態	メーター表示標識
スキャニングクルーズのセット可能状態	80 白
車速セット中の状態	80 緑

告知される道路標識などの種類やエリア A ～ E までの詳しい内容については（→ P.5-196）

■作動手順

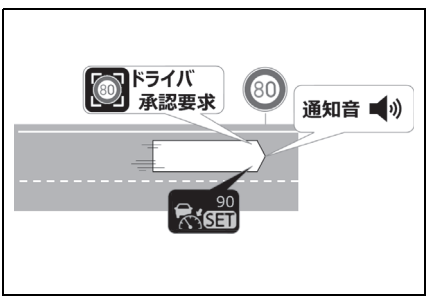
1. スキャニングクルーズ作動中に画像センサーが速度標識を認識すると、標識を通過した後、メーター上にその速度標識とドライバー承認要求マークが表示され、通知音でお知らせします。

制限速度更新音設定で通知音のON/OFF を切り替えることができます。（→ P.6-41）



自車：90 km/h

メーター：標識認識中



メーター：ドライバ承認要求中

ブザー：通知音吹鳴

■作動条件

- メーター設定画面で標識認識設定が ON に設定されているとき
- メーター設定画面で標識連動設定が ON に設定されているとき
- FS クルーズではないとき
- スキャニングクルーズがセット状態のとき
- 車速が約 35 km/h 以上のとき
- 表示された標識が 60 km/h 以上のとき
- 表示された標識がスキャニングクルーズの設定上限値以下のとき
- 表示された標識とスキャニングクルーズのセット車速が異なるとき
- 標識通過時にクルーズ連動補助ブレーキ設定画面を操作していないとき*
- 標識通過時にセット車速を変更していないとき*

* 標識通過から約 4 秒以内に操作終了した場合は作動します

2. ドライバー承認要求マークが表示されてから約 10 秒以内にリジュームスイッチまたはセットスイッチを押すと、標識の周りにセット状態マークが表示されるとともに、スキャニングクルーズのセット車速が標識速度にセットされます。



ドライバー承認要求マーク：白

10 秒以内に操作しない場合は、以前に設定していたセット車速で走行継続します。

3. 標識連動型車速制御システム作動中に、表示中の速度標識と異なる速度標識を認識した場合、標識通過後、メーターに速度標識とともに、標識の周りにドライバ承認要求マークが表示されます。
   その後は手順 1. の状態に戻ります。

■解除条件

以下の場合、標識連動型車速制御システムの作動を解除します。

- リジュームスイッチ、セットスイッチを操作して、セット車速を変更したとき
- 車速が約 35 km/h を下回ったとき
- 60 km/h 未満の速度標識を通過したとき
- 表示中の速度標識と異なる速度標識を通過したとき
- 関連装置が故障したとき
- スキャニングクルーズがセット状態ではなくなったとき

⚠ 注意

■標識連動型車速制御システムが作動解除について

標識連動型車速制御システムが作動解除されても、スキャニングクルーズは制御を継続する場合があります。

■操作方法

- マルチインフォメーションの車両システム各種設定タブにある「安全運転支援機能」の設定画面から、標識連動機能・標識連動通知音を作動させるように設定できます。
- 本システムの作動には、標識認識設定が ON に設定されている必要があります。
  安全運転支援機能の設定画面の表示方法については（→ P.6-38）

以下の場合、システムが正しく動作しない場合があります。

- 標識認識システムで正しい速度標識を認識できないとき
- 標識認識設定が OFF に設定されているとき
- 標識連動設定が OFF に設定されているとき

マルチインフォメーション	内容と対処方法
前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい	・ システムの故障を検出しています。日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。
前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを 取って下さい	・ 画像センサーの前のフロントガラスに汚れ、雨滴、結露、氷雪などが付着しています。画像センサー前のフロントガラスの汚れなどを落としてください。
前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ち下さい	・ 画像センサー周辺が熱くなっているため、機能が一時停止しています。画像センサー周辺が冷えるのを待ってください。 ・ 画像センサー前方が遮蔽されています。遮蔽物を取り除いてください。 ・ 画像センサーの電圧値が異常になっています。バッテリーの電圧値を確認し、充電等を行ってください。

以下の場合、システムが正しく動作しない場合があります。

- 標識認識システムで正しい速度標識を認識できないとき
  標識認識システム（→ P.5-196）
- 標識認識設定が OFF に設定されているとき
- 標識連動設定が OFF に設定されているとき

⚠ 注意

■ 使用上の注意

システムは標識を正確に認識できないことがあります。必ず制限速度を確認し、制限速度を守って走行してください。

- 標識認識システムに異常が発生し作動できない状況が継続している間は、標識は認識されず、マルチインフォメーションに下記の内容が表示されます。

マルチインフォメーション	内容
 （橙色）	・ 標識認識システムの故障を検出しているとき ・ 画像センサーを利用できないとき

- 標識認識システムに異常が発生し作動できない状況が継続している間は、警報機能は作動しません。

車線逸脱警報装置★

車両が通行区分帯を外れると、逸脱方向のスピーカーから警報音「ピッピッピッ」を発するとともに、マルチインフォメーションに“車線注意”を表示すると同時に  ランプが点滅し運転者に注意を促します。

⚠警告

- 車線逸脱警報装置を過信しないでください

車線逸脱警報装置の認識性能、制御性能には限界があります。事故につながるおそれがありますので車線逸脱警報装置を過信せず、常に周囲の状況に注意し安全運転を心掛けてください。

- 次のような場合は、車線を正確に検知できず、警報機能が正常に作動しないことがあります。

・ 白線や黄色線などの車両通行区分帯境界線が無い道路またはセンターラインのみの道路を走行するとき

・ 白線や黄色線などの車両通行区分帯境界線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき

・ 雨、雪、霧、逆光などで車線が見えにくいとき

・ ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき

・ 急激な明るさの変化が連続するとき

・ 路面補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、路面標示と紛らわしい線が見えるとき

・ 太陽光や水たまりなどで路面が光っているとき

・ 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき

・ 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路などを走行するとき

・ 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき

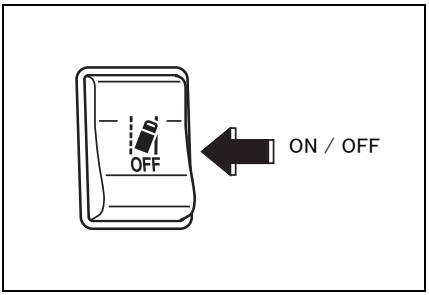
・ 車両通行区分帯境界線の幅が狭いときや広いとき

・ うねった道路や荒れた道路を走行するとき

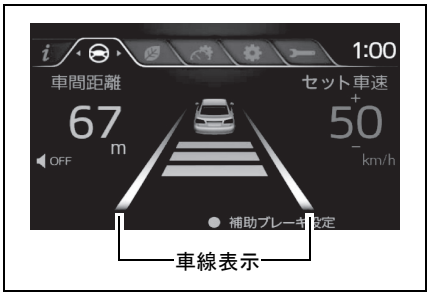
・ 荷物が偏って積載された状態のとき

■車線逸脱警報 OFF スイッチ

・ スイッチを押すごとに車線逸脱警報装置の ON と OFF が切り替わります。



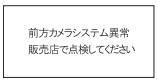
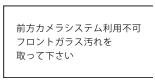
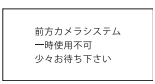
■インジケーターランプ・ウォーニングランプ・マルチインフォメーション



マルチインフォメーションの安全運転支援機能画面の車線表示で、車線逸脱警報装置のシステム状態を表示します。

車線表示の状態	システム状態
表示なし	・ 車線逸脱警報装置 OFF
灰色表示	・ 車線逸脱警報装置が車線を正確に検知できていない
白色表示	・ 車線逸脱警報装置が車線を正確に検知できている
橙色表示	・ 車線逸脱警報装置が警報中

ランプ	内容と対処方法
	・ 車線逸脱警報装置が作動すると点滅します。 ・ 車線逸脱警報装置に異常が発生すると点灯します。
	・ 車線逸脱警報装置の OFF 時に点灯します。

マルチインフォメーション	内容と対処方法
	・車線逸脱警報装置が作動すると表示します。 ・逸脱方向側の車線表示が橙色に変化します。
	・システムの故障を検出しています。 日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。
	・画像センサーの前のフロントガラスに汚れ、雨滴、結露、氷雪などが付着しています。 画像センサー前のフロントガラスの汚れなどを落としてください。
	・画像センサー周辺が熱くなっているため、機能が一時停止しています。 画像センサー周辺が冷えるのを待ってください。 ・画像センサー前方が遮蔽されています。 遮蔽物を取り除いてください。 ・画像センサーの電圧値が異常になっています。 バッテリーの電圧値を確認し、充電等を行ってください。

▶ 操作方法

・ スタータースイッチを「ON」の位置にします。車線逸脱警報 OFF スイッチを押すことで、機能の ON/OFF を設定します。

＊ スタータースイッチを「ON」の位置にした後は、車線逸脱警報 OFF スイッチを操作しない限り車線逸脱警報装置は常に ON 状態となります。

■機能の作動

車線逸脱警報装置は下記の全ての条件が満たされているとき作動状態になります。

・ スタータースイッチが「ON」位置のとき

・ 車速が約 60 km/h 以上のとき

・ 車線逸脱警報 OFF スイッチが押されていない
（ OFF ランプが点灯していない）

・ マルチインフォメーションの車線表示が白線になっているとき

■機能の一時解除

・ ターンシグナルスイッチ作動中

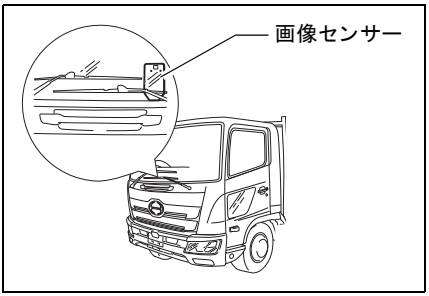
・ 車速が約 60 km/h 以下のとき

・ 走行中、車線が認識できなくなったとき

・ 車線逸脱警報が作動したとき
（車線逸脱警報装置の作動を解除後に再作動させたときは、数秒間経過するまで作動は再開しません）

■画像センサーについて

・ 画像センサーは、フロントガラス下部に取り付けられています。



■車線逸脱警報装置が正しく作動するために

・ フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。

・ 雨露、結露、氷雪などの付着によって機能低下することがあります。

・ 画像センサーに強い衝撃を加えたり、分解しないでください。

・ 画像センサーの取り付けを変更したり、取り外したりしないでください。もし、取り外した場合は、日野販売会社の整備工場にて画像センサーの調整を受けてください。

・ 寒冷時などフロントガラスが曇っていると映像に影響を与えるのでデフロスタでフロントガラスの曇りを取ってください。

・ フロントガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。
フロントガラスの交換が必要な場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

・ 室内灯をつけたまま走行しないでください。

・ 画像センサーのレンズを触ったり傷付けたりしないでください。

・ 画像センサーに飲み物や、洗剤など液体をかけないでください。

・ 画像センサーに強い光を照射しないでください。

・ 画像センサーのレンズの前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。

・ フロントガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しく拭き取れないときは、ワイパーブレードのゴムまたはワイパーブレードを交換してください。

・ ワイパーは日野純正部品をご使用ください。

知識

炎天下に駐車したとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。室内温度が低下し画像センサーの周辺温度が適温になると作動開始します。

ふらつき警報★

ふらつき警報は、ステアリングの操作量からふらつき度合いを判定し、システムがふらつきを検知すると、マルチインフォメーションに“ふらつき注意”が表示され、同時にブザーで警報します。



⚠警告

- 運転中の疲れ、体調不良を検出するシステムではありません。システムを過信せず、疲れや体調不良を感じたときは必ずすみやかに安全な場所に停車し休憩してください。
- 道路・交通環境によっては警報しない場合があります。

▶ 作動

〔前提条件〕

- 車両速度が約 60 km/h 以上のとき
- 車両が直進状態で走行しているとき
- 一定時間ターンシグナルスイッチの操作がないとき
- ドライビングサポート異常が発生していないとき

〔作動条件〕

- ハンドル操作にふらつきがあるとき

アドバイス

警報が発生しやすい状況

- 横風を受けたとき
- 積雪などでハンドルを取られたとき
- 路面の目地、またはわだちを走行したとき

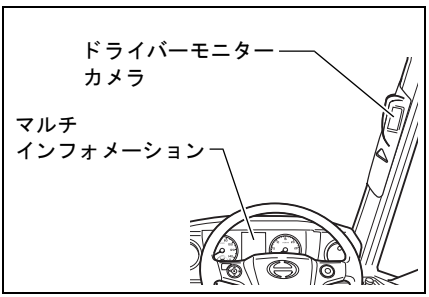
▶ 設定・解除

ふらつき警報の ON/OFF を切り替えます。

＊ ふらつき警報の ON/OFF については（→ P.6-39）

ドライバーモニターⅡ★

ドライバーモニターカメラで運転者の顔の向きや眼の開き具合、姿勢の変化を測定し、正面を向いていない、眼を閉じているおよび姿勢が適正でない状態が一定時間継続したとシステムが判断した場合、マルチインフォメーションに“集中力低下”が表示され、同時にブザーで集中力低下による危険を運転者へ警告します。



● マルチインフォメーション



▶ 作動条件

ドライバーモニター単独警報は以下の条件で作動します。

〔前提条件〕

- 車両速度が約 60km/h 以上のとき
- 車両が直進状態で走行しているとき
- ブレーキ操作がないとき
- シフトポジションがバックギアではないとき
- 先行車を検出していないとき、またはスキャニングクルーズが作動状態ではないとき（スキャニングクルーズⅡ搭載車）

これらの条件を満たして走行中、下記に該当すると警報が鳴り注意を促します。

〔作動条件〕

- 運転者が正面を向いていない、眼を閉じている、姿勢が適正でないとシステムが判断したとき
- ドライビングサポート異常、ドライバーモニター異常、ドライバーモニター時使用不可が発生していないとき

▶ 設定・解除

ドライバーモニターⅡ 機能の警告ブザー音 ON/OFF を切り替えます。

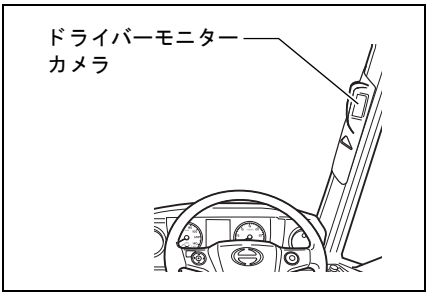
＊ ドライバーモニターⅡ 機能の警告ブザー音 ON/OFF については（→ P.6-40）

▶ 警報の解除

姿勢を適正に戻したとき、など

■ドライバーモニターカメラ

ドライバーモニターカメラが運転者の顔の向き、眼の開閉状態および姿勢の変化を検知します。



＊ ドライバーモニターカメラに保護フィルムが貼られていると、ドライバーモニターⅡが正しく作動しません。使用する前に必ず取り除いてください。

■照明用ランプ

ドライバーモニターカメラ作動中は照明用の LED ランプ（2 個）が点灯します。

＊ 車内の明るさにより LED ランプが見えにくい場合があります。

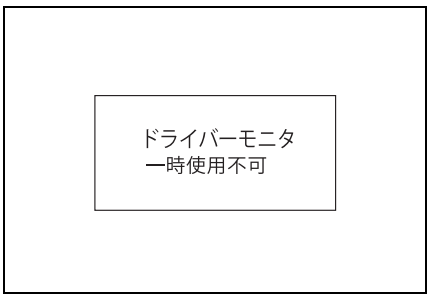
■顔認識メッセージ

停車時に運転者の顔の向きを検知し顔の認識が完了すると、マルチインフォメーションに“ 顔認識 OK”を表示します。



■一時使用不可メッセージ

ドライバーモニターカメラが運転者の顔を検出できない状態が一定時間継続したとシステムが判断した場合、マルチインフォメーションに“ ドライバーモニター時使用不可 ”を表示します。



知識

カメラと顔の間にさえぎるもの（カメラの前に物を置く、サンバイザー、手・腕・飾り物など）が取り除かれ、運転者の顔が検出されることで、再び使用可能になります。

■ドライバーモニター異常

ドライバーモニターのシステムに異常が発生すると、マルチインフォメーションに“ドライバーモニタ異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



⚠ 注意

マルチインフォメーションに“ドライバーモニタ異常”が表示されたときは、システムの故障が考えられますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。表示されたままでは警報装置は作動しません。

⚠ 警告

ドライバーモニター警報を過信しないでください。

- ドライバーモニター警報装置の認識性能には限界があります。事故につながるおそれがありますのでドライバーモニター警報を過信せず、常に周囲の状況に注意し安全運転を心掛けてください。

次のような場合は、運転者の顔の向き・眼の開閉・姿勢の変化についてドライバーモニターⅡが正常に判定できないことにより、ドライバーモニターⅡが正しく作動しないことがあります。

- カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき（カメラの前に物を置く、サンバイザー、手・腕・飾り物など）
- 太陽などの強い光が、直接顔やカメラにあたるとき
- 顔の一部が隠れるとき（メガネ、はちまき、サングラス、帽子、ヘルメット、マスク、無線機マイクで話をするなど）
- リヤカーテンを閉めているとき
- ポスター、写真などが運転者の背後にあるとき
- 室内灯を点灯させて走行しているとき
- 運転者以外の人が背後にいるとき
- 正しい運転姿勢をしていないとき
- ドライバーモニターカメラの照明用ランプが消えているとき

⚠警告

ドライバーモニターⅡの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となったり、正しい認識ができないことにより、ドライバーモニターⅡが正しく作動せず、事故の原因となるおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷つけたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない
- 走行中はカメラを触らない
- カメラを濡らしたり、飲料をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、汚れ、結露、水滴、シール等がないようにする
- カメラの前にものを置いたり、おおったりしない
- カメラの上にものを置いたり、荷重をかけない

⚠注意

ドライバーモニターカメラのお手入れ時の注意

カメラが故障するおそれがあるため、以下のことをお守りください。

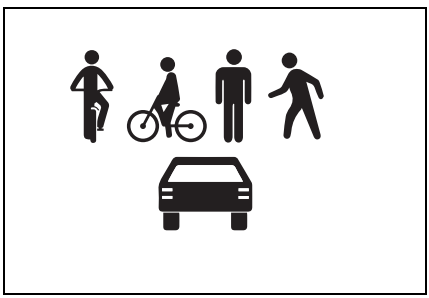
- 傷をつけないよう、柔らかい布でふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などを使用しないでください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）★

この装置は、進路上の車両や歩行者・自転車運転者を前方センサーで検出し、衝突の危険性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の危険性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

システムは次のものを作動対象として検出します。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者
- 停止障害物



＊ PCS はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

■作動対象検出について

対象の大きさ、輪郭、動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き、姿勢、角度などによっては作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

知識

PCS とは

- Pre-Crash Safety の略です。(衝突被害軽減ブレーキシステム)
- 運転者が衝突回避操作を行うことによって PCS が作動しないことや、解除することがあります。

■車両データの記録について

プリクラッシュセーフティシステムには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- プリクラッシュセーフティシステムの各機能の作動状況
- 先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
- 画像センサーの画像情報

▶ データの取り扱いについて

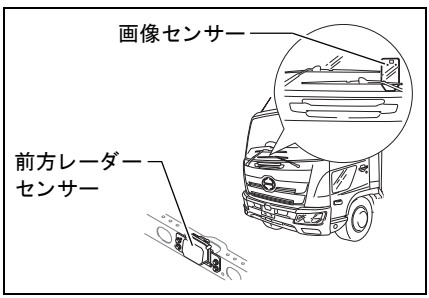
日野自動車はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、日野自動車は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 日野自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

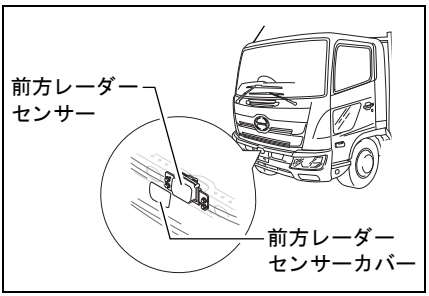
■前方センサー

フロントバンパーとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、必要な情報を認識します。



■PCS が正しく作動するために

・ 前方レーダーセンサーの前面や前方レーダーセンサーカバーに著しく泥、雪、または氷などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。



■インジケーターランプ・マルチインフォメーション

ランプ	内容と対処方法
OFF （点灯）	・ PCS に異常が発生すると点灯します。 ・ PCS が「OFF」のときに点灯します。 ・ PCS が作動を停止しているとき点灯します。

マルチインフォメーション	内容と対処方法
車間距離 ⚠ブレーキ ⚠ ブレーキ	・ PCS が作動すると表示します。
前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい 前方レーダ異常	・ PCS の故障を検出しています。日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。
前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを 取って下さい 前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ち下さい 前方レーダ 一時使用不可	・ センサーの異常を検出しています。（→ P.5-191）

⚠警告

■プリクラッシュセーフティについて

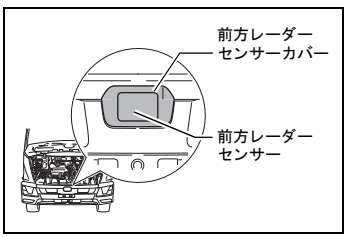
- プリクラッシュセーフティは、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害の軽減に寄与することを目的としています。
  本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■前方レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 前方レーダーセンサーと前方レーダーセンサーカバーは常にきれいにしておく
- 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。
- 前方レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。前方レーダーセンサー・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ず日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- 前方レーダーセンサーを分解しない
- 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバーを改造したり、塗装したりしない

⚠警告

- 前方レーダーセンサー・前方レーダーセンサーカバー・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 前方レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。
- 前方レーダーセンサーカバーは常に付けられている状態でご使用ください。（飛び石等が直接接触することでレーダーが破損するおそれがあります）



⚠警告

■**画像センサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、画像センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

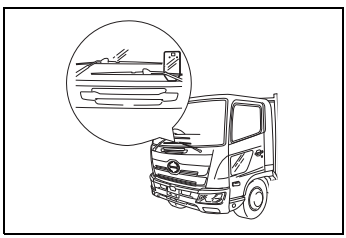
● フロントウインドウは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、画像センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の画像センサー取り付け部が汚れた場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

・ フロントウインドウガラスの画像センサー前部にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。



⚠警告

● フロントウインドウガラスの画像センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く

● フロントウインドウガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーブレードのゴムまたはワイパーブレードを交換する

・ ワイパーブレードの交換（→ P.13-94）

● フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

● 日野純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

● フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する。
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

⚠警告

- 画像センサーに液体をかけない
- 画像センサーに強い光を照射しない
- 画像センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 画像センサーに強い衝撃を加えない
- 画像センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 画像センサーを分解しない
- 画像センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどの画像センサー周辺部品や天井を改造しない
- ルーフ・フロントバンパーに、画像センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない。詳しくは日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 全長の長い荷物を積むときは、画像センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

⚠警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
  プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティシステムは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがある場合の例（→ P.5-185）
・ システムが正常に作動しないおそれがある場合の例（→ P.5-188）

- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

■プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- プリクラッシュブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。プリクラッシュブレーキは車両が停止してから約 2 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

⚠警告

■プリクラッシュセーフティシステムを OFF にする必要があるケース

- 次のときは、システムを OFF にしてください。
  システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

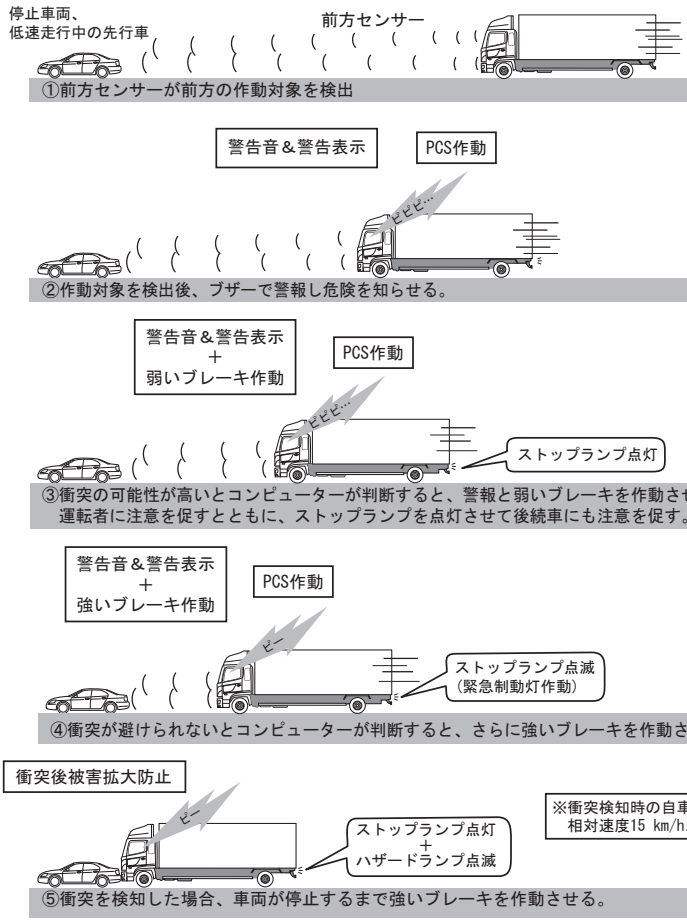
・ けん引されるとき
・ けん引するとき
・ トラック・船舶・列車などに積載するとき
・ 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
・ 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
・ 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
・ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
・ タイヤの空気圧が適正でないとき
・ 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
・ メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
・ タイヤチェーンを装着しているとき

■作動

前方センサーで自車線上の作動対象との相対距離や相対速度を検出・分析し、相対距離が近づきすぎるなどの衝突のおそれが高いとコンピュータが判断した場合、マルチインフォメーションへの警報表示（または）とブザー警報により、運転者に注意を促します。さらに衝突の可能性が高いと判断すると、強いブレーキを作動させ、衝突時の被害を軽減させます。万一、回避操作が無い場合はブレーキが作動して衝突速度を低減します。{ブレーキ作動中はストップランプが自動点灯し、強いブレーキ作動中は自動点滅（緊急制動灯）に切り替わり、衝突した場合は自車が停止するまでハザードランプが点滅します。}

なお、作動対象を検出した時点で、作動対象との相対距離が短い場合には、衝突が避けられないとコンピュータが判断し、作動対象の検出後すぐに警報音・警報表示と同時に強いブレーキが作動することがあります。

■PCS 作動イメージ図（停止車両、低速走行中の先行車の場合）



▶ システムの作動条件

スタータースイッチが「ON」のとき、プリクラッシュセーフティシステムが「ON」で、前方の車両や歩行者・自転車運転者との衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

・ 自車速度約 10 km/h 以上（検出対象が歩行者・自転車運転者のときは、自車速度約 10 ～ 80 km/h）

・ 自車から見た前方の車両や歩行者・自転車運転者との相対速度約 10 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

・ 自車速度約 10 km/h 以上（検出対象が歩行者・自転車運転者のときは、自車速度約 10 ～ 80 km/h）

・ 自車から見た前方の車両や歩行者・自転車運転者との相対速度約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

・ 障害物が対向車のとき

・ バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

・ チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターが「R」位置のとき

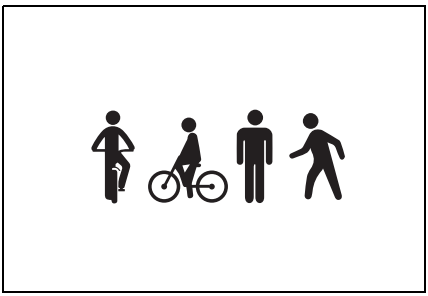
・ OFF ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ 前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい ”、“ 前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい ”、“ 前方カメラシステム一時使用不可 少々お待ち下さい ”、“ 前方レーダー時使用不可 ”、“ 前方レーダ異常 ” が表示されているとき

＊ PCS 作動開始タイミングは自車速度が遅い場合、または運転者の運転操作（一定以上のハンドル操作、ターンシグナルスイッチ操作、ブレーキ操作、アクセル操作）が行われている場合、遅くなります。

＊ 前記の作動条件以外で、路面や周囲の環境によっては PCS が作動する場合としない場合があります。詳細は「作動条件以外で作動する場合、しない場合」を参照ください。（→ P.5-185）

▶ 歩行者および自転車運転者検出について

対象の大きさ、輪郭、動きなどから検出します。
周囲の明るさや、歩行者・自転車運転者の動き、姿勢、角度などによっては歩行者・自転車運転者を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。



▶ プリクラッシュブレーキの作動解除

- プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- アクセルペダルを強く踏み込む
- ハンドルを大きくきる、またすばやく操作する
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、車両が停止してから約 2 秒後にプリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

詳細は「作動解除条件」および「PCS を“OFF”にするには」を参照ください。（→ P.5-191、5-192）

▶ 緊急制動灯

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

● システムの作動条件

- 車速 50 km/h 以上
- システムが車両の減速度から急ブレーキだと判断したとき

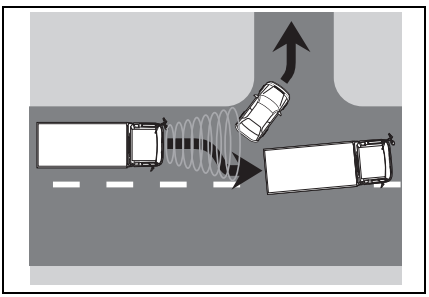
● 緊急制動灯の作動解除

- 緊急制動灯が作動した場合、次のときにシステムが自動解除されます。
- システムが車両の減速度から急ブレーキではないと判断したとき

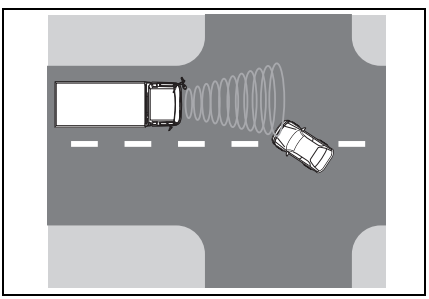
▶ 作動条件以外で作動する場合、しない場合

● 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがある場合の例

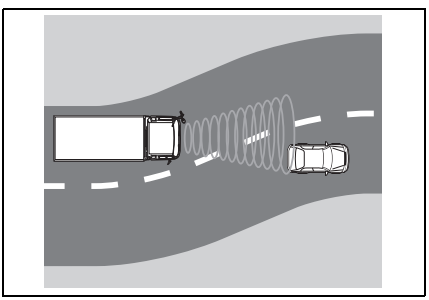
・ 右左折する先行車を追い越すとき



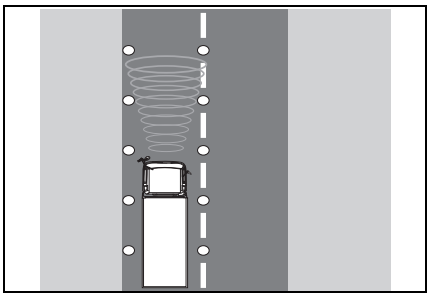
・ 右左折待ちの対向車とすれ違うとき



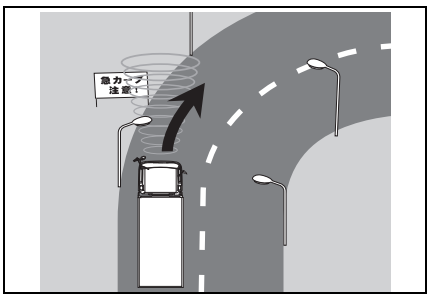
・ 隣の車線の前方車両との位置関係がずれる道（曲がりくねった道など）を走行するとき



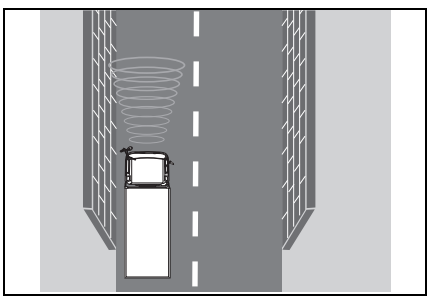
・ 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁など）に近づいたとき



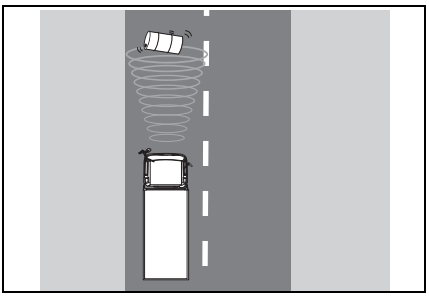
・ カーブ入り口の道路脇に車両・歩行者・自転車運転者・構造物が存在するとき



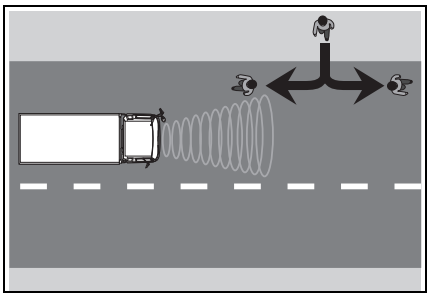
・ 道路脇が構造物に囲まれた狭い道（狭いトンネル・鉄橋）を走行するとき



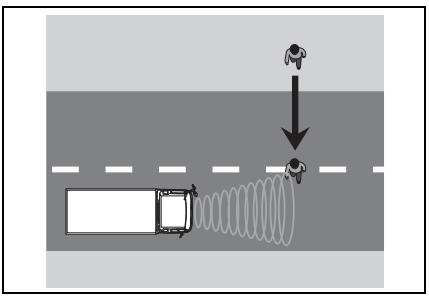
・ 路上または道路脇に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき



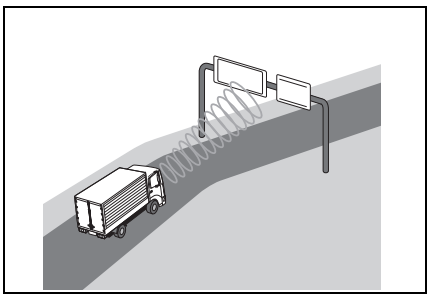
・ 歩行者や自転車運転者が歩道上から車道に向かって移動した場合



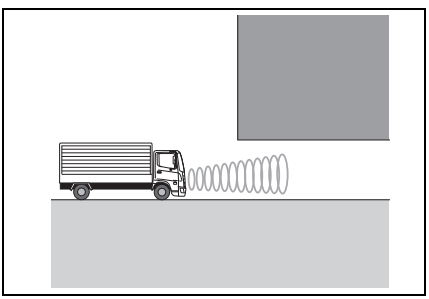
・ 横断する歩行者・自転車運転者が車両のすぐそばに近づいたとき



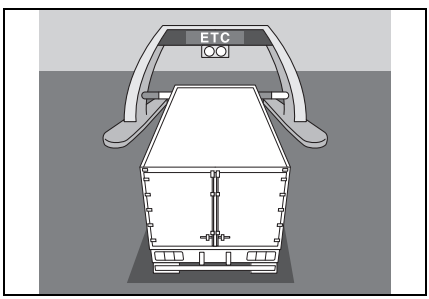
・ 上り坂で道路上に構造物（看板など）がある場所を走行するとき



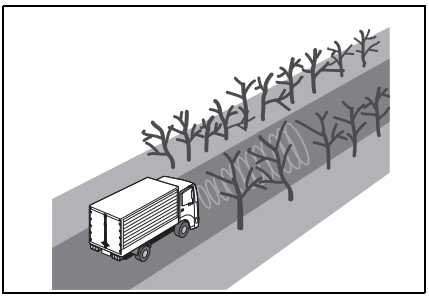
・ 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識）がある場所を走行するとき



・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに急速に接近したとき



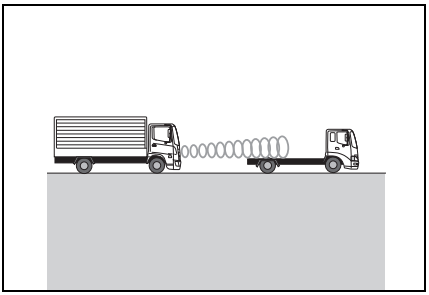
- 車両に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



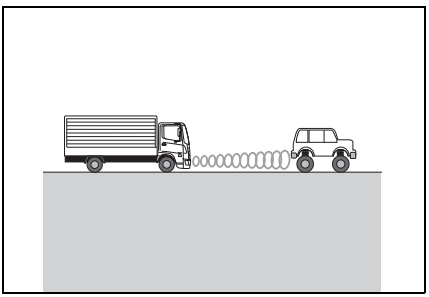
- 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき
- 車線変更して先行車を追い越すとき
- 車線変更している先行車を追い越すとき
- 先行車が急減速したとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- 洗車機を使用するとき
- 周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- 料金所等で係員に急接近したとき
- 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- テレビ塔・発電所・放送局など、強い電波やノイズが発生する近くを走行するとき
- 路面または壁などに車両・歩行者との区別がつきにくい模様やペイントがあるとき
- 他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき

● システムが正常に作動しないおそれがある場合の例

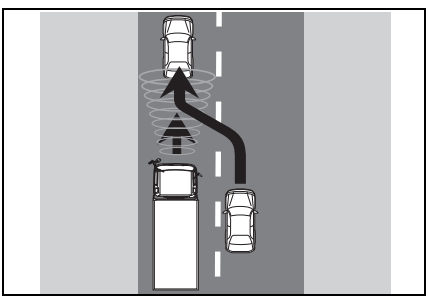
・ 先行車の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



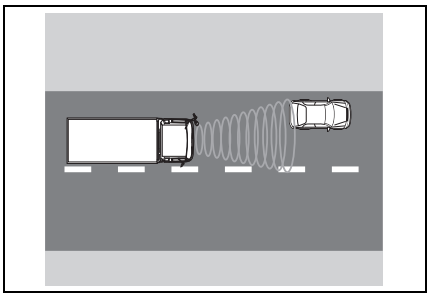
・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



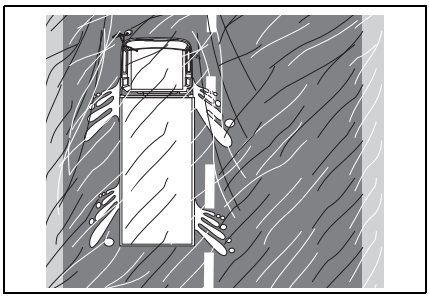
・ 車両が横から割り込んできたり、飛び出してきたとき



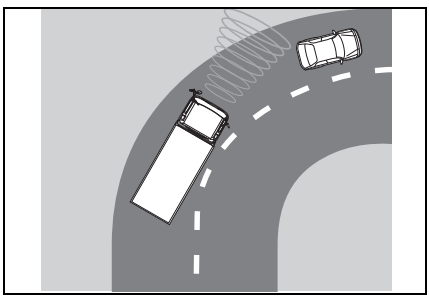
・ 前方車両と自車の中心がずれているとき



・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき



・ カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間



- 前方から自車に向かって車両が近づいてくるとき
- 前方車両がオートバイのとき
- 前方車両が横向きのとき
- 前方車両の後端面積が小さいとき（低床トレーラーなど）
- 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- 前方車両が太陽光などを強く反射しているとき
- 前方車両が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- 自車が車線変更を行い、変更した車線の先行車に急接近したとき
- 前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 車両前方に水蒸気や煙などがあるとき
- 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が画像センサーに直接あたっているとき
- 薄暗いとき（朝方・夕方など）、および夜間やトンネル内
- エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 自車が横滑りしているとき
- 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ホイールアライメントがずれているとき
- ワイパーブレードが画像センサーの視界をさえぎっているとき
- ふらつき運転をしているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- 坂道を走行しているとき
- 前方センサーの向きがずれているとき

- 次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります
  - ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・加熱している・濡れているなど）
  - 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
  - 砂利道や滑りやすい路面を走行しているとき
- 次のような歩行者・自転車運転者は、前方センサーが検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります
  - 大きな荷物を抱えていたり、傘をさしたりしていて、体の一部が隠れている歩行者・自転車運転者
  - ベビーカー・車いす・自転車などを押している歩行者
  - 集団でいる歩行者・自転車運転者
  - 白っぽい服に日差しが反射している歩行者・自転車運転者
  - 夜間やトンネル内など暗闇にいる歩行者・自転車運転者
  - 服装の色合いや明るさなどが背景に溶け込んでいる歩行者・自転車運転者
  - 壁際や車両・フェンス・ガードレールなどのそばにいる歩行者・自転車運転者
  - 路面金属物（マンホール・鉄板など）上にいる歩行者・自転車運転者
  - 速度を急激に変化させている歩行者・自転車運転者
  - 物陰から飛び出してきた歩行者・自転車運転者
  - 車両の側端（ドアミラーなど）すれすれの位置にいる歩行者・自転車運転者
  - 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）の自転車運転者
  - 歩行者・自転車運転者の大きさが約 1 m 以下、または 2 m 以上のとき
  - 歩行者・自転車の輪郭があいまいな時（レインコート・ロングスカートを着ている場合など）
  - 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
  - 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
  - 上方構造物（天井の低いトンネル、低い道路標識など）の下にいる歩行者・自転車運転者

▶ マルチインフォメーションに“前方レーダー時使用不可 ”、“ 前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい ”、“ 前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ち下さい ” が表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

- 次のときは、状況が改善されると“ 前方レーダー時使用不可 ”、“ 前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい ”、“ 前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ち下さい ” が消え、作動可能状態になります。

・ 炎天下などで、画像センサーや画像センサー周辺の温度が高いとき

・ 極寒の環境などで、画像センサーや画像センサー周辺の温度が低いとき

・ 前方レーダーセンサーや前方レーダーセンサーカバー周辺に著しく泥、雪、または氷などが付着しているとき

・ フロントウインドウガラスの画像センサー付近にシールが貼られているときなど、画像センサー前方がさえぎられているとき

- 上記のような状況が改善されたり、上記のような状況になっていなくても“ 前方レーダー時使用不可 ”、“ 前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい ”、“ 前方カメラシステム一時利用不可 少々お待ち下さい ” が表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

▶ 作動解除条件

PCS 作動中（警報またはブレーキ）に、下記操作を行うとシステムは解除します。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ PCS OFF スイッチを長押しする

▶ PCS を“OFF”にするには

PCS を OFF にする方法は 2 種類あります。

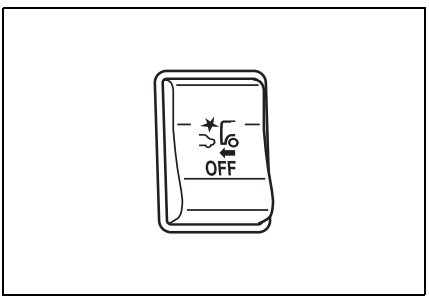
・ PCS OFF スイッチ：一時的な OFF 手段

・ 安全運転支援の設定画面：けん引時など、緊急・やむを得ない状況を想定した OFF 手段

PCS の ON/OFF の切り替え操作は、同一のスイッチで行う必要があります。
例えば、PCS OFF スイッチで操作を行った場合、その後にマルチインフォメーションの安全運転支援の設定で操作を行うことはできません。
ただし、マルチインフォメーションの安全運転支援の設定については、OFF → ON 操作に限り PCS OFF スイッチによる操作が可能です。

● PCS OFF スイッチ

＊ PCS OFF スイッチで操作を行った場合、その後に安全運転支援の設定画面で操作を行うことはできません。



・ PCS OFF スイッチを長押しすると PCS が解除され作動しなくなります。同時に OFF ランプが点灯します。もう一度押しこむと PCS が復帰（作動状態）し、OFF ランプが消灯します。

・ 通常走行時は、必ず PCS OFF スイッチを PCS の作動状態（OFF ランプ消灯）にしておいてください。スターターキーを「ON」の位置にした初期状態では PCS は作動状態となります。

・ PCS OFF スイッチで PCS を解除（OFF ランプ点灯）した場合、約 15 分後にマルチインフォメーションへ“PCS が復帰しました”と表示されブザー音が鳴り、PCS が自動復帰します。

● 安全運転支援の設定画面

・ 故障車等をけん引する時、または故障によりけん引されるときは、予期しない作動をするおそれがあるので安全運転支援の設定画面の操作を行い PCS システムを解除（OFF ランプ点灯）してください。（→ P.6-40）

・ 事故にあった場合など、強い衝撃を受けてシステムが正常に作動しないおそれがある場合には、安全運転支援の設定画面の操作を行い PCS システムを解除（OFF ランプ点灯）して、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検してください。（→ P.6-40）

＊ 安全運転支援の設定画面の操作はスターターキーを「ON」の位置にして 2 分以上停車していないと操作できません。（→ P.6-40）

＊ 安全運転支援の設定画面の操作で PCS システムを解除（OFF ランプ点灯）した場合は、スターターキーを「ON」にするまで自動復帰を行いません。

▶ システムの異常

システムに異常が発生した場合には、OFF ランプが点灯し、さらにマルチインフォメーションに次のような表示をします。OFF ランプが点灯したときは、PCS は作動を停止します。

“ 前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい ”、“ 前方レーダ異常 ” が表示された場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

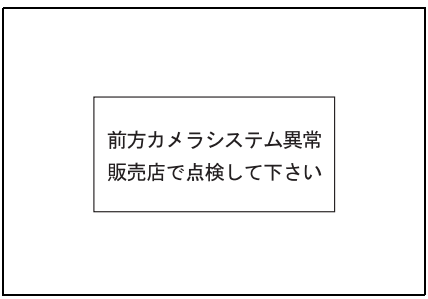
“ 前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい ”、“ 前方カメラシステム一時使用不可 少々お待ち下さい ”、“ 前方レーダー時使用不可 ” が表示された場合は、システムが一時的に使用できなくなっている可能性があります。詳しくは（→ P.5-191）

● PCS（プリクラッシュセーフティ）システムの異常

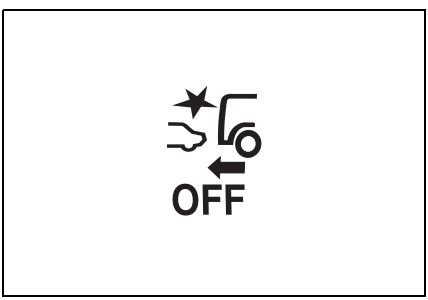
⚠ 警告

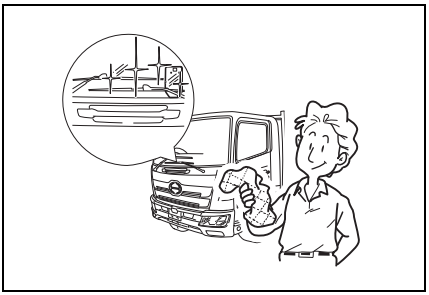
PCS システムが故障したまま走行を継続すると、PCS システムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せず PCS が作動し、事故につながるおそれがあります。PCS システムが故障した場合は、必ず最寄りの日野販売会社の整備工場にご連絡ください。

・ PCS（プリクラッシュセーフティ）システムに異常がある場合、マルチインフォメーションに “ 前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい ” を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



・ PCS OFF スイッチを押していなくても OFF ランプが点灯します。



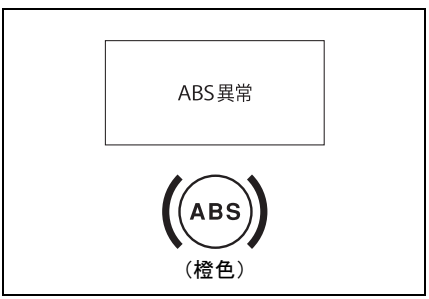


⚠警告

汚れをふき取ってもマルチインフォメーションに“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”が表示されたときは、すみやかに画像センサー前部のフロントガラスに割れ、ひびおよびガタツキがないことを確認してください。これらがある場合には、PCS および車線逸脱警報が正しく作動せず事故につながるおそれがあります。なお、画像センサー前部のフロントガラスに割れ、ひびおよびガタツキがあった場合は、運転を継続せず、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

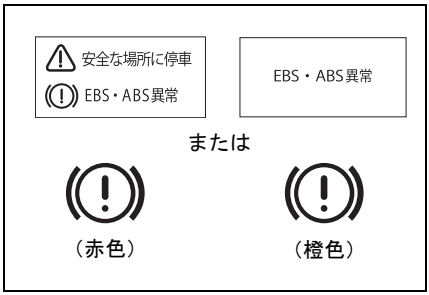
- ブレーキ制御（ABS）系統の異常（エアオーバーブレーキ付車）

マルチインフォメーションに“ABS 異常”を表示、およびメーターパネル内の (ABS) ランプが点灯します。



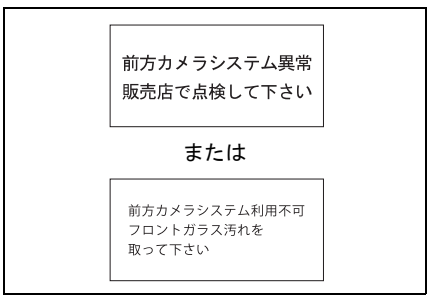
- ブレーキ制御（EBS・ABS）系統の異常（フルエアブレーキ付車）

マルチインフォメーションに“EBS・ABS 異常”を表示、およびメーターパネル内の (!) ランプが点灯します。このとき同時に警報ブザーが鳴ります。



- 車線逸脱警報装置制御系統の異常

車線逸脱警報装置制御系統に異常が発生した場合にはマルチインフォメーションに“前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい”または“前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを取って下さい”を表示します。



● レーダー異常

前方レーダーセンサーに異常がある場合、マルチインフォメーションに“前方レーダ異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



● レーダー汚れ

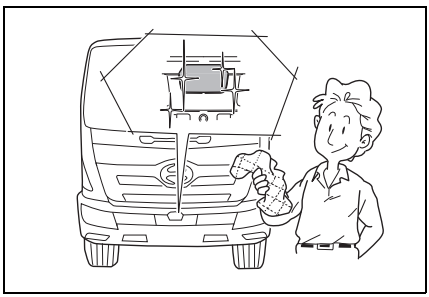
前方レーダーセンサーまたは前方レーダーセンサーカバーに著しく泥、雪または氷などの付着があると“前方レーダー時使用不可”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



● レーダー未調整

前方レーダーセンサーが未調整の場合は、マルチインフォメーションに“前方レーダー時使用不可”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。





⚠ 警告

汚れをふき取ってもマルチインフォメーションに“前方レーダー時使用不可”が表示されたときは、すみやかに前方レーダーセンサーおよび前方レーダーセンサーカバーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがないことを確認してください。これらがある場合には、PCS システムが正しく作動せず事故につながるおそれがあります。なお、前方レーダーセンサーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがあった場合は、運転を継続せず、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

標識認識システム

この装置は画像センサーによって道路標識を認識し、その情報をメーター上に表示します。

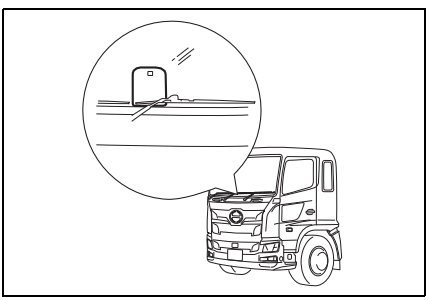
さらに、認識した標識に反する運転を行っていると判断した場合には、メーター表示に加えて警報音でも注意を促します。

走行中の標識の見落としを防ぎ、安全運転をサポートするためのシステムです。

▶ 告知される道路標識などの種類およびマルチインフォメーション

■画像センサー

- 画像センサーは、フロントガラス下部に取り付けられています。
- 道路標識を認識するために画像センサーを使用しています。



■認識できる主標識

- 速度標識

認識標識	メーター表示標識
 看板＊1	
 電光＊2	

＊1　対象速度 km/h：20、30、40、50、60、70、80、100

＊2　対象速度 km/h：40、50、60、70、80、100、110、120

- はみ出し禁止標識

認識標識	メーター表示標識
	

- 進入禁止標識

認識標識	メーター表示標識
	

- 一時停止標識

認識標識	メーター表示標識
	

● 高さ制限標識

認識標識	メーター表示標識
* 	* 

＊ 1.2 ～ 4.5 m（0.1 m 間隔） 予告標識付も表示対象

● 車両通行止め標識

認識標識	メーター表示標識
* 	

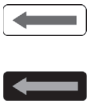
＊ 対象の認識表示は 2 つ 予告標識付も表示対象

■認識できる補助標識

● 規制解除

認識	特記事項
	例：  主標識の上部に設置（下の 2 つが規制解除の対象）

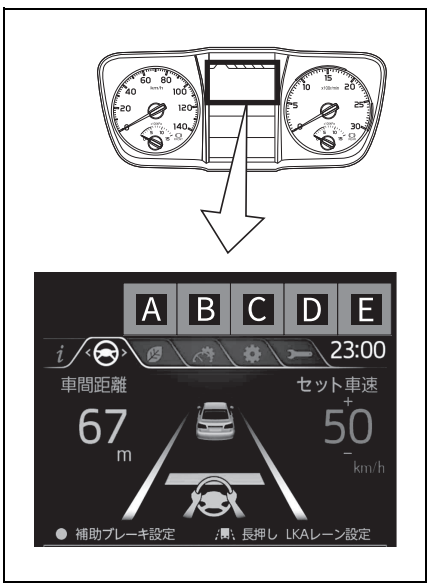
● 規制終了

認識		特記事項
	矢印	例： 
	文字	主標識の下部に設置（上の 2 つが規制終了の対象） 看板、電光ともに認識

● 予告標識

認識	特記事項
	距離の数字は不問 予告標識付も表示対象

■マルチインフォメーション



● エリア A

名称	メーター表示標識
一時停止	
大型貨物自動車等通行止め	

● エリア B

名称	メーター表示標識
速度制限	 *
システム OFF	 グレー
システム故障	 橙色

＊ 20 ～ 120 km/h を表示し、超過時は点滅する。

● エリア C

名称	メーター表示標識
進入禁止	
はみ出し禁止	

● エリア D

名称	メーター表示標識
高さ制限	

● エリア E

名称	メーター表示標識
高さ制限標識の数値表示	* 1.9m

＊ 1.2 ～ 4.5 m（0.1 m 間隔）

⚠警告

■**画像センサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。お守りいただかないと、画像センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。**

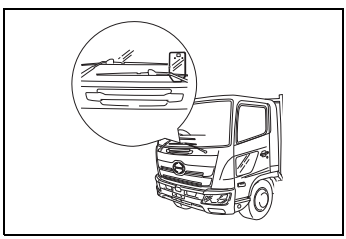
● フロントウインドウは常にきれいにしておく

・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、画像センサー前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・ フロントウインドウガラス内側の画像センサー取り付け部が汚れた場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

・ フロントウインドウガラスの画像センサー前部にアンテナを取り付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。



● フロントウインドウガラスの画像センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、フロントデフロスターで取り除く

⚠警告

● フロントウインドウガラスの画像センサー前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーブレードのゴムまたはワイパーブレードを交換する

・ ワイパーブレードの交換（→ P.13-94）

● フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

● 日野純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しない

● フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する。フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

● 画像センサーに液体をかけない

● 画像センサーに強い光を照射しない

● 画像センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は日野販売会社の整備工場にご相談ください。

● 画像センサーに強い衝撃を加えない

● 画像センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

● 画像センサーを分解しない

⚠ 警告

- 画像センサー付近に電子機器や、強い電波を発信する機器を取り付けない
- インナーミラーなどの画像センサー周辺部品や天井を改造しない
- ルーフ・フロントバンパーに、画像センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない。詳しくは日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- 全長の長い荷物を積むときは、画像センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

▶ 標識表示機能について

この機能は、画像センサーで認識した道路標識をメーターに表示し、ドライバーに標識情報をお知らせすることで、標識の見落としを防ぎます。

■速度標識

画像センサーが速度標識を認識すると標識通過後、メーターに表示されます。

- 作動条件*
  - シフトポジションがリバース状態ではないとき
  - 標識認識設定が ON のとき
- 解除条件*
  - ターンシグナルスイッチが作動中に車速が約 70 km/h 以下で交差点を曲がったとき
  - シフトポジションがリバース状態のとき
  - 標識表示から約 75 秒または、約 1,000 m 走行したとき
  - 車速が標識の速度＋約 45 km/h 以上のとき
  - 規制終了標識を認識したとき
  - 進入禁止、一時停止標識を認識したとき

＊ ただし標識連動型車速制御システム作動中は上記条件を満たしても解除しません。

- 重量車による速度表示規制
  - 大型貨物自動車と 8t 以上の中型貨物自動車は、90 km/h 以上の標識は 90 m/h の標識として表示します。
- 速度標識が2つ以上隣接しているとき
  - 大型貨物自動車と 8t 以上の中型貨物自動車の場合、2 番目に速い標識を表示します。

⚠ 注意

■使用上の注意

標識認識システムの認識性能には限界があります。事故につながるおそれがありますので標識認識システムを過信せず、常に周囲の状況に注意し安全運転を心がけてください。

■はみ出し禁止標識

画像センサーがはみ出し禁止標識を認識すると標識通過後、メーターに表示されます。

● 作動条件

・ シフトポジションがリバース状態ではないとき

・ 標識認識設定が ON のとき

● 解除条件

・ ターンシグナルスイッチが作動中に車速が約 70 km/h 以下で交差点を曲がったとき

・ 標識表示から約 75 秒または、約 1000 m 走行したとき

・ 規制解除か規制終了のどちらかの補助標識を認識したとき

・ シフトポジションがリバース状態のとき

■進入禁止標識

画像センサーが進入禁止標識を認識すると標識通過前にメーターに表示されます。

● 作動条件

・ シフトポジションがリバース状態ではないとき

・ ターンシグナルスイッチが作動中ではないとき

・ 車速が約 60 km/h 以下のとき

・ 標識認識設定が ON のとき

● 解除条件

・ ターンシグナルスイッチが作動中に車速が約 70 km/h 以下で交差点を曲がったとき

・ シフトポジションがリバース状態のとき

・ 車速が約 60 km/h 以上のとき

・ 標識を通過したとき

■一時停止標識

画像センサーが一時停止標識を認識すると標識通過前にメーターに表示されます。

● 作動条件

・ シフトポジションがリバース状態ではないとき

・ 車速が約 60 km/h 以下のとき

・ 標識認識設定が ON のとき

● 解除条件

・ ターンシグナルスイッチが作動中に車速が約 70 km/h 以下で交差点を曲がったとき

・ シフトポジションがリバース状態のとき

・ 標識を通過したとき

■高さ制限標識

画像センサーが高さ制限標識を認識すると標識通過前にメーターに表示されます。

● 作動条件

・ シフトポジションがリバース状態ではないとき

・ ターンシグナルスイッチが作動中ではないとき

・ 標識認識設定が ON のとき

● 解除条件

・ シフトポジションがリバース状態のとき

・ ターンシグナルスイッチが作動中に車速が約 70 km/h 以下で交差点を曲がったとき

・ 標識を通過したとき

■大型貨物通行止め標識

画像センサーが大型貨物通行止め標識を認識すると標識通過前にメーターに表示されます。

● 作動条件

・ シフトポジションがリバース状態ではないとき

・ 標識認識設定が ON 状態のとき

● 解除条件

・ ターンシグナルスイッチが作動中に車速が約 70km/h 以下で交差点を曲がったとき

・ シフトポジションがリバース状態のとき

・ 標識を通過したとき

▶ 警報機能について

この機能は、警報によってドライバーに注意を促し、交通事故のリスクを低減します。

■速度超過警報機能

速度超過警報設定をセットした状態で走行中、画像センサーが速度標識を認識すると標識通過後、メーターに標識表示を行います。また、警報音設定を ON に設定している場合、標識表示とともに警報音を鳴らします。

● 作動条件

・ 表示標識と速度超過設定を足した速度を超過したとき

・ 速度超過警報設定が ON 状態のとき

● 解除条件

警報表示機能

・ 表示標識と速度超過設定を足した速度を約 3 km/h 下回ったとき

・ 警報が表示され約 15 秒経過したとき

＊ 速度超過から最低 10 秒は超過警報を表示します。

警報音機能

・ 警報音が鳴り始めてから約 5 秒経過したとき

＊ 速度超過から最低 3 秒は超過警報音を鳴らします。

▶ 操作方法

■操作のしかた

マルチインフォメーションの車両システム各種設定タブにある「安全運転支援機能」の設定画面から、標識認識機能・速度超過警報音・標識連動機能・標識連動通知音を作動させるように設定できます。

安全運転支援機能の設定画面の表示方法については（→ P.6-38）

マルチインフォメーション	内容と対処方法
前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい	・ システムの故障を検出しています。日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。
前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを 取って下さい	・ 画像センサーの前のフロントガラスに汚れ、雨滴、結露、氷雪などが付着しています。画像センサー前のフロントガラスの汚れなどを落としてください。
前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ち下さい	・ 画像センサー周辺が熱くなっているため、機能が一時停止しています。画像センサー周辺が冷えるのを待ってください。 ・ 画像センサー前方が遮蔽されています。遮蔽物を取り除いてください。 ・ 画像センサーの電圧値が異常になっています。バッテリーの電圧値を確認し、充電等を行ってください。

■故障について

次のとき、システムが正しく作動しない場合がございます。

- 標識に汚れ、色褪せ、傾きや曲がりがあるとき
- 標識の全体または一部が木、雪、電柱、車などで隠れているとき
- 標識の設置高さや、サイズが極端に異なるとき
- 走行中の道路環境がよくないとき（塗装されていない荒れた道路、急カーブなど）
- 車体が大きく揺れたときや、運転状況（曲がる、車線変更等）を正しく判断できなかったとき
- 先行車の後方に標識に色や形が似ているステッカーや反射板などが貼られているとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または車線の合流地点の直前にあるとき
- ヘッドライトのレンズやフロントガラス、画像センサーが汚れている、または曇っているとき
- 補助標識により条件が指示されているとき
- 前方から強い光を受けた時や、夜間などで自車のヘッドライトの光が届きにくいに標識があるとき
- 工事中の道路や車線規制がある道路を走行するとき
- ロータリー、パーキングエリアの出口、高速道路の料金所など、またその周辺を走行しているとき
- システムに対応している標識の形や色に似ているものが認識可能な位置にあるとき
- 自車が走行するレーンではない側道や分岐点標識が画像センサーの認識範囲にあるとき

- 悪天候時（雨・霧・雪のときなど）標識が正確に認識できない場合があります。
- 道路形状（カーブなど）や自車の状況（ハンドル操作や車線の位置）によっては、一時的に正しい標識を認識できない場合があります。
- 認識対象でない補助標識が付いている場合、正しく標識認識できない場合があります。
- 複数の制限速度が並ぶ制限速度標識は設置環境により、車両にあった適切な最高速度表示されない場合があります。

例 : 複数標識
 

- 標識認識システムに異常が発生し作動できない状況が継続している間は、標識は認識されず、マルチインフォメーションに下記の内容が表示されます。

マルチインフォメーション	内容
 （橙色）	・ 標識認識システムの故障を検出しているとき ・ 画像センサーを利用できないとき

- 標識認識システムに異常が発生し作動できない状況が継続している間は、警報機能は作動しません。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）★

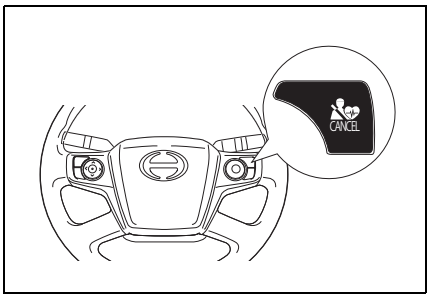
⚠警告

- 安全運転の責任は運転者にあります。ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、健康起因などにより運転者に異常が発生した場合に備え、安全に車両を減速・停止する支援を目的としていますが、さまざまな条件によりその効果は変わります。そのため、常に最大の効果を発揮できるものではありません。システムを過信せず、安全運転・健康管理につとめてください。
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、運転者にどのような異常が発生した時でも、必ず車両が減速・停止するものではありません。

高速道路（60 km/h 以上）にて運転者に異常が発生した際、衝突被害の軽減と運転者の速やかな救助活動を行うことを目的としたシステムです。健康起因などにより運転者に異常が発生したことをセンサーにより自動検知し、車内外へ異常事態を報知するとともに車両の減速を開始し停止させます。

不用意にシステムが作動した際は、運転者が解除スイッチを 2 回押すことでシステム作動を解除し、通常走行を継続させることができます。

■スイッチほか装置説明



▶ 解除スイッチ

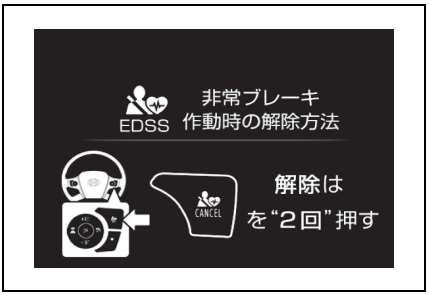
・ 解除スイッチを連続で 2 回押すとシステム作動を解除します。

知識

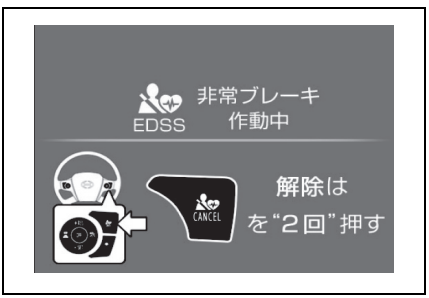
- システム作動後、車両が停止するまでの間は、解除スイッチを 2 回押すことでいつでもシステム作動を解除できます。
- システム作動により車両が停止・エンジンが停止している場合は、救助活動時の安全性確保のため、解除スイッチを 2 回押してもシステムは解除できません。スターターキーを「LOCK」位置にしてシステム解除してください。解除スイッチでは解除できません。
- システムの解除方法および解除スイッチの操作方法については（→ P.5-209）

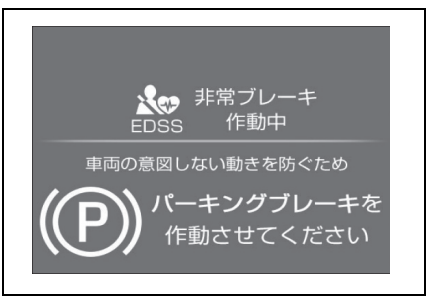
▶ マルチインフォメーション

・ スターターキーを「ON」位置にしたとき、インフォメーションとして表示



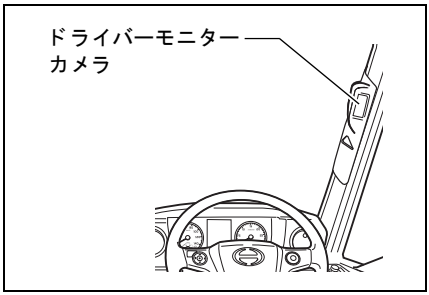
・ ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動前および作動中は、警告表示がマルチインフォメーションに表示されます。





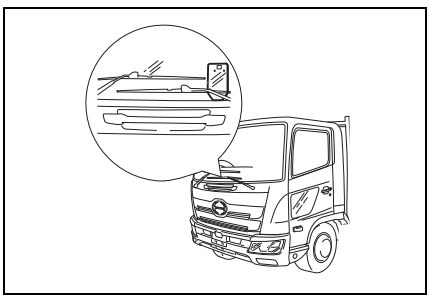
▶ ドライバーモニターカメラ

・ ドライバーモニターカメラが運転者の顔の向き、眼の開閉状態および姿勢の変化を検知します。



▶ 画像センサー

・ 車線逸脱警報として走行中の車線を識別します。



■システム作動

▶ システム作動時の報知内容

● 車内報知

・ マルチインフォメーションに作動表示

・ メーターブザー吹鳴

● 車外報知

・ ホーン吹鳴（断続）

・ ハザードランプ点滅

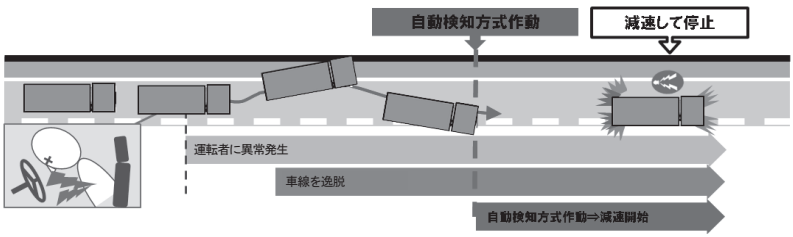
・ ストップランプ点滅（高速）

システム作動イメージについては（→ P.5-207、5-210）

▶ 自動検知による作動

ドライバーモニター、および車線逸脱判定により運転者の異常を検知かつ車線逸脱後も復帰操作が行われなかったとき、自動検知によりシステムが作動します。

＊ ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、車線逸脱警報装置が OFF でも作動します。



ドライバーモニターにより運転者の異常を検知する条件

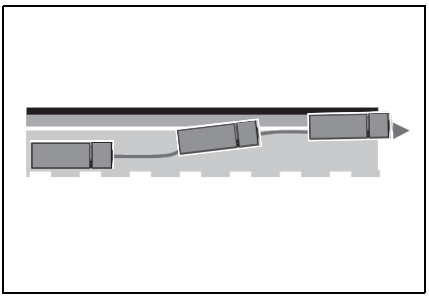
運転者の状態		
項目	イメージ	説明
突っ伏し		運転者が前方に倒れ、ハンドル付近まで顔が来ている姿勢が継続している状態
うつむき		運転者の顔が下を向いている姿勢が継続している状態
仰け反り		運転者の上半身が後方に傾き、顔が上を向いている姿勢が継続している状態
えび反り		運転者の上半身が反り上がり、顔が上に向いている姿勢が継続している状態
首のみ横倒れ		運転者の頭が左または右に傾いている姿勢が継続している状態
横倒れ		運転者の上半身が左または右に傾き、顔も同方向に傾いている姿勢が継続している状態
横もたれ		運転者の上半身が左または右に傾いている姿勢が継続している状態
長時間閉眼		運転者が長時間、目を閉じている状態

注：自動検知は、60 km/h 以上で作動します。

車線逸脱判定により車両挙動の異常を検知する条件

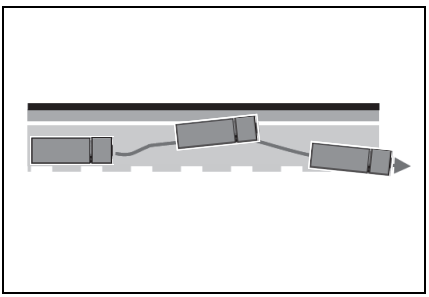
● 車線逸脱の継続

・ 車線逸脱しているのに復帰操作を行わない



● 車線逸脱の繰り返し

・ 車線を左右にはみ出し、車線逸脱しているのに復帰操作を行わない



・ システムが作動してから約 3 秒経過後、車内報知・車外報知とともに停車させるためブレーキが作動します。運転者がアクセルペダルを踏んでいる場合でも、アクセルペダル操作は無効となり、システムによるブレーキ作動が優先されます。停車後は、安全のためエンジンを自動停止し、ブレーキ作動が保持されます。

・ システム作動イメージについては（→ P.5-207、5-210）

知識

● 運転者がブレーキペダルを踏んでいる場合は、システムによる制動と、ブレーキペダル操作による制動のうち、強い制動を優先します。

● マニュアルトランスミッション車は、車両停車前にエンジンが停止する場合があります。

⚠ 警告

次の場合は、自動検知が正しく作動しないことがあります。

● 車速が 60 km/h を下回っているとき

● ドライバーモニターカメラが顔を認識できていないとき

・ カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき（カメラの前に物を置く、サンバイザー、手・腕・飾り物など）

・ 太陽などの強い光が、直接顔やカメラにあたるとき

・ 顔の一部が隠れるとき（メガネ、はちまき、サングラス、帽子、ヘルメット、マスク、無線機マイクで話をするなど）

・ リヤカーテンを閉めているとき

・ ポスター、写真などが運転者の背後にあるとき

・ 室内灯を点灯させて走行しているとき

・ 運転者以外の人が背後にいるとき

・ 正しい運転姿勢をしていないとき

・ ドライバーモニターカメラの照明用ランプが消えているとき

⚠警告

- 車線逸脱判定が正常に作動しないとき
- 白線や黄色線などの車両通行区分帯境界線が無い道路またはセンターラインのみの道路を走行するとき
- 白線や黄色線などの車両通行区分帯境界線がかすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光などで車線が見えにくいとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 路面補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、路面表示と紛らわしい線が見えるとき
- 太陽光や水たまりなどで路面が光っているとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路などを走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- 車両通行区分帯境界線の幅が狭いときや広いとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 荷物が偏って積載された状態のとき

▶ システム解除

・ 運転者が運転を継続できるにもかかわらず、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した場合は、解除スイッチを 2 回押すことでシステム作動を解除し、通常走行を継続できます。

・ システムによるブレーキ作動後、解除操作をすることなく車両が停止したあとは、安全のためエンジンが自動停止し、ブレーキ作動が保持されます。エンジン停止以降は、解除スイッチを 2 回押しても解除できません。解除するにはスターターキーを「LOCK」位置にしてください。

・ システムによる停車後は、ブレーキ作動が保持されます。ES スタートよりも優先して作動するため ES スタートを解除してもドライバー異常時対応システム（EDSS）のブレーキ作動状態は解除されません。

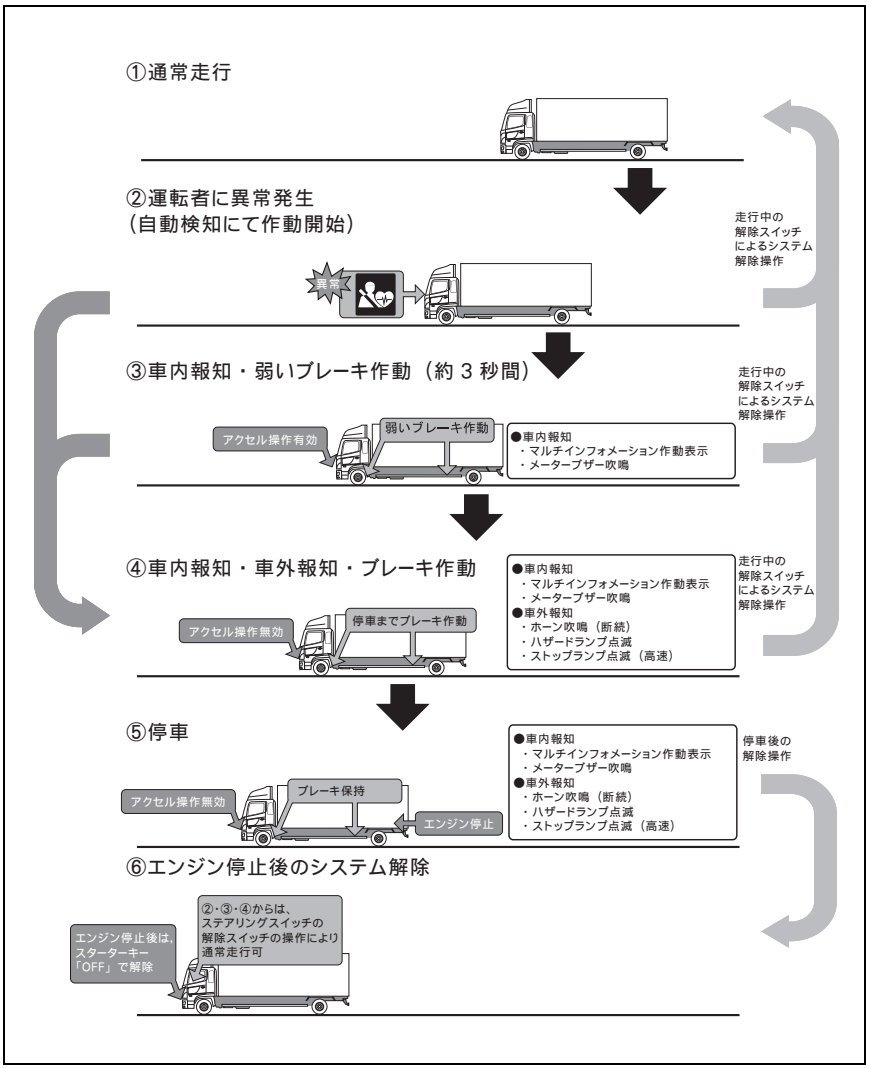
・ システムの解除操作をするまで、車内報知、車外報知、エンジン停止、ブレーキ作動は機能し続けます。

・ システムが作動し、停止した車両を通常走行する際は、車内外の安全を確認のうえ、パーキングブレーキを引き上げ（作動）、ギアを N レンジに入れた後、スターターキーを一旦「LOCK」位置にしてください。通常の手順でエンジンを再始動してください。

知識

ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動中に、ABS、VSC、PCS が作動する状況になった場合は、ABS、VSC、PCS のシステムが優先して作動します。
スキャニングクルーズⅡ作動中は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が優先して作動します。

■ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動イメージ



⚠ 注意

■ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両の取り扱い

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両への救助について

- 停車してエンジンが停止しており、報知が継続している場合は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が解除されていません。
- 運転者および同乗者を救助する際は、可能な限り安全なところへ車両を移動してください。
- 移動できない場合は、安全確保や被害拡大の防止に努めてください。

・ パーキングブレーキを作動させる
・ タイヤの前後に輪止めを掛ける
・ スターターキーを「LOCK」位置にする

＊ スターターキーを「LOCK」位置にする前に、必ずパーキングブレーキを作動させてください。

- 停車後のシステムによるブレーキ作動保持状態は、あらゆる条件下での機能を保証するものではありません。詳しくは、「システムが正常に作動しない場合」および「ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両の取り扱い」を参照してください。（→ P.5-214、5-211）
- システムが作動し、停止した車両を通常走行する際は、車内外の安全を確認のうえ、パーキングブレーキを引き上げ（作動）、ギアを N レンジに入れた後、スターターキーを一旦「LOCK」位置にしてください。通常の手順でエンジンを再始動してください。

知識

- ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動中に車両挙動が不安定になる可能性がある、または衝突の危険性がある場合は、ABS、VSC、PCS が優先して作動します。
- システム作動中のアクセルペダル操作は、ブレーキ作動の開始からシステム解除されるまでの間、無効になります。
- システムによるエンジン自動停止時に、車両が振動する場合がありますが異常ではありません。

⚠警告

- 安全運転の責任は運転者にあります。ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、健康起因などにより運転者に異常が発生した場合に備え、安全に車両を減速・停止する支援を目的としていますが、さまざまな条件によりその効果は変わります。そのため、常に最大の効果を発揮できるものではありません。システムを過信せず、安全運転・健康管理につとめてください。
- ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、運転者にどのような異常が発生した時でも、必ず車両が減速・停止するものではありません。
- 以下の条件では、ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、十分に効果が得られない場合があります。

・ ブレーキがフェード現象を起こしているとき
・ 車両速度が限界を超えているとき
・ ブレーキに整備不良があるとき
・ 凍結路など、滑りやすい路面を走行しているとき
・ 脱輪、パンクなどの危険要因が生じたとき

- 衝突等により車両が損傷している場合は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が正常に作動しない場合があります。

■ドライバー異常時対応システム（EDSS）と他の装置が同時作動した場合

ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動時に以下の装置が作動中、またはドライバー異常時対応システム（EDSS）作動後に以下の装置が作動を開始した場合は表に示すように各装置が作動します。

		ドライバー異常時対応システム（EDSS）作動中	ドライバー異常時対応システム（EDSS）解除後
ドライバー異常時対応システムEDSSと同時作動する場合がある装置	ABS	ABS 作動が優先（車両挙動の安定性確保のため）＊1	装置作動条件が成立中であれば、作動継続
	ASR	EDSS 作動が優先	EDSS 作動が優先
	VSC	VSC 作動が優先（車両挙動の安定性確保のため）＊3	装置作動条件が成立中であれば、作動継続
	PCS	PCS 作動が優先（衝突の危険性があるため）＊3	装置作動条件が成立中であれば、作動継続
	スキャニングクルーズⅡ	ドライバー異常時対応システム（EDSS）が優先（車内報知、弱いブレーキ作動中は、スキャニングクルーズⅡによる加速は行いません。車外報知、ブレーキ作動後はスキャニングクルーズⅡは解除されます。）＊2	装置作動条件が成立中であれば、作動継続
	ES スタート	ドライバー異常時対応システム（EDSS）が優先（車両停車後、車両の動き出しを予防するため、ES スタートを解除してもブレーキがかかったままの状態を継続）＊2	装置作動条件が成立中であれば、作動継続
	アイドルストップシステム	ドライバー異常時対応システム（EDSS）が優先（車両停車後、車両の動き出しを予防するため、アイドルストップを解除してもエンジン停止を保持）＊4	装置作動条件が成立中であれば、作動継続

＊1　ブレーキ制御以外の機能（車内外報知など）は、ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動します。

＊2　ブレーキ制御以外の機能（車内外報知、メーター表示など）はそれぞれ同時に作動します。

＊3　ブレーキ制御、ハザードランプ、ストップランプ制御は、VSC、PCS が優先します。
ブレーキ制御、ハザードランプ、ストップランプ制御以外の機能（車内外報知、メーター表示など）はそれぞれ同時に作動します。

＊4　エンジン制御以外の機能（車内外報知、メーター表示など）はそれぞれ同時に作動します。

■ドライバー異常時対応システム（EDSS）が正常に作動しない場合

- バッテリー電圧が低い、または衝突などにより車両の電源が消失し、正常に ECU や報知が動作しないとき
- エア圧が低い、または衝突などにより車両のエアが消失し、正常にホーンやブレーキが作動しないとき
- 衝突などにより、車両が損傷するなどして ECU やハーネスなどの構成部品が機能しなくなったとき
- EBS・ABS 異常が発生しているとき
- スターターキー ON 時メーターに下記のようなメーター表示がされなかったとき



■ドライバー異常時対応システム（EDSS）の効果が得られない場合

・ 以下の条件では、ドライバー異常時対応システム（EDSS）は、十分に効果が得られない場合があります。

・ ブレーキがフェード現象を起こしているとき

・ 車両速度が限界を超えているとき

・ ブレーキに整備不良があるとき

・ 凍結路など、滑りやすい路面を走行しているとき

・ 脱輪、パンクなどの危険要因が生じたとき

■ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した車両の見分け方

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動した場合は車内、車外報知します。

● 車内報知

・ マルチインフォメーション作動表示

・ メーターブザー吹鳴

● 車外報知

・ ホーンが吹鳴

・ ストップランプが点滅

・ ハザードランプが点滅

ドライバー異常時対応システム（EDSS）の解除操作をするまで車内外報知は継続するため、他の駐停車している車両と判別することは容易になります。

■システム作動に伴う責任について

運転者の体調の急変等に伴い、危険を回避するためにシステムを作動させた場合に限り、システム作動に対する責任は問われません。

サイトアラウンドモニターシステム★

このシステムは、接近する移動物の存在を運転者に知らせることにより、車線変更時、交差点進入時および右左折時の前側方および後側方確認を支援するシステムです。レーダーセンサーを使用して移動物を検知し、接近状態に応じてピラー部のサイトアラウンドモニターシステム表示灯やブザー音で運転者に注意を促します。

⚠警告

■サイトアラウンドモニターシステムについて

サイトアラウンドモニターシステムは、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、注意喚起により運転者の衝突回避動作を補助することを目的としています。本システム性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

⚠警告

■レーダーセンサーの故障や誤作動を防ぐために次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーセンサーが正常に作動せず、思わぬ衝突につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダーセンサーとセンサーカバーは常にきれいにしておく
- レーダーセンサーやセンサーカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない。
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける
  レーダーセンサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた際は、必ず日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- レーダーセンサーを分解しない
- レーダーセンサーやセンサーカバーを改造したり、塗装したりしない
- 別車両のレーダーセンサーを取り付けない
- レーダーセンサーは配置変更をしない
- レーダーセンサー・センサーカバーを外さないでください。
- 事故などでレーダーセンサー・センサーカバーが変形した場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

⚠警告

- レーダー前面に物を設置しないでください。
- サイドガードにものをかけたり置いたりしないでください。
- レーダーセンサー・センサーカバー・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

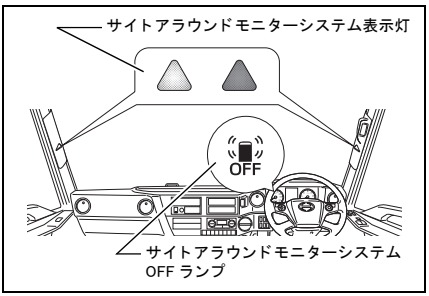
⚠警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。サイトアラウンドモニターシステムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。居眠り運転やわき見運転を回避するシステムではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ衝突につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- サイトアラウンドモニターシステムは、注意喚起により運転者の衝突回避動作を補助することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
  次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
  - 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあるとき（→ P.5-221）
  - システムが正常に作動しないおそれがあるとき（→ P.5-224）
- お客様ご自身でサイトアラウンドモニターシステムの作動テストを行わないでください。状況によってシステムが正常に作動せず、思わぬ衝突につながるおそれがあります。

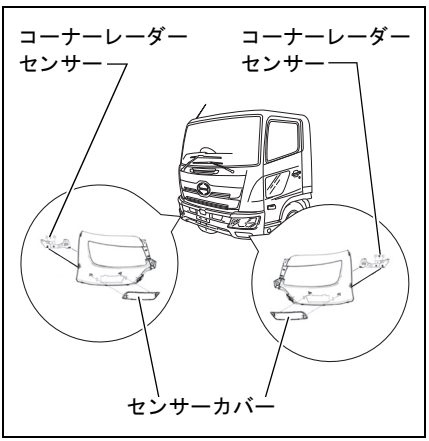
■関連装置

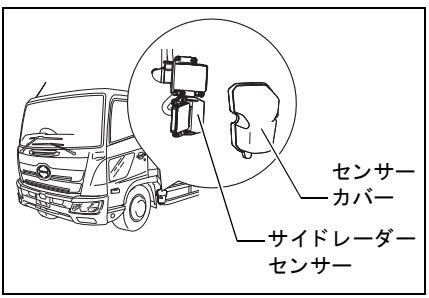
▶ 表示灯・インジケーターランプ



▶ レーダーセンサー

フロントバンパー両端、車両側面にあるセンサーにより、必要な情報を認識します。





■サイトアラウンドモニターシステムが正しく作動するために

・ レーダーセンサー前面やカバーに著しい汚れ、雪などが付着した場合は、取り除いてください。お手入れをする際は、レーダーセンサーやセンサーカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

■インジケーターランプ・マルチインフォメーション

インジケーターランプ	内容
 （黄）	サイトアラウンドモニターシステムが作動するとピラー部のサイトアラウンドモニターシステム表示灯が点灯します。
 （赤）	
	サイトアラウンドモニターシステムが次の状態のときに点灯します。 ・ システムが OFF のとき ・ システムが作動を停止しているとき ・ システムに異常が発生しているとき

マルチインフォメーション	内容
コーナーレーダ異常	サイトアラウンドモニターシステムのシステム異常が発生すると表示します。
左サイドレーダ異常	
右サイドレーダ異常	
ドライビングサポート異常	
コーナーレーダ一時使用不可	
左サイドレーダ一時使用不可	
右サイドレーダ一時使用不可	

⚠ 注意

次のような場合は、サイトアラウンドモニターシステム表示灯が見えづらくなる場合があります。

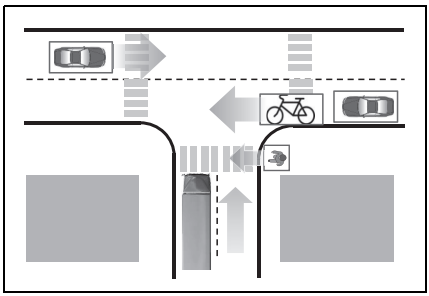
- 日差しが強いとき
- 後方車両のヘッドライトが当たっているとき

■作動

▶ システムの作動条件

スタースイッチが「ON」でサイトアラウンドモニターシステムが「ON」のときに以下の条件で作動します。

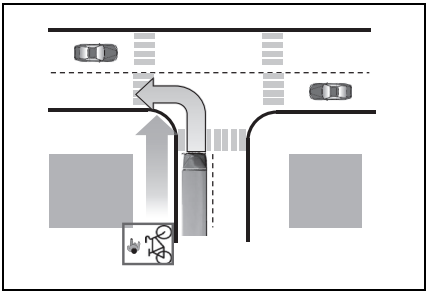
▶ 出会い頭警報



交差する車両や自転車等の移動物を検知し、車両前面に衝突の可能性があると判断した場合にブザー音とサイトアラウンドモニターシステム表示灯の点滅（赤色）で運転者に注意を促します。

自車速度	作動対象		
	車両	自転車	歩行者
約 3 ～ 10 km/h	—	—	約 3 ～ 8 km/h
約 3 ～ 20 km/h	約 5 ～ 60 km/h	約 5 ～ 20 km/h	—
約 20 ～ 40 km/h	約 10 ～ 60 km/h	約 10 ～ 20 km/h	—

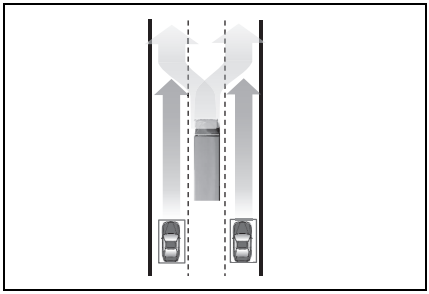
▶ 左折巻き込み警報（サイドレーダーセンサー付き車のみ）



自車左側方の自転車や歩行者等の移動物を検知した場合、サイトアラウンドモニターシステム表示灯が点灯（黄色）します。さらに、ターンシグナルスイッチを操作し自車が左折したときに衝突する危険性が高まると、ブザー音およびサイトアラウンドモニターシステム表示灯の点滅（赤色）で運転者に注意を促します。

自車速度	作動対象	
	自転車	歩行者
約 0 ～ 30 km/h	約 5 ～ 20 km/h	約 3 ～ 8 km/h

▶ 車線変更警報（サイドレーダーセンサー付き車のみ）



自車側方の自動車やオートバイ等の移動物を検知した場合、サイトアラウンドモニターシステム表示灯が点灯（黄色）します。さらに、ターンシグナルスイッチを操作し自車が車線変更したときに衝突する危険性が高まると、ブザー音およびサイトアラウンドモニターシステム表示灯の点滅（赤色）で運転者に注意を促します。

自車速度	作動対象
	車両、オートバイ
約35 ～ 120 km/h	約 25 ～ 120 km/h

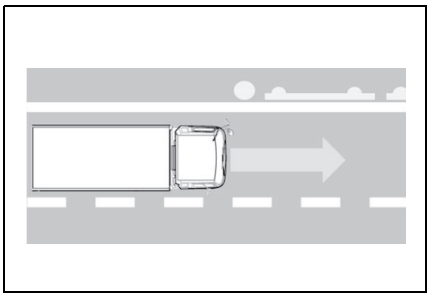
ただし、次のときシステムは作動しません。

- チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターが「R」位置のとき
- マルチインフォメーションに“コーナーレーダ異常”、“左サイドレーダ異常”、“右サイドレーダ異常”、“ドライビングサポート異常”、“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が表示されているとき
- サイトアラウンドモニターシステム OFF ランプが点灯しているとき

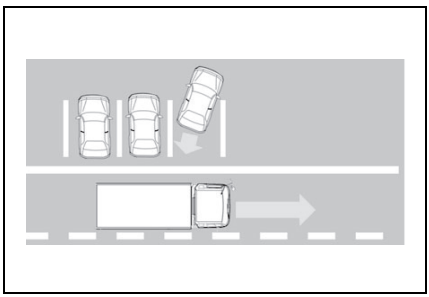
▶ 作動条件以外で作動する場合、しない場合

● 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがある場合の例

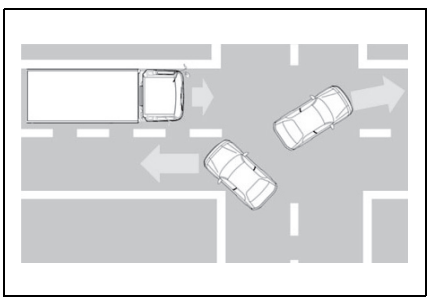
- 道路脇の構造物（ガードレール・電柱・木・壁・トンネルなど）に近づいたとき



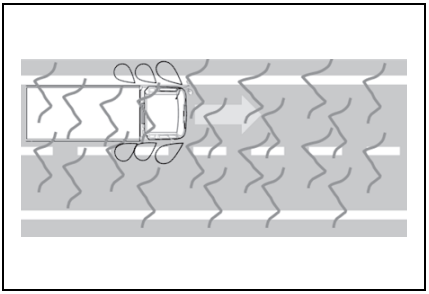
- 移動物が自車線脇の駐車場などを移動しているとき



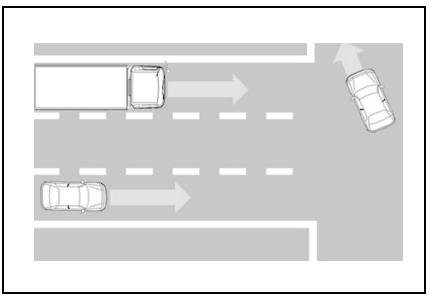
- 自車直前で交差する移動物が右左折するとき



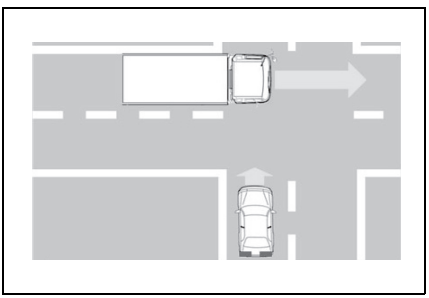
・ 悪天候のとき、水、雪、泥などを巻き上げたとき



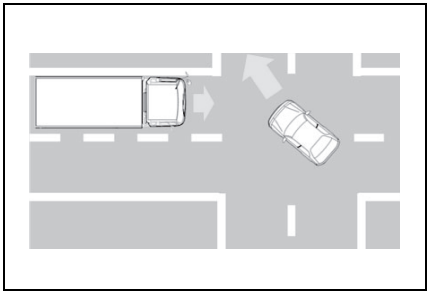
・ 移動物が自車から遠方の位置で交差・並走（2 車線隣車両）するとき



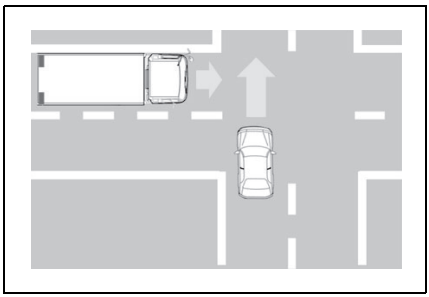
・ 交差する移動物が減速し停止するとき



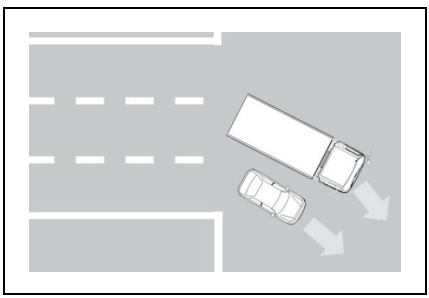
・ 対向する移動物が右左折するとき



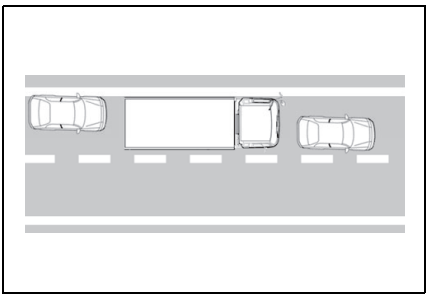
・ 移動物が交差する前に自車が減速するとき

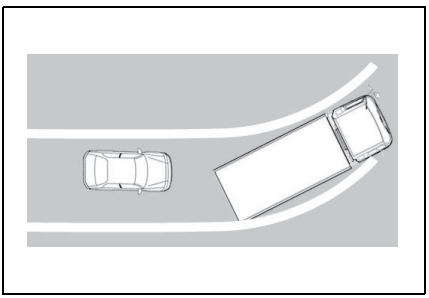


・ 自車が移動物と並走したまま交差点を右左折したとき



・ 後続車や先行車がいるとき





・ テレビ塔・発電所・放送局など、強い電波やノイズが発生する近くを走行するとき

・ 車両や歩行者のすぐそばを通過するとき

・ 移動物が前方から接近し、すれちがうとき

・ 自車から移動物が遠ざかるとき

・ 自車が交差する移動物より先に交差点などを通過するとき

・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき

・ 行き止まりなどのガードレールやフェンスなどの障害物の奥を移動物が通過するとき

・ チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターが「R」位置ではなく、後退しているとき

・ トレーラーを使用したとき

・ 自車と検知エリアに入る車両に高低差があるとき

・ 自車が交差点を右折通過時の対向車がすれ違うとき

・ 自車と対向車がお互いに右折するとき

▶ マルチインフォメーションに“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が表示されたとき

システムが一時的に作動しない、またはシステムに異常があるおそれがあります。

・ 次のときは、状況が改善されると“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が消え、作動可能状態になります。

・ レーダーセンサーやセンサーカバー周辺に著しく雪や汚れなどが付着しているとき

・ 上記のような状況が改善されたり、上記のような状況になっていなくても“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

▶ サイトアラウンドモニターシステムを“OFF”にするには

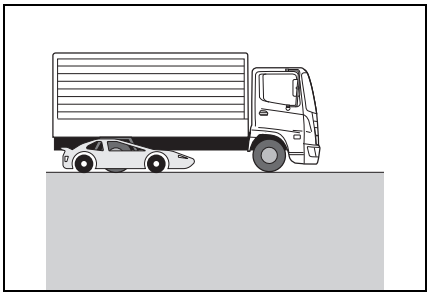
・ ステアリングスイッチの操作により機能をオフにします。サイトアラウンドモニターシステムが解除され作動しなくなります。ただし左折巻き込み警報の点灯（黄色）を除きます。

・ スターターキーを「ON」の位置にした初期状態ではサイトアラウンドモニターシステムはオン状態となります。

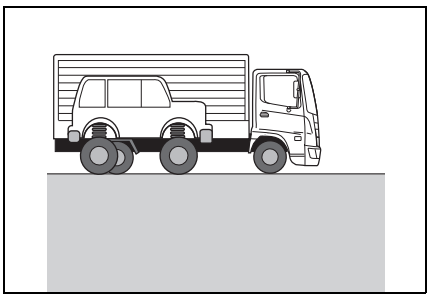
・ 操作については（→ P.6-42）

● システムが正常に作動しないおそれがある場合の例

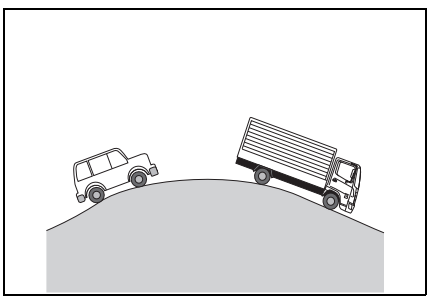
・ 移動物の前端が低い位置にあるとき



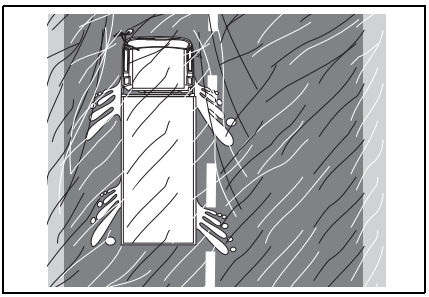
・ 移動物の最低地上高が極端に高いとき



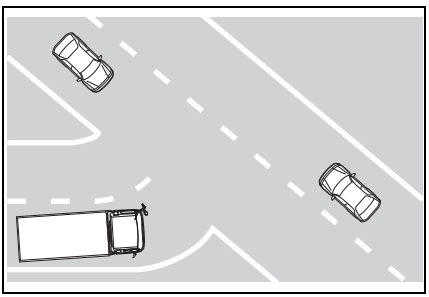
・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき



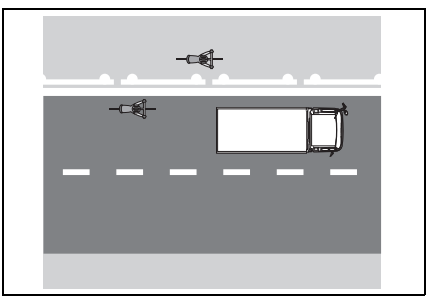
・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
水、雪、泥などを巻き上げたとき



・ 自車と移動物が斜めに交差するとき



・ 周辺に金属物などの電波を反射しやすい障害物（駐車車両、ガードレール、壁など）が存在するとき



・ 移動物の側面面積が大きいとき（全長の長いトラックなど）
・ 移動物が物陰などから急に現れたとき
・ 移動物が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・ 移動物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・ 坂道を走行しているとき
・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
・ 障害物が移動物との間にあるとき
・ 移動物の自車との距離が近過ぎる、または遠すぎるとき
・ センサーの向きがずれているとき
・ 自車が横滑りしているとき
・ レーダーセンサーおよびセンサーカバーの故障、変形、搭載位置を変更したとき
・ レーダーセンサーおよびセンサーカバーに塗装や汚れなどが付着しているとき
・ タイヤサイズの変更など、車体変更があったとき
・ トレーラーのけん引中にトレーラーを移動物として検知したとき
・ 広幅トレーラーをけん引しているとき
・ レーダーセンサー付近の温度が非常に低くなったときや、非常に高くなったとき

- バッテリーの電圧が規定より下がっているときや、上がっているとき
- レーダーセンサーの搭載位置・角度にズレが生じたとき
- 車両の姿勢変化が著しいとき（不均等積載など）

▶ システムの異常

システムに異常が発生した場合には、マルチインフォメーションに次のような表示をします。

“コーナーレーダ異常”、“左サイドレーダ異常”、“右サイドレーダ異常”、“ドライビングサポート異常”が表示された場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

サイトアラウンドモニターシステムが故障したまま走行を継続したり、別車両のレーダーセンサー取り付けやレーダーセンサーの配置変更を行うと、サイトアラウンドモニターシステムが正常に機能しなくなるばかりか、意図せずサイトアラウンドモニターシステムが作動し、衝突につながるおそれがあります。サイトアラウンドモニターシステムが故障した場合は、必ず最寄りの日野販売会社の整備工場にご連絡ください。

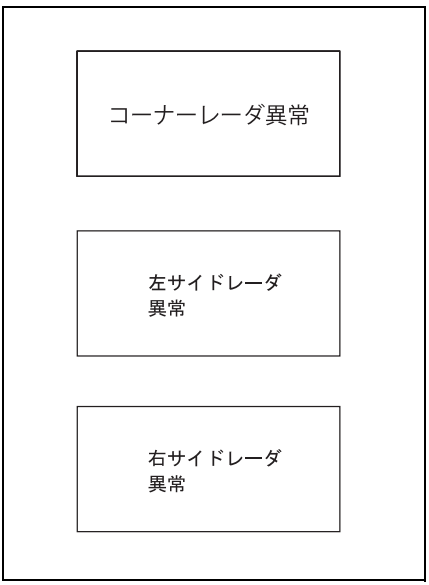
● レーダー時使用不可

レーダーセンサーまたはセンサーカバーに著しく泥、雪または氷などの付着があるときや、周辺に金属物などの電波を反射しやすい障害物（駐車車両、ガードレール、壁など）が存在するとき“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



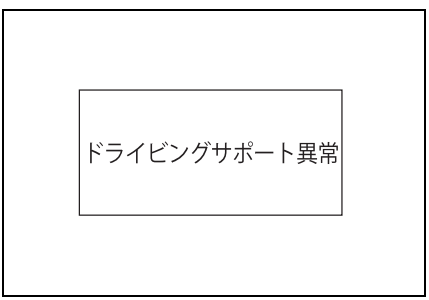
● レーダ異常

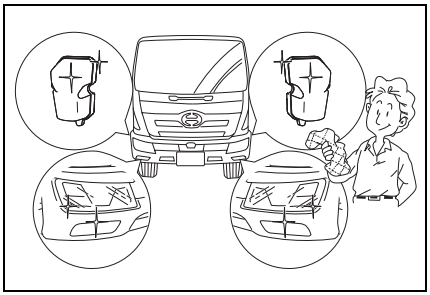
レーダーセンサーに異常が発生した場合は、マルチインフォメーションに“コーナーレーダ異常”、“左サイドレーダ異常”、“右サイドレーダ異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。



● サイトアラウンドモニターシステム表示灯異常

サイトアラウンドモニターシステム表示灯に異常が発生した場合は、マルチインフォメーションに“ドライビングサポート異常”を表示し、同時に警報ブザーが鳴ります。





⚠ 警告

マルチインフォメーションに“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が表示されたときは、安全な場所に車を止めて汚れをふき取ってください。しばらく走行すると上記表示が消えます。汚れをふき取っても“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が表示されたときは、すみやかにレーダーセンサーおよびセンサーカバーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがないことを確認してください。これらがある場合には、サイトアラウンドモニターシステムが正しく作動せず衝突につながるおそれがあります。
なお、レーダーセンサーの前面に割れ、ひびおよびガタツキがあった場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
また、ひびおよび割れが確認できず、一時使用不可が頻繁に表示される場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

知識

■サイトアラウンドモニターシステムとは

路面や周辺の環境によって、一時的に“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が表示されるときがあります。その後、レーダーセンサーが正常に検知できるようになると、“コーナーレーダー時使用不可”、“左サイドレーダー時使用不可”、“右サイドレーダー時使用不可”が消え、システムは自動的に復帰します。

バックアイ★

車両後方の視覚情報をモニターに映し出し、運転者が見づらい視界を提供することにより、後方視界の確認の補助を行います。

■使用上のご注意

⚠警告

- モニター画面だけを見ながら移動しないでください。本装置は、障害物などの確認のための補助装置であり、映し出す範囲には限界があります。必ず目視による安全確認をしながら移動してください。カメラの死角になっている人や物にぶつかるおそれがあり、事故の原因となります。
- ゆっくりした速度で移動してください。本装置の映像は広角レンズを使用しています。実際の距離と感覚が異なるので、速度を上げての移動は人や物にぶつかるおそれがあり、事故の原因となります。
- 走行中は絶対に操作をしないでください。操作を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。操作を行うときは、安全な場所に停車させてから行ってください。
- 本機を分解したり、改造しないでください。事故や火災、感電の原因となります。
- 画面部が映らないなどの故障状態で使用しないでください。事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。
- バックアイカメラシステムに異常が発生すると黒画面または白画面などの表示になることがあります。

⚠ 警告

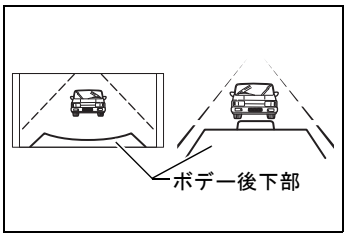
- 次のような場合は車両配線、モニター、カメラが故障しているおそれがあります。最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
  - モニターの電源を ON にしても画面が表示されない場合
  - チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」位置にしたときに、バック画面が表示されない、または映りが悪い場合
  - チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」位置にしたときに、距離マーカーのみ表示される場合

＊ バックアイカメラ映像表示をし、かつ距離マーカー設定 OFF のときは、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」位置にしても画面表示が切り替わらず、配線の断線に気づかない場合がありますのでご注意ください。
故障時はボタン操作でバックアイカメラ画面から別の画面が表示されることがあります。

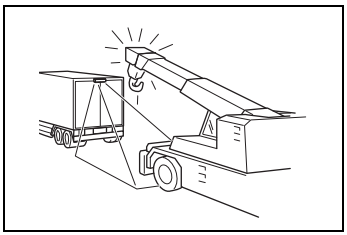
⚠ 注意

- 走行前にモニターに表示される映像に異常がある場合は、「故障かな？と思ったら」を確認してください。（→ P.5-244）
処置をしても直らないときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

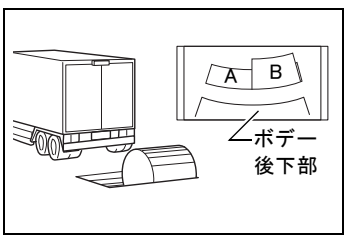
- 通常の遠近感と異なる見え方をします。実際の距離はモニター映像より近いので注意してください。



- 映しだされる映像の範囲は限られています。死角に注意してください。

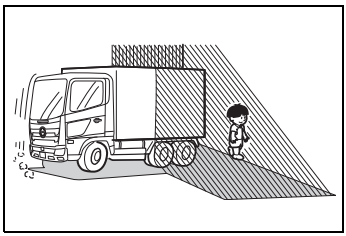


- 立体感が得られないので、凹凸のある部分への接近時は、注意してください。

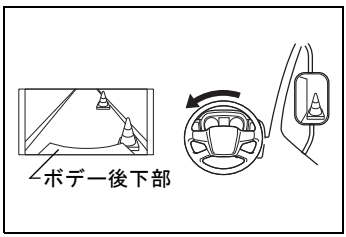


⚠ 注意

- 急に明るさが変化する場合は、数秒間何も映らなくなる場合があるので注意してください。



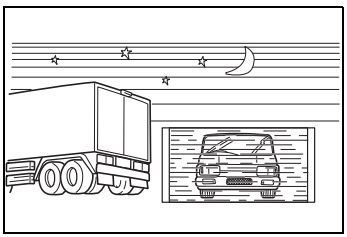
- バックミラーで見るのと同じ映像になります。左右位置に注意してください。
（例）



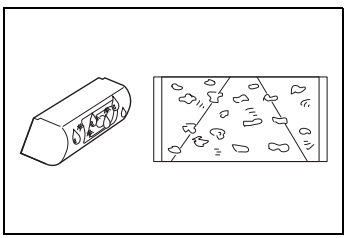
- バックアイカメラの確実な取り付けは法規で規定されているため、バックアイカメラの移設、角度の調整は絶対に行わないでください。移設が必要な場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

知識

- 雨の日は自車の水しぶきなどにより、バックアイカメラでの後方確認ができないことがあります。
- 夜など暗い場所ではモニターがまぶしいときがあります。モニター前面に設置されたスイッチで映像を調整してご使用ください。
- 暗い場所で使用すると、映像にノイズが発生する場合がありますが異常ではありません。

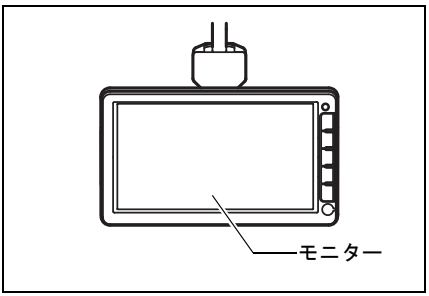


- バックアイカメラのガラス面が汚れている場合は汚れをふいて使用してください。映像が見やすくならない場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

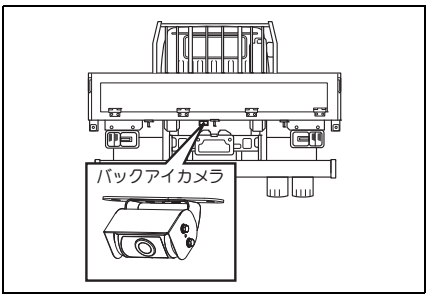


■関連装置配置図

▶ バックアイモニター



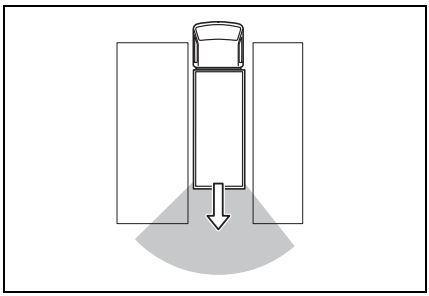
▶ バックアイカメラ



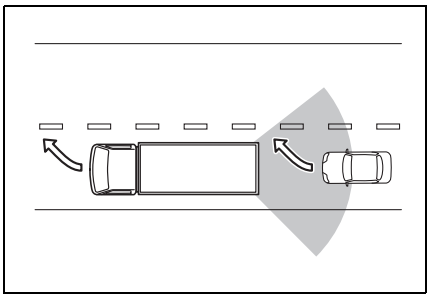
＊ バックアイカメラの位置は、架装により異なる場合があります。

■視覚情報について

▶ 後退時の死角



▶ 車線変更



■取り扱い上のご注意

▶ 確認事項

・ エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は、バッテリーが過放電される場合がありますので、必ずエンジンをかけたまま使用してください。

・ 運転者による走行中の操作や画面の注視は、前方不注意による事故やけがの原因となります。必ず安全な場所に車を停車させてから操作してください。

・ 磁性のあるものをモニターの周囲に設置しないでください。誤動作の原因となります。

・ 障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映りますのでご注意ください。

・ 雨、霧、雪などの悪天候時は、バックアイモニターでの視界情報を確認できないことがあります。

・ 夜間や暗い場所ではモニターの映像がまぶしいときがあります。モニターに設置されたスイッチで映像を調整してご使用ください。色調については（→ P.5-237）

▶ 液晶画面について

・ 非常に寒いとき、画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。

・ 液晶パネルの中には、小さな黒点や輝点が出ることがありますが、液晶特有の現象で、故障ではありません。

・ 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので、硬い物でこすったり、たたいたりしないでください。

・ 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色、シミの原因となります。また、水分が内部に浸入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は、すぐ脱脂綿や柔らかい布などでふき取ってください。

・ 夏期は車内温度が高くなることがありますので、車内の温度を下げてからお使いください。液晶パネルが正しく動作する温度は -10 ℃～ 60 ℃です。

▶ カメラについて

- カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。
- カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷つき、映像に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラの周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、カメラの位置ずれや故障のおそれがあります。
- スチーム洗車機は、高温の蒸気が噴出するタイプがあるため、絶対に使用しないでください。

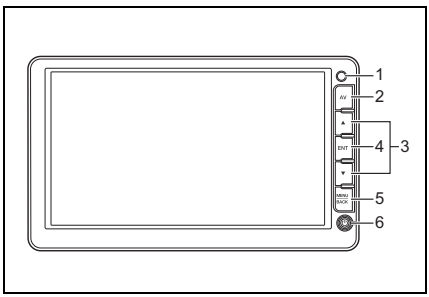
■作動・初期設定について

バックアイモニターは、スタータースイッチを「ACC」または「ON」位置にすると作動します。スタータースイッチが「ON」のときに、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」にすると車両後方の視界情報をモニターで確認できます。

＊ スタータースイッチが「ACC」位置では、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」にしてもバックアイカメラの映像には切り替わりません。

■各部の名称とはたらき

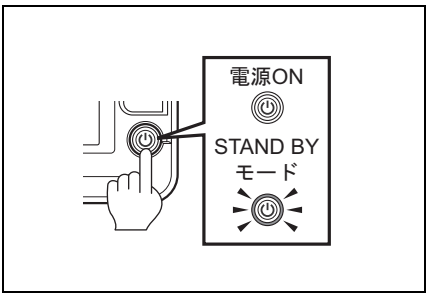
▶ モニター



No.	名称
1	調光センサー
2	外部入力切替えボタン
3	サブメニュー選択ボタン / カメラ入力切替ボタン
4	決定ボタン
5	メニューボタン / 戻るボタン
6	電源ボタン（電源 ON/STAND BY モード）

■各部の機能

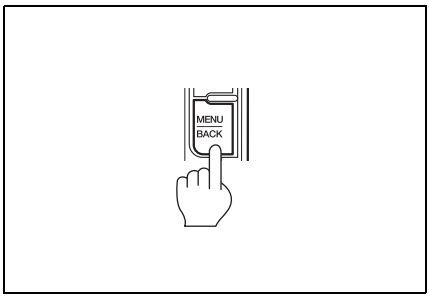
▶ 電源 ON/STAND BY モード



・ 電源ボタンを押すとボタンのランプが消灯し、電源が入りモニターに映像が映し出されます。もう一度、電源ボタンを押すとボタンのランプが点灯し、STAND BY モードになります。

・ STAND BY モード時はモニターの画面は消え、待機状態になります。チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」にすると自動的にカメラ映像が映し出されます。

▶ 設定変更･調整

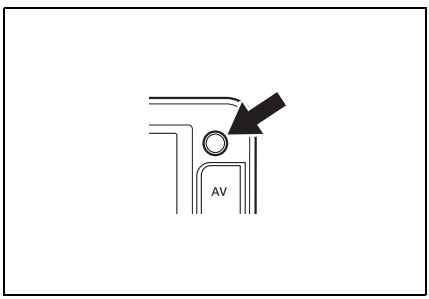


・ メニューボタン「MENU/BACK」を押すと、各設定を変更するメニュー画面に切り替わります。調整や設定については（→ P.5-236）

知識

STAND BY モード時は、メニューボタン ”MENU/BACK” を押してもメニュー画面に切り替わりません。

▶ 調光センサー：ディマー（調光）機能

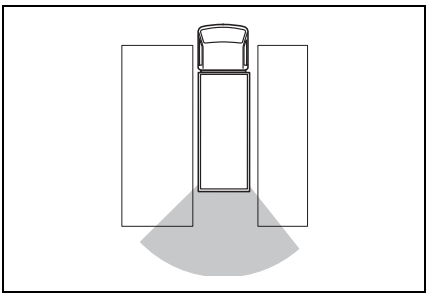


・ 車内の明るさを検知し、画面の明るさを自動的に調整する機能です。また、明るさを設定で変更することもできます。色調 については（→ P.5-237）

■基本の操作

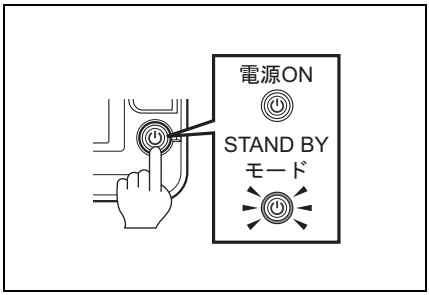
▶ メイン （バックアイカメラ）を映し出す

・ スタータースイッチが「ON」のときに、チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」にすると車両後方の視界情報をモニターで確認できます。



▶ 後退時以外のときにメイン（バックアイカメラ）映像をモニターに映し出す

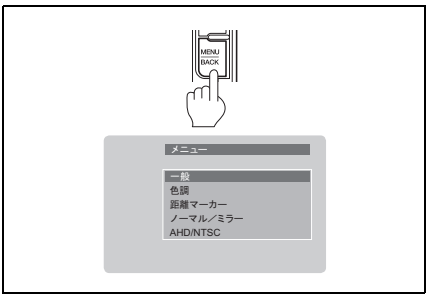
・ スタータースイッチが「ACC」、または「ON」のときに、電源ボタンを押し、モニターの電源をON にします（映像が映し出されている状態）。



知識

電源を ON にしたときに、モニターに最初に表示される映像は、前回電源を OFF にしたときに表示されていたカメラ映像となります。メイン（バックアイカメラ）映像が表示されていない場合は、外部入力切替ボタン「AV」、またはカメラ入力切替ボタン「▲ / ▼」を押し、画面を切り替えます。
画面切り替えについては（→ P.5-245）

■調整や設定について



メニューボタン「MENU/BACK」を押すとメニュー画面が表示され、サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」および決定ボタン「ENT」で次の設定変更や調整が行えます。
また、設定途中にメニューボタン「MENU/BACK」を押すと、前の画面に戻ります。

知識

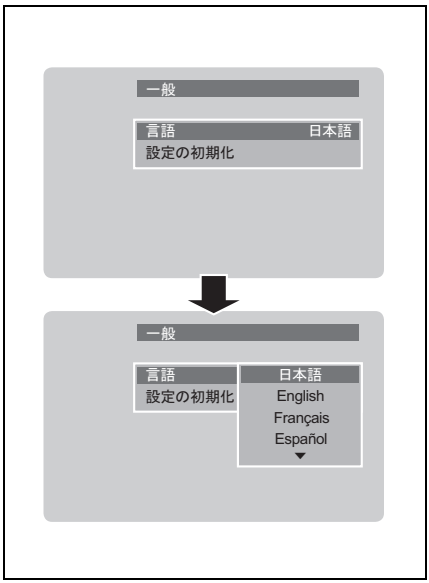
5 秒間ボタン操作がない場合、設定途中でも設定値が反映され、設定画面が消えます。

▶ メニュー一覧

メニュー	設定内容
一般	言語設定、設定の初期化
色調	明るさ、色合い、鮮やかさ、ディマー設定
距離マーカー	カメラタイプ、マーカータイプ、上下調整、左右調整
画面の左右反転（ノーマル / ミラー）	メイン（バックアイカメラ）の入力画像設定
AHD/NTSC	メイン（バックアイカメラ）の映像受信方式設定

▶ 一般

［言語設定］

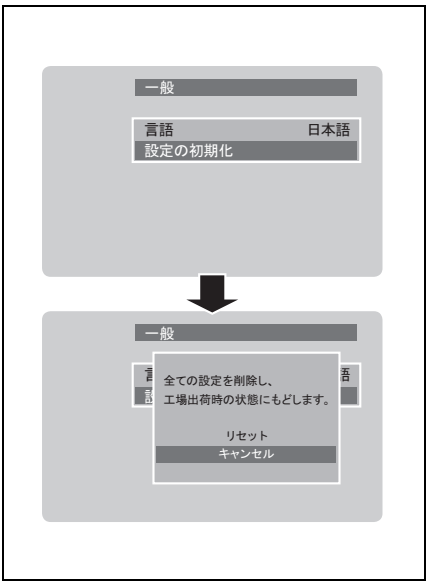


1. 「一般」メニューで「言語」をサブメニュー切替えボタン「▲ / ▼」で選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. 日本語 / 英語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / ドイツ語 / スウェーデン語をサブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で選択し、決定ボタン「ENT」を押して言語を変更します。

知識

新車出荷時は、「日本語」に設定されています。

［設定の初期化］



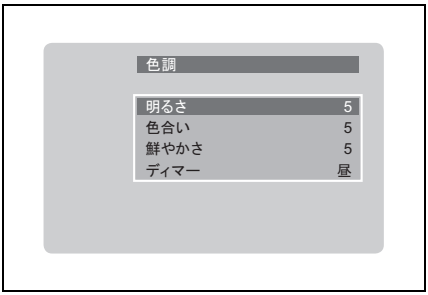
1. 「一般」メニューで「設定の初期化」をサブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で「リセット」を選択し、決定ボタン「ENT」を押すと、自動的に電源 OFF となり、新車出荷時の状態に初期化されます。

知識

「リセット」を選択した状態で 5 秒間ボタン操作が無く、メニュー画面が消えた場合でも、初期化はされません。

［色調］

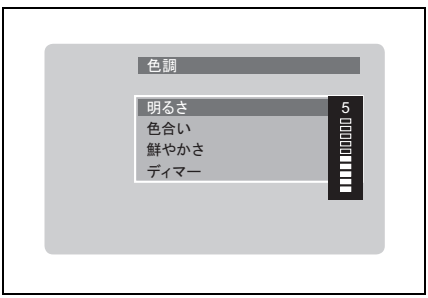
1. 「色調」メニューで「明るさ」、「色合い」、「鮮やかさ」、「ディマー」をサブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で選択し、決定ボタン「ENT」を押します。



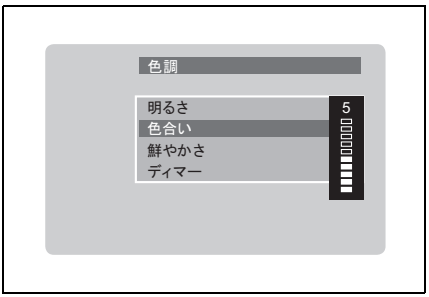
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」を押し、以下の調整を行います。

- 「明るさ」、「色合い」、「鮮やかさ」の調整（10 段階）
- 「ディマー」の設定は、「昼」/「夜」/「オート」を選択し、決定ボタン「ENT」を押して変更します。

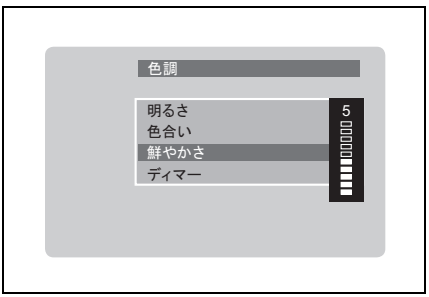
1) 明るさ



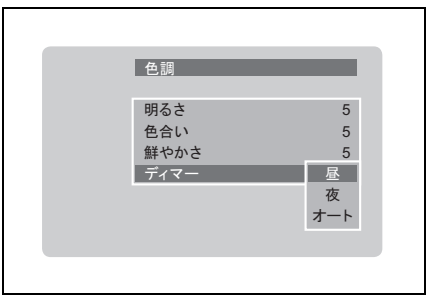
2) 色合い



3) 鮮やかさ



4) ディマー（調光）調整



ディマー機能は画面の明るさを調整する機能です。

＊「昼」/「夜」/「オート」の調節が可能です。新車出荷時は「昼」に設定されています。

■距離マーカー

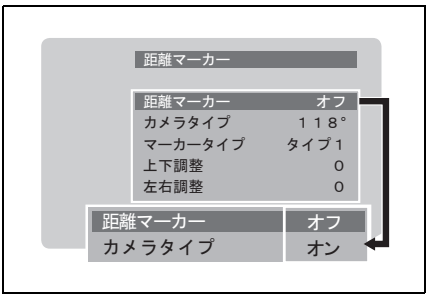
⚠ 警告

- マーカーはあくまで画面上での距離感を補うための目安としてご使用ください。マーカーは“ バックアイカメラの取付条件（マーカー入力条件）”をもとにそれぞれ入力してありますが、実際のご使用ではこの取付条件に合わない車両や場所に取り付けられる場合があります。その場合にはマーカーの表示位置が一番近いマーカー No. を選択してください。
- バックアイカメラの取付条件（マーカー入力条件）については（→ P.5-240）

⚠ 注意

- マーカーは、バンパー位置・車種・車両後方距離など実際の位置として安全確保を保証するものではありません。
- 走行前にモニターに表示される映像・マーカーに異常がある場合は、「故障かな？ と思ったら」を確認してください。（→ P.5-244）
  処置をしても直らないときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。
- チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターを「R（後退）」位置にしたときのみ、メインカメラの映像に距離マーカーが表示されます。ボタン操作でメインカメラ映像を表示させた場合は距離マーカーは表示されません。

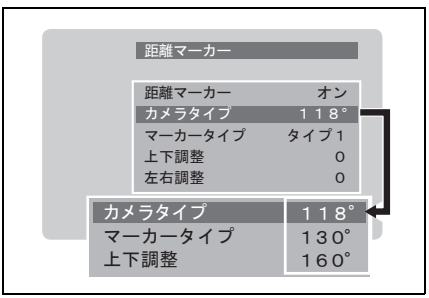
▶ 距離マーカー



1. 「距離マーカー」メニューの「距離マーカー」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で、「オン」、「オフ」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。

＊ 距離マーカーが「オン」の時のみ、カメラタイプやマーカーの設定を選択することができます。

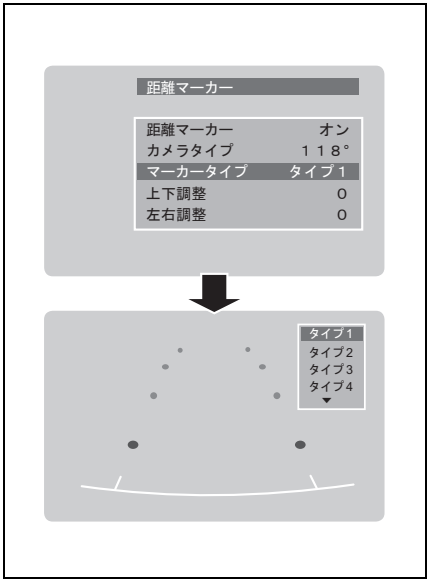
▶ カメラタイプ



1. 「距離マーカー」メニューの「カメラタイプ」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で、「118°」、「130°」、「160°」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。

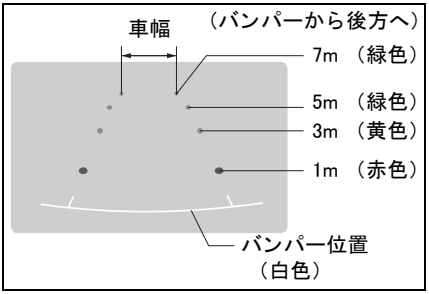
＊「160°」を設定して使用してください。

▶ マーカータイプ
（マーカーパターンを設定する）



1. 「距離マーカー」メニューの「マーカータイプ」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で、「タイプ 1」～「タイプ 7」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。

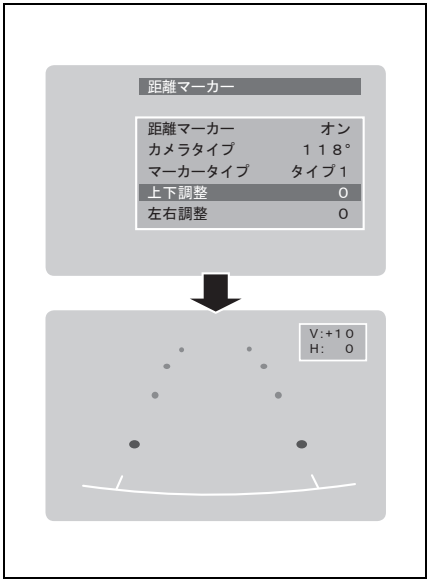
● バックアイカメラの取り付け条件（マーカー入力条件）



カメラタイプ：160°（単位：cm）

マーカー No.（パターン）	カメラ取り付け高さ	車幅
タイプ 1	50	230
タイプ 2	70	
タイプ 3	70	250
タイプ 4	90	230
タイプ 5	90	250
タイプ 6	250	230
タイプ 7	300	250

▶ 上下調整
（車のバンパー位置を調整する）

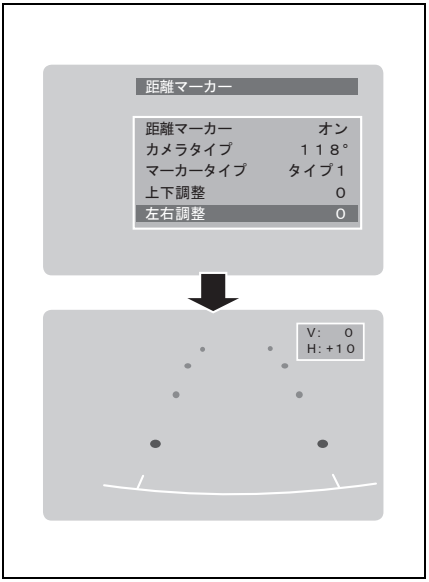


1. 「距離マーカー」メニューの「上下調整」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で、「V」（垂直移動）値を調整（▲：上方向、▼：下方向）します。（V = −10 ～ +10、初期値は V = 0 ）

知識

5 秒間ボタン操作がない場合、設定途中でも設定値が反映され、設定画面が消えます。

▶ 左右調整
（車のバンパー位置を調整する）

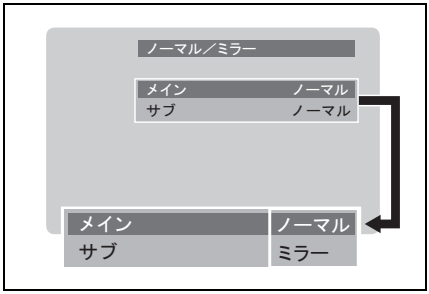


1. 「距離マーカー」メニューの「左右調整」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で、「H」（水平移動）値を調整（▲：右方向、▼：左方向）します。（H = −10 ～ +10、初期値は H = 0 ）

知識

5 秒間ボタン操作がない場合、設定途中でも設定値が反映され、設定画面が消えます。

▶ 画面の左右反転
（ノーマル / ミラー）

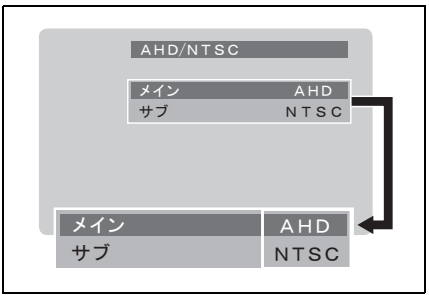


1. 「ノーマル / ミラー」メニューの「メイン」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲ / ▼」で、「ノーマル」または「ミラー」を選択し、決定ボタン「ENT」を押すと、画面の左右反転ができます。

知識

新車出荷時は「ノーマル」に設定されています。

▶ AHD/NTSC

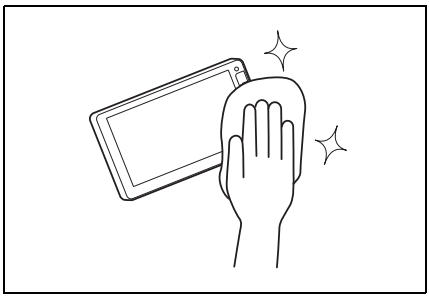


1. サブメニュー選択ボタン「▲／▼」で、「AHD/NTSC」メニューの「メイン」を選択し、決定ボタン「ENT」を押します。
2. サブメニュー選択ボタン「▲／▼」で、「AHD」または「NTSC」を選択し、決定ボタン「ENT」を押して変更します。

知識

新車出荷時は「メイン」＝「AHD」、「サブ」＝「NTSC」に設定されています。設定を変更すると映像が映らなくなりますので、ご注意ください。

■手入れについて



▶ モニター（液晶表示部以外）の手入れ

柔らかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布につけて軽くふきとり、乾いた布で仕上げてください。

⚠注意

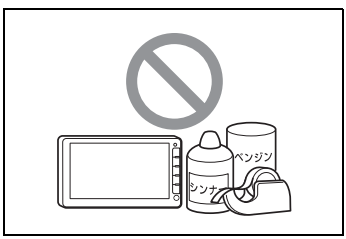
自動車用クリーナーなどは、変質したり、塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミがつくことがあります。

▶ 液晶表示部の手入れ

ホコリがつきやすいので、ときどき、柔らかい布でふいてください。

⚠注意

ベンジンやシンナーなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。



▶ カメラの手入れ

カメラのレンズに水滴、雪、泥などが付着したときは、水を含ませた柔らかい布などで軽くふいてください。

⚠ 注意

- 乾いた布で強くこすると傷の原因になります。
- ベンジンやシンナーなどの溶剤やアルコール類、磨き粉が配合された洗剤などで清掃しないでください。

■故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら、修理を依頼する前に、もう一度次の点をお調べください。

▶ モニター

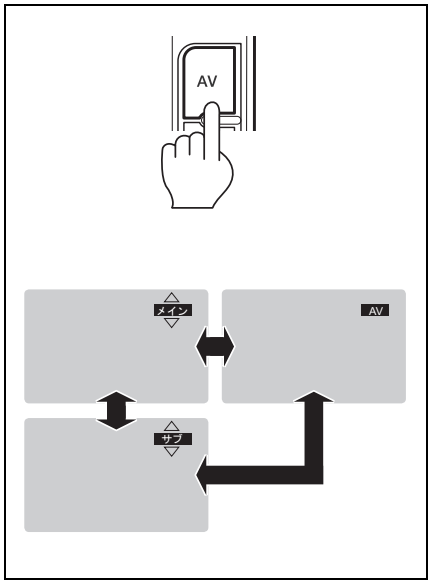
症状	原因	処置
映像が出ない	カメラの配線が正しく接続されていますか？	メイントリガーの配線、カメラ中継ケーブルの配線を確認してください。
	カメラの受像方式が正しく設定されていますか？	接続されているカメラの受像方式（AHD/NTSC）が正しく設定されているか確認してください。
電源が入らない	モニターケーブルが正しく接続されていますか？	モニターケーブルの接続を確認してください。
	モニターケーブルのヒューズが切れていませんか？	同じ容量のヒューズと交換してください。
色が薄い	使用状況が悪い	車内温度が -10 ℃以下、または 60 ℃以上になっている場合が考えられます。車内温度を適温（25 ℃前後）にして確認してください。

▶ カメラ

症状	原因	処置
映像の映りが悪い	表面ガラス部が汚れている	水を含ませた柔らかい布などで軽く拭いてください。乾いた布で強くこするとキズが付くことがありますので、ご注意ください。
	太陽光や他の車のヘッドライトの光がレンズにあたっている	レンズにあたっている光がなくなれば、元に戻ります。
	周囲が暗すぎる	夜間または暗所では映りが悪くなります。明るい場所になれば元に戻ります。
シャッターが開かない	ごみ等の阻害物が挟まっている	阻害物を取り除いてください。その際、無理に取り除くとシャッターを破損させることがありますので、ご注意ください。
	雪、氷等が張り付いている	雪、氷等を溶かしてからご使用ください。

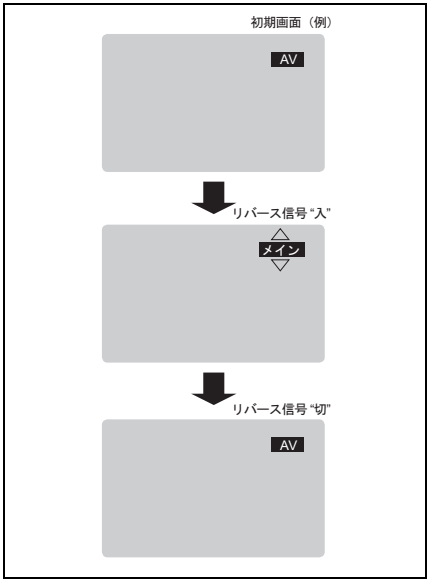
■拡張機能について

▶ ボタンによる各モードの切り替え



- 外部入力切替えボタン「AV」を押すと、AV（外部入力）画面に切り替わり、もう一度押すと以前の画面に戻ります。
- カメラ映像画面でカメラ入力切替ボタン「▲ / ▼」を押すと、メイン / サブ画面に切り替わります。

▶ 入力信号による各モードの切り替え



リバース信号が入力されると、バックアイカメラの映像が表示されます。

信号が解除されると以前の画面に戻ります。

STAND BY（スタンバイ）状態で信号が入った場合、モニターの電源が入り、カメラの映像が表示されます。入力信号が解除されると、モニターの電源が自動的に切れ、STAND BY（スタンバイ）状態に戻ります。

後退時以外のときにバックアイカメラ映像をモニターに映し出す操作については（→ P.5-235）

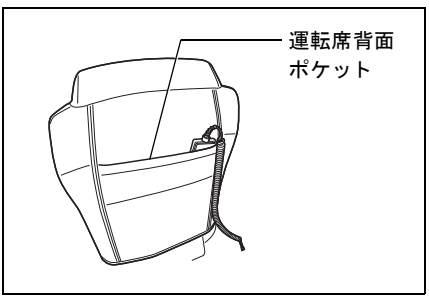
リヤエアサスハイトコントロール★

この装置は、リヤエアサスペンションの空気圧を電子制御し積荷の重量にかかわらず、荷台高さを一定に保ちます。また、荷物の積み降ろしをするときに、荷台高さを変えることにより作業性を向上させる機能があります。

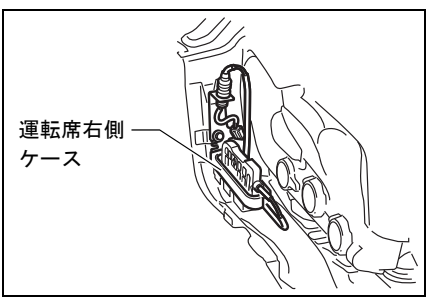
■ハイトコントロール用リモコン

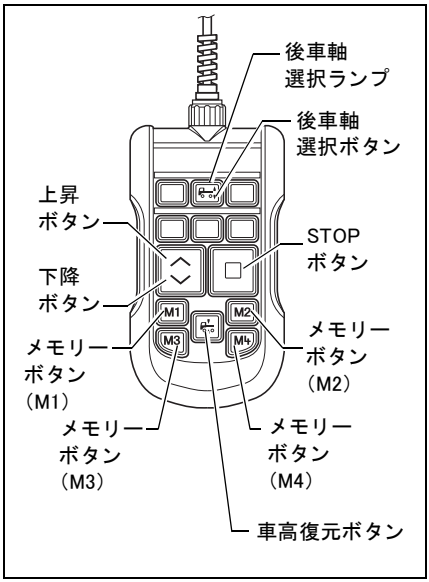
リモコンの紛失などを防ぐため、リモコンを使用していないときは、必ず下記の場所へ格納してください。

▶ ダンプレバーおよびミキサーコントロールレバー付きおよびダブルキャブ車



▶ ダンプレバーおよびミキサーコントロールレバー無し車





■操作前の準備

1. 操作は平坦な場所で行います。
2. 車の周りに人がいないこと、障害物がないことを確認します。
3. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーを「ニュートラル」、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を[N]（「P」レンジ付き車は[P]）の位置にします。
4. 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）の指針が 780 ～ 880 kPa {8.0 ～ 9.0 kgf/cm^2} の範囲にあることを確認します。

＊ 空気圧が低いと荷台の上げ・下げスピードが遅くなったり、車高を保持できなくなることがあります。

⚠警告

- ハイトコントロールを操作するとき、車が若干前後に移動します。事故防止のため車の下、前後およびタイヤ付近に人や、障害物がないことを確認してから操作してください。
- スターターキーを「LOCK」の位置から「ACC」または「ON」の位置にすると、荷台高さが、最後に設定された高さに変化します。事故防止のため車の下、前後およびタイヤ付近に人や、障害物がないことを確認してから操作してください。
- ホイスト、フォークリフトなどにより一度に重量物の積み降ろしを行うと、一時的に荷台高さが大きく変化します。重量物の積み降ろしの際は、荷台高さを下限まで低くし、ゆっくり行ってください。

■ハイトコントロールインジケーターランプ



（黄緑）

・ スターターキーを「LOCK」の位置から「ACC」または「ON」の位置にするとメーターパネル内の ランプ（黄緑）が 2 秒間点灯します。

・ リモコンにより荷台高さ調整の操作を行うとメーターパネル内の ランプ（黄緑）が点灯します。
荷台高さの調整中は点滅します。

・ エンジン始動時にバッテリーの状態によっては ランプ（黄緑）が早く点滅することがあります。

・ スターターキーを「LOCK」の位置のまま荷台高さが上下するとスターターキーを「ACC」または「ON」にしたとき ランプ（黄緑）が点灯する場合があります。その場合は、車高復元スイッチを押す、またはリモコンの後車軸選択ボタンを押し、後車軸選択ランプを点灯させ、リモコンの車高復元ボタンを押し荷台高さを標準高さに戻すと ランプ（黄緑）が消灯します。

・ 車高によっては荷台の高さが変わらない場合があります。

■ハイトコントロールウォーニング

- スターターキーを「LOCK」の位置から「ACC」または「ON」の位置にするとメーターパネル内の ランプ（橙色）が 2 秒間点灯します。
- ハイトコントロールシステムが故障した場合は、 ランプ（橙色）が点灯したままとなり、マルチインフォメーションに“エアサス異常”が表示されます。また、メーターとハイトコントロールシステム間の通信異常により“エアサス異常”が表示できない場合は、マルチインフォメーションに“エアサス表示停止”が表示されます。
- メーターパネル内のランプおよびマルチインフォメーションの表示が以下の場合のときは、ハイトコントロールシステムの故障です。最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
  - スターターキーを「LOCK」の位置から「ACC」の位置にしたときに ランプ（橙色）が点灯しない
  - ランプ（橙色）が点灯したまま
  - マルチインフォメーションに“エアサス異常”または“エアサス表示停止”が表示されたまま
- 片荷状態などでエアサス異常が出る場合があります。発報した場合は制御が止まりますが、キー OFF から ON 操作でエラーが消え制御が作動すれば問題ありません。制御を再開すると、車高調整のため上下に動く場合がありますので十分注意してください。

● マルチインフォメーション・インジケーターランプ



（橙色）

アドバイス

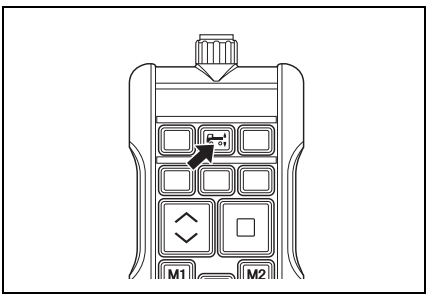
メーターパネル内の ランプが点灯（橙色）したままで、走行したり荷の積み降ろしをしないでください。ランプが点灯したままでは、荷台振動の悪化や、正常な車高の保持ができなくなることがあります。

■操作方法

▶ 荷台の高さ調整

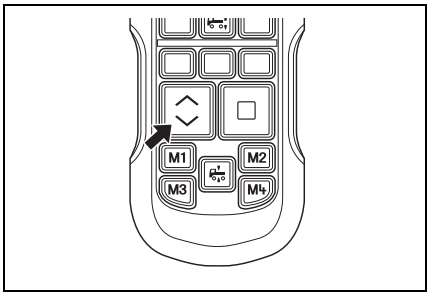
1. 運転席ポケット内に搭載されているリモコンを取り出します。
2. リモコンの後車軸選択ボタンを押します。車軸選択ボタンを押すことにより荷台高さ調整の操作可能状態となり、後車軸選択ランプが点灯し作業可能状態になったことを表示します。

● 後車軸選択ランプ



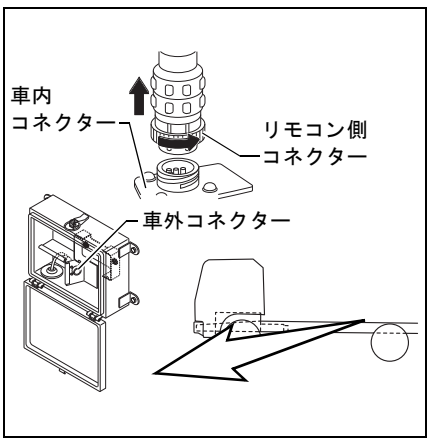
・ 車軸選択ボタンは一度押すと車軸選択ランプが点灯しリモコンによる操作が有効となり、もう一度押すと車軸選択ランプが消灯し無効となります。

3. リモコンの上昇ボタンまたは下降ボタンを押し続けます。ボタンを押し続けている間、車軸選択ランプが点灯している車軸の車高が変化します。荷台高さ調整中はメーターパネル内 のランプ（黄緑）が点滅します。



4. リヤエアサス車にて車外で荷台の高さを調整するときは、運転席背面ポケット内に搭載されているリモコンを取り外し、車両後方の車外コネクター★にリモコンのコネクターを挿入しリモコンの操作を行ってください。リモコンの操作方法は運転席での操作と同じです。

＊ 上昇ボタンまたは下降ボタンから手を離すか荷台高さが上限に達すると調整は自動的に終了します。
このとき ランプ（黄緑）は点滅から点灯に変わります。

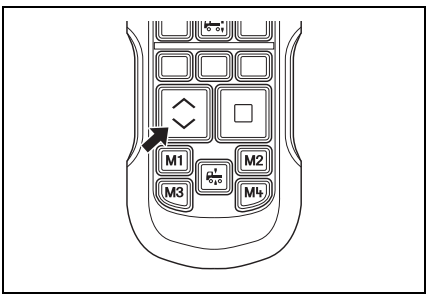


＊ 車外コネクターはリヤエアサス車のみ設定されています。

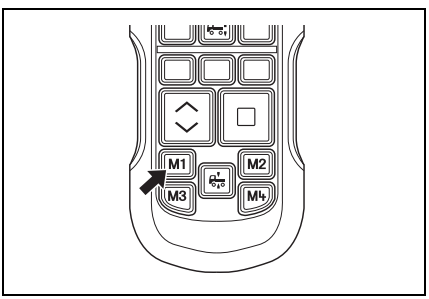
▶ 荷台高さメモリー（メモリー機能）

リモコンの上昇ボタンまたは下降ボタンで希望の荷台高さに調整し、その高さをメモリーで記憶させることができます。

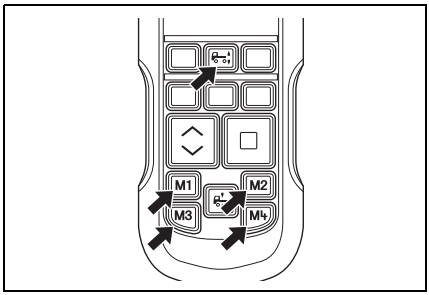
1. リモコンの上昇ボタンまたは下降ボタンを操作し、希望の荷台高さに調整します。（前記の「荷台の高さ調整」1. ～ 4. を参照してください。）



2. 荷台高さ調整後、STOP ボタンを押してから、メモリーボタンを同時に押すと、現在の荷台高さが記憶されます。

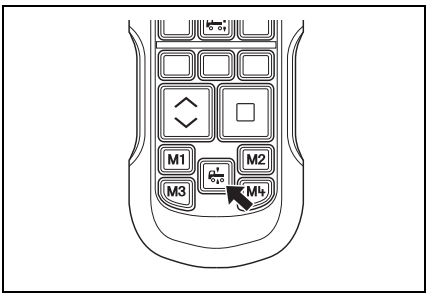


3. メモリー後、記憶させた荷台の高さにしたいときは、後車軸選択ボタンを押し、ハイトコントロールの操作可能状態にしてからメモリーボタンを押すと、記憶させた荷台高さに自動的に調整されます。



▶ 標準高さへの復元

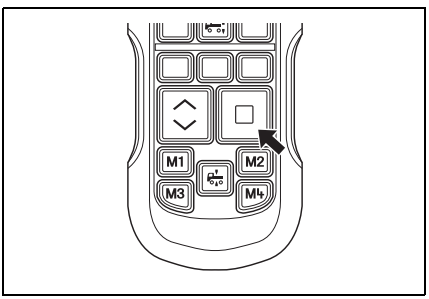
1. 後車軸選択ランプが消灯しているときは、後車軸選択ボタンを押し、車軸選択ランプを点灯させ、リモコンの車高復元ボタンを押します。
   なお、荷台高さ復元中はメーターパネル内の ランプ（黄緑）が点滅します。



2. 荷台が標準高さに復元すると ランプ（黄緑）が消灯します。

＊ 復元中に荷台を一時停止させるときは、リモコンの STOP ボタンを押すと荷台はその位置で停止し保持されます。このとき ランプ（黄緑）は点灯に変わります。

＊ 前後いずれかの軸を選択した場合でも、前後軸共に標準車高に復帰します。

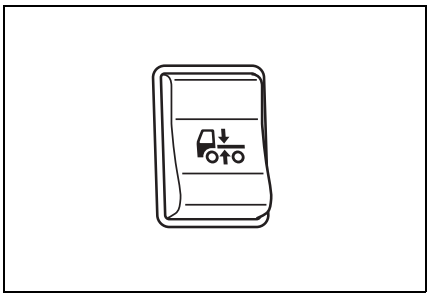


⚠ 注意

- 必ずリモコンを接続して使用してください。リモコン未接続時はハイトコントロールインジケーターランプが点灯する場合があります。
- スターターキーを「LOCK」の位置でレベリングタイマー機能が非作動の状態およびリモコンの STOP ボタンを押したまま荷の積み降ろしは行わないでください。
  エアスプリングのエアの給気および排気が行われずサスペンション系に無理な力が働き、故障の原因となります。

■車高復元スイッチ

・ 車高復元スイッチの操作により荷台を標準高さに復元できます。



1. 車高復元スイッチを押します。
2. メーターパネル内の ランプ（黄緑）が点滅し、荷台高さが復元します。

■レベリングタイマー機能

・ スターターキーが「LOCK」の位置での荷役作業時にハイトコントロールを行うことができます。

＊ レベリングタイマーの設定時間は変更することができます。変更を希望される場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

▶ 起動方法

・ リモコンの STOP ボタンを押しながらスターターキーを「LOCK」の位置にすると、自動的にレベリングタイマー機能が起動します。

▶ 起動時間

・ 起動後は約 5 時間ハイトコントロールを行うことができます。起動中は、後車軸選択ボタンを操作することで後車軸選択ランプが点灯し、起動後約 5 時間で後車軸選択ランプは消灯し、レベリングタイマー機能を終了します。
レベリングタイマー機能が終了すると後車軸選択ボタンを操作しても後車軸選択ランプは点灯しません。

⚠ 警告

エアサス自動復帰による荷台の急動作で、転倒・周囲の構造物との挟まれや接触等の危険があります。
また、ショックアブソーバーの伸び切りによる故障の懸念もありますので、レベリングタイマー機能中の車両の動きには十分注意してください。

⚠ 注意

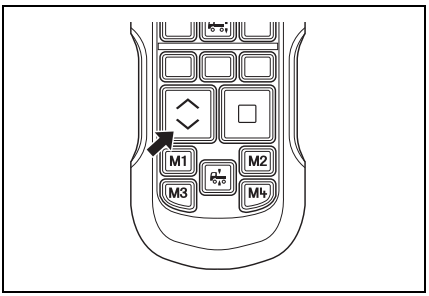
- レベリングタイマーは約5時間のみ有効で約 5 時間経過後はレベリングおよびハイトコントロールを行うことはできません。レベリングができない状態での荷の積み降ろしは行わないでください。エアスプリングのエアの給気および排気が行われず、サスペンション系に無理な力が働き、故障の原因となります。再度レベリングタイマー機能を起動するかスターターキーを「ON」または「ACC」の位置で作動してください。
- レベリングタイマーが有効になっている間、車高保持のための空気圧の作動音がします。リモコンの車軸選択ボタンを押し、車軸選択ランプを点灯させ、車軸選択ランプが消灯するまで「STOP」ボタンを約 5 秒長押しすると止めることができます。

アドバイス

レベリングタイマー機能作動後は、リモコンの後車軸選択ランプを消灯させても、機能は作動しています。機能を途中で止めたいときは、リモコンの STOP ボタンを長押し（約 5 秒）します。

■フェリーボート乗船時の注意

フェリーボートに乗船したときは、車高を下限まで下げてください。乗船中のゆれを低減させることができます。



・ フェリーボートから降りる際には、車高復元スイッチを押すなどして、車高を標準高さに復元してから発進してください。

⚠ 注意

車高を下げたときに走行しないでください。車両を損傷するおそれがあります。

アドバイス

- エンジンをかけるときは、フェリー側の指示に従ってください。
- 車高の復元に時間が長くかかるときは、エンジンを始動し、エアを補給してください。

■走行時の注意

＊ 走行する際は、車高復元スイッチを押す、またはリモコンの後車軸選択ボタンを押し、後車軸選択ランプを点灯させ、リモコンの車高復元ボタンを押し荷台高さを標準高さにしてください。なお、ハイトコントロールが「ON」の状態で走行した場合、車速が約 20 km/h に達するとブザーが吹鳴し、約 30 km/h に達すると自動で車高が復元します。

＊ 走行時は、ランプ（黄緑）が消灯していることを確認してください。

⚠ 注意

- 車高調整時にはキャブおよび荷台上方にスペースがあることを確認してください。また、荷役作業時にも荷物の出し入れにより車高がリーフサス車以上に上下しますので上記同様、上方スペースに注意してください。
- 車高調整中は通常走行時に対して全高が高くなっている場合があります。車高調整終了後はリモコンの車高復元ボタンを押し、車高を標準時の高さに戻してください。（ガレージ出口等で荷台上部をぶつける場合があります。）

アドバイス

ハイトコントロール操作において、リモコンの上昇ボタンから手を離しても荷台の上昇がすぐに止まらないオーバーシュートが発生します。

- オーバーシュートで荷台が上昇する量は約 10 ～ 20 mm 程度です。またそれに伴いレベリングする場合もあります。
- 荷台を上昇させるときは希望の高さに到達する約 10 ～ 20 mm 前にリモコンの上昇ボタンから手を離してください。
- 荷台高さの微調整は、リモコンの下降ボタンで行ってください。

知識

オーバーシュート現象とは

ハイトコントロール操作において、リモコンの上昇ボタンから手を離すとエアスプリングのエアの充てんはすぐに終了しますが、エアスプリング内圧が少し高くなっているため、そのエア圧を元に戻そうとする働きからすぐに荷台の上昇が止まらない現象です。

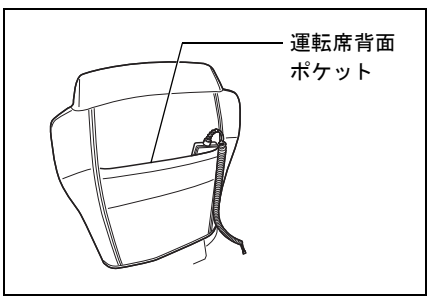
左右任意エアサスハイトコントロール★

この装置は、リヤ左右エアサスペンションの高さを任意に調整することができます。荷物の積み降ろしのときなどに左右別々に任意に設定ができ、作業性を向上させることができます。この機能を希望される場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

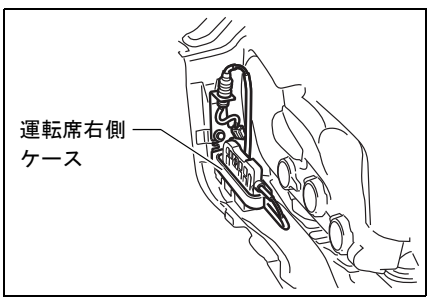
■ハイトコントロール用リモコン

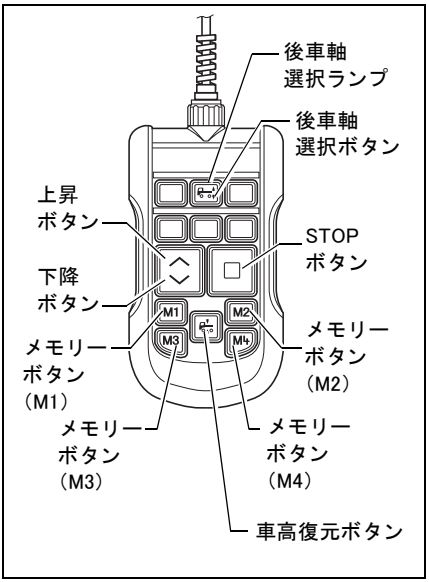
リモコンの紛失などを防ぐため、リモコンを使用していないときは、必ず下記の場所へ格納してください。

▶ ダンプレバーおよびミキサーコントロールレバー付きおよびダブルキャブ車



▶ ダンプレバーおよびミキサーコントロールレバー無し車





■操作前の準備

1. 操作は平坦な場所で行います。
2. 車の周りに人がいないこと、障害物がないことを確認します。
3. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーを「ニュートラル」、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を[N]（「 P 」レンジ付き車は[P]）の位置にします。
4. 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）の指針が 780 ～ 880 kPa {8.0 ～ 9.0 kgf/cm^2} の範囲にあることを確認します。

＊ 空気圧が低いと荷台の上げ・下げスピードが遅くなったり、車高を保持できなくなることがあります。

＊ 荷台の高さの上昇・下降時にはエアを消費しますので、作業時は、エンジンをアイドリング回転させておいてください。

⚠警告

- ハイトコントロールを操作するとき、車が若干前後に移動します。事故防止のため車の下、前後およびタイヤ付近に人や、障害物がないことを確認してから操作してください。
- ホイスト、フォークリフトなどにより一度に重量物の積み降ろしを行うと、一時的に荷台高さが大きく変化します。重量物の積み降ろしの際は、荷台高さを下限まで低くし、ゆっくり行ってください。

■ハイトコントロールインジケーターランプ



（黄緑）

＊ ハイトコントロールインジケーターランプについては（→ P.5-247）

■ハイトコントロールウォーニング



（橙色）

＊ ハイトコントロールウォーニングについては（→ P.5-248）

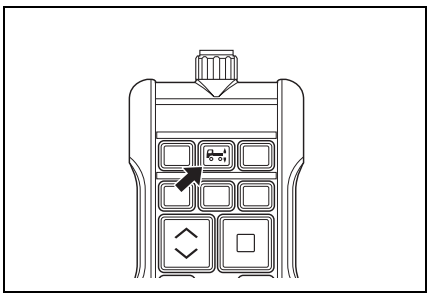
■操作方法

〔左右調整機能〕

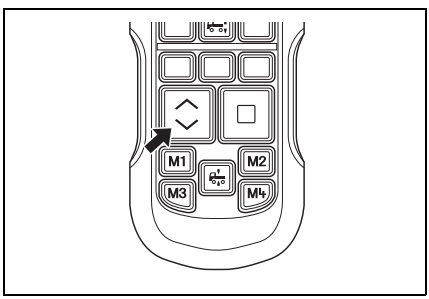
リヤサスハイトコントロールモードから左右任意エアサスコントロールモードに切り替えてから左右エアサスペンションの調整が行えます。

1. リモコンの後車軸選択ボタンを押し、後車軸選択ランプを点灯させます。

● 後車軸選択ランプ

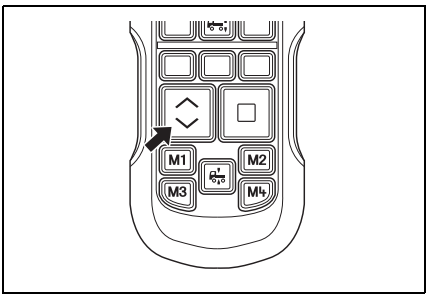


2. 1. の状態のままで、下降ボタンと STOP ボタンを同時に 3 秒以上押します。

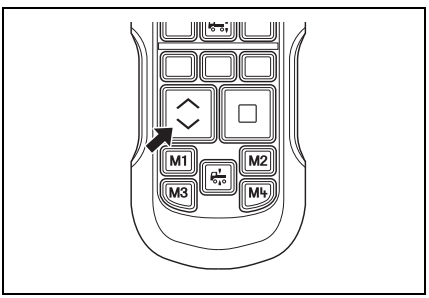


3. ブザーが鳴り、モードが切り替わります。

4. 車両右側のみ上下させる場合は、リモコンのメモリーボタン M2 を押しながら上昇ボタンまたは下降ボタンを押します。



5. 車両左側のみ上下させる場合は、リモコンのメモリーボタン M1 を押しながら上昇ボタンまたは下降ボタンを押します。



6. 左右任意エアサスハイトコントロールモードを解除したい場合は、スターターキーを「ACC」または「LOCK」位置にするか、STOP ボタンを約 3 秒間押します。

知識

- 左右任意エアサスハイトコントロールは後軸のみ有効です。
- 左右任意エアサスコントロールモードではメモリー機能は作動しません。
- スターターキーを「LOCK」位置にした場合は、リヤエアサスハイトコントロールモード（メモリー機能モード）に戻ります。

▶ 標準高さへの復元

＊ 標準高さの復元は（→ P.5-251）

■走行時の注意

＊ 走行する際は、車高復元スイッチを押す、またはリモコンの後車軸選択ボタンを押し、後車軸選択ランプを点灯させ、リモコンの車高復元ボタンを押し荷台高さを標準高さにします。

＊ 走行時は、ランプが消灯していることを確認してください。

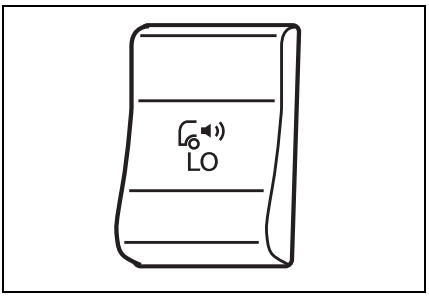
注意

- 車高調整時にはキャブおよび荷台上方にスペースがあることを確認してください。また、荷役作業時にも荷物の出し入れにより車高がリーフサス車以上に上下しますので上記同様、上方スペースに注意してください。
- 車高調整中は通常走行時に対して全高が高くなっている場合があります。車高調整終了後はリモコンの車高復元ボタンを押し、車高を標準時の高さに戻してください。（ガレージ出口等で荷台上部をぶつける場合があります。）

バックブザー減音スイッチ

スタータースイッチが「ON」の位置のとき、スイッチを 1 度押すとメーター内のインジケーターランプが点灯し、車両後方のバックブザーを小さい音量で鳴らすことができます。

もう 1 度押すとインジケーターランプが消灯し、通常の音量に戻ります。



知識

■バックブザー減音スイッチについて

スタータースイッチが「OFF」から「ON」にしたとき、車両後方のバックブザーは通常の音量になっています。

注意

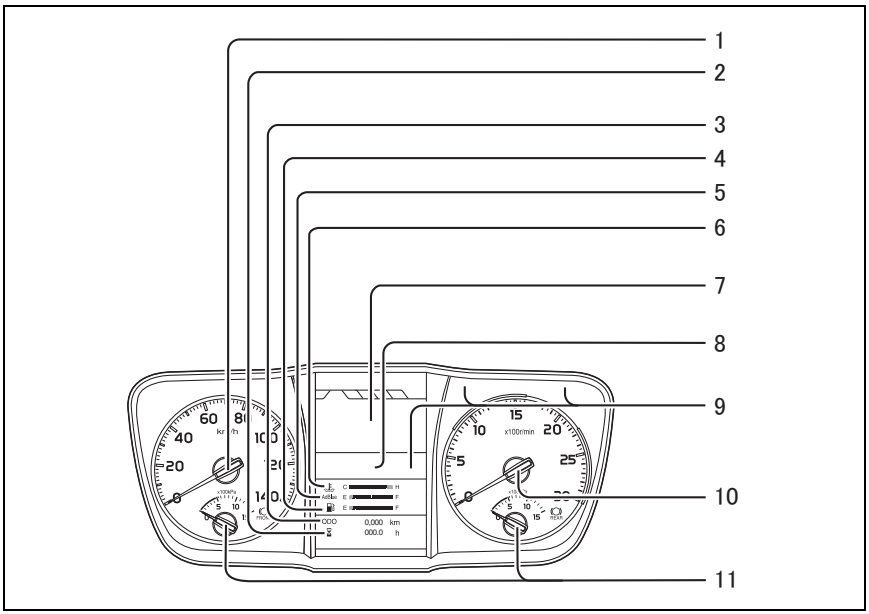
■バックブザー減音スイッチの操作について

- バックブザーは車両の後退を周囲に知らせるための装置です。減音機能は車両後方の安全を十分に確認できる状況で、かつ、小さい音量でも周囲にブザーが鳴っていることを周知できる静かな環境下以外では使用しないでください。
- スタータスイッチが「ON」の間は、ギヤポジションを「R」以外（前進）に切り替えても、ブザー音量の状態は維持されます。通常の前進走行に戻った際には、再度減音スイッチを操作し、通常の音量（メーター内のインジケーターランプが消灯）状態に戻してください。

メーター類・ランプ類の配置 P.6-3
メーター類 P.6-4
デジタルタコグラフ（シンプルタイプ）★ P.6-11
タコグラフ★ P.6-23
レボタコグラフ★ P.6-23
My ドライブマスター P.6-24
エコランプ P.6-26
エコツリー★ P.6-27
マルチインフォメーションシステム P.6-28
ウォーニングランプ・インジケーターランプ P.6-72
オーバーヒートウォーニング P.6-78
クーラントレベル（冷却水不足）ウォーニング P.6-79
オイルプレッシャーウォーニング P.6-80
エンジンオイルフィルターウォーニング P.6-81
エアプレッシャーウォーニング P.6-81
ブレーキアジャストウォーニング P.6-82
ブレーキ液レベルウォーニング P.6-83
ライニング、パッド摩耗ウォーニング★ P.6-84
フューエルフィルター水位（水抜き）ウォーニング P.6-84
ストップランプウォーニング P.6-85
ライトセンサー系ウォーニング P.6-85
ABS ウォーニング（エアオーバーブレーキ車） P.6-86
ABS 表示停止ウォーニング（エアオーバーブレーキ車） P.6-87
EBS・ABS ウォーニング（フルエアブレーキ車） P.6-87
EBS・ABS 表示停止ウォーニング（フルエアブレーキ車） P.6-90
VSC ウォーニング P.6-90
チャージウォーニングランプ P.6-91

燃料残量ウォーニング ...P.6-91
シートベルト未装着警報ランプ（運転席側）.....P.6-92
運転席 SRS エアバッグウォーニングランプ P.6-92
予熱装置異常ウォーニング★ P.6-93
スターター過熱ウォーニング★ P.6-93
MIL P.6-94
チェックエンジンランプ P.6-96
DPR ウォーニング.....P.6-97
尿素水残量ウォーニング P.6-98
尿素水品質ウォーニング P.6-100
尿素 SCR システムウォーニング.....P.6-103
フロントスピーカー P.6-104

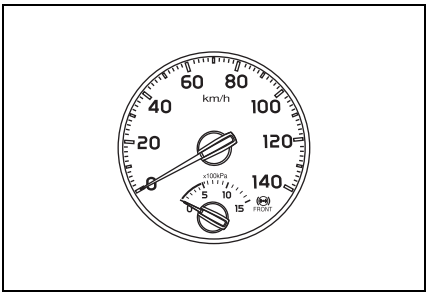
メーター類・ランプ類の配置



1. スピードメーター（速度計）（→ P.6-4）
2. アワーメーター（→ P.6-10）
3. オドメーター（→ P.6-10）
4. 燃料計（フューエルゲージ）（→ P.6-7）
5. 尿素水計（→ P.6-7）
6. 水温計（→ P.6-6）
7. マルチインフォメーション（メイン表示部）（→ P.6-28）
8. マルチインフォメーション（シフト表示部）（→ P.6-28）
9. ウォーニングランプ・インジケーターランプ（→ P.6-72）
10. タコメーター（エンジン回転計）（→ P.6-4）
11. 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）（→ P.6-5）

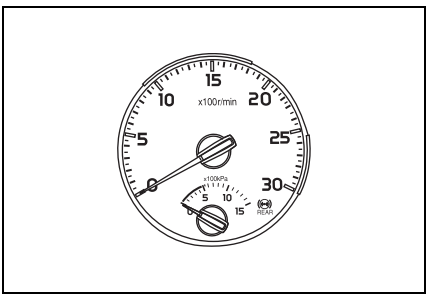
メーター類

■スピードメーター（速度計）



走行中の速度（km/h）を示します。

■タコメーター（エンジン回転計）



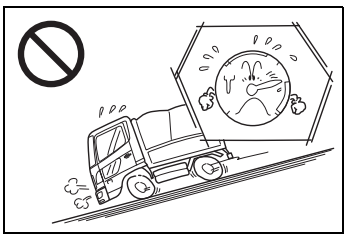
1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

- 緑色ゾーンは経済運転時の目安です。緑色ゾーンの範囲での運転を心掛けてください。
- 赤色ゾーンはオーバーランを示しています。下り坂やシフトダウン時、赤色ゾーンに入らないよう注意して運転してください。

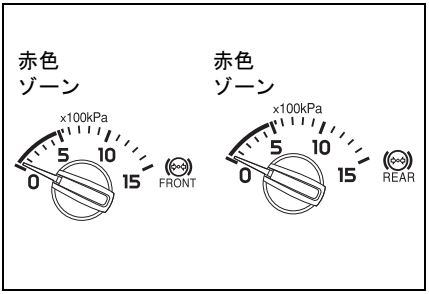
知識

オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、この結果、各部に無理が生じて、エンジンなどを破損させることになります。



■空気圧計（エアプレッシャーゲージ）



エアタンク内の空気圧を示します。

⚠警告

- 指針が赤色ゾーンを示したときは、絶対に走行しないでください。ブレーキが十分に効かないため危険です。
- 走行中に指針が赤色ゾーンを示した場合は、ただちに安全な場所に停車してください。

・ 指針が基準空気圧を示していれば正常です。

車型	基準空気圧 ×100kPa {kgf/cm^2}
FC・FD・GC・GD・FX・GX（エアオーバーブレーキ車）	7.8 ～ 8.8 {8.0 ～ 9.0}
FE・FJ（フルエアブレーキ車）	9.0 ～ 10.0 {9.2 ～ 10.2}

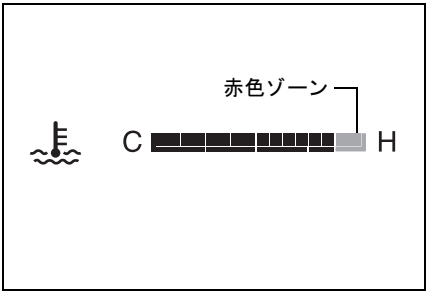
・ 指針が赤色ゾーンを示すと (!) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”を表示し、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキレバーを引き、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。

・ 赤色ゾーンを示したときは、ただちに安全な場所に停車しパーキングブレーキを確実に効かせ、エア漏れがないかを点検します。エアが漏れていないことを確認した後、エンジンを中速回転させ、基準空気圧まで空気圧を上昇させます。

・ エア漏れがあるときや、空気圧が上昇しなかったり上昇に時間がかかるようなときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

■水温計

エンジンの冷却水温度を示します。



- C…… 冷却水「低」
- H…… 冷却水「高」

・ 運転中に目盛りが中央付近を示していれば正常です。

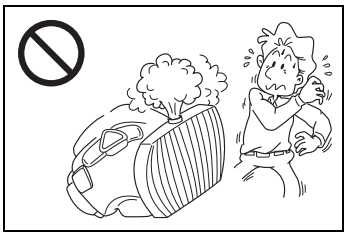
・ 赤色ゾーンを示したときは、オーバーヒート状態を示します。オーバーヒートになると、 ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジンオーバーヒート ”を表示し、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキレバーを引きパーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。

・ 赤色ゾーンを示したときは、ただちに安全な場所に停車させ、エンジン回転数をアイドリング回転数より高めにし、目盛りが中央付近を示したらエンジンを止めます。

＊ オーバーヒートしたときの対処方法は（→ P.15-24）

⚠警告

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



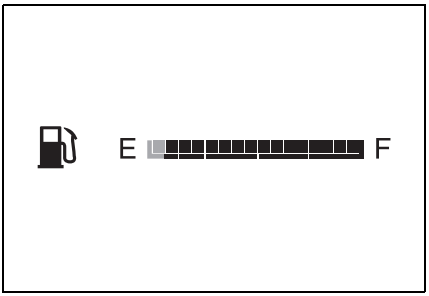
アドバイス

目盛りが赤色ゾーンを示したときは、すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

・ 冷却水量が適量でかつ水漏れがないときには、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

■燃料計（フューエルゲージ）

燃料タンク内の燃料の量を示します。



- E……残り少ない
- F……満量

・ タンク内の燃料の残量が少なくなると ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ 燃料残量少 ”を表示します。更に少なくなると最後の１目盛りが点滅します。

＊ 目盛りが E に近づいたら、早めに燃料（軽油）を補給してください。

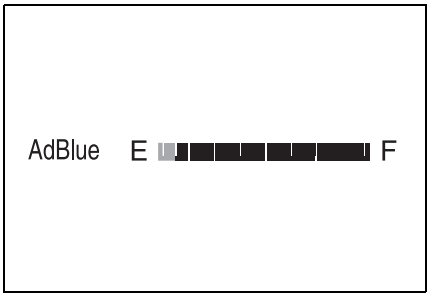
＊ 燃料切れを起こしたときは、燃料系統のエア抜きが必要です。詳しくは（→ P.15-52）

アドバイス

軽油以外の燃料は使用しないでください。エンジントラブルの原因になります。詳しくは（→ P.1-3）

■尿素水計

尿素水タンク内の AdBlue®（尿素水）の量を示します。

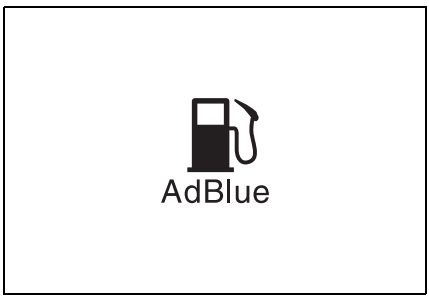


- E……残り少ない
- F……満量
- 尿素水残量ウォーニングランプ

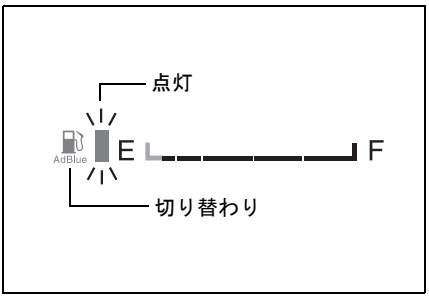
タンク内の AdBlue®（尿素水）がなくなるとAdBlueランプが AdBlue ランプに切り替わり、横に橙のインジケーターランプが点灯します。

・ タンク内の AdBlue®（尿素水）の残量が少なくなるとAdBlueランプが AdBlue ランプに切り替わり、マルチインフォメーションに“ AdBlue AdBlue 残量少 ”を表示します。

＊ 尿素水計が E に近づいたら、早めに AdBlue®（尿素水）を補給してください。AdBlue®（尿素水）切れを起こした場合などに 関しては（→ P.6-98）

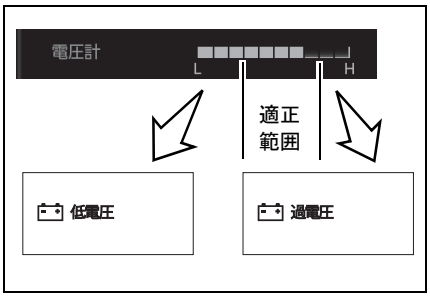


〔尿素水残量ウォーニング時〕



■電圧計

車両の電源電圧を示します。



＊ 電圧計はマルチインフォメーションのメイン表示部に表示されます。マルチインフォメーションについては（→P.6-28）

- エンジン回転中、適正範囲を示していれば正常です。
- 目盛りが「L」側を示し、マルチインフォメーションに“ 低電圧 ”を示したときは、バッテリーが放電状態にあることを示します。また、メーターパネル内に ランプも点灯しているときは、発電不良によりバッテリーが充電されていないことを示します。
- 目盛りが「H」側を示し、マルチインフォメーションに“ 過電圧 ”を示したときは、過電圧状態にあることを示します。

⚠ 注意

「H」側を示し、マルチインフォメーションに“ 過電圧 ”を表示したときは、走行しないでください。過電圧による電子機器類の損傷やバッテリーあがりの原因になります。

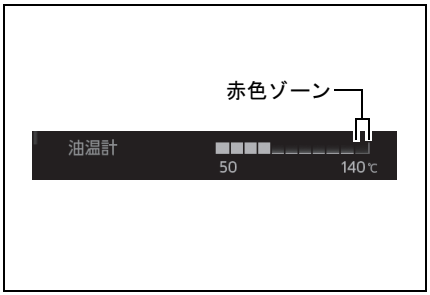
＊ 過電圧の場合、メーターパネル内の ランプは、お車の仕様により点灯する場合としない場合があります。

・「L」側または「H」側を示し、 ランプが点滅または点灯したときは、ただちに安全な場所に停車させ、エンジンを止め、オルタネーターのベルトの張り具合や損傷がないかを点検してください。

・ ベルトに異常がないときは最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

■エンジン油温計★（オイルテンパレーチャーゲージ）〔消防車〕

エンジンオイルパン内の油温を示します。



＊ エンジン油温計はマルチインフォメーションのメイン表示部に表示されます。マルチインフォメーションについては（→ P.6-28）

適正温度域
80 ～ 110 ℃

・ 赤色ゾーンは、オーバーヒート状態を示します。

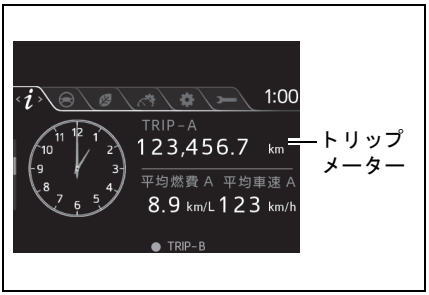
・ 目盛りが赤色ゾーンを示した場合は、ただちに安全な場所に車両を停車させてください。ただし、停車後はすぐにエンジンを止めずにエンジン回転数をアイドリング回転数より若干高めにし、目盛りが適正温度域になってからエンジンを止めてください。

⚠ 注意

目盛りが赤色ゾーンを示したときは、すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

■トリップメーター

2 種類の区間距離（トリップ A、トリップ B）を km の単位で示します。

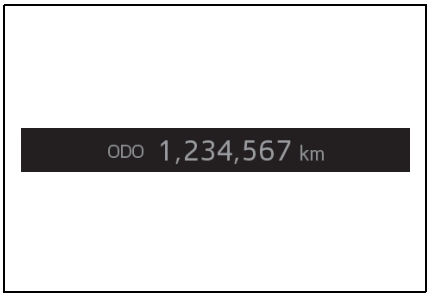


＊ トリップメーターはマルチインフォメーションのメイン表示部に表示されます。
マルチインフォメーションについては（→ P.6-28）

- ステアリングスイッチの決定ボタンを押すたびにトリップ A、トリップ B の切り替えができます。
- ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押すとトリップメーターをリセットできます。同時に平均燃費、平均車速もリセットされます。

■オドメーター

走行した総距離を km の単位で示します。



■アワーメーター

エンジンの総稼働時間を h の単位で示します。

＊ 表示される時間に基づいて、エンジン各部の点検・整備を行ってください。

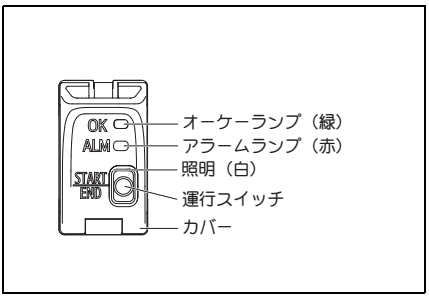
＊ アワーメーターの時間はリセットできません。



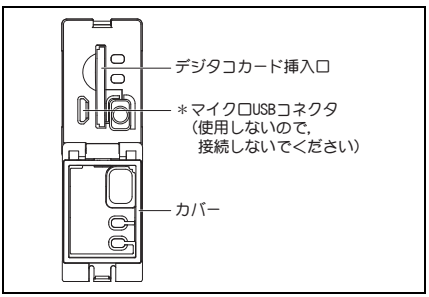
デジタルタコグラフ（シンプルタイプ）★

■各部の名称

● カバー閉状態



● カバー開状態



● オーケーランプ（緑）

運行の状態、データの書き込み状態を表示します。

● アラームランプ（赤）

警告の状態、または異常状態を表示します。

● 照明（白）

運行スイッチの位置を示す照明ランプです。

● 運行スイッチ

運行の開始、終了するときに押します。

● カバー

カバーを閉じる場合は、「カチッ」と音がするまでカバーを閉じます。

● デジタコカード挿入口

デジタコカードを「カチッ」と音がするまで差し込んで挿入します。デジタコカード挿入後に再度デジタコカードを「カチッ」と音がするまで差し込むとデジタコカードを取り出すことができます。
デジタコカードの挿入と取り出しは、スタータースイッチが「LOCK」のときに行ってください。

＊ マイクロ USB コネクタ
使用しないので、接続しないでください。

⚠ 警告

- 下記の注意を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。
  - お客様ご自身で修理されたり、手を加えたりすること（改造、分解、加工等）は絶対にしないでください。
  - 煙が出ている、変なにおいがするなど異常状態のまま使用しないでください。直ちに安全な場所に車両を止め、スタータースイッチを「LOCK」位置にしてください。

⚠警告

● 下記の注意を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

・ 装置から水気を避けてください。
水洗いをしたり、濡れた布で拭いたりしないでください。故障の原因になります。

・ 装置のスイッチを乱暴に押さないでください。
故障の原因になります。

・ 装置への直射日光を避けてください。
故障の原因になります。

・ 装置外観の清掃にはベンジン、シンナー等を使わないでください。
揮発性のものを使うと変質したり塗料がはげたりする原因になります。
清掃には柔らかい乾いた布で軽く拭いてください。

・ デジタコカードを折ったり曲げたりしないでください。
故障の原因になります。

・ デジタコカードのコネクタ（端子部）を指や金属などで触れないでください。
静電気による故障の原因になります。

・ デジタコカードは、直射日光の当たる所、暖房器具の近くなどの高温になる場所には置かないでください。
故障の原因となります。

・ デジタコカードから水気・油を避けてください。
水に濡らしたり、濡れた布で拭いたりしないでください。故障の原因になります。

⚠警告

・ デジタコカードはズボンのポケットなどに入れないでください。
座ったとき等に大きな力が加わり、壊れるおそれがあります。故障の原因になります。

・ データ書き込み中（緑ランプが速い点滅をしているとき）に車両バッテリーを外さないでください。
本体およびデジタコカードに記録されたデータの変化や破壊が生じるおそれがあります。

■利用者ソフトウェアについて

運行記録の確認には利用者ソフトウェアを使用します。利用者ソフトウェアは以下のアドレスから 入手してください。

https://www.hino-cs.com/digitacho/download/

■仕様について

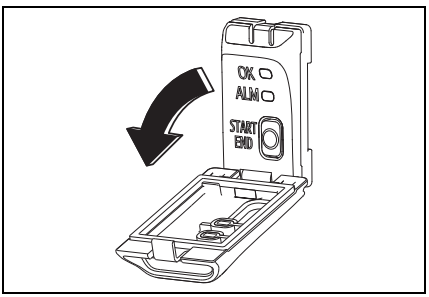
項目	名称・仕様
情報伝達媒体	専用 SD カード（メモリカード）
対応利用者ソフトウェア	ディジタル式運行記録計 利用者ソフトウェア TD Ⅱ -106
車速センサパルス	オープンコレクタ入力 ×1ch 1 km あたり 5,096 パルス 1 回転あたり 8.0 パルス

■使い方

▶ 運行記録を開始する

1. デジタコカードを入れる

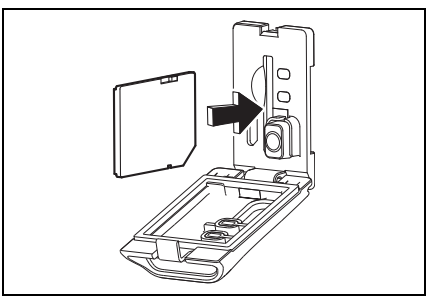
①スタータースイッチを「LOCK」位置にします。すべてのランプ、照明が消灯していることを確認し、カバーを開きます。



⚠ 注意

運行情報を確実に記録するため、デジタコカードは純正部品を使用してください。

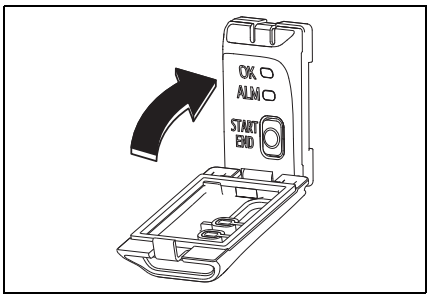
②デジタコカード挿入口に、デジタコカードを「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



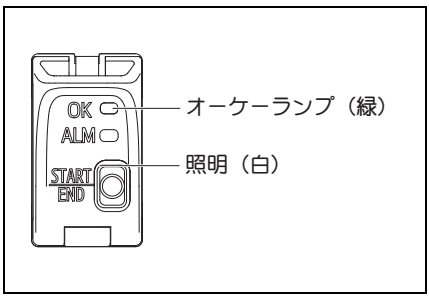
アドバイス

イラストをよく確認し、イラストと同じ向きでデジタコカードを差し込んでください。

③カバーを確実に閉じます。



2. スタータースイッチを「ON」位置にします。照明（白）が点灯し、オーケーランプ（緑）が点滅します。



⚠ 注意

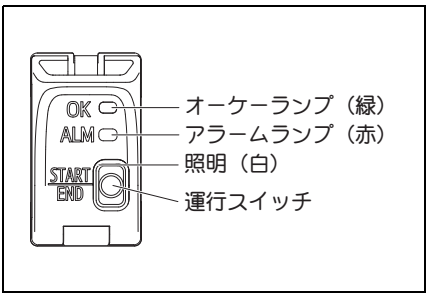
照明（白）の点滅が 10 秒以上続くときは、デジタルタコグラフの時刻異常です。時刻異常のときは運行情報が記録されません。時刻異常のときは必ず時刻を設定してから運行してください

- デジタルタコグラフの時刻を設定する（→ P.6-16）
- 時刻設定カードにより時刻を設定する（→ P.6-18）

知識

デジタルタコグラフ本体の電源は、スタータースイッチを「ON」位置にすることで「ON」になります。

3. 運行を開始する
オーケーランプ（緑）が点滅、アラームランプ（赤）が消灯でデジタコカードが入っていることを確認し、運行スイッチを 1 秒以上（10 秒以内）押すとオーケーランプ（緑）が点滅から点灯に変わります。変わったことを確認し、運行スイッチを離すと運行を開始します。



知識

- デジタコカードの記録可能時間が 1 時間を切ると、アラームランプ（赤）が点滅します。アラームランプ（赤）が点滅したときは運行を終了して、利用者ソフトで運行情報を読み込んだ後、運行記録を開始してください。
- 運行を開始してから 168 時間が経過すると、強制的に運行を終了し、本体のメモリに保存されている運行情報はデジタコカードに書き込まれます。
- 運行スイッチを押し忘れても、デジタルタコグラフが車速を検知すると自動的に運行記録を開始します。
このとき、オーケーランプ（緑）が点灯に変わりますので、この状態で運行スイッチを押すと運行記録を終了します。運行スイッチ操作の際は、オーケーランプ（緑）の状態を確認してください。
アラームランプ（赤）点灯が続くときは、以下を確認してください。

・ デジタコカードが正しく挿入されているか確認してください。
デジタコカード未挿入で走行したときの運行記録は本体のメモリに保存されます（最大 168 時間）。保存された情報はデジタコカード挿入時にカードへ書き込まれます。

・ デジタコカードに空き容量が無い可能性がありますので、利用者ソフトで運行情報を読み込んでください。

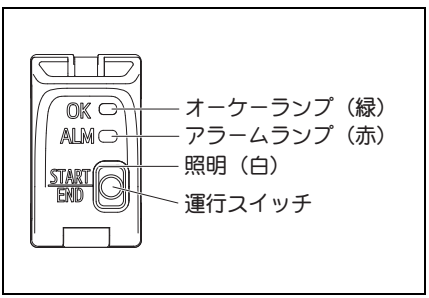
・ デジタコカードではない SD カードが挿入されていないか確認してください。

▶ 運行記録を終了する

1. 運行を終了する
運行スイッチを 1 秒以上（10 秒以内）押すとオーケーランプ（緑）が点灯から点滅に変わります。点滅に変わったことを確認し、運行スイッチを離すと運行を終了します。

⚠ 注意

緑ランプが速い点滅中はデジタコカードを絶対に取り出さないでください。デジタルタコグラフ本体およびデジタコカード内に記録されたデータの変化や破壊が生じる可能性があります。



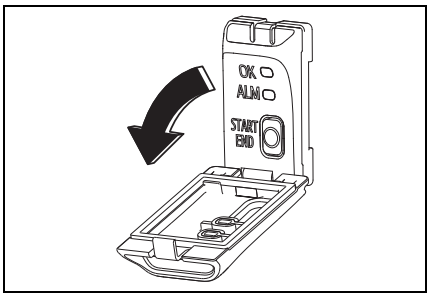
2. スタータースイッチを「LOCK」位置にする
スタータースイッチを「LOCK」位置にします。すべてのランプ、照明が消灯していることを確認してください。

知識

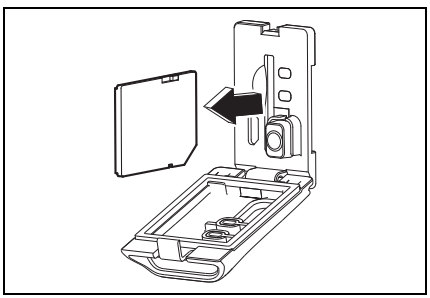
デジタルタコグラフ本体の電源は、スタータースイッチを「LOCK」位置にすることで「OFF」になります。

3. デジタコカードを取り出す

①カバーを開きます。



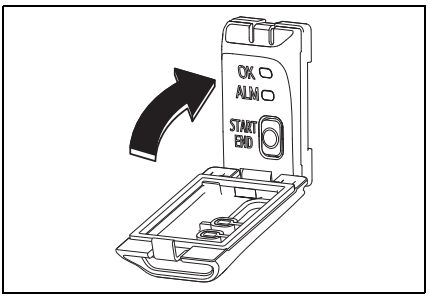
②デジタコカード挿入口に挿し込まれているデジタコカードを「カチッ」と音がするまで確実に押し込みます。これでデジタコカードを取り外せます。



⚠ 注意

必ずデジタコカードを「カチッ」と音がするまで押し込んでからカードを取り出してください。
無理に取り出すと、破損 / 故障の原因となります。

③カバーを確実に閉じます。



アドバイス

- デジタコカードに書き込まれた運行情報は、利用者ソフトを使用して読み出し・保管してください。
- 運行終了後、別の運転者を設定したデジタコカードに交換することで、運転者交代（運行切り替え）を行うことができます。デジタコカードへの運転者の設定方法は、利用者ソフトの「操作手引書」を参照してください。

■デジタルタコグラフの時刻を設定する

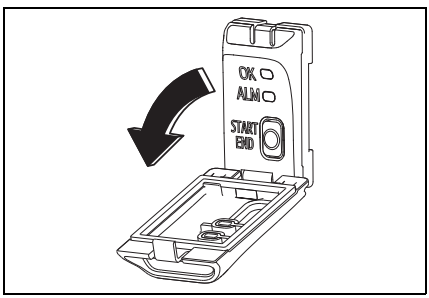
以下の場合、デジタルタコグラフの時刻を設定する必要があります。

- 運行情報を利用者ソフトで読み込んだ時に、時刻が正しくない。
- 照明（白）の点滅が 10 秒以上続き、アラームランプ（赤）が点灯しているとき。（バッテリーを外したまま長時間車両を使用しなかったときなど）

▶ マルチインフォメーションの時計表示に時刻を設定する

1. デジタコカードを入れる

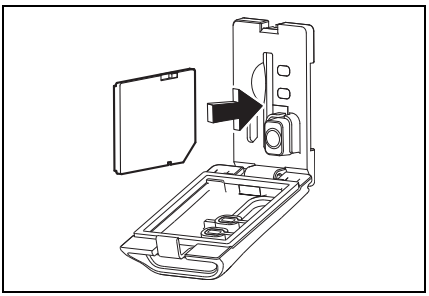
①スタータースイッチを「LOCK」位置にします。すべてのランプ、照明が消灯していることを確認し、カバーを開きます。



⚠ 注意

運行情報を確実に記録するため、デジタコカードは純正部品を使用してください。

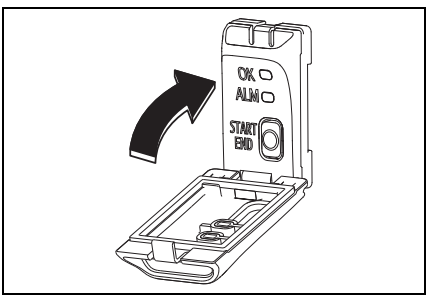
②デジタコカード挿入口に、デジタコカードを「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



アドバイス

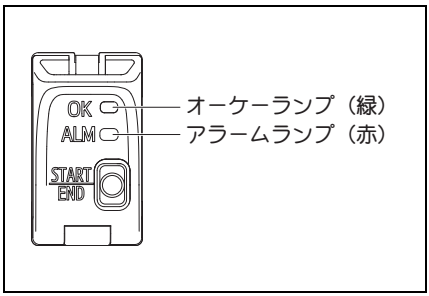
イラストをよく確認し、イラストと同じ向きでデジタコカードを差し込んでください。

③カバーを確実に閉じます。



2. スタータースイッチを「ON」位置にする
このとき、照明（白）の点滅が10秒以上続く場合は、下記の「3. 運行していないことを確認する」は行わず、「4. 時刻を設定する」に進みます。

3. 運行していないことを確認するオーケーランプ（緑）が点滅し、アラームランプ（赤）が消灯で運行していないことを確認します。



アドバイス

オーケーランプ（緑）が点灯（運行中）の場合は、運行を終了させてください。（→ P.6-15）
その後、スタータースイッチを「LOCK」位置にして、「1. デジタコカードを入れる」からやり直してください。

4. 時刻を設定する

①メーター内、マルチインフォメーションの時計表示を正しい時刻に合わせます。時刻設定の詳細は（→ P.6-36）

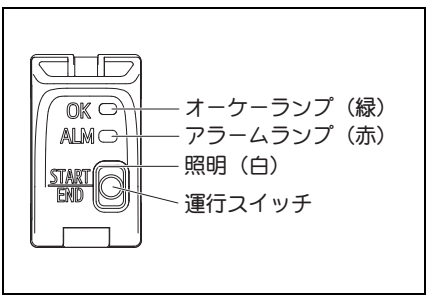
メーター内、マルチインフォメーションの時計表示が正しい時刻になっているかを確認してから、以降の操作を実施してください。
マルチインフォメーションの時計表示時刻が間違っている場合、誤った時刻がデジタルタコグラフに設定されます。

②以下の操作と確認を実施してください。

[1] 運行スイッチを 11 秒以上（15 秒以内）押し続け、オーケーランプ（緑）が消灯、アラームランプ（赤）が消灯、照明（白）が点滅に変わったことを確認して、運行スイッチを離す。

[2] オーケーランプ（緑）とアラームランプ（赤）が交互に点灯、照明（白）が点滅を繰り返すことを確認し（最大 1 分）、オーケーランプ（緑）が 5 秒間点灯することを確認する。

[3] オーケーランプ（緑）が点滅、アラームランプ（赤）が消灯、照明（白）が点灯に変わったことを確認する。



アドバイス

オーケーランプ（緑）が点灯せず、アラームランプ（赤）が 5 秒間点灯した場合は、時刻設定に失敗しています。一度スタータースイッチを「LOCK」位置にして、デジタコカードを取り出し、「1. デジタコカードを入れる」からやり直してください。（→ P.6-16）

■時刻設定カードにより時刻を設定する

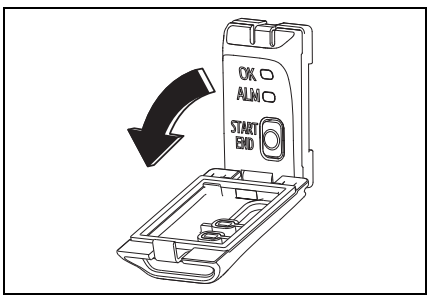
1. スタータースイッチを「LOCK」位置にする
スタータースイッチを「LOCK」位置にします。すべてのランプ、照明が消灯していることを確認してください。

アドバイス

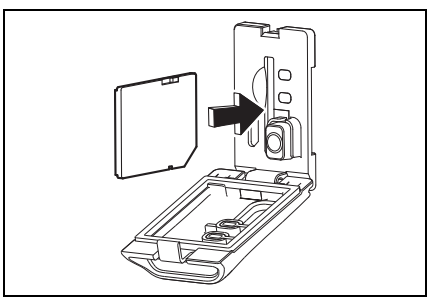
時刻設定をやり直す場合は、「1. スタータースイッチを「LOCK」位置にする」からやり直してください。

2. 時刻設定カードを入れる

①カバーを開きます。



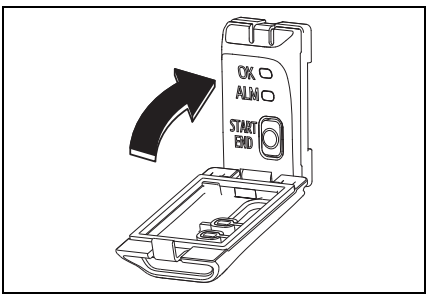
②デジタコカード挿入口に、時刻設定カードを「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。時刻設定カードの作成方法については、利用者ソフトの「操作手引書」を参照してください。



アドバイス

- イラストをよく確認し、イラストと同じ向きで時刻設定カードを差し込んでください。
- 時刻設定カード以外は絶対に使用しないでください。
- デジタルタコグラフに設定を行いたい時刻を時刻設定カードに書き込み（作成）してください。

③カバーを確実に閉じます。



3. スタータースイッチを「ON」位置にする
4. 時刻を設定する

①以下の操作と確認を実施してください。

[1] オーケーランプ（緑）が消灯、アラームランプ（赤）が消灯、照明（白）が点滅、またはオーケーランプ（緑）が消灯、アラームランプ（赤）が点灯、照明（白）が点滅で時刻設定カードが入っていることを確認する。

[2] 運行スイッチを 1 秒以上（10 秒以内）押し続け、時刻設定カードに書き込んだ時刻になったら、運行スイッチを離す。

[3] オーケーランプ（緑）が点灯に変わったことを確認する。

アドバイス

- 運行中（アラームランプ（赤）が点灯、照明（白）が点灯）の場合は、時刻設定カードを取り出し、デジタコカードを入れて運行を終了させてください。（→ P.6-15）
- オーケーランプ（緑）が点灯せず、アラームランプ（赤）が点灯の場合は、時刻設定に失敗しています。「1. スタータースイッチを「LOCK」位置にする」からやり直してください。（→ P.6-18）

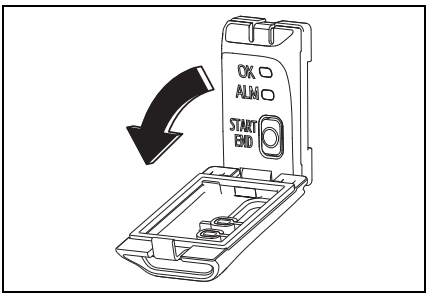
5. スタータースイッチを「LOCK」位置にする
   スタータースイッチを「LOCK」位置にします。すべてのランプ、照明が消灯していることを確認してください。

アドバイス

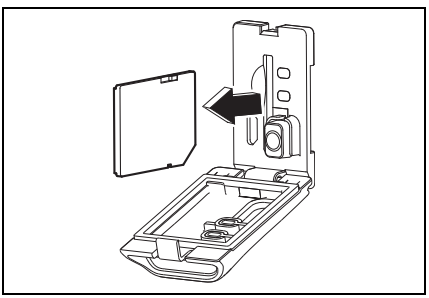
時刻設定カードによる時刻設定では、運行を開始できる状態にするために、スタータースイッチを一度「LOCK」位置にする必要があります。

6. 時刻設定カードを取り出す

①カバーを開きます。



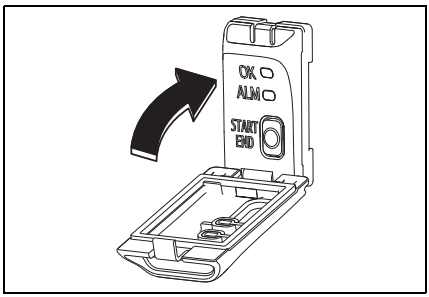
②デジタコカード挿入口に差し込まれている時刻設定カードを、「カチッ」と音がするまで確実に押し込みます。これで時刻設定カードを取り出せます。



⚠ 注意

必ず時刻設定カードを「カチッ」と音がするまで押し込んでからカードを取り出してください。
無理に取り出すと、破損・故障の原因となります。

③カバーを確実に閉じます。

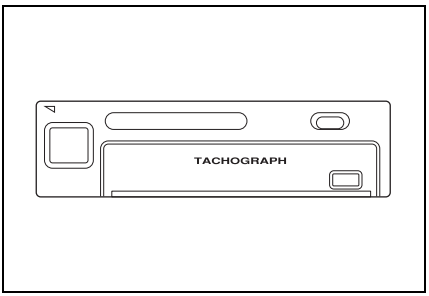


■ランプ点灯状態一覧

パターン	LED状態  オーケーランプ（緑）	LED状態 アラームランプ（赤）	LED状態 照明（白）	デジタルタコグラフの状態	対応
①				運行開始前／終了状態	なし
				運行開始／記録中	なし
				デジタコカード書き込み中	なし ＊ オーケーランプ（緑）が速い点滅をしているときにスタータースイッチを「LOCK」位置にしても、デジタコカードへの書き込みが完了するまで作動します。 ＊ 緑ランプが速い点滅をしているときはデジタコカードを絶対に取り出さないでください。デジタルタコグラフ本体およびデジタコカード内に記録されたデータの変化や破壊が生じる可能性があります。
②				デジタコカードの記録可能時間が1時間を切っています	運行を終了して、利用者ソフトで運行情報を読み込んでください。

パターン	LED状態  オーケーランプ（緑）	LED状態 アラームランプ（赤）	LED状態 照明（白）	デジタルタコグラフの状態	対応
③	■	□	□	・ デジタコカード未挿入時 ・ デジタコカード容量なし ・ カード異常	・ デジタコカードが正しく挿入されているか確認してください。 ・ 利用者ソフトで運行情報を読み込んでください。 ・ デジタコカードに交換してください。
④	■	□		デジタルタコグラフの時刻異常	デジタルタコグラフ内部の時刻を設定してください。 ＊ デジタルタコグラフが時刻異常のときは運行情報が記録されません。時刻異常のときは必ず時刻を設定してから運行してください。
⑤	■	□	■	装置異常	一度スタータースイッチを「LOCK」位置にしてから再度「ON」の位置にしてください。 異常が解消しない場合は、日野販売会社の整備工場にご連絡ください。

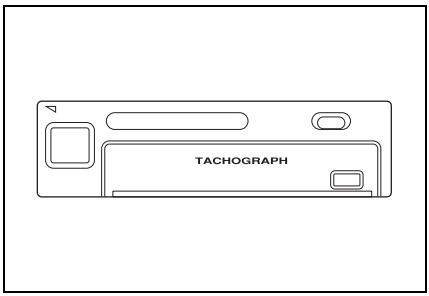
タコグラフ★



・ 運転中の車速・時間・走行距離などを記録できます。

＊ 詳しくは別冊の「タコグラフ取扱説明書」をご覧ください。

レボタコグラフ★



・ 運転中の車速・時間・走行距離・エンジン回転数などを記録できます。

＊ 詳しくは別冊の「レボタコグラフ取扱説明書」をご覧ください。

My ドライブマスター

■低燃費運転警報機能

車両の運転状態（車速、アクセル開度、エンジン回転数、アイドリング時間など）をモニターし、過度なアクセル操作や燃費に悪い運転操作を検出した場合はブザーとマルチインフォメーションの警告表示によって警告することで省燃費運転を奨励します。

⚠ 注意

- 低燃費運転警報作動によらず、交通状況に応じ安全を優先した運転をしてください。
- 本機だけでは燃費は向上しません。

アドバイス

低燃費運転警報は、登り坂や積車状況のときは警報が出なくなる場合があります。

知識

本機は省燃費運転を支援するための補助機器です。

■マルチインフォメーション

▶ アクセル警報

アクセル開度を感知して、おもにラフなアクセルワークを警告します。



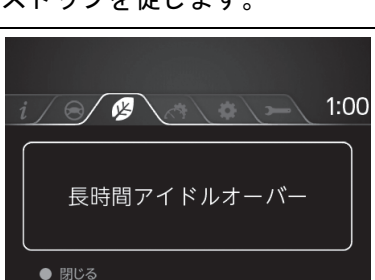
▶ シフトアップ警報

エンジン回転数を感知して、シフトアップを促します。



▶ 長時間アイドリング警報

アイドリング回転での停車時間が設定時間を超過した場合、アイドルストップを促します。



▶ 車速警報

設定した車速を超過すると減速を促します。



■低燃費運転警報機能の設定

各警報は車両出荷状態は全て「OFF」になっています。

お客様が必要な情報をマルチインフォメーションの車両システム設定メニューから設定を行い、使用します。

＊ マルチインフォメーションについては（→ P.6-28）

● 設定できる内容



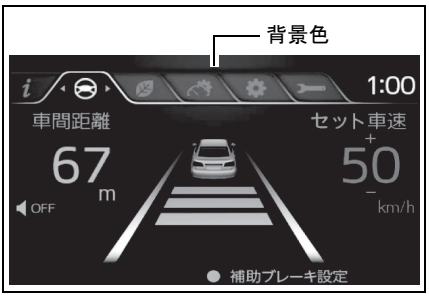
警報名	設定可能範囲
アクセル警報	OFF / ON
シフトアップ警報	OFF / ON
長時間アイドリング警報	OFF, 1, 2, 3, 4, 5, 10, 15, 20, 25, 30 分
車速警報	OFF, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100, 105 km/h

＊ シフトアップ警報は AT 車は設定できません。

エコランプ

■エコランプ

この装置は運転者の運転状況をリアルタイムでアドバイスする装置です。エコ運転をすることで、マルチインフォメーションの背景色が青色から緑色へと連続的に変化します。また、燃費に悪い運転（アクセルペダルの踏みすぎ、高いエンジン回転数での走行、長時間のアイドリングなど）をするとマルチインフォメーションの背景色が青色へと連続的に変化します。



▶ 主な青色点灯条件

- エンジン始動中（アイドリング中）
- アクセルペダルの踏みすぎ
- 高いエンジン回転数での走行中
- 車速 90km/h 以上で走行中
- マイドライブマスター★による警報作動中

▶ 主な緑色点灯条件

- エンジン自動停止中（アイドルストップ中）
- アクセル開度が少なく、低いエンジン回転数での走行中
- FS クルーズまたはスキャニングクルーズでの走行中、最適ギヤ段が選択されているとき
- 惰行走行中

エコツリー★

■エコツリー

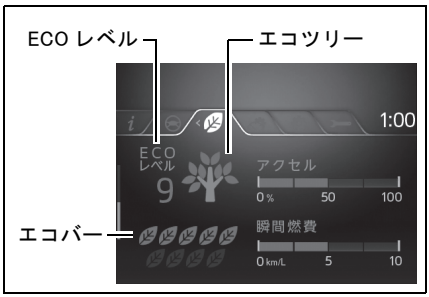
エコ運転レベル（アクセルペダルの踏み方、ギヤの操作方法、長時間のアイドリングなど）を判定、エコ運転を行っている時間を計測しエコバーおよびエコツリー（ECO レベル）によって運転者のエコ運転情報をマルチインフォメーションに表示することで、運転者にエコ運転の意識を促す装置です。

- エコ運転をするごとにエコバーが 1 つ増え、エコバーが 9 個になると、ECO レベルが 1 つ上がり、同時にエコツリーの葉が 1 枚増えます。また、燃費に悪い運転（アクセルペダルの踏みすぎ、高いエンジン回転数での走行、長時間のアイドリングなど）を行うことにより、エコバーやエコツリーの葉（ECO レベル）も減ります。
- エコツリーは、ECO レベル数を葉に置き換えて表示します。
- スターターキーを「LOCK」の位置にしても、エコバーやエコツリー（ECO レベル）などは次の運転に引き継がれます。

アドバイス

できるだけタコメーター（エンジン回転計）の緑色ゾーン内で走行することで、エコ運転につながり、バーやエコツリー（ECO レベル）を増やすことができます。

● マルチインフォメーション



- エコツリー
  ECO レベル数を葉に置き換えて表示します。
- ECO レベル
  0 ～ 10 レベルの 10 段階で表示します。
- エコバー
  バーが全て溜まるとエコレベルが 1 段階上がります。

＊ ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押すことにより、エコバー、エコツリー（ECO レベル）をリセットすることができます。

マルチインフォメーションシステム

＊ 車両の状態や情報を表示させることができます。
また、表示させる内容を切り替えたり、設定を運転者の任意で変更することができます。

＊ 設定をしなくても車両の運行に問題はありません。

■画面の構成

この装置はメーターのマルチインフォメーションに次の内容を表示します。



● タブ、時計表示

タブおよび時計を表示します。

● メイン表示

車両情報、安全運転支援、エコ運転支援、 メーター各種設定、車両システム各種設定およびメンテナンスメニューなどを表示します。

● シフト、インジケーター表示

トランスミッションギヤ位置およびエコラン表示などを表示します。また、マニュアルトランスミッション装着車の場合時計が表示されます。各システム作動時などにインジケータランプを表示します。

● ゲージ、ウォーニング表示

水温計、尿素水計および燃料計を表示します。また警告発生時にはウォーニングランプを表示します。

● オド、アワーメーター、インジケーター表示

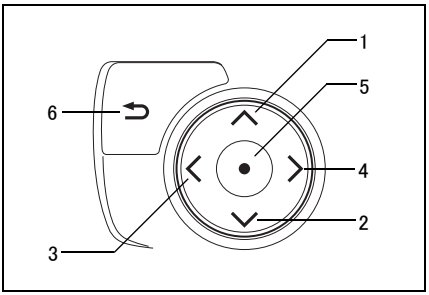
オドメーター、アワーメーターを表示します。また、各種システム作動時などではインジケーターランプを表示します。

■通常表示

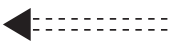
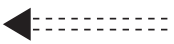
スターターキーを「ON」の位置にすると前回表示画面が車両情報、安全運転支援情報、またはエコ運転支援情報を表示していた場合は、前回表示内容が表示されます。
メータ各種設定、または車両システム各種設定を表示していた場合は、エコ運転支援情報を表示、メンテナンスメニューを表示していた場合は車両情報が表示されます。

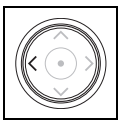
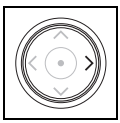
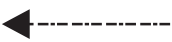
■ステアリングスイッチ

スイッチを操作することで表示の切り替えや機能の選択などができます。



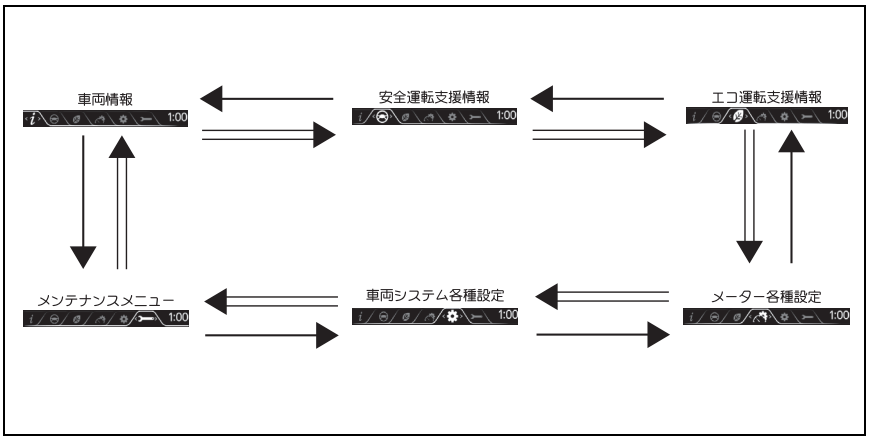
1. 上へ移動
2. 下へ移動
3. 左へ移動
4. 右へ移動
5. 決定
6. 戻る

スイッチ	操作	作動
	押す	上移動
		
	1 秒以上 押す	上連続移動
		
	押す	下移動
		
	1 秒以上 押す	下連続移動
		

スイッチ	操作	作動
	押す	左移動
	1 秒以上 押す	左連続移動
	押す	右移動
	1 秒以上 押す	右連続移動
	押す	決定
	1 秒以上 押す	リセット
	押す	戻る
その他の条件		
		

■マルチインフォメーション表示画面切り替えイメージ

● タブの切り替え



● 車両情報

DPR すす堆積量、電圧計、油温計★（消防車）、トリップメーターおよび運行時間積算計を表示します。

● 安全運転支援情報

車線逸脱警報装置の車線認識状態、FS クルーズ、スキャニングクルーズの作動状態、および FS スピードリミッター使用時の設定車速を表示します。またクルーズ連動補助ブレーキ、リミッター連動補助ブレーキの作動車速設定ができます。

● エコ運転支援情報

アクセル開度、瞬間燃費、平均燃費、エコツリーを表示します。

● メーター各種設定

画面調整、画面位置調整、日時設定、変換率表示およびブザー音視聴ができます。

● 車両システム各種設定

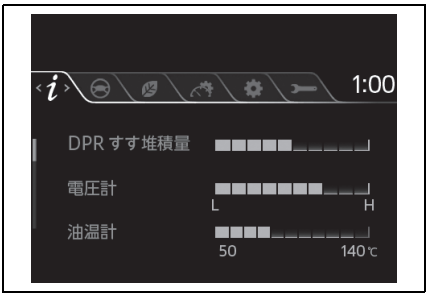
安全運転支援機能、省エネ運転支援機能、その他の機能に分類された車両システムの設定ができます。

● メンテナンスメニュー

システムチェック、現在故障、過去故障および点検整備メモの表示ができます。

■車両情報タブ

▶ DPR すす堆積量、電圧計、油温計



● DPR すす堆積量

・ 現在の DPR クリーナー内のすすの堆積量を表示します。

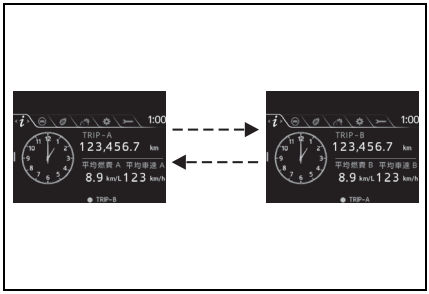
● 電圧計

・ 車両の電源電圧を表示します。

● 油温計★（消防車）

・ エンジンオイルの温度を表示します。

▶ トリップメーター、平均燃費、平均車速



● トリップメーター

・ 区間走行距離を km で表示します。

・ ステアリングスイッチの決定ボタンを押すたびに「トリップメーター A」と「トリップメーター B」が切り替わります。

	最小単位	最大積算盤
トリップメーター A	1 km	999,999 km
トリップメーター B	1 km	999,999 km

・ トリップメーターをゼロに戻すときは、ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押します。

＊ 同時に平均燃費、平均車速もゼロに戻ります。

● 平均燃費

・ 区間平均燃費を km/L で表示します。

・ 平均燃費をゼロに戻すときは、ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押します。

＊ 同時にトリップメーター、平均車速もゼロに戻ります。

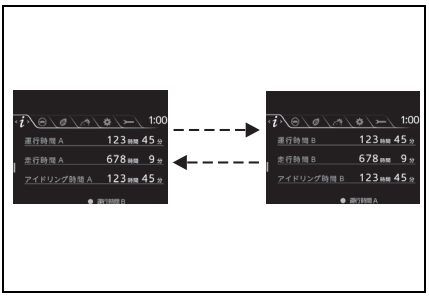
● 平均車速

・ 区間平均車速を km/h で表示します。

・ 区間平均車速をゼロに戻すときは、ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押します。

＊ 同時にトリップメーター、平均燃費もゼロに戻ります。

▶ 運行時間積算計、走行時間、アイドリング時間



● 運行時間積算計

・ エンジン始動からエンジン停止までの時間を表示します。

・ ステアリングスイッチの決定ボタンを押すたびに「運行時間 A」と「運行時間 B」が切り替わります。

・ 運行時間をゼロに戻すときは、ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押します。

＊ 同時に走行時間およびアイドリング時間もゼロに戻ります。

● 走行時間積算計

・ エンジン始動からエンジン停止までの走行時間を表示します。

・ ステアリングスイッチの決定ボタンを押すたびに「走行時間 A」と「走行時間 B」が切り替わります。

・ 走行時間をゼロに戻すときは、ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押します。

＊ 同時に運行時間およびアイドリング時間もゼロに戻ります。

● アイドリング時間積算計

・ エンジン始動からエンジン停止までの停車した時間を表示します。

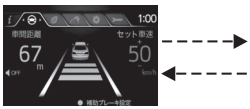
・ ステアリングスイッチの決定ボタンを押すたびに「アイドリング時間 A」と「アイドリング時間 B」が切り替わります。

・ アイドリング時間をゼロに戻すときは、ステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上押します。

＊ 同時に運行時間および走行時間もゼロに戻ります。

■安全運転支援情報タブ

▶ 車線逸脱警報・クルーズ表示



・ 車線逸脱警報の車線認識状態、FS クルーズ、スキャニングクルーズの作動状態を表示します。また FS スピードリミッタ、FS クルーズ使用時はセット車速を表示します。

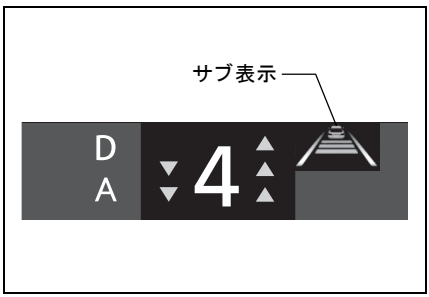
・ 決定ボタンを押すとクルーズ連動補助ブレーキ、リミッター連動補助ブレーキの作動車速の設定画面に切り替わります。
約 5 秒以上操作が行われない場合は自動的にクルーズ画面に表示が戻ります。



・ クルーズ連動補助ブレーキ、リミッター連動補助ブレーキの作動車速の設定はステアリングスイッチの RESUME（リジューム）スイッチおよび SET（セット）スイッチで行い、クルーズ設定車速から +2 km/h 〜 15 km/h の範囲で 1 km/h ごとに設定ができます。

＊ RESUME（リジューム）スイッチを押すと増速、SET（セット）スイッチを押すと減速します。

▶ 安全運転支援情報サブ表示



・ 車線逸脱警報の車線認識状態、FS クルーズ、スキャニングクルーズの作動状態をシフト表示部へ表示します。

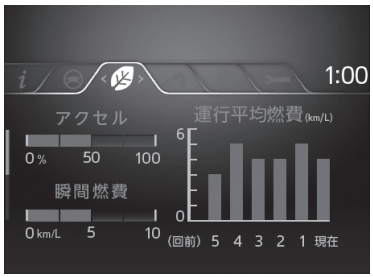
・ マルチインフォメーションが車線逸脱警報・クルーズ表示以外の以下条件時にサブ画面は表示されます。

・ 安全運転支援画面へ一時的に切り替わったとき

・ 安全運転支援系の警告・作動表示等が、マルチインフォメーション画面へ表示されたとき

■エコ運転支援情報タブ

▶ アクセル、瞬間燃費、運行平均燃費



● アクセル

・ 走行中のアクセル開度をグラフで表示します。

＊ %（パーセント）単位

● 瞬間燃費

・ 走行中の瞬間燃料消費量をグラフで表示します。

＊ km/L 単位

● 運行平均燃費

・ エンジン始動からエンジン停止までの区間走行距離での燃費データをグラフで表示します。

＊ km/L 単位

・ 過去 5 回走行までのデータを表示します。

▶ エコツリー、アクセル、瞬間燃費



● エコツリー

・ 運転者のエコ運転情報をバーおよびエコツリーによって表示します。

● アクセル

・ 走行中のアクセル開度をグラフで表示します。

＊ %（パーセント）単位

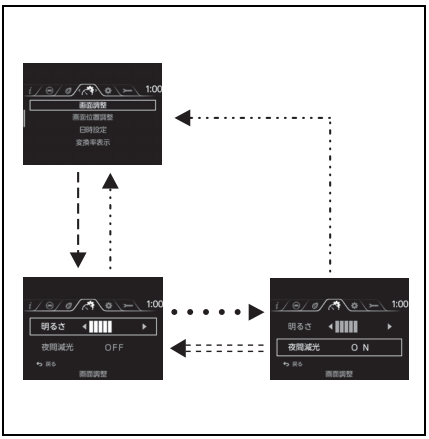
● 瞬間燃費

・ 走行中の瞬間燃料消費量をグラフで表示します。

＊ km/L 単位

■メーター各種設定タブ

▶ 画面調整



● 明るさ



- 画面の明るさを 11 段階に調整することができます。
- ステアリングスイッチの右ボタンを押すと画面が明るくなり、左ボタンを押すと暗くなります。

● 夜間減光



- 「ON」にするとライティングスイッチが「ON」のとき、画面の明るさが暗くなります。
- 「OFF」にするとライティングスイッチを「ON」にしても画面の明るさは暗くなりません。
- ステアリングスイッチの決定ボタンを押すたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。

▶ 画面位置調整

・ 画面位置調整の項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。設定を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。



・ 画面表示の位置を上下に調整することができます。

・ 調整はステアリングスイッチで行い、上ボタンを押すと画面表示が上に移動し、下ボタンを押すと下に移動します。



▶ 日時設定

・ 日時設定の項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。設定を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。



● 標準時計

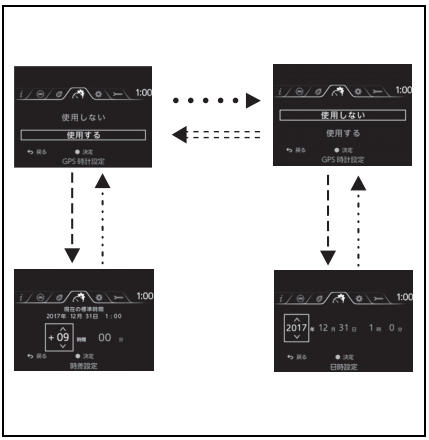


・ メーター各種設定画面から日時設定を選択すると、日時設定画面に切り替わります。

・ ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタン、左ボタン、および右ボタンを操作して表示を任意の日時に合わせたら、決定ボタンを押して設定します。

・ 日時を変更せずにメーター各種設定画面に戻る場合はステアリングスイッチの戻るボタンを押します。

● GPS 時計付き車



・ メーター各種設定画面から日時設定を選択すると、GPS 時計使用選択画面に切り替わります。初期の設定は「使用する」の状態になっています。

・ GPS 時計使用選択画面で「使用する」を選択すると、時差設定画面に切り替わり、現在の標準時間に対しての時差を設定できます。時差は＋ 14 ～－ 12 時間、0, 30, 45 分の範囲で設定ができます。

＊ 時差設定を行うとマルチインフォメーションに表示される日時は、標準時間に対して設定した時差を考慮した日時になります。

・ ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタン、左ボタン、および右ボタンを操作し表示を任意の時差に合わせたら、決定ボタンを押して設定します。

・ 時差設定を行わず、GPS 時計使用選択画面に戻る場合はステアリングスイッチの戻るボタンを押します。

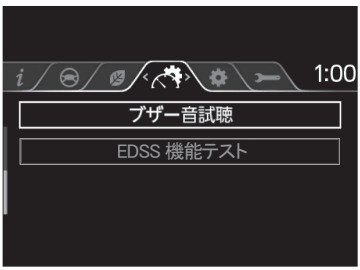
・ GPS 時計使用選択画面で「使用しない」を選択すると、標準時計の日時設定画面に切り替わります。

知識

点検や修理などでバッテリーを外したときには、もう一度時刻合わせをしてください。

▶ ブザー音試聴

・ ブザー音試聴の項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。試聴を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。



・ 警告ブザー音の代表的なものを試聴することができます。

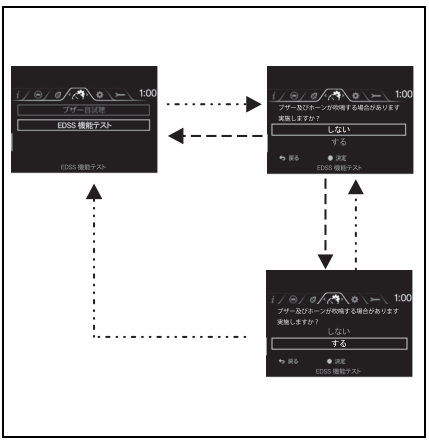
・ ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンを操作して任意の項目に合わせたら、決定ボタンを押して試聴します。



▶ EDSS 機能テスト

・ ドライバー異常時対応システム（EDSS）の作動点検を行うことができます。

・ EDSS 機能テストの項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。



・ マルチインフォメーション上部のタブをメーター各種設定へ切り替え EDSS 機能テストを選択します。

＊ 0 km/h かつパーキング ON の時のみ選択できます。
車速があり、パーキング OFF の時はグレーアウト表示となり選択できません。

・「する」を選択すると EDSS の作動点検を行えます。

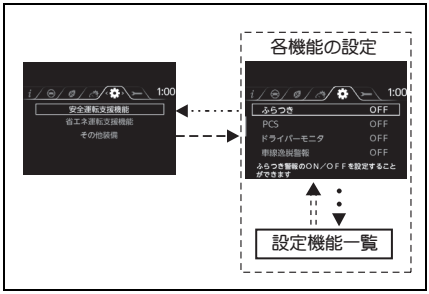
知識

作動点検時は、周辺環境への影響を考慮し、ホーンを 1 回だけ吹鳴します。

＊ 通常走行時にドライバー異常時対応システム（EDSS）が作動したときは、解除操作を行うまでホーンが断続的に吹鳴します。

■車両システム各種設定タブ

▶ 安全運転支援機能の設定



設定機能一覧
PCS
ドライバーモニター
車線逸脱警報
サイトアラウンドモニターシステム
スピードリミッター種類選択
2 モードリミッター車速
ES スタート解除タイミング
標識認識機能
速度超過警報
速度超過警報音
高さ制限警報 *1
高さ制限警報音 *1
標識連動機能
標識連動機能音

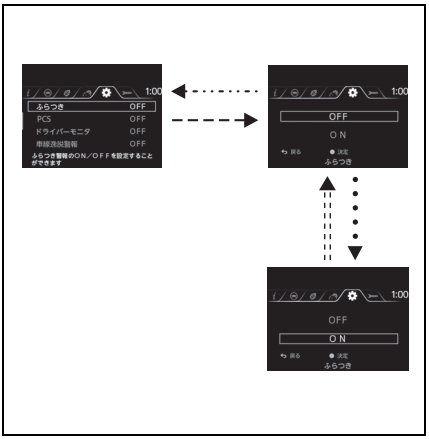
＊ 1　この設定項目は表示のみとなっており、変更・操作はできません。

・ 車両システム各種設定画面の項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。設定を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。

・ 車両システム各種設定画面から安全運転支援機能を選択すると、安全運転支援機能の各機能の設定を行うことができます。

＊ 設定を行うことができる機能は車両によって異なります。

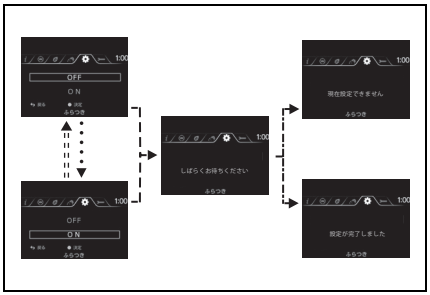
● 設定方法



＊ 例．ふらつき

・ ステアリングスイッチを操作し設定を行いたい機能を選択すると、画面表示が機能の「OFF」、「ON」設定画面に切り替わります。

・ 設定を変更せずに機能選択画面に戻るときは、戻るボタンを押します。

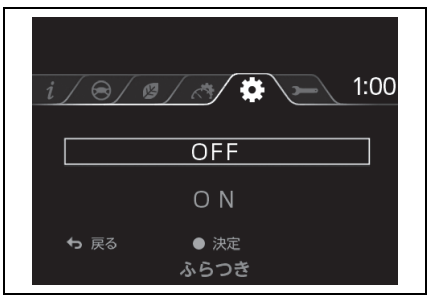


・ ステアリングスイッチを操作し機能の「OFF」、「ON」を選選択し決定ボタンを押すと、画面に「しばらくお待ちください」が表示されます。

・ 設定が完了すると画面に「設定を完了しました」が表示され、設定を行った機能の作動が変更されます。

・ システムの不具合などで設定が完了できなかった場合、画面に「現在設定できません」が表示されます。このとき機能の作動は変更されません。

● ふらつき

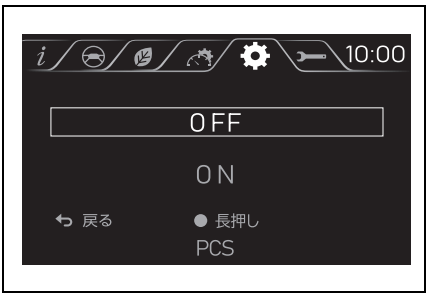


・ ふらつき警報機能の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・ 「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

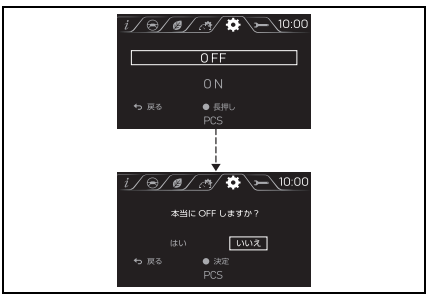
＊「OFF」設定は一時的なものです。スターターキーを「LOCK」位置にした際、ふらつき警報機能は「ON」に復帰します。

● PCS



・ PCS 機能の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

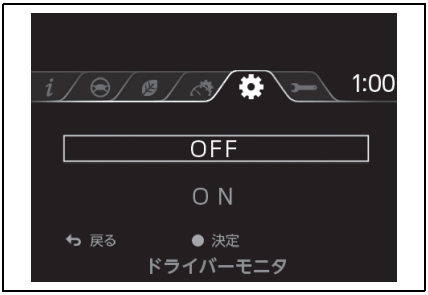


・「OFF」を選択しステアリングスイッチの決定ボタンを長押しすると、画面に再度確認の文字が表示されます。

・「はい」、「いいえ」の選択はステアリングスイッチの左ボタン、右ボタンで行います。

＊ スターターキーを「ON」の位置にして 2 分以上停車していないと操作できません。

● ドライバーモニターⅡ



・ ドライバーモニターⅡ機能の警告ブザー音の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

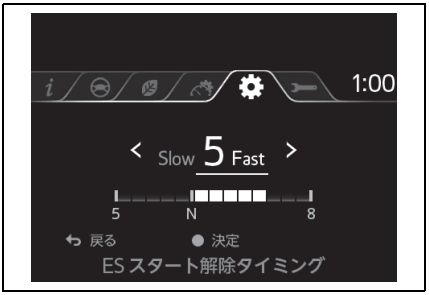
● 車線逸脱警報



・ 車線逸脱警報機能の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

● ES スタート



・ ES スタートの解除タイミングを調整することができます。

＊ 解除タイミングの調整については（→ P.5-100）

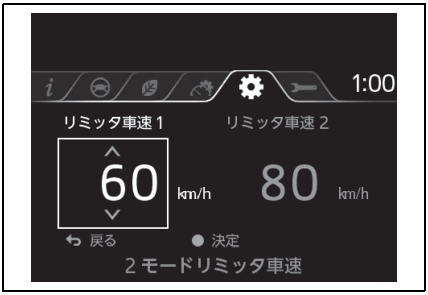
● スピードリミッタ種類選択



・ FS スピードリミッターの動作設定を設定することができます。

＊ FS スピードリミッターの動作設定の変更については（→ P.5-134）

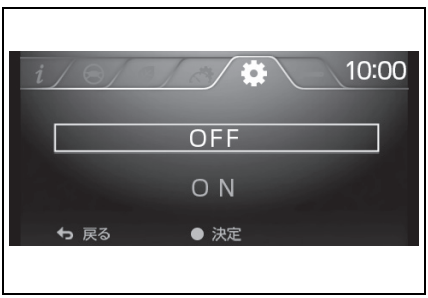
● 2 モードリミッタ車速



・ FS スピードリミッターの動作設定を「2 モード」にすると、あらかじめ 2 パターンのセット車速を設定しておくことができます。

＊ FS スピードリミッターの動作設定の変更については（→ P.5-134）

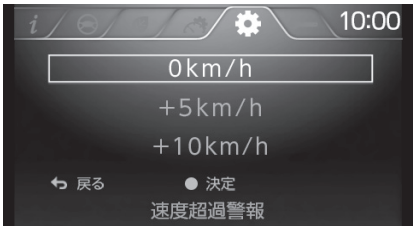
● 標識認識機能・速度超過警報音・標識連動機能・標識連動通知音



・ 標識認識機能、速度超過警報音、標識連動機能、標識連動通知音の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・ 「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

● 速度超過警報



・ 警報が作動する速度を設定することができます。

・ 速度の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

● サイトアラウンドモニターシステム

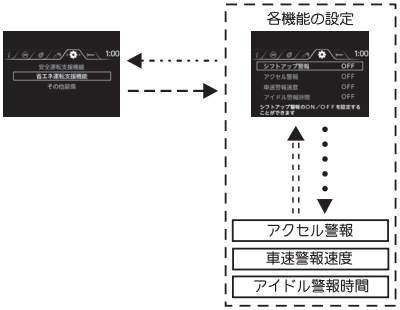


・ サイトアラウンドモニターシステム（左折巻き込み警報を除く）の「OFF」、「ON」を設定することができます。

＊ 左折巻き込み警報を搭載していない車両も同じ画面が表示されます。

＊「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

▶ 省エネ運転支援機能の設定

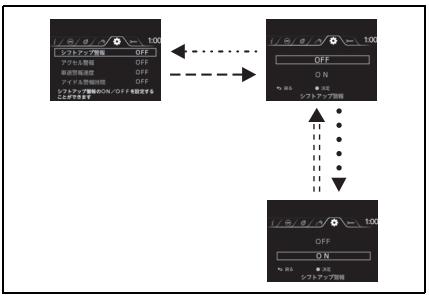


・ 車両システム各種設定画面の項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。設定を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。

・ 車両システム各種設定画面から省エネ運転支援機能を選択すると、省エネ運転支援機能の各機能の設定を行うことができます。

＊ 設定を行うことができる機能は車両によって異なります。

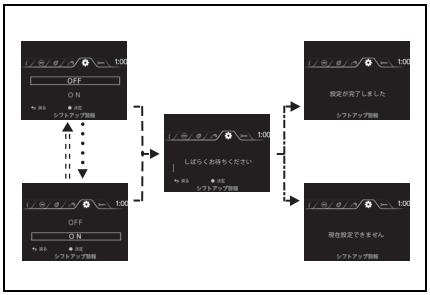
● 設定方法



＊ 例．シフトアップ警報

・ ステアリングスイッチを操作し設定を行いたい機能を選択すると、画面表示が機能の設定画面に切り替わります。

・ 設定を変更せずに機能選択画面に戻るときは、戻るボタンを押します。

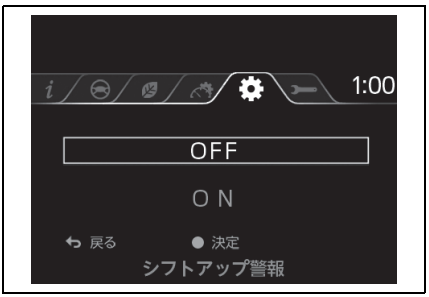


・ ステアリングスイッチを操作し機能の変更内容を選択し決定ボタンを押すと、画面に「しばらくお待ちください」が表示されます。

・ 設定が完了すると画面に「設定を完了しました」が表示され、設定を行った機能の作動が変更されます。

・ システムの不具合などで設定が完了できなかった場合、画面に「現在設定できません」が表示されます。このとき機能の作動は変更されません。

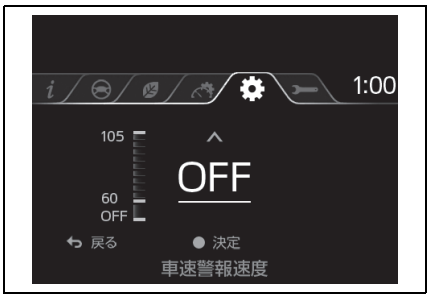
● シフトアップ警報



・ シフトアップ警報機能の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・ 「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

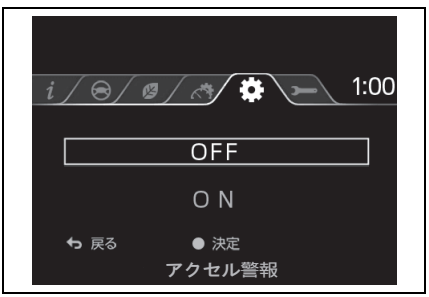
● 車速警報速度



・ 車速警報機能の作動する速度を設定することができます。

・ ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで速度を選択し、決定ボタンを押すと設定されます。

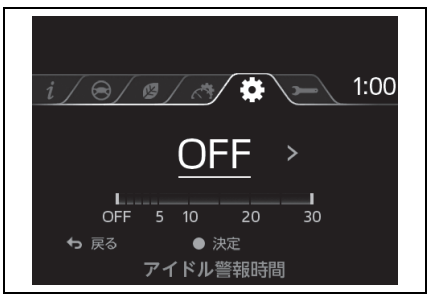
● アクセル警報



・ アクセル警報機能の「OFF」、「ON」を設定することができます。

・ 「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

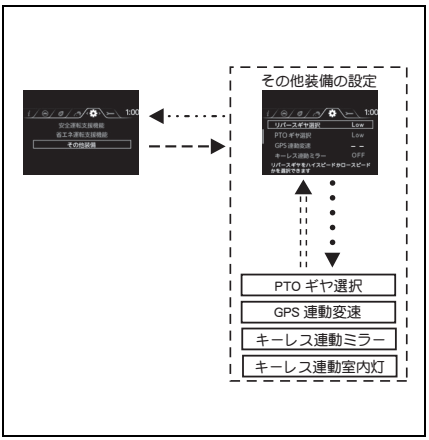
● アイドル警報時間



・ アイドル警報機能の作動する時間を設定することができます。

・ ステアリングスイッチの左ボタン、右ボタンで警報時間を選択し、決定ボタンを押すと設定されます。

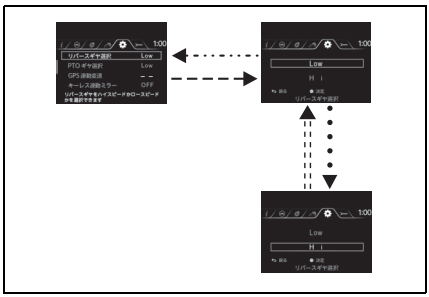
▶ その他装備の設定



- 車両システム各種設定画面の項目は走行中はグレーアウト表示となり選択できません。設定を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。
- 車両システム各種設定画面からその他装備を選択すると、安全運転支援機能および省エネ運転支援機能以外の装備の設定を行うことができます。

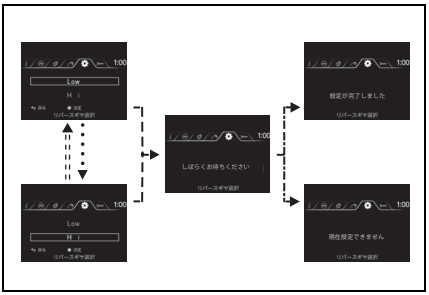
＊ 設定を行うことができる機能は車両によって異なります。

● 設定方法



＊ 例．リバースギヤ選択

- ステアリングスイッチを操作し設定を行いたい装備を選択すると、画面表示が装備の設定画面に切り替わります。
- 設定を変更せずに装備選択画面に戻るときは、戻るボタンを押します。



- ステアリングスイッチを操作し装備の変更内容を選択し決定ボタンを押すと、画面に「しばらくお待ちください」が表示されます。
- 設定が完了すると画面に「設定を完了しました」が表示され、設定を行った装備の作動が変更されます。
- システムの不具合などで設定が完了できなかった場合、画面に「現在設定できません」が表示されます。このとき装備の作動は変更されません。

● キーレス連動ミラー



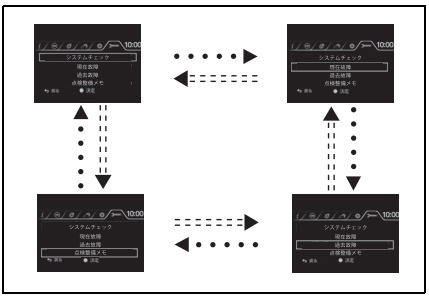
- キーレスエントリーによるドアの施錠、解錠ボタンの長押し操作に連動したミラーの格納、展開およびリモコンキーの操作によるミラーの格納、展開機能の「OFF」、「ON」、「格納時のみ ON」を設定することができます。
- 「OFF」、「ON」および「格納時のみ ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

● キーレス連動室内灯



- キーレスエントリーによるドアの施錠、解錠に連動した LED 室内灯の点灯の「OFF」、「ON」を設定することができます。
- 「OFF」、「ON」の選択はステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンで行います。

■ メンテナンスメニュータブ



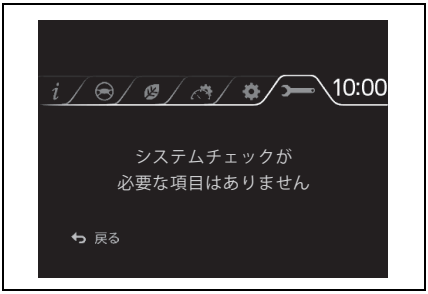
・ メンテナンスメニューには「システムチェック」、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」のメニューがあります。

・ 走行中は「システムチェック」のみ表示され、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウト表示になり選択できません。

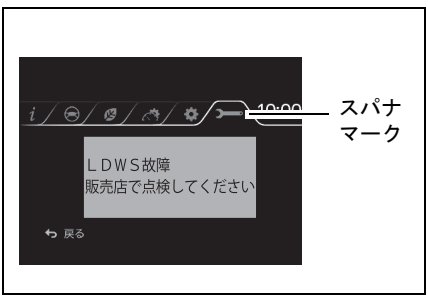
・ 「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目を表示、操作を行うときは必ず車両を安全な場所に停車して行ってください。

● システムチェック

[走行中]



・ 現在発生中のウォーニング表示やお知らせが存在しない場合、メンテナンスメニューを選択すると、画面に「システムチェックが必要な項目はありません」が表示されます。

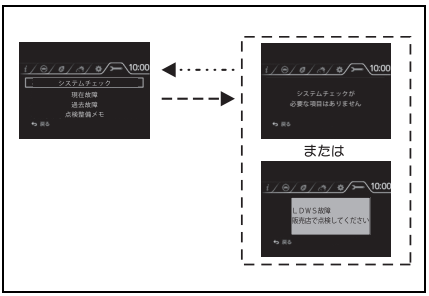


・ 現在発生中のウォーニング表示やお知らせが存在する場合、タブ部のスパナマークが橙色に点灯し、メンテナンスメニューを選択すると、画面にメッセージが表示されます。

・ ウォーニング表示やお知らせが複数発生しているとき、ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンを操作すると表示が切り替わります。

＊ 走行中は「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウトになり選択できず、常時「システムチェック」表示となります。

［停車中］



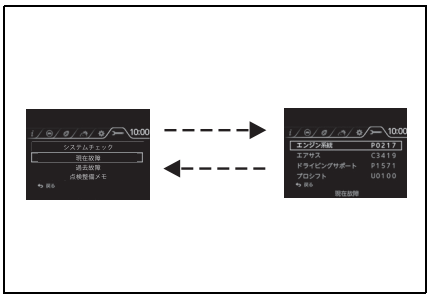
・ 車両停車中、メンテナンスメニューを選択すると「システムチェック」、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目が表示されます。

・ ステアリングスイッチを操作して「システムチェック」を選択すると、現在発生中のウォーニング表示やお知らせが存在しない場合、画面に「システムチェックが必要な項目はありません」が表示されます。現在発生中のウォーニング表示やお知らせが存在する場合、タブ部のスパナマークが橙色に点灯し、画面にメッセージが表示されます。

・ ウォーニング表示やお知らせが複数発生しているとき、ステアリングスイッチの上ボタン、下ボタンを操作すると表示が切り替わります。

＊ 走行中は「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウト表示になり選択できません。

● 現在故障



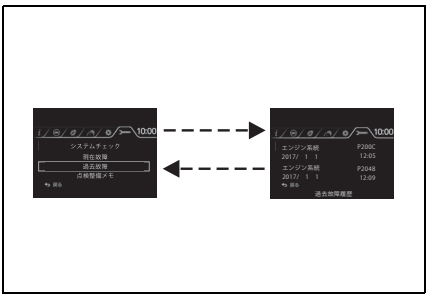
・ 車両停車中、メンテナンスメニューを選択すると「システムチェック」、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目が表示されます。

・ ステアリングスイッチを操作して「現在故障」を選択すると、現在発生中の故障の装置名とダイアグノーシスコードが表示されます。

＊ 走行中は「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウト表示になり選択できません。

＊ 詳しくは、最寄りの日野販売会社の整備工場へご相談ください。

● 過去故障

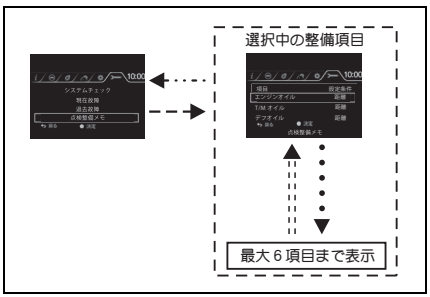


- 車両停車中、メンテナンスメニューを選択すると「システムチェック」、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目が表示されます。
- ステアリングスイッチを操作して「過去故障」を選択すると、過去に発生した故障で点検・整備などにより解消された故障の装置名、ダイアグノーシスコードおよび発生日時が最大 10 件まで表示されます。
- 10 件を超えた場合、発生日時の古いものから順に上書きされます。

＊ 走行中は「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウト表示になり選択できません。

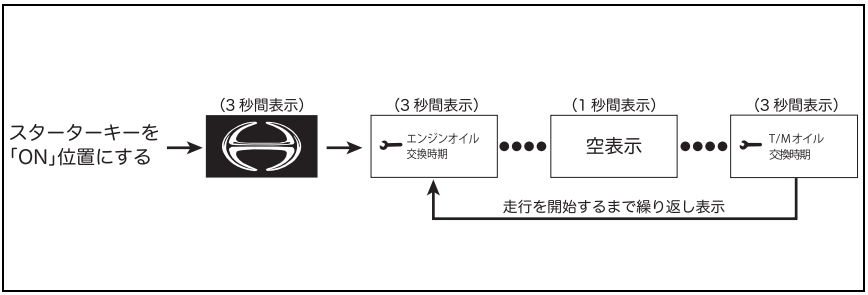
● 点検整備メモ

「メンテナンスメニュー」から「点検整備メモ」を選択し、表示させたい項目を選ぶことで、整備項目ごとに任意に設定された距離または期間が来ると点検・整備を促す表示を行うことができます。



- 車両停車中、メンテナンスメニューを選択すると「システムチェック」、「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目が表示されます。
- ステアリングスイッチを操作して「点検整備メモ」を選択すると、現在選択されている整備項目および設定条件が表示されます。
- 整備項目の選択は、登録されている 15 種類の整備項目と任意に使用できるユーザー設定項目の全 16 項目から、表示させたい項目を最大 6 項目選ぶことができます。初期設定として 5 項目が設定された状態になっています。

＊ 走行中は「現在故障」、「過去故障」および「点検整備メモ」の項目はグレーアウト表示になり選択できません。



距離 / 期間	設定可能範囲
距離	1,000 ～ 999,000 km
期間	1 ～ 99ヵ月

整備項目一覧		
No.	表示項目	内容
1	エンジンオイル 交換時期	エンジンオイル交換時期
2	T/Mオイル 交換時期	T/M オイル交換時期
3	デフオイル 交換時期	デフオイル交換時期
4	冷却水 交換時期	冷却水交換時期
5	燃料フィルタ 交換時期	燃料フィルタ交換時期
6	ベルト 点検時期	ベルト点検時期

整備項目一覧		
No.	表示項目	内容
7	DPR 洗浄時期	DPR 洗浄時期
8	ターボ 点検時期	ターボチャージャー点検時期
9	オルタネータ オーバーホール	オルタネータオーバーホール時期
10	ラジエータ 点検時期	ラジエーター点検時期
11	バッテリー 点検時期	バッテリー点検時期
12	エアドライヤ乾燥剤 交換時期	エアドライヤ乾燥剤交換時期
13	エアサスベローズ 交換時期	エアサスベローズ交換時期
14	タイヤ ローテーション	タイヤローテーション時期
15	車検満了時期	車検満了時期

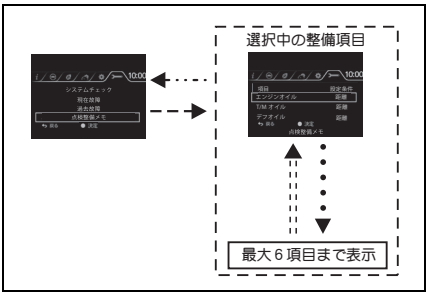
整備項目一覧		
No.	表示項目	内容
16	ユーザー設定 点検時期	ユーザー設定

デフォルト設定			
No.	表示項目	設定条件	設定値
1	エンジンオイル	距離	25,000 km
2	T/M オイル	距離	60,000 km
3	デフオイル	距離	60,000 km
4	冷却水	距離	600,000 km
5	燃料フィルタ	距離	60,000 km

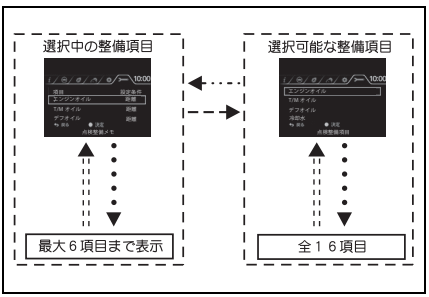
＊ 使用する油脂銘柄などに合わせて、設定値の変更をすることを推奨します。

〔点検整備メモの設定方法〕

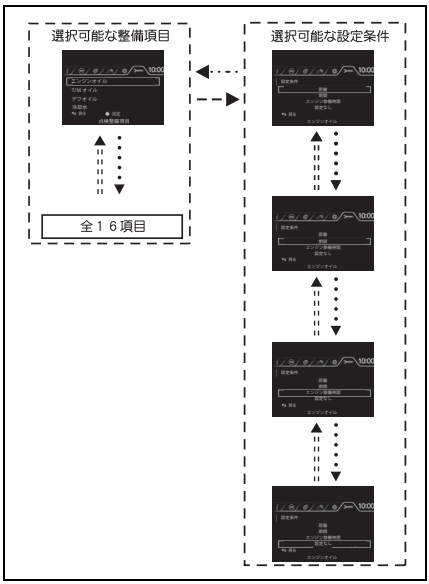
1. メンテナンスメニューから「点検整備メモ」を選択し、現在選択中の整備項目を表示します。



2. 現在選択中の整備項目から変更を行う項目を選び、ステアリングスイッチの決定ボタンを押すと選択が可能な整備項目が表示されます。



3. 選択可能な整備項目から設定したい項目を選択しステアリングスイッチの決定ボタンを押すと、選択可能な設定条件が表示されます。

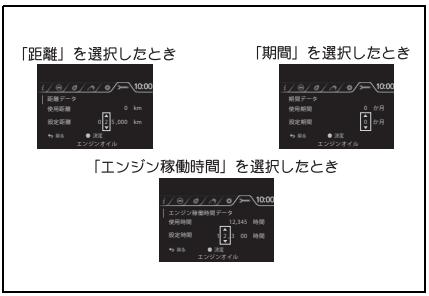


＊「エンジン稼働時間」が設定条件に表示されるのは、整備項目「エンジンオイル」を選択したときのみです。

＊「車検満了日」の項目を選択したときは下記の画面が表示され、設定したい日時にセットするか「設定なし」を選択し、ステアリングスイッチの決定ボタンを押すと、点検整備メモの設定が完了します。



4. 選択可能な設定条件を選択します。「距離」、「期間」または「エンジン稼働時間」を選択すると、選択した設定条件の内容の設定画面に切り替わります。また、「設定なし」を選択すると現在選択中の整備項目に整備項目は残りますが、「距離」、「期間」または「エンジン稼働時間」の積算が止まります。



＊ 各項目の「距離」、「期間」または「エンジン稼働時間」を表示中にステアリングスイッチの決定ボタンを 1 秒以上長押しすると、使用期間の積算をリセットできます。

＊「エンジン稼働時間」が設定条件に表示されるのは、整備項目「エンジンオイル」を選択したときのみです。

5. 選択した設定条件の内容の設定を行い、ステアリングスイッチの決定ボタンを押すと、点検整備メモの設定が完了し現在選択中の整備項目の表示画面に戻ります。

・ 設定した整備勧告時期、距離に到達すると、スターターキーを「ON」位置にしたとき、マークを 3 秒間表示した後、整備勧告表示を 3 秒間ずつ、繰り返し表示します。（走行を開始（車両が 20 km/h を上回る速度で走行）するまで表示）

知識

整備勧告の表示タイミングは、距離表示の場合は設定距離より 1,000 km 前、時期表示の場合は設定時期よりも 1ヵ月前、エンジン稼働時間表示の場合は設定稼働時間より 100 時間前から表示します。

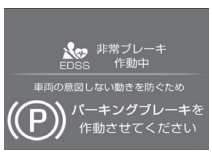
■警告・作動表示

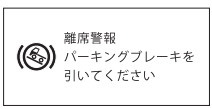
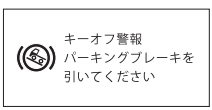
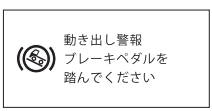
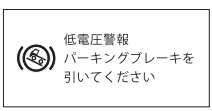
・ 各部に異常が起こると、それを知らせるウォーニングランプとして、また装置の作動を知らせるインジケーターランプとして通常表示より優先して表示します。

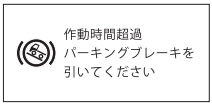
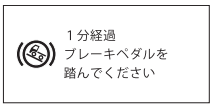
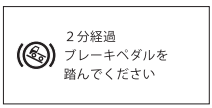
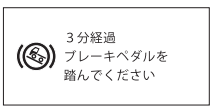
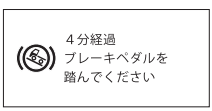
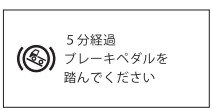
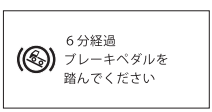
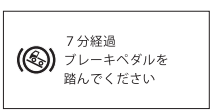
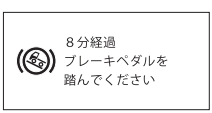
知識

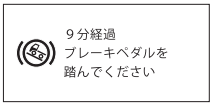
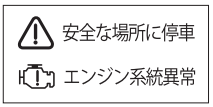
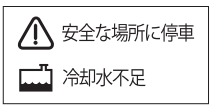
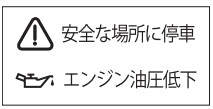
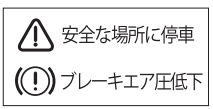
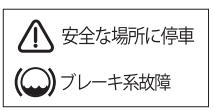
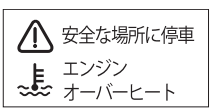
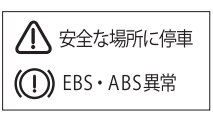
警告中にステアリングスイッチの決定ボタンを１秒以上押すと、一時的に表示を消すことができます。

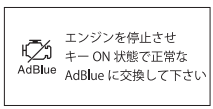
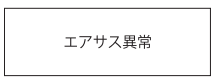
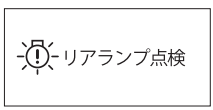
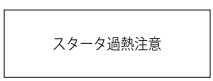
▶ 警告表示

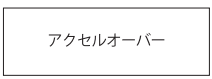
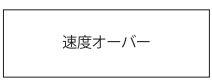
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
 	ブレーキ（PCS 作動）★	赤	白	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動しているとき（→ P.5-174）
	非常ブレーキ作動★	赤	白	ドライバー異常時対応システム（EDSS）が非常ブレーキを作動している（→ P.5-205）
	非常ブレーキ作動後★	赤	白	ドライバー異常時対応システム（EDSS）が非常ブレーキを作動させ、車両を停止した（→ P.5-205）
	非常ブレーキ解除アナウンス★	黒	白	スターターキーを「ON」位置にしたときにインフォメーションとして表示（→ P.5-205）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
アイドルストップ **動き出し警報**	自動停止時動き出し警報★	赤	白	アイドルストップシステムのエンジン自動停止時に車両が動き出したときに表示
アイドルストップ **離席警報**	自動停止時離席警報★	赤	白	アイドルストップシステムのエンジン自動停止時に運転席ドアを開けたときに表示
アイドルストップ **エンジン始動注意**	自動停止時始動注意★	橙	黒	アイドルストップシステムのエンジン自動停止時中に表示
	車線注意★	赤	白	車線逸脱警報装置が作動したときに表示。また、逸脱した方向の車線表示が橙色に変化し、警報ブザーが吹鳴（右方向に逸脱したときは、右側車線表示が橙色に変化し、右側スピーカーから警報ブザーが吹鳴）（→ P.5-166）
	離席警報★	赤	白	ES スタート作動中にドアを開けたとき（→ P.5-94）
	キーオフ警報★	赤	白	ES スタート作動中にスターターキーを「ACC」や「LOCK」にしたとき（→ P.5-94）
	動き出し警報★	赤	白	坂道などで ES スタート作動中に車両が動き出したとき（→ P.5-94）
	低電圧警報★	赤	白	ES スタート作動中に電源電圧が低下したとき（→ P.5-94）

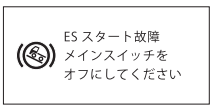
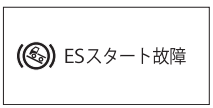
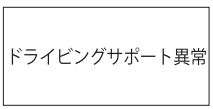
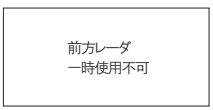
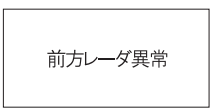
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	作動時間超過★	赤	白	ES スタートの作動開始から 10 分以上が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 1 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 1 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 2 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 2 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 3 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 3 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 4 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 4 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 5 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 5 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 6 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 6 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 7 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 7 分が経過したとき（→ P.5-94）
	作動時間 8 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 8 分が経過したとき（→ P.5-94）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	作動時間 9 分経過★	橙	黒	ES スタートの作動開始から 9 分が経過したとき（→ P.5-94）
	エンジン系統異常（重度）	赤	白	エンジン制御システムに故障発生、走行できない重大故障（→ P.6-96）
	冷却水不足	赤	白	冷却水の不足（→ P.6-79）
	エンジン油圧低下	赤	白	エンジンの油圧が異常に低下したときに表示（→ P.6-80）
	ブレーキエア圧低下	赤	白	エアタンク内のエア圧が 540 kPa {5.5 kgf/cm^2} 以下になると表示（→ P.6-81）
	ブレーキ系故障	赤	白	ブレーキ系統に故障が発生したとき（→ P.6-82）
	エンジン オーバーヒート	赤	白	エンジンのオーバーヒート時（→ P.6-78）
	ABS 異常	橙	黒	・ ABS の異常時 ・ VSC の異常時 （→ P.6-86）
	EBS・ABS 異常（重度）	赤	白	EBS の異常時（→ P.6-87）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	EBS・ABS 異常（軽度）	橙	黒	・ EBS の異常時 ・ ABS の異常時 ・ VSC の異常時 （→ P.6-87）
	AdBlue® 異常 交換して下さい	橙	黒	AdBlue®（尿素水）品質の異常を検出したときに表示（→ P.6-100）
	エンジン停止させ キー ON 状態で正常な AdBlue® に交換して下さい	橙	黒	AdBlue®（尿素水）品質の異常を検出したときに表示（→ P.6-100）
	過電圧	橙	黒	過電圧（→ P.6-8）
	低電圧	橙	黒	電圧低下（→ P.6-8）
	エアサス異常★	橙	黒	エアサスペンション★の異常時（→ P.5-254）
	リアランプ点検	橙	黒	ストップランプの異常時（→ P.6-85）
	DPR 系統点検	橙	黒	排出ガス浄化装置の異常時（→ P.5-80、P.6-97）
	スタータ過熱注意	橙	黒	スターターの過熱時（→ P.6-93）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	予熱装置異常★	橙	黒	プレヒート（始動補助装置）★の異常時（→ P.5-7、6-93）
	エンジンオイルフィルタ交換	橙	黒	エンジンオイルフィルターが目詰まりしたときに表示（→ P.6-81）
	DPR 手動再生 必要です	橙	黒	排出ガス浄化装置の手動による再生が必要なとき 【音声】 「安全な所に停車し、DPR スイッチを押してください。」 （→ P.5-80）
	燃料残量少	橙	黒	燃料残量が少なくなると表示（→ P.6-91）
	AdBlue® 残量少 補給して下さい	橙	黒	AdBlue®（尿素水）残量が少なくなると表示（→ P.6-98）
	AdBlue® 残量少	橙	黒	AdBlue®（尿素水）残量が少なくなると表示（→ P.6-98）
	アクセルオーバー	黒	白	My ドライブマスターがラフなアクセルワークを検知したとき表示（→ P.6-24）
	速度オーバー	黒	白	My ドライブマスターに設定された速度を超えたとき表示（→ P.6-24）

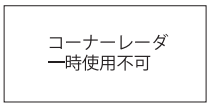
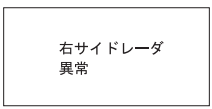
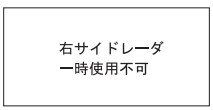
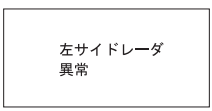
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
長時間アイドルオーバー	長時間アイドルオーバー	黒	白	My ドライブマスターに設定されたアイドリング時間を超えたときに表示（→ P.6-24）
シフトアップ	シフトアップ	黒	白	My ドライブマスターがエンジン回転数を検知して、シフトアップを促します（→ P.6-24）
 エンジン系統異常	エンジン系統異常	橙	黒	エンジン制御システムの異常時（→ P.6-96、6-103）
 ターボ系異常	ターボ系異常	橙	黒	ターボ系統の異常時
 尿素SCR システム異常	尿素 SCR システム異常	橙	黒	尿素 SCR システムの異常時（→ P.6-103）
車両制御ECU異常	車両制御 ECU 異常	橙	黒	車両制御 ECU の異常時
CGW_ECU異常	CGW-ECU 異常	橙	黒	・ CGW-ECU の異常時 ・ 通信モジュールの異常時（GPS 異常を除く）
ふらつき注意	ふらつき警報★	赤	白	車両のふらつきを検知したとき（→ P.5-170）
前方カメラシステム異常 販売店で点検して下さい	前方カメラシステム異常★	橙	黒	システムの故障を検出したとき（→ P.5-148、5-166、5-174、5-196）

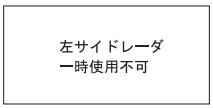
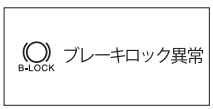
表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	トランスミッション油温上昇	橙	黒	トランスミッション★オイルの油温が高くなったとき（→ P.5-19）
	ES スタート異常★	橙	黒	ES スタートシステムの異常時（→ P.5-94）
	ES スタート異常★	橙	黒	ES スタートシステムの異常時（→ P.5-94）
	ドライビングサポート異常★	橙	黒	・ ドライビングサポート関連装置★の異常時 ・ ドライビングサポート関連装置★との通信途絶時
	前方レーダ一時使用不可★	橙	黒	・ 前方レーダーセンサーまたは前方レーダーセンサーカバーが汚れているとき★ ・ 前方レーダーセンサーまたは前方レーダーセンサーカバーに割れやひび、ガタツキがあるとき★ ・ 前方レーダーセンサー周辺の温度が異常に高くなっているとき★ ・ 前方レーダーセンサーの電圧が異常のとき★ ・ 前方レーダーセンサーが未調整のとき★ （→ P.5-148、5-174）
	前方レーダ異常★	橙	黒	前方レーダーセンサーに故障等の異常が発生しているとき★（→ P.5-174）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
前方カメラシステム利用不可 フロントガラス汚れを 取って下さい	前方カメラシステム 利用不可★	橙	黒	・ 画像センサー★またはセンサー前部のガラスが汚れているとき ・ 画像センサー★前部のガラスに割れやひび、ガタツキがあるとき （→ P.5-166、5-174）
前方カメラシステム 一時使用不可 少々お待ち下さい	前方カメラシステム 一時使用不可★	橙	黒	・ 画像センサー★周辺の温度が異常に高くなっているとき ・ 画像センサー★前方が遮蔽されているとき ・ 画像センサー★の電圧が異常のとき （→ P.5-166、5-174）
ブレーキ摩耗	ブレーキ摩耗	橙	黒	ブレーキライニングまたはパッド★が使用限度に近づくと表示（→ P.6-84）
ブレーキスイッチ 異常	ブレーキスイッチ異常	橙	黒	ブレーキスイッチの異常
エンジン系統 表示停止	エンジン系統表示停止	橙	黒	エンジン制御システムとメーター間の通信途絶時
ABS 表示停止	ABS 表示停止	橙	黒	ABS ECU とメーター間の通信途絶時（→ P.6-87）
EBS・ABS 表示停止	EBS・ABS 表示停止	橙	黒	EBS ECU とメーター間の通信途絶時（→ P.6-90）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
ESスタート表示停止	ES スタート表示停止★	橙	黒	ES スタートとメーター間の通信途絶時
エアサス 表示停止	エアサス表示停止★	橙	黒	キャブ統合 ECU とメーター間の通信途絶時（→ P.5-254）
運行後 エンジン点検	運行後エンジン点検	橙	黒	エンジン制御システムに軽度の異常発生
エンジンオーバーラン 運行後エンジン点検	エンジンオーバーラン	橙	黒	エンジンがオーバーランしたとき
アイドルストップ システム点検	アイドルストップシステム点検★	橙	黒	アイドルストップシステムに軽度の異常発生
燃料フィルタ 水抜き	燃料フィルター水抜き	橙	黒	燃料フィルターに一定以上の水がたまったときに表示（→ P.6-84）
チェックA/T	A/T 異常★	橙	黒	オートマチックトランスミッションの故障時（→ P.5-19）
A/T油温上昇	A/T 油温上昇★	橙	黒	オートマチックトランスミッションの油温が規定以上（約 121 ℃）に上昇したとき（→ P.5-19）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
駐車時は Nレンジにして下さい	駐車時は N レンジにしてください	黒	白	セレクトレバーが N 位置以外で運転席ドアを開けたときに表示 ＊ P レンジレスの AT 車両のみ （→ P.5-19）
集中力低下	集中力低下★	赤	白	顔が横を向いている、または眼を閉じているときに表示（→ P.5-171）
ドライバーモニタ異常	ドライバーモニタ異常★	橙	黒	ドライバーモニターカメラの異常時（→ P.5-171）
ドライバーモニタ ー時使用不可	ドライバーモニタ ー時使用不可★	橙	黒	一定時間、運転者の顔を検知できないとき（→ P.5-171）
AHB はハイビーム点灯が必要です	AHB ヘッドランプ操作補助★	黒	白	オートハイビームスイッチを押したが、ハイビーム点灯操作がされていないとき（→ P.5-66）
ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください	AHB システム異常★	橙	黒	AHB システム異常時
	ライトセンサ系異常	橙	黒	ライトセンサー系の異常時（→ P.6-85）
コーナーレーダ異常	コーナーレーダ異常★	橙	黒	・ コーナーレーダーセンサーに異常があるとき ・ DSS ECU とコーナーレーダーセンサー間の通信途絶時 （→ P.5-216）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	コーナーレーダ一時使用不可★	橙	黒	・ コーナーレーダーセンサーまたはセンサーカバーに汚れがあるとき ・ コーナーレーダーセンサーまたはセンサーカバーに割れやひびがあるとき ・ コーナーレーダーセンサーの電圧が異常なとき （→ P.5-216）
	右サイドレーダ異常★	橙	黒	右サイドレーダーセンサーに異常があるとき （→ P.5-216）
	右サイドレーダ一時使用不可★	橙	黒	・ 右サイドレーダーセンサーまたはセンサーカバーに汚れがあるとき ・ 右サイドレーダーセンサーの周辺に金属物など電波を反射しやすい障害物があるとき ・ 右サイドレーダーセンサーまたはセンサーカバーに割れやひびがあるとき ・ 右サイドレーダーセンサーの電圧が異常なとき （→ P.5-216）
	左サイドレーダ異常★	橙	黒	左サイドレーダーセンサーに異常があるとき （→ P.5-216）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
	左サイドレーダー時使用不可★	橙	黒	・ 左サイドレーダーセンサーまたはセンサーカバーに汚れがあるとき ・ 左サイドレーダーセンサーの周辺に金属物など電波を反射しやすい障害物があるとき ・ 左サイドレーダーセンサーまたはセンサーカバーに割れやひびがあるとき ・ 左サイドレーダーセンサーの電圧が異常なとき （→ P.5-216）
	キャブ統合 ECU 異常	橙	黒	・ キャブ統合 ECU の異常時 ・ CAN 通信途絶時
	ブレーキロック異常★	橙	黒	ブレーキロックの異常時

▶ 作動表示

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
VSC作動	VSC 作動	橙	黒	VSC の作動時（→ P.5-119）
DPR再生中	DPR 再生中	橙	黒	排出ガス浄化装置が燃焼（再生）処理中（→ P.5-80）
ASR作動	ASR 作動	橙	黒	ASR の作動時（→ P.5-117）
作業灯点灯	作業灯点灯	橙	黒	作業灯点灯スイッチの「ON」時
PTO作動	PTO 作動★	橙	黒	PTO ★の作動時（→ P.5-105、5-109）
PTOプリセット	PTO プリセット★	橙	黒	PTO ★の準備時
デフロック作動	センターデフロック作動〔FX・GX 車〕	橙	黒	センターデフロックの作動時〔FX・GX 車〕（→ P.5-88）
(P) B-LOCK ブレーキロック準備	ブレーキロック準備★	黒	白	ブレーキロック★の準備時（→ P.5-114）
B-LOCK ブレーキロック作動	ブレーキロック作動★	黒	白	ブレーキロック★の作動時（→ P.5-114）

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
予熱中	予熱中★	橙	黒	プレヒート（始動補助装置）★の作動中（→ P.6-93）
顔認識OK	顔認識 OK	黒	白	ドライバーモニターカメラによる運転者の顔の認識が完了したとき（→ P.5-171）
発進アイドルアップ解除	発進アイドルアップ解除	橙	黒	発進アイドルアップキャンセルスイッチが「OFF」状態のとき（→ P.5-93）
アクセルとブレーキが両方踏まれています	ブレーキ優先制御	橙	黒	アクセルとブレーキが両方踏まれているとき

▶ メンテナンス表示

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
スタータ・スタータリレー交換時期	スタータ・スタータリレーの交換時期	黒	白	スタータ・スタータリレーの交換時期（→ P.13-19）
エアクリーナ点検時期	エアクリーナの点検時期	黒	白	エアクリーナーの点検時期（→ P.13-21）

▶ 点検整備メモ表示

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
エンジンオイル 交換時期	エンジンオイル 交換時期	黒	白	エンジンオイルおよびフィルター交換時期
T/Mオイル 交換時期	トランスミッション オイル交換時期	黒	白	トランスミッションオイルの交換時期
デフオイル 交換時期	デファレンシャル オイル交換時期	黒	白	デファレンシャルオイルの交換時期
冷却水 交換時期	冷却水交換時期	黒	白	冷却水の交換時期
燃料フィルタ 交換時期	燃料フィルター 交換時期	黒	白	燃料フィルターの交換時期
ベルト 点検時期	ベルト点検時期	黒	白	ファンベルトの点検時期
DPR 洗浄時期	DPR 洗浄時期	黒	白	DPR- クリーナーの洗浄時期
ターボ 点検時期	ターボチャージャー 点検時期	黒	白	ターボチャージャーの点検時期
オルタネータ オーバーホール	オルタネーター オーバーホール	黒	白	オルタネーターの分解・点検整備時期

表示	名称	地色	文字色	警報内容・表示内容
ラジエータ 点検時期	ラジエーター点検時期	黒	白	ラジエーターの点検時期
バッテリー 点検時期	バッテリー点検時期	黒	白	バッテリーの点検時期
エアドライヤ乾燥剤 交換時期	エアドライヤー乾燥剤交換時期	黒	白	エアドライヤーの乾燥剤交換時期
エアサスベローズ 交換時期	エアサスベローズ★交換時期	黒	白	エアサスベローズ★の交換時期
タイヤ ローテーション	タイヤローテーション	黒	白	タイヤローテーション時期
車検満了時期	車検満了時期	黒	白	車検満了時期
ユーザー設定 点検時期	ユーザー設定	黒	白	ユーザー設定

ウォーニングランプ・インジケーターランプ

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	暖機	黄緑	暖機運転時	5-11
	エキゾーストブレーキ		エキゾーストブレーキ作動時および点検時	5-73
	エンジンリターダー★	黄緑	エンジンリターダー★作動時	5-75
	リターダー★	橙	電磁式リターダー★作動時	5-77
	運転席 SRS エアバッグ	赤	SRS エアバッグのシステム異常時	6-92
	シートベルト	赤	シートベルト（運転席側）が未装着のとき	6-92
	ハイビーム	青	ヘッドランプ上向き点灯時	5-62
	パッシング		ヘッドランプ上向き点灯時	
	ハザード	緑	全ターンシグナルランプの点滅時	5-71
	ターンシグナル		ターンシグナルランプの点滅時	
	フォグランプ★	黄緑	フォグランプ★点灯時	5-73
 （点灯）	排出ガス浄化装置	橙	排出ガス浄化装置の手動再生中のとき	5-80
 （点滅）	排出ガス浄化装置	橙	排出ガス浄化装置の手動による再生が必要なとき	
 AdBlue	尿素水品質ウォーニング	橙	AdBlue® （尿素水）の品質が低下しているとき	6-100

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	後処理システムウォーニング	橙	排出ガス浄化装置または尿素SCRのシステム異常時	—
	尿素水補給要求	橙	AdBlue® （尿素水）の残量が少なくなっているとき	6-98
	パーキングブレーキ	赤	パーキングブレーキ作動時	5-48
	エア圧低下	赤	ブレーキ用エアタンク内の空気圧低下	6-81
	EBS・ABS 異常（軽度）	橙	· EBS の異常時 · ABS のシステム異常時	6-86
	EBS・ABS 異常（重度）	赤	EBS の異常時	6-86
	ABS 異常	橙	ABS のシステム異常時	6-86
	ブレーキアジャスト	赤	ブレーキフルードが漏れているとき またはブレーキ系統にエアが混入しているとき	6-82
	ブレーキ液レベル		ブレーキフルードが規定量以下になったとき	6-83
	ライニング、パッド摩耗★	橙	ブレーキライニングまたはパッド★が使用限度に近づいたとき	6-84
	MIL	橙	排気ガス浄化性能に影響を与える部品・システムの異常時	6-94
	チェックエンジンランプ	橙	システムの異常時	6-96
	チャージ	赤	充電系統の異常時	6-91
	オーバーヒート	赤	冷却水の温度が高くなったとき	6-78
	冷却水不足	赤	冷却水の不足	6-79

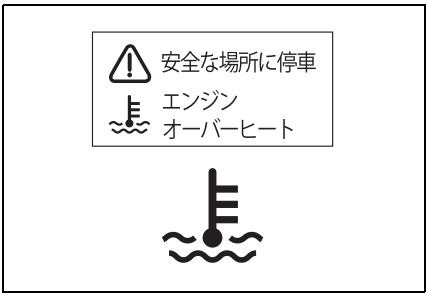
表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	エンジン油圧低下	赤	エンジンの油圧が異常に低下したとき	6-80
	燃料残量少	橙	燃料残量が少なくなったとき	6-91
 （点灯）	VSC・ASR 異常	橙	・ VSC・ASR システムの異常時 ・ VSC・ASR を VSC・ASR OFF スイッチにより「OFF」にしているとき（FE・FJ 車のみ）	5-117 5-119
 （点滅）	VSC・ASR 作動	橙	VSC・ASR システムの作動時	
 OFF	VSC・ASR OFF	橙	VSC・ASR を VSC・ASR OFF スイッチにより「OFF」にしているとき	5-117 5-119
	ES スタート★	橙	ES スタート★の作動時	5-94
	アイドルストップ中★	黄緑	アイドルストップ自動停止中	—
 OFF	アイドルストップキャンセル★	橙	アイドルストップキャンセルスイッチが「OFF」のとき（アイドルストップ停止中）	5-121 5-126
	FS クルーズ★準備	黄緑	FS クルーズ★の作動準備状態のとき	5-142
	FS クルーズ★作動	黄緑	FS クルーズ★の作動時	5-142
	スキャニングクルーズ★準備	黄緑	スキャニングクルーズ★の作動準備状態のとき	5-148
	スキャニングクルーズ★作動	黄緑	スキャニングクルーズ★の作動時	5-148
	FS スピードリミッター★準備	黄緑	FS スピードリミッター★の作動準備状態のとき	5-130

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
SLD	スピードリミッター★作動	黄緑	スピードリミッター★の作動時またはFSスピードリミッター★の作動時	5-92 5-130
OFF	PCS OFF★	橙	PCS（プリクラッシュセーフティ）の機能を停止したとき	5-174
	車線逸脱警報★	橙	車線逸脱警報装置がON時に車線を越えたとき および車線逸脱警報装置に異常が発生したとき	5-166
OFF	車線逸脱警報 OFF★	橙	車線逸脱警報装置がOFFのとき	5-166
	オートマチックトランスミッション油温★	橙	オートマチックトランスミッションオイル★の温度が高くなったとき	5-19
	トランスミッション油温★		トランスミッションオイル★の温度が高くなったとき	—
	オートマチックトランスミッション異常★	橙	オートマチックトランスミッション★の電子制御系統に異常が発生したとき	5-19
O/D OFF	オーバードライブ OFF★	灰	オーバードライブ（O/D）スイッチ★が「OFF」状態のとき	5-19
ECO	エコ★	緑	エコモードスイッチ★の走行モードがECOモードのとき	5-79
PWR	パワー★	橙	エコモードスイッチ★の走行モードがPWRモードのとき	5-79
	センターデフロック（FX/GX車）	黄緑	センターデフロックの作動が「ON」のとき	5-88
	PTO作動時★	黄緑	PTO★作動時	5-105 5-109
	ハイトコントロール（ウォーニング）★	橙	エアサスペンションシステムの異常	5-254

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	ハイトコントロール（インジケーター）★	黄緑	点灯：車高を調整時 点滅：車高を操作時 早い点滅：キャブ統合 ECU が低電圧時	5-254
 （点滅）	プレヒート異常★	橙	プレヒート（始動補助装置）★に異常が発生したとき	6-93
 （点灯）	プレヒート異常★	橙	プレヒート（始動補助装置）★の作動時	
	燃料フィルター水抜き	橙	プレフューエルフィルターに一定以上の水が溜まったとき	6-84
	エンジンオイルフィルター目詰まり	橙	エンジンオイルフィルターが目詰まりしたとき	6-81
	メンテナンス時期	橙	メンテナンス項目があるとき	—
	リアランプ点検	橙	ストップランプの異常時	6-85
	ライトセンサ系異常	橙	ライトセンサー系の異常時	6-85
	AHB システム異常★	橙	AHB システムの異常時	5-66
	AHB システム作動★	緑	AHB システムの作動時	
	サイトアラウンドモニターシステム OFF★	橙	・サイトアラウンドモニターシステムが「OFF」のとき ・サイトアラウンドモニターシステムが作動を停止しているとき ・サイトアラウンドモニターシステムに異常が発生しているとき	5-216
	テレマティクス作動中	緑	車両の位置情報を取得しているとき	—

表示	名称	地色	警報内容・表示内容	参照ページ
	バックブザー減音	橙	バックブザー減音スイッチ作動時	5-258

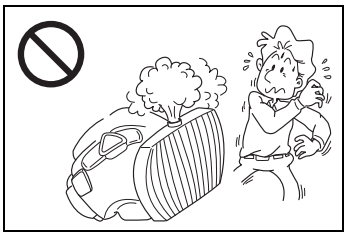
オーバーヒートウォーニング



- エンジンがオーバーヒートした場合、 ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジンオーバーヒート ”を表示し、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- 赤色ゾーンを示したときは、ただちに安全な場所に車両を停車させ、エンジン回転数をアイドリング回転数より高めにし、目盛りが中央付近を示したらエンジンを止めてください。
- 冷却水量および冷却系統の水漏れがないかまた、ファンベルトの張り具合を点検してください。なお、冷却水量が適量で、水漏れがないときには、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠ 警告

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



アドバイス

すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

＊ オーバーヒートしたときは（→ P.15-24）

クーラントレベル（冷却水不足）ウォーニング



・ 冷却水が異常に減ったときは、 ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 冷却水不足 ”と表示され、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。

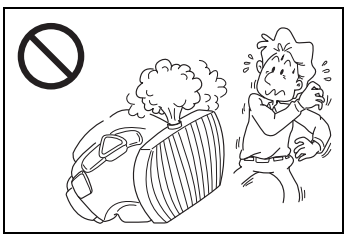
・ マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 冷却水不足 ”と表示されたときは、ただちに車両を安全な場所に停車させ、水温計の目盛りが中央付近を示していることを確認後、エンジンを停止し冷却水を補給します。（→ P.6-6）

＊ 冷却水の補給は（→ P.13-25）

・ 水漏れがあるときや、補給しても短期間で再びマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 冷却水不足 ”と表示され、ブザーと音声アナウンスが鳴ったときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠ 警告

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



アドバイス

マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 冷却水不足 ”を表示したときは、走行しないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

オイルプレッシャーウォーニング

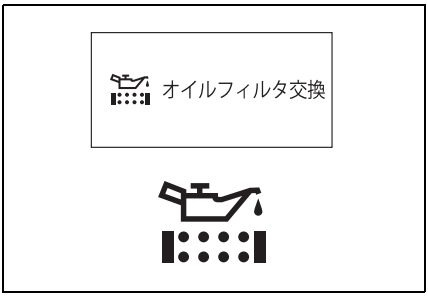


- エンジンの油圧が異常に低下したときは ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 安全な場所に停車 エンジン油圧低下 ”と表示され、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 安全な場所に停車 エンジン油圧低下 ”と表示されたときは、ただちに安全な場所に停車させエンジンを止め、エンジンオイル量およびオイル漏れがないかを点検します。オイル漏れが認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠ 注意

ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 安全な場所に停車エンジン油圧低下 ”と表示されたときは、走行しないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

エンジンオイルフィルターウォーニング



- エンジンオイルフィルターのエレメントが目詰まりしたときは ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ オイルフィルタ交換 ”と表示されます。
- ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ オイルフィルタ交換 ”と表示されたときは、エレメントを交換してください。

知識

エンジンオイルの温度が低くて、粘度が高いとき、一時的に ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ オイルフィルタ交換 ”が表示する場合がありますが、暖機運転をすれば自動的に消灯します。

エアプレッシャーウォーニング



警告

ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 安全な場所に停車 ブレーキ圧低下 ”を表示したときは、絶対に走行しないでください。ブレーキが十分に効かないため危険です。

- ブレーキ用エアタンク内の空気圧が低下し、空気圧計の指針が赤色ゾーンを示すと、ランプが点灯および、マルチインフォメーションに“ 安全な場所に停車 ブレーキエア圧低下 ”が表示され、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。
  なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。

- (!) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に (!) 停車ブレーキエア圧低下 ”と表示され、同時にブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されたときは、ただちに安全な場所に車両を停車しパーキングブレーキを確実に効かせ、エア漏れがないかを点検してください。
- エア漏れがないことを確認した後、エンジンを中速回転させ、空気圧を上昇させます。
- エア漏れがあるときや、空気圧が上昇しなかったり上昇に時間がかかるようなときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

ブレーキアジャストウォーニング



- ブレーキフルードが漏れているとき、またはブレーキ液系統にエアが混入しているときにブレーキペダルを踏むと、( ) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ( ) ブレーキ系故障 ”が表示され、ブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- ( ) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ( ) ブレーキ系故障 ”が表示され、同時にブザーが鳴ったときは、ただちに車両を安全な場所に停車させ、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠警告

( ) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ( ) ブレーキ系故障 ”が表示されたときは、絶対に走行しないでください。ブレーキが十分に効かないため危険です。

ブレーキ液レベルウォーニング

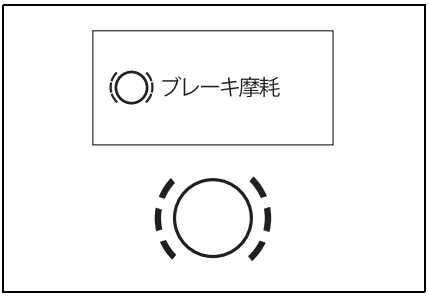


- リザーブタンク内のブレーキフルードが規定量以下になったとき、( ) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ( ) ブレーキ系故障 ”が表示され、ブザーが鳴り、また音声アナウンスが再生されます。なお、ブザーと音声アナウンスは車両を停止し、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
- ( ) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ( ) ブレーキ系故障 ”が表示され、同時にブザーが鳴ったときは、ただちに車両を安全な場所に停車させ、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠警告

( ) ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ( ) ブレーキ系故障 ”が表示されたときは、絶対に走行しないでください。ブレーキが十分に効かないため危険です。

ライニング、パッド摩耗ウォーニング★



⚠ 警告

ブレーキライニングまたはパッドが摩耗し、使用限度を超えて使用すると、ブレーキの効きが大幅に低下し事故につながるおそれがります。また、ドラムまたはローターの損傷を招くおそれがあります。

- ブレーキライニングまたはパッドが摩耗して使用限度に近づくと ◯ ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ◯ ブレーキ摩耗 ”を表示します。
- ◯ ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ◯ ブレーキ摩耗 ”を表示したときは、使用限度に近づいていますのでライニングまたはパッドの摩耗量を点検し、使用限度になる前にすみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡して、ライニングまたはパッドの交換を行ってください。
  ライニング摩耗量の点検は（→ P.13-42）
  パッドの摩耗量の点検は（→ P.13-43）

フューエルフィルター水位（水抜き）ウォーニング



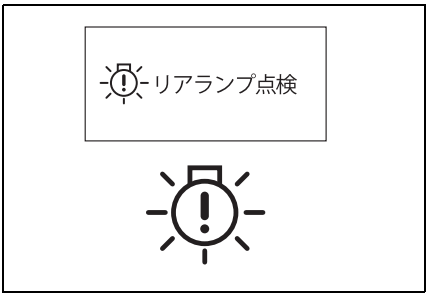
⚠ 注意

ランプが点灯したまま走行を続けないでください。走行を続けると、噴射系部品（サプライポンプやインジェクター等）が焼き付き、エンジンが損傷するおそれがあります。

- 燃料中に含まれている水が規定レベル以上フューエルフィルター内にたまると、 ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 燃料フィルタ水抜き ”が表示されます。
- マルチインフォメーションに“ 燃料フィルタ水抜き ”が表示されたときは、すみやかに安全な場所に停車させ、エンジンを止めた後、フューエルフィルターの水抜きを行ってください。

＊ 水抜き要領については（→ P.13-11）

ストップランプウォーニング



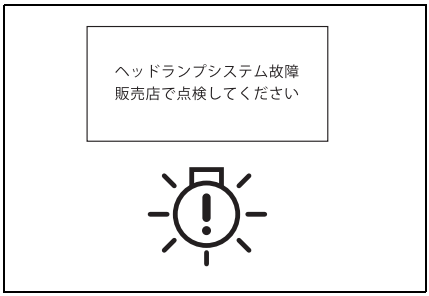
⚠警告

マルチインフォメーションに“ リアランプ点検 ”を表示したときは、走行しないでください。ストップランプが点灯しないと、後続車に迷惑をかけるだけでなく、追突されるおそれがあります。

▶ ストップランプ

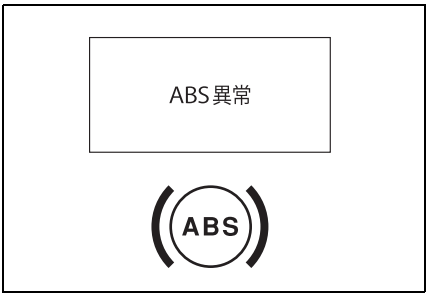
- ストップランプの球切れや回路の故障（電源ショート等）があるとマルチインフォメーションに“ リアランプ点検 ”を表示します。
- マルチインフォメーションに“ リアランプ点検 ”を表示したときは、ただちに安全な場所に停車させ、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

ライトセンサー系ウォーニング



- オートライトセンサー故障、またはオートライトセンサーハーネスの断線故障があるとマルチインフォメーションに“ ヘッドランプシステム故障　販売店で点検してください ”を表示します。
- マルチインフォメーションに” ヘッドランプシステム故障　販売店で点検してください ”を表示した時は、ただちに安全な場所に停車させ、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

ABS ウォーニング（エアオーバーブレーキ車）



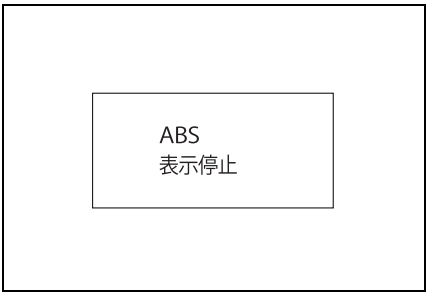
知識

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

- ABS は、積雪路などの滑りやすい路面で急ブレーキをかけた場合の車輪のロックを軽減し、車両の尻ふりなどを抑え車両を安定した状態で停止しやすくする装置です。
- ABSに異常が発生しても通常のブレーキとしての作動は確保されています。
- ABSが付いていても滑りやすい路面では乾いた路面よりも制動距離が長くなります。

- スターターキーを「ON」の位置にすると (ABS) ランプが点灯し、ABS が正常であれば約 3 秒後に消灯します。エンジン始動時にまれにマルチインフォメーションに“ABS 異常”を表示することがありますが、その後 (ABS) ランプの消灯と同時に表示が消えれば異常ではありません。
- スターターキーを「ON」の位置にしても (ABS) ランプが点灯しないときは、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- 走行中、ABS に異常があると (ABS) ランプが点灯および“ABS 異常”を表示し運転者に警報します。ランプが点灯したときは、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- スピードメーターテスターを使用しているときやエンジンを空ぶかしのままにしたときに、まれに (ABS) ランプが点灯および“ABS 異常”を表示することがありますが異常ではありません。いったんエンジンを停止させ、リセットしてください。

ABS 表示停止ウォーニング（エアオーバーブレーキ車）

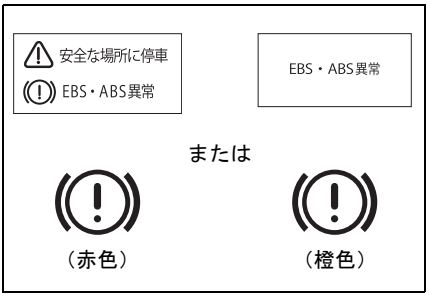


- ABS 故障時にマルチインフォメーションに“ABS 異常 ”を表示できないときに、“ABS 表示停止 ”を表示します。

⚠ 警告

マルチインフォメーションに“ABS 表示停止 ”を表示したときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

EBS・ABS ウォーニング（フルエアブレーキ車）



- スターターキーを「ON」の位置にすると (!) ランプ（赤色および橙色）が点灯し、EBS および ABS が正常であれば約 3 秒後に消灯します。
  このとき、エンジン始動時にまれにマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) EBS・ABS 異常 ”（赤色）を表示することがありますが、その後 (!) ランプ（赤色および橙色）の消灯と同時に表示が消えれば異常ではありません。システムは正常に作動します。
- スターターキーを「ON」の位置にしても (!) ランプが点灯しないときは、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
  ただし、ブレーキペダルを踏みながら、または一度ブレーキペダルを踏んでからスターターキーを「ON」の位置にした場合、ランプは点灯しません。
  （ブレーキペダルを踏んだ時点でシステムが「ON」になり、チェックが終了します）

- スピードメーターテスターを使用しているときやエンジンを空ぶかしのままにしたとき、また路面から受ける振動等の影響により、まれに (!) ランプ（橙色）が点灯し、マルチインフォメーションに“EBS・ABS 異常”（橙色）を表示することがありますが異常ではありません。いったんエンジンを停止させリセットしてください。
- エンジン始動後に旋回を続けると、まれに (!) ランプ（橙色）が点灯し、マルチインフォメーションに“EBS・ABS 異常”（橙色）を表示することがありますが異常ではありません。いったんエンジンを停止させ、リセットしてください。この場合、スターターキーを「ON」、エンジン始動後もすぐに消灯しませんが、直線走行をしばらく行うことにより消灯します。(!) ランプ（橙色）およびマルチインフォメーションの“EBS・ABS 異常”（橙色）が消灯すれば問題なく走行できます。

⚠警告

(!) ランプ（赤色または橙色）が点灯、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) EBS・ABS 異常”（赤色）または“EBS・ABS 異常”（橙色）を表示した場合、EBS および ABS、またはハブに異常がある可能性があります。

そのまま走行するとハブベアリング焼き付きのおそれがあるため、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場へ連絡してください。

知識

EBS（電子制御ブレーキシステム）とは

- 従来のブレーキシステムを電子制御することによりブレーキの効き遅れ、解除遅れが低減できます。
- 積載状態により前後輪の制動力の配分調整を行い安定した状態で減速、停止ができます。
- EBSに異常が発生してもブレーキとしての能力は確保されます。

▶ (!)（赤色）ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) EBS・ABS 異常 ”を表示したとき

⚠ 警告

- 警報が表示され、EBS が故障により非作動になっている場合には、エア回路によりブレーキカは確保されていますが、ブレーキペダルの踏力が重く感じられたり、ブレーキペダルの踏み代が増加しますので、ブレーキペダルの踏み方には十分注意してください。また、ABS・ASR の全体または一部も非作動になっていますので注意してください。この場合には、安全な場所に停車させ、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
- バッテリー電圧が低下しているとEBS 作動に影響をおよぼす場合があるため、定期的にバッテリーの点検を行ってください。

EBS の全体または一部が故障し非作動になっており、ABS・VSC、ASR の全体または一部も非作動になっています。

▶ (!)（橙色）ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“EBS・ABS 異常 ”を表示したとき

⚠ 警告

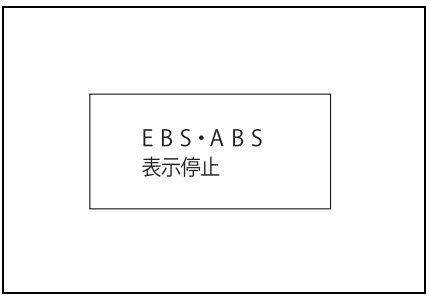
- 警報が表示され、EBS が故障により非作動になっている場合には、エア回路によりブレーキカは確保されていますが、ブレーキペダルの踏力が重く感じられたり、ブレーキペダルの踏み代が増加しますので、ブレーキペダルの踏み方には十分注意してください。また、ABS・ASR の一部も非作動になっていますので注意してください。この場合には、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。
- バッテリー電圧が低下しているとEBS 作動に影響をおよぼす場合があるため、定期的にバッテリーの点検を行ってください。

EBS の一部が故障し非作動になっており、ABS・VSC・ASR の一部も非作動になっています。

アドバイス

EBS はブレーキの操作性、安全性を向上させる装置ですが、限界を超えた走行・停止を可能とするものではありません。

EBS・ABS 表示停止ウォーニング（フルエアブレーキ車）



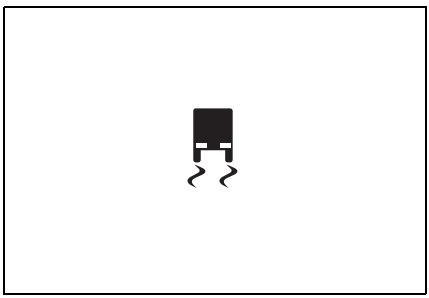
・ ABS 故障時にマルチインフォメーションに“EBS・ABS 異常”を表示できないときに、“EBS・ABS 表示停止”を表示します。

⚠警告

マルチインフォメーションに“EBS・ABS 表示停止”を表示したときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

VSC ウォーニング

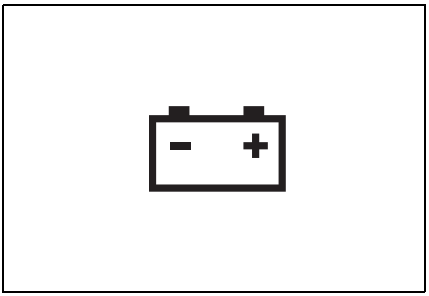
下記に該当する場合は、VSC や ABS システムの異常です。なお、この場合には、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。



・ スターターキーを「ON」の位置にすると VSC 機能のチェックを行うため、 ランプが点灯します。VSC に異常が発生していなければ約 3 秒後に消灯します。

・ OFF ランプは VSC 機能を解除しているときのインジケータになります。
VSC 機能の解除については（→ P.5-119）

チャージウォーニングランプ



・ 充電系統に故障が起きたとき、 ランプが点灯します。

⚠ 注意

ランプが点灯したときは、走行しないでください。過電圧による電子機器類の損傷やバッテリーあがりの原因になります。

・ スターターキーを「ON」の位置にすると点灯し、オルタネーターが発電を始めると消灯します。

・ 走行中に ランプが点灯したときは、ただちに安全な場所に停車させ、エンジンを止めて、オルタネーターのベルトの張り具合や損傷がないかを点検します。(→ P.13-34)
点検の結果、異常があるときは最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

燃料残量ウォーニング



・ タンク内の燃料の残量が少なくなると ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ 燃料残量少 ”を表示します。

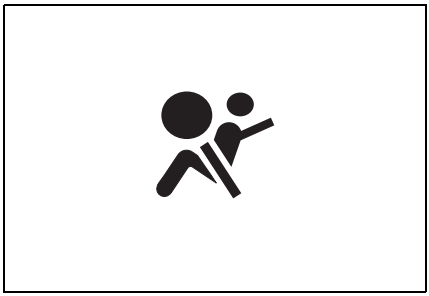
・ ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ 燃料残量少 ”を表示したときは早めに燃料を補給してください。

シートベルト未装着警報ランプ（運転席側）



- シートベルトを着用せずに、スターターキーを「ON」の位置にすると ランプが点滅し、警報します。
  シートベルトを着用すれば、消灯します。
- シートベルトを未装着のまま走行するとブザーが鳴り運転手に警報します。

運転席 SRS エアバッグウォーニングランプ



- スターターキーを「ON」の位置にすると SRS エアバッグのシステム作動確認を行うため、 ランプが約 6 秒間点灯し異常がないときは消灯します。

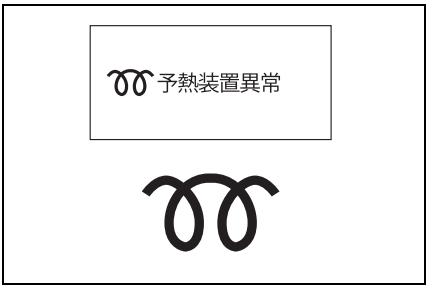
⚠ 警告

ランプが次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せず、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

- スターターキーを「ON」の位置にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
- 走行中に点灯したとき

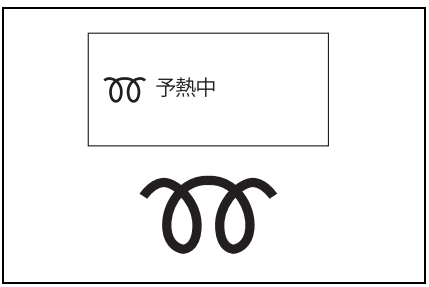
予熱装置異常ウォーニング★

■予熱装置異常ウォーニング



エンジン始動時の自動予熱中に、システムに異常が発生すると ランプが点滅およびマルチインフォメーションに“ 予熱装置異常”を表示します。なお、この場合には、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■予熱中



エンジン始動時、自動予熱が正常に行われている場合、 ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ 予熱中”を表示します。

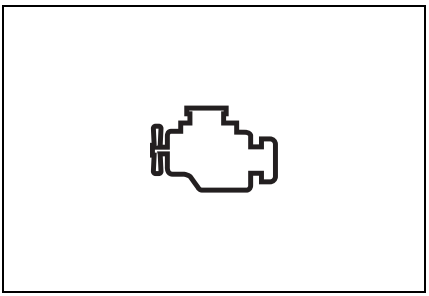
＊ 再予熱をする際は、スターターキーを「LOCK」の位置に戻してから「ON」の位置にしてください。「START」の位置から「ON」の位置にしただけでは再予熱されません。

スターター過熱ウォーニング★



- スターターの過熱を防止するため、マルチインフォメーションに“スタータ過熱注意”を表示し、警報を発します。
- マルチインフォメーションに“スタータ過熱注意”を表示したときは、表示が消えてからエンジンをかけてください。

MIL



・ 排気ガス浄化性能に影響を与える部品システム異常時に表示します。

● スターターキー「ON」、エンジン非稼働時

スターターキー「ON」後、5 秒間 MIL が点灯 → 10 秒間消灯 → 5 秒間 MIL 点灯 / 点滅しますが、故障ではありません。スターターキー「ON」後、25 秒間経過以降は下記の表示に移行します。
MIL の点灯と点滅状態を確認し、適切な処置を行ってください。

故障レベル	MIL 表示	処置
A　重大な故障	 常灯	最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
B　機能・性能低下	 5 秒間に 3 回点滅	できるだけ早い時期に最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
C　軽微な故障	 5 秒間に 2 回点滅	できるだけ早い時期に最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
MIL 故障	消灯	できるだけ早い時期に最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
正常	 5 秒間に 1 回点滅	—

● スターターキー「ON」、エンジン稼働時

エンジン稼働時は MIL が消灯することもありますが、MIL の点灯状態を確認し、適切な処置を行ってください。

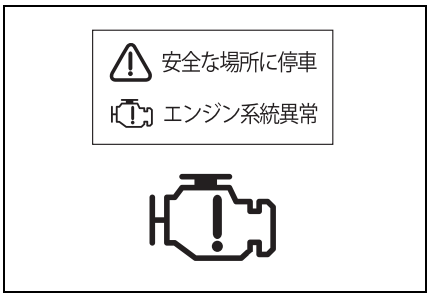
故障レベル	MIL 表示	処置
A　重大な故障	 常灯	最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
B　機能・性能低下	 エンジン稼働後 15 秒点灯し消灯	できるだけ早い時期に最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
C　軽微な故障	消灯	できるだけ早い時期に最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
正常	消灯	—

チェックエンジンランプ

- システムに異常や故障が発生すると、ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジン系統異常 ”を表示し、同時にブザー（連続音）が鳴ります。なおブザーは車両を停止しパーキングブレーキレバーを引き、パーキングブレーキを効かせると鳴りやみます。
  または、マルチインフォメーションに“ エンジン系統異常 ”を表示し、同時にブザーが鳴ります。
- 異常・故障時の状態により故障の度合いを判断することができます。

▶ 継続走行が不可能な場合

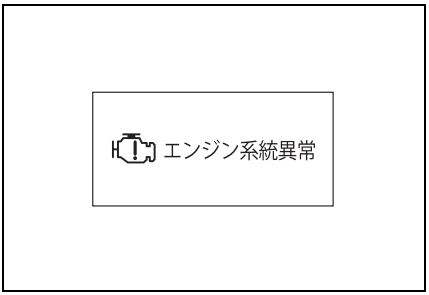
- ランプが点灯およびマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジン系統異常 ”を表示します。



- エンジンが停止し、その後スターターキーをいったん「LOCK」の位置にした後、再度「START」の位置にしてもエンジンが再始動しない場合は、エンジン始動不能状態です。
  この場合、けん引などにより安全な場所へ移動し、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

▶ 継続走行が可能な場合

・ マルチインフォメーションに“ エンジン系統異常 ”を表示します。



・ エンジンの力不足やエンジンの異常振動などの状態になっている場合は、システムに異常や故障が発生しています。このまま走行を続けることができますが、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

DPR ウォーニング

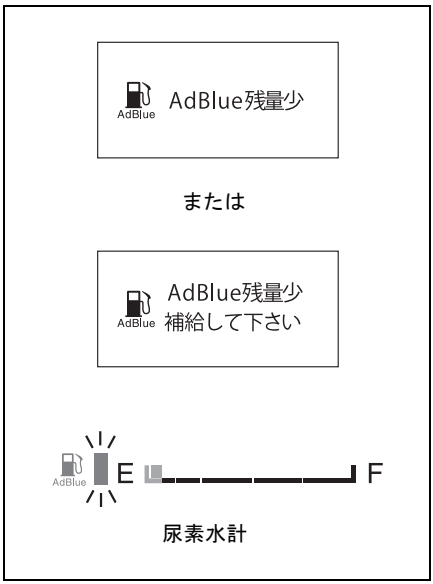
・ DPR システムに異常や故障が発生するとマルチインフォメーションに“ DPR 系統点検 ”を表示します。



・ 排出ガス浄化装置再生スイッチを操作しすすの燃焼（再生）を開始すれば復帰する場合もあります。

・ すすの燃焼（再生）を開始しなくても、そのまま走行を続けることができますが、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

尿素水残量ウォーニング



・ タンク内の AdBlue®（尿素水）の残量が 10 % になると、AdBlueランプが ランプに切り替わり、マルチインフォメーションに“ AdBlue 残量少 ”を表示します。残量が 5 % になると表示が“ AdBlue 残量少補給して下さい ”に変わります。また、残量が 0 になるとブザーが鳴り運転手に警報します。

⚠ 注意

AdBlue®（尿素水）の残量が 0 の状態で、スターターキーを「ON」以外の位置にすると、エンジンの再始動ができなくなります。

ランプが点灯したら、早めに AdBlue®（尿素水）を補給してください。

＊ 他の故障が発生するとマルチインフォメーションの“ AdBlue 残量少 補給して下さい ”は消灯する場合があります。
マルチインフォメーションの“ AdBlue 残量少 補給して下さい ”が消えても、 ランプが点灯している場合は、AdBlue®（尿素水）の補給が必要です。

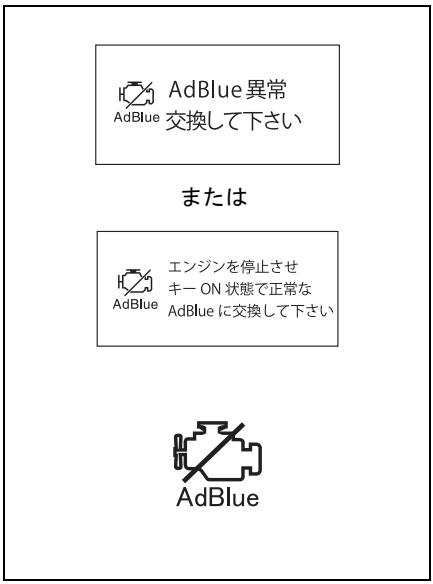
▶ AdBlue®（尿素水）の残量が 0 になった場合の処置

AdBlue®（尿素水）の残量が 0 になると警報ブザーが鳴ります。この状態でスターターキーを「ON」以外の位置にするとエンジンの再始動ができなくなります。エンジンが再始動できなくなってしまった場合、次の手順に従って再始動してください。

1. AdBlue®（尿素水）を 10 L 以上補給してください。
2. スターターキーを「ON」の位置にして、尿素水計の目盛りが表示され、 ランプがAdBlueランプに切り替わっていることを確認してください。
3. エンジンを再始動させてください。

段階	AdBlue® (尿素水) 残量	警告表示	インジケーター	警告音	車両制限
第 1 段階 (注意喚起)	 残り 10%			—	—
	 残り 5%			—	—
第 2 段階 (警報および使用制限)	 残量警報ランプ点灯 残り 0%			ブザー (常時吹鳴)	スターターキーを「ON」以外の位置にすると、再始動不可

尿素水品質ウォーニング



- AdBlue®（尿素水）の品質異常を検出すると、AdBlue ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ AdBlue 異常 交換して下さい ”（走行時）、または“ AdBlue エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい ”（停車時）が表示されます。検出後そのまま 300 km 走行を続けると、ブザーが鳴り運転手に警報します。
- AdBlue ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ AdBlue 異常 交換して下さい ”（走行時）、または“ AdBlue エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい ”（停車時）が表示された場合は、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠ 注意

異常検出後、300 km 走行すると警報ブザーが鳴ります。この状態でスターターキーを「ON」以外の位置にするとエンジンの再始動ができなくなります。

▶ すぐに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けられない場合

1. AdBlue®（尿素水）を補給できる場所へすみやかに移動してください。
2. AdBlue®（尿素水）を補給できる場所に到達したら、以下の 4 ～ 6 の作業ができることを確認してからエンジンを停止してください。（注意喚起後の走行距離が長い場合、エンジンが再始動できなくなります。）
   下記の条件でスターターキーを「ON」以外の位置にすると、エンジンの再始動ができません。
   - 検出後、300 km 走行している場合
   - 警告ブザーが鳴っている場合
3. AdBlue®（尿素水）を給水する準備ができたら、スターターキーを「ON」の位置にしてください。
4. 尿素水タンク下部にあるドレーンプラグを取り外し、タンク内の液体を全て排水してください。
5. 排水後、ドレーンプラグを締め付け、規格に適合した AdBlue®（尿素水）を満水（少なくとも 10 L 以上）まで給水してください。

⚠ 注意

尿素水タンクに AdBlue®（尿素水）以外のものを給水しないでください。エンジンが再始動できない状況を解除できません。

6. AdBlue®（尿素水）の補給が完了すると、マルチインフォメーションに“ AdBlue 異常 交換して下さい ”（走行時）、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい ”（停車時）の表示は消灯します。（ ランプは点灯したままです。）

＊ AdBlue が正常であることをシステムが確認すると全ての警告が解除されます。手順を間違えると、警告や車両制限が解除できないこともありますので、やむを得ない場合を除き、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。（→ P.6-98）

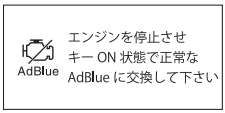
＊ 他の故障が発生すると、マルチインフォメーションの“ AdBlue 異常 交換して下さい ”（走行時）、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい ”（停車時）は消灯する場合があります。
マルチインフォメーションの“ AdBlue 異常 交換して下さい ”（走行時）、または“ エンジン停止させキー ON 状態で正常な AdBlue に交換して下さい ”（停車時）が消えても ランプが点灯している場合は、AdBlue®（尿素水）の交換が必要になりますので、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

▶ 尿素水品質ウォーニングによりエンジンが再始動できない場合の処置

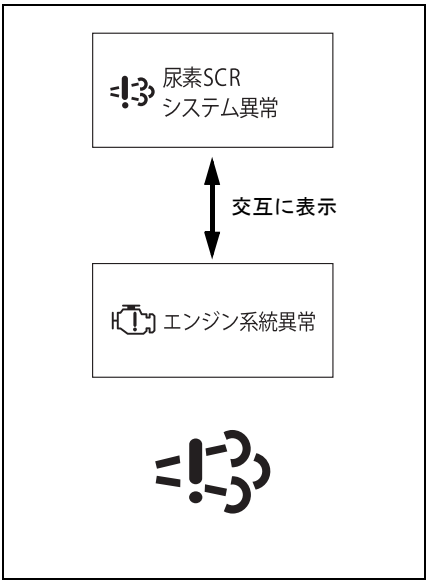
尿素水品質異常を検出後、300 km 走行すると警報ブザーが鳴ります。この状態でスターターキーを「ON」以外の位置にするとエンジンの再始動ができなくなります。

エンジンの再始動ができなくなった場合は、次の方法で再始動を行ってください。

- 最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡し、指示を受けてください。
- 日野販売会社の整備工場に連絡が取れない場合は、AdBlue®（尿素水）を準備した上で「すぐに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けられない場合」の手順 3 以降の作業を実施してください。（→ P.6-100）

段階	インジケーター	警告表示	警告音	車両制限
第 1 段階 「異常検出時」 （注意喚起）		走行時 	—	—
第 2 段階 「異常検出 300 km 走行後」 （警報および使用制限）		停車時 	ブザー （常時吹鳴）	スターターキーを「ON」以外の位置にすると、再始動不可

尿素 SCR システムウォーニング



・ ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ 尿素 SCR システム異常”と“ エンジン系統異常”が交互に表示した場合は、尿素水噴射装置に故障が発生しています。すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

＊ 他の故障が発生するとマルチインフォメーションの“ 尿素 SCR システム異常”は消灯する場合があります。マルチインフォメーションの“ 尿素 SCR システム異常”が消えても、 ランプが点灯している場合は、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

段階	インジケーター	警告表示	警告音
第 1 段階 （注意喚起） 異常検出時		尿素SCR システム異常 交互に表示 エンジン系統異常	—
第 2 段階 （警報） 異常検出後、 300 km 走行			ブザー

フロントスピーカー

フロントスピーカーはインストルメントパネルに左右 1 個ずつ取り付けられており、オーディオおよび安全装置などの警報ブザーや音声アナウンスが吹鳴・再生されます。

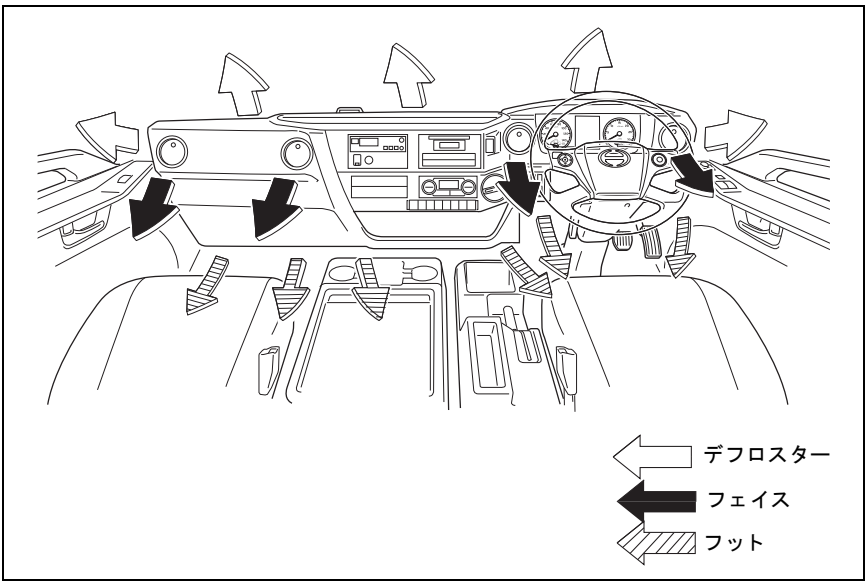
⚠ 警告

日野純正品以外のスピーカーへの交換は絶対にしないでください。フロントスピーカーからは、オーディオおよび警報ブザーや音声アナウンスが吹鳴・再生されるため、入力端子が 2 組ある（4 端子）特殊な形状のスピーカーを使用しています。日野純正品以外のスピーカーに交換すると、警報ブザーや音声アナウンスが吹鳴・再生されなくなり、車両の故障や事故につながるおそれがあるほか、オーディオシステムおよびメーターの故障の原因となるおそれがあります。

ヒーター・エアコンの取り扱い 7

吹き出し口 .....P.7−2
フルオートエアコン★ .....P.7−3
マニュアルエアコン★ ....P.7−12

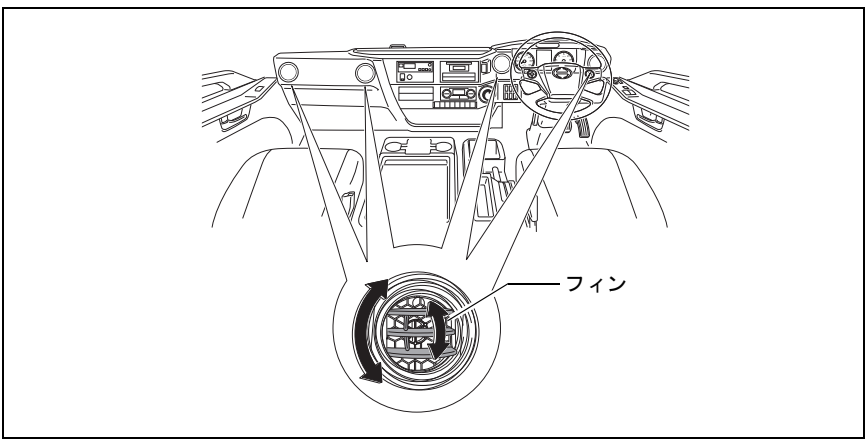
吹き出し口



■風向きと風量の調整

・ フィンの開閉により吹き出し口からの風量を調整します。
フィン閉：吹き出し口全閉
フィン開：吹き出し口全開

・ フィンを動かして、お好みの風向きに調節します。

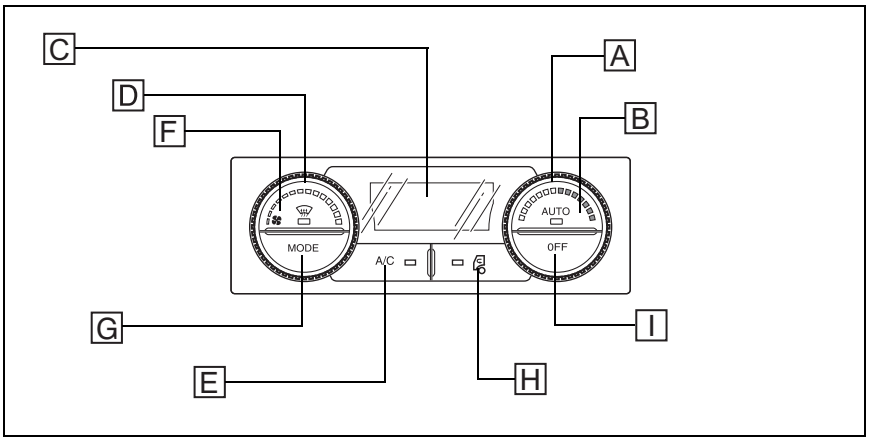


フルオートエアコン★

お好みの温度にセットすると自動的に設定した温度を保ちます。

■コントロールパネル

・ 各スイッチにあるランプは、作動表示灯です。
点灯しているときは、そのスイッチが作動していることを示します。



● A 温度調整ダイヤル

お好みの室温に設定できます。
マルチディスプレイに設定温度が表示されます。

右に回す：設定温度が高くなる
（最高：32 ℃）

左に回す：設定温度が低くなる
（最低：18 ℃）

● B フルオートエアコン（AUTO）ON スイッチ

フルオートエアコンが作動します。

＊ フルオートエアコンの作動中はスイッチ内蔵の作動表示灯が点灯します。

● C マルチディスプレイ

エアコンの作動状態が表示されます。（→ P.7-5）

● D 風量調整ダイヤル

風量を 7 段階に調整できます。
マルチディスプレイに風量が表示されます。

● E エアコン（A/C）スイッチ

エアコンの「ON/OFF」をします。

＊ エアコン作動中はスイッチ内蔵の作動表示灯が点灯します。

● F デフロスタースイッチ

フロントガラス・ドアガラスに送風します。

＊ デフロスターモード使用時は、スイッチ内蔵の作動表示灯が点灯します。

- G 吹き出し口モード切り替えスイッチ

吹き出し口がフェイス・バイレベル・フット・デフロスターフット（フット優先）・デフロスターフット（デフロスター優先）の 5 通りに切り替わります。

マルチディスプレイに吹き出し口の状態が表示されます。

- H 内外気切り替えスイッチ

スイッチを押すたびに内気循環、外気導入が交互に切り替わります。

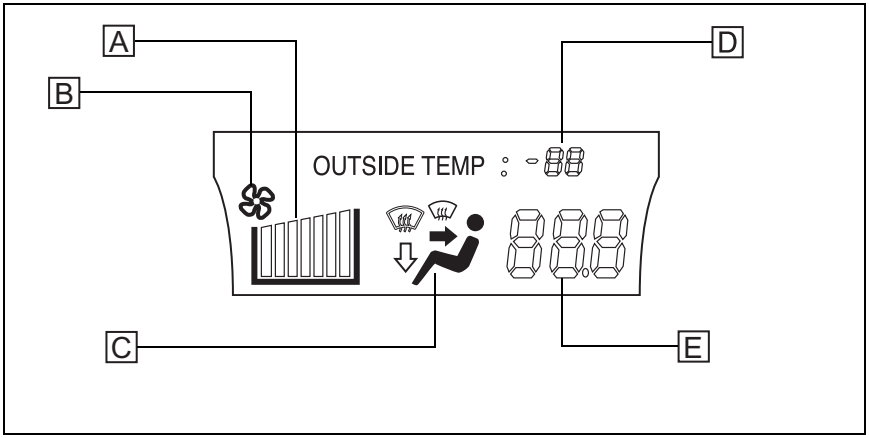
スイッチ内蔵の作動表示灯点灯：
室内の空気を循環します。

スイッチ内蔵の作動表示灯消灯：
室外の空気を取り入れます。

- I OFF スイッチ

エアコンの作動を停止します。

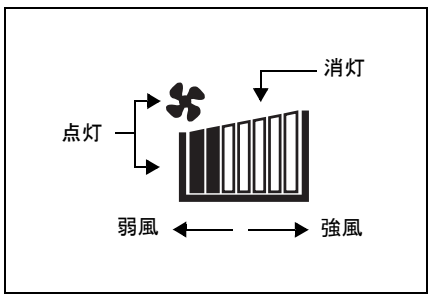
■マルチディスプレイ



● A 風量表示灯

現在の風量が表示されます。

〔風量表示例〕



● B ファン作動表示灯

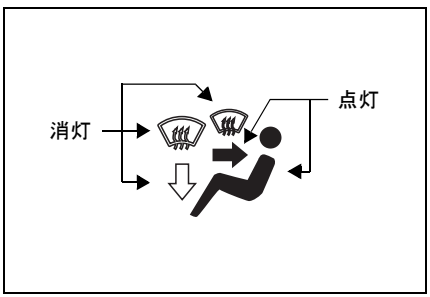
・ 点灯：ファン作動

・ 消灯：ファン停止

● C 吹き出し口表示灯

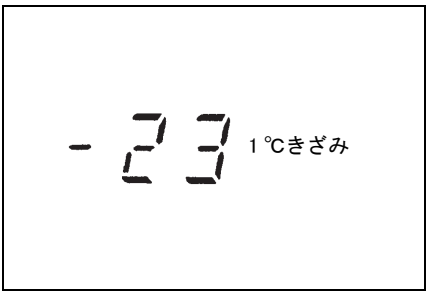
選択されている吹き出し口が表示されます。

〔吹き出し口表示例〕
（フェイスモード）



● D 外気温度表示灯

外気温度表示灯例（− 23 ℃）



＊ 表示される温度は、車両に取り付けられたセンサーによって計測した温度が表示されるため、実際の路面温度と異なる場合があります。

● E 設定温度表示灯

設定温度表示灯例（25.0 ℃）



■吹き出し口

マルチディスプレイ表示	名称	吹き出し口（→ P.7-2）
—	デフロスター	
	デフロスター・フット＊デフロスター優先	
	デフロスター・フット＊フット優先	
	フット	
	バイレベル	
	フェイス	

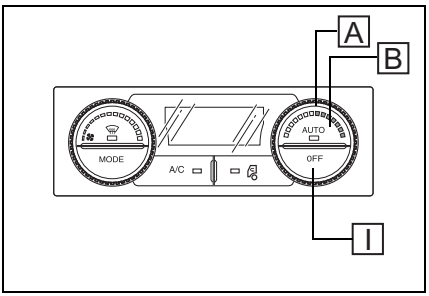
（注）デフロスターモード使用時は、マルチディスプレイには表示されません。
デフロスターモード使用時は、デフロスタースイッチ内蔵の作動表示灯が点灯します。

■フルオートエアコン

1. B を押してフルオートエアコンを「ON」にします。
2. A を回してお好みの温度に設定します。

- 設定温度は「LO」、18.0 ～ 32.0 ℃、「HI」の範囲以内で 0.5 ℃きざみに設定できます。ただし「LO」、「HI」に設定した場合には、温度が自動制御されずに最大冷房または最大暖房の状態になります。

3. フルオートエアコンを停止するときは、I を押します。



アドバイス

エアコンの「ON / OFF」と内外気切り替えはマニュアル（手動）操作時しかできず、フルオートエアコン時でも、自動では切り替わりません。

■マニュアル（手動操作）

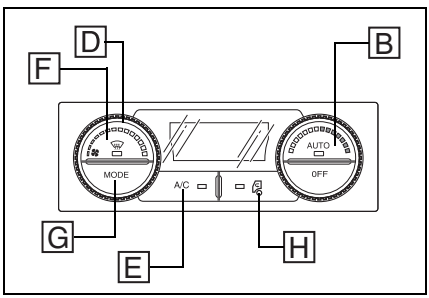
フルオートエアコンを作動させた状態で、以下の操作により、マニュアル（手動）操作を行うことができます。

- 吹き出し風量（D を回します）
- 吹き出し口切り替え（G または F を押します）
- 内外気切り替え（H を押します）
- エアコン「ON/OFF」操作（E を押します）

＊ マニュアル操作で上記スイッチのいずれかを押すと B の作動表示灯が消灯しますが、押したスイッチ以外の機能についてはフルオートエアコン時の状態が保たれています。

＊ フルオートエアコンに戻すときは、B を押してください。

＊ エアコンを停止するときは I を押します。

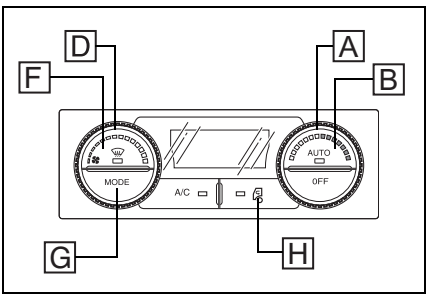


▶ くもり取り

1. B の作動表示灯が点灯していることを確認します。
2. F を押してデフロスターモード を「ON」にします。
3. H を押して外気導入モードにします（H の作動表示灯が消灯）。

・ このとき自動でエアコンが「ON」になります。

4. フルオートエアコンに戻すときは、再び B を押します。



知識

- 室内暖房とくもり取りを同時に行うときは G を押して または にします。
- A で設定温度を高くし、D で送風量を多くするとくもりが早く取れます。
- マニュアル操作で設定温度を変えた場合、フルオートエアコンに戻しても設定温度だけは元に戻りません。

アドバイス

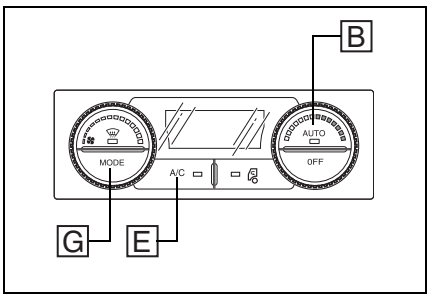
ドアガラスが凍るようなときは、G を押して または にして、運転席側および助手席側の吹き出し口からの風がドアガラスに当たるように調整してください。

▶ バイレベル

1. B の作動表示灯が点灯していることを確認します。
2. G を押して にします。

・ 冷たさが足りないときは E を押します。

3. フルオートエアコンに戻すときは、再び B を押します。



⚠ 警告

温度が非常に高いときにエアコンを作動させているときは、F を の位置にしないでください。外気温と窓の温度の温度差で窓の外側表面が曇り、走行中、視界がさまたげられ、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

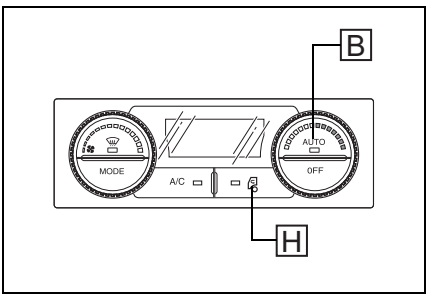
- エンジンを止めた状態やアイドリング回転で長時間ファンを作動させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。
- 長時間、[H]を内気循環の状態で使用すると室内の空気が汚れたり、ガラスがくもったりしますので、[H]を押して外気導入にするか窓を開けるなどして、空気を入れ替えてください。
- ほこりや排出ガスが室内に入るときは、[H]を押して内気循環にし、状態が変わったら外気導入にしてください。
- 炎天下、アイドリング状態でエアコンを使用するときは、[H]を の位置（内気循環）にして使用してください。

知識

- 外気温が低いとき（約0℃以下）は、[E]の作動表示灯が点灯しても、エアコンの圧力スイッチが働き、コンプレッサーが停止しますので[H]を押して作動表示灯を消灯（外気導入）にして使用してください。
- 炎天下に駐車したときは、[D]を回して最大風量（ ）にして窓を開け換気を行った後に、エアコンを作動させると効果的です。
- 急速に冷房したいときや外気温が非常に高いとき、[H]を押して内気循環（スイッチ内蔵のインジケーターランプ点灯）にすると効果的です。
- 冷房時湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、異常ではありません。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

▶ 室内の空気の循環または外気導入

1. B の作動表示灯が点灯していることを確認します。
2. H を押して作動表示灯を点灯（内気循環）または消灯（外気導入）にします。



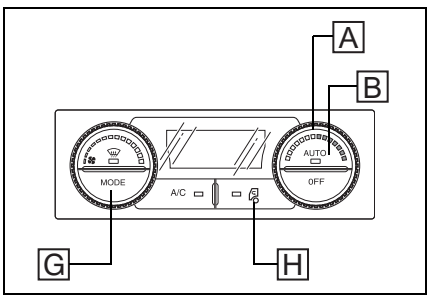
▶ エンジンを暖機運転しながらの暖房

⚠ 警告

運転席での仮眠はしないでください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりチェンジレバーまたはセレクトレバーを動かしたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. B の作動表示灯が点灯していることを確認します。
2. H を押して作動表示灯を点灯（内気循環）させます。
3. A を回してお好みの温度に設定します。

・ デフロスターを同時に使用するときは、G を押して または にします。



知識

暖機運転中や長時間停車中に暖機スイッチを「ON」にすると暖房の効果を高められます。

＊ 暖機スイッチの取り扱いは（→ P.5-11）

▶ ベッドでの仮眠（寒冷時）

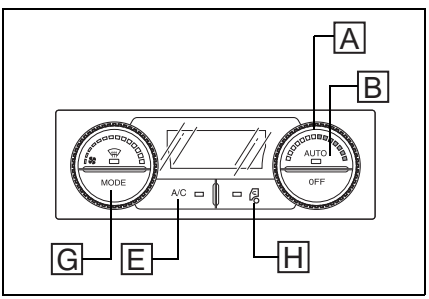
⚠ 警告

運転席での仮眠はしないでください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりチェンジレバーまたはセレクトレバーを動かしたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. B の作動表示灯が点灯していることを確認します。
2. G を押して にします。温風がベッド部へまわりやすくなります。

・ 助手席側のシートで仮眠するときは、 にします。

3. A を回してお好みの温度に調整します。
4. E の作動表示灯が点灯しているときは、押して消灯させます。
5. H を押して作動表示灯を点灯（内気循環）させます。

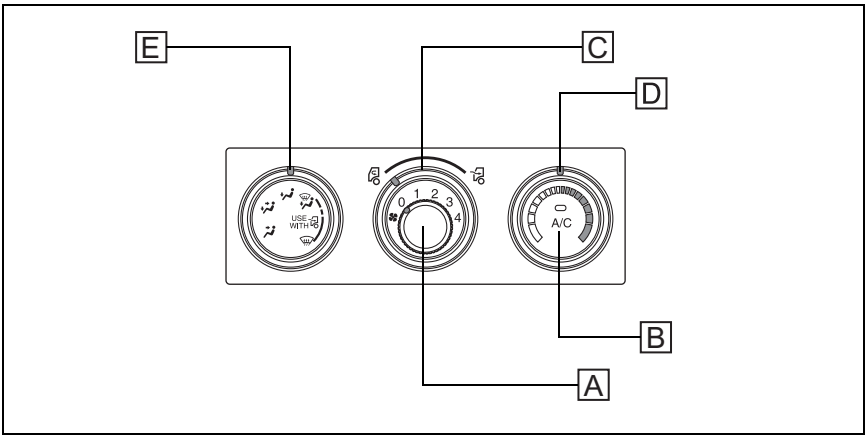


知識

バイレベルを使用して、ベッドで仮眠すると、フェイス吹き出し口からの送風が低温なためベッドで寒さを感じることがあります。

マニュアルエアコン★

■コントロールパネル



● A 風量調整ダイヤル

・ 送風の ON/OFF をし、送風量を 4 段階に調節できます。

● B エアコン（A/C）スイッチ

・ スイッチを押してエアコンの ON/OFF をします。

＊ Aが「0」位置のときは、Bが「ON」でもエアコンは作動しません。

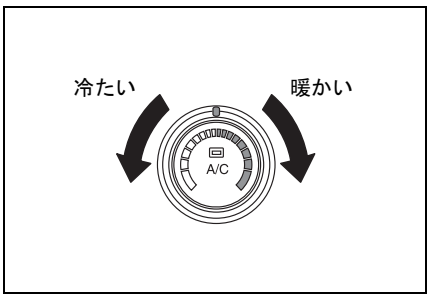
＊ エアコン作動中はスイッチ内蔵の作動表示灯が点灯します。

● C 内外気切り替えダイヤル

・ ダイヤルを の位置にすると内気循環、の位置にすると外気導入に切り替わります。

● D 温度調整ダイヤル

＊ 冷たい風から暖かい風まで 17 段階に温度調節できます。



● E 吹き出し口モード切り替えダイヤル

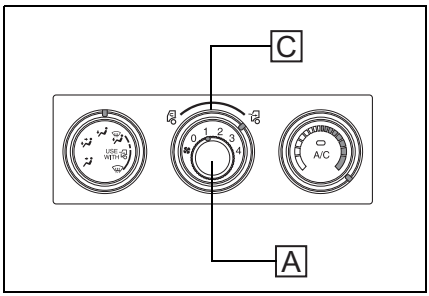
・ ダイヤルを選択することで吹き出し口を切り替えることができます。

位置	名称	吹き出し口（→ P.7-2）
	デフロスター	
	デフロスター・フット＊デフロスター優先	
	デフロスター・フット＊フット優先	
	フット	
	バイレベル	
	フェイス	

■換気

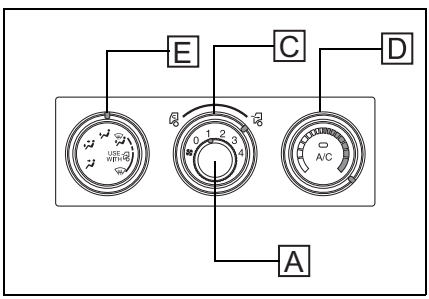
・ 走行中の自然換気および A による強制換気をすることができます。

1. C を の位置（外気導入）にします。
2. 強制換気をしたいときは、A を操作して送風量を調節します。



■暖房

1. E を の位置にします。
2. C を の位置（外気導入）にします。
3. A および D でお好みの送風量、温度に調節します。



知識

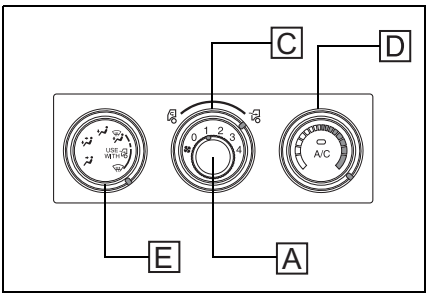
急速に暖房したいときは、C を の位置（内気循環）にすると効果的です。

■くもり取り

1. E を の位置にします。

・ 足元の暖房もしたいときは、E を の位置にします。

2. C を の位置（外気導入）にします。内気循環のままでは、くもりやすくなります。
3. A および D でお好みの送風量、温度に調節します。



知識

A で送風量を多くし、D で設定温度を高くすると、くもりがとれやすくなります。

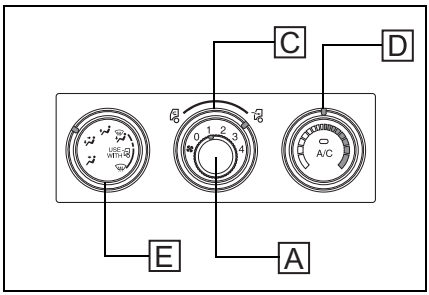
アドバイス

ドアガラスが凍るようなときは、E を または 位置にして、運転席側および助手席側の吹き出し口からの風がドアガラスに当たるように調整してください。

■バイレベル

・ 暖房時、顔がほてるときなど、暖かい風を足元へ、比較的温度の低い風を上半身に送風します。

1. E を の位置にします。
2. C を の位置（外気導入）にします。
3. A でお好みの送風量に調節します。
4. D を中間の位置にします。



■エンジンを暖機運転しながらの暖房

⚠警告

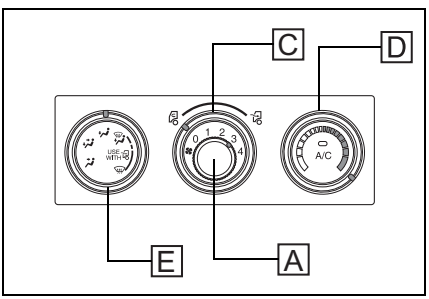
運転席での仮眠はしないでください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりチェンジレバーまたはセレクトレバーを動かしたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

暖機運転中や長時間停車中に暖機スイッチを「ON」にすると暖房の効果を高められます。

＊ 暖機スイッチの取り扱いは（→ P.5-11）

1. E を の位置にします。
2. C を の位置（内気循環）にします。
3. D を右にいっぱいまで回します。
4. A でお好みの送風量に調節します。



アドバイス

- エンジンを止めた状態やアイドリング回転で長時間ファンを作動させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。
- 長時間、C を内気循環の状態で使用すると室内の空気が汚れたり、ガラスがくもったりしますので、C を の位置（外気導入）にするか窓を開けるなどして、空気を入れ替えてください。
- ほこりや排出ガスが室内に入るときは、C を の位置（内気循環）にし、状態が変わったら外気導入にしてください。

■ベッドでの仮眠（寒冷時）

⚠警告

運転席での仮眠はしないでください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだりチェンジレバーまたはセレクトレバーを動かしたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

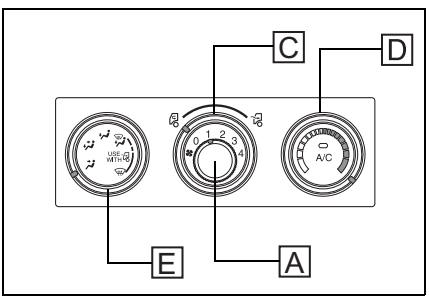
知識

バイレベルを使用して、ベッドで仮眠すると、フェイス吹き出し口からの送風が低温なためベッドで寒さを感じることがあります。

1. E を の位置にします。温風がベッド部へまわりやすくなります。

・ 助手席側のシートで仮眠するときは、E を の位置にします。

2. C を の位置（内気循環）にします。
3. D を右にいっぱいまで回します。
4. A でお好みの送風量に調節します。

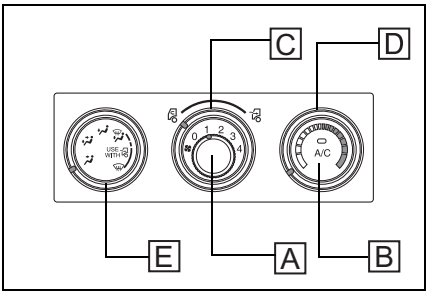


アドバイス

- エンジンを止めた状態やアイドリング回転で長時間ファンを作動させると、バッテリーあがりを起こす原因になります。
- 長時間、C を内気循環の状態で使用すると室内の空気が汚れたり、ガラスがくもったりしますので、C を の位置（外気導入）にするか窓を開けるなどして、空気を入れ替えてください。
- ほこりや排出ガスが室内に入るときは、C を の位置（内気循環）にし、状態が変わったら外気導入にしてください。

■冷房

1. E を の位置にします。
2. B を押して「ON」にします。
3. A および D でお好みの送風量、温度に調節します。

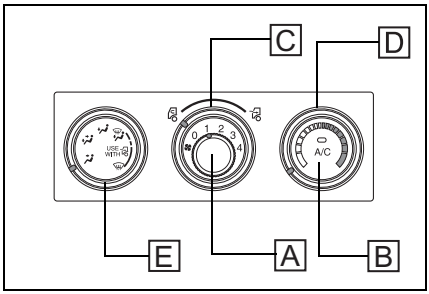


知識

急速に冷房したいときや外気温が非常に高いときは、C を の位置（内気循環）にすると効果的です。

■除湿

1. E をお好みの位置にします。
2. B を押して「ON」にします。
3. A および D でお好みの送風量、温度に調節します。



⚠警告

温度が非常に高いときにエアコンを作動させているときは、E を の位置にしないでください。外気温と窓の温度の温度差で窓の外側表面が曇り、走行中、視界がさまたげられ、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- エアコン「ON」時は除湿されます。ただし、長時間 C を内気循環の状態で使用すると室内の空気が汚れますので、C を の位置（外気導入）にするか窓を開けるなどして、空気を入れ替えてください。
- 炎天下、アイドリング状態でエアコンを使用するときは、C を の位置（内気循環）にして使用してください。

知識

- 外気温が低いとき（約 0 ℃以下）は、Bのスイッチを「ON」にしても、エアコンの圧力スイッチが働きコンプレッサーが停止しますのでCを の位置（外気導入）にして使用してください。
- 炎天下に駐車したときは、Aを「4」の位置にして窓を開け換気を行った後に、エアコンを作動させると効果的です。
- 冷房時湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、異常ではありません。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

アクセサリー・装備品の取り扱い 8

オーディオを上手にお使いいただくために P.8-2
アンテナ P.8-3
ステアリングスイッチ★ P.8-4
基本操作について P.8-5
各種設定 P.8-6
ラジオを聴く P.8-9
音楽ファイルを聞く P.8-11
トラブルシューティング P.8-12
Bluetooth® 機器 P.8-13
ハンズフリー P.8-15
安全に関する情報 P.8-15
ETC 2.0（自動料金収受システム）★ P.8-16
LED 室内灯 P.8-35
ステップランプ P.8-38
サンバイザー★ P.8-38
アクセサリーソケット P.8-39
USB ソケット★ P.8-40
灰皿 P.8-42
コンソールボックス類 P.8-42

オーディオを上手にお使いいただくために

⚠ 警告

- オーディオの操作は、車が止まっているときに行ってください。運転中の操作は、安全運転のさまたげとなります。
- 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度に調整してください。車外の音が聞こえない状態では、安全運転のさまたげとなります。
- フロントスピーカーは、オーディオと警報ブザーおよび音声アナウンスを再生するため、入力端子が 2 組ある（4 端子）特殊な形状のスピーカーを使用しています。日野純正品以外のスピーカーに交換すると、警報ブザーが吹鳴しなくなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあるほか、オーディオシステムおよびメーターの故障の原因となるおそれがあるため、日野純正品以外のスピーカーへの交換は絶対にしないでください。

⚠ 注意

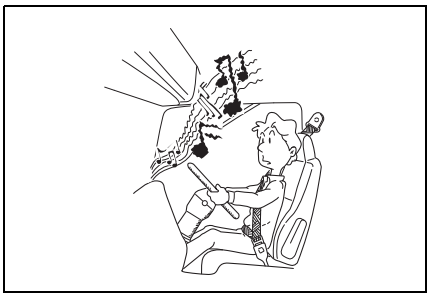
オーディオが故障する原因になりますので、次のことに注意してください。

- アンテナの近くに無線機のアンテナを立てないこと
- 異常に高出力の無線機を使用しないこと
- 溶接作業を行うときは、ラジオのコネクターを抜いてから行うこと

■FM 放送の特性

FM 放送は、AM 放送に比べて、音質が良く、ステレオ放送も行っております。しかし、FM 電波の性質上、移動する車での受信には、いくつかの特性があります。

● 音のフェードアウト（消失）現象



FM 電波は、物に反射されやすいので、車で建物などの陰を通過すると、音が途切れて、雑音を生じることがあります。

● マルチパス（ひずみ）現象

放送局からの直接の電波と、建物などで反射した電波を同時に受信すると発生します。高音域での雑音や、声が低音でかすれるなどの現象が起きます。

● FM 電波の直進性

- AM 電波に比べて直進性が強いので、建物や山などにさえぎられて受信できないことがあります。
- AM 電波に比べて受信範囲がかなり狭くなります。

● FM 放送の受信状態

・ 電波をキャッチするために、アンテナを立てた状態で使用してください。

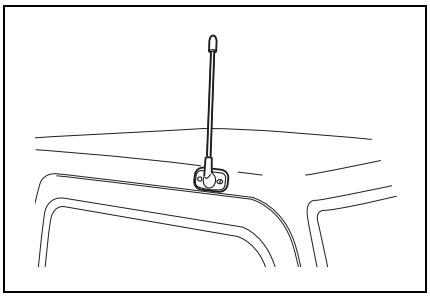
・ 車での受信は走りながらということから、アンテナの制限があります。このため、受信状態は家庭用に比べて良くはありません。

■スピーカーの取り扱い

スピーカーは、オーディオの再生および安全装置などのブザーの吹鳴や音声アナウンスの再生に使用しています。

＊ スピーカーについては（→ P.6-104）

アンテナ

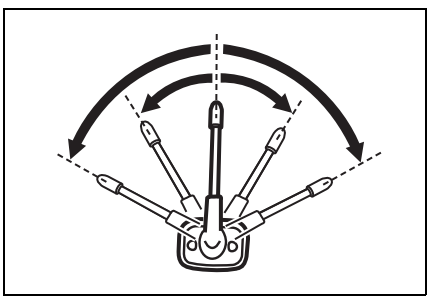


・ ラジオを聞くときに、立てて使用します。

・ アンテナは、運転席側ドアの上部にあります。

・ アンテナは 5 段階に角度を変えることができます。傾ける際は根本に近い所を持って操作してください。

＊ アンテナの破損を防ぐため、アンテナが街路樹などに当たる可能性がある場所を走行するときは、アンテナを一時的に車両前方または後方に倒してください。



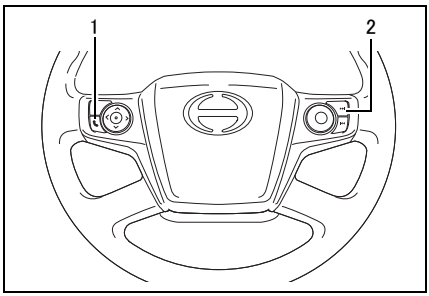
・ アンテナは、ねじ式脱着タイプです。洗車機に入れるとき等、アンテナを取り外すことができます。その際は添付のゴムキャップを取り付けてください。

知識

アンテナを立てた状態にしないと、ラジオの性能が十分発揮されません。

ステアリングスイッチ★

スイッチを操作することで表示の切り替えや機能の選択などができます。



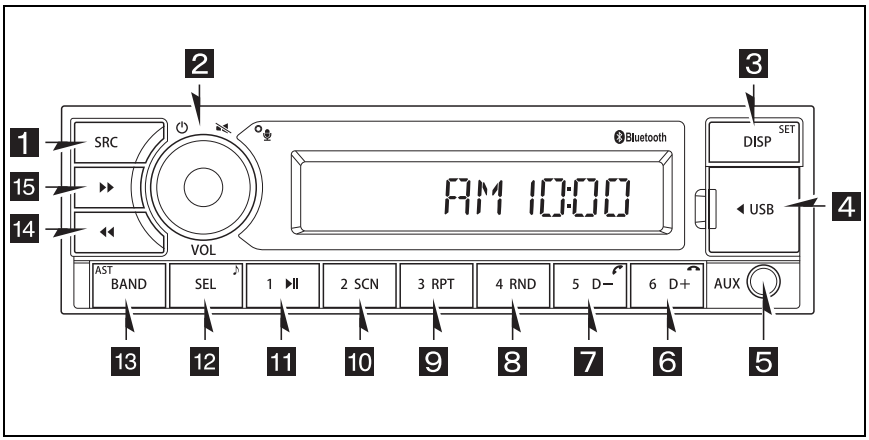
1. ボタン

- Bluetooth 対応電話のペアリング後、電話を受ける、もしくは通話を終了するときに使います。

2. CANCEL ボタン（解除スイッチ）

- ドライバー異常時対応システム（EDSS）の不用意な作動をキャンセルするために使用します。
- 解除スイッチを 2 回押すとシステム作動を解除します。
- EDSS 作動の詳細については（→ P.5-205）

基本操作について



1. ソースボタン
2. 電源ボタン
   ボリュームノブ
3. ディスプレーボタン
4. USB 入力端子
5. AUX 入力端子
6. 次のフォルダ（USBモード）*/
   電話を切る（ハンズフリーモード）*
7. 前のフォルダ（USB モード）*/
   着信転送（ハンズフリーモード）*
8. ランダム再生（USB モード）*
9. リピート再生（USB モード）*
10. スキャン再生*
11. 再生 / 一時停止*
12. セレクトボタン
13. バンド / AST ボタン
14. << ボタン
15. >> ボタン

* ラジオ局プリセット（短押し）/ ラジオ局プリセット（長押し）

▶ 電源を ON/OFF する

2 ボタンを押すと電源がオンになります。その後長押しすると電源がオフになります。

▶ 音量を調節する

2 ノブを左右に回すと音量が調節できます。右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。

▶ オーディオをミュートする

2 ボタンを短く押すと、ディスプレイパネルに MUTE と表示され、オーディオがミュートされます。もう一度 2 ボタンを押すか、2 ノブを右に回すとミュートが解除されます。

▶ ソースを選択する

1 ボタンを押すごとにソースが切り替わります。

- TUNER：ラジオを聴くことができます。
- USB：接続された USB 機器に記録された音楽ファイルを再生します。
- AUX：AUX 入力端子に接続された音源を室内スピーカーから聴くことができます。
- Bluetooth®：Bluetooth® で接続された機器に記録された音楽ファイルを再生します。

＊ USB と Bluetooth® は機器を接続した時のみメニューに表示されます。

各種設定

▶ システム設定メニューを開く

システム設定メニューを開くには、

1. 3 ボタンを長押しして、システム設定メニューに入ります。
2. 14 ボタンまたは 15 ボタンを押してメニュー項目の切り替えを行います。
3. 2 ノブを回すと、各メニュー項目で使用可能なオプションが選択できます。

▶ 時計を設定する

3 ボタンを長押しすると、手動で時刻を設定することができます。

1. 14 ボタンまたは 15 ボタンを押してメニューから CLOCK を選択します。
2. 12 ボタンを押し、2 ノブを左右に回して時間を調節します。
3. 12 ボタンを押して分を選択します。2 ノブを左右に回して分を調節します。
4. 12 ボタンを押して調整を完了します。

▶ システム設定メニューの項目

■ AM/FM チューナーオプション

- DX/LO：AM/FM チューナーの検索レベル。
- AM：AM 受信を有効 / 無効にします。
- AREA SEL：AM/FM チューナーを、ラジオの受信地域に合わせて調整します。

■ Bluetooth® オプション

- AUTO CON : Bluetooth® 自動接続のオン / オフを切り替える。
- AUTO ANS : 着信から 3 秒後に自動でハンズフリー通話が開始されます。

■ その他

- INFO SCL : タイトルやアーティスト情報の表示 / 非表示を切り替えます。
- CLOCK : 時・分を合わせます。
- VISIBLE : ラジオの電源を切っても時計が表示されます。
- 12/24H : ディスプレイに表示される時計の 12 時間 /24 時間表記を切り替えます。
- BEEP : 確認音のオン / オフを切り替えます。
- AUX SENS : AUX 入力の入力感度を Low、Medium、High の 3 段階で調節します。

▶ イコライザーを設定する

オーディオには複数のイコライザーが設定されています。

1. 12 ボタンを押してサウンド設定メニューに入ります。
2. 2 ノブを回して、「EQ オフ→ポップ→ロック→クラシック→ジャズ→カスタム」からプリセットを選択します。

▶ バランス、フェーダー、ラウドネスを調節する

バランス、フェーダー、ラウドネスを調節するには、

1. 12 ボタンを押してサウンド設定メニューに入ります。
2. 14 ボタン、または 15 ボタンを押して、BALANCE → FADER → CUSTOM * → LOUD を選択します。
3. 2 ノブを回し、必要に応じて、バランス、フェード、カスタム、ラウドネスを調節します。

* サウンドのカスタム設定をする場合は CUSTOM を選択します。（→サウンドのカスタム設定をする）

▶ サウンドのカスタム設定をする

サウンドのカスタム設定をするには、

1. 12 ボタンを押してサウンド設定メニューに入ります。
2. 14 ボタン、または 15 ボタンを押して、CUSTOM を選択します。
3. 12 ボタンを押し、14 ボタン、または 15 ボタンで BASS または TREBLE を選択します。
4. 2 ノブを回し、必要に応じて BASS、TREBLE を調節します。

▶ ASL を設定する

ASL は Automatic Sound Levelizer の略称です。

車両走行時の車速に応じて、オーディオの音量を自動的に調整し、ノイズによる聴感への影響を低減させます。

ASL を設定するには、

1. 12 ボタンを押してサウンド設定メニューに入ります。
2. 14 ボタン、または 15 ボタンを押して、ASL をディスプレイに表示させます。
3. 2 ノブを回し、必要に応じて OFF、1、2、3 に調節します。確定ボタンはありません。表示されたモードが設定されたモードになります。

- OFF：ASL オフ
- 1 ～ 3 ：ASL オン（数字が大きいほど、音量調整の強度が高い）（工場出荷時のデフォルト設定は OFF）

▶ 各種仕様

■一般

USB 給電：1.5A 5V

■FM ステレオラジオ

- 日本

周波数範囲：76 ～ 99 MHz

ステップ：100 kHz

- ラテンアメリカ

周波数範囲：87.9 ～ 108.0 MHz

ステップ：100 kHz

- メキシコ

周波数範囲：87.5 ～ 107.9 MHz

ステップ：200 kHz

- その他

周波数範囲：87.5 ～ 108.0 MHz

ステップ：50 kHz

■AM ラジオ

- 日本

周波数範囲：522 ～ 1629 kHz

ステップ：9 kHz

＊ プリセットのデフォルト設定では、ボタン 6 を押すと 1620 kHz（交通情報局）にチューニングされます。

- ラテンアメリカ

周波数範囲：530 ～ 1620 kHz

ステップ：5 kHz

- メキシコ

周波数範囲：530 ～ 1710 kHz

ステップ：10 kHz

- その他

周波数範囲：522 ～ 1629 kHz

ステップ：9 kHz

■ Bluetooth®

周波数帯：2400–2480 MHz

動作範囲：>10 メートル

送信出力：7 dBm

最大データレート：3 Mbps

ラジオを聴く

▶ 受信エリアの初期設定をする

このオーディオは、周波数範囲の異なる複数の地域で動作するように設計されています。

受信エリアは、起動時のラジオエリア設定で設定できます。

1. 2 ボタンを押して電源を入れます。
2. 2 ボタンを回して JAPAN、LATAM、MEXICO、OTHER から選択します。
3. 12 ボタンを押して設定を完了します。ディスプレイに「SET OK」が表示されます。

＊ 20 秒以内に設定が完了しない場合は、自動的に初期設定の地域（JAPAN）に設定されます。

＊ 設定が完了しなかった場合、次回電源 ON 時、ラジオの受信エリア設定モードが表示されます。

▶ 受信エリアのリセット

1. 3 ボタンを長押しして設定メニューを表示します。
2. 14 または 15 ボタンを押して、AREA SEL メニュー項目を選択します。
3. 2 ボタンを回して JAPAN、LATAM、MEXICO、OTHER から選択します。
4. 12 ボタンを押して設定を完了します。ディスプレイに「SET OK」が表示されます。

▶ 受信エリアを初期化する

補機バッテリーのマイナス端子を外して 10 分以上経過させると、設定履歴が消去されるため、次回の起動時に AREA SEL という点滅表示がされます。その後は、(→「受信エリアの初期設定をする」)の手順に従い、受信エリアの設定を行ってください。

▶ AM/FM ラジオの切り替えをする

1 ボタンを押して Tuner を選択すると AM/FM ラジオの切り替えができます。

▶ バンド選択をする

1. 13 ボタンを押して、選択可能なバンドを選択します。
2. バンドは以下の順で切り替わります。FM1 → FM2 → FM3 → AM1 → AM2

▶ 周波数のチューニングを行う

■自動チューニング

1. 自動チューニングを行う場合は、14 ボタンまたは 15 ボタンを押します。
2. オーディオが次の受信局を探して自動選択します。

■手動チューニング

1. 手動チューニングを行う場合は、14 ボタンまたは 15 ボタンを 2 秒以上押します。
2. ディスプレイに MANUAL と表示されます。
3. もう一度 14 ボタンまたは 15 ボタンを押すと、周波数が増減します。

▶ お気に入りを登録する

FM ラジオは 18 チャンネル、中波放送では 12 チャンネルがお気に入り登録可能です。

1. チャンネルを保存するお気に入りのバンクを選択し、保存するチャンネルの周波数をチューニングします。
2. チューニング後に 6 – 11 ボタンのいずれかを 2 秒以上押すと、チャンネルが保存されます。

▶ 登録したお気に入りを呼び出す

6 – 11 ボタンを押すと、登録したお気に入りが呼び出されます。

▶ オートメモリーストア

13 ボタンを 2 秒間押すと、最適な受信局が検索され、登録されます。

音楽ファイルを聞く

▶ USB 機器を読み込む

1. USB機器のプラグを 4 スロットに差し込みます。
2. 液晶ディスプレイに USB と表示されます。
3. 音楽の再生が自動的に始まります。

▶ USB 機器を取り外す

1. 1 ボタンを押してUSBモード以外に切り替えてください。
2. USB 機器を取り外してください。

▶ 曲を再生 / 一時停止する

11 ボタンを押すと、曲の再生が一時停止します。
再度 11 ボタンを押すと、曲の再生が再開します。

▶ 次/前のMP3トラックを選択する

前のトラックを選択するには、
14 ボタンを押します。

次のトラックを選択するには、
15 ボタンを押します。

▶ 早送り / 早戻しをする

早戻しをするには、14 ボタンを２秒以上押します。

早送りをするには、15 ボタンを２秒以上押します。

▶ ランダム再生をする

ランダム再生をするには、8 ボタンを押します。

▶ リピート再生をする

9 ボタンを押すと、リピートファイル→リピートフォルダ→リピートオフの順で切り替えが行われます。

▶ スキャンモードの切り替えをする

10 ボタンを押すと、スキャンモードが有効になります。

再度 10 ボタンを押すと、スキャンモードが無効になります。

＊ スキャンモードでは、すべてのファイルを 10 秒間ずつ順番に再生します。

トラブルシューティング

音が出ない、煙や悪臭がするなどの異常な状態で使用しないでください。

火災や感電の原因になることがありますので、すぐに使用を中止し、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

▶ 電源が入らない

原因（1）：ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

対処方法（1）：ケーブルの接続を確認してください。

原因（2）：ヒューズが焦げている可能性があります。

対処方法（2）：交換前と同じアンペア数の新品ヒューズと交換してください。

▶ 音が出ない

原因：音量が最小になっているか、ミュートがオンになっている可能性があります。

対処方法：音量を確認するか、ミュートをオフにしてください。

▶ ラジオ局が受信できない

原因：アンテナが正しく接続されていない可能性が可能性があります。

対処方法：アンテナを正しく接続してください。

▶ ラジオにノイズが入る

原因（1）：アンテナが損傷している可能性があります。

解決策（1）：アンテナロッドが正しく取り付けられていることを確認してください。

原因（2）：角度が正しくない可能性があります。

解決策（2）：アンテナは可倒式です。アンテナの角度を垂直方向に調整してください。

▶ USB デバイスが読み込めない

原因：ストレージが NTFS 形式でフォーマットされている可能性があります。

NTFS はサポートされていません。

対処方法：ストレージを FAT または FAT32 形式にフォーマットしてください。

機種によってはフォーマット形式の違いにより、データを正しく読み込めない場合があります。

▶ エラーメッセージが出る

● USB ERR が表示される

原因（1）: USB メモリのフォーマット読み取りが失敗している。

対処方法（1）: 正確なフォーマット形式の USB メモリをご利用ください。

原因（2）: ファイルの形式が対応外である。

対処方法（2）: 解析可能な形式のファイルをご利用ください。

原因（3）: 音源ファイル破損している。

対処方法（3）: 破損してない音源ファイルをご利用ください。

● NO FILE が表示される

原因 : USB メモリに識別可能な音源ファイルがない可能性があります。

対処方法 : USB メモリに正確な音源ファイルを入れてください。

● USB LOADING が表示される

常時表示の場合 : USB メモリ読み込み障害が発生している可能性があります。（USB 読み込み時は一時的に表示される場合があります）

USB メモリ内のファイルが多すぎる場合 : USB LOADING が表示されることがありますが、通常は音楽再生画面に戻ることができます。

対処方法（1）: USB メモリを差し直してください。

対処方法（2）: 暫くお待ちください。

対処方法（3）: USB メモリの重いファイルを削除してください。

Bluetooth® 機器

▶ Bluetooth® を接続をする

はじめて Bluetooth® 機器を利用するときは、オーディオに登録（ペアリング）する必要があります。

1. 1.オーディオの電源を入れます。
2. 2.携帯電話のBluetooth®機能をオンにし、オーディオから 3 m 以内の距離で Bluetooth® 機器を検索します。
3. 3. 携帯電話のペアリングリストから「Bluetooth_Audio」を選択します。
4. 4. ペアリングが成功すると、オーディオのディスプレイ上に Bluetooth® と HFP アイコンが点灯します。

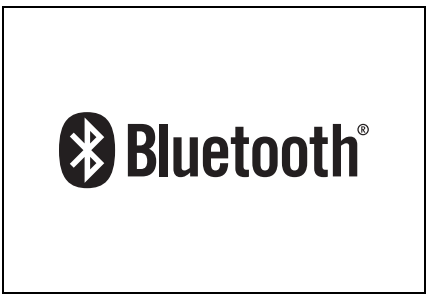
A2DP が接続されると、A2DP のアイコンが点灯します。

▶ Bluetooth®

Bluetooth® は、Bluetooth® SIG, Inc. により提唱されている携帯情報機器向けの短距離無線通信技術です。

2.4GHz 帯の電波を利用して、Bluetooth® 対応機器同士で通信を行います。

このオーディオでは、Bluetooth® に対応した携帯電話およびオーディオ機器を接続して利用できます。



Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。Huizhou Foryou General Electronics Co.,Ltd. は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

▶ Bluetooth® モードを選択する

1 ボタンを押して BT mode を選択します。

▶ ミュージックモードを切り替える

A2DP * : A2DP のミュージックモードで、11 ボタンを押して一時停止 / 再生モードにします。

14 ボタンまたは 15 ボタンを押して前または次のトラックに移動します。

3 ボタンを押して、ファイルからすべての情報を取得します (タイトル、アーティスト、アルバム)。

* A2DP とは Advanced Audio Distribution Profile の略称です。
この機能に対応している携帯電話はステレオ音声での再生が可能です。
対応していない携帯電話はモノラル音声が再生されます。

▶ Bluetooth® 接続を解除する

6 ボタンを 2 秒間押し続けると、Bluetooth® 接続が解除されます。

ハンズフリー

▶ ハンズフリー通話を行う

Bluetooth® 接続された携帯電話に着信があったとき、通話をすることができます。

1. 7 ボタンを押して通話を開始します。
2. 6 ボタンを押して通話を終了します。

▶ Bluetooth® マイクミュートするには

通話中に 2 ボタンを押すと、マイクがミュートになります。もう一度押すと解除されます。

安全に関する情報

▶ 安全に関する情報

■注意事項

● 対応電源

電源は DC 24 V のみ対応しています。

必ずマイナスアースの電気系統に接続してください。

● 機器の脱着時

車両のバッテリーのマイナス端子を外してから作業を実施してください。

● ヒューズ交換時

交換前と同じアンペア数のものを使用してください。

異なるアンペア数のものを使用すると、機器に重大な損傷を与えるおそれがあります。

● 機器内部への異物落下

故障や感電の原因になるため、機器の内部に小さなものが落ちないようにしてください。

● 高温、低温時に長時間停車した際の注意

車内の温度が適正温度になるのを待ってから機器を使用してください。

■操作する前に

● ご使用時の音量について

車外の音（ホーン、サイレンなど）が聞こえる程度の音量で使用してください。

大音量で使用をされると、事故やトラブルの原因となります。

● 運転中の操作について

車両を安全な場所に停車してから操作を行ってください。

走行中の操作は、事故やトラブルの原因となります。

● 修理・分解について

お客様ご自身で修理や分解をしないでください。

オーディオが故障した際は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

ETC 2.0（自動料金収受システム）★

ETC は、従来の有料道路での手渡しによる料金支払い方法（現金や回数券、カード）に代わる新しいシステムで、無線通信によって料金所と車両との間の料金情報をやりとりするため、ノンストップ、キャッシュレスで料金所を通過できるようになります。

ETC2.0 では、ETC 機能に加え、高速道路上に設置された ITS スポットからの VICS 情報サービスに加え、音声案内による渋滞回避・安全運転支援・災害時の支援に対応しています。

知識

ETC とは
Electronic Toll Collection System の略で自動料金収受システムの意味です。

ITS スポットとは
高速道路などに設置されており、ETC2.0 等へ向けたサービスを提供するためのアンテナです。

VICS 情報とは
安全運転支援・渋滞回避支援・災害支援といった各種支援を行うために、ITS スポットから提供される情報です。

* ETC2.0 は、一般財団法人 ITS サービス高度化機構の登録商標です。

■セットアップについて

ETC をご利用になるには、ETC2.0 車載器が取り付けられる車両の情報等を ETC2.0 車載器に登録する“セットアップ”が必要となります。また、車両の変更や、ナンバープレート・自動車登録番号を変更した場合には新しい車両の情報等を ETC2.0 車載器に登録する“再セットアップ”が必要となります。詳しくは最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

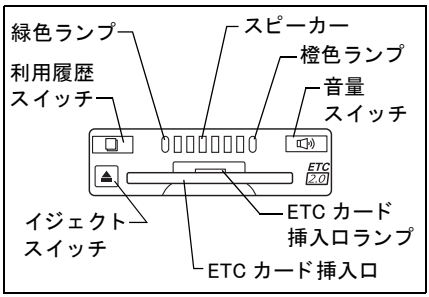
ASL ID が不明な場合は、HIDO（Highway Industry Development Organization）ホームページ内の「ASL-ID お問い合わせ対応サービス」にてお問い合わせください。

参考 URL：https://www.hido.or.jp/aslid/ （25 年 7 月時点）

アドバイス

セットアップされていない場合、ETC カードを差し込んでも認証できません。

■各部の名称



⚠警告

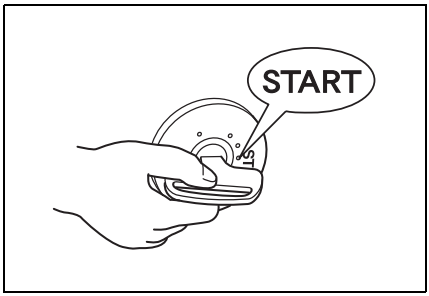
- 故障や異常状態で使用しないでください。万一、異物が入った、煙が出る、変なに匂いがするなどの異常があった場合には、直ちに使用を中止し、最寄りの日野販売会社にご相談ください。
- 分解や改造をしないでください。ETC2.0 車載器の故障や、火災・感電等の原因になります。分解や改造を行った場合は、保証が受けられなくなる場合があります。本製品を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- ETC2.0 車載器につながるコードを傷つけないでください。ETC2.0 車載器の故障や、火災・感電等の原因になります。コードが傷ついた場合はすぐに使用を中止し、お買い上げ店に修理を依頼してください。
- ETC2.0 車載器を分解・改造すると法律により罰せられることがあります。
- ETC2.0 車載器に貼ってあるシールははがさないでください。このシールは電波法の基準に適合していることを証明するものです。シールがはがされてしまったときは、最寄りの日野販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 走行中は安全のため、運転者は利用履歴の確認、音量調整などの設定変更の操作は行わないでください。
- アンテナ（インストルメントパネルに内蔵）は取り付けた状態から変えないでください。路側アンテナと通信できず、開閉バーが開かないことがあります。取り付け状態を変えてしまったときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で再調整してください。
- アンテナ上方に物を置かないでください。路側アンテナと通信できず、開閉バーが開かないことがあります。なお、路側アンテナは料金所付近以外にもありますので、有料道路を通行中はアンテナ上方に物を置かないでください。
- ETC2.0 車載器の ETC カード挿入口に異物などを入れないでください。ETC2.0 車載器が故障するおそれがあります。
- ETC2.0 車載器に衝撃を与えないでください。ETC2.0 車載器が故障、破損するおそれがあります。
- 水や液体などを付着させないでください。ETC2.0 車載器が故障、破損するおそれがあります。
- ワックス、シンナー、アルコールなどで本体を絶対に拭かないでください。ETC2.0 車載器が変形、故障するおそれがあります。

■乗車時の操作

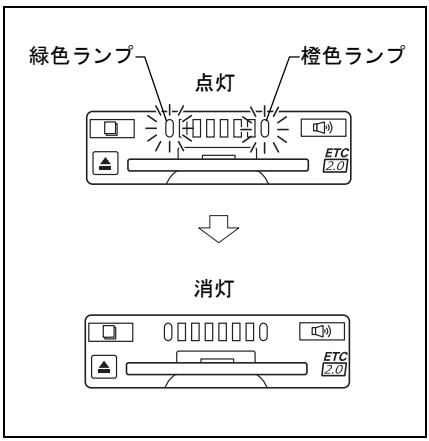
1. エンジンを始動します。



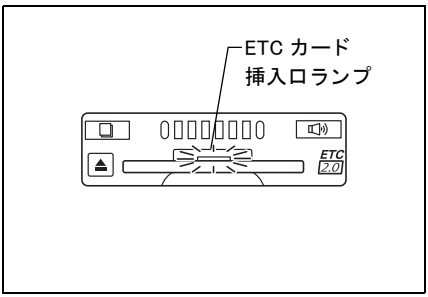
アドバイス

ETC2.0 車載器の電源は、スターターキーを「ACC」または「ON」の位置にすると入りますが、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンを始動してください。

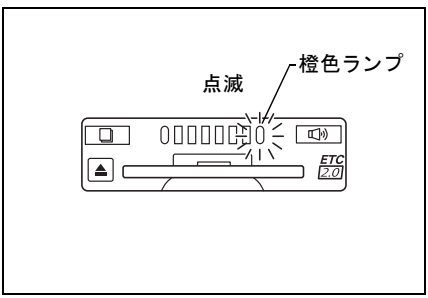
2. ETC2.0 車載器の電源が入り、緑色ランプと橙色ランプが点灯して、5 秒後に消灯します。



・ ETC カード挿入口ランプは、白色が点灯したままです。（GPS 測位ができると緑色に変わります）



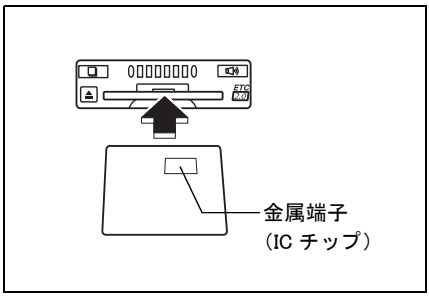
・ ETC2.0 車載器に異常がある場合は、橙色ランプが点滅し、「ピーッ、異常が発生しました。ETC をご利用できません。コード 04。」と音声案内します。
このとき、音量を「0」に調節していた場合でも、音声案内をします。



アドバイス

- 異常を示す音声案内が出た場合は、いったんエンジンを停止させ、再度エンジンを始動してください。それでも異常を示す音声案内が出る場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。
- 各エラーの内容については「エラーコード一覧」を参照してください。（→ P.8-31）

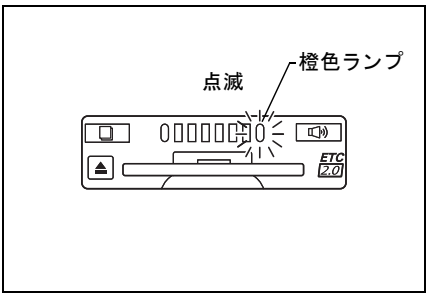
3. ETC カードの挿入方向を確認し（IC チップが上側）、ブザー音が「ピッ」と 1 回鳴るまでしっかりと ETC2.0 車載器に差し込みます。
このとき、音量を「0」に調節していた場合は、ブザー音が鳴りません。



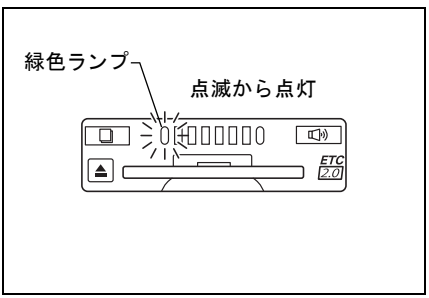
アドバイス

- ETCカードは必ずETC2.0車載器の電源が入った後に挿入してください。ETCカード内のデータが破損するおそれがあります。
- 正規に登録したETCカード以外は使用しないでください。

＊ セットアップされていない ETC2.0 車載器に ETC カードを差し込むと、橙色ランプが点滅し、「ETC セットアップされていません。」と音声案内します。
このとき、音量を「0」に調節していた場合でも、音声案内をします。



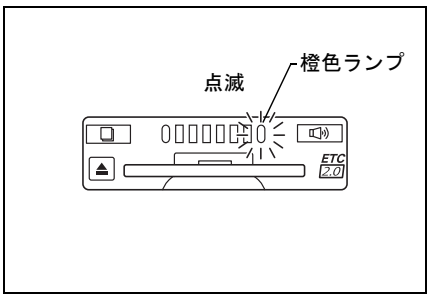
4. ETC カードの認証中は緑色ランプが点滅します。認証終了後は緑色ランプが点灯し、「ポーン、ETC カードが挿入されました。」と音声案内します。
このとき、音量を「0」に調節していた場合は、音声案内をしません。



アドバイス

- 緑色ランプの点滅中はETCカードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。
- ETCカードが差し込まれていない状態では、緑色ランプは点灯しません。

・ ETC カードに異常がある場合は、橙色ランプが点滅し、以下のいずれかを音声案内します。
「ピッピッ、カードを読めません。コード 02。」
「ピッピッ、カードを読めません。コード 03。」
「ピッピッ、カードを読めません。コード 05。」
このとき、音量を「0」に調節していた場合でも、音声案内をします。



アドバイス

- ETC カードに異常が発生した場合は、ETC カードの挿入方向を確認し、再度差し込んでください。
- 毎回異常になる場合は「エラーコード一覧」を参照し、最寄りの日野販売会社の整備工場にお問い合わせください。（→ P.8-31）

▶ 音量調節

・ 音量スイッチを押してお好みの音量に調節します。

・ 音量は「0」～「4」の範囲で調節することが可能です。（下表を参照してください）

切り替え順序	音量
1	音量「0」（消音）
2	音量「1」（最小）
3	音量「2」
4	音量「3」
5	音量「4」（最大）

アドバイス

●音量を「0」に調節した場合でも、下記の場合では音声案内をします。

・ 使用者への警告時、または ETC2.0 車載器の異常発生時
（例：カード抜き忘れ警告）

＊ 詳しくは「エラーコード一覧」を参照してください。（→ P.8-31）

・ 緊急度の高い VICS 情報を受信したとき（例：安全運転支援情報）

・ 使用者がスイッチ操作をしたとき
（例：ETC カード抜き忘れ警告を ON/OFF の切り替え）

▶ ETC カード挿し忘れ警告

ETC2.0 車載器の電源が入ったあとに ETC カードが挿し込まれていない場合、5 秒後にピッピッと鳴り、「ETC カードが挿入されていません。」と音声案内します。

▶ ETC カード有効期限通知

ETC カードの認証処理が終了すると、ポーンまたはピッピッと鳴り、ETC カードの認証確認結果や ETC カードの有効期限を音声案内します。GPS 衛星から取得した年月日情報と ETC カードの有効期限情報を比較するため、ETC カードを挿入した時点での ETC2.0 車載器の GPS 測位状態により、下表のように音声案内します。

	ETC カードを挿入した時点＊1 の日にち		
	ETC カード 有効期限月の 20 日より前	ETC カード 有効期限月の 20 日～月末日	ETC カード 有効期限より後
挿入口ランプ： 白色 （GPS 測位していない状態）	ポーン、「ETC カードが挿入されました。 有効期限は〇〇〇〇年〇〇月です。」＊2		
挿入口ランプ： 白色⇒緑色 （GPS 測位したとき）	—	ポーン、 「ETC カードの有効期限は今月末です。」 ＊3	ピッピッ、 「ETC カードの有効期限が切れています。」＊3
挿入口ランプ： 緑色 （GPS 測位した状態）	ポーン、 「ETC カードが挿入されました。有効期限は〇〇〇〇年〇〇月です。」＊2	ポーン、 「ETC カードが挿入されました。有効期限は今月末です。」 ＊3	ピッピッ、 「ETC カードの有効期限が切れています。」＊3

＊1　ETC カードを挿入、または、ETC カードを挿入したままでエンジンを始動したとき

＊2　ETC カードの有効期限通知を「OFF」に設定した場合、有効期限に関する音声案内は行われません。

＊3　音量を「0」に設定していても音声案内します。

⚠ 注意

本機能は、ETC カードの有効期限を簡易的にお知らせする機能です。有効期限は、必ず ETC カードをご確認の上、ETC2.0 車載器をご使用ください。

▶ ETC カード挿し忘れ警告／ETC カード有効期限通知切り替え機能

カードが挿入されていない状態で、音量スイッチと利用履歴スイッチを同時に 1 秒以上押し続けると、カード挿し忘れ警告と ETC カード有効期限通知の ON / OFF を切り替えることができます。

切り替え順序	音声案内
1	ピッ、カード挿し忘れ警告を ON しました。 ピッ、カード有効期限通知を ON しました。
2	ピッピッ、カード挿し忘れ警告を OFF しました。 ピッ、カード有効期限通知を ON しました。
3	ピッピッ、カード挿し忘れ警告を OFF しました。 ピッピッ、カード有効期限通知を OFF しました。
4	ピッ、カード挿し忘れ警告を ON しました。 ピッピッ、カード有効期限通知を OFF しました。

▶ ETC カード抜き忘れ警告

ETC カードを抜き取る前に車両キースイッチを「OFF」にすると、ピーッ「カードが残っています。」と音声案内します。

▶ ETC カード抜き忘れ警告切り替え機能

カードを挿入した状態で、音量スイッチと利用履歴スイッチを同時に 1 秒以上押し続けると、カード抜き忘れ警告の ON / OFF を切り替えることができます。

切り替え順序	音声案内
1	ピッ、カード抜き忘れ警告を ON しました。
2	ピッピッ、カード抜き忘れ警告を OFF しました。

▶ VICS 情報の音声案内

ITS スポットから受信した VICS 情報を自動的に音声案内します。
受信した VICS 情報の種類によっては、プププまたはププと鳴った後に音声案内します。
受信した VICS 情報によっては、音声案内が聞き取りにくい場合があります。

▶ VICS 情報の音声案内切り替え機能

カードを挿入した状態で、音量スイッチを 1 秒以上押し続けると VICS 音声案内の ON/OFF を切り替えることができます。

切り替え順序	音声案内
1	ピッ、VICS 情報通知を ON しました。
2	ピッピッ、VICS 情報通知を OFF しました。

アドバイス

VICS 通知を「OFF」にしていても、緊急度の高い情報を受信した場合は音声案内を行います。

▶ VICS 情報の再案内

利用履歴スイッチを押すと、過去に音声案内した最新の VICS 情報 1 件を再案内します。

アドバイス

- VICS 情報の音声案内中（再案内も含む）に利用履歴スイッチを押した場合は、音声案内中の VICS 情報を再案内します。
- 受信した時点から 30 分以上経過した VICS 情報は、情報の精度が低下するため、自動的に削除されます。
- ETC2.0 車載器の動作状態によっては、スイッチ操作が無効になる場合があります。

■走行中の状態

警告

走行中は、ETC2.0 車載器から ETC カードの抜き差しをしないでください。路側アンテナが料金所付近以外にもあり、路側アンテナとの通信時に ETC カードを抜き取ると、ETC カード内のデータが破損するほか、ハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

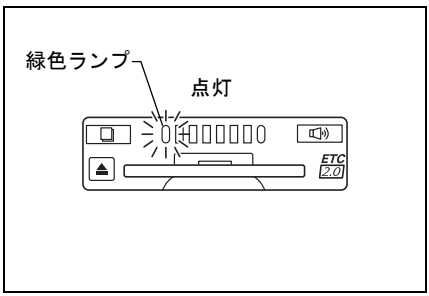
- ETC 車線通過時は、ETC 車線周辺に表示されている案内表示板や標識、路側表示器の表示等にしたがって走行してください。万一、路側表示器に停止の表示があった場合は料金所係員の指示にしたがってください。
- ETC 車線に進入するときは、十分減速してください。
- ETC 車線の直前で ETC カードを ETC2.0 車載器に差し込まないでください。ETC カードの確認に時間が必要なため、ETC が利用できないおそれがあります。
- ETC 車線で並走や追い抜きはしないでください。路側アンテナと通信できず、開閉バーが開かないことがありますので絶対に行わないでください。

アドバイス

- ETC2.0 車載器の緑色ランプが点滅中は、ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。
- ETC カードは、必ず入口料金所で使用した ETC カードで出口料金所を通過してください。
- 出口に ETC 車線が無い場合は、混在車線または一般車線の料金所の料金所係員に ETC カードを渡し精算処理を行ってください。
- ETC車線を通過してもETC2.0車載器の反応がない場合は通信が正常に行われておりません。
- ETC を利用するには、あらかじめ ETC カードを ETC2.0 車載器に挿入しておく必要があります。ETC カードが挿入されていない状態では ETC を利用できません。
- 入口を通行券で通過した場合、ETC 出口の通過、ETC での精算は利用できません。

▶ ETC 車線入口（料金所、検札所）を通過した場合

1. 案内表示板にしたがって十分減速し ETC 車線に進みます。
2. ETC 車線入口（料金所、検札所）との通信が正常に行われた場合、緑色ランプが点灯しブザー音が「ピンポン」と鳴ります。
   このとき、音量を「0」に調節していた場合は、ブザー音は鳴りません。



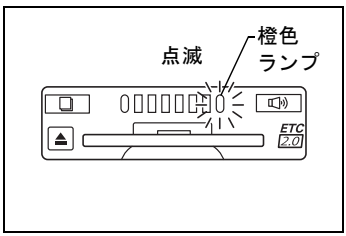
アドバイス

ETC カード未挿入お知らせアンテナや経路チェックアンテナを通過した場合も、「ピンポン」と鳴ります。ただし場合によってはブザー音が鳴らないときもあります。

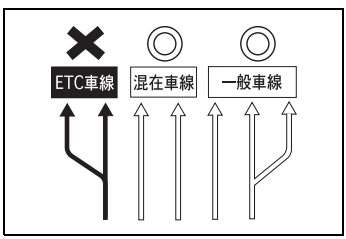
アドバイス

- ETC 車線入口（料金所、検札所）との通信が正常に行われなかった場合、ETC2.0 車載器の橙色ランプが点滅し、以下のいずれかを音声案内します。
「ピーッ、ETC ゲートを通過できません。」
「ピーッ、ETC をご利用できません。コード 07。」
このとき、音量を「0」に調節していた場合でも、音声案内をします。

＊ ETC カードが挿入されていない状態で ETC 車線に進入した場合、「ピーッ、ETC カードが挿入されていません。」を音声案内します。



- ETCカード未挿入お知らせアンテナを通過したときに「ピーッ、ETC カードが挿入されていません。」と音声案内された場合は、その先の料金所では ETC を利用できません。混在車線または一般車線へ進入してください。なお、ETC カード未挿入お知らせアンテナが設置されていない料金所もあります。
- ETCカード未挿入お知らせアンテナや経路チェックアンテナを通過した場合も同じ状態になります。



アドバイス

各エラーの内容については「エラーコード一覧」を参照してください。（→P.8-31）

3. 路側表示器に「通行許可」を意味する表示が出て、開閉バーが開き、通行できます。

⚠ 注意

- ETC2.0 車載器では ETC カードの有効期限切れを確認できないため、有効期限切れの場合でも、緑色ランプが点灯します。
- ETC カードの有効期限が切れていると ETC 車線の開閉バーが開かず、通行できません。ETC カードが有効期限切れでないことを確認してください。

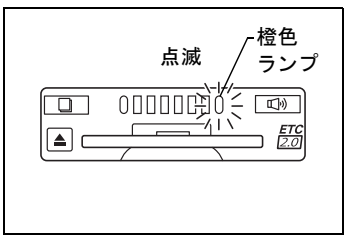
▶ ETC 車線出口（精算用）を通過した場合

1. 案内表示板にしたがって十分減速し ETC 車線に進みます。
2. ETC 車線出口（精算用）との通信が正常に行われた場合、「ポーン、料金は〇〇円です。」と音声案内します。このとき、音量を「0」に調節していた場合は、音声案内をしません。このときの利用履歴が ETC カードに書き込まれます。

アドバイス

- 有料道路によってはETC車線入口通過時に料金を音声案内する場合があります。
- 有料道路の利用状況によっては、払い戻しアンテナより利用料金が割引かれる場合があります。
- 音声案内による料金は、割引などにより実際と異なる場合があります。
- ETC 車線出口（精算用）との通信が正常に行われなかった場合、ETC2.0 車載器の橙色ランプが点滅し、以下のいずれかを音声案内します。
  「ピーッ、ETC ゲートを通過できません。」
  「ピーッ、ETC をご利用できません。コード 07。」
  このとき、音量を「0」に調節していた場合でも、音声案内をします。

＊ ETC カードが挿入されていない状態で ETC 車線に進入した場合、「ピーッ、ETC カードが挿入されていません。」を音声案内します。



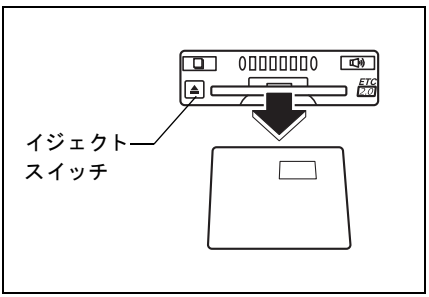
- 各エラーの内容については「エラーコード一覧」を参照してください。（→ P.8-31）

3. 開閉バーが開き、通行できます。

＊ 料金は月単位で銀行口座からクレジット会社などにより引き落としされます。

■降車時の操作

1. 車を停車し、イジェクトスイッチを押して ETC カードを ETC2.0 車載器から抜きます。



アドバイス

緑色ランプの点滅中は ETC カードを抜かないでください。ETC カード内のデータが破損するおそれがあります。

⚠注意

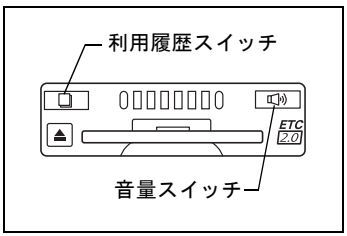
以下のおそれがあるため、ETC カードを車内に放置したまま車から離れないでください。

- ETC カードの盗難
- 車室内温度上昇による ETC カードの破損
- サイバー攻撃による ETC カード内に記録された情報の漏洩

2. エンジンを停止します。

アドバイス

- ETCカードをETC2.0車載器から抜く前にスターターキーを「LOCK」の位置にすると、「ピーッ、カードが残っています。」と音声案内して、抜き忘れをお知らせします。
  このとき、音量を「0」に調節していた場合でも音声案内をします。
- 抜き忘れ音声案内を消音に設定することもできます。ETC カードを挿入した状態で、利用履歴スイッチと、音量スイッチを同時に 1 秒以上押し続けると、「ピッピッ、カード抜き忘れ警報を OFF しました」と音声案内して、抜き忘れ音声案内をしません。



再度抜き忘れ音声案内をしたい場合は、ETC カードを挿入した状態で、利用履歴スイッチと、音量スイッチを同時に 1 秒以上押し続けると、「ピッ、カード抜き忘れ警報を ON しました」と音声案内して、抜き忘れ音声案内をします。

■アンテナ外れ警告

ETC カードを ETC2.0 車載器に差し込んだとき、アンテナと ETC カードの接続異常が発生していると、「ピーッ、アンテナの接続が異常です。ETC をご利用できません。コード 07。」と音声案内し、橙色ランプが点滅します。

アドバイス

- ETC カードを抜き取るまでブザー音「ピッピッ」が鳴り続けます。
- エンジンを停止して ETC2.0 車載器とアンテナが正しく接続されているか確認してください。その後、スタータースイッチを「ACC」または「ON」位置にし、ETC カードを ETC2.0 車載器に差し込んで、緑色ランプが点灯することを確認してください。

＊ 詳しくは最寄りの日野販売会社の整備工場にお問い合わせください。

■利用履歴の確認

利用履歴確認モードにすると、高速道路の通行料金および利用日が音声で確認できます。

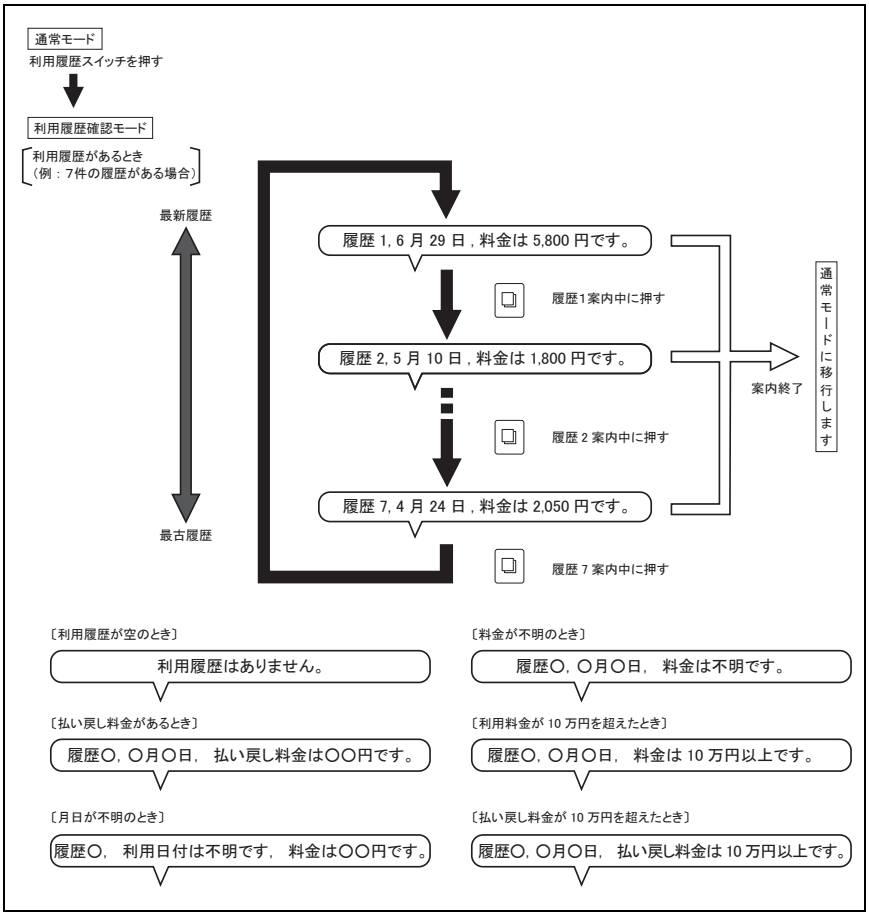
⚠ 注意

ETC 車線付近では、利用履歴確認モードにしないでください。路側アンテナと通信ができなくなり、車両が開閉バーに衝突するおそれがあります。

・ ETC2.0 車載器前面の利用履歴スイッチを 1 秒以上押し続けると利用履歴確認モードになります。

アドバイス

- 利用履歴の確認件数は最大 100 件までですが、使用する ETC カードの種類により最大件数は変わります。ETC カードの発行会社にお問い合わせください。
- 利用履歴確認モードで最初に音声案内される履歴は、ETC 車線出口（精算用）の最新履歴が音声案内されます。
- 利用履歴の確認はETC2.0車載器にETCカードを挿入していないとできません。
- 音量を「0」に調節していた場合でも音声案内を行います。


通常モード
利用履歴スイッチを押す
利用履歴確認モード
利用履歴があるとき
（例：7件の履歴がある場合）
最新履歴
最古履歴
履歴 1, 6 月 29 日 , 料金は 5,800 円です。
履歴1案内中に押す
履歴 2, 5 月 10 日 , 料金は 1,800 円です。
履歴 2 案内中に押す
履歴 7, 4 月 24 日 , 料金は 2,050 円です。
履歴 7 案内中に押す
案内終了
通常モードに移行します
〔利用履歴が空のとき〕
利用履歴はありません。
〔料金が不明のとき〕
履歴〇, 〇月〇日, 料金は不明です。
〔払い戻し料金があるとき〕
履歴〇, 〇月〇日, 払い戻し料金は〇〇円です。
〔利用料金が 10 万円を超えたとき〕
履歴〇, 〇月〇日, 料金は 10 万円以上です。
〔月日が不明のとき〕
履歴〇, 利用日付は不明です, 料金は〇〇円です。
〔払い戻し料金が 10 万円を超えたとき〕
履歴〇, 〇月〇日, 払い戻し料金は 10 万円以上です。

■エラーコード一覧

エラーコード	音声案内	ランプ表示	異常内容	対処方法
コード 01	「ピーッ、ETC カードが挿入されていません。」	橙色ランプ点滅	ETC カード挿入異常	ETC カードの挿入状態をご確認のうえ、再度挿入してください。または、料金所係員の指示にしたがってください。
コード 02	「ピピッ、カードを読めません。コード 02」＊1	橙色ランプ点滅	データ処理異常	〔ETC カードの挿入時〕 挿入された ETC カードのデータを読み出すことができませんでした。再度挿入してください。 〔ETC 利用時〕 料金所にて車両の停止が案内（表示）されることがあります。車両を停止し、料金所係員の指示にしたがってください。
コード 03	「ピピッ、カードを読めません。コード 03」＊1	橙色ランプ点滅	ETC カード異常	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正規の ETC カードであること、および挿入方向等をご確認のうえ、再度挿入してください。それでもエラーが出る場合は、ETC カード発行会社にお問い合わせください。
コード 04	「ピーッ、異常が発生しました。ETC をご利用できません。コード 04」＊1	橙色ランプ点滅	ETC 2.0 車載器の故障	ETC2.0 車載器の故障です。最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。
コード 05	「ピッピッ、カードを読めません。コード 05」	橙色ランプ点滅	ETC カード情報の異常	挿入されたカードが ETC カードであると認識できませんでした。正規の ETC カードであることをご確認のうえ、再度挿入してください。
コード 06	「ピーッ、ETC をご利用できません。コード 06」	橙色ランプ点滅	ETC 2.0 車載器情報の異常	ETC2.0 車載器と料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。料金所係員の指示にしたがってください。

エラーコード	音声案内	ランプ表示	異常内容	対処方法
コード07	「ピーッ、ETC をご利用できません。コード 07」＊1 「ピーッ、アンテナの接続が異常です。ETC をご利用できません。コード 07」＊1	橙色ランプ点滅	通信異常・アンテナ系異常	・ ETC2.0 車載器と料金所間におけるデータ処理にエラーが発生しました。料金所係員の指示にしたがってください。 ・ ETC アンテナの接続が異常です。 最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。 〔ETC 利用時〕 ・ 路側アンテナ通過時 ETC をご利用になれません。混在車線または一般車線に進入し料金所係員の指示にしたがってください。 ・ 料金所通過時 ETC をご利用になれません。料金所係員が不在の場合は、お近くのインターホンにてお問い合わせください。
コード11	「ピッピッ、ETC カードに書き込みできません。」	橙色ランプ点滅	データ処理異常	〔ETC 利用時〕 料金所にて車両の停止が案内（表示）されることがあります。車両を停止し、料金所係員の指示にしたがってください。
—	「ピッピッ、ETC セットアップされていません。」	橙色ランプ点灯	ETC 2.0 車載器未セットアップ	ETC2.0 車載器がセットアップされていません。 最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

＊1 ETC カードを抜き取るまで“ピッピッピッ・・・・”と鳴り続けます。

＊ 対処後に再び何度もコードが出る場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお問い合わせください。

アドバイス

エラーによって、橙色ランプは点灯、消灯する場合があります。

■道路管理者からのお知らせとお願い

プローブ情報の利用及び取り扱いについては、下記の国土交通省道路局公式ウェブサイト内をご確認ください。

https://www.mlit.go.jp/road/ITS/j-html/

■オープンソースソフトウェア（OSS）の利用について

ETC2.0 車載器には、下記オープンソースソフトウェアが搭載されています。

b64 : Base-64 Encoding Library

Copyright (c) 2004-2011, Matthew Wilson and Synesis Software All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

- Neither the names(s) of Matthew Wilson and Synesis Software nor the names of any contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ″AS IS″ AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE

DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;

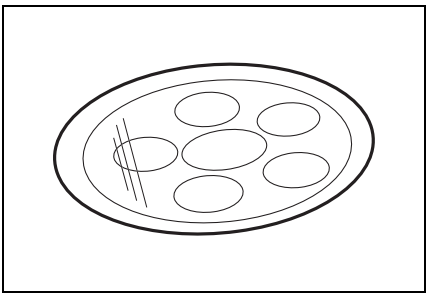
LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■電波法について

⚠警告

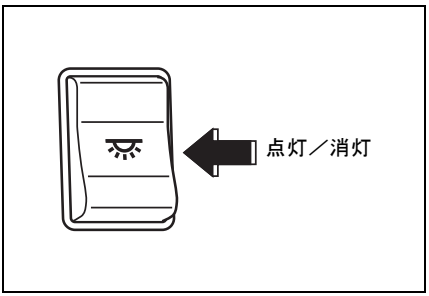
ETC2.0 車載器は、電波法の基準に適合しています。ETC2.0 車載器に張りつけられているシールはその証明をするものですので、はがさないでください。また、ETC2.0 車載器を分解・改造すると法律により、罰せられることがあります。

LED 室内灯



■スイッチ

● LED 室内灯スイッチ



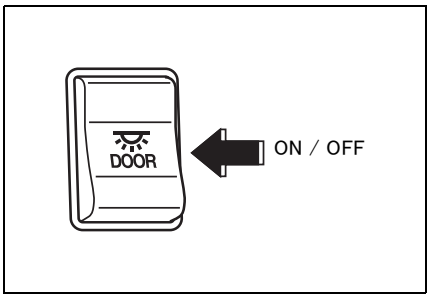
スイッチを押すたびにランプの運転席のみ点灯、全点灯または消灯が切り替わります。

アドバイス

エンジンを止めた状態で長時間点灯させるとバッテリーあがりを起こす原因になります。

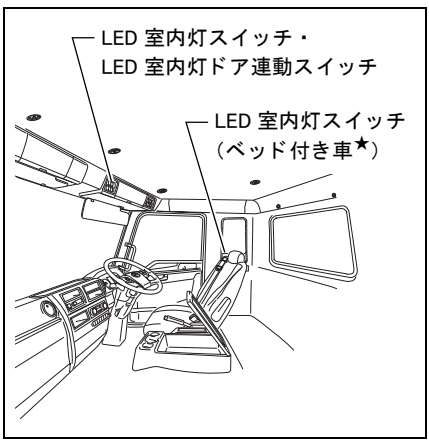
LED 室内灯スイッチの操作によりランプを点灯させているときは、LED 室内灯スイッチ以外での消灯操作（スタータースイッチを「ON」、ドア閉、キーレス★によるドアの施錠）によるランプの消灯は行わず、ランプは点灯したままとなります。ランプを消灯するときは、LED 室内灯スイッチの操作により消灯させてください。

● LED 室内灯ドア連動スイッチ



スイッチを押すたびにランプの作動のドア連動（ON）または非連動（OFF）が切り替わります。スイッチを「ON」にするとドアの開閉によりランプが点灯または消灯します。

● スイッチの配置



■点灯モード

オーバーヘッドコンソール部（運転席側）に取り付けられている LED 室内灯スイッチ、LED 室内灯ドア連動スイッチおよびベッドルームに取り付けられている LED 室内灯スイッチ（ベッド付き車★）の操作、またスタータースイッチの操作やキーレスエントリー★のリモートキー操作によるドアの施錠・解錠により、ランプが点灯または消灯します。

● LED 室内灯スイッチの操作による点灯モード

点灯箇所	室内灯 5 個仕様
運転席のみ	
全点灯	

＊ イラストはフルキャブの室内灯（5 個仕様）を代表として記載しています。

● その他の点灯モード

車両状態	室内灯 5 個仕様
キーレス操作によるドアの解錠	
ドア開	
スタースイッチを「ON」	
スタースイッチを「LOCK」	
ドア閉（15 秒後）	
キーレス操作によるドアの施錠	

＊ イラストはフルキャブの室内灯（5 個仕様）を代表として記載しています。

⚠警告

LED 室内灯は、走行中使用しないでください。明るくなった室内がガラスに映るため、外の道路状況が判断しにくくなり事故の原因になります。

知識

その他の点灯モードでは、点灯時は操作からの時間の経過に合わせて少しずつ明るくなり、消灯時は操作からの時間の経過に合わせて少しずつ暗くなり消灯します。すぐに点灯または消灯しませんが故障ではありません。

■調光機能

- LED 室内灯スイッチを押し続けることにより、LED 室内灯の調光（明るさの調整）を行うことができます。
- LED 室内灯スイッチの操作により、点灯モードが運転席のみ点灯または全点灯している状態から、LED 室内灯スイッチを押し続けることにより、操作からの時間の経過に合わせて、一定の明るさまで少しずつ暗くなります。また、その状態から再度 LED 室内灯スイッチを押し続けることにより、操作からの時間の経過に合わせて、通常の明るさまで少しずつ明るくなります。

＊ LED 室内灯を最大まで暗くしても、消灯はしません。

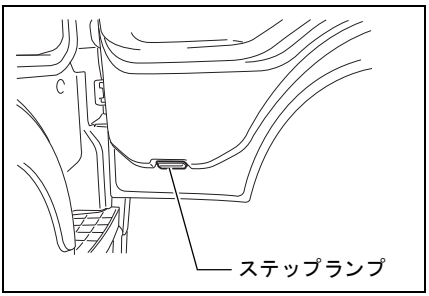
＊ 室内灯スイッチを押し続けず、通常の操作を行った場合は調光機能が解除され点灯箇所が切り替わり、消灯または通常の明るさでの点灯となります。

■キーレス連動室内灯

キーレスエントリー★のリモートキー操作によるドアの施錠・解錠に連動した LED 室内灯の点灯および消灯の機能は、マルチインフォメーションの車両システム各種設定タブ内のその他装備の設定から OFF / ON を切り替えることができます。

設定の方法については（→ P.6-46）

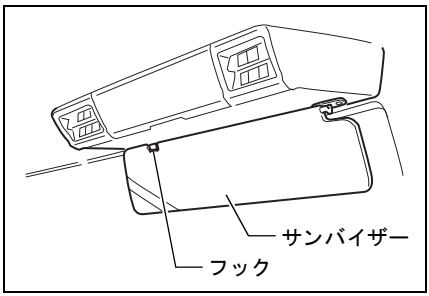
ステップランプ



- 右側のドア下部に取り付けてあります。
- ドアを開けると点灯し、足元を照らします。なお、スターターキーの位置に関係なく点灯します。

＊ 半ドアでも点灯しますので、ドアは確実に閉めてください。

サンバイザー★



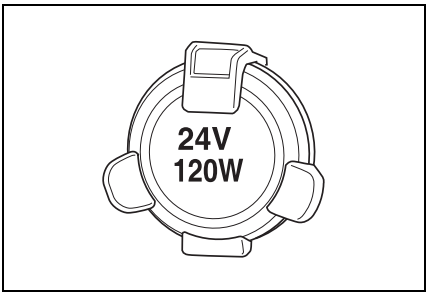
- サンバイザーは直射日光から目を保護します。お好みの角度に変えて使用します。なお、ドアガラス側に回すことによりサイドバイザーとしても使用できます。

＊ フロントガラスでサンバイザーを使用するときは、必ずフックに掛けてください。

アクセサリーソケット

スタータースイッチが「ACC」または「ON」位置のとき、市販されている 24V または 12V（12V ソケット★装着車）の電気器具を接続し使用することができます。

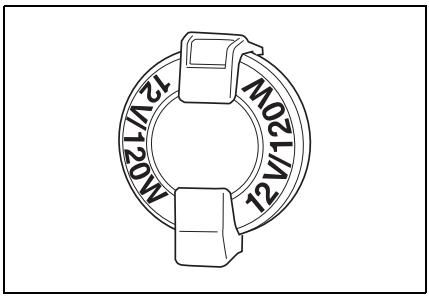
■24V ソケット



- 24V 電気器具のプラグを接続し使用することができます。
- 使用するときは 24V ソケットのキャップを開けて、電気器具のプラグを接続します。

＊ 乗用車用 12V 電気器具は使用しないでください。

■12V ソケット★



- 乗用車用 12V 電気器具のプラグを接続し使用することができます。
- 使用するとき 12V ソケットのキャップを開けて、電気器具のプラグを接続します。

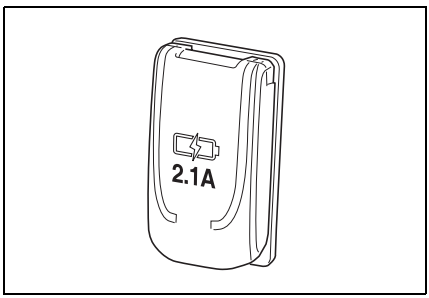
＊ 24V 電気器具は使用しないでください。

⚠警告

- 許容負荷は 24V ソケットが 5A（24V-120W）、12V ソケット★が 10A（12V-120W）です。
  許容負荷以上で使用するとヒューズの早期切れまたはソケットおよび配線が過熱して火災の原因になります
- ソケット、コネクターの電源は 24V または 12V ★です。電源の合っていない電気器具を使用すると器具が過熱し、故障や火災の原因になります。
- ソケットの金属部分に触れないでください。過熱し、やけどをするおそれがあります。
- ヒューズ類は必ず規定のアンペア（10A）のものを使用してください。
  また、ヒューズの代わりに針金や銅線を使わないでください。
  規定アンペア以外のものを使用すると、配線の過熱などによる火災の原因になります。
- 故障やショートの原因となりますのでソケット部に異物を入れたり、水や液体をかけないでください。また、使用しないときはフタを必ず閉じてください。
- エンジンが停止した状態で電気器具を使用するとバッテリーあがりを起こす原因となります。

USB ソケット★

スタータースイッチが「ACC」または「ON」位置のとき、市販の USB 端子コードを接続して、スマートフォンやタブレット端末の充電ができます。



- USB ソケットは充電専用です。音楽再生には対応していません。

＊ USB を使用した音楽再生はオーディオの USB ポートを使用してください。

- USB ソケットの許容負荷は 2.1A（5V）です。
- 使用する機器によっては正常に作動しない場合があります。使用する前に接続する機器に付属の取扱説明書も併せて参照してください。

■USB ソケットが正常に作動しないおそれがあるとき

- USB ソケットの定格出力を超える電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が「OFF」のとき
- 炎天下に長時間駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

⚠警告

- ソケットおよび配線の過熱による火災やヒューズ切れの原因となりますので、許容負荷以上で使用しないでください。
- 許容負荷は 2.1A（5V）です。
- ソケットの金属部分に触れないでください。過熱し、やけどをするおそれがあります。
- ヒューズ類は必ず規定のアンペア（10A）のものを使用してください。また、ヒューズの代わりに針金や銅線を使わないでください。
  規定アンペア以外のものを使用すると、配線の過熱などによる火災の原因になります。
- 故障やショートの原因になりますので、ソケットの端子部に異物を入れたり、水や液体をかけないでください。また、使用しないときはフタを必ず閉じてください。
- エンジンが停止した状態で外部機器を USB ソケットに接続し、使用するとバッテリーあがりを起こす原因となるおそれがあります。
- USB ソケットおよび接続されている機器に強い力や衝撃を加えないでください。
- USB ソケットを分解、改造および取り外しをしないでください。

■外部機器の故障を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。炎天下での駐車中や夏期などは車室内が高温となるため、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、機器を押し下げたり不要な力を加えたりしないでください。

灰皿

・ 灰皿は、カップホルダーに置いて使用します。

⚠警告

- マッチ・タバコなどの火は消してから灰皿に入れてください。火のついたままで入れると吸いがらに燃え移り火災の原因になります。
- 使用後は必ずふたを閉めてください。
- 灰皿の中には吸いがら以外の物を入れないでください。特に紙くずや空箱など燃えやすいものはタバコの火が燃え移り火災の原因になります。
- 灰皿の中には吸いがらをためすぎないでください。タバコの火が燃え移り火災の原因になります。
- 火のついたタバコや吸いがらなどは絶対に窓の外に投げ捨てないでください。
  道路を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸いがらが火災の原因になります。

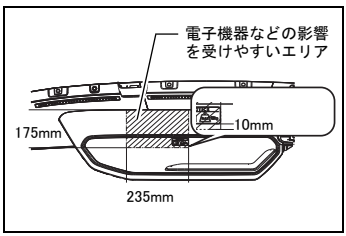
コンソールボックス類

⚠警告

- オーバーヘッドコンソールに重いものや、ころげ落ちやすいものを載せないでください。また、ふたがロックされていることを確認してください。走行中の振動などで落下して、運転をさまたげ、事故の原因になるおそれがあります。
- 車室内で立ち上がるとき、オーバーヘッドコンソールまたはオーバーヘッドサイドコンソール★に手を掛けて立ち上がらないでください。オーバーヘッドコンソールまたはオーバーヘッドサイドコンソール★が破損し、転倒やケガをするおそれがあります。
- 上面トレイにものを置いたまま走行しないでください。走行中の振動などで落下し、運転をさまたげたり、運転視界のさまたげになり、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。
- 走行中にスマホスタンドを使用し、スマートフォンやタブレット端末の操作は絶対にしないでください。注意力が散漫となり思わぬ事故の原因となります。
- シフトコンソールトレイに飲み物などの液体物を置かないでください。飲み物などをこぼして電子制御機器などが被水すると、故障の原因になったり、火災につながったりするおそれがあり危険です。

アドバイス

- コンソールボックス類のふたは、走行中は閉じておいてください。開けたまま走行すると、ヒンジやロック機構が破損することがあります。
- お車には一部の車両を除き車両の運行サポートのため、通信モジュールが装備されています。通信モジュールはインストルメントパネルのすぐ下に取り付けられています。通信モジュールの上部をふさぐように、電波をさえぎるものや電子機器などを置かないでください。GPS による測位や通信ができなくなるおそれがあります。

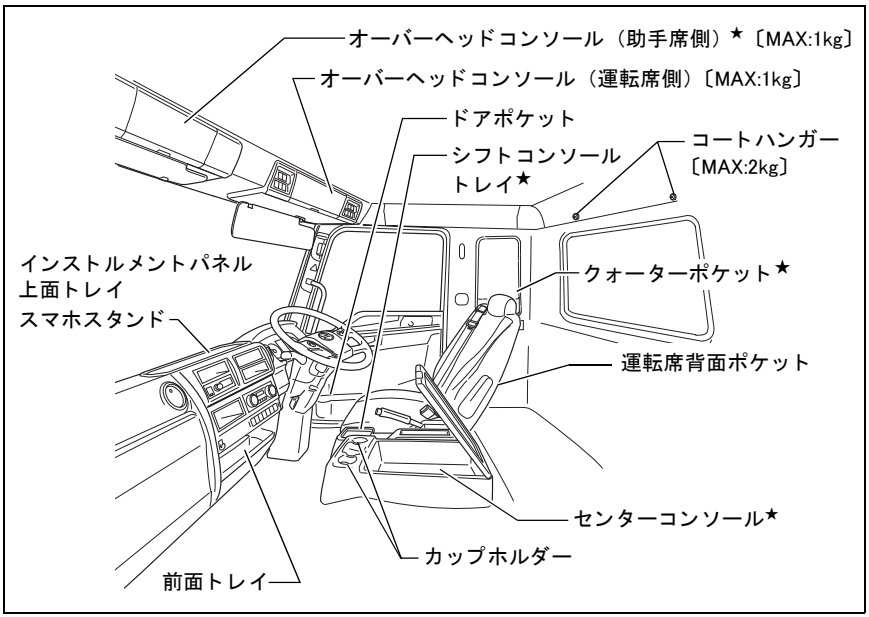


- インストルメントパネル上面トレイの加工は行わないでください。通信モジュールやハーネスを傷つけるおそれがあります。

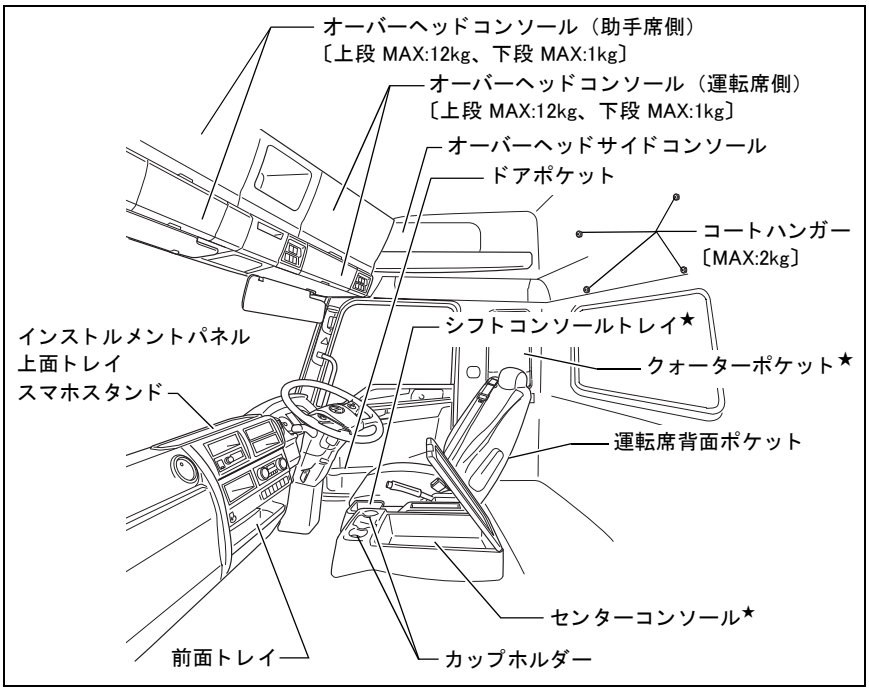
＊ コンソールボックス類はお車の仕様により異なります。

＊〔〕内は許容荷重です。許容荷重を超えたものを載せないでください。

〔標準キャブ車〕

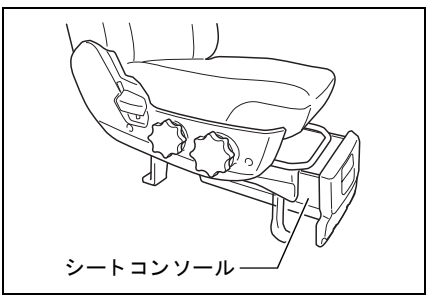


〔ハイルーフ車〕

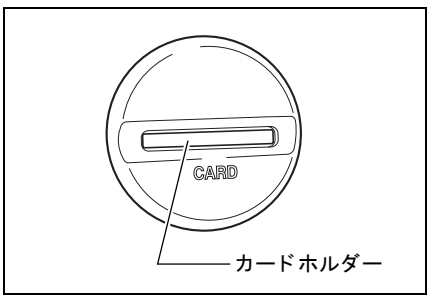


■シートコンソール★

〔運転席側〕

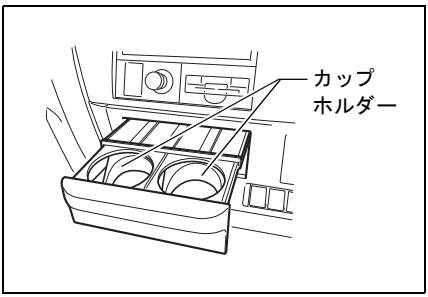


■カードホルダー



＊ クレジットカードのサイズより大きいサイズのカードは使用できません。

■カップホルダー



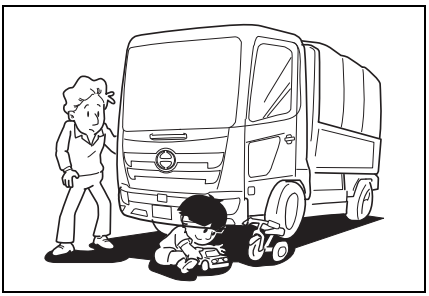
正しい運転操作 9

発進前の準備 P.9-2
発進時の注意 P.9-3
走行時の注意 P.9-3
FX・GX 車〔フルタイム 4WD 車〕運転時の注意 P.9-14
駐・停車時の注意 P.9-15
積荷 P.9-16

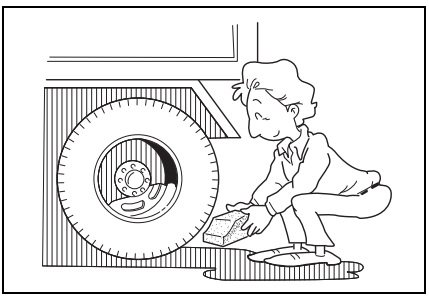
発進前の準備

■エンジン始動前の準備

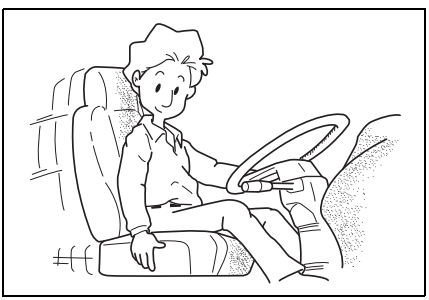
1. 乗車する前に、車の周りに人や障害物がないことを確認します。



2. パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。
3. タイヤに輪止めが掛けてある場合には外します。



4. 正しい運転姿勢がとれるように運転席、ハンドルを調整します。



5. 後方や側方および直前・直左の状況が十分に確認できるように、各ミラーを調整します。
6. シートベルトを正しく装着します。
7. 不要なランプやアクセサリー類のスイッチを切ります。



8. チェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターが N（「P」レンジ付き車では P）位置にあることを確認します。

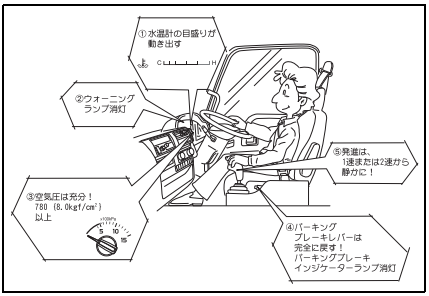
■エンジンの始動・暖機

＊ エンジンの始動方法には、「通常またはエンジンが暖まっているとき」と「寒冷時にエンジンをかけるとき〔プレヒート（始動補助装置）付き車〕」があります。
始動方法は（→ P.5-7）

＊ エンジンの暖機運転は（→ P.5-11）

発進時の注意

■ メーターパネル内の確認、レバー操作



⚠ 警告

スターターキーを抜いたまま、または「LOCK」の位置にしたままで絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。

走行時の注意

走行中は次の点に注意するほか、異常が認められたら、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。
なお、原因が不明なときや整備が困難なときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご連絡ください。

■ 走行中の注意

▶ スターターキーは「ON」の位置以外にしないでください。

⚠ 警告

- スターターキーを抜いたまま、絶対に走行しないでください。ハンドルがロックされ操作ができなくなり危険です。
- 走行中は、スターターキーを絶対に「ON」の位置以外にしないでください。「LOCK」および「ACC」の位置にするとエンジンが停止し、ハンドル操作やクラッチペダル操作が極端に重くなったり、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

▶ 走行中は、各ウォーニングランプ（赤ランプ）が消えているのが正常です。

⚠ 警告

ウォーニングランプが点灯したりブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、各部を点検してください。ウォーニングランプ・計器類の警報を無視して運転すると思わぬ事故の原因になります。

原因がわからないときや自分で整備できないときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

▶ チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★の操作は、一呼吸置きゆっくり行ってください。

▶ 急発進・急停車は、緊急のとき以外はできるだけ避けてください。

▶ 各ミラーは、常に車両の直前・直左・側方・後方の状況が十分に確認できる位置に調整しておいてください。

▶ 異音・異常振動・異臭に注意してください。

・ 走行中、異常を認めたときは、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。

▶ 過負荷運転はしないでください。

・ グリーンゾーン内での運転を推奨します。

・ 過負荷状態で長時間運転すると、車両各部に悪い影響をおよぼします

▶ 走行中は絶対にエンジンを止めないでください。

・ ブレーキ用のエアが供給されないので、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

・ パワーステアリングが作動しない状態となり、ハンドルが急に重くなります。

⚠ 警告

坂道を利用して車両を移動しないでください。エンジンがかかっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが極端に重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

▶ クラッチを切ったまま、またニュートラルのまま走行しないでください。

⚠ 警告

クラッチを切ったまま、またニュートラルのままでの走行は続けないでください。クラッチを切ったり、チェンジレバーをニュートラルに入れた状態では、エンジンブレーキおよび補助ブレーキが効かないため、事故の原因になります。

・ エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★が効かなくなります。

▶ クラッチペダルに足を乗せたまま運転しないでください。

▶ 半クラッチは、できるだけ使わないでください。

・ クラッチを摩耗させる大きな原因になります。

▶ 走行中のハンドル操作

・ カーブを曲がるときはあらかじめ減速してください。また、内輪差に注意し、狭い街中などではバックミラーにより十分後方・側方を確認してください。

・ ハンドルを切りながら強くブレーキをかけると、タイヤがスリップし、車両の最後部が流れたりすることがあります。特に滑りやすい路面（ぬれた路面・凍結路・積雪路など）では、スリップして方向を失いやすくなりますので、ブレーキのかけ方には注意してください。

・ 急ハンドルはタイヤを摩耗させるばかりでなく、車両の横転やスピンの原因になることがあります。不必要な急ハンドルは慎みましょう。

・ 運行中、ハンドルが急に重くなるなど、異常を認めたときは、ただちに安全な場所に停車させて、点検してください。

・ ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。パワーステアリング装置が故障する原因になります。

▶ ブレーキ優先制御

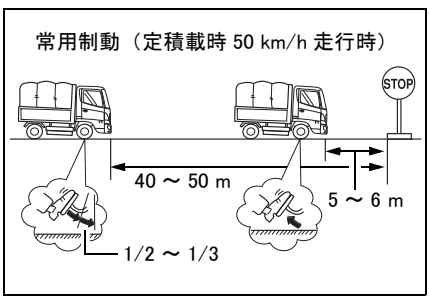
・ アクセルペダルを踏んでいる状態でブレーキペダルを踏むと、エンジン出力が抑制され、ブレーキカを優先します。

■ブレーキ操作のポイント

ブレーキは、圧縮空気とブレーキ液圧を併用したエアオーバーブレーキ（FC・FD・GC・GD・FX・GX 車）、圧縮空気を利用したフルエアブレーキ（FE・FJ 車）です。ブレーキペダルの踏み込み量によって圧縮空気をコントロールし、空気圧を利用してブレーキをかけますので、ブレーキペダル操作はブレーキバルブを開閉するだけで、強力なブレーキがかけられます。

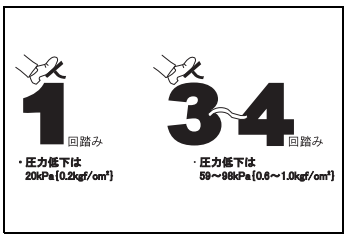
▶ ブレーキの操作

・ 例えば、定積載で 50 km/h 走行時に車両をスムーズに停止させるときは、次のようなブレーキ操作を行ってください。
40 ～ 50 m 手前で、狙いの強さのブレーキがかかるまでブレーキペダルを踏み込み（全ストロークの 1/2 ～ 1/3 程度）、停止前（5 ～ 6 m）にブレーキペダルを少しゆるめるとスムーズな停車ができます。ブレーキペダルをゆるめずにそのまま踏み込んでいくと短距離で停車しますが、停車の際、強いショックを伴います。



⚠ 警告

- ブレーキペダルをゆるめるときは、完全にはもどさないでください。ブレーキペダルを完全にもどすと、次に踏み込んだときにブレーキが効き始めるまでに時間差ができて制動距離が伸びる原因になります。
- ブレーキペダルの「バタ踏み」はやめてください。空気圧が低下し、所定の制動力が得られなくなります。



アドバイス

バタ踏みとは

ブレーキペダルの「踏み込み⇔ゆるめ」操作を必要以上に繰り返すことで、この操作によりエアが浪費されて空気圧が低下し、所定の制動力が得られなくなります。

▶ 急ブレーキ

＊ 緊急時はブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。急ブレーキがかかり急停車します。

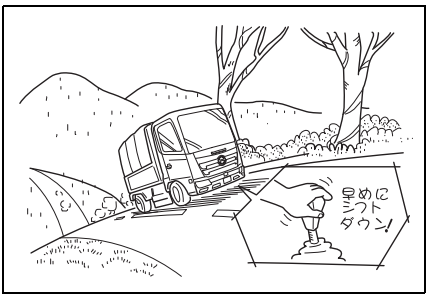
⚠ 注意

- 急ブレーキをかけると、停車時強いショックを伴いますので十分注意してください。
- 緊急時以外は急ブレーキをかけないよう心掛けてください。急ブレーキを使いすぎると、タイヤ、ブレーキドラムやライニングそのほかの部品の早期摩耗を起こし、各部の寿命を非常に短くします。
- 旋回中の急ブレーキはスピンなどの原因になりますので、ハンドルの切り方に応じたブレーキをかけるようにしてください。

■上り坂・下り坂の走行

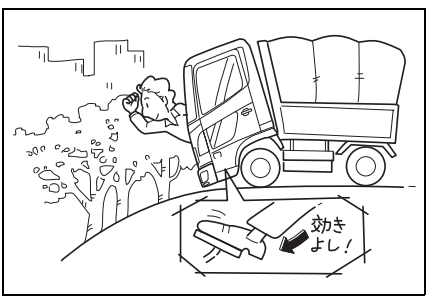
▶ 上り坂

・ 上り坂では早めにシフトダウンを行い、エンジンに負担を掛けないようにしてください。



▶ 下り坂

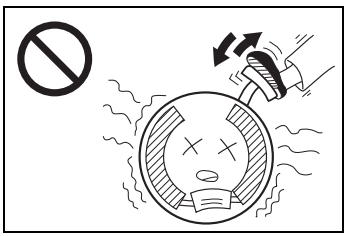
・ 急勾配や長い坂道を下るときは、あらかじめブレーキをかけ、正常に作動することを確認してください。



・ 勾配に応じた変速段を使用し、エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★を有効活用し、必要に応じてフットブレーキを併用して、スピードの出しすぎに注意してください。また、これによりフットブレーキの負担を少なくすることができます。

⚠警告

● 坂道を下るときは、フットブレーキだけにたよらずエンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★を併用してください。
フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱して「フェード現象」や「ベーパーロック現象」（エアオーバーブレーキ車）を起こし、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



● チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を「ニュートラル」の位置にして走行しないでください。エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★が働かないのでフットブレーキの負担が大きくなります。

知識

- エンジンブレーキとは
  走行中、アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力です。低速ギヤほどよく効きます。
- フェード現象とは
  ブレーキの摩擦面が過熱すると摩擦力が減少するため、同じ力でブレーキペダルを踏んでもブレーキの効きが悪くなる現象です。
- ベーパーロック現象とは
  ブレーキの摩擦熱によりブレーキ液が過熱されて沸騰し、気泡が発生して、ブレーキペダルを踏み込んでも気泡を圧縮するだけでブレーキ力にならない現象です。

・ 下り坂ではエンジンをオーバーランさせないように注意してください。

知識

オーバーランとは

エンジンの許容最高回転数を超えて回転させることをいい、この結果、各部に無理が生じてエンジンなどを破損させることになります。



・ シフトダウンするときは、十分減速してからギヤチェンジを行ってください。

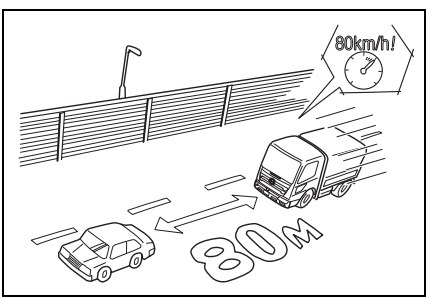
⚠ 注意

シフトダウンは 1 段ずつ行い、オーバーランを起こさないように注意してください。

■高速道路の走行

高速道路では、一般道路と比較して、ほとんど支障のないような小さな原因でも大事にいたるおそれがあります。安全運転を心掛けるとともに、次のことを守って走行してください。

- 日常（運行前）点検を確実に行ってください。（→ P.12-3）
特に、燃料、冷却水、エンジンオイル、ファンベルト、タイヤは念入りに点検してください。
- シートベルトは必ず着用してください。法律で義務づけられています。
- 本線へ進入するときは、ターンシグナルランプで早めに合図し、加速車線で十分加速しながら、後方および本線上の車の流れを十分確認してください。
- 高速走行は、速度に対するスピード感が大幅に鈍くなります。速度は常にスピードメーターにより確認してください。
- 高速では、わずかなハンドル操作でも車は大きく移動します。ハンドルは徐々に操作してください。
- 車間距離は十分とってください。



- 車間距離は少なくとも速度（km/h）を距離（m）におきかえた数値をあけてください。80 km/h で走行しているときは 80 m の車間距離をとるようにします。また、レーンを変更するときは、特に後続車に注意し早めに合図してください。
- 雨天時はスピードを控えめにしてください。雨天時高速で走行すると、スリップを起こしたりタイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなるハイドロプレーニング現象が発生することがあります。

知識

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているときに高速で走行すると、ある速度以上になると水上スキーのようにタイヤが水の膜の上を滑走する状態になり、操縦不能になることをいいます。

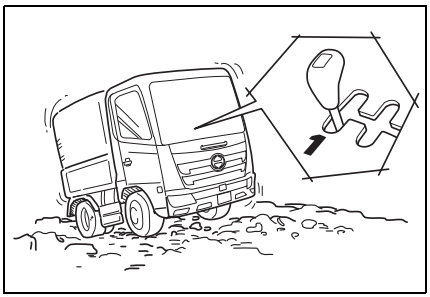
- 急ブレーキはスピンやスリップを起こしやすく非常に危険です。
- 急ブレーキをかける必要のない運転を心掛けてください。また、フットブレーキを使いすぎるとブレーキが過熱し、フェード現象、ベーパーロック現象の発生やブレーキドラムおよびライニングそのほかの部品の早期摩耗・寿命短縮を招きます。

・ エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★を効果的に使い、必要に応じてフットブレーキを使用するように心掛けてください。

・ 横風に注意してください。特にトンネルの出口付近や切り通しを出たとき、横風を受けて車体が流されることがありますが、あわてずに速度を下げながら徐々に進路を修正してください。

・ 本線から出るときは、合図を早めに行いエンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★を有効活用し、必要に応じてフットブレーキなどを併用し、適切にギヤシフトダウンをしながら減速して、減速車線に移動してください。

■悪路の走行



・ 砂利道、泥道などは低速ギヤでゆっくり走行してください。

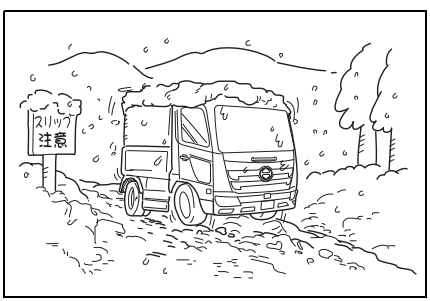
■悪天候時の走行

・ 雨の降りはじめは、特にスリップしやすく危険です。車速を落とし、急ブレーキを避けて、十分注意しながら走行してください。

・ 水たまりを走行すると、ブレーキの効きが低下することがありますので、注意してください。

・ 霧のときは、ヘッドランプまたはフォグランプを点灯させ、センターラインや前方をよく確認し、低速で走行してください。

・ 積雪路または凍結路を走行するときは、タイヤチェーン、スノータイヤ、スタッドレスタイヤなどを装着し、スピードを控えめにしてください。



・ 積雪路または凍結路では、スリップしやすく危険です。急ブレーキや急ハンドル操作は避け、車間距離を大きくとり、十分注意しながら走行してください。

⚠ 注意

電磁式リターダー付き車は、滑りやすい路面で急に強い電磁式リターダーを働かせると、駆動輪がロックし車両が不安定になることがあります。
標準型は 1 段目のエキゾーストブレーキを効かせた後、電磁式リターダー★を効かせてください。強力型は 2 段目を効かせてから 3 段目に入れてください。

■ABS 付き車の運転上の注意

ABS は限界を超えた走行・停止を可能とするものではありません。運転する場合は、次の注意事項に留意の上、安全運転を行ってください。

アドバイス

- ABS はブレーキの操作性、安全性を向上させる装置ですが、限界を超えた走行・停止を可能とするものではありません。
- バッテリー電圧が低下しているとABS 動作に影響をおよぼす場合があるため、定期的にバッテリーの点検を行ってください。

知識

ABS（アンチロックブレーキシステム）とは

ABS は、積雪路などの滑りやすい路面で急ブレーキをかけた場合の車輪のロックを軽減し、車両の尻ふりなどを抑え車両を安定した状態で停止しやすくする装置です。

＊ ABS 付き車であっても滑りやすい路面上での制動距離は、通常の乾燥舗装路に比べ長くなります。また、深い雪・砂利道などでは ABS が作動すると、制動距離が若干延びることもあります。
したがって、路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類・摩耗状態など）を常に考慮し、安全運転を守り、車間距離を適正に保って走行してください。

* ABS は車両の発進・加速・旋回など、制動時以外で生じる車輪のスリップには働きません。
  また、非常に滑りやすい凍結した路面などでは、タイヤのグリップ力が低下し、ハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。
  常に、路面およびタイヤの状態に合った安全速度を守って走行し、急ブレーキを避けるようにしてください。
* 非常に滑りやすい凍結した路面などでは、強いエンジンブレーキを働かせると、駆動輪がロックし、車両が不安定となることがあります。（この場合には、ABS は作動しません）
  このようなときは、クラッチを切るか、チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★をニュートラルの位置にし、駆動輪へのエンジンブレーキの作用を一度断った後、適正なレバー位置にして走行してください。
* FX・GX 車の場合、センターデフロック状態では ABS 付き車であっても制動時に ABS 作動が緩慢となり、車輪がロックし車両が不安定となることがあります。センターデフロックを作動させたときは、すみやかに解除するとともに、常に路面およびタイヤの状態に合った安全速度を守って走行し、急ブレーキを避けるようにしてください。
* FE・FJ 車（フルエアブレーキ付車）の場合、ABS が作動すると、エアの消費量が通常より増加します。空気圧が低下し（(!)）ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”を表示し、同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車させて、所定の空気圧に回復してから、走行してください。
* ABS が作動すると、ハンドルに若干の振動（特に、左右輪の路面状態が異なる場合）および取られを感じることがあります。また、ABS 機器から作動音が発生します。これらは、異常ではありません。
  あわてずに、適切なハンドル操作を行ってください。
* ABS 付き車を運転するときは、ABS が装着されていない車両を運転するときと同様、タイヤの状態と路面の状態を常に考慮し、安全速度を守り、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、安全運転を心掛けてください。
* 指定サイズ以外のタイヤを装着するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

■EBD の働き

知識

EBD とは
Electronic Brake force Distribution の略で電子制動力配分制御の意味です。

・ 本車両の ABS は、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分する EBD の機能を内蔵しています。この機能により、積載量や減速度による荷重変化に応じ、前後輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を得ることができます。

■ASR 付き車の運転上の注意

ASR は決して万能な装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。運転する場合は、次の注意事項に留意の上、安全運転を行ってください。

知識

ASR（アンチスリップレギュレーションシステム）とは
積雪路・氷結路などの滑りやすい路面で、駆動輪の空転を減少させ、発進・加速性、直進性、登坂性の向上により運転者の負担を減らし、走行安定性を高めます。

＊ ASR 付き車は、滑りやすい路面において非装着車より発進・加速性能などが向上されますが、タイヤのグリップ力が上がるわけではありません。

＊ ASR が作動すると、エアの消費量が通常より増加します。空気圧が低下し(!)ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“⚠安全な場所に停車(!)ブレーキエア圧低下”表示して、同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車させて、所定の空気圧に回復してから走行してください。

＊ ASR が作動すると、アクセルペダルを踏み込んでいてもエンジン回転数が低下するときがあります。
これは、ASR のエンジンコントロールが作動するためで、異常ではありません。

＊ 指定サイズ以外のタイヤを装着するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

アドバイス

ASR を装着していても、アクセル、クラッチ、ハンドルの急な操作は避けてください。特に、滑りやすい路面での発進は、ASR を装着していない場合と同様に半クラッチを効果的に使い、静かに発進してください。

＊ VSC / ASR OFF スイッチの操作は（→ P.5-118）

FX・GX 車〔フルタイム 4WD 車〕運転時の注意

この車両は、不整地走行を主目的としたものではなく、最低地上高を 2WD 車並にした 4WD 車です。

- 通常の積雪路などでの走破性に主眼をおき、2WD 車並の荷役作業性、乗降性を保った 4WD 車です。したがって、シャシ周りの地上高は 2WD 車並です。
- 砂利道、泥道などは低速ギヤで一定速度を保ちながら走行してください。
- 道路状況によっては、走行できない場合があります。4WD を過信した無理な走行はしないでください。特に、凸凹路、段差、うねり路などでは、地上高が低いため接地することもありますので、注意してください。
- タイヤがスリップして動けなくなったときは、何回も脱出を試みてスリップを繰り返さないでください。
- このようなときは、センターデフロックを作動させ、もう一度脱出を試みてください。それでもだめなときは、他車でけん引してください。

＊ けん引は（→ P.15-55）

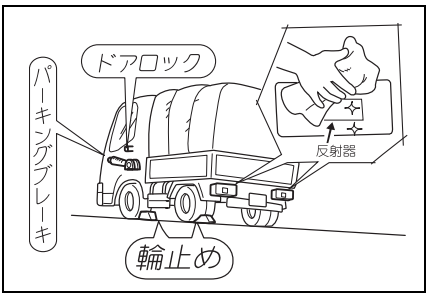
⚠ 注意

- センターデフロックは緊急時に使用し、通常走行時はロックを解除しておいてください。
- ロックしたままで急旋回を行わないでください。ロックしたまま急旋回を行うとブレーキをかけた状態と同じような現象が発生し運転しにくくなります。
- 舗装道路など一般の路面では、ロックしないでください。タイヤが早期摩耗したり、スムーズな旋回ができなくなります。
- 車両が停止していてもタイヤが空転しているときは操作しないでください。
- タイヤが空転しているときに操作すると駆動系部品の損傷を招くほか急発進するおそれがあります。

アドバイス

- タイヤはサイズ、型式の異なったものを混用しないでください。タイヤが早期摩耗したり、駆動部品が破損するおそれがあります。
- ローラーテスターでブレーキテストやスピードメーターテストなどを行うときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

駐・停車時の注意



- 駐停車が許されている場所で、かつほかの交通に迷惑をかけない安全な場所を選んでください。
- 坂道の駐車は避け、平らな場所を選んで駐車してください。
  坂道に駐車すると、駐車中に車が動き、事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してからタイヤの前後に輪止めをかけてください。

アドバイス

縁石など障害物のある方にハンドルを回しておくと、より安全です。

- ES スタート★は、パーキングブレーキではありません。駐車時には、必ずパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- 盗難防止とセキュリティ対策のため、車内には貴重品を置かず、窓を確実に閉め、キーを抜き取り、ドアをロックしてください。
- ほかの交通から駐停車していることが良く分かるように、各ランプのレンズや反射器の汚れを良く拭き取ってください。

⚠ 警告

- 仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。眠っているときに無意識にアクセルペダルを踏み込んだり、チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を動かしたりすると事故やエンジン・排気管などの異常過熱による火災の原因になり危険です。
- 風通しの悪い所で駐停車しないでください。周囲の状況によっては、排出ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- ホイールパーキング車は、パーキングブレーキレバーから「カチッ」と音が鳴り、ロックする位置まで確実に引き上げ、手を離しても車両が動かないことを確認してください。
  パーキングブレーキレバーを途中で止めると、レバーは自動的に元の位置に戻り、ブレーキがかからず、駐車中に車が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- センターパーキング車はパーキングブレーキレバーをいっぱいに引いてください。
  パーキングブレーキレバーの引きが不足していると駐車中に車が動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 枯草や紙くずなど燃えやすい物がある場所に車を止めないでください。
  走行直後や排出ガス浄化装置（DPR）のクリーニングモード中は排気管やマフラー付近が高温になっています。燃えやすい物が近くにあると火災の原因になります。

・ フラットスポットを少なくするために、駐車時は次の点に注意してください。

・ 適正空気圧、適正荷重の励行

・ 荷物を積んだままでの長時間駐車を避ける

知識

フラットスポットとは

特に冬期、長時間駐車して、タイヤ接地部の変形がしばらく元に戻らない現象をいいます。
走り始めはゴトゴト振動しますが、5～30 分の走行で元の状態に戻ります。

積荷

積荷は最大積載量以上は積まないでください。

⚠ 警告

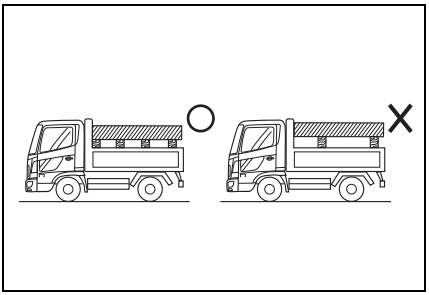
- 過積載は法律で禁止されています。過積載をすると、通常より制動距離が延びるなど、思わぬ事故や故障の原因になります。また車両各部の損傷を早めます。
- 積荷が滑りやすく、あるいはバランスをくずしやすいときは、積荷の滑り止めを行い、その上にワイヤーやロープで確実に荷台に固定してください。固定しないと制動時・旋回時に荷くずれを起こすおそれがあります。
- シート掛けやロープ掛けのとき、シートの端やロープがキャブと荷台の間に垂れ下がらないようにしてください。
  走行中、キャブと荷台の間に燃えやすいものがあると、エンジンの熱により火災の原因になります。

アドバイス

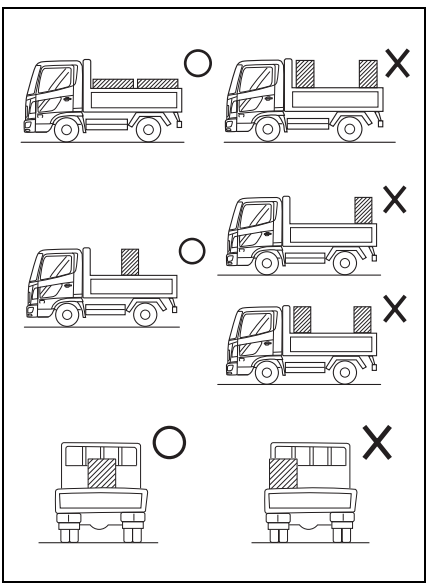
誤った積み方をしないでください。積荷が不安定となるばかりでなく、集中的に荷重がかかり、荷台やフレーム周りを傷めるおそれがあります。

■**荷の積み方**

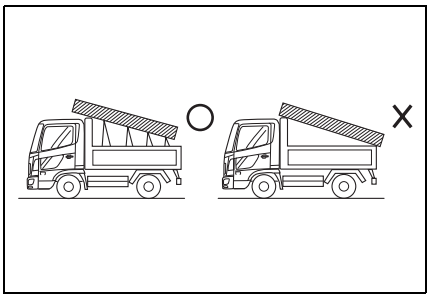
積荷の下にウマを用いるときは、ウマの位置に注意し均等に支えてください。



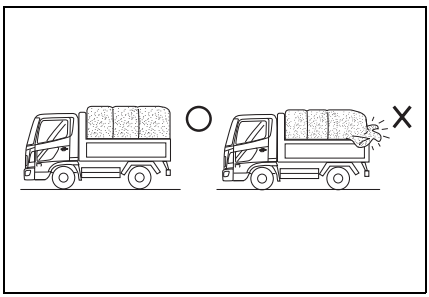
積荷は均等に積んでください。均等に積めない場合は極力荷台の中心付近に積んでください。



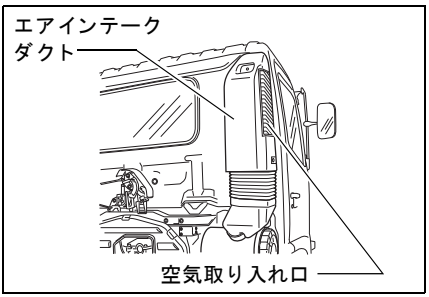
長尺物は極力荷台後端より出さずウマを使用してください。なお、鳥居と荷台後端部の 2 点で支持するのは避けてください。



- ロープ掛け・シート掛けは確実に行ってください。特に、積荷が重量物の場合は荷台に確実に固定してください。
- シート、幌などは、バタつかないようにロープなどで確実に固定してください。（特に右側エアインテークダクト空気取り入れ口の周り）また、ロープ・シート・幌などは排気管に接触しないように気をつけてください。

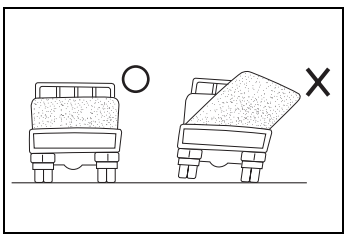


・ シート、幌などが空気取り入れ口で吸われたときは、出力不足などが発生し、エンジン不調の原因になります。



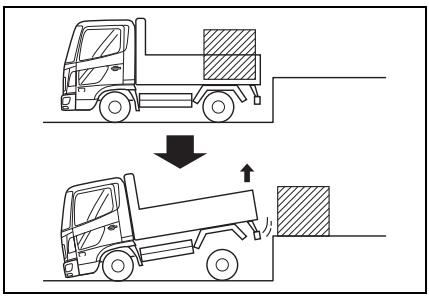
⚠ 警告

荷は高く積まないでください。横風を受けたときや旋回時に横転するおそれがあります。

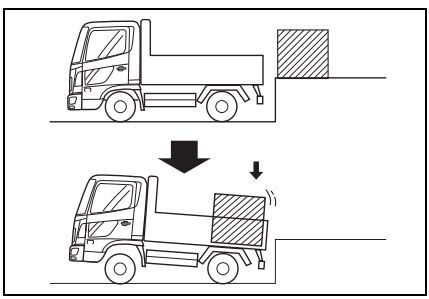


■エアサスペンション★車での荷役作業時の注意

・ 重量物を降ろした瞬間、エアスプリングの支持力と積荷とのバランスがくずれ一時的に荷台が上がることがあります。その後、車高調整機能が作動し、元に戻ります。



・ 重量物を積んだ瞬間、エアスプリングの支持力と積荷とのバランスがくずれ一時的に荷台が下がることがあります。その後、車高調整機能が作動し、元に戻ります。



＊ 車高調整の操作は（→ P.5-246）

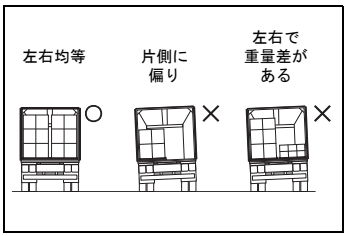
⚠ 注意

- エアサスペンション車のレベリング機能および車高調整（ハイトコントロール）機能は電気的にコントロールしています。荷役作業時には、必ずスターターキーを「ACC」または「ON」の位置にするか、レベリングタイマー機能を用いてレベリング機能および車高調整（ハイトコントロール）機能が使える状態にしておいてください。
- 荷降ろし後は、車高が標準車高に復元したことを確認してから走行してください。
- 片荷状態などでエアサス異常が出る場合があります。発報した場合は制御が止まりますが、キー OFF から ON 操作でエラーが消え、制御が作動すれば問題ありません。

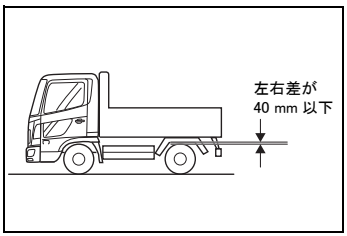
⚠ 警告

- 積み荷の重量が左右均等になるようにしてください。

〔積荷の状態〕



- リヤタイヤとタイヤハウス隙間の左右差が 40 mm 以下になるようにしてください。積車の重心が偏ることで足回り部品（エアスプリング・サポートビームなど）が破損するおそれがあります。



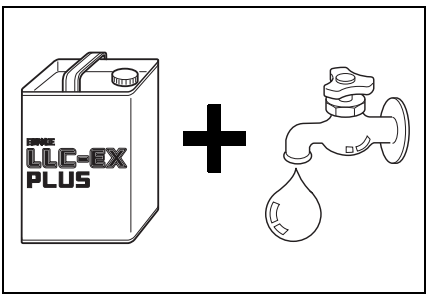
冬期・夏期の取り扱い 10

冬期・夏期の取り扱い …P.10−2

冬期・夏期の取り扱い

■冷却水

- ロングライフクーラントの濃度を予測される最低外気温に合った混合割合に調整します。
- 井戸水や河川の水などの硬水は水あかが生じやすく、冷却水路を詰まらせて冷却効率を低下させるので使用しないでください。
- ラジエーター前面が泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下するので点検・洗浄します。
- 夏期は特に冷却水の不足やラジエーターの汚れなどによるオーバーヒートを起こしやすくなります。
- 冷却水の混合割合および使用する冷却水は（→ P.13-25）



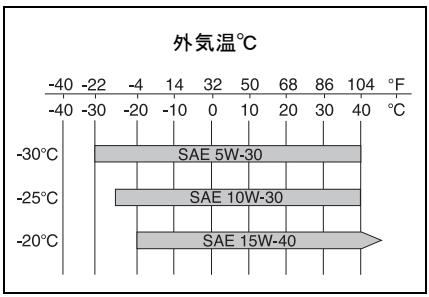
アドバイス

冷却水の混合割合を誤ると、冷却水が凍結してエンジンやラジエーターなどを破損させるおそれがあります。

■エンジンオイル

〔エンジンオイルの粘度（SAE 粘度）〕

- 外気温が低下するとエンジンオイルの粘度が高く（硬く）なり、エンジンが始動しにくくなります。
  外気温が上昇すると、エンジンオイルの粘度が低く（やわらかく）なり、エンジンを十分に潤滑しなくなります。
  外気温に合った粘度のオイルに交換します。
- エンジンオイルの交換は（→ P.14-4）



■燃料

〔軽油の凍結温度〕

燃料	凍結温度の目安
JIS 特 1 号軽油	＋ 5 ℃以下
JIS　1 号軽油	－ 2.5 ℃以下
JIS　2 号軽油	－ 7.5 ℃以下
JIS　3 号軽油	－ 20 ℃以下
JIS 特 3 号軽油	－ 30 ℃以下

- 冬期または寒冷地では燃料が凍結してエンジンが始動しにくくなることがあります。
- 通常の軽油（JIS　2 号軽油）では約 −7.5 ℃以下になると凍結します。寒冷地にでかけるときは、あらかじめ現地の外気温に合ったものを補給します。適切な燃料を使用しなかった場合は“ エンジン系統異常 ”を表示することがあります。
- 寒波に襲われた際、タンク内の燃料の凍結温度がわからない場合、燃料の凍結を避けるため暖かいガレージに駐車してください。やむを得ず屋外に駐車するときは、応急用対策としてエンジンを切らないで駐車してください。

アドバイス

補給するときは、燃料タンクいっぱいに給油してください。また給油後は、燃料タンクに雪や水が入らないようにキャップを確実に締めてください。燃料に水が混じるとエンジン故障の原因になります。

■その他の注意

▶ バッテリー

- 外気温が低下するとバッテリーの性能が低下します。またバッテリー液の比重が低くなるとバッテリー液が凍結しやすくなります。バッテリー液の比重や量を点検し、完全に充電した状態で使用します。
  なお、バッテリー液を補充したときには、必ず充電（走行）してください。バッテリー液が凍結し、ケースを破損させるおそれがあります。
- 外気温度が上昇するとバッテリー液の水分蒸発が多くなり、バッテリーの液量が減少しやすくなります。バッテリーの液量を点検し、不足することのないように使用します。
- バッテリーの点検については（→ P.13-96）

▶ ウインドウォッシャー

- ウォッシャー液が凍結すると、ポンプの作動不良や故障の原因となるためウォッシャー液の濃度を冬用にします。

＊ ウォッシャー液の混合割合は（→ P.13-94）

▶ エアコン

● コンプレッサーベルト

・ エアコン用コンプレッサーベルトが緩むと、「すべり」が生じて冷房能力が低下します。緩みがないか点検します。

・ エアコン用コンプレッサーベルトの点検は（→ P.12-11）

● 冷媒（ガス）

・ 冷媒（ガス）が不足していると冷房能力が低下しますので、不足がないか点検します。

・ 冷媒（ガス）充てん量の点検は（→ P.13-91）

アドバイス

冷媒（ガス）が不足していると冷房能力が低下するだけでなく、エアコン故障の原因になります。

● コンデンサー

・ コンデンサーユニット前面が泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下しますので点検・洗浄します。

・ コンデンサーユニットの洗浄は（→ P.13-92）

▶ ドアなどが凍ったら

・ ドアが凍結したときは、ぬるま湯をかけ氷をとかします。無理に開けようとするとドアまわりのゴムがはがれたり損傷したりするおそれがあります。
なお、ドアが開いたらすぐに水分を十分拭きとります。

・ ワイパー、パワーミラー★などが凍って動かなくなることがありますので、凍結したときは、ぬるま湯をかけ氷をとかします。無理に動かそうとスイッチを押し続けると装置が損傷したりバッテリーあがりを起こす原因になります。

▶ 始動時

・ プレヒート（始動補助装置）付き車のエンジンを始動するときは、予熱を行います。

・ 寒冷時にエンジンをかけるとき〔プレヒート（始動補助装置）付き車〕については（→ P.5-7）

▶ 走行時

・ 走行中にはね上げた雪や水は、車に付着し氷になります。タイヤハウスおよびリンク部やホース・パイプ類に付着した雪や氷で部品を傷つけないように取り除いてください。また、ブレーキ装置に付着するとブレーキの効きが悪くなることがありますので、時々直線路で軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

・ 積雪路・凍結路ではスリップに注意してください。スタートはゆっくりスタートし、走行中は速度をひかえます。急ブレーキ・急ハンドルなどは厳禁です。橋の上や日陰など路面が凍結しやすい場所では手前で十分に減速して通過するよう心掛けてください。

▶ 駐車時

・ 駐車するときは、風や雪が直接かからない場所を選び、車両前側がなるべく風下を向くように駐車してください。

・ 終業時はエアタンク内の水抜きを必ず行ってください。エアタンク内に水がたまっていると配管内で水分が凍結するおそれがあります。

・ エアタンクのたまり水の点検については（→ P.12-5）

・ ブレーキ装置が凍結し、パーキングブレーキが解放できなくなるおそれがあるときは、次の順序で駐車してください。

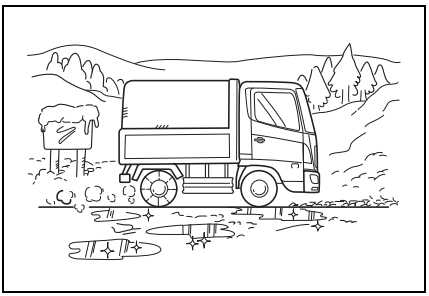
1. 平坦な場所に停車します。
2. パーキングブレーキを確実に効かせます。
3. クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車）を踏みチェンジレバー、セレクトレバーまたはギヤセレクターの位置を 1 速または後退にします。
4. エンジンを止め、クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車）から足を離します。
5. 車両が動かないようにタイヤの前後に輪止めを掛けます。
6. パーキングブレーキレバーを戻します。

■タイヤチェーンを取り付けるとき

⚠警告

装着は確実に行ってください。確実に装着しないと機能低下はもとより走行中にハーネス、ブレーキ、エアスプリング等に接触・脱落して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・ 積雪路や凍結路またはぬかるみでは、安全に走行するためにタイヤチェーンを装着します。



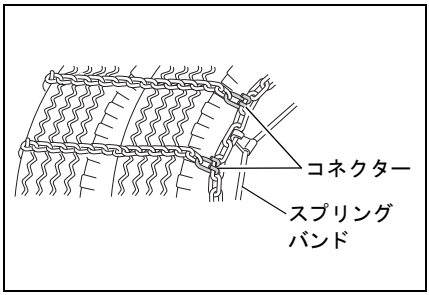
1. タイヤチェーンを取り付ける前にチェーンの傷・摩耗について点検します。
2. タイヤチェーンは必ずタイヤと同じサイズのものを使用し、後輪に装着します。

＊ フロントタイヤにはタイヤチェーンを使用しないでください。スタッドレスタイヤをお勧めします。

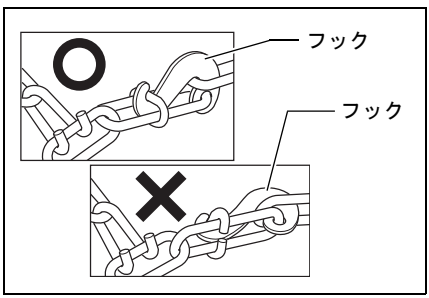
＊ リヤタイヤにはダブル形チェーンを使用してください。トリプル形チェーンは、お車のタイヤ、ホイールサイズにより装着できない場合があります。詳しくは最寄りの日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

＊ 後輪の外側タイヤのみにシングル形チェーンを装着しないでください。（一部地域では、条例によりこのような取り付けかたは認められていません。）

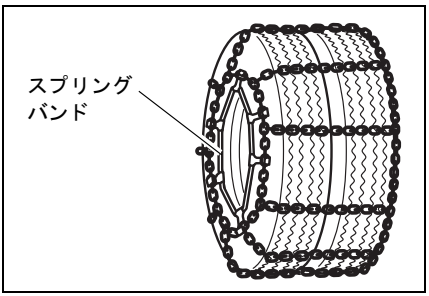
3. タイヤチェーンは、コネクターの折り曲げ部がタイヤの外側に向くよう取り付けます。



4. 内側フックはチェーンの輪があまらないように掛け、外側に引っ張り内側チェーンのたるみをなくしてから外側フックを掛けます。
5. フックはタイヤ側面に対し平らになるように掛け、また、チェーンのねじれや曲がりがないことを確認します。



6. チェーンがあまったときは、端末をワイヤーなどで固定し、ほかの部位と接触するのを防ぎます。
7. スプリングバンドは、外側チェーンに対し 3 カ所以上バランスが取れるように掛けます。



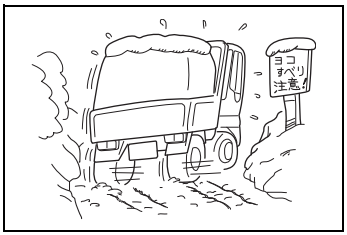
＊ タイヤチェーンはゆるみのないように取り付け、5 ～ 10 分走行後にゆるみがないかを点検し、走行中は常にタイヤチェーンの取り付け状態に注意してください。

＊ タイヤチェーンを着脱するときは、タイヤ内側周辺のハーネス、その他の部品に損傷を与えないように注意してください。

⚠ 警告

タイヤチェーン装着時は、チェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。

推奨の制限速度を超えて走行するとタイヤチェーンにかかる負荷が大きくなり、チェーンが切れやすくなります。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。横すべりなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



キャブチルト 11

手動キャブチルト★.....P.11−2
電動キャブチルト★.....P.11−6

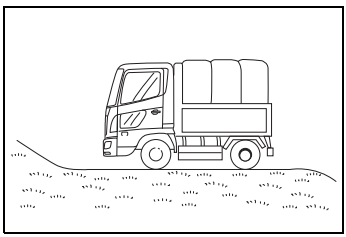
手動キャブチルト★

■キャブを上げる前の準備

⚠警告

死亡、重大なケガまたは車体の損傷につながるおそれがあるため、必ず以下の事項に従ってください。

1. 平坦な場所に停車させます。



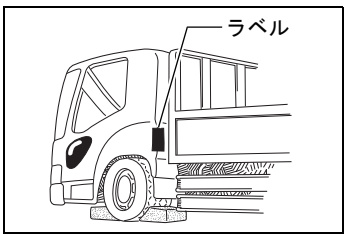
＊ 平坦な場所に置かれていないと、キャブを降ろしたとき、キャブロックが掛かりにくくなることがあります。

2. チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を N（「P」レンジ付き車では P ）位置にし、パーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止め、タイヤの前後に輪止めを掛けます。
3. キャブ上方・前方に障害物がないことを確認します。
4. ルーフキャリア★およびキャブ内の荷物は、キャブを上げたとき倒れたり落ちたりして破損しますので、固定するかルーフキャリア★およびキャブ内から取り出します。
5. フロントパネルがロックされていることを確認します。
6. ドアを確実に閉めます。
7. キャブ内や、キャブの近くに人がいないことを確認します。

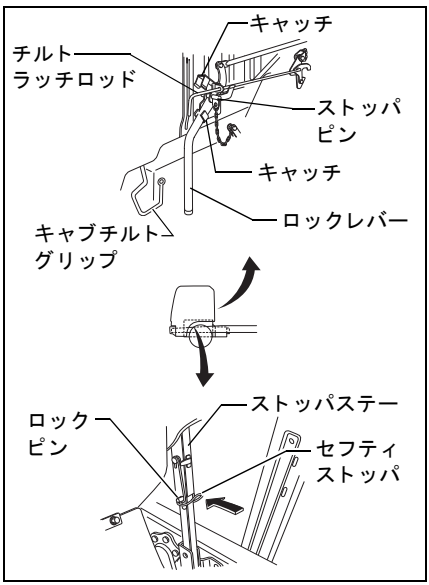
⚠警告

ルーフキャリア★など重量のあるものが取り付けられているときは、安全確保のためにキャブチルトは 2 人作業で行ってください。1 人で作業するとチルト操作途中で支えきれなくなるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

キャブ左後方にキャブ上げ下げについての警告事項および操作手順のラベルが貼ってあります。本書の手順およびラベルの記載事項をよく理解してからキャブ上げ下げの操作をしてください。

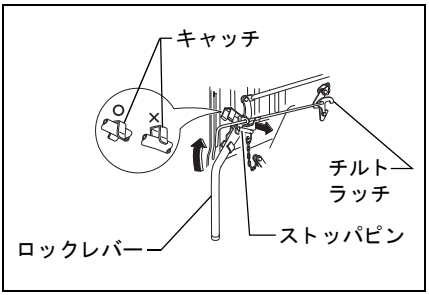


■各部の名称



■キャブの上げ方

1. ストッパピンを 90 ° 回し抜き取ります。



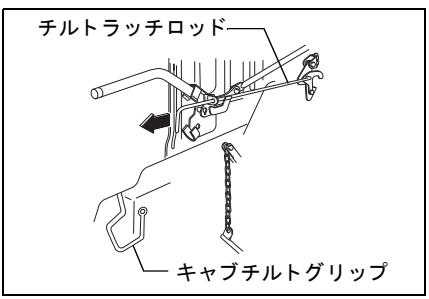
2. ロックレバーを上側のキャッチに完全に入るまで、押し上げます。

＊ このとき、キャブはスプリングの力で少し浮き上がり、チルトラッチに当たって止まります。

⚠ 注意

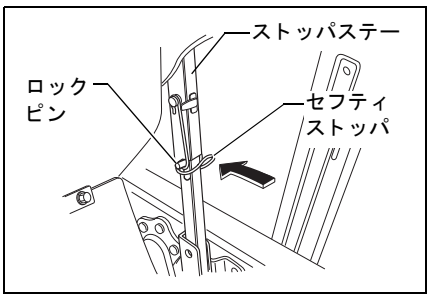
ロックレバーが、キャッチに完全に入っていることを確認してください。

3. チルトラッチロッドを手前に引きます。チルトラッチが外れ、キャブが上がり始めます。



＊ キャブ内に重い物を持ち込んであるときは、キャブが浮き上がらない場合もあります。

4. キャブがストッパステーにより自動的に止まるまで、キャブチルトグリップに手をかけて静かに持ち上げます。キャブを完全にチルトすると、ストッパステーにロックピンが掛かり、チルト状態が保持されます。



5. ストッパステーにロックピンが掛かったことを確認した後、セフティストッパを押し、ロックピンにかけて固定します。

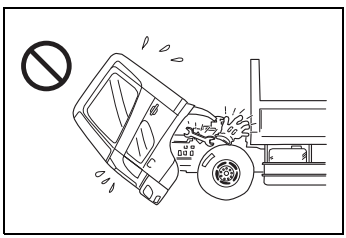
⚠ 警告

- キャブをチルトしたときは、必ずロックピンがセフティストッパで固定されていることを確認してください。固定されないとキャブが下がって死亡または重大なケガをするおそれがあり危険です。
- エンジン停止直後は、エンジンやラジエーター、エキゾーストパイプなどの部品が高温になっています。やけどをするおそれがありますので、これらの部品が冷めるまで絶対に触らないでください。
- キャブチルトした状態でドアを開けたり、キャブ内に乗り込むなどしないでください。ドアが重みで降下したり、足場が悪く転倒したりするなど、死亡または重大なケガにつながるおそれがあります。

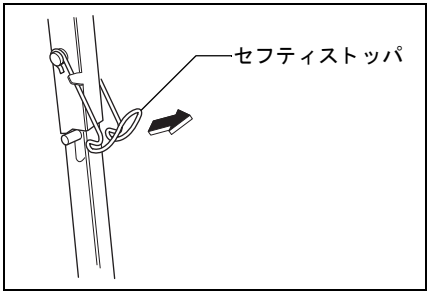
■キャブの下げ方

⚠警告

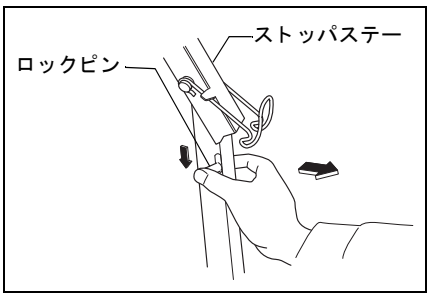
- キャブ上にルーフキャリア★など重量のあるものが取り付けられているときは、必ず 2 人で作業してください。急にキャブが降りて死亡または重大なケガをするおそれがあり危険です。
- 降りてきたキャブと接触し、死亡または重大なケガをするおそれがありますので、キャブを下げる前に、キャブ内や、キャブの近くに人がいないことを確認してください。
- 布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。このため、キャブを下げる前に、エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。



1. キャブを支えながら、セフティストッパを外します。



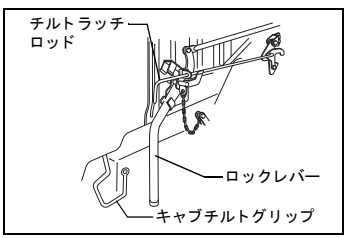
2. ロックピンの両端をつまみ下方に押し下げてから車両後方に引くとストッパステーが折り曲がりキャブを降ろすことができます。次にチルトラッチがキャブを自動的にキャッチするまでキャブチルトグリップを持って降ろします。



⚠ 警告

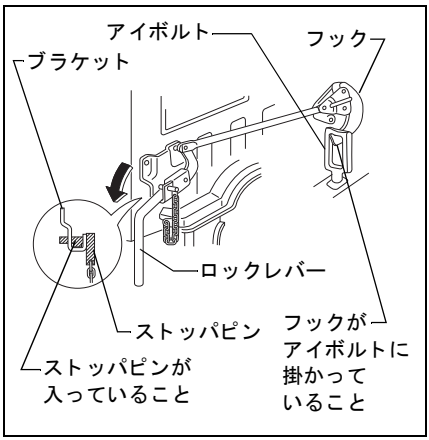
死亡または重大なケガをするおそれがありますので、次のことを必ずお守りください。

- ストッパステーを後方に折り曲げる際、指を挟まないように十分注意してください。
- キャブを降ろすときは、キャブチルトグリップを持って降ろしてください。
- キャブを降ろすとき、チルトラッチロッドが動きますので、チルトラッチロッドに触れないようにしてください。
  また、ロックレバーには触れないようにしてください。キャブが降りてきたとき、ロックレバーが急に動くことがあります。



3. ロックレバーを下側のキャッチに、止まるまで引き下げます。
4. ストッパピンを確実に最後まで差し込み、90°回してロックします。

＊ ストッパピンが差し込めないときは、キャブが完全にロックされていない状態です。いったんキャブを途中までチルトした後、再度キャブロック操作を行い、ストッパピンを差し込んで、完全にロックされたことを確認してください。



⚠ 警告

キャブロックの際は、フックをアイボルトに掛け、ストッパピンを確実に差し込んでください。ストッパピンを外したまま走行するとキャブロックが外れ、走行中にキャブが上がるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

キャブを降ろした後、必ずトランスミッションのチェンジレバー、セレクトレバー、またはギヤセレクタを操作し、変速操作が正常にできることを確認してください。正常に動かない場合、日野販売会社の整備工場に連絡してください。そのままの状態で操作を続けると、トランスミッションが破損することがあります。

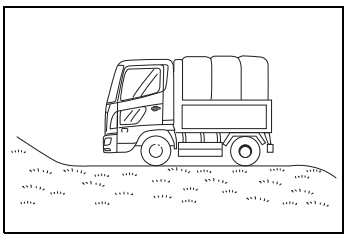
電動キャブチルト★

■キャブを上げる前の準備

⚠警告

死亡、重大なケガまたは車体の損傷につながるおそれがあるため、必ず以下の事項に従ってください。

1. 平坦な場所に停車させます。

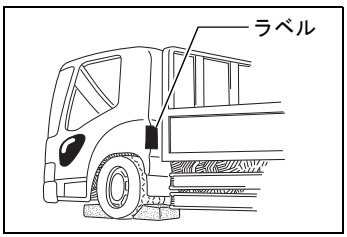


＊ 平坦な場所に置かれていないと、キャブを降ろしたとき、キャブロックが掛かりにくくなることがあります。

2. チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を N（「P」レンジ付き車では P ）位置にし、パーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止め、タイヤの前後に輪止めを掛けます。
3. キャブ上方・前方に障害物がないことを確認します。
4. ルーフキャリア★およびキャブ内の荷物は、キャブを上げたとき倒れたり落ちたりして破損しますので、固定するかルーフキャリア★およびキャブ内から取り出します。
5. フロントパネルがロックされていることを確認します。
6. ドアを確実に閉めます。
7. キャブ内や、キャブの近くに人がいないことを確認します。

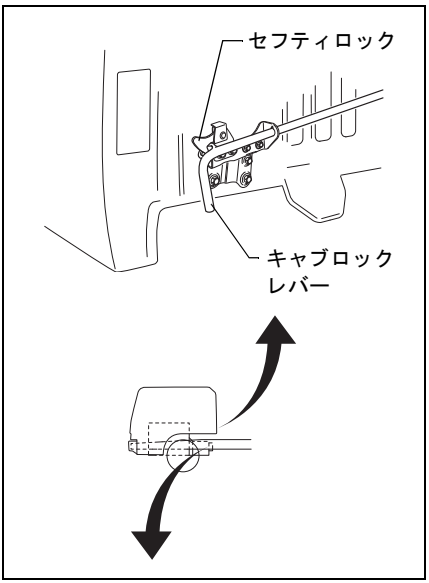
⚠警告

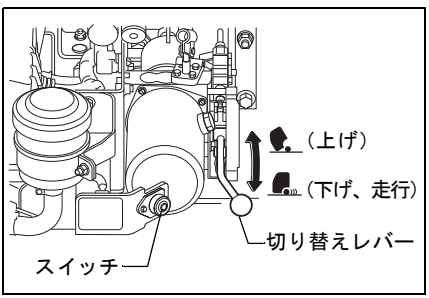
- 警報ブザーが鳴っている（キャブ上げ時、キャブ下げ時）間は、キャブを途中で止めないでください。また、キャブの下やキャブ内に入ったり、操作中に空いた手をキャブの下に置いたりしないでください。
- キャブ左後方にキャブ上げ下げについての警告事項および操作手順のラベルが貼ってあります。本書の手順およびラベルの記載事項をよく理解してからキャブ上げ下げの操作をしてください。

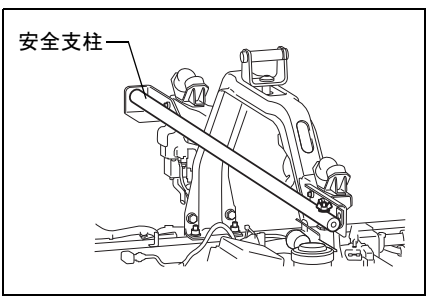


■各部の名称

▶ ダブルキャブ車



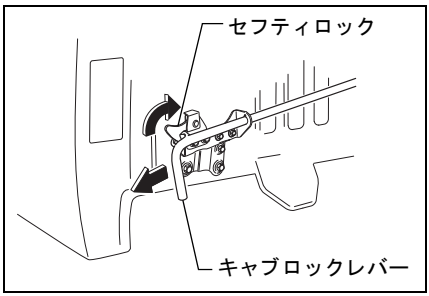




● キャブの上げ方

1. セフティロックを外し、キャブロックレバーが戻らなくなるまで引きます。このとき、車外に警報ブザーが鳴り、キャブチルト操作中であることを知らせます。

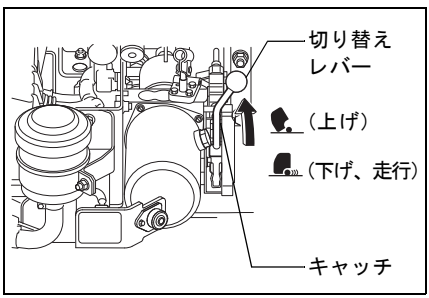
〔ダブルキャブ車〕



2. 切り替えレバーを「 」（上げ）の位置にします。

＊ 切り替えレバーがキャッチに確実に入っていることを確認してください。

〔ダブルキャブ車〕



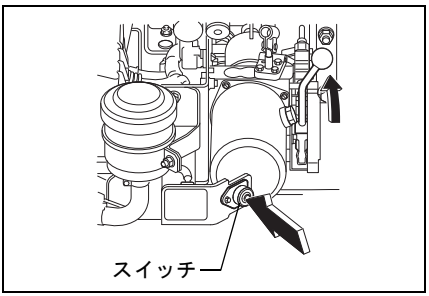
3. スイッチを押すと、キャブが上昇します。

⚠ 警告

キャブ上げ時には、ブザーが鳴ることを確認してからスイッチを押してください。

4. キャブが上がりきるまでスイッチを押し続けます。
ダブルキャブ車は、キャブが完全に上がりきると自動的に停止します。同時に警報ブザーも鳴りやみます。
キャブが上がりきるまでの時間はダブルキャブ車で約 60 秒です。

〔ダブルキャブ車〕

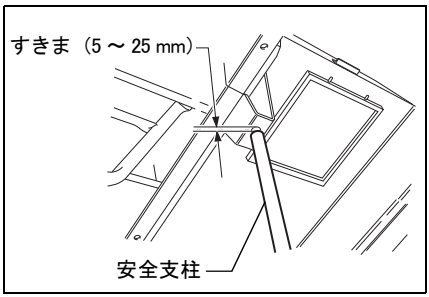


アドバイス

キャブが上がりきっても、警報ブザーが鳴りやむまでは、スイッチから手を離さないでください。
スイッチから手を離してしまった場合、もう一度押し直せば作動が再開しますが、再開に時間がかかる場合があります。

5. ダブルキャブ車は、キャブが上がった状態で、格納されている安全支柱を外して、キャブフレーム左後部の所定の位置にセットします。

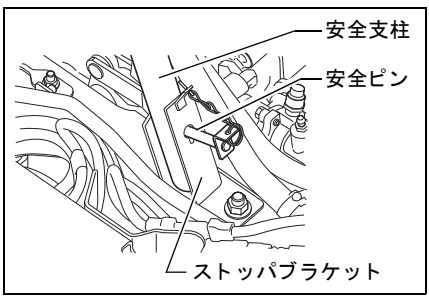
〔上端〕



・ 安全支柱の上端（凸部）を、キャブフレームの穴部に確実に挿入します。

＊ 安全支柱の上端とキャブとの間のすきまが、5 ～ 25 mm であることを確認してください。このすきまが範囲内でない場合には、安全支柱が正しく挿入されていませんので、このような場合は、安全支柱をもう一度挿入し直してください。

〔下端〕



・ 安全支柱の下端を、車両フレーム側のストッパブラケットに挿入し、確実に安全ピンでロックします。

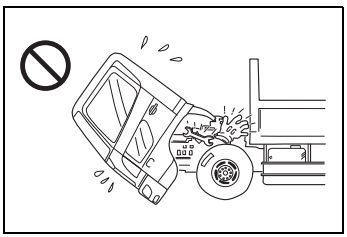
⚠ 警告

- キャブが上がりきったら以下の項目を必ず確認してください。以下が確実に実施されていないと、キャブは固定されていないため、キャブが降下して死亡または重大なケガにつながることがあります。
  - 切り替えレバーが「」（上げ）の位置でキャッチに確実に入っていること。
  - 安全支柱が確実にセットされていること。〔ダブルキャブ車〕
- エンジン停止直後は、エンジンやラジエーター、エキゾーストパイプなどが高温になっています。やけどをするおそれがありますので、これらの部品が冷めるまで絶対に触らないでください。
- キャブチルトした状態でドアを開けたり、キャブ内に乗り込むなどしないでください。ドアが重みで降下したり、足場が悪く転倒したりするなど、死亡または重大なケガにつながるおそれがあります。

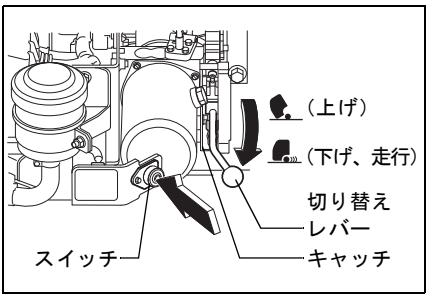
● キャブの下げ方

⚠ 警告

- 降りてきたキャブと接触し、死亡または重大なケガをするおそれがありますので、キャブを下げる前に、キャブ内や、キャブの近くに人がいないことを確認してください。
- 布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。このため、キャブを下げる前に、エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。



〔ダブルキャブ車〕



1. ダブルキャブ車は、安全支柱を取り外して格納します。また、安全ピンはストッパブラケットに差し込み戻します。
2. 切り替えレバーを「」（下げ、走行）の位置にします。このとき警報ブザーが鳴り、キャブチルトの操作中であることを知らせます。

＊ 切り替えレバーがキャッチに確実に入っていることを確認してください。

3. スイッチを押すと、キャブが下降します。

⚠ 警告

キャブ下げ時には、ブザーが鳴ることを確認してからスイッチを押してください。

4. キャブが完全に降りきっても、警報ブザーが鳴りやむまでスイッチを押し続けます。キャブはダブルキャブ車で約 35 秒で降りきり自動的にロックされます。

⚠ 警告

- キャブロックレバーにセフティロックが掛かっているにもかかわらず、警報ブザーが鳴っているときは、スイッチをさらに押し続け、警報ブザーが鳴りやむことを確認してください。それでも警報ブザーが鳴っているときは、自動ロック装置が作動していないか、電気系統の故障が考えられますので、運転をせず、日野販売会社の整備工場に連絡してください。この状態で運転をすると、走行中にキャブが上がり、死亡または重大なケガにつながるおそれがあります。
- キャブ下降中、警報ブザーが鳴りやむ前にスイッチから手を離してしまった場合はキャブが、正しく降りず、固定されないことがありますので、いったんキャブを上げた後、再度 2. 以降の操作を行ってください。

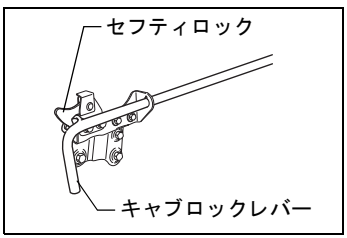
5. キャブを降ろした後、セフティロックがキャブロックレバーに確実に掛かっていること、および切り替えレバーが「」（下げ、走行）の位置でキャッチに入っていることを確認します。

⚠警告

キャブが下がりきったら以下の項目を必ず確認してください。以下が確実に実施されていないと、キャブは固定されず、運転中にキャブが上がり、死亡または重大なケガにつながることがあります。

- セフティロックがキャブロックレバーに確実に掛かっていること。
- 切り替えレバーが「」（下げ、走行）の位置でキャッチに確実に入っていること。

〔ダブルキャブ車〕



⚠注意

キャブを降ろした後、必ずトランスミッションのチェンジレバー、セレクトレバー★、またはギヤセレクタ★を操作し、変速操作が正常にできることを確認してください。正常に動かない場合、日野販売会社の整備工場に連絡してください。そのままの状態で操作を続けると、トランスミッションが破損することがあります。

■電動キャブチルト故障時の処置

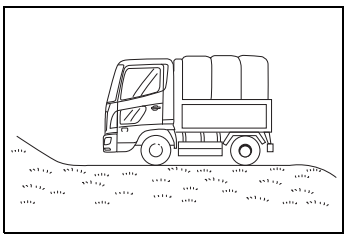
・ 電気系統の故障やバッテリーあがりなどのときは電動チルトできませんので手動でキャブを上げてください。

■キャブを上げる前の準備

⚠警告

死亡、重大なケガまたは車体の損傷につながるおそれがあるため、必ず以下の事項に従ってください。

1. 平坦な場所に停車させます。

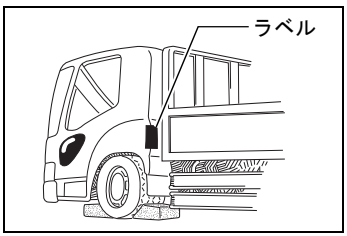


＊ 平坦な場所に置かれていないと、キャブを降ろしたとき、キャブロックが掛かりにくくなることがあります。

2. チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、パーキングブレーキを確実に効かせエンジンを止め、タイヤの前後に輪止めを掛けます。
3. キャブ上方・前方に障害物がないことを確認します。
4. ルーフキャリア★およびキャブ内の荷物は、キャブを上げたとき倒れたり落ちたりして破損しますので、固定するかルーフキャリア★およびキャブ内から取り出します。
5. フロントパネルがロックされていることを確認します。
6. ドアを確実に閉めます。
7. キャブ内や、キャブの近くに人がいないことを確認します。

⚠警告

- キャブ左後方にキャブ上げ下げについての警告事項および操作手順のラベルが貼ってあります。本書の手順およびラベルの記載事項をよく理解してからキャブ上げ下げの操作をしてください。



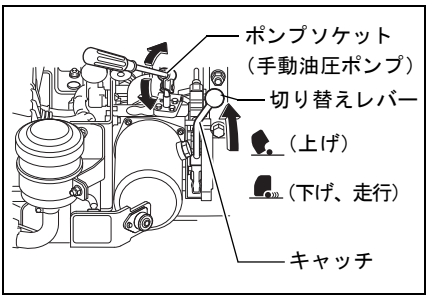
- 警報ブザーは鳴りませんが、キャブチルトの操作中（キャブ上げ時、キャブ下げ時）ではキャブの下に入らないでください。キャブが下がって死亡または重大なケガをするおそれがあります。

・ 故障のときは、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

● キャブの上げ方

1. セフティロックを外し、キャブロックレバーが戻らなくなるまで引いて、切り替えレバーを「」（上げ）の位置にします。
2. ポンプソケット部にドライバーなどの強固な棒を差し込み、ダブルキャブ車は安全支柱がセットできる高さまで、差し込んだ強固な棒を上下に動かします。

〔ダブルキャブ車〕



3. ダブルキャブ車は安全支柱をセットします。

＊ 安全支柱のセット方法については（→P.11-8）

⚠ 警告

- キャブが上がりきったら以下の項目を必ず確認してください。以下が確実に実施されていないと、キャブは固定されていないため、キャブが降下して死亡または重大なケガにつながることがあります。
  - 切り替えレバーが「」（上げ）の位置でキャッチに確実に入っていること。
  - 安全支柱が確実にセットされていること。〔ダブルキャブ車〕。
- エンジン停止直後は、エンジンやラジエーター、エキゾーストパイプなどが高温になっています。やけどをするおそれがありますので、これらの部品が冷めるまで絶対に触らないでください。
- キャブチルトした状態でドアを開けたり、キャブ内に乗り込むなどしないでください。ドアが重みで降下したり、足場が悪く転倒したりするなど、死亡または重大なケガにつながるおそれがあります。

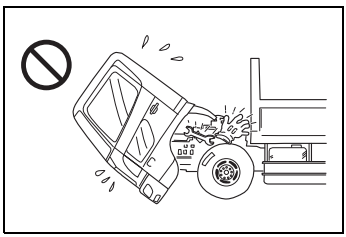
知識

手動油圧ポンプの操作は、始めあまり手ごたえがありませんが、操作を続けると手ごたえがではじめ、キャブチルトが始まります。

● キャブの下げ方

⚠ 警告

- 警報ブザーは鳴りませんが、キャブを下げている途中では、キャブの下に入らないでください。
- 降りてきたキャブと接触し、死亡または重大なケガをするおそれがありますので、キャブを下げる前に、キャブ内や、キャブの近くに人がいないことを確認してください。
- 布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。このため、キャブを下げる前に、エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。



1. ダブルキャブ車は安全支柱を取り外して格納します。また、安全ピンはストッパブラケットに差し込み戻します。
2. 切り替えレバーを「」（下げ、走行）の位置にします。

＊ レバーがキャッチに確実に入っていることを確認してください。

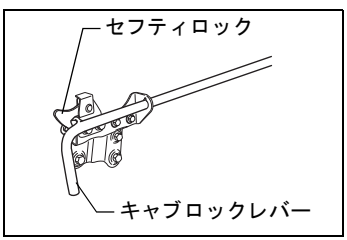
3. ソケット部にドライバーなどの強固な棒を差し込みキャブロックが自動的に掛かるまでレバーを上下に動かします。
   キャブが降りてもレバーが動かなくなるまで操作します。
4. キャブを降ろした後に、セフティロックがキャブロックレバーに確実に掛かっていること、および切り替えレバーが「」（下げ、走行）の位置でキャッチに入っていることを確認します。

⚠ 警告

キャブが下がりきったら以下の項目を必ず確認してください。以下が確実に実施されていないと、キャブは固定されず、運転中にキャブが上がり、死亡または重大なケガにつながることがあります。

- セフティロックがキャブロックレバーに確実に掛かっていること。
- 切り替えレバーが「」（下げ、走行）の位置でキャッチに確実に入っていること。

〔ダブルキャブ車〕



⚠ 注意

キャブを降ろした後、必ずトランスミッションのチェンジレバー、セレクトレバー★、またはギヤセレクタ★を操作し、変速操作が正常にできることを確認してください。正常に動かない場合、日野販売会社の整備工場に連絡してください。そのままの状態で操作を続けると、トランスミッションが破損することがあります。

点検にあたっての注意 ...P.12-3
前日または前回運行中の異状箇所 ...P.12-4
ブレーキ液の量★ ...P.12-5
エアタンク内のたまり水 ...P.12-5
ランプ類の汚れ・損傷 ...P.12-6
※ エンジンオイルの量 ...P.12-7
※ 冷却水の量 ...P.12-9
※ ファンベルトの緩み・損傷 ...P.12-11
※ バッテリー液の量 ...P.12-13
タイヤの空気圧 ...P.12-14
タイヤの亀裂・損傷 ...P.12-15
タイヤの異常な摩耗 ...P.12-15
タイヤの溝の深さ ...P.12-16
ディスクホイールの取り付け状態 ...P.12-17
※ ウインドウウォッシャーの液量・噴射状態 ...P.12-19
パーキングブレーキレバーの引きしろ〔センターパーキング車〕 ...P.12-20
パーキングブレーキレバーの作動〔ホイールパーキング車〕 ...P.12-21
※ エンジンのかかり具合・異音 ...P.12-22
※ ワイパーの拭き取り状態 ...P.12-23
ランプ類の点灯または点滅具合 ...P.12-24
空気圧力の上がり具合 ...P.12-26
エアブレーキバルブの排気音 ...P.12-27
ブレーキの効き具合 ...P.12-27
※ 低速走行・加速の状態 ...P.12-28
エキゾーストブレーキの作動 ...P.12-28

日常（運行前）点検 12

オートマチックトランスミッションオイルの漏れおよびにじみ.....P.12-29
エンジンの調子〔消防車〕.....P.12-29
エンジンオイルの漏れ〔消防車〕.....P.12-30
燃料の量・漏れ〔消防車〕.....P.12-30
冷却水の漏れ〔消防車〕.....P.12-31
ラジエーターキャップの装着状態〔消防車〕.....P.12-32
クーリングファンセンターボルトの取り付け状態および緩み〔消防車〕.....P.12-32
各プーリーの取り付けボルトの緩み〔消防車〕.....P.12-33
エアインテークラバーホースの点検〔消防車〕.....P.12-33
エキゾーストパイプおよびマフラーの点検〔消防車〕.....P.12-34
各パイプジョイントの増し締め〔消防車〕.....P.12-34
計器類の点検〔消防車〕.....P.12-35

いつも安全で快適にご使用していただくため、運転する前に必ず日常（運行前）点検を行い、異状がないことを確認してください。

点検時、異状があるときはご自身で整備するか、あるいは日野販売会社の整備工場で整備を受けてからご使用ください。

なお、道路運送車両法により使用者または運行する人は、この日常（運行前）点検が義務づけられています。

※の点検項目は、走行距離、運行時の状態から判断した適切な時期に行ってください。

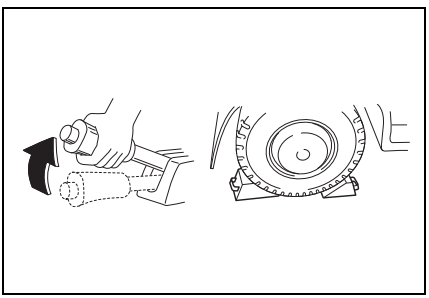
点検にあたっての注意

- 人や交通のさまたげとなる場所や傾斜地での点検は行わないでください。
- パーキングブレーキは確実に効かせ、チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、さらにタイヤの前後に輪止めを掛けてから行ってください。

⚠警告

パーキングブレーキが確実に効いていなかったり、タイヤの前後に輪止めをしていないと車両が動き出し思わぬ事故の原因になります。

（例）



- ボデーの端部などでケガなどしないように軍手などを使用してください。
- キャブをチルトして点検するときは、安全には十分注意してください。（→ P.11-2）
- 車をジャッキアップするときは、作業に応じた適切なジャッキを準備し使用してください。
  ジャッキアップの方法および注意事項は（→ P.13-54）

＊ 車載工具のジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

⚠警告

- 換気の不十分な車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。排出ガスが充満し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- キャブをチルトして点検するときは、必ずエンジンを止めてください。
  エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などが巻き込まれて、思わぬケガをするおそれがあります。
- エンジン停止直後は、排気管・ラジエーターなど高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- キャブを降ろすときは、エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。足場が悪いため思わぬケガをするおそれがあります。

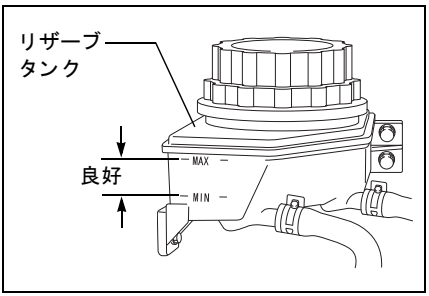
知識

交換後のオイル・冷却水・各種部品類の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。
処理方法を誤ると法律違反になります。

前日または前回運行中の異状箇所

前日までの使用時に異状があった箇所を確認します。引き続き異状があり、ご自分で整備できないときは、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

ブレーキ液の量★



- リザーブタンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。
- 液面が「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。
- 液面が「MIN」の線より下の場合、配管系に液漏れのないことを確認して、ブレーキフルードを「MAX」の線まで補給してください。

＊ ブレーキフルードの補給は（→ P.14-23）

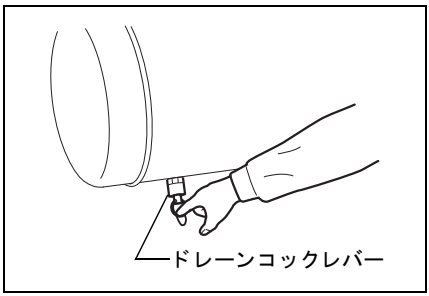
⚠警告

液面が異常に減少しているときは、パイプなどからブレーキ液が漏れているおそれがありますので、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

アドバイス

ブレーキ液の量を点検するときは、キャップを開けないでください。ブレーキ液は吸湿性が強いため空気に触れると水分を吸収し性能が低下します。

エアタンク内のたまり水

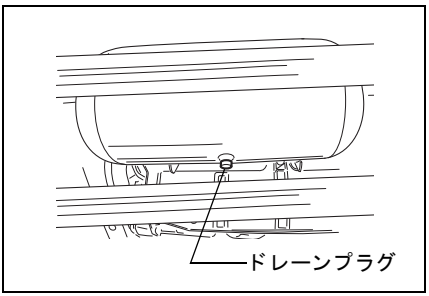


- エアタンク下のドレーンコックレバーを引いて、エアタンク内に水・オイルがたまっていないかを点検します。
- エアドライヤーが装着されていますので、水・オイルが排出されないのが正常です。
  ただし、エアタンクの温度降下が 16 ℃以上（昼間エアを充てんし、早朝ドレーンするようなとき）あると霧状もしくは少量の水・オイルが出ることがありますが異常ではありません。
- 点検時、多量の水などが排出されたときは、エアドライヤー内の乾燥剤の劣化が考えられますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

＊ エアドライヤーのお手入れについては（→ P.13-45）

・ エアスプリング用エアタンクはFC・FD 車（リヤエアサス車）がリヤアクスル後ろ側のフレーム中央部、GC・GD・FJ・FE 車および FD 車がリヤアクスル後ろ側のフレーム中央部とリヤアクスル前側のフレーム中央部に設けてあります。

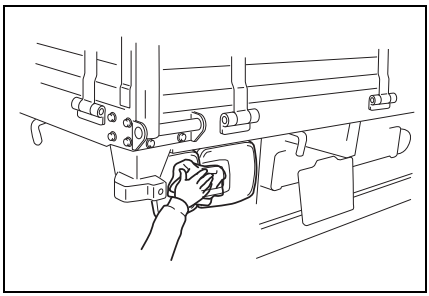
＊ お車の仕様によりエアタンクの搭載位置が異なる場合があります。



⚠警告

- ドレーンプラグによるエアタンクの排水作業については、最寄りの日野販売会社の整備工場で行ってください。
- エアスプリング付き車は、ドレーンプラグをゆるめると車高が下がります。事故防止のため、車の下、前後およびタイヤ付近に人や障害物がないことを確認してから作業を行ってください。

ランプ類の汚れ・損傷



・ 各ランプ類に汚れや損傷がないかを点検します。
また、各ランプ類のレンズや反射器（リフレクター）に汚れや変色および損傷などがないかを点検します。

・ 汚れは、やわらかい布を使用し、水洗いしてください。

・ 損傷しているときは、交換してください。

＊ ランプの交換は（→ P.15-26）

エンジンオイルの量

＊ 車両は平坦な場所に止めてください。

⚠警告

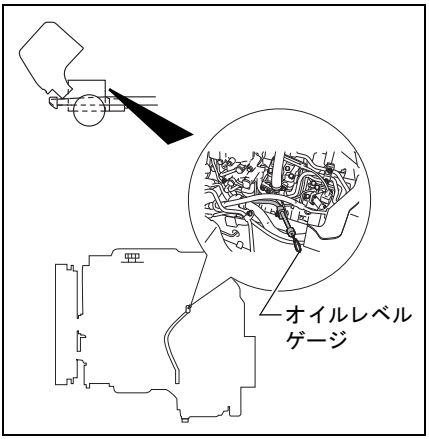
- 補給時にオイルをこぼさないようにしてください。排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。
- 運転直後の点検はエンジンや配管等が高温になっていますので、やけどをしないように注意してください。
- エンジンオイルを点検するときは、必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれて思わぬケガをするおそれがあります。

知識

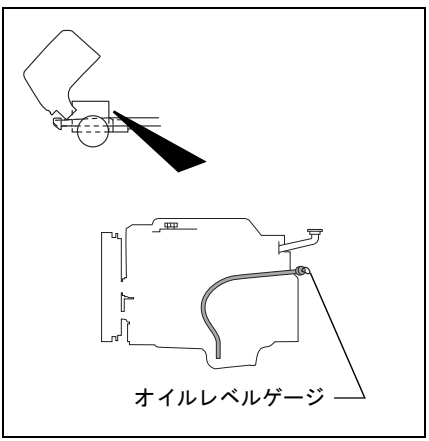
- 点検は、平坦な場所で、エンジン始動前に行います。傾いていたり、エンジン回転状態では正確なオイル量が測れません。
- エンジンを始動したときには、エンジンを停止させて 30 分以上たってからオイル量を測ってください。
- エンジンオイル注入口やそのキャップ裏面、およびオイルレベルゲージに白濁した物質が付着している場合があります。この白濁物質は、ブローバイガス中の水分がエンジン内部で結露してエンジンオイルと混合してクリーム状になったものです。短時間の走行や冬期などエンジンの温度が上がらないときに発生しますが、エンジンが温まって水温計が安定する程度の走行によりオイルと水分が分離して元に戻ります。
- DPR フィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積すると自動的に再生（燃焼）を行います。この再生を行うために、エンジン燃焼室内に微量の燃料噴射を行います。このため気候や運転条件により、エンジンオイル内へ燃料が混ざり、エンジンオイルが注入時よりも増えることがありますが故障ではありません。

1. オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを布で拭き取ります。

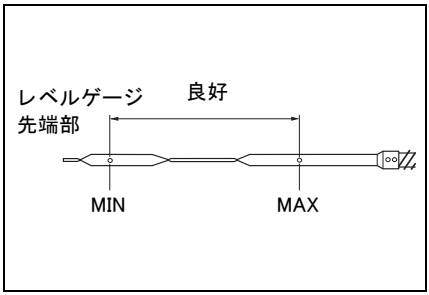
〔標準キャブ車〕



〔ダブルキャブ車〕

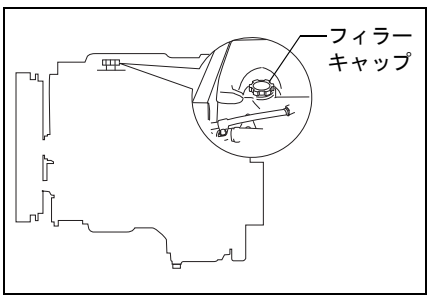


2. 再びオイルレベルゲージをいっぱいに差し込んでから静かに抜き取ります。

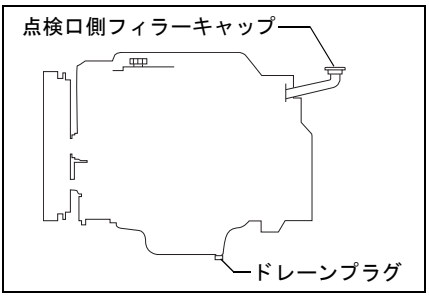


- オイルが最低「MIN」と最高「MAX」の範囲内に付着すれば良好です。

3. 不足しているときは、フィラーキャップを外し、オイルレベルゲージが「MAX」の位置を示すまで補給します。なお、著しくオイルが汚れているときはエンジンオイルを交換してください。



・ ダブルキャブ車および消防車は室内の点検口側のフィラーキャップからも補給できます。



⚠ 注意

■ **オイルレベルゲージの「FULL」の位置以上にエンジンオイルを入れないでください。**

エンジン故障の原因になります。

■ **オイル量がオイルレベルゲージの「LOW」の位置以下の場合、必ずエンジンオイルを補給してください。**

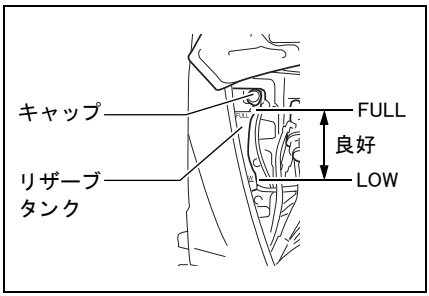
エンジンオイルが少ないと、潤滑不良となりエンジンが故障するおそれがあります。

＊「MAX」を超えている場合は、必ずエンジンオイルを交換してください。

4. 点検後は、必ずオイルレベルゲージを差し込みます。

＊ エンジンオイルの補給・交換は（→ P.14-4）

冷却水の量



・ 点検はエンジン始動前の冷却水が冷えているときに行います。

・ ラジエーターリザーブタンク内の水量が規定の範囲内にあるかを点検します。

・ ラジエーターリザーブタンクの水面が「FULL」と「LOW」の線の間にあれば良好です。

・ ラジエーターリザーブタンクの水面が「LOW」の線より下の場合、冷却系各部から水漏れがないことを確認して、冷却水を「FULL」の線まで補給してください。

＊ 冷却水が短期間で異常に減少しているときは、冷却系統から水漏れしているおそれがありますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

＊ 冷却水の補給は（→ P.13-27）

・ ラジエーターリザーブタンク内の冷却水が空のとき、またはマルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 冷却水不足 ”を表示したときは、ラジエーター本体の水量が不足していますので、ラジエーターキャップを開けて給水してください。

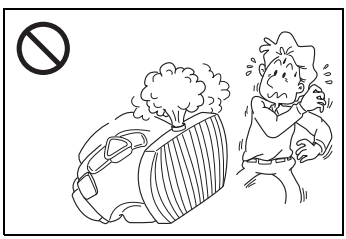
＊ ラジエーターキャップの取り扱いは（→ P.13-33）

＊ 交換のしかた（給水）は（→ P.13-31）

＊ 冷却水を補給しても短期間で再び減少するときは、冷却系統から水漏れしているおそれがありますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

⚠警告

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



アドバイス

冷却水の点検および補給は、エンジン始動前の冷えている状態で行ってください。
冷却水の点検を水温が高いときに行うと温度による水の膨張で水量が実際より多くなります。

ファンベルトの緩み・損傷

⚠警告

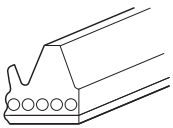
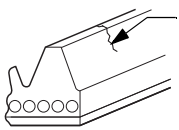
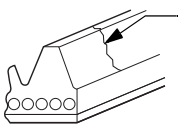
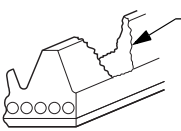
ファンベルトを点検するときは、必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれて、思わぬケガをするおそれがあります。

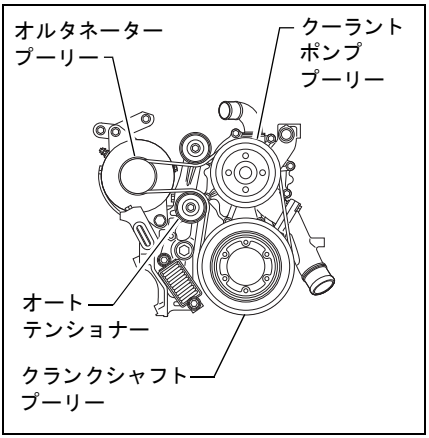
■オルタネーターベルトの点検

・ エンジンを止めて点検します。

＊ このエンジンは、オートテンショナーによりベルト張力を自動調整していますので、ベルトの張り調整作業は不要です。

＊ V リブドベルトは、外観損傷ランクを判定して必要に応じて交換してください。

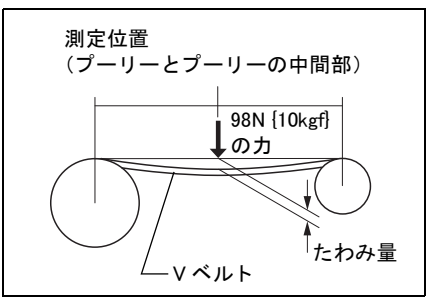
ランク	V リブドベルト概略図	残存寿命
A		今までの走行距離（時間）と同程度以上
B		今までの走行距離（時間）と同程度
C		今までの走行距離（時間）の 1/4 ～ 1/2
D		寿命



■エアコン用コンプレッサーベルトの点検

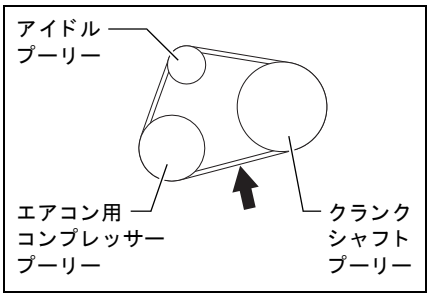
- エンジンを止めて点検します。
- ベルトの中央部を指で押して、ベルトのたわみ量が基準値内にあるかを点検します。また、このときベルトに損傷がないかも点検します。

〔たわみ量の測定方法〕



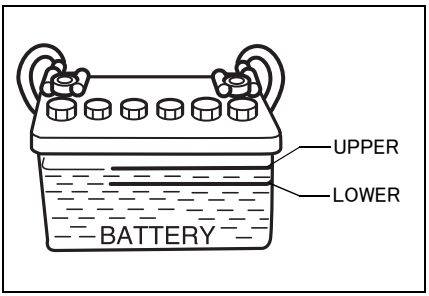
- ベルトの中央部を約 98 N {10 kgf} の力で指で押すかまたは特殊工具ベルトテンションゲージ（品番：S0944 - 41210）を使用し、測定します。
- たわみ量が基準値外のときは、調整してください。また、ベルトが損傷しているときは、新品のベルトに交換してください。

＊ ファンベルトの調整は（→ P.13-34）



基準値
11mm

バッテリー液の量



- バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が規定の範囲内にあるかを点検します。
- 液面がケース側面の「UPPER」～「LOWER」の線の間にあれば良好です。
- 液面が「LOWER」の線より下の場合、補充液または蒸留水を補給してください。

⚠危険

- バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。
- バッテリー液量が「LOWER」レベル以下のまま使わないでください。劣化を早めたり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。

⚠警告

バッテリー液は希硫酸ですから、皮膚や衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、衣服に付着したときは石けんで十分洗い、また、万一皮膚に付着したり眼に入ったときはただちに清水で十分洗い医師の治療を受けてください。

アドバイス

- バッテリー液の補充時、「UPPER」レベルを超えないように注意してください。「UPPER」レベル以上に入れるとバッテリー液があふれ、バッテリー端子などの腐食の原因になります。万一、こぼしたときは、すぐに水できれいに洗い流してください。
- バッテリー液を補充したときは、必ず充電（走行）してください。特に、冬期はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースを破損させるおそれがあります。

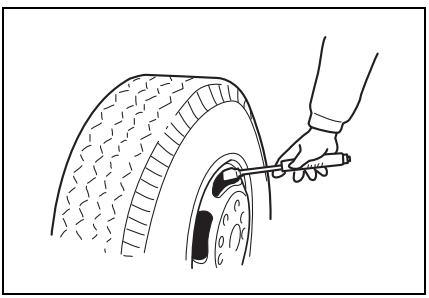
＊ バッテリーのお手入れは（→ P.13-96）

タイヤの空気圧

・ タイヤの空気圧が規定の範囲内にあるかを点検します。
特に、ダブルタイヤや偏平ラジアルタイヤの場合は、空気圧が低下していても目視では分かりにくいため、エアゲージを使用して点検してください。

アドバイス

新・ISO 方式ホイールの一部では、エアバルブの位置やかざり穴の形状が、従来ホイールと異なります。ダブルタイヤの場合、特にアルミホイールでは、内側タイヤのバルブにエクステンションを取り付けるか、適合するバルブキャップレンチやエアゲージを使用すると点検が容易に行えます。



・ エアゲージでタイヤ（スペアタイヤを含む全輪）の空気圧の点検をします。空気圧が不適正のときは、標準空気圧に調整してください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不適正なまま走行を続けると、パンクやバーストを招きやすくなります。空気圧が低いまま走行したり、パンクしたまま走行すると、ナットが緩んで脱落したり、ボルトが折損するなど、車輪脱落事故の原因となります。

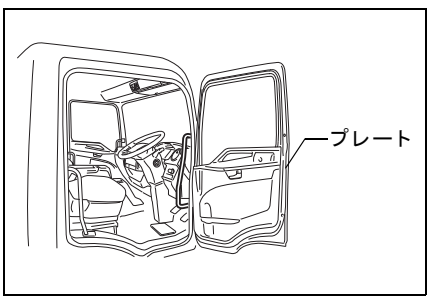
⚠ 注意

エクステンションは、ダブルタイヤの内側にエアを注入する際にのみ使用し、走行時は必ず外してください。
エクステンションを装着したまま走行すると、エアバルブの破損やエクステンションの脱落による事故につながるおそれがあります。

＊ 点検・測定および充てん時は、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。（走行直後は熱によって空気圧が高くなりますが、決して抜かないでください。）

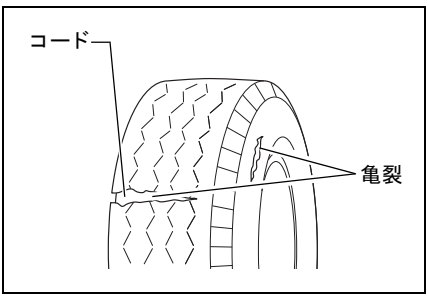
・ 空気圧の測定後およびエア充てん後は、外したバルブキャップを必ず取り付けてください。

・ タイヤ標準空気圧を示したプレート（標準タイヤ以外の空気圧を含む）がキャブの右ドア部に貼付してあります。



タイヤの亀裂・損傷

・ タイヤの接地面全周や側面に亀裂や損傷がないかを点検します。また、釘・石・そのほかの異物が刺さったりかみ込んだりしていないかをタイヤ全周にわたり点検します。



・ タイヤに亀裂・損傷などがあるときは、新品のタイヤに交換してください。

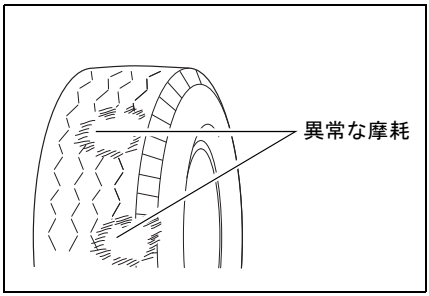
＊ タイヤの交換は（→ P.13-59）

⚠ 警告

傷がタイヤ内部のコードに達しているときや、コードが露出しているときは使用しないでください。本来のタイヤ強度がたもたれず破損するおそれがあります。

タイヤの異常な摩耗

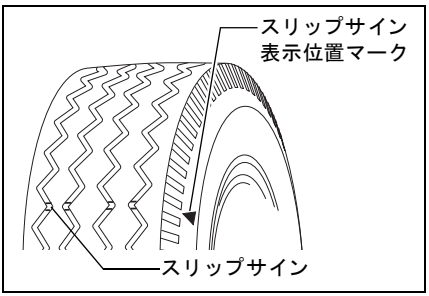
・ タイヤの接地面に異常な摩耗がないかを点検します。



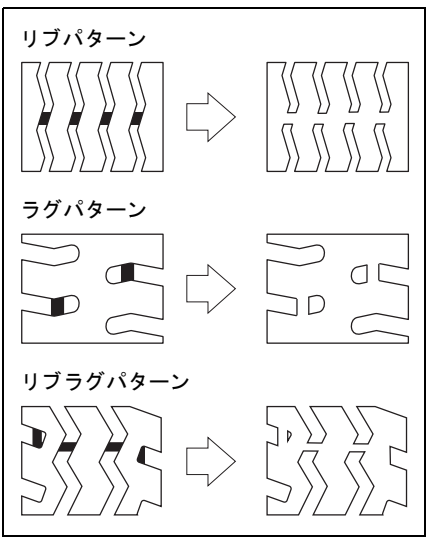
・ 異常な摩耗があるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

タイヤの溝の深さ

- タイヤの溝が十分に残っているかを点検します。
- 残り溝が 1.6 mm になると、タイヤのスリップサイン表示位置（▲位置）に摩耗限度表示が現れます。
  スリップサイン（摩耗限度表示）が現れたときは、新品のタイヤに交換してください。



〔タイヤパターン別スリップサイン〕



＊ タイヤの交換は（→ P.13-59）

⚠ 警告

- スリップサイン（摩耗限度表示）が現れたときは、走行しないでください。スリップしやすくなり非常に危険です。
- 高速道路を走行するときは、溝の深さを確認してください。溝の深さが規定以下のときは、危険なため走行しないでください。

タイヤサイズ	溝の深さ限度（mm）	
	高速道路	一般路
7.50R16-14PRLT	2.4	1.6
8.25R16-14PRLT		
7.50R20-12PR	3.2	
8.25R20-14PR		
9R22.5-14PR		
11R22.5-14PR		
11R22.5-16PR		
11/70R22.5-14PR		
215/70R17.5 123/121J		
225/70R19.5 130/128J		
225/80R17.5 123/122L		
225/90R17.5 127/125L		
235/70R17.5 127/125J		
235/70R22.5 138/135J		
245/70R19.5 136/134J		
245/80R17.5 133/131J		
255/70R22.5 143/140J		
265/60R22.5 143/140J		
265/70R19.5 140/138J		
275/70R22.5 148/145J		

タイヤサイズ	溝の深さ限度（mm）	
	高速道路	一般路
275/80R22.5 151/148J	3.2	1.6
285/60R22.5 148/145J		
295/70R22.5 151/148J		
295/80R22.5 153/150J		
305/60R22.5 151/148J		
315/80R22.5 156/153J		
385/55R22.5 160J		
385/65R22.5 160J		
445/50R22.5 168J		

＊ 表はプレートの表示例です。

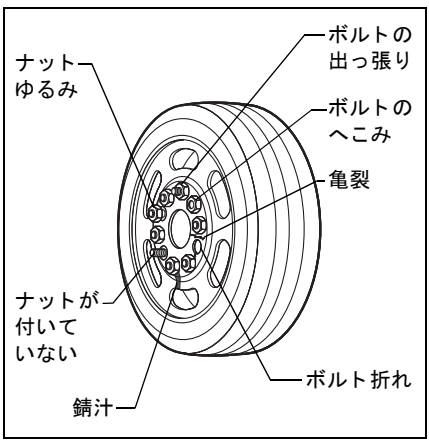
ディスクホイールの取り付け状態

ホイールナット・ボルトおよびディスクホイールを目視および点検ハンマーなどで点検し、異常があるときは新品の日野純正部品に交換してください。

■目視での点検

⚠警告

異常がある場合は、ホイールナットのゆるみやホイールボルトの折損につながり、脱輪の原因になります。すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。



- ホイールナットとホイールボルトを一体で覆うインジケーターを装着している場合は取り外します。
- ホイールボルトおよびナットがすべて付いているかを点検します。

・ ディスクホイールやホイールボルトまたはナットから錆汁が出た痕跡がないか、ホイールに亀裂や損傷がないか点検します。

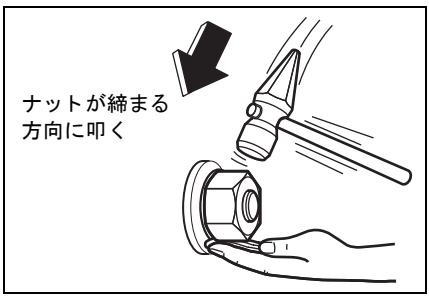
・ ホイールナットからのホイールボルトの出っ張り量を点検します。出っ張り量に不揃いはないか、車輪によって出っ張り量が異なっていないか点検します。

・ ホイールボルトの誤使用がないかを点検します。（スチールホイール用とアルミホイール用は違います）

■点検ハンマーや小型ハンマーを使用しての点検

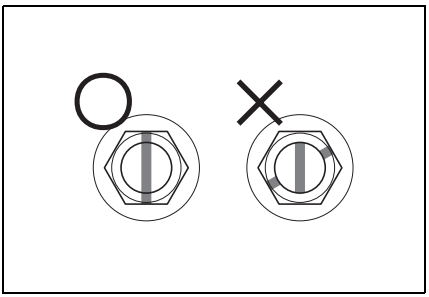
⚠警告

異常がある場合は、ホイールナットのゆるみやホイールボルトが折損しているおそれがあります。すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

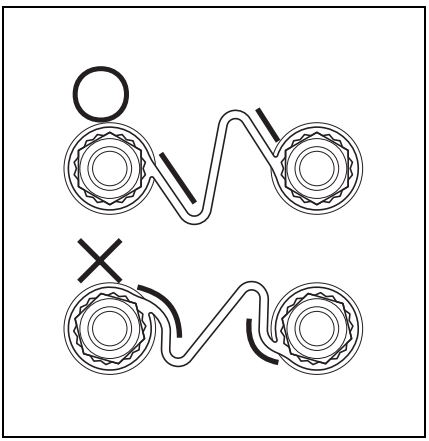


・ ホイールナットの下側に指をそえて、点検ハンマーや小型ハンマーでホイールナットの上側面を叩いたときに、指に伝わる振動が他のナットと違ったり、濁った音がしないか点検します。

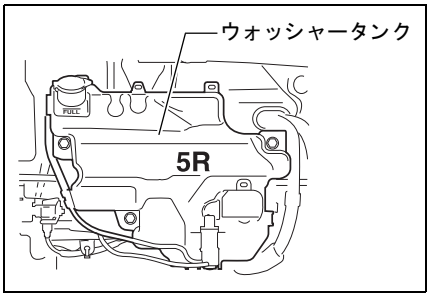
・ ホイールナットおよびホイールボルトへマーキングをしている場合は、マーク位置にずれがないか点検します。



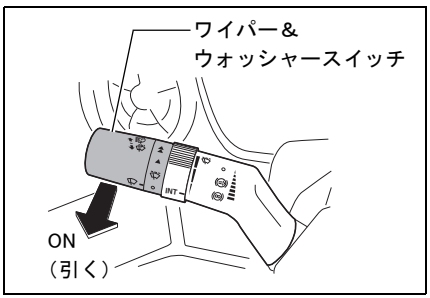
［インジケーターの例］



ウインドウウォッシャーの液量・噴射状態



・ ウインドウウォッシャーの液量が不足していないかを点検します。



・ ワイパー&ウォッシャースイッチを手前に引いて、ウォッシャー液が窓ガラスに噴射するかを点検します。

＊ ウォッシャータンクにウォッシャー液があるにもかかわらず噴射しないときは、ウォッシャーノズルの詰まりが考えられますので、ノズル穴を細い針で清掃し詰まりを取り除いてください。ノズル穴清掃後も噴射しないときは、ウォッシャーモーターなどの不具合が考えられますので最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

＊ ウォッシャー液の補給は（→ P.13-93）

⚠警告

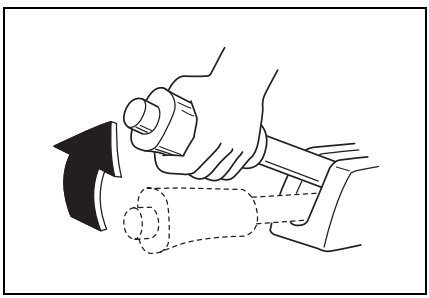
ウォッシャー液に、冷却液（LLC）を使用しないでください。ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に悪くなり危険です。

パーキングブレーキレバーの引きしろ〔センターパーキング車〕

⚠警告

点検は、平坦な場所でブレーキペダルを踏みながら行ってください。点検中車両が動き出し、事故の原因となるおそれがあります。

[FC・FD・GC・GD・FX 車]



・ パーキングブレーキレバーを戻した状態から約 196 N {20 kgf} の操作力で静かに引き、引きしろが多すぎたり少なすぎたりしないかを、ノッチ音を聞いて点検します。

レバーの引きしろ
7 ～ 10 ノッチ

・ レバーの引きしろが規定範囲外のときは、調整してください。

＊ パーキングブレーキの調整は（→P.13-50）

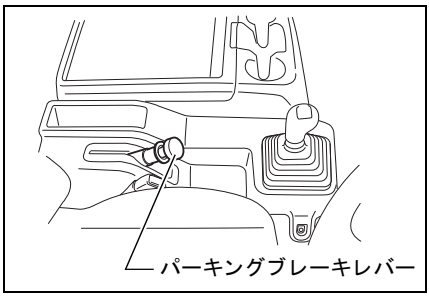
- レバーを引いたときに、ラチェットが確実にかんでいるかも点検してください。
- レバーを引いた後、スターターキーを「ON」の位置にし、Ⓟランプが点灯するかを点検してください。

パーキングブレーキレバーの作動〔ホイールパーキング車〕

⚠ 警告

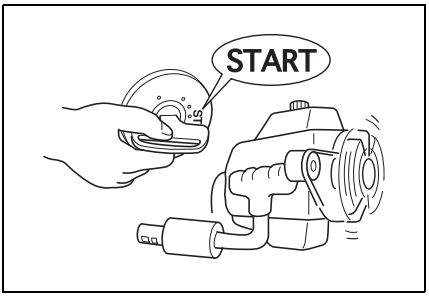
点検は、平坦な場所でブレーキペダルを踏みながら行ってください。点検中車両が動き出し、事故の原因となるおそれがあります。

[FC・FD・GC・GD・FJ・FE・GX車]



- パーキングブレーキレバーを戻した状態からロックするまで引き上げてください。
- レバーを引いた後、スターターキーを「ON」の位置にし、ブレーキペダルから足を離してⓅランプが点灯し、作動時の排気音（エアが抜ける音）がするかを点検してください。

エンジンのかかり具合・異音



- エンジンを始動させ、かかり具合に異常はないかを点検します。また、アイドリング回転で異音がないかも点検します。
- エンジンが正常にかからなかったり、異音が発生しているときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

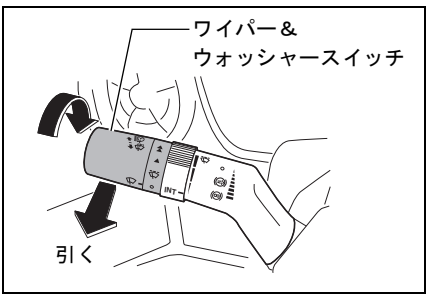
アドバイス

- 1 度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のためスターターキーを「ACC」の位置に戻し、30 秒ほど待ってからかけなおしてください。
- スターターは、15 秒以上連続して回さないでください。スターターが故障したり、過熱（マルチインフォメーションに“スターター過熱注意”を表示）したり、バッテリーあがりを起こす原因となります。
- スターターを 30 秒連続して回した場合、連続通電防止機能が作動します。「ON」の位置で連続通電防止機能解除となります。
- スターターキーを「START」の位置に回すときは、エンジンが完全に停止している状態で操作してください。エンジンが完全に停止していない状態でスターターキーを「START」の位置に回すと、スターターが作動しない場合があります。
- スターターキーを繰り返し「START」の位置に回すと、スターターが作動しない場合があります。3 秒以上間隔をあけて操作してください。
- 始動時にアクセルペダルを必要以上に踏まないでください。黒煙の発生につながります。

＊ 寒冷時にエンジンをかけるとき〔プレヒート（始動補助装置）付き車〕については（→ P.5-7）

ワイパーの拭き取り状態

・ ワイパー＆ウォッシャースイッチを手前に引いて、ウインドウォッシャー液を噴射させてからワイパーの払拭状態を点検します。また、「INT」・「LO」・「HI」各位置にして正しく作動するかを点検します。



＊ ワイパーのから拭きはガラス面を傷つけますので、ガラス面が乾いているときは必ずウォッシャー液を噴射してから動かしてください。

・ 払拭動作にむらがあったり、ビビリがあるときはワイパーブレードを点検し、劣化している場合は新品と交換してください。

＊ 作動状態が悪いときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

＊ ワイパーブレードの交換は（→ P.13-94）

⚠ 警告

ウォッシャー液に、冷却液（LLC）を使用しないでください。ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に悪くなり危険です。

アドバイス

寒冷時、凍結のおそれがあるときや、ワイパーを長期間使用していなかったときは、点検時または作動前にワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

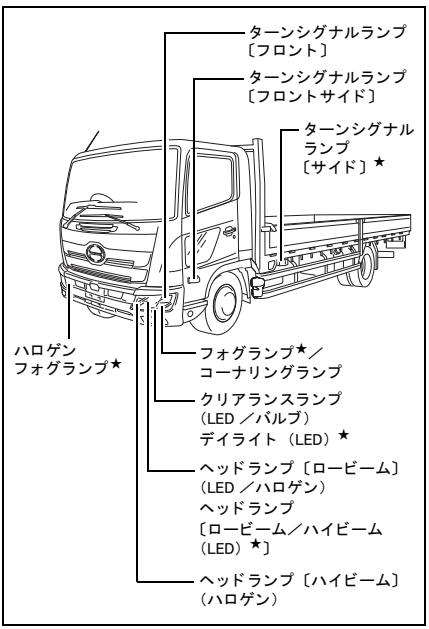
凍結したときは、ぬるま湯をかけ氷をとかします。

ガラスに張り付いたまま作動させるとワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。

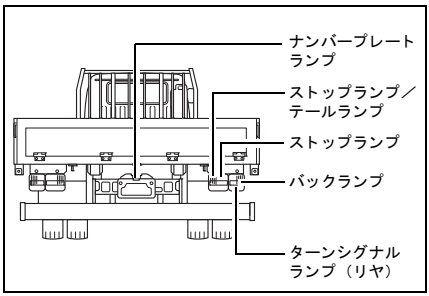
ランプ類の点灯または点滅具合

- 各スイッチを「ON」にして各ランプが点灯または点滅するかを点検します。
- ブレーキペダルを踏んだとき、ストップランプが点灯するかを点検します。
- 照射方向や明るさに異常がないか点検します。

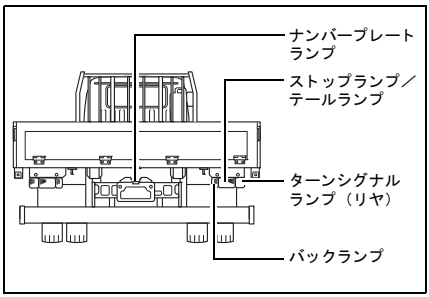
〔消防車以外〕



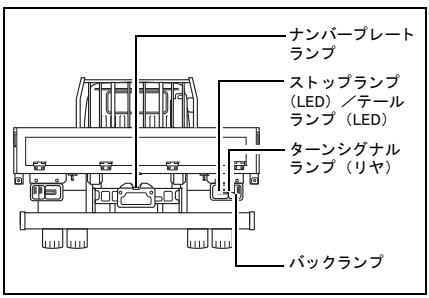
〔3 連リヤコンビネーションランプ（バルブ A 仕様）〕



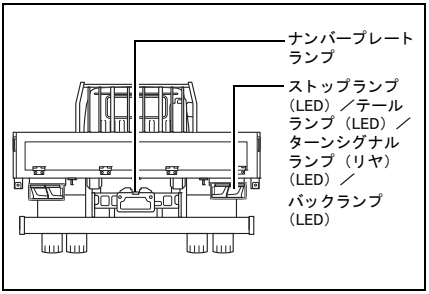
〔3 連リヤコンビネーションランプ（バルブ B 仕様）★〕



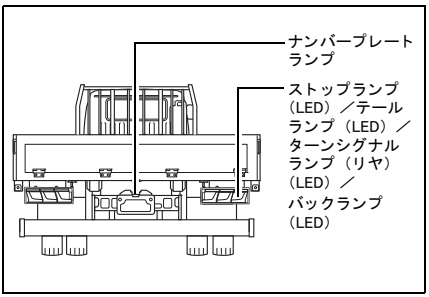
〔3 連リヤコンビネーションランプ（LED 仕様）★〕



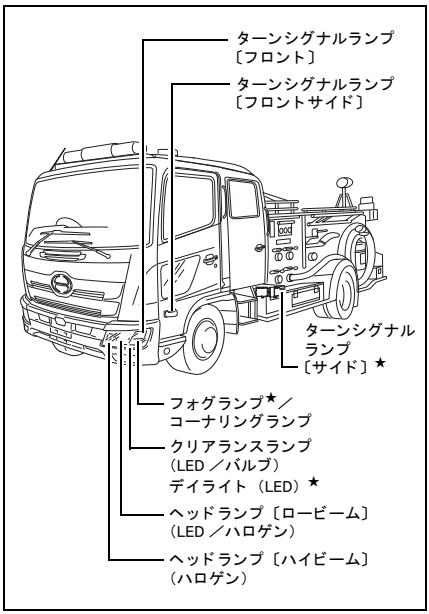
〔2 連リヤコンビネーションランプ（フル LED 仕様）★〕

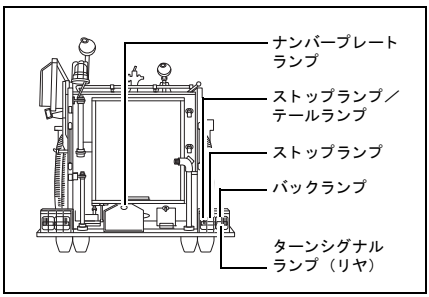


〔3 連リヤコンビネーションランプ（フル LED 仕様）★〕



〔消防車〕





＊ 消防車の LED リアコンビネーション付き車は、〔消防車以外〕の各リアコンビネーションランプの仕様を参照してください。

・ チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクター★を「R（後退）」の位置にしたとき、バックランプが点灯しブザーが吹鳴するかを点検します。

＊ バックブザー減音スイッチが操作されているとき（メーター内のインジケーターが点灯中）は、車両後方のバックブザーは通常より小さい音で鳴ります。

・ 各ウォーニングランプおよびインジケーターランプの作動は正常かを点検します。エンジン始動後、各ウォーニングランプが消えていれば正常です。

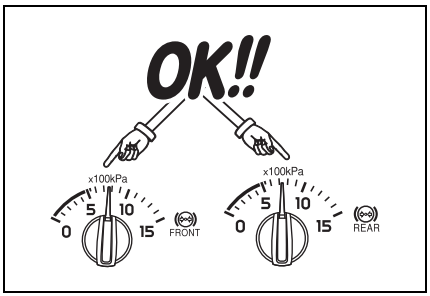
＊ 点検時、点灯しないあるいは点滅しないときは、球切れやヒューズ切れなどが考えられますので、点検し、不具合部品を交換してください。

＊ 交換後も点灯しないあるいは点滅しないときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

＊ ランプの交換は（→ P.15-26）

＊ ヒューズの交換は（→ P.15-39）

空気圧力の上がり具合



・ 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）でエアの上がり具合を点検します。

・ エアタンク内のエアを全部排出した状態にして、アイドリング回転で (!) ランプとマルチインフォメーションの“ ⚠ 安安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”の表示が消えるまでの時間が下記の通りであれば正常です。

ランプが消灯するまでの時間
6 分以内

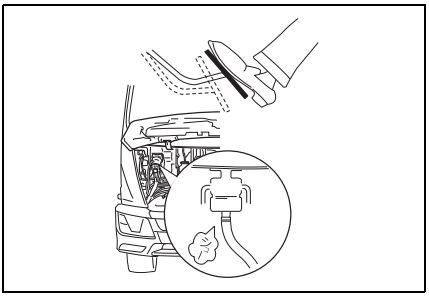
＊ エアサスペンション車は、充てん時間が 6 分以上かかる場合があります。

⚠ 警告

(!) ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”が表示している間は絶対に走行しないでください。ブレーキが十分に効かないため危険です。

・ 空気圧が上昇しなかったり、上昇に時間がかかるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

エアブレーキバルブの排気音



- ブレーキペダルを踏み込んでペダルから足を離したときに、フロントパネル内のブレーキバルブから排気音がすること、またペダルが引っかかりなく完全に戻るかを点検します。
- ペダルから足を離したときに、ブレーキバルブからエアの排気音がして、ペダルが完全に戻れば正常です。
- 点検時、異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

ブレーキの効き具合

⚠ 警告

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

- 走り始める前に、安全な場所で徐行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないかを点検します。
- ブレーキの効きが悪い、片効きになるなどがあるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

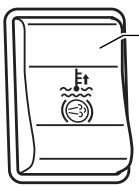
低速走行・加速の状態

- エンジンを暖機させた状態で、アイドリング回転にむらがないかを点検します。
- 運行前に、安全な場所で徐行し、走行状態がスムーズか、またアクセルペダルを徐々に踏み込んでいったとき、ペダルに引っかかりがなくスムーズに加速するかを点検します。
- 低速走行が不安定だったり、アクセルペダルの踏み込み量に対しスピードが追従しないときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

エキゾーストブレーキの作動

■エキゾーストブレーキの作動点検

1. スターターキーを「ON」の位置にし、エンジンが停止している状態で、エキゾーストブレーキ点検スイッチを 1 秒以上押します。同時にメーター内のインジケーターランプが点灯します。



● インジケーターランプ



2. この状態でアクセルペダルまたはクラッチペダルを踏み込んだとき、インジケーターランプが消灯すれば正常です。

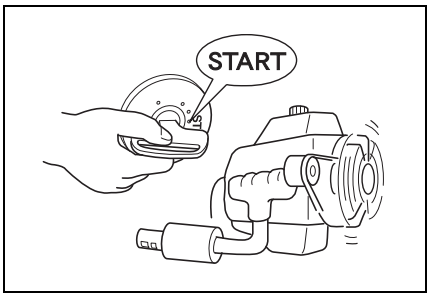
アドバイス

エキゾーストブレーキの点検の際は、このスイッチの「ON」または「OFF」を繰り返してください。

オートマチックトランスミッションオイルの漏れおよびにじみ

- オートマチックトランスミッションのドレーンプラグなどからオイルの漏れおよびにじみがないか点検します。
- オイルの漏れおよびにじみがある場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

エンジンの調子〔消防車〕



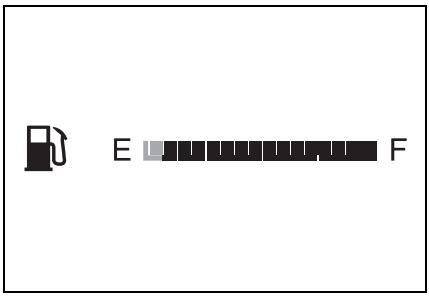
- エンジンを始動させ、アイドリング回転にしてエンジン回転にムラはないか、異音はしていないかを点検します。
- 点検時異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

エンジンオイルの漏れ〔消防車〕

・ 潤滑系統からオイル漏れがないかを点検します。

＊ エンジンオイルが異常に減少しているときは、潤滑系統からのオイル漏れのおそれがありますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

燃料の量・漏れ〔消防車〕

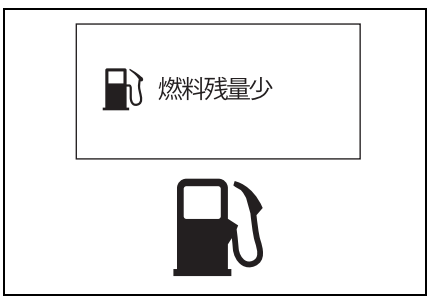


・ フューエルゲージ（燃料計）により燃料の量が目的地まで走行するのに十分であるかを点検します。

・ F..... 満量

・ E..... 残り少ない

・ 燃料の量が少なめのときは、軽油を補給してください。また、「E」レベル付近になるとマルチインフォメーションに ランプが点灯および “ 燃料残量少 ”を表示します。



・ 燃料が異常に減少するときは、フューエルフィルター・フューエルタンクおよびフューエルホースの周りから燃料の漏れ、にじみはないかを点検します。

・ 点検時異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

アドバイス

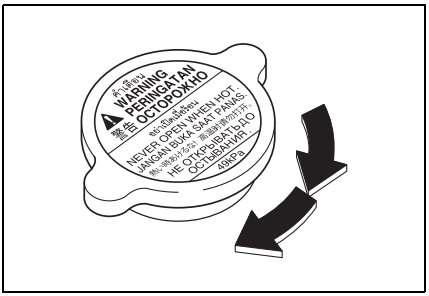
燃料の消費量は運転状態や道路状況などにより大きく変動してきます。走行中燃料切れのないよう早めに補給しておいてください。

冷却水の漏れ〔消防車〕

・ 冷却系各部から水漏れがないかを点検します。

＊ 冷却水が異常に減少しているときは、冷却系統からの水漏れのおそれがありますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

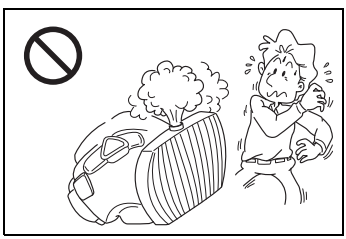
ラジエーターキャップの装着状態〔消防車〕



- ラジエーターキャップが右いっぱい（2 段目まで）に締まっているかを点検します。
- ラジエーターキャップの取り扱いは（→ P.13-33）

⚠ 警告

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



クーリングファンセンターボルトの取り付け状態および緩み〔消防車〕

- クーリングファンセンターボルトの取り付け状態およびゆるみはないかを点検します。
- ゆるみがあるときは増し締めしてください。なお、亀裂や破損が認められたときは交換が必要ですので最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。

各プーリーの取り付けボルトの緩み〔消防車〕

- 各プーリーのボルトの取り付け状態およびゆるみはないかを点検します。
- ゆるみがあるときは増し締めしてください。なお、亀裂や破損が認められたときは交換が必要ですので最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。

エアインテークラバーホースの点検〔消防車〕

- エアインテークラバーホースのつぶれや破損はないかを点検します。
- 点検時異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

エキゾーストパイプおよびマフラーの点検〔消防車〕

- エキゾーストパイプおよびマフラーに亀裂や破損などがないか、取り付け部にゆるみはないかを点検します。
- ゆるみがある場合は増し締めしてください。なお、亀裂や破損が認められたときは交換が必要ですので最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。

各パイプジョイントの増し締め〔消防車〕

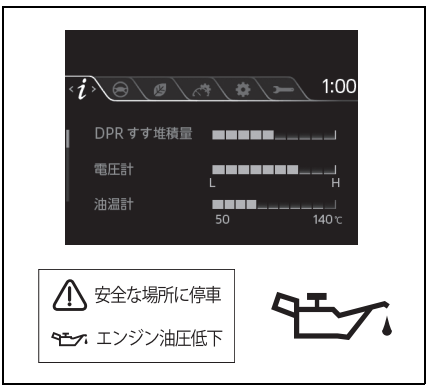
- 各パイプジョイントのボルトの取り付け状態およびゆるみはないかを点検します。
- ゆるみがある場合は増し締めしてください。なお、亀裂や破損が認められたときは交換が必要ですので最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。

計器類の点検〔消防車〕

■エンジン回転計

- エンジンを始動させ、アイドリング回転にて指針の振れはないか、また、アクセルペダルを徐々に踏み込んでいき、エンジン回転計の指針にひっかかりがなくスムーズに上昇するかを点検します。
- 点検時異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

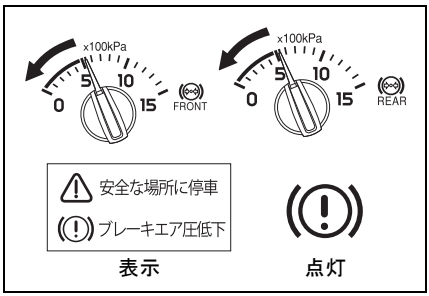
■油温計・油圧警報装置



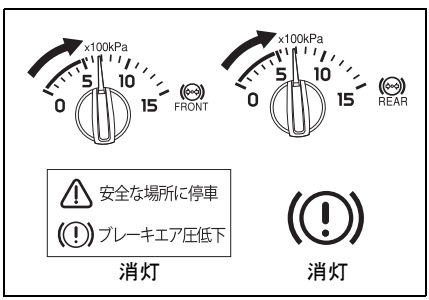
- スターターキーを「ON」の位置にしてオイルプレッシャーウォーニングランプが点灯するかを点検します。
  また、エンジンをかけてオイルプレッシャーウォーニングランプが消灯するか、油温計の目盛りが動くかを点検します。
- 点検時異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■空気圧警報装置

1. ブレーキペダルを踏み空気圧を 540 kPa {5.5 kgf/cm^2} 以下に下げたとき、(!) ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”が表示され、単発ブザーが鳴ることを確認します。



2. この状態でパーキングブレーキレバーを少しゆるめたとき、ブザーおよび音声ガイダンスが鳴れば良好です。
3. 次にエンジンをかけて空気圧を 540 kPa {5.5 kgf/cm^2} 以上に上昇させたとき、ブザーが鳴りやみ、同時に (!) ランプとマルチインフォメーションの“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”表示が消灯すれば正常です。



・ 点検時異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

必ず車両を平坦な場所に停止させ、タイヤの前後に輪止めを掛けて点検してください。坂道などでの点検は車両が動き出すおそれがあり危険です。

点検・調整作業にあたっての注意 P.13-4
車載工具 P.13-6
パーキングブレーキ解除用工具 P.13-7
エンジンオイルフィルター P.13-8
クローズドベンチレータ P.13-10
フューエルフィルター P.13-11
プレフューエルフィルター P.13-14
燃料タンク・タンクバンド・パイプホース P.13-18
スターターモーター P.13-19
AHB（オートハイビーム）リレー★ P.13-19
インタークーラー P.13-20
エアクリーナー P.13-21
エアフィルター P.13-24
冷却水 P.13-25
ラジエーターキャップ P.13-33
ファンベルト P.13-34
フットブレーキ〔全車〕 P.13-36
フットブレーキ〔ドラムブレーキ〕 P.13-40
フットブレーキ〔ディスクブレーキ〕 P.13-43
ブレーキの効き具合 P.13-44
ブレーキブースターの点検★ P.13-45
エアドライヤー P.13-45
クラッチ P.13-46
パーキングブレーキ〔センターパーキング車〕 P.13-50
トランスミッション P.13-51
トランスミッションオイルストレーナー★ P.13-52
オートマチックトランスミッションオイルフィルター P.13-52
トランスファー［FX・GX 車］ P.13-53
デファレンシャル P.13-53
ジャッキアップ P.13-54
タイヤの取り扱い P.13-59
ステアリング P.13-80
シャシスプリング P.13-83
エアスプリング★ P.13-84
V ー ロッド★ P.13-86
ショックアブソーバ P.13-87
電動キャブチルト★ P.13-88
ミラー P.13-89
エアコン P.13-91
ウインドウウォッシャー P.13-93
ワイパー P.13-94
バッテリー P.13-96
スタータースイッチのスイッチ接点 P.13-102
配線関係 P.13-103
ABS 機器（エアオーバーブレーキ車） P.13-103
EBS・ABS 機器（フルエアブレーキ車） P.13-104

アイドルストップシステム機器★ P.13-106
車外騒音に係わる部品 P.13-107
車のお手入れ P.13-107
DPR（排出ガス浄化装置） P.13-113
尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システム P.13-114
燃料添加弁 P.13-122
電気溶接時の注意 P.13-123
通信モジュールの取り扱い P.13-123
ドライバー異常時対応システム（EDSS）★ P.13-124
ミストキャッチャー★ P.13-125
ドアアウトサイドハンドル、グリップの点検 P.13-127
遮音材および吸音材 ... P.13-128

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）と、弊社が指定するメーカー指定点検項目〔シビアコンディション（厳しい使われ方）項目および定期交換部品を含む〕があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。

別冊の「メンテナンスノート」にしたがい日野販売会社の整備工場にお申し付けください。ここでは皆様にも簡単に行える点検・手入れについてまとめましたので、お車を快適にご使用いただくために実施されるよう推奨します。

アドバイス

点検および交換時期に関し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

知識

ここでは本文中の点検時期表記の見方について説明しています。

■例

点検時期
1 新車 1,000 km 走行時
2 その後、事業用 3ヵ月ごと（距離項目）または 5,000 km 走行ごと
3 自家用 6ヵ月ごと（距離項目）
4 ［シビアコンディション項目］

1 新車時から 1,000 km または 5,000 km 走行時に点検・補給を勧めている項目であることを意味しています。

2 事業用自動車の点検が 3 カ月ごとであることと、＊1 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 2,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 2,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

3 自家用貨物車の点検が 6 カ月ごとであることと、＊1 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 4,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 4,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

4 この項目が＊2 シビアコンディション項目であることを表し、使用条件の厳しい車両は 1 カ月ごとの点検を日野自動車が指定している項目であることを意味しています。

＊1 距離項目

- 自家用貨物車、事業用自動車の定期点検整備項目が法律で設定され、点検期間内の走行距離が短い場合、その点検を省略することができます。
- 事業用自動車では、登録日または前回の定期点検からの走行距離が 2,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

・ 自家用貨物自動車では、登録日または前回の定期点検時からの走行距離が 6 カ月の時点で 4,000 km 以下、12 カ月の時点で 8,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

＊ 2　シビアコンディション（厳しい使われ方）項目

定期点検整備は 1 カ月 5,000 km 程度を走行する場合を標準の時期として定めてあります。事業用自動車で特に走行距離が多いなど標準的な使用条件と著しく異なる車両には、シビアコンディション条件を定め、1 カ月ごとの点検・整備および定期交換を日野自動車が推奨しています。

点検・調整作業にあたっての注意

・ 人や交通のさまたげとなる場所や傾斜地での点検・整備は行わないでください。

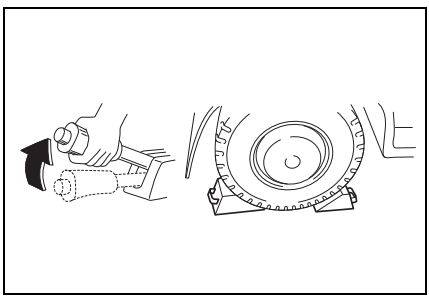
・ エンジンを止め、スターターキーは必ず抜き取ってください。

・ パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクターを N（「P」レンジ付き車では P）位置にし、さらにタイヤの前後に輪止めを掛けてから行ってください。

⚠ 警告

パーキングブレーキが確実に効いていなかったり、タイヤの前後に輪止めをしていないと車両が動き出し思わぬ事故の原因になります。

〔例〕



・ ボデーの端部などでケガなどしないように軍手などを使用してください。

・ キャブをチルトして点検するときは、安全には十分注意してください。（→ P.11-3）

・ 点検・整備作業には適切な工具や機械および測定具を使用してください。

・ 電気系統の作業をするときは、コンピューターなど電子部品を破損するおそれがありますので、必ずバッテリーの㊀端子を外してから行ってください。

・ 車をジャッキアップするときは、適切なジャッキを使用してください。

＊ 車載工具のジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。

⚠ 警告

- 点検で車両の下にもぐるときは、作業の安全を確保するため輪止めを掛け、さらにフレームが下がらないように、スタンド（ウマ）をフレーム下面とのすきまがないように掛けてください。
- 換気の不十分な車庫や屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。排出ガスの充満により、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
- 火災のおそれがありますので、作業中はタバコの火を含めて、周囲で火元の取り扱いをしないでください。
- キャブをチルトして点検するときは、必ずエンジンを止めてください。
  エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると手や衣服などが巻き込まれて、思わぬケガをするおそれがあります。

⚠ 警告

- エンジン停止直後は、排気管・ラジエーターなど高温部に触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- キャブを降ろすときは、エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。
- キャブチルトした状態でキャブ内に乗り込まないでください。足場が悪いため思わぬケガをするおそれがあります。

アドバイス

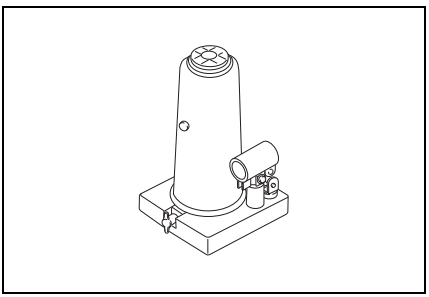
- パイプ類、補機類、およびホース類には乗らないでください。破損や故障の原因になります。
- 交換後のオイル・冷却水・各種部品類の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。
  処理方法を誤ると法律違反になります。

・ 点検・調整が終わりましたら、各機能の作動が正常であるかを点検してください。

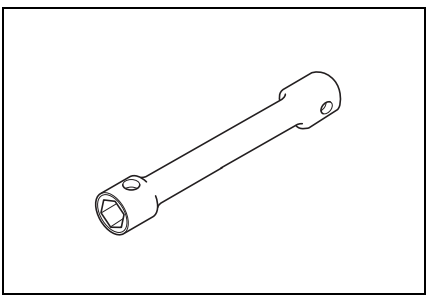
車載工具

・ 車両の分解・組立・調整に必要な特殊工具は別途販売しております。最寄りの日野販売会社にご用命ください。

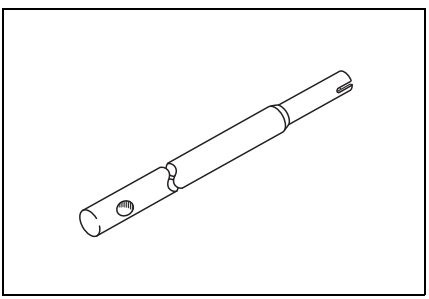
・ オイルジャッキ★



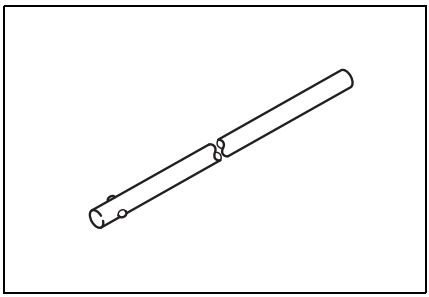
・ ホイールナットレンチ



・ ハンドル（大）



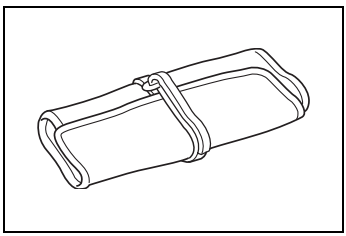
・ ハンドル（小）



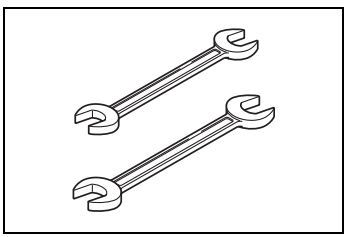
知識

下記の工具は、別途販売しております。最寄りの日野販売会社にご用命ください。

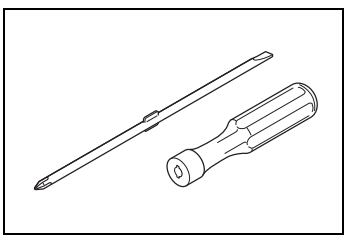
● ツールバッグ★



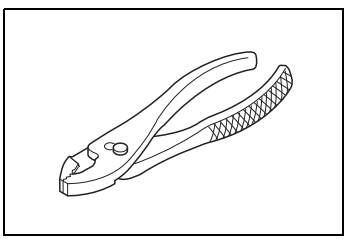
● オープンエンドレンチ★



● プラス・マイナスドライバー（抜き差し式）★

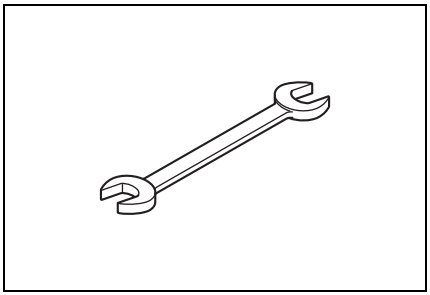


● プライヤー★



パーキングブレーキ解除用工具

・ オープンエンドレンチ



＊ パーキングブレーキが解除できなくなった際、解除するために必要な工具となります。従って、工具は常に車載してください。

エンジンオイルフィルター

オイルフィルターは、エコタイプを使用しています。

■交換時期

指定エンジンオイル別オイルフィルターエレメント交換時期

オイル名称	交換時期	
	A05C	消防車
日野純正ブルーリボンePRO-extra ecogreen	1年または25,000 km走行ごと	1年または300時間運転ごと
日野純正ブルーリボンePRO-extra plus	1年または40,000 km走行ごと	1年または500時間運転ごと
日野純正ブルーリボンePRO-extra	1年または25,000 km走行ごと	1年または300時間運転ごと

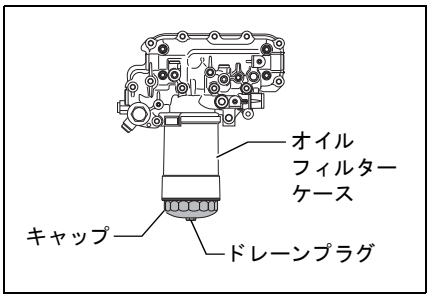
＊ 上記オイルはJASO DH-2に準拠しています。

・ 距離、使用期間、時間はいずれか早く到達した時点で交換を行ってください。

アドバイス

オイルフィルターエレメントを交換するときは、エンジンオイルも交換してください。

■交換要領



＊ 作業を行う前に、オイルフィルター周りを清掃してください。ゴミが入るおそれがあります。

1. オイルフィルターの下に排油用の容器を置いてから、オイルフィルター下部のドレーンプラグをゆるめて排油します。

＊ 安全のため、地面を汚さないためにも、オイルは必ず容器に受けてください。

⚠警告

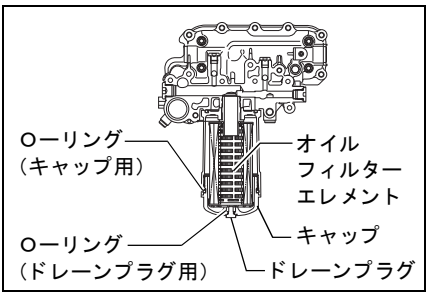
走行後すぐに排油すると、エンジンオイルが高温になっているためやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

2. 特殊工具のオイルフィルターレンチを使用してキャップ、Oーリング（キャップ用）およびエレメントを取り外します。

＊ オイルフィルターレンチ（品番：S0950－31090）を使用します。

＊ エンジン側にOーリングまたは異物がないかを確認してください。

＊ キャップの白化、傷、割れなどがないか確認し、症状が見つかったときはキャップを交換してください。

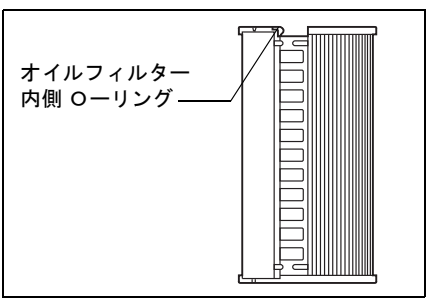


3. キャップの内部およびOーリング溝部の汚れを除去します。

4. オイルフィルターケース内の汚れを除去します。

5. 新品のオイルフィルターエレメントをオイルフィルターケース内に取り付けます。

＊ エレメントは再使用しないでください。



6. 新品のOーリング（キャップ用）に薄くエンジンオイルを塗布し、キャップに取り付けます。

＊ Oーリングは、エレメントキットに入っている新品と交換してください。

＊ 取り付けの際、Oーリングがねじれて破損しないように注意してください。

＊ Oーリングは再利用しないでください。

7. 特殊工具のオイルフィルターレンチを使用してキャップを取り付けます。

キャップの締め付けトルク
40 N・m {408 kgf・cm}

8. 新品のOーリング（ドレーンプラグ用）に薄くエンジンオイルを塗布し、キャップに取り付けます。

9. ドレーンプラグをキャップに取り付けます。

ドレーンプラグの締め付けトルク
17.7 N・m {180 kgf・cm}

10. エレメントを交換した後は、エンジンをかけエレメントにオイルを充満させてから、エンジンオイル量の点検をします。

⚠警告

エレメントの交換後は、エンジンを始動させ試運転を行い、フィルター周りからオイル漏れがないことを確認してください。オイル漏れは、火災の原因になります。

クローズドベンチレータ

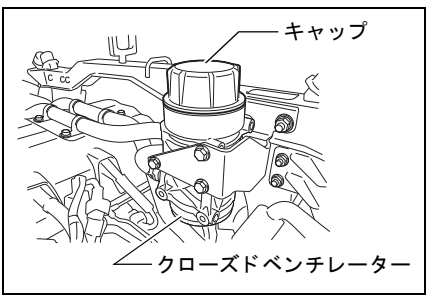
クローズドベンチレータはエレメントタイプを使用しています。

■エレメント交換

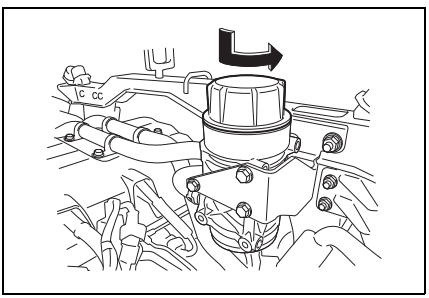
▶ 交換時期

エレメントの交換時期	
A05C	50,000 km 走行 または 1 年ごと
消防車	1,250 時間運転 または 1 年ごと

▶ 交換要領



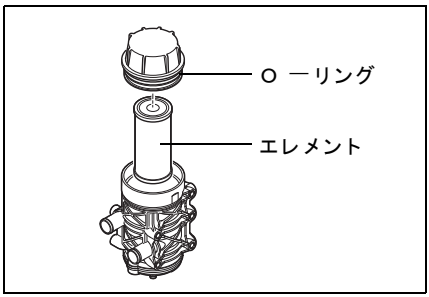
1. キャップを押し込みながら回し、取り外します。



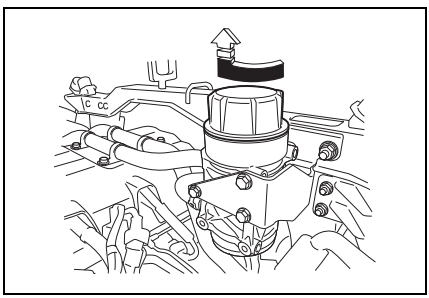
2. エレメントと O －リングを新品に交換します。

＊ 新品の O －リングに薄くエンジンオイルを塗布します。

＊ エレメントおよび O －リングの再使用はしないでください。



3. キャップが浮き上がるまで回し、取り付けます。



知識

クローズドベンチレータ内部に白濁した物質が付着している場合があります。この白濁物質は、ブローバイガス中の水分がエンジン内部で結露してエンジンオイルと混合してクリーム状になったものです。短時間の走行や冬期などエンジンの温度が上がらないときに発生しますが、エンジンが温まって水温計が安定する程度の走行によりオイルと水分が分離して元に戻ります。

フューエルフィルター

フューエルフィルターはエレメントタイプを使用しています。

燃料に含まれる微粒子のほか水分も取り除く機能があり、エレメントは樹脂と紙で作られています。

⚠ 注意

エレメントは必ず日野純正エレメントを使用してください。純正以外のエレメントは微粒子や水分を十分に捕捉できない場合があり、エンジンを損傷するおそれがあります。

知識

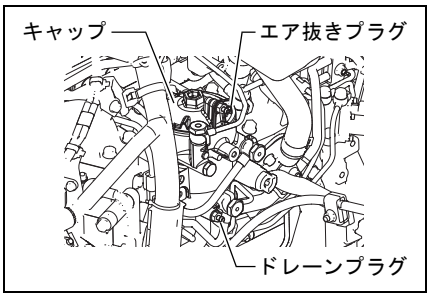
エレメントの交換を適切な時期に行わなかった場合、マルチインフォメーションに“ エンジン系統異常 ”を表示することがあります。

■エレメント交換

▶ 交換時期

エレメントの交換時期	
A05C	1 年または 60,000 km 走行ごと
消防車	1 年または 750 時間運転ごと

▶ 交換要領



⚠ 注意

作業を行う前に、フューエルフィルター周りを清掃してください。エンジン内部にゴミが入り、故障の原因となるおそれがあります。

1. フューエルフィルターの下に排油用の容器を用意します。
2. ドレーンプラグをゆるめた後、エア抜きプラグをゆるめて燃料を抜きます。燃料が出なくなったことを確認してからドレーンプラグを締め付けます。

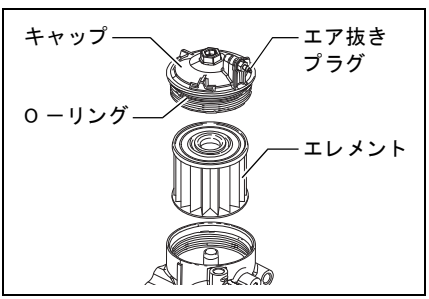
⚠ 警告

- 安全および環境のため、燃料は必ず容器に受けてください。
- 火災のおそれがありますのでエンジン各部に燃料がかかったときは、よく拭き取ってください。
- 火災のおそれがありますので作業中はタバコの火を含めて、周囲で火元の取り扱いをしないでください。

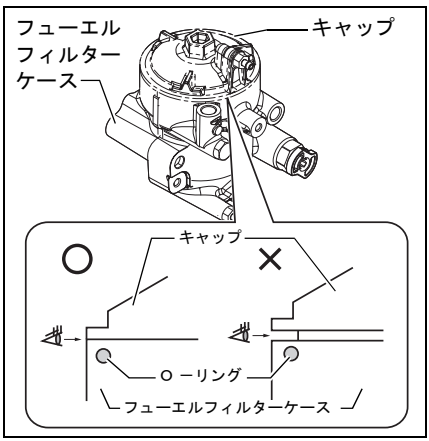
⚠ 注意

- 作業前にゴミ・水が部品内に入らないように注意してください。故障の原因となるおそれがあります。
- フィルター内の燃料は全て抜いてください。燃料が残った状態でエレメント交換を行うと、フィルター内部にある未ろ過燃料がエンジン側へ流れ込んでしまい、故障の原因となるおそれがあります。

3. エア抜きプラグを一度完全に外してからキャップをゆるめ、エレメントおよびＯーリングを取り出します。



4. 新品のエレメントおよびＯーリングに交換した後、キャップを取り付け、エア抜きプラグを締め付けます。その際、キャップとフューエルフィルターケースの間に隙間がないことを確認します。



キャップの締め付けトルク
55.0 N・m {561 kgf・cm}

＊ Ｏーリングはエレメントキットに入っている新品と交換してください。

＊ 新品のＯーリングと交換する際は、薄く燃料を塗布してから取り付けてください。

＊ エレメントおよびＯーリングは再使用しないでください。

＊ 締め付けの際、キャップと本体の間でＯーリングのはみ出しがないよう確認してください。

5. 取り付け後、燃料系統のエア抜きを行います。

＊ 燃料系統のエア抜きは（→ P.15-52）

⚠ 警告

燃料漏れは、火災の原因となります。エレメントの交換後は、エンジンを始動させ試運転を行い、フィルター周りから燃料漏れがないことを確認してください。

⚠ 注意

作業時にゴミ・水が部品内に入らないように注意してください。故障の原因となるおそれがあります。

■フューエルフィルターの水抜き

燃料系統に水が混入すると、運転不調などの原因となるばかりでなく、エンジンの損傷にもつながります。必ずプレフューエルフィルターの水抜きと同時に行ってください。

＊ プレフューエルフィルターの水抜きは（→ P.13-16）

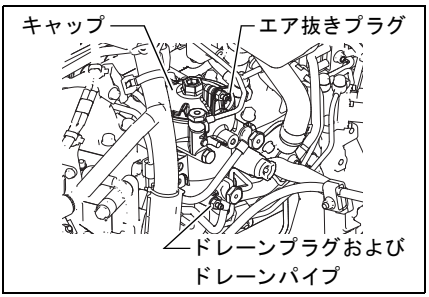
▶ 水抜き作業時の注意

＊ 水を抜くときは、エンジンを停止させた状態で行ってください。

⚠ 警告

- 安全および環境のため、燃料は必ず容器に受けてください。
- 火災のおそれがありますので作業中はタバコの火を含めて、周囲で火元の取り扱いをしないでください。

▶ 水抜き方法



1. ドレーンプラグをゆるめた後、エア抜きプラグをゆるめます。
2. ドレーンパイプからコップ一杯分くらい（約 150 mL）の水を排出します。
3. 排水終了後、ドレーンプラグおよびエア抜きプラグを確実に締め付けます。

締め付けトルク
7.0 N・m {70 kgf・cm}

＊ ドレーンプラグを締め付けた後、ドレーンプラグから燃料漏れがないことを確認してください。

4. 燃料系統のエア抜きを行います。

＊ 燃料系統のエア抜きは（→ P.15-52）

プレフューエルフィルター

プレフューエルフィルターはエレメントタイプを使用しています。

燃料に含まれる微粒子のほか水分も取り除く機能があり、エレメントは樹脂と紙で作られています。

⚠ 注意

エレメントは必ず日野純正エレメントを使用してください。純正以外のエレメントは微粒子や水分を十分に捕捉できない場合があり、エンジンを損傷するおそれがあります。

知識

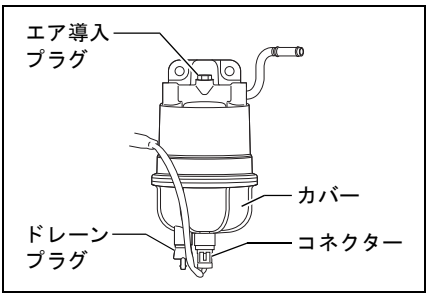
エレメントの交換を適切な時期に行わなかった場合、マルチインフォメーションに“ エンジン系統異常 ”を表示することがあります。

■エレメント交換

▶ 交換時期

エレメントの交換時期	
A05C	1 年または 60,000 km 走行ごと
消防車	1 年または 750 時間運転ごと

▶ 交換要領



⚠ 注意

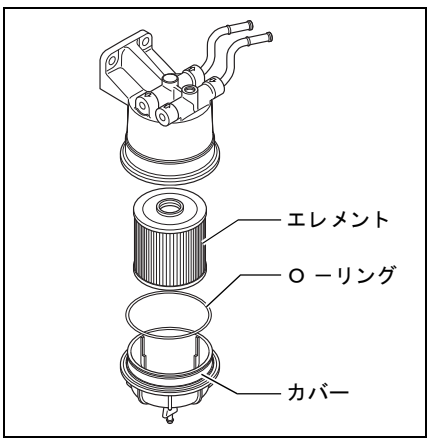
作業を行う前に、プレフューエルフィルター周りを清掃してください。エンジン内部にゴミが入り、故障の原因となるおそれがあります。

1. 水位警報スイッチのコネクターを取り外します。
2. プレフューエルフィルターの下に排油用の容器を用意します。
3. ドレーンプラグをゆるめた後、エア導入プラグをゆるめ、ドレーンパイプから燃料を抜きます。

⚠ 警告

- プレフューエルフィルターの交換は、フューエルフィルターのエレメント交換後に行ってください。
- 安全および環境のため、燃料は必ず容器に受けてください。
- 火災のおそれがありますのでエンジン各部に燃料がかかったときは、よく拭き取ってください。
- 火災のおそれがありますので作業中はタバコの火を含めて、周囲で火元の取り扱いをしないでください。

4. ドレーンパイプから燃料が出なくなったことを確認してからドレーンプラグを取り外します。
5. カバーを外し、エレメントを取り出します。



⚠ 注意

作業時にゴミ・水が部品内に入らないように注意してください。故障の原因となるおそれがあります。

6. 新品のエレメントに交換した後、カバーを取り付け、ドレーンプラグおよびエア導入プラグを締め付けます。なお、ドレーンプラグはカバーとプラグの間のすき間が無くなるまで、手で締め付けてください。

締め付けトルク（N・m｛kgf・cm｝）	
カバー	19.6 ｛200｝
エア導入プラグ	17.2 ｛175｝

＊ O- リングはエレメントキットに入っている新品と交換してください。

＊ エレメントおよびＯ－リングの再使用はしないでください。

7. 水位警報スイッチのコネクターを取り付けます。
8. 取り付け後、燃料系統のエア抜きを行います。

⚠ 警告

- 燃料漏れは、火災のおそれがありますのでエレメントの交換後は、エンジンを始動させ試運転を行い、フィルター周りから燃料漏れがないことを確認してください。
- カバー部分にブレーキフルードおよび有機溶剤を含む製品（パーツクリーナー、塗料など）が付着しないように注意してください。付着した場合、亀裂が発生し、燃料漏れによる火災の原因となるおそれがあります。

＊ 燃料系統のエア抜きは（→ P.15-52）

■プレフューエルフィルターの水抜き

燃料系統に水が混入すると、運転不調などの原因となるばかりでなく、エンジンの損傷にもつながります。

エンジン回転中、プレフューエルフィルター内に規定レベル以上の水がたまると“燃料フィルタ水抜き”を表示および ランプが点灯します。

点灯したらすみやかにプレフューエルフィルターのドレーンプラグをゆるめ、ドレーンパイプより水抜きを行ってください。

必ずフューエルフィルターの水抜きと同時に行ってください。

フューエルフィルターの水抜きは（→ P.13-13）

● マルチインフォメーション



⚠ 注意

“燃料フィルタ水抜き”、および ランプが点灯したまま走行を続けないでください。サプライポンプが焼き付きエンジンを損傷させるおそれがあります。点灯したときはすみやかに排水してください。

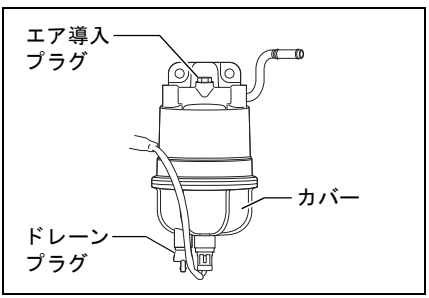
▶ 水抜き作業時の注意

＊ 水を抜くときは、エンジンを停止させた状態で行ってください。

⚠ 警告

- 安全および環境のため、燃料は必ず容器に受けてください。
- 火災のおそれがありますのでエンジン各部に燃料がかかったときは、よく拭き取ってください。
- 火災のおそれがありますので作業中はタバコの火を含めて、周囲で火元の取り扱いをしないでください。

▶ 水抜き方法



1. プレフューエルフィルターの下に排油用の容器を用意します。
2. ドレーンプラグをゆるめた後、エア導入プラグをゆるめます。
3. ドレーンパイプからコップ一杯分くらい（約 150 mL）の水を排出します。
4. 排水終了後、ドレーンプラグおよびエア導入プラグを確実に締め付けます。

締め付けトルク（N・m {kgf・cm}）	
ドレーンプラグ	手締め
エア導入プラグ	17.2 {175}

＊ 排水終了後、ドレーンプラグから燃料漏れがないことを確認してください。

5. 締め付け後、燃料系統のエア抜きを行います。

⚠ 警告

- 水抜き後は、エンジンを始動させ試運転を行い、フィルター周りから燃料漏れがないことを確認してください。燃料漏れは、火災の原因になり危険です。
- カバー部分にブレーキフルードおよび有機溶剤を含む製品（パーツクリーナー、塗料など）が付着しないように注意してください。付着した場合、亀裂が発生し、燃料漏れによる火災の原因となるおそれがあります。

＊ 燃料系統のエア抜きは（→ P.15-52）

燃料タンク・タンクバンド・パイプホース

■燃料タンク・タンクバンド・パイプホースの点検

燃料タンク・タンクバンド・パイプホースは保安上重要な部品です。次の点検を行ってください。

- 接続部やクリップのゆるみを点検し、ゆるみがあるときは確実に締め付けてください。
- 傷、錆、摩耗、ホースの劣化および燃料の漏れがないかを点検し、交換が必要な場合は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

▶ 燃料ホース

- 目視にて外周のひび割れ、亀裂、抜け出し、およびリングの外れ、折損がないかを点検します。
- 不具合があるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

燃料漏れ（各パイプ、ホースの接続部を含む）は火災の原因になり危険です。漏れがあるときは、各接続部のガスケットの交換または増し締めをしてください。

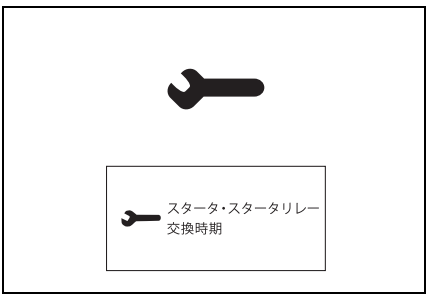
■燃料ホースの交換

交　換　時　期
エンジンルーム内：3 年ごと エンジンルーム外：4 年ごと

- 交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

スターターモーター

スターターモーターは一般車両（アイドルストップシステム付き車以外）に比べて作動頻度が高いため整備が必要です。マルチインフォメーションに🔧ランプが点灯および“ “🔧スタータ・スタータリレー交換時期 ”を表示したら最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。



AHB（オートハイビーム）リレー★

AHB（オートハイビーム）付き車は、AHB（オートハイビーム）リレーを定期交換してください。

AHB（オートハイビーム）リレー交換の際は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

■AHB（オートハイビーム）リレーの交換

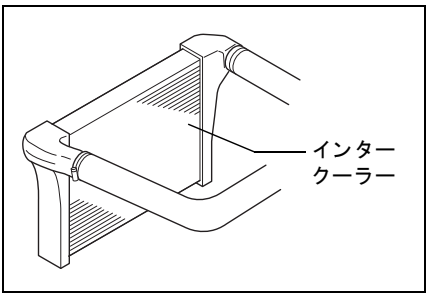
交　換　時　期
2 年ごと

インタークーラー

インタークーラーは、ターボチャージャーで過給され高温になった吸入空気を冷却するための装置でラジエーターの前面に取り付けられています。

■清掃

▶ インタークーラー本体



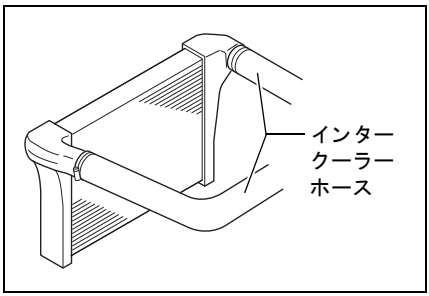
・ インタークーラー前面が泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下したりインタークーラーコアの腐食の原因になりますので、定期的に水洗いをします。また、フィンなどをつぶしたり傷つけたりしないようにしてください。

アドバイス

海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したときは、十分に洗浄してください。

■点検

▶ インタークーラーホース

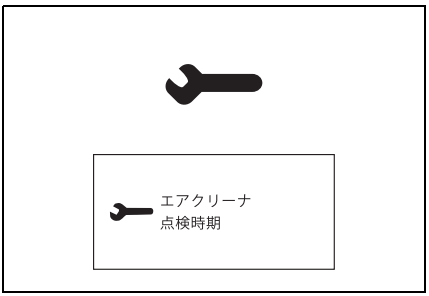


・ 目視にて外周のひび割れ、亀裂、抜け出し、およびリングの外れ、切損がないかを点検します。

＊ 不具合があるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

エアクリーナー

エアクリーナーには、エレメントの点検・清掃時期を検出する電気式ダストインジケーターが取り付けられており、点検・清掃時期に達するとマルチインフォメーションに🔧ランプが点灯および“🔧エアクリーナ点検時期”を表示します。



■点検

点検時期
“🔧エアクリーナ点検時期”表示時

■エレメントの清掃

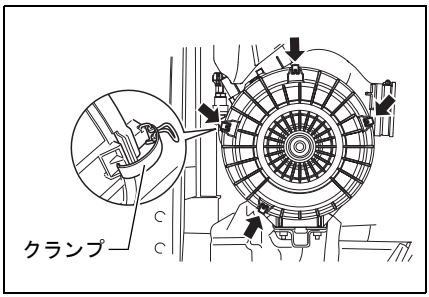
非舗装道路等、ほこりの多い道を走行するときは、以下の要領でエレメントの清掃をしてください。

清掃時期
“🔧エアクリーナ点検時期”表示時

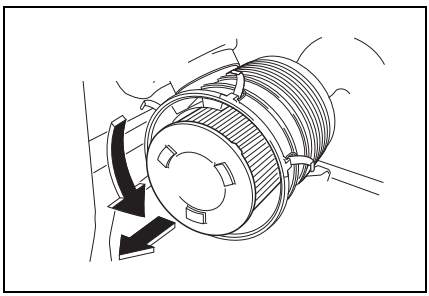
▶ エレメントの取り外しかた

〔標準キャブ車〕

1. クランプ 4 カ所を外し、カバーを取り外します。

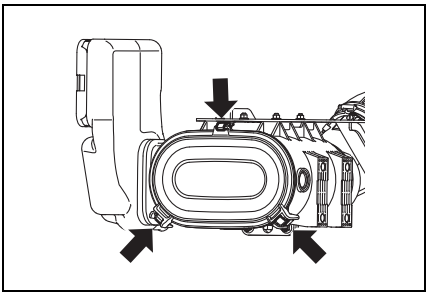


2. エレメント端部の外周突起部をつかみ軽く回し、エレメントを取り外します。

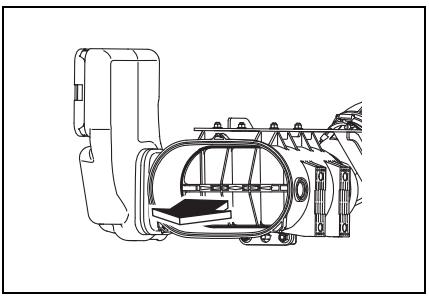


〔ダブルキャブ車〕

1. クランプ 3 カ所を外し、カバーを取り外します。



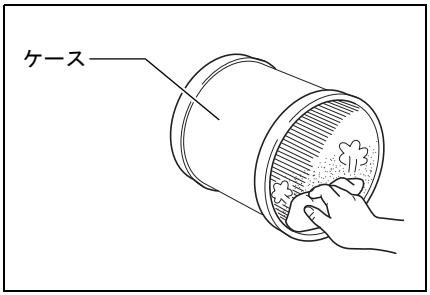
2. エレメント中央部の取っ手部分をつかみ、エレメントを取り外します。



▶ エアクリーナーケース清掃のしかた

エアクリーナーのカバーとケース内部に付着しているほこりを布などで落とします。

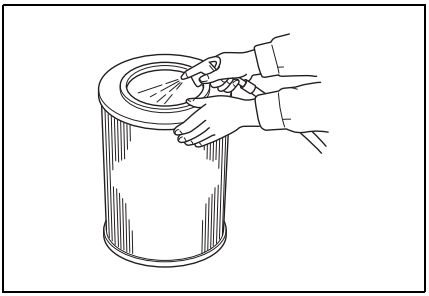
＊ エンジン内部にゴミなどが入らないように注意してください。



＊ エレメントの清掃時にエアクリーナーの中に直接水が入らないようにしてください。

▶ エレメントの清掃（乾いたほこり）

・ エレメントの内部より外側に向けて、圧縮空気（空気圧力：690 kPa {7.0 kgf/cm^2} 以下）を吹きつけて、ほこりを落とします。



⚠ 注意

エレメント清掃時は、ほこりを吸わないようにしてください。人体に悪い影響をあたえるおそれがあります。

アドバイス

- エレメントをたたいたり、打ちつけたりしないでください。
  圧縮空気の圧力が高すぎたり、たたいたりしてエレメントを変形させると、エンジン故障の原因になります。
- エレメントは、水洗いしないでください。
- 清掃後もマルチインフォメーションに“エアクリーナ点検時期”が表示される場合は、エレメントを交換してください。

▶ エレメントの取り付けかた

エレメントを取り外しの逆の順序で取り付けます。

＊ クランプ（標準キャブ車：4 カ所、ダブルキャブ車：3 カ所）を確実に取り付けてください。

アドバイス

- クランプの取り付けが不完全な場合、エレメントパッキン面のシール不良となり、エンジン内部にほこりや異物を吸い込み、ピストンおよびライナーなどの早期摩耗の原因になります。
- エレメントは必ず日野純正エレメントを使用してください。日野純正以外のエレメントは、シール不良や締め付けによる破損を招き、ほこりを吸い込むおそれがあり、エンジン出力、排出ガスに悪影響をおよぼす場合があるため使用しないでください。

■エレメントの交換

交換時期
1 年または 6 回清掃ごと

・ エレメントの脱着手順は、エレメントの清掃と同様に行ってください。

・ エレメントを脱着するときはエアクリーナーのカバーとケースの清掃を行ってください。

アドバイス

エレメントは必ず日野純正エレメントを使用してください。日野純正以外のエレメントは、シール不良や締め付けによる破損を招き、ほこりを吸い込むおそれがあり、エンジン出力、排出ガスに悪影響をおよぼす場合があるため使用しないでください。

エアフィルター

■清掃・交換

	清掃時期	交換時期
外気エアフィルター（メッシュタイプ）	1 カ月または 5,000 km 走行ごと	—
外気エアフィルター（高性能タイプ）	20,000 km 走行ごと	1 年または 60,000 km 走行ごと
内気エアフィルター	1 カ月または 5,000 km 走行ごと	—

⚠ 注意

エアフィルター清掃時は、スターターキーを「LOCK」の位置にしてください。「ON」や「ACC」の位置にあるとワイパーモーターが作動し、ワイパーのリンクに手をはさまれてケガをするおそれがあります。

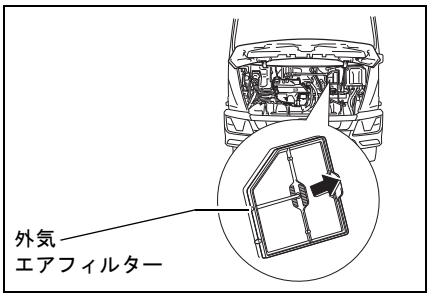
アドバイス

エアフィルターが、ゴミやほこりで詰まると風の出が悪くなってエアコン・ヒーターおよびデフロスターの効きが悪くなります。
風の出が悪くなったと感じたときは、期間または走行キロ数に関わらずエアフィルタの清掃または交換をしてください。

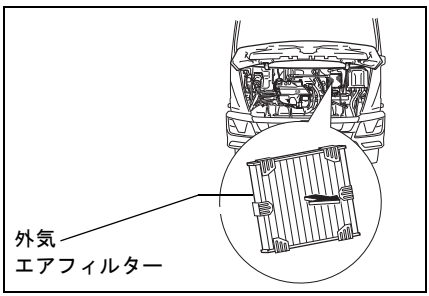
■外気・内気エアフィルターの清掃・交換

1. フロントパネルを開けて、外気エアフィルターをたわませながらケースから引き出します。

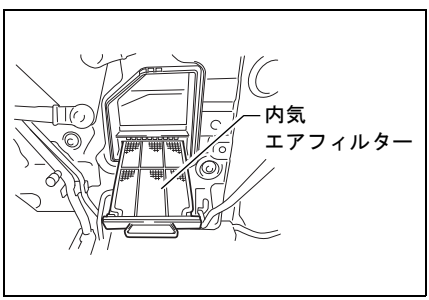
［メッシュタイプ］



［高性能タイプ］



2. 外気エアフィルターを外した後、内側の内気エアフィルターを引き出します。



3. 清掃は、水洗いするかまたは圧縮空気を吹きつけます。
交換は、新品のエアフィルターを取り外しの逆の順序で取り付けます。

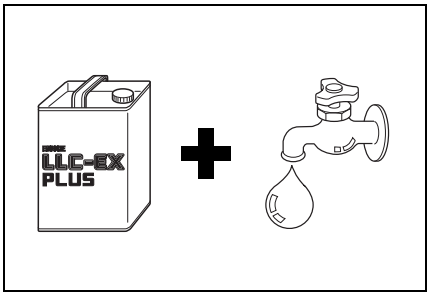
＊ 水洗いしたときは水分を十分切ってから取り付けます。

＊ 外気エアフィルター（高性能タイプ）は水洗いをせず、圧縮空気を吹きつけて清掃してください。

＊ フロントパネル内を水洗いするときは、コントロールパネルを操作し、内気循環に切り替え、エアフィルター部に水がかからないようにしてください。

冷却水

■使用する冷却水



冷却水は、ロングライフクーラント（LLC）と水道水を適正に混合したものを使用します。

アドバイス

ロングライフクーラントに混合する水は水道水（軟水）をお使いください。河川の水や井戸水のような硬水は水あかや錆が生じやすく冷却水路を詰まらせて冷却効率を低下させるので使用しないでください。

指定（推奨）銘柄

ロングライフクーラント
日野純正 日野ディーゼル LLC ー EX PLUS（青）

＊ 日野純正以外のロングライフクーラントを使用すると、冷却系に錆などによる損傷を与える原因になることがあります。選定にあたっては十分注意してください。

■ロングライフクーラントの取り扱い上の注意

⚠警告

- 毒性があるので絶対に飲まないでください。
  飲んでしまったときはすぐにおう吐し、医師の処置を受けてください。
- 目に入ったときはすぐに清水で洗眼し、医師の処置を受けてください。
- 引火性があるので火気を近づけないでください。
- 皮膚に付着したり衣服についたときは、ただちに水洗いした後、石けんで洗ってください。
- 保管するときは、確実にふたをしてお子さまの手の届かないところに置いてください。

アドバイス

塗装の損傷を防ぐため、塗装部に付着したときは、ただちに水洗いしてください。

■冷却水の作り方

ロングライフクーラントと水の混合割合

使用地域			温暖地域	寒冷地域	冷却水容量（L）
外気温度（℃）			−12	−30	
混合割合（%）			30	50	
混合量（L）	FC2A	MT 車	6.3	10.5	21
		AT 車	6.45	10.75	21.5
	FD2A	MT 車	6.3	10.5	21
		AT 車	6.45	10.75	21.5
	GC2A	MT 車	6.3	10.5	21
		AT 車	6.45	10.75	21.5
	GD2A	MT 車	6.3	10.5	21
		AT 車	6.45	10.75	21.5
	FJ2A	MT 車	6.3	10.5	21
	FE2A	MT 車	6.3	10.5	21
		AT 車	6.45	10.75	21.5
	FX2A	MT 車	6.3	10.5	21
	GX2A	MT 車	6.3	10.5	21
	ダブルキャブ車 2A	MT 車	6.3	10.5	21
		AT 車	6.45	10.75	21.5
	消防車 2A	MT 車	6.3	10.5	23.5
		AT 車	6.45	10.75	24

（注）：MT 車は、マニュアルトランスミッション車、AT 車は、オートマチックトランスミッション車です。

・ 外気温度が 0 ℃以下に下がる期間および寒冷地域では、冷却水の凍結によってエンジンおよびラジエーターなどが破損するおそれがあります。したがって、冷却水には必ずロングライフクーラントを、上記の混合割合で使用してください。

アドバイス

- 不凍液・防錆剤および市販のロングライフクーラントとの混用は避けてください。
- ロングライフクーラントを補充するときは、注入してあるものと同一銘柄を用い、かつ同一濃度の補充液を注入してください。
- 水だけを補給するとロングライフクーラントの濃度が薄くなり、防錆効果および凍結防止性が低下します。

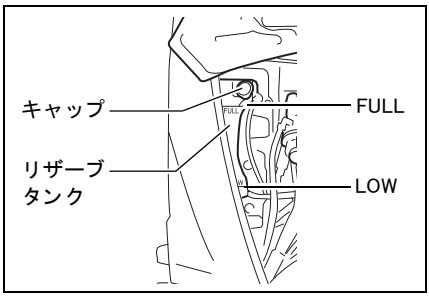
注意

ロングライフクーラントと水との混合割合は、30%または 50%で使用してください。
混合割合が 30%以下になると防錆効果が減少し、60%以上では凍結防止性が低下します。

■補給

▶ エンジンが冷えているとき
〔日常（運行前）点検〕

リザーブタンクのキャップを取り外し冷却水を「FULL」の線まで補給します。



＊ リザーブタンクのキャップは、確実に取り付けてください。

▶ オーバーヒートしたとき

⚠ 警告

水温計の目盛りが「C」に下がるまでは、絶対にラジエーターキャップを開けないでください。（→ P.6-6）
不用意にキャップを開けると熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

オーバーヒートの際は、リザーブタンク以外にラジエーター本体の水量不足が考えられます。エンジン回転数をアイドリングの状態より若干高めにし、水温計の目盛りが中央付近を示したらエンジンを停止し、目盛りが「C」まで移動したらラジエーターキャップを開け、給水口いっぱいまで給水し減水しない（約 5 秒間）ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締めます。また、リザーブタンクのキャップを取り外し冷却水を「FULL」の線まで補給します。

■交換時期

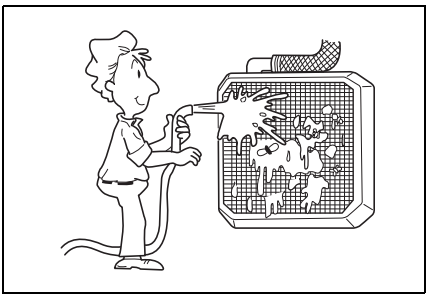
使用地域	外気温度（℃）	混合割合（%）	交換時期	
			A05C	消防車
温暖地域	−12	30	3 年または 600,000 km 走行ごと	3 年ごと
寒冷地域	−30	50	4 年または 800,000 km 走行ごと	4 年ごと

（注）：温暖地域であっても、ロングライフクーラントと水の混合割合を 50%にした場合は、寒冷地域と同じ交換時期になります。

アドバイス

定期交換しないとロングライフクーラントの劣化および濃度低下により、冷却系に錆による損傷を与える原因になります。

■ラジエーターコアの洗浄



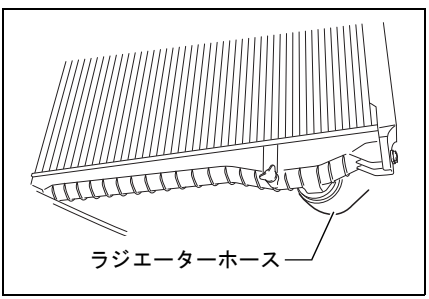
ラジエーターコアが泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下したり、ラジエーターコアの腐食の原因になるので、定期的に水洗いをします。

＊ 洗浄するときは、フィンなどをつぶしたり傷つけたりしないようにしてください。

アドバイス

海岸地帯・凍結防止剤を散布した道路を走行したときには、十分に洗浄してください。

■ラジエーターホースの点検



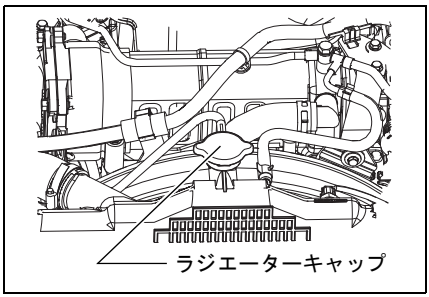
- ホースに亀裂や損傷がないかを点検します。
- ホースに亀裂や損傷があるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■排水のしかた

⚠警告

水温計の目盛りが「C」より下がるまでは、絶対にラジエーターキャップを開けないでください。（→ P.6-6）
不用意にキャップを開けると熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

1. ラジエーターキャップを取り外します。

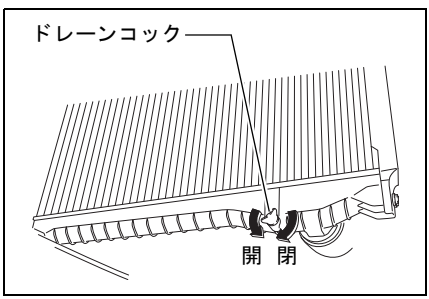


2. ラジエーターのドレーンコックを開けて排水します。

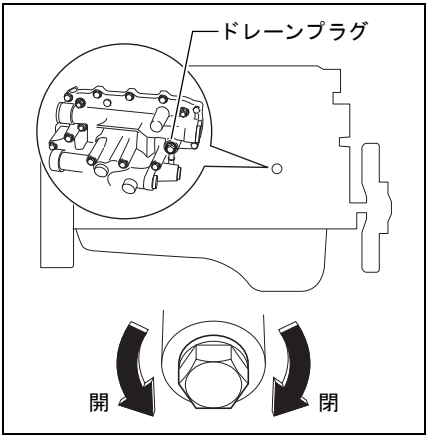
＊ 安全のため、地面を汚さないためにも、冷却水は必ず容器に受けてください。

⚠警告

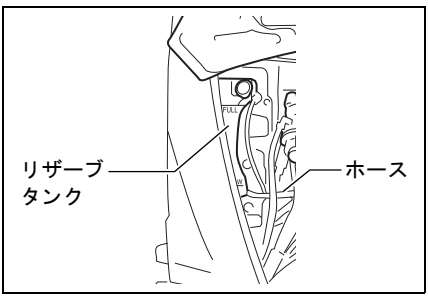
ドレーンコックは 5 回転以上回さないでください。冷却水が飛び散り、高温時にはやけどをするおそれがあります。



3. エンジンドレーンプラグを開けて排水します。



4. リザーブタンク内の冷却水は、リザーブタンク下部のホースを外して排水します。排水後は確実にホースを接続します。



5. 排水完了後、ドレーンコックおよびドレーンプラグを閉めます。

ドレーンプラグ締め付けトルク（N・m {kgf・cm}）
44.1±4.9 {450±50}

⚠ 注意

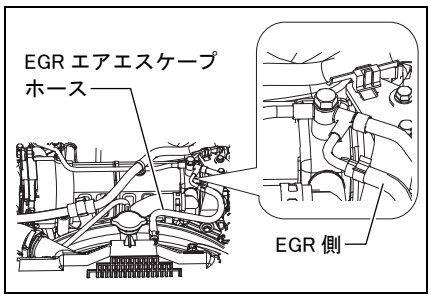
排水後の水なし運転はしないでください。ウォーターポンプの故障およびエンジン焼き付きなどの原因になります。

アドバイス

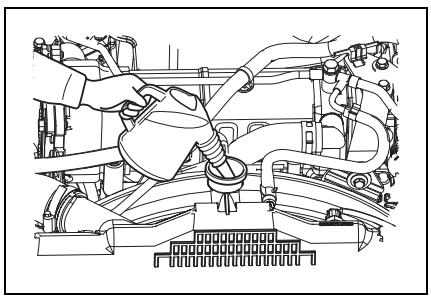
排出した冷却水の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。

■給水のしかた

1. EGR エアエスケープホースの EGR 側を取り外します。

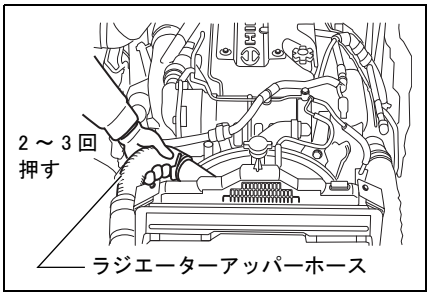


2. 冷却水（ロングライフクーラント＋水道水）をラジエーターの給水口からゆっくり給水します。
   EGR クーラーから冷却水が排出されたら 1. で取り外したエアエスケープホースを確実に接続し、ラジエーターの給水口いっぱいまで給水します。



＊ 冷却水の給水は、エアが混入しやすいので、ゆっくり給水してください。

3. 給水口までいっぱいにし、ラジエーターアッパーホースを 2 ～ 3 回押します。
   それによりホース内のエアが抜けて冷却水位が下がりますので、その分給水口いっぱいまで給水します。



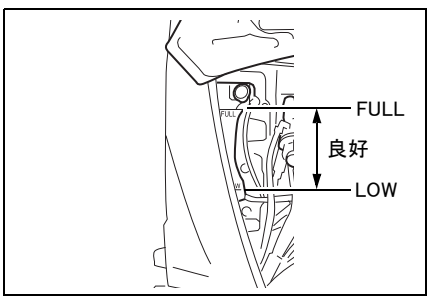
4. 給水口いっぱいまで給水し減水しない（約 5 秒間）ことを確認後、ラジエーターキャップを確実に締めます。

⚠ 警告

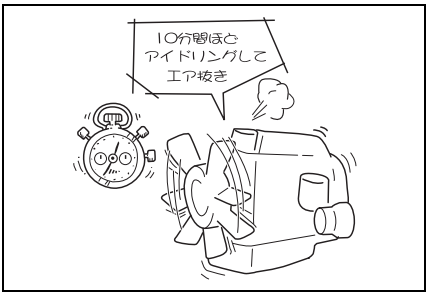
キャップを確実に締めておかないとオーバーヒートしたとき、高温の冷却水が噴き出し、やけどするおそれがあります。

＊ ラジエーターキャップの締めかたは （→ P.13-33）

5. リザーブタンクの液面レベル「FULL」まで給水してキャップを確実に締めます。



6. エンジン内部および配管内のエア抜きを確実に行うために、エンジンを始動させアイドリングの回転数を通常より少し高めにセットして回転させ、水温計の目盛りを中央付近まで移動させ、さらに約 10 分間アイドリング回転させます。



アドバイス

エアの混入は、オーバーヒートやウォーターポンプからの水漏れなどの原因になります。

7. エンジンを止め、エンジンが冷えてからリザーブタンク内とラジエーターキャップ内の冷却水量を点検し、水位が下がった分（エア抜き分）給水します。
8. 給水後、リザーブタンクとラジエーターのキャップは確実に締めます。

⚠ 警告

キャップを確実に締めておかないとオーバーヒートしたとき、高温の冷却水が噴き出し、やけどするおそれがあります。

■冷却水路の洗浄

アドバイス

排出した冷却水の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。

- ラジエーター・ヒーターコアおよびエンジンの冷却系統内には、水あかや錆がついて冷却効果を低下させるので、冷却水交換時に水道水を使って洗浄します。

使用地域	外気温度（℃）	混合割合（%）	洗浄時期	
			A05C	消防車
温暖地域	−12	30	3 年または 600,000 km 走行ごと	3 年ごと
寒冷地域	−30	50	4 年または 800,000 km 走行ごと	4 年ごと

（注）：温暖地域であっても、ロングライフクーラントと水の混合割合を 50%にした場合は、寒冷地域と同じ洗浄時期になります。

1. 冷却水を排水し、ドレーンコックおよびドレーンプラグを閉めます。
2. 水道水をラジエーターから給水し、エンジンをアイドリング回転で約 30 分間運転した後、ドレーンコックおよびドレーンプラグを開けて排水します。
3. ドレーンコックおよびドレーンプラグを閉め、冷却水（ロングライフクーラント＋水道水）を給水します。

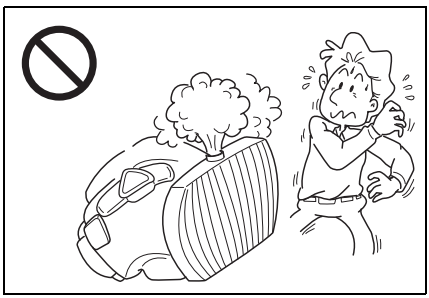
ラジエーターキャップ

⚠ 警告

水温計の目盛りが「C」より下がるまでは、絶対にラジエーターキャップを開けないでください。（→ P.6-6）
不用意にキャップを開けると熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。

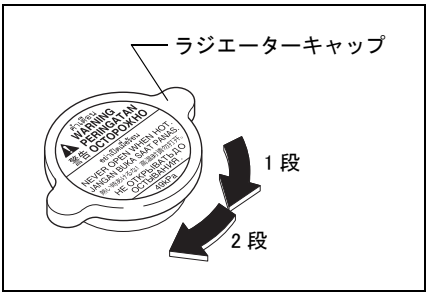
■エンジン高温時

エンジンが熱い状態で不用意にキャップを外すと、熱湯や蒸気が噴き出してやけどをするおそれがありますので、熱いときは開けないでください。



■締めかた

ラジエーターキャップは加圧式ですので、常に右いっぱい（2 段目）に回した状態で使用してください。



⚠ 警告

キャップを確実に締めておかないとオーバーヒートしたとき、高温の冷却水が噴き出し、やけどをするおそれがあります。

ファンベルト

⚠ 警告

ファンベルトを点検するときは、必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれて思わぬケガをするおそれがあります。

ファンベルトのゆるみや張りすぎは、充電不良・オルタネーターの故障などを起こす原因になります。

ベルトは常に正しい張り具合に調整しておきます。

■オルタネーターベルトの調整要領

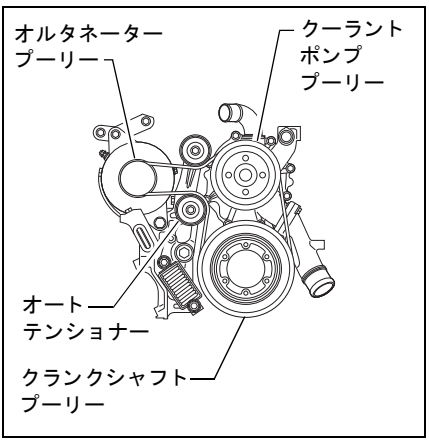
▶ A05C 型エンジン

・ オートテンショナーを採用していますのでベルトのたわみ量の調整は不要です。

＊ ベルトの点検方法は（→ P.12-11）

■オートテンショナーの点検要領

・ オートテンショナーの点検は、プーリー間のベルトを一定の力で押し込むと、テンションプーリーもほぼ一定速度で動き、手を離すとスプリング反力で元の位置に戻ることを確認します。



・ ベルト押し込み時にプーリーが動かないときや、ひっかかりがあるとき、手を離したときに元に戻らないときは、オートテンショナーを交換してください。

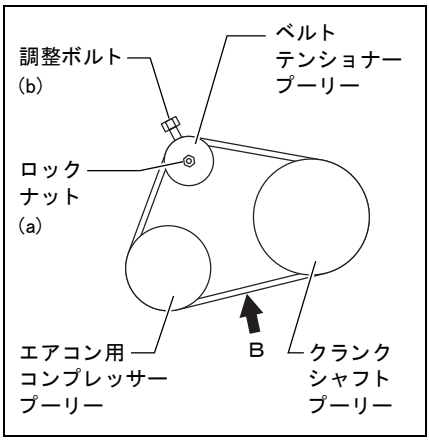
知識

A05C 型エンジンは、オートテンショナーのスプリング部に、縮み方向に大きな減衰力を発生するダンパーが内蔵されており、縮みづらく伸びやすい構造となっています。

■エアコン用コンプレッサーベルトの調整要領

・ たわみ量は、B の位置で測定します。

〔A05C 型エンジン〕



1. アイドルプーリーのロックナット (a) をゆるめます。
2. 調整ボルト (b) を回し、測定位置 B（プーリーとプーリーの中間部）のベルトのたわみ量が基準値内になるように調整します。

・ 調整ボルト (b) を時計回りに回すとベルトが張れます

3. ベルトの中央部を約 98 N {10 kgf} の力で指で押すか、または特殊工具ベルトテンションゲージ（品番：S0944-41210）を使用し、測定します。

エアコン用コンプレッサーベルト

たわみ量（測定位置：B）

基準値
11 mm

4. アイドルプーリーのロックナット (a) を締め付けます。

締め付けトルク
41±4 N・m {420±40 kgf・cm}

5. 調整ボルト (b) を増し締めします。

締め付けトルク
5.9±1 N・m {60±10 kgf・cm}

フットブレーキ〔全車〕

ブレーキは保安上重要な役割りを果たしており、点検を怠ったり、調整や整備を誤ると重大事故につながります。

ブレーキの定期点検は、別冊の「メンテナンスノート」にしたがって実施し、異常が認められたときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

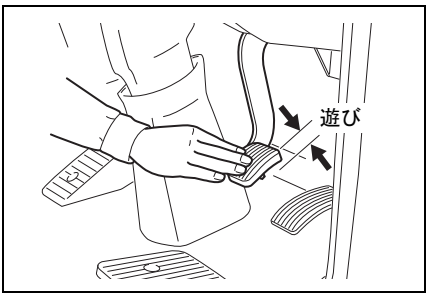
⚠ 警告

坂道でのブレーキの点検は、車両が動き出すおそれがあり危険ですので、行わないでください。必ず車を平坦な場所に停止させ、タイヤの前後に輪止めを掛けてから点検してください。

＊ 使用状況によって随時点検を行ってください。

■ブレーキペダルの遊びの点検

点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］



- ブレーキペダルを指で押したとき、ペダルの遊びが適正で異常なひっかかりがなく、スムーズに作動するかを点検します。
- ブレーキペダルの下部に泥や砂などの、ペダルの動きを妨げるものがないことを点検します。

＊ ブレーキペダル周辺に、ペダルの動きを妨げるものを置かないでください。

ブレーキペダルの遊び

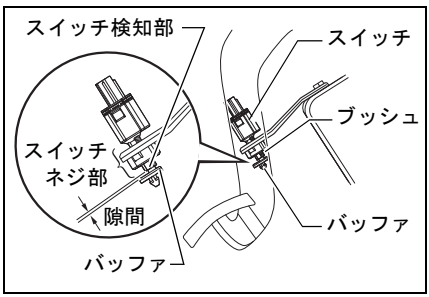
基準値
ペダルの先端で 1 ～ 4 mm

- ペダルの遊びが基準値範囲外のときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■ブレーキスイッチ取り付け状態の点検

点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］

● 点検方法



- ブレーキペダルを踏んでいない状態で、スイッチ検知部の見える隙間を点検します。

基準値
0.7 ～ 1.7 mm

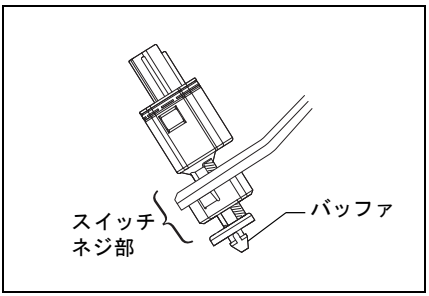
- 隙間が基準値範囲外のときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠ 警告

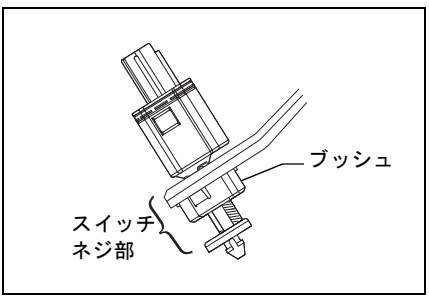
ブレーキスイッチの取り付け状態が正常でないと、事故の原因となりますので、定期点検を行ってください。

● 誤った取り付けの例

・ スイッチネジ部先端とバッファが直接当たっていて、スイッチ検知部の見える隙間が無くスイッチ検知部が見えていない

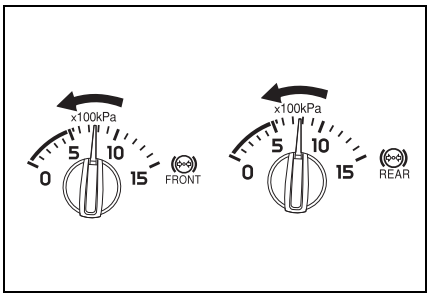


・ スイッチネジ部の根本箇所に隙間が無くネジ部が見えていない

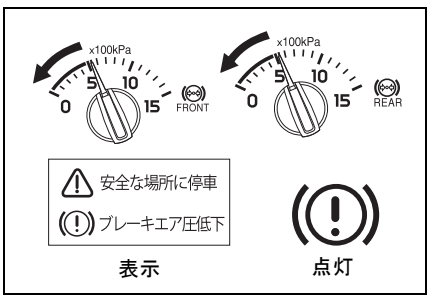


■エアプレッシャーウォーニングの作動点検

1. 空気圧を約 780 kPa {8.0 kgf/cm^2} 以上にしてからエンジンを止め、ブレーキペダルを踏んで空気圧を下げます。

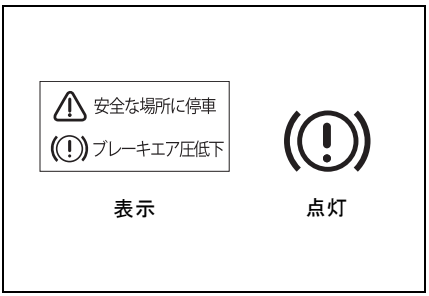


2. 空気圧計の指針が赤色ゾーンを指すと (!) ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (!) ブレーキエア圧低下 ”を表示し警報ブザーが鳴ります。

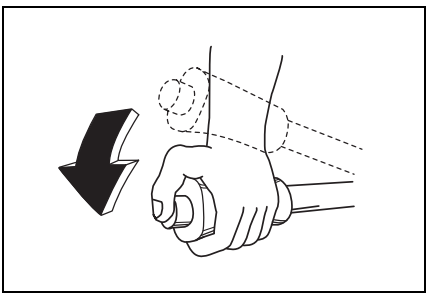


赤色ゾーン
0 ～ 540 kPa {0 ～ 5.5 kgf/cm^2}

3. ((!)) ランプが点灯し、マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 ((!)) ブレーキエア圧低下 ”を表示しているときにパーキングブレーキレバーをゆるめます。

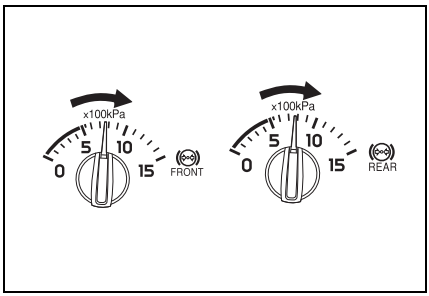


〔例〕



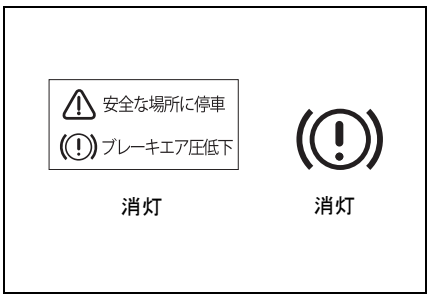
4. バーをゆるめると同時にブザーおよび音声ガイダンスが鳴れば良好です。

5. 次に、パーキングブレーキをゆるめた状態でエンジンを始動し、エンジン回転を少し上げ空気圧を 540 kPa {5.5 kgf/cm^2} 以上に上昇させます。



6. 空気圧が 540 kPa {5.5 kgf/cm^2} 以上になるとブザーが鳴りやみます。

7. ブザーが鳴りやむと同時に ((!)) ランプとマルチインフォメーションの“ ⚠ 安全な場所に停車 ((!)) ブレーキエア圧低下 ”の表示が消えれば良好です。



■ホース・チューブ・パイプおよびハーネスなどの点検

⚠警告

ホース・チューブ・パイプおよびハーネスを点検するときは、必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれて思わぬケガをするおそれがあります。

雪や泥などのかたまりが付着したまま走行しないでください。ホースやハーネスの破損や断線により、事故の原因になるおそれがあります。

- ブレーキ系統のエア漏れの点検を行う際は、ブレーキを作動させた状態での点検も行ってください。
- 接続部やクリップのゆるみを点検し、ゆるみがあるときは確実に締め付けてください。
- 傷、錆、摩耗およびホースの劣化がないかを点検し、交換が必要な場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。
- 冬期に雪道や融雪道などを走行後、および日常（運行前）点検時、フレームからブレーキチャンバー間のホースやハーネスに雪・泥水の付着で凍結したかたまりが付着していないかを点検します。
  付着しているときは、ホースやハーネスを傷つけないように注意し、取り除きます。

フットブレーキ〔ドラムブレーキ〕

- ブレーキライニングが摩耗すると、ドラムのすきまが大きくなり、ブレーキの効きが悪くなります。このブレーキにはオートアジャスター機能がありますが、ライニングとドラムのすきまやライニングの摩耗状態の点検は定期的に行ってください。
- FX・GX 車は、フロントホイールがディスクブレーキでリヤホイールがドラムブレーキになっています。

＊ 使用状況によって随時点検を行ってください。

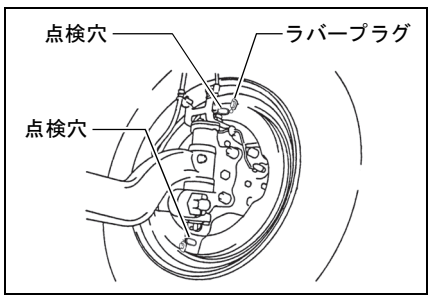
＊ ジャッキアップについては（→ P.13-54）

■ドラムとライニングのすきま点検

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］

1. ドラムカバーにある点検穴のラバープラグを取り外します。

〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車および FX・GX 車のリヤ〕



2. 点検穴からシックネスゲージをライニング全幅にわたって差し込み、ドラムとライニングのすきまが基準値内にあるかを点検します。
基準値を超えているときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で調整をしてください。

ドラムとライニングのすきま

車型	ホイール	基準値（mm）
FC・FD・GC	フロント	0.1 ～ 1.0
GD・FJ・FE	リア	
FX・GX	リア	
GX	フロント	0.2 ～ 1.0

3. 点検後、取り外したラバープラグは確実に取り付けます。

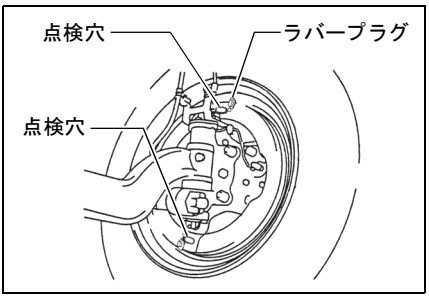
■ライニング摩耗量の点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 自家用 1 年ごと

＊ 使用状況によって随時点検を行ってください。

1. ドラムカバーにある点検穴のラバープラグを取り外します。

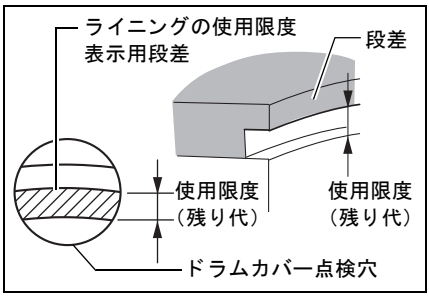
〔FC・FD・GC・GD・FE・FJ 車および FX・GX 車のリヤ〕



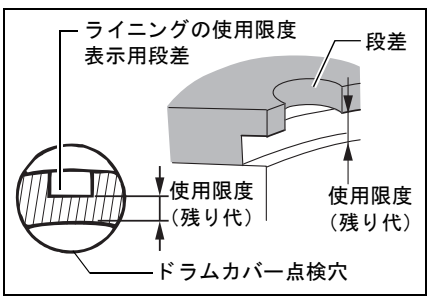
2. ライニングの端面に段差がついていますので、段差が残っているかを点検します。
段差がなくなっているときは、ライニングの交換が必要です。

＊ ライニングの交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

〔FC・FD・GC・GD・FX・GX 車〕



〔FJ・FE 車〕



ブレーキライニングの厚さ

車 型	基 準 値 (mm) [新品時の厚さ]	使用限度 (mm) [残り代]
FC・FD・GC・GD・FX（リヤ）	13.0	4.0
GX（リヤ）	12.5	4.0
FJ・FE	15.0	5.0

3. 点検後、取り外したラバープラグは確実に取り付けます。

⚠警告

使用限度を超えたまま走行しないでください。
限度を超えて使用すると、ブレーキの効き具合が大幅に低下し思わぬ事故につながるおそれがあります。またドラムが損傷するおそれがあります。

フットブレーキ〔ディスクブレーキ〕

■ブレーキパッドの摩耗量の点検

点 検 時 期
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、自家用 1 年ごと

＊ 使用状況によって随時点検を行ってください。

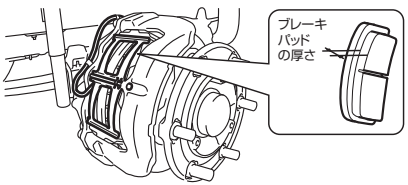
＊ ブレーキパッドとローターのすきまは、自動的に適正に保たれるため、すきま点検・調整は不要です。

・ ジャッキアップなどの状態でホイールを外し、ディスクブレーキのキャリパー部からブレーキパッド部をのぞいてパッド厚さをスケールなどで点検する。

・ 使用限度に達していればパッド交換が必要です。

＊ パッドの交換は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

・ FX・GX 車は、フロントホイールがディスクブレーキでリヤホイールがドラムブレーキになっています。



キャリパー部

ブレーキパッドの厚さ

車 型	基 準 値（mm）［新品時の厚さ］	使用限度（mm）［残り代］
FX（フロント） GX（フロント）	9.0	3.0

⚠ 警告

使用限度を超えたまま走行しないでください。

限度を超えて使用すると、ブレーキの効き具合が大幅に低下し思わぬ事故につながるおそれがあります。またローターを損傷させるおそれがあります。

ブレーキの効き具合

■ 点検

点 検 時 期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと

- 走り始める前に、安全な場所で徐行し、ブレーキをかけ、効き具合は十分か、片効きはしていないかを点検します。
- ブレーキの効きが悪い、引きずりがある、片効きになるなどがあるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠ 警告

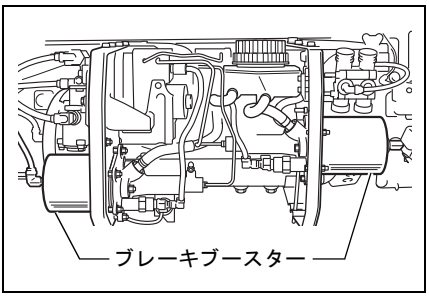
周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

ブレーキブースターの点検 ★

■点検

・ ブレーキブースターの外観に変形や損傷などがないかを点検します。

〔FC・FD・GC・GD・FX・GX 車〕



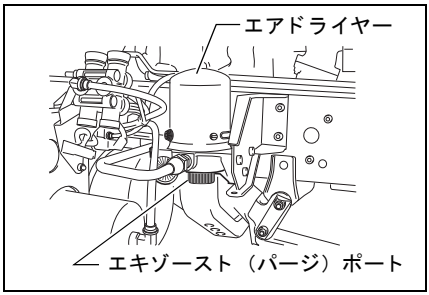
＊ ブレーキブースターの外観に変形や損傷などが認められる場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

ブレーキブースターの外観に変形や損傷などがあると、ブレーキを引きずり火災の原因になるおそれがあり危険です。

エアドライヤー

エアドライヤーは車の配管内の圧縮空気中に含まれている水分を乾燥剤の働きで除去し、自動的に排水する装置で、エアタンク付近またはリヤアクスル前側フレーム付近に取り付けられています。



■日常点検

・ エンジンをかけてエキゾースト（パージ）ポートからエアが排出されることを確認してください。（排出されるエアの量は、最初は多く、2 ～ 3 秒後は音がしない程度です）

■3カ月または15,000 km走行ごとの点検

・ エアドライヤーから排出される水をよく見ます。

＊ エアタンクから水が出たり、エアドライヤーから異常にオイルが出るときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■交換

交換時期
1年または60,000 km走行ごと

＊ Oーリングなどすべてのゴム部品・フィルター・乾燥剤は劣化していなくても交換が必要です。最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

⚠警告

乾燥剤の交換を定期的に行わないと、圧縮空気中の水分やオイルの除去ができなくなります。エアドライヤー以降の装置に、水分による凍結やオイルによるゴム類の劣化が発生し、装置の不具合・損傷が発生するおそれがあります。

クラッチ

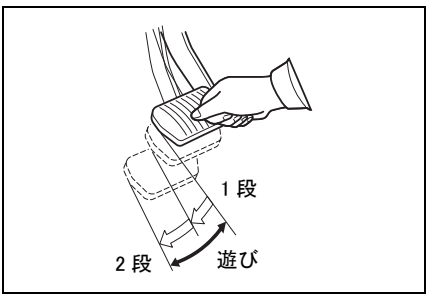
クラッチは使用するにしたがい、クラッチディスクが摩耗してクラッチペダルの遊びが少なくなります。そのままにしておくとクラッチがすべりやすくなり、また遊びが大きすぎるとクラッチの切れが悪くなり変速しにくくなります。

＊ クラッチペダルの遊びおよびクラッチの作用は定期的に点検してください。

点検時期
事業用3カ月ごと、自家用6カ月ごと［シビアコンディション項目］

■ペダルの遊びの点検

- ペダルのガタ、しぶりなどを点検し、スムーズに作動することを確認してください。
- ペダルを指で押し込んでいくと2段階に抵抗を感じます。
  2段目までのペダルの動き代が遊びです。
- ペダルを指で押し込み、ペダルの遊びをスケールなどで測定し、基準値内にあるかを点検します。



クラッチペダルの遊び

基準値（mm）	限度（mm）
52 ～ 65	35

- ペダルの遊び量が基準値内であれば良好です。
  遊び量が基準値より少なくなったときは、限度に達する前に、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

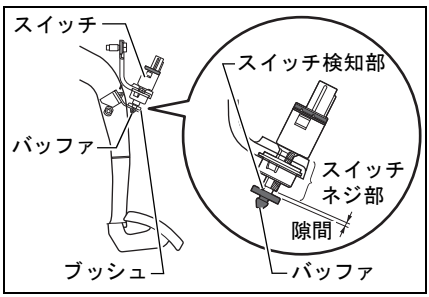
⚠ 注意

ペダルの遊び量を基準値の上限より大きく調整しないでください。クラッチの切れが悪くなり、クラッチおよびトランスミッションを破損させるおそれがあります。

■クラッチスイッチ（手前側）取り付け状態の点検

点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］

● 点検方法



- クラッチペダルを踏んでいない状態で、スイッチ検知部の見える隙間を点検します。

基準値
0.7 ～ 1.7 mm

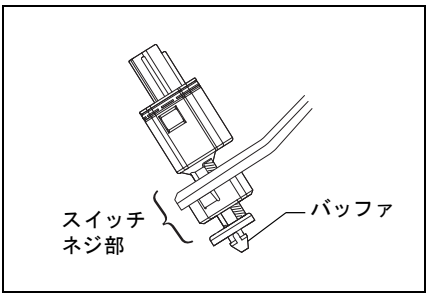
- 隙間が基準値範囲外のときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠ 警告

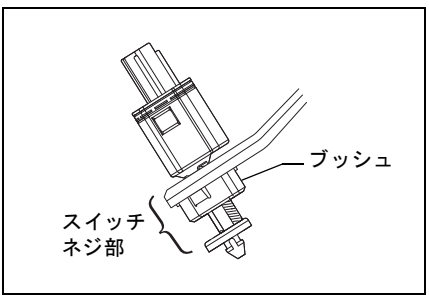
定期点検を怠ると、クラッチ操作ができなくなるなど思わぬ事故の原因となります。

● 誤った取り付けの例

・ スイッチネジ部先端とバッファが直接当たっていて、スイッチ検知部の見える隙間が無くスイッチ検知部が見えていない



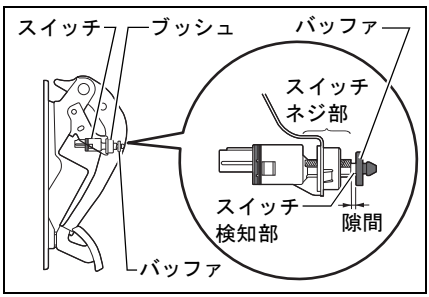
・ スイッチネジ部の根本箇所がブッシュとの間に隙間が無くネジ部が見えていない



■クラッチスイッチ（奥側）取り付け状態の点検

点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］

● 点検方法



・ クラッチペダルを手でいっぱいに押し込んだ状態で、スイッチ検知部の見える隙間を点検します。

基準値
0.7 ～ 1.7 mm

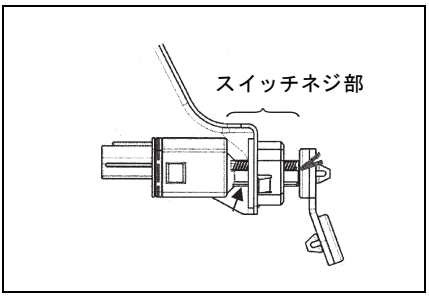
・ 隙間が基準値範囲外のときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

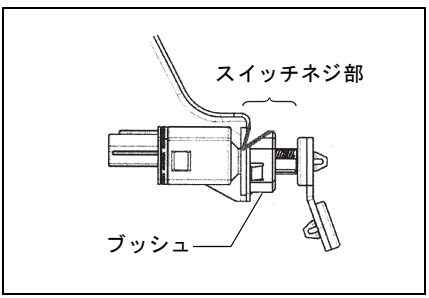
定期点検を怠ると、クラッチ操作ができなくなるなど思わぬ事故の原因となります。

● 誤った取り付けの例

・ スイッチネジ部先端とバッファが直接当たっていて、スイッチ検知部の見える隙間が無くスイッチ検知部が見えていない



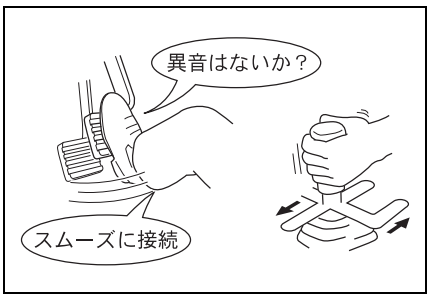
・ スイッチネジ部の根本箇所がブッシュとの間に隙間が無くネジ部が見えていない



■ **クラッチの作用**

・ アイドリング回転で、次の点検をします。

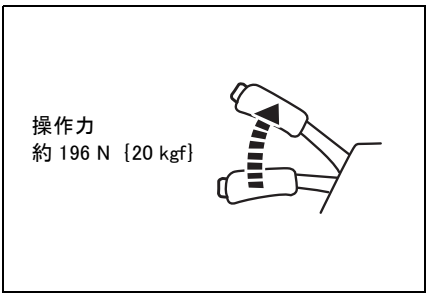
1. ペダルを踏み込んで、異常に重くないか、異音はしないか。
2. ギヤチェンジがスムーズにできるか。
3. ペダルを徐々に離して発進したとき、滑りがなく接続がなめらかにできるか。



＊ 異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

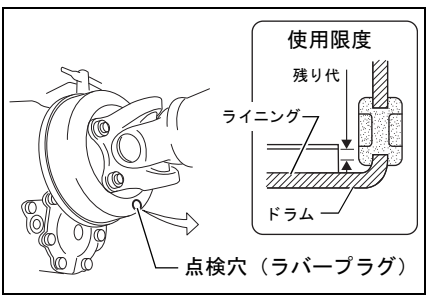
パーキングブレーキ〔センターパーキング車〕

日常（運行前）点検時、パーキングブレーキレバーの引きしろ（ラチェットの山数）が 10 ノッチ以上（操作力約 196 N｛20 kgf｝時）になったら、次の点検、調整をしてください。



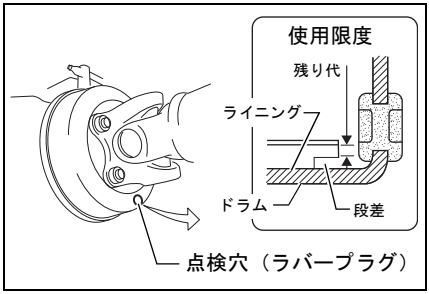
■ライニング摩耗量の点検

〔FC・FD・FX（マニュアルトランスミッション）車〕



1. ドラムにある点検穴のラバープラグを取り外します。
2. ライニングの残り代を点検します。使用限度に達しているときは、ライニングの交換が必要です。
3. 点検後、取り外したラバープラグを確実に取り付けます。

〔FC・FD（オートマチックトランスミッション）車・GC・GD 車〕



1. ドラムにある点検穴のラバープラグを取り外します。
2. ライニング中央部の端面に段差がついていますので、段差が残っているかを点検します。段差がなくなっているときは、ライニングの交換が必要です。
3. 点検後、取り外したラバープラグを確実に取り付けます。

ライニングの厚さ

車 型	基 準 値（mm）［新品時の厚さ］	使用限度（mm）［残り代］
FC・FD 車・FX 車（MT）	5.0	1.0
FC・FD（AT）車・GC・GD 車	7.0	4.0

⚠警告

使用限度を超えたまま使用しないでください。

限度を超えて使用すると、パーキングブレーキの効き具合が大幅に低下します。またドラムを損傷させるおそれがあります。

＊ ライニングの交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

トランスミッション

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 走行ごと 自家用 6 カ月ごと（距離項目） ［シビアコンディション項目］

■トランスミッションの点検

目視にて油漏れやにじみが発生していないか確認します。油漏れやにじみが発生しているときは、日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。

■パイプ、ホースなどの点検・整備

▶ 点検

・ パイプ、ホースなどの接続部から油漏れおよびにじみがないかを目視または手で触れて点検します。

・ パイプ、ホースなどにふくらみ、損傷および亀裂がないか目視または手で触れて点検します。

・ クランプ部の緩みおよび外れ、グリップ部ゴムの劣化および外れはないか目視または手で触れて点検します。

▶ 交換

点検にて異状が認められた場合、部品を交換してください。

＊ 交換は日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

トランスミッションオイルストレーナー★

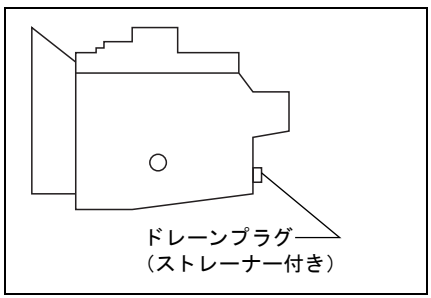
トランスミッションオイルストレーナーは、ドレーンプラグの穴に挿入されています。

■**洗浄**

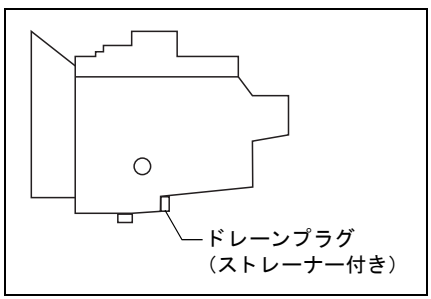
洗　浄　時　期
オイル交換時

・ トランスミッションケースのドレーンプラグを外し、オイルストレーナーを取り出し洗浄します。

〔LX06 トランスミッション搭載車〕



〔LX06 トランスミッション搭載車（50kgf・mPTO 装着車）、LX61 トランスミッション搭載車〕



オートマチックトランスミッションオイルフィルター

オートマチックトランスミッションオイルフィルターは、カートリッジ式を使用しています。

■**交換時期**

オイルフィルターの交換時期
4 年または 240,000 km 走行ごと

・ オイルフィルター交換後、オイルの追加を行います。その後エンジンを始動し、オイル漏れが無いことを確認してください。さらにお車の試運転を行い、オートマチックトランスミッション各部にオイルを充満させてから、オートマチックトランスミッションオイル量の点検を行ってください。

＊ オートマチックトランスミッションオイル量の点検は（→ P.14-14）

＊ オートマチックトランスミッションオイルフィルターの交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

トランスファー［FX・GX車］

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 走行ごと 自家用 6 カ月ごと（距離項目） ［シビアコンディション項目］

■トランスファーの点検

目視にて油漏れやにじみが発生していないか確認します。油漏れやにじみが発生しているときは、日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。

■パイプ、ホースなどの点検・整備

▶ 点検

- パイプ、ホースなどの接続部から油漏れおよびにじみがないかを目視または手で触れて点検します。
- パイプ、ホースなどにふくらみ、損傷および亀裂がないか目視または手で触れて点検します。
- クランプ部の緩みおよび外れ、グリップ部ゴムの劣化および外れはないか目視または手で触れて点検します。

▶ 交換

点検にて異状が認められた場合、部品を交換してください。

＊ 交換は日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

デファレンシャル

■デファレンシャルの点検

目視にてドレーンプラグなどから油漏れやにじみが発生していないか確認します。油漏れやにじみが発生しているときは、日野販売会社の整備工場にて点検・整備を受けてください。

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3ヵ月（距離項目） または 5,000 km 走行ごと 自家用 6ヵ月ごと（距離項目） ［シビアコンディション項目］

ジャッキアップ

⚠警告

- ジャッキアップしたときは、車両の下に絶対入らないでください。万一、ジャッキが外れると危険です。
- ジャッキアップ後、車両の下に入って作業するときは必ずフレーム下面にスタンド（ウマ）を掛けるなど、車両の下の安全を確保してください。
- パーキングブレーキを確実に効かせ、ジャッキアップ軸以外のタイヤの前後に輪止めを掛けてください。
- ジャッキアップするときは、人が乗っていないことを確認し、車内に人がいない状態でジャッキアップしてください。
- ジャッキアップするときは、地面がかたい平坦な場所を選んでください。坂道および地面の柔らかいところでは、ジャッキが傾いたり滑ったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキアップするときは、エアサスペンション★のレベリングタイマー機能を必ず「OFF」にしてください。車高調整により、ジャッキが外れ思わぬ事故につながるおそれがあります。車高調整の操作は（→P.5-246）
- ジャッキが、必ずジャッキアップポイントに掛かっていることを確かめてください。ジャッキアップポイント以外に掛けるとジャッキがたおれたり外れるおそれがあります。

⚠警告

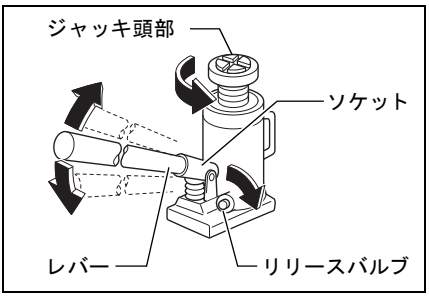
- ジャッキやジャッキアップポイントに油脂類が付着しているときは、完全に拭き取ってからジャッキを掛けてください。ジャッキがすべって思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ジャッキアップ中は、エンジンをかけないでください。振動でジャッキが外れるおそれがあります。
- 長時間ジャッキアップしておくときは、安全のため、スタンド（ウマ）や角材などで車両を支えておいてください。
- LSD★付き車を片輪のみジャッキアップした状態で、駆動力をかけると、車両が動く危険があります。ジャッキアップ中は駆動力をかけないよう注意してください。
- 2台以上のジャッキを同時に使用しないでください。
- ジャッキを必要な高さ以上に上げないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下に物をはさまないでください。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様のお車専用です。他の車に使用したりしないでください。
- ジャッキ故障防止のため、使用時はジャッキの上昇が停止したらレバー操作をやめ、使用後は必ずジャッキを最低の高さまで降ろしてください。

アドバイス

使用方法および取り扱いについてジャッキの本体に記載してありますので前もって確認しておいてください。

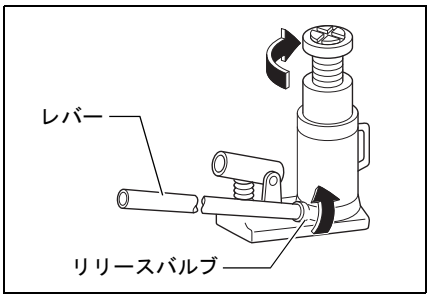
■ジャッキの取り扱い

▶ 上げ方（ジャッキアップ）



1. ジャッキアップポイントが高いときには、ジャッキ頭部を左に回して高さを合わせます。
2. ジャッキアップレバー先端の切り欠きで、リリースバルブを右いっぱいに締め込みます。
3. ジャッキアップレバーをソケットに差し込み、上下に動かします。

▶ 下げ方



1. ジャッキを下げるときは、リリースバルブを左に静かに回します。

⚠ 警告

- ジャッキのリリースバルブはゆっくり回してください。早く回すと車が急激に落下し、ジャッキが外れるおそれがあります。
- リリースバルブは 2 回転以上回さないでください。

2. ジャッキ頭部を伸ばして使用したときは、右に回して元に戻します。
3. リリースバルブを右いっぱいに締め込みます。

＊ 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着時以外は使用しないでください。

■ジャッキアップポイント

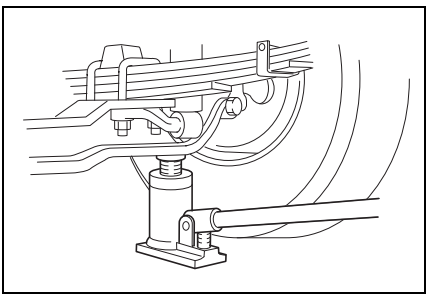
⚠警告

- ジャッキは必ず指定のジャッキアップポイントに掛けてください。
  ジャッキアップポイント以外に掛けると、ジャッキが傾いて外れ部品が損傷したりします。
- ジャッキアップするときは、ジャッキアップポイントに掛かっていることを確かめてから行ってください。

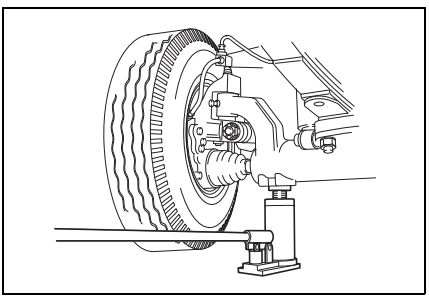
▶ リーフサスペンション車の場合

● 前軸

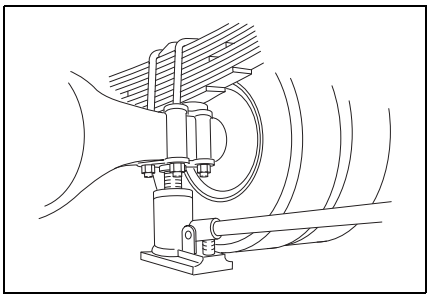
〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車〕



〔FX・GX 車〕



● 後軸



▶ エアサスペンション車の場合★

エアサスペンション車は、リーフサスペンション車に対しジャッキアップポイントが一部異なります。

● 前軸

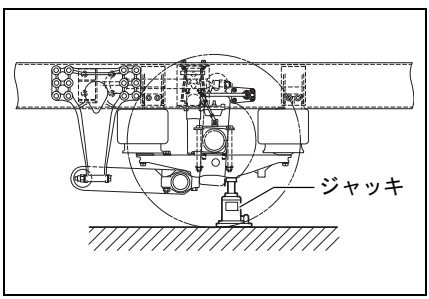
〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車
（リヤエアサスペンション車）〕

- リーフサスペンション車と同じです。

● 後軸

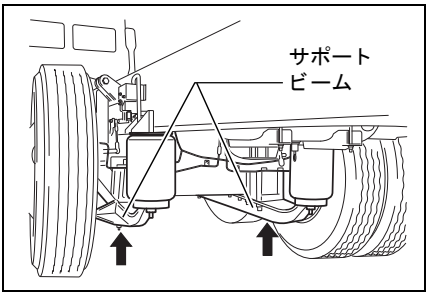
タイヤ交換時

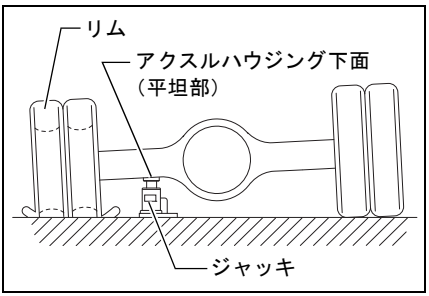
〔FC・FD 車〕



〔GC・GD・FJ・FE 車〕

・ サポートビーム下面のリブ上部でジャッキアップしてください。（特別マークは設けていません）





⚠警告

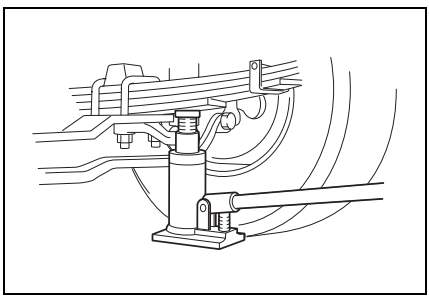
ジャッキアップするときは、必ずレベリングタイマーを「OFF」にして、スターターキーを「LOCK」の位置で行い、ジャッキアップ中はスターターキーの操作およびエンジンを始動させないでください。振動でジャッキが外れるおそれがあります。またエアサスペンション車では、車高が変化して思わぬ事故につながるおそれがあります。

▶ フロントタイヤがパンクしたとき

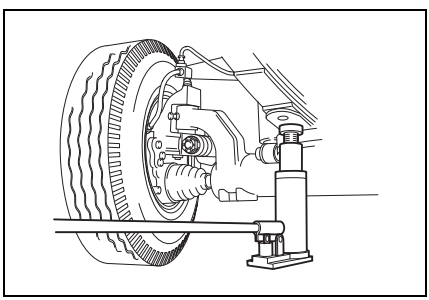
車高が低くなっているので、通常のジャッキアップポイントではジャッキアップできません。
角材などを使用して次の方法で行ってください。

1. リヤタイヤの前後に輪止めを掛けます。
2. フロントアクスル前側のリーフスプリング下面にジャッキを掛け、ジャッキアップします。このとき、ジャッキはできるだけアクスルに近いところに掛けます。

〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車（リーフサスペンション車）〕



〔FX・GX 車（リーフサスペンション車）〕

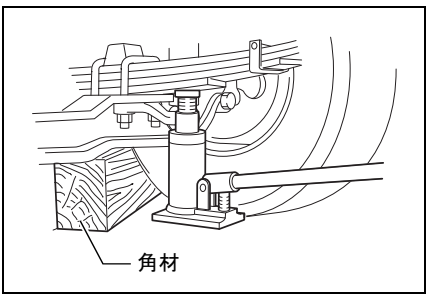


⚠ 警告

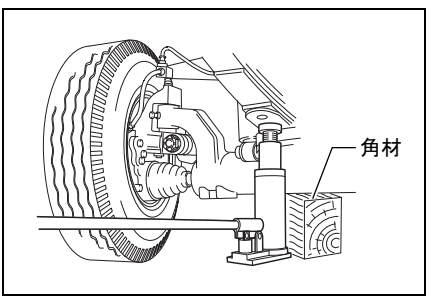
リーフスプリング下面はわん曲していて外れやすいので、ジャッキアップ作業は十分注意して行ってください。

3. フロントアクスル下面に、用意した角材などを入れます。

〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車
（リーフサスペンション車）〕



〔FX・GX 車
（リーフサスペンション車）〕

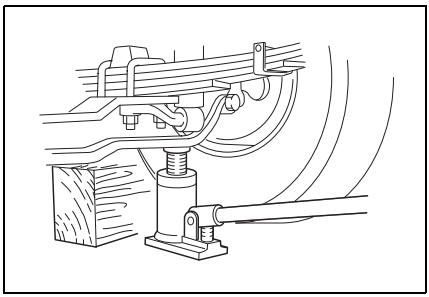


⚠ 警告

角材などは安定を図るため、十分に幅の広く硬いものを使用してください。

4. ジャッキを少し降ろし、フロントアクスルが角材などで確実に支えられていることを確認した後、ジャッキを降ろします。

5. ジャッキアップポイントに掛け直し、再度タイヤが取り外せる高さまでジャッキアップします。



アドバイス

ジャッキアップ後は危険防止のため、フロントアクスル下面に角材などを入れてください。

タイヤの取り扱い

■タイヤ状態の点検

点検時期
1カ月ごと

＊ タイヤの状態点検方法は下記を参照してください。

- タイヤの空気圧（→P.12-14）
- タイヤの亀裂・損傷（→P.12-15）
- タイヤの異常な摩耗（→P.12-15）
- タイヤの溝の深さ（→P.12-16）

■タイヤの交換

▶ 作業中の注意

＊ ジャッキアップについては（→P.13-54）

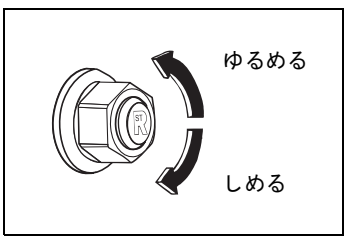
＊ フロントタイヤがパンクしたときのジャッキアップは（→P.13-57）

＊ タイヤの空気圧は（→P.12-14）

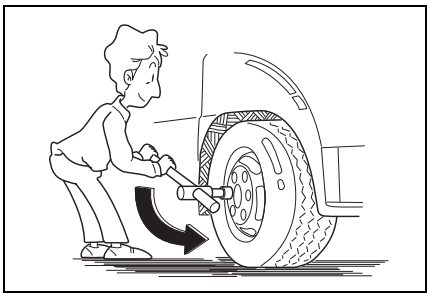
▶ タイヤの取り外し〔ISO方式8本・10本ボルト〕

アドバイス

ホイールナットは、ホイールボルトの先端に刻印があることを確認し、下図にしたがって作業を行ってください。なお、ホイールナットは全て右ねじです。



1. フロントタイヤを取り外すときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、左右のリヤタイヤの前後に輪止めを掛けます。
   また、リヤタイヤを取り外すときは、左右のフロントタイヤの前後に輪止めを掛けます。
2. ホイールナットレンチでホイールナットを少しゆるめます。



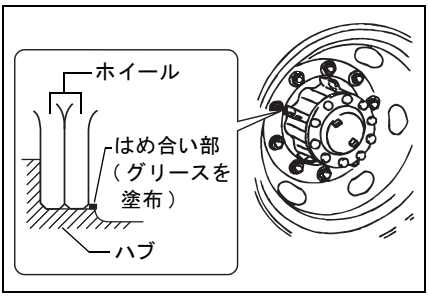
⚠ 注意

- ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。
- ホイールナットはゆるめすぎないようにしてください。ゆるめすぎると、ねじ山を損傷させるおそれがあります。

3. リヤのタイヤを取り外すときは、ディスクホイールの食い付きを防止するために、ホイールハブのはめ合い部にグリースを塗布します。

＊ はめ合い部以外の面には、グリースを付着させないでください。

グリース銘柄
・スリーボンド製# 1805 ・イチネンケミカルズ製ハイグリース



4. アクスルのジャッキアップポイントにジャッキを掛けて、タイヤが取り外せる高さまでジャッキアップします。

＊ ジャッキアップについては（→ P.13-54）

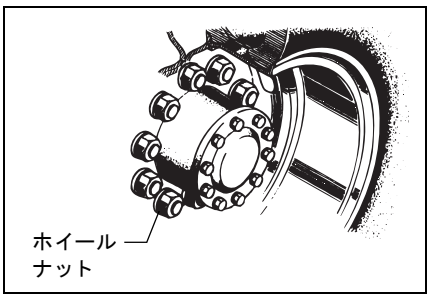
⚠警告

ダブルタイヤを取り外すときは、内輪を角材などにのせ外輪だけを取り外すことはしないでください。内外輪が共締めとなっていますので内輪で車両を支えることができず、車両が傾いて重大な事故につながるおそれがあります。

5. ゆるめてあるホイールナットをすべて取り外した後、タイヤを取り外します。

＊ タイヤ脱着時、ホイールボルトのねじ山を傷つけないよう十分注意してください。

6. リヤはダブルタイヤです。ダブルタイヤを取り外すときは、内外輪が共締めとなっていますので、ホイールナットをゆるめて外側タイヤを取り外した後、内側のタイヤを取り外します。



▶ ディスクホイール・ホイールボルト・ホイールナットの損傷点検

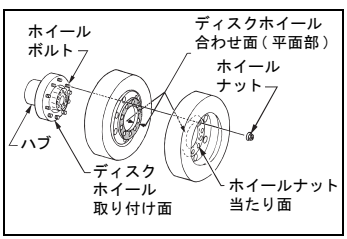
＊ ディスクホイール・ホイールボルト・ホイールナットの損傷点検は（→ P.13-76）

▶ タイヤの取り付け
〔ISO 方式 8 本・10 本ボルト〕

1. ホイールボルト・ホイールナットのねじ部およびディスクホイール取り付け面をよく清掃します。

⚠ 警告

- ホイールボルト・ホイールナットのねじ部が損耗しているものやディスクホイールに変形や亀裂があるものは交換してください。そのまま使い続けるとホイールナットのゆるみや脱輪の原因になります。
- ディスクホイールの合わせ面・ホイールナットの当たり面およびハブのディスクホイール取り付け面、ハブのはめ合い部（インロー部）をきれいに清掃し、錆・ゴミ・追加塗装および異物などは取り除いてください。これらをはさんだまま取り付けると、ホイールナットがゆるむ原因になります。積雪地域や未舗装路を走行する車両の場合は、特に入念に清掃をしてください。
- ディスクホイールの合わせ面・ホイールナットの当たり面およびハブのディスクホイール取り付け面は、追加塗装をしないでください。追加塗装をすると、ホイールナットが緩む原因になります。

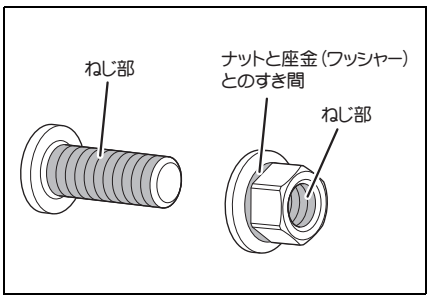


⚠ 注意

ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。

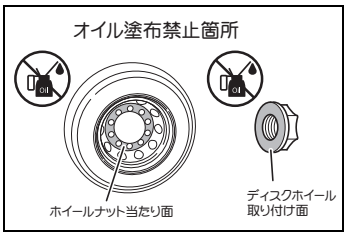
＊ 交換部品は日野純正部品を必ずお使いください。

2. ホイールボルト・ホイールナットのねじ部およびホイールナットとワッシャー間にのみ薄くエンジンオイルを塗布します。



⚠ 警告

- ワッシャーのディスクホイール取り付け面には、エンジンオイルは絶対に塗布しないでください。また、ディスクホイール側のホイールナット当たり面にも同様に塗布しないでください。過大な締め付けとなり、ホイールボルトの折損による脱輪などの原因になります。



- 二硫化モリブデン系のグリースは、絶対に使用しないでください。過大な締め付けとなり、ホイールボルトの折損による脱輪などの原因となります。

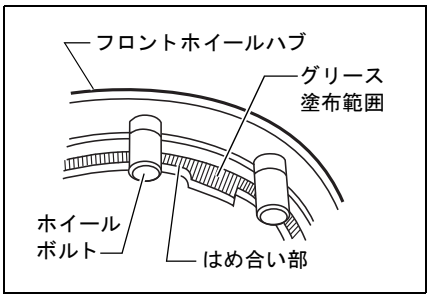
3. タイヤ取り付け時、ディスクホイールの食い付きおよび固着を防止するために、ホイールハブのはめ合い部にグリースを塗布してください。

⚠ 注意

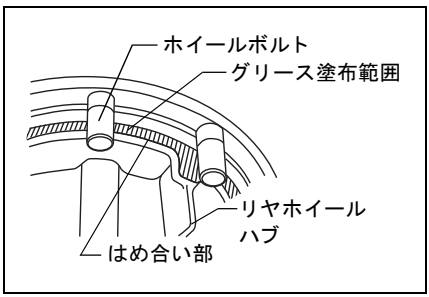
はめ合い部以外の面には、グリースを付着させないでください。

グリース銘柄
・スリーボンド製＃ 1805 ・イチネンケミカルズ製ハイグリース

〔前軸〕



〔後軸〕



⚠ 注意

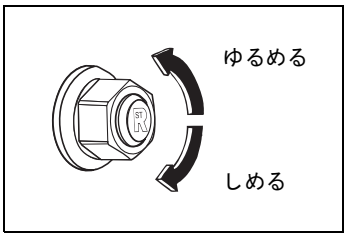
- ホイールナットは手で回して円滑に回ることを確認し、ひっかかり等異常がある場合にはホイールボルト、ホイールナットを交換してください。
- ホイール・ボルトおよびホイールナットが新品の状態から 4 年以上経過している場合は特に入念に点検してください。

4. ディスクホイールのボルト穴をホイールボルトに合わせながらタイヤを取り付けます。

5. タイヤが傾かないようにホイールハブに押し付け、タイヤがガタつかないようにホイールナットで仮締め（締め付けトルク：約 147 N・m {1,500 kgf・cm}）します。

アドバイス

ホイールナットは、ホイールボルトの先端に刻印があることを確認し、下図にしたがって作業を行ってください。なお、ホイールナットは全て右ねじです。



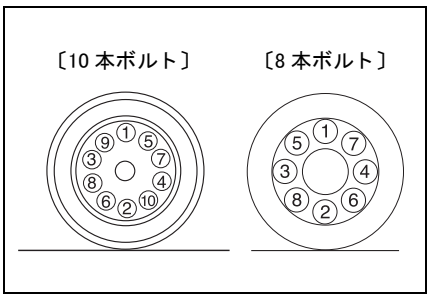
6. ジャッキのリリースバルブを左に回してタイヤを静かに降ろします。

警告

ジャッキのリリースバルブはゆっくり回してください。早く回すと車が急激に落下し、ジャッキが外れるおそれがあります。

7. ホイールナットを対角線上に 2 ～ 3 回に分けて締め付けます。なお、リヤはダブルタイヤを用いていますが、内輪と外輪とは共締めとなっていますので同時に締め付けられます。

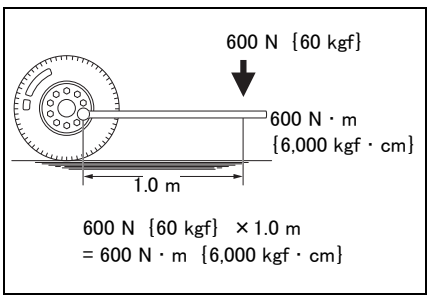
〔対角締めの締め付け順序例〕



8. 最後にトルクレンチなどを使用して、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットを締め付けます。

＊ ホイールナットの標準締め付けトルクを示したプレート（タイヤ空気圧と同様）がキャブの右ドア部に貼付してあります。

ホイールナットの締め付けトルク
550 ～ 600 N・m {5,500 ～ 6,000 kgf・cm}



⚠ 警告

- ホイールナットの締め付け不足は、ナットの脱落やホイールの脱輪の原因になりますので、確実に締め付けてください。
- ホイールナットの締めすぎは、ホイールボルトの伸び、破損の原因になりますので、締め付けには十分注意してください。
- ホイールナットのナット部とワッシャー部の回転がスムーズでない場合は、ホイールナットを交換してください。そのまま使用すると、ホイールナットがゆるむ原因になります。

アドバイス

- タイヤ交換後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50 ～ 100 km 走行後、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットの増し締めを行ってください。
- インパクトレンチで締め付ける場合は、エア圧レギュレーターの調整や締め付け時間に十分注意して、締めすぎないようにしてください。
最後にトルクレンチなどを使用して規定のトルクで締めます。

▶ タイヤの取り外し
〔JIS 方式 6 本・8 本ボルト〕

アドバイス

ホイールナットおよびインナーホイールナット・アウターホイールナットは、車両の右側のものは右ねじ、左側のものは左ねじになっています。

1. フロントタイヤを取り外すときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、左右のリヤタイヤの前後に輪止めを掛けます。
また、リヤタイヤを取り外すときは、左右のフロントタイヤの前後に輪止めを掛けます。
2. ホイールナットレンチでホイールナットをトルクが掛からなくなる寸前までゆるめます。

⚠ 注意

- ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。
- ホイールナットはゆるめすぎないようにしてください。ゆるめすぎると、ねじ山を損傷させるおそれがあります。

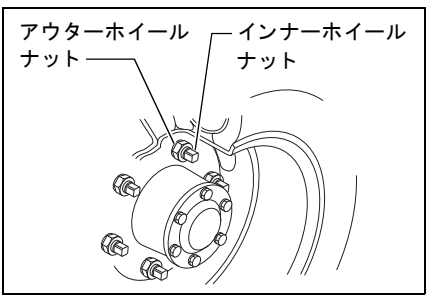
3. アクスルのジャッキアップポイントにジャッキを掛けて、タイヤが取り外せる高さまでジャッキアップします。

＊ ジャッキアップについては（→ P.13-54）

4. ゆるめてあるホイールナットをすべて取り外した後、タイヤを取り外します。

＊ タイヤ脱着時、ホイールボルトのねじ山を傷つけないよう十分注意してください。

5. リヤはダブルタイヤです。ダブルタイヤを取り外すときは、最初にアウターホイールナットを取り外し、外側タイヤを取り外した後、いったんジャッキを下げタイヤを接地させてからインナーホイールナットを少しゆるめ、再びジャッキアップして同様に内側のタイヤを取り外します。

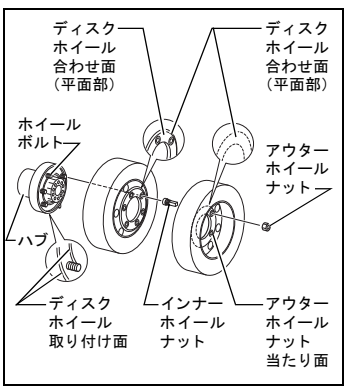


▶ タイヤの取り付け
〔JIS 方式 6 本・8 本ボルト〕

1. ホイールボルト・ホイールナットのねじ部およびディスクホイール取り付け面をよく清掃します。

⚠ 警告

- ホイールボルト・ホイールナットのねじ部が損耗しているものやディスクホイールに変形や亀裂があるものは交換してください。そのまま使い続けるとホイールナットのゆるみや脱輪の原因になります。
- ディスクホイールの合わせ面・ホイールナットの当たり面およびハブのディスクホイール取り付け面をきれいに清掃し、錆・ゴミ・追加塗装および異物などは取り除いてください。これらをはさんだまま取り付けると、ホイールナットがゆるむ原因になります。
- ディスクホイールの合わせ面・ホイールナットの当たり面およびハブのディスクホイール取り付け面は、追加塗装をしないでください。追加塗装をすると、ホイールナットが緩む原因になります。



⚠ 警告

- 二硫化モリブデン系のグリースは、絶対に使用しないでください。過大な締め付けとなり、ホイールボルトが折損するなどの原因になります。

⚠ 注意

ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。

＊ 交換部品は日野純正部品を必ずお使いください。

2. ホイールボルト・ホイールナットのねじ部およびホイールナットの当たり面に薄くエンジンオイルを塗布します。
3. ディスクホイールのボルト穴をホイールボルトに合わせながらタイヤを取り付けます。
4. ホイールボルトがディスクホイールのボルト穴の中央になるようにタイヤをセットし、タイヤがガタつかない程度にホイールナットを仮締めします。

＊ ホイールナットの当たり面がディスクホイール側です。

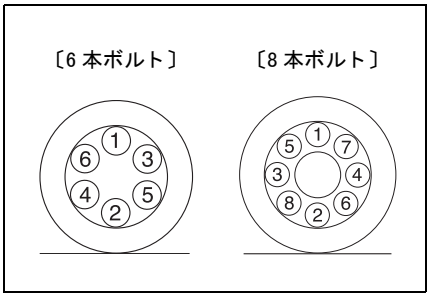
5. ジャッキのリリースバルブを左に回してタイヤを静かに降ろします。

⚠ 警告

ジャッキのリリースバルブはゆっくり回してください。早く回すと車が急激に落下し、ジャッキが外れるおそれがあります。

6. ホイールナットを対角線上に 2 ～ 3 回に分けて締め付けます。

〔対角締めの締め付け順序例〕



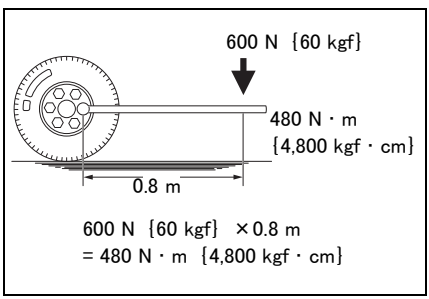
7. 最後にトルクレンチなどを使用して、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットを締め付けます。

＊ ダブルタイヤは内側タイヤ（インナーホイールナット）を締め付けてから、再びジャッキアップして外側タイヤ（アウターホイールナット）を締め付けます。

＊ ホイールナットの標準締め付けトルクを示したプレート（タイヤ空気圧と同様）がキャブの右ドア部に貼付してあります。

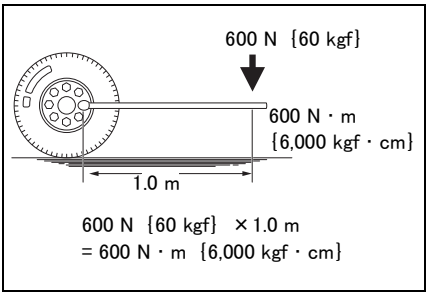
6 本ボルト

ホイールナットの締め付けトルク
400 ～ 480 N・m {4,000 ～ 4,800 kgf・cm}（インナー・アウター）



8 本ボルト

ホイールナットの締め付けトルク
550 ～ 600 N・m {5,500 ～ 6,000 kgf・cm}（インナー・アウター）



⚠ 警告

- ダブルタイヤの外側タイヤを交換したときは、ホイールナットのゆるみにつながるため、必ずインナーホイールナットを締め付けてからアウターホイールナットを締め付けてください。
- ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

アドバイス

- インパクトレンチで締め付ける場合は、エア圧レギュレーターの調整や締め付け時間に十分注意して、締めすぎないようにしてください。最後にトルクレンチなどを使用して規定のトルクで締め付けます。
- タイヤ交換後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50 ～ 100 km 走行後、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットの増し締めを行ってください。

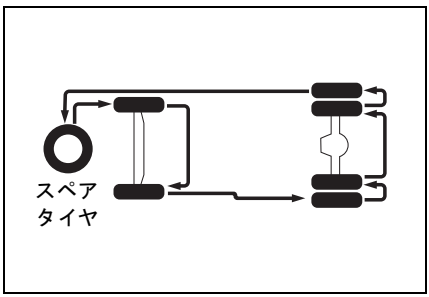
■タイヤローテーション（配置換え）

タイヤは道路の状況・積荷・ブレーキ操作・取り付け位置などによってそれぞれ異なった摩耗をします。また、スペアタイヤは長時間使用しないと変質します。

タイヤの摩耗を均等にし、寿命を延ばすためには定期的に位置交換をしてください。

タイヤローテーション時期
5,000 km 走行ごと

▶ タイヤローテーション例



▶ タイヤローテーション時の注意

＊ タイヤの配置換えは、以前の回転方向と逆になる位置に取り付けてください。

＊ 新品タイヤは発熱しやすく、摩耗が進みやすいため、フロントタイヤとして 2 本 1 組で取り付けてください。

＊ タイヤは傷などのないものを使用し、ディスクホイールに組み込むときはバランスを取って使用してください。

＊ タイヤローテーション時、ダブルタイヤに外径差のあるときは、外径の小さいタイヤを内側に取り付けてください。
なお、外径差は次表の範囲内で使用してください。

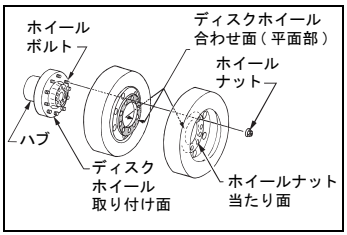
内側と外側のタイヤの外径差
8 mm 以内

＊ ローテーションは同じプライ数間で行ってください。

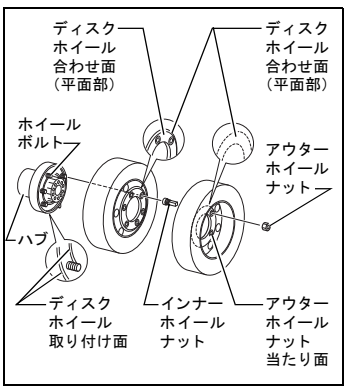
⚠ 警告

- ディスクホイールの合わせ面・ホイールナットの当たり面およびハブのディスクホイール取り付け面をきれいに清掃し、錆・ゴミ・追加塗装および異物などは、取り除いてください。これらをはさんだまま取り付けると、ホイールナットがゆるむ原因になります。
- ディスクホイールの合わせ面・ホイールナットの当たり面およびハブのディスクホイール取り付け面は、追加塗装をしないでください。追加塗装をすると、ホイールナットがゆるむ原因になります。

〔ISO 方式 8 本・10 本ボルト〕



〔JIS 方式 6 本・8 本ボルト〕



アドバイス

- タイヤローテーション後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50 ～ 100 km 走行後、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットの増し締めを行ってください。
- インパクトレンチで締め付ける場合は、エア圧レギュレーターの調整や締め付け時間に十分注意して、締めすぎないようにしてください。
  最後にトルクレンチなどを使用して規定のトルクで締めます。

⚠ 警告

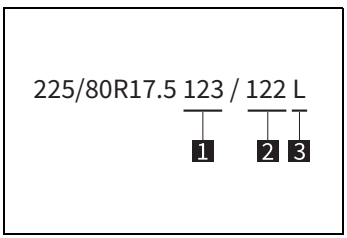
■ タイヤの点検、交換時の警告

- 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷、制動時などの車両の左右流れ、ハンドル取られ等の不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- タイヤはすべて（スペアタイヤを含む）同一メーカーのタイヤを使用してください。
- 同一軸には、必ず同一型式のタイヤ、摩耗差のないタイヤを使用してください。

⚠ 警告

- 交換後のタイヤはロードインデックスと速度記号が交換前のタイヤと同一またはそれ以上になるタイヤを使用してください。
  以下のサイズについては、速度記号違いへの交換も可能です。
  225/80R17.5 123/122N → L
  225/90R17.5 127/125N → L
  245/80R17.5 133/131N → J

ロードインデックスと速度記号の代表的な呼び方の例

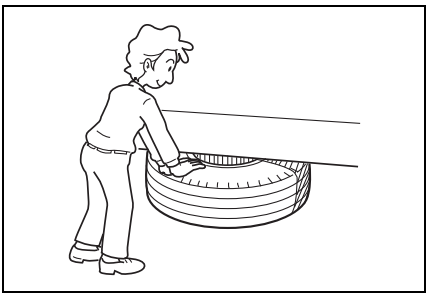


1 ロードインデックス（単輪使用時）
2 ロードインデックス（複輪使用時）
3 速度記号

- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。
- スペアタイヤは車両に装着されているタイヤと同一サイズを装備しています。交換時は同一サイズのタイヤを装着してください。

■スペアタイヤ★

▶ スペアタイヤの点検

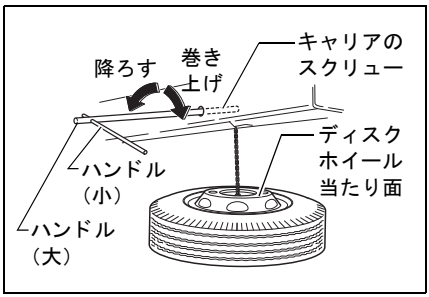


1. スペアタイヤが確実に巻き上げられ、ガタや異常な傾きがないかを目視などで確認してください。また、スペアタイヤの取り付けにゆるみがないかをタイヤの上から体重をかけてゆするなどして点検してください。
2. タイヤが動くときはスペアタイヤ取り付け装置の変形などの異常がないことを確認し、確実に巻き上げてください。

⚠警告

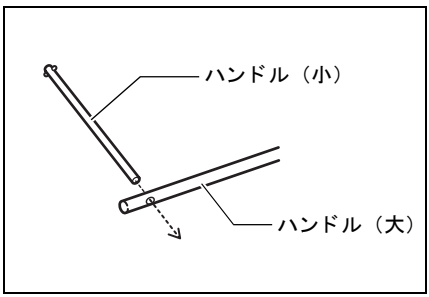
- スペアタイヤは確実に取り付けておいてください。スペアタイヤの取り付けがゆるんでいると、走行中に落下して、事故の原因になるおそれがあります。
- スペアタイヤの当たり面にもの（布、スポンジなど）を挟むと走行中の振動でゆるみ、タイヤがガタついたり落下につながるおそれがあります。
- タイヤキャリヤが接地などにより変形したときは、締め付けが不完全となりスペアタイヤの脱落につながるため、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検し新品と交換してください。

▶ 脱着要領



● 取り外し

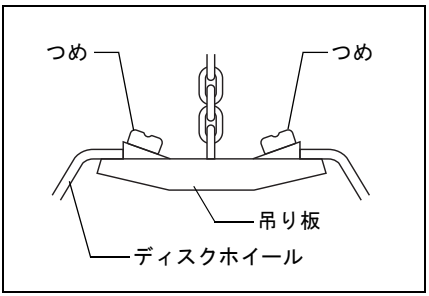
1. 車載工具のハンドル（大）をキャリアのスクリューに差し込み、ハンドル（小）をハンドル（大）の穴部に差し込み、確実にセットします。



2. 左に回してスペアタイヤを降ろします。

● 取り付け

1. ディスクホイールは凸側を上にして、キャリア吊り板の爪がディスクホイールのインロー穴から飛び出ることを確認してください。

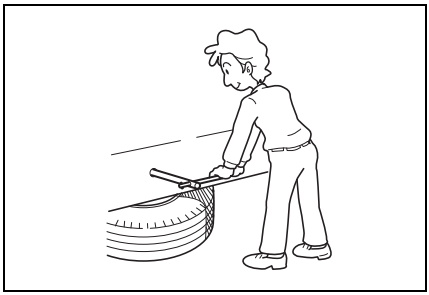


2. 車載工具のハンドル（大）をキャリアのスクリューに差し込み、ハンドル（小）をハンドル（大）の穴部に差し込み、確実にセットします。
3. 右に回してチェーンがねじれないように巻き上げます。

＊ タイヤが地面から離れたときに吊り板がホイール穴に確実にはまっていることを確認してください。

＊ 巻き上げは必ず水平な場所で行ってください。また、スペアタイヤが少し地面から浮いた状態で一旦停止し、爪のかかりやチェーンのねじれを確認してください。

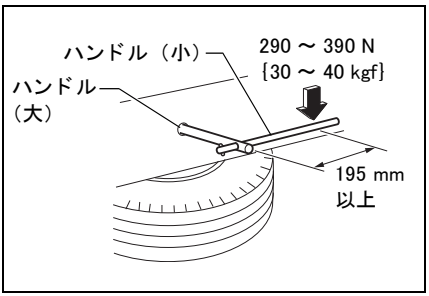
＊ ディスクホイール当たり面の土砂などの異物は取り除いてください。

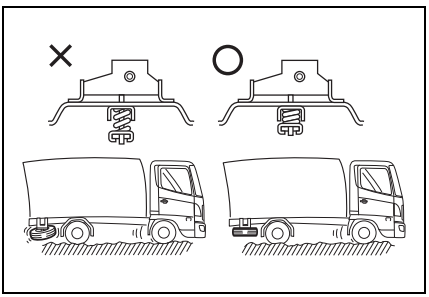


⚠ 警告

- 吊り板のつめがディスクホイールの穴に確実にはまっていないまま走行すると、走行中にスペアタイヤが外れて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 巻き上げ後、ハンドルを 290 ～ 390 N {30 ～ 40 kgf} の力で締め上げて、タイヤを固定します。締め付けが不十分だったりチェーンがねじれたまま巻き上げたりすると、走行中の振動でゆるみスペアタイヤが「ガタ」ついたり、落下することがありますので、確実に締め付けてください。
- 車載工具を使用しないで規定トルク以上で巻き上げると内部機構が損傷し、走行中にスペアタイヤの落下につながるおそれがあります。

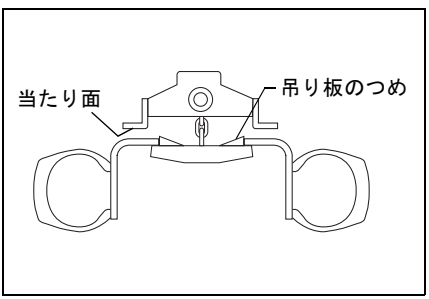
＊ ハンドルは下図の位置を握って締め付けてください。





＊ 締め付けが不十分な場合、吊り板内部のバネが完全に縮まず、走行中の振動でスペアタイヤがガタつきます。そのまま使用を続けるとキャリヤの異常摩耗や脱落などの原因になりますので、締め付けを十分に行ってください。

4. 締め付け後、当たり面に吊り板のつめが干渉していないことを確認し、ハンドルを逆回転させないように注意しながら抜きます。



5. スペアタイヤが確実に巻き上げられ、ガタや異常な傾きがないかを目視などで確認してください。また、スペアタイヤの取り付けにゆるみがないかをタイヤの上から体重をかけてゆするなどして点検してください。
6. タイヤが動くときはスペアタイヤ取り付け装置の変形などの異常がないことを確認し、確実に巻き上げてください。

⚠ 警告

- スペアタイヤは確実に取り付けておいてください。スペアタイヤの取り付けがゆるんでいると、走行中に落下して、事故の原因になるおそれがあります。
- スペアタイヤの当たり面にもの（布、スポンジなど）を挟むと走行中の振動でゆるみ、タイヤがガタついたり落下につながるおそれがあります。
- タイヤキャリヤが接地などにより変形したときは、締め付けが不完全となりスペアタイヤの脱落につながるため、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検し新品と交換してください。

アドバイス

スペアタイヤを装着した直後は、初期なじみにより、締め付け力が低下することがあります。50 ～ 100 km 走行後、対角線上に増し締めを行ってください。

＊ スペアタイヤの空気圧は正常なタイヤでも時間がたつと自然漏れのため低下しますので、少し高めにしておいてください。また、使用するときは標準空気圧に調整してください。

■ホイール

▶ 日常（運行前）点検

1 日 1 回、運行前に点検してください。

日常点検の内容については（→P.12-3）

▶ ホイールナットの増し締め

ホイール取り付け後の走行の初期なじみにより、ホイールの締め付けが低下します。ディスクホイールやホイールボルトおよびホイールナット交換後またタイヤローテーション後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50 ～ 100km 走行後、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットの増し締めを行ってください。

▶ ホイールナットのゆるみ点検

点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］

・ ホイールナットが規定のトルクで締め付けられていることを、トルクレンチなどを使用して点検します。

⚠ 警告

ホイールナットのゆるみおよび締めすぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

⚠ 注意

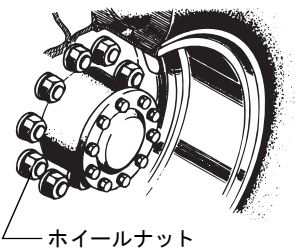
ホイールナットレンチはホイールナットの奥まで深く掛けてください。掛けかたが浅いと力をかけたとき、ホイールナットレンチが外れケガをするおそれがあります。

アドバイス

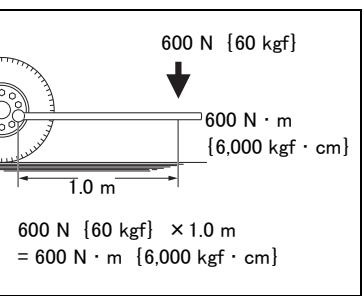
ディスクホイールやホイールボルトおよびホイールナット交換後またタイヤローテーション後は、初期なじみにより締め付けトルクが低下することがあります。50 ～ 100 km 走行後、規定の締め付けトルクで対角線上にホイールナットの増し締めを行ってください。

〔ISO 方式 8 本・10 本ボルト〕

・ ホイールナットを締め方向に規定のトルクで締め付けます。

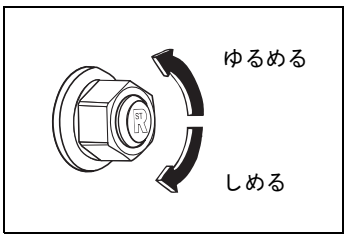


ホイールナットの締め付けトルク（N・m｛kgf・cm｝）
550 ～ 600 ｛5,500 ～ 6,000｝



アドバイス

- ホイールナットを締め付けるときは、ねじ部の泥などを十分落とし、ホイールボルト・ホイールナットのねじ部およびホイールナットとワッシャー間にのみ薄くエンジンオイルを塗布してから締め付けてください。
- ワッシャーのディスクホイール取り付け面には油脂類を付着させないでください。
- ホイールナットは、ホイールボルトの先端に刻印があることを確認し、下図にしたがって作業を行ってください。なお、ホイールナットは全て右ネジです。



＊ ホイールナットの締め付けは（→P.13-61）

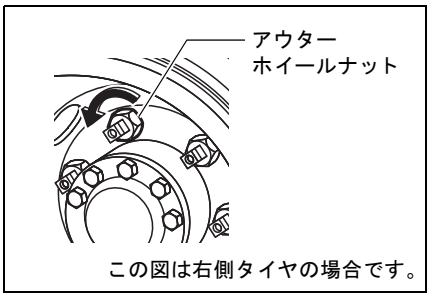
〔JIS 方式 6 本・8 本ボルト〕

- シングルタイヤ

・ ホイールナットを締め方向に規定のトルクで締め付けます。

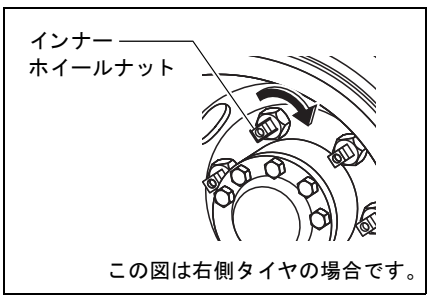
- ダブルタイヤ

1. ホイールボルトの半分（半数）のアウターホイールナットを 1 本おきにゆるめます。



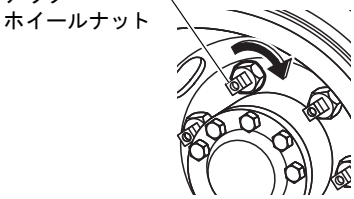
この図は右側タイヤの場合です。

2. インナーホイールナットを規定のトルクで締め方向に締め付けます。



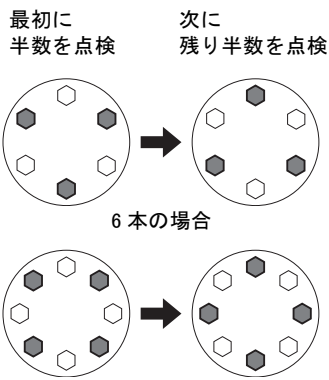
この図は右側タイヤの場合です。

3. アウターホイールナットを規定のトルクで確実に締め付け直します。（このとき、残りのホイールボルトのナットはゆるめないでください）



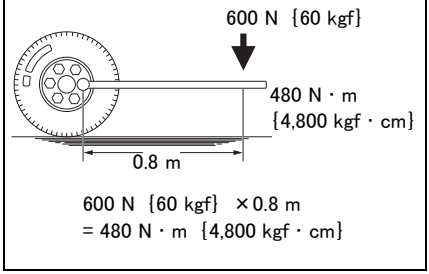
この図は右側タイヤの場合です。

4. 残りの半分のアウターホイールナットをゆるめ、同様にインナーホイールナット・アウターホイールナットの順に締め付けます。



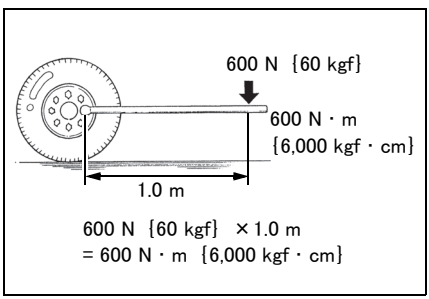
6 本ボルト

ホイールナットの締め付けトルク
400 ～ 480 N・m {4,000 ～ 4,800 kgf・cm} （インナー・アウター）



8 本ボルト

ホイールナットの締め付けトルク
550 ～ 600 N・m {5,500 ～ 6,000 kgf・cm} （インナー・アウター）



アドバイス

- ホイールナットおよびインナーホイールナット・アウターホイールナットは、車両の右側のものは右ねじ、左側のものは左ねじになっています
- ホイールナットを締め付けるときは、ねじ部の泥などを十分落とし、ホイールボルト・ホイールナットのねじ部およびホイールナットの当たり面部に薄くエンジンオイルを塗布してから締め付けてください。

＊ ホイールナットの締め付けは（→P.13-65）

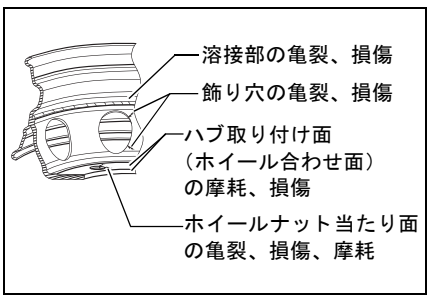
▶ ディスクホイール・ホイールボルト・ホイールナットの損傷点検

ディスクホイールの点検はディスクホイールを取り外して行います。併せてホイールボルトやホイールナットおよびハブなどの関連部品に異常がないか点検します。

● ディスクホイールの点検

点検時期
事業用3カ月ごと

- ボルト穴や飾り穴のまわりに亀裂や損傷がないか点検します。
- ホイールナットの当たり面に亀裂や損傷、摩耗がないか点検します。
- 溶接部に亀裂や損傷がないか点検します。
- ハブへの取り付け面とホイール合わせ面に摩耗や損傷がないか点検します。



● ホイールボルト・ホイールナットの点検

点検時期
1年ごと

・ 亀裂や損傷、著しい錆の発生がないか点検します。
・ ホイールボルトが伸びていないかなどを点検します。
・ ねじ部につぶれ・やせ・かじりなどがないか点検します。
・ ホイールナットの座金（ワッシャー）が、スムーズに回転するか点検します。（ISO 方式 8 本・10 本ボルト）

⚠ 注意

ホイール・ボルトおよびホイールナットが新品の状態から 4 年以上経過している場合は特に入念に点検してください。

＊ 錆や汚れを落とし、ねじ部にエンジンオイルなどを薄く塗布してナットをボルトの奥まで回転させたとき、スムーズに回転しない場合は、ねじ部に異常がありますので、ボルト、ナットをセットで交換してください。

⚠ 警告

ホイールボルトが折損していた場合は、車輪脱落事故の原因となりますので車輪すべてのホイールボルト、ホイールナットを交換してください。

＊ ホイールボルトやホイールナットを交換する際には、必ず最寄りの日野販売会社の整備工場に相談して、それぞれ適合する純正部品を購入し使用してください。

● ハブの点検

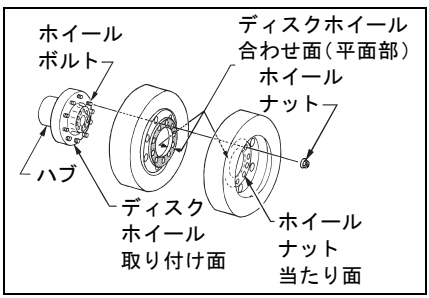
・ ディスクホイールの取り付け面に著しい摩耗や損傷がないかを点検します。

⚠ 警告

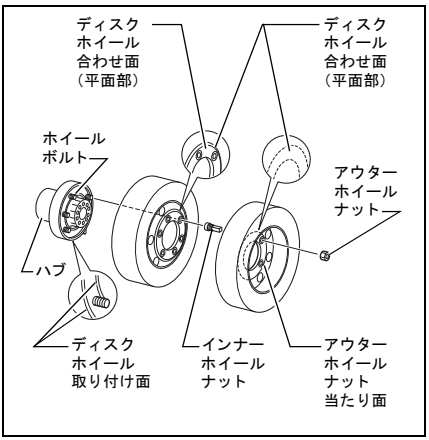
● ディスクホイール取り付け面に著しい摩耗や損耗がある場合、ホイールナットの緩みやホイールボルトの折損などが発生し、脱輪による重大な事故の原因になります。

● ディスクホイールのハブへの取り付け面、ハブのホイール取り付け面は走行に伴い摩耗します。ホイールナット当たり面やハブへの取り付け面に、経年劣化に伴う著しい段付き摩耗がある場合は、ホイールナットの緩みの原因となります。必ず、ディスクホイールを交換してください。

〔ISO 方式 8 本・10 本ボルト〕



〔JIS 方式 6 本・8 本ボルト〕



▶ アルミホイールとスチールホイールの組み替え時の注意

⚠ 警告

ホイールボルトおよびホイールナット〔JIS 方式〕はアルミホイール用とスチールホイール用でそれぞれ専用品になっておりますので、絶対に混用しないでください。

混用すると、長さや形状が異なるため、ねじの底付きや、ねじのかみ合い長さ不足によるホイール締め付け不足が発生しホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、脱輪の原因になります。

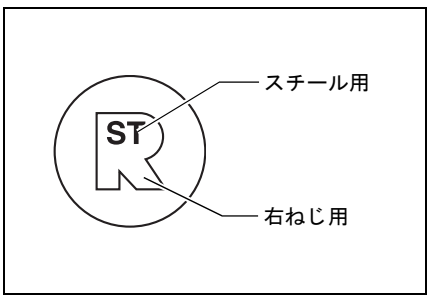
〔ISO 方式 8 本・10 本ボルト〕

▶ ホイールボルトへの識別表示

- R：右ねじ
- ST：スチールホイール用
- AL：アルミホイール用

〔ホイールボルト〕

- スチール用右ねじの例



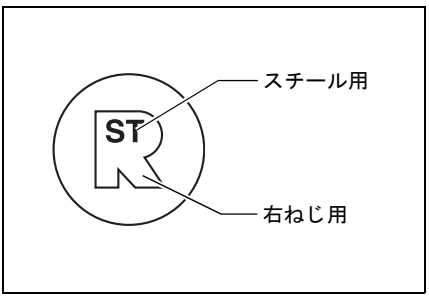
〔JIS 方式 6 本・8 本ボルト〕

▶ ホイールボルト・ホイールナットへの識別表示

- R：右ねじ
- L：左ねじ
- ST：スチールホイール用
- AL：アルミホイール用
- S・A：スチール、アルミホイール共用
- O：アルミ▶スチール変換サービス用インナーナット

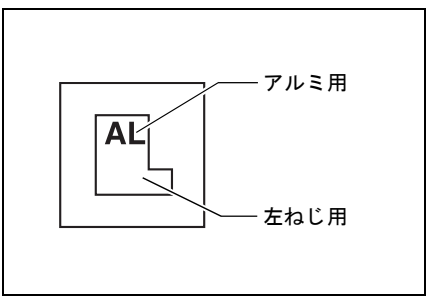
〔ホイールボルト〕

- スチール用右ねじの例



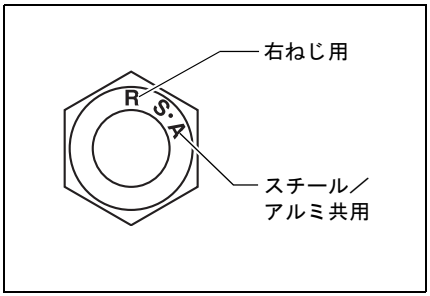
〔インナーナット〕

- アルミ用左ねじの例



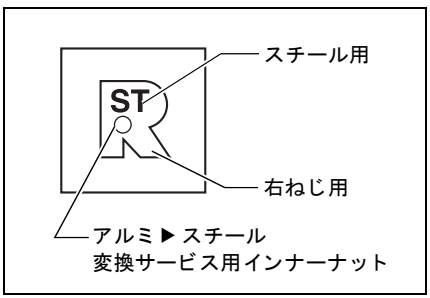
〔アウターナット〕

- スチール／アルミ共用右ねじの例



〔アルミ▶スチール変換用インナーナット〕

- アルミ▶スチール変換サービス用インナーナット右ねじの例



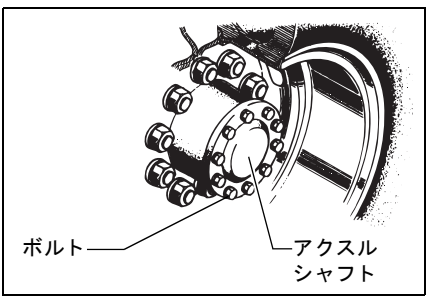
■アクスルシャフト

・ ホイールナットのゆるみの点検と同時に行ってください。

▶ 点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと、 自家用 6 カ月ごと ［シビアコンディション項目］

・ アクスルシャフトのボルトにゆるみがないかを点検します。



締め付けトルク
85 ～ 107 N・m {870 ～ 1,100 kgf・cm}

ステアリング

⚠ 警告

ステアリングは、ブレーキとともに保安上重要な役割を持っています。点検時、異常が認められたときは、事故につながるおそれがありますので、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■ハンドルの操作具合の点検

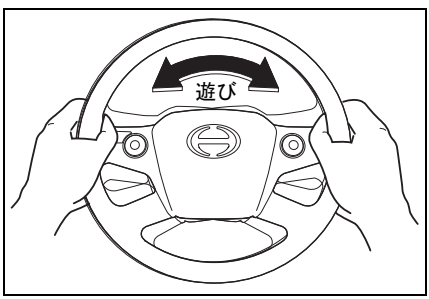
点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、1 年ごと

▶ ハンドルの遊び

遊びはハンドル円周上で次の通りです。

基準値（mm）	限度（mm）
15 ～ 35	50

・ 前車輪を直進方向に正しく向けてから、ハンドルを左右に軽く回して遊びを点検します。



＊ ハンドルの遊びは、必ずエンジンをかけて点検してください。

▶ ハンドルのガタの点検

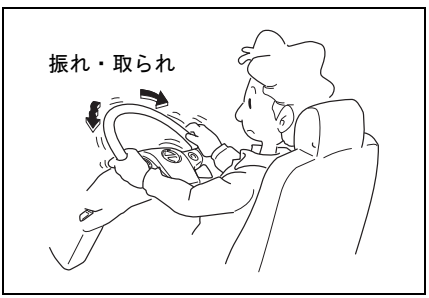
・ ハンドルを前後・左右・上下に動かして、大きなガタがないかを点検します。



＊ アジャスタブルステアリングロックレバーは確実にロックしてください。

▶ ハンドルの振れ・取られの点検

・ 走行中ハンドルが異常に振れたり、左または右方向に取られたり、また、異常に重くないかを点検します。

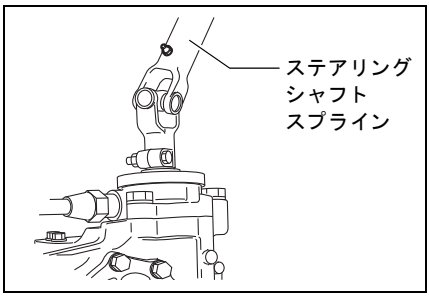


▶ ハンドルの戻り点検

旋回から直進へのハンドル操作時に異常な重さや引っかかりがないかを点検します。

■ステアリング装置各部の点検

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと （距離項目）、 自家用 1 年ごと

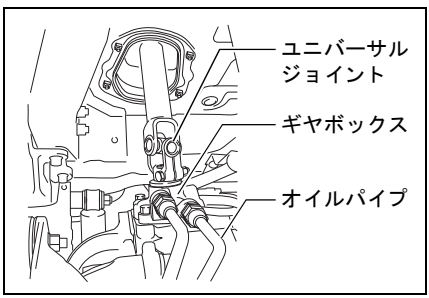


・ シャフトスプラインの給脂状態とガタがないかを点検します。

＊ シャフトスプラインへの給脂は（→P.14-32）

＊ シャフトスプライン部給脂後、最初のハンドルの高さ調整は、多少重くなりますが異常ではありません。

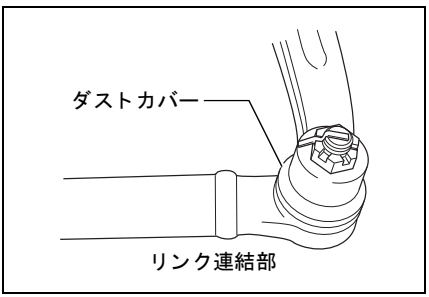
・ 取り付け各部のゆるみ・亀裂・摩耗および変形などがないかを目視で点検します。



■ダストカバーの損傷

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと、 自家用 1 年ごと

・ リンク連結部のダストカバーに摩耗や損傷および外れがないかを点検します。



■ホースおよびパイプなどの点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと（距離項目）、 自家用 1 年ごと 〔シビアコンディション項目〕

・ パワーステアリングのオイルパイプやホースが他部と接触していないか、傷およびオイル漏れはないかを点検します。

・ 冬期に積雪路や融雪道などを走行後、および日常（運行前）点検時、オイルパイプやリンク類に雪・泥水の付着で凍結したかたまりが付着していないかを点検します。
付着しているときは、パイプやリンク類を傷つけないように注意し、取り除きます。

■ホーンの点検

点検時期
新車 1,000 km、5,000 km 走行時 その後、1 年ごと

・ ホーンボタンの取り付け部に異常がないか、およびホーンは鳴るか破損が無いかを点検します。

シャシスプリング

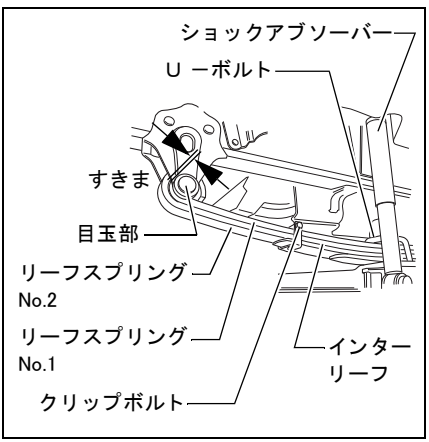
⚠警告

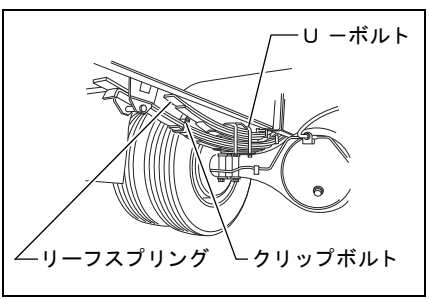
シャシスプリングの点検時、異常が認められたときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

シャシスプリングの不具合は、乗り心地・積荷の傾きおよび走行安定性に悪影響をおよぼします。次の点検を行ってください。

■点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと、自家用 1 年ごと





・ シャシスプリング周りに異常がないかを点検します。

・ リーフスプリングの折損

・ クリップボルトの脱落およびナットのゆるみ

・ ショックアブソーバーのオイル漏れ

＊ リーフスプリング No.1 と No.2 の目玉部にすきまがないものは折損と判断できます。

・ インターリーフの摩耗を点検します。

摩耗限度
先端厚み（薄いところ）で 0.5 mm

＊ インターリーフは摩耗限度になったら交換してください。部品の交換は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

■取り付け部および連結部のゆるみ、ガタ損傷点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと、自家用 6ヵ月ごと

・ シャシスプリング取り付け部および連結部に異常がないかを点検します。

・ スプリング取り付け部の損傷

・ スプリング連結部のガタ

・ U ーボルトのナットのゆるみ

エアスプリング★

⚠警告

エアスプリングの点検時、異常が認められたときは、正しい車両姿勢を保つことができず、事故の原因となるおそれがありますので、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

エアスプリングの空気圧低下や破損などがあると、乗り心地を損なうばかりでなく、正しい車両姿勢を保つことができません。次の点検を行ってください。

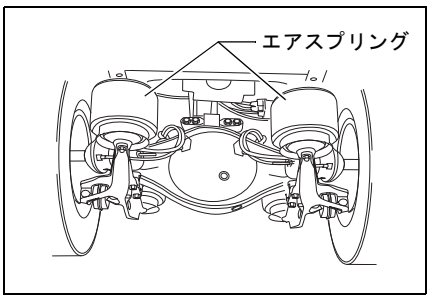
⚠警告

エアスプリング内のエアが抜けると車体が下がります。
点検で車両の下にもぐるときは、作業の安全を確保するため輪止めを掛け、さらにフレームが下がらないように、スタンド（ウマ）をフレーム下面とのすきまがないように掛けてください。

■エア漏れの点検

点検時期
事業用 3 カ月ごと、自家用 1 年ごと

・ エアパイプ・エアスプリング用エアタンク・エアスプリングなどからエア漏れがないかを点検します。



＊ エア漏れなどによる空気圧の低下があると、エアスプリングがつぶれたり、しわがよったりします。

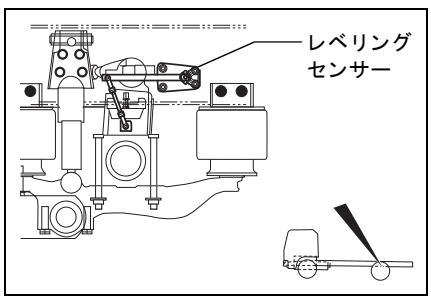
■各部の点検

点検時期
事業用3カ月ごと（距離項目） 自家用1年ごと

- エアスプリングの取り付け部および連結部にゆるみや損傷がないかを点検します。
- 後軸の左右1カ所（リヤエアサス車）のレベリングセンサーに変形などがないかを点検します。

▶ 後軸レベリングセンサー

〔リヤエアサス車〕（左右1カ所）



■エアスプリングの点検

点検時期
事業用3カ月ごと（距離項目） 自家用1年ごと

- エアスプリングに傷や亀裂がないかを点検します。
  傷や亀裂があるときは新品と交換します。
- エアスプリング下部に砂や石などをかみ込んでいないかを点検します。かみ込みがあるときは、エアスプリングに傷をつけないようにして取り除きます。

⚠注意

石などをかみ込んだまま走行しますと、エアスプリングが破損するおそれがあり、エア漏れの原因になります。

■車両姿勢

- 荷を積んだ瞬間、一時的に荷台が下がり、数秒後に空車状態とほぼ同じ高さに戻るかを点検します。

アドバイス

荷台がほぼ空車状態と同じに戻らないときは、レベリング機能やエアスプリングなどの故障が考えられますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

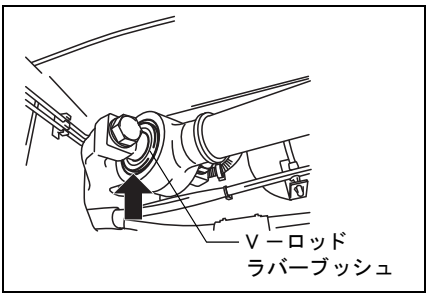
Ｖ－ロッド★

■Ｖ－ロッドラバーブッシュの点検

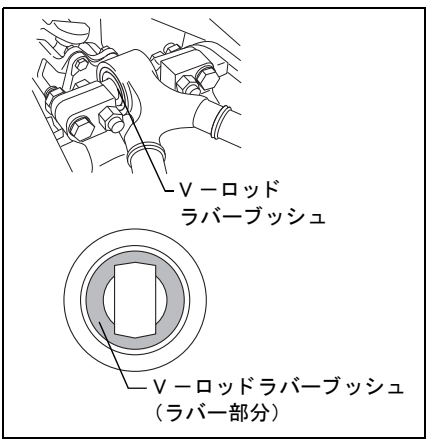
点検時期
事業用 3 カ月ごと、自家用 6 カ月ごと

・ Ｖ－ロッドのフレーム側とアクスル側のラバーブッシュを点検し、ラバーブッシュ表面に亀裂、損傷がないかを点検します。

〔フレーム側〕



〔アクスル側〕



＊ Ｖ－ロッドラバーブッシュのラバー部に亀裂、膨れ上がりなどの異常があるときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■交換

交換時期
500,000 km 走行ごと

・ Ｖ－ロッドラバーブッシュは、定期的に交換が必要です。部品の交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

⚠ 注意

Ｖ－ロッド点検時、異常が認められたときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。Ｖ－ロッドのラバーブッシュに亀裂、破損などがあると、乗り心地・走行安定性に悪影響をおよぼします。

ショックアブソーバ

⚠警告

ショックアブソーバの点検時、異常が認められたときは、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。ショックアブソーバが故障すると走行が不安定になり、事故につながるおそれがあります。

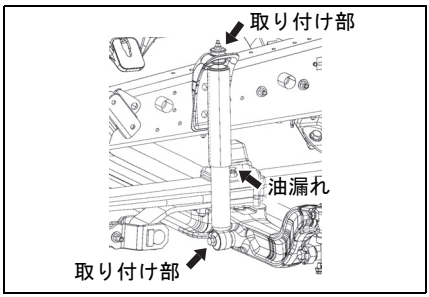
ショックアブソーバの不具合は、乗り心地・積荷の傾きおよび走行安定性に悪影響をおよぼします。次の点検を行ってください。

■オイル漏れおよび損傷の点検

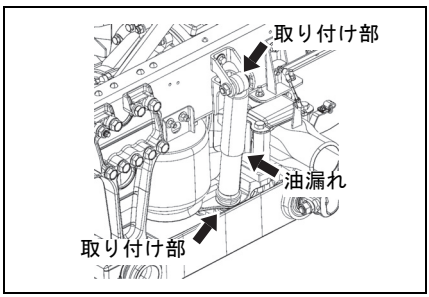
点検時期
事業用3カ月ごと、自家用1年ごと

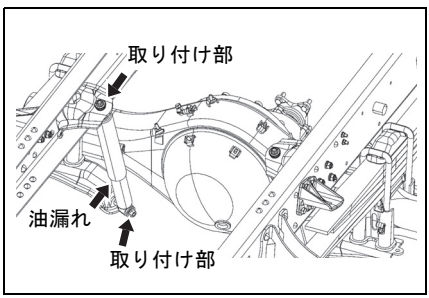
- 筒部にへこみなどの損傷がないかを目視などにより点検します。
- 取り付け部に損傷がないか目視などで点検し、取り付けナットにゆるみがないかをスパナなどにより点検します。

〔フロントショックアブソーバ〕



〔リヤショックアブソーバ〕





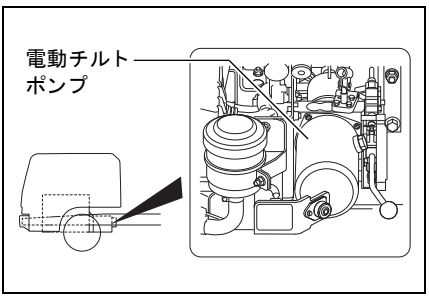
- 筒部などから油漏れがないかを目視などにより点検する。

電動キャブチルト★

キャブチルト操作を正しく安全に行っていただくために、次の点検・整備を行ってください。

■電動チルトポンプの点検

▶ ダブルキャブ車



- ホース、パイプ類および接続部のオイル漏れがないかを点検します。オイル漏れがあるときは、確実に締め付けます。またオイルを補給してください。
- 電動キャブチルトシリンダーオイル★の補給は（→ P.14-26）
- ホース、パイプおよびブーツなどの部品に傷や摩耗そのほか劣化がないかを点検します。不具合があるものは交換します。
- ブーツ類の外れがないかを点検します。外れているものは確実に取り付けます。

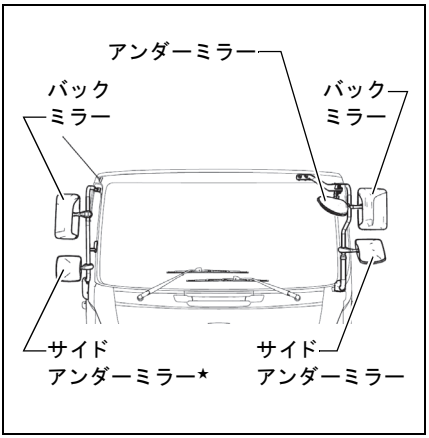
■交換

交換時期
2年ごと

- ホース・シリンダー・ポンプ内のゴム部品および樹脂部品は定期的に交換が必要です。
  部品の交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

ミラー

■ミラーの写影状態の点検



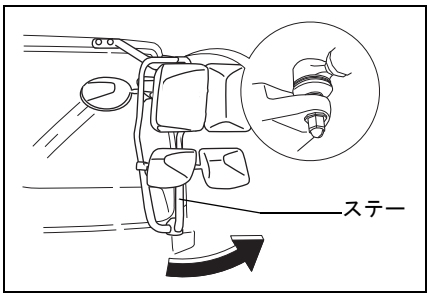
・ 正しい運転姿勢をとり、バックミラーで後方や側方・アンダーミラーで直前・LH サイドアンダーミラーで直左・RH サイドアンダーミラー★で直右の状況が十分に確認できる位置に各ミラーが調整されているかを点検します。また、各ミラーに汚れや損傷がないかを点検します。

アドバイス

- ミラーの鏡面に汚れが付着しているときは、水で洗い流し、柔らかい布などを使用して汚れをふき取ってください。固いもので鏡面を擦ると傷がつくおそれがあります。
- ミラーに損傷がある場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

■調整要領

〔電動格納式〕



・ ミラーの調整は、パワーミラースイッチの「SET」側を押して、ミラーステーを SET（定位置）にしてから各ミラーを調整します。

〔各ミラーの鏡面調整方法〕

・ 各ミラーの調整方法は（→ P.5-84）

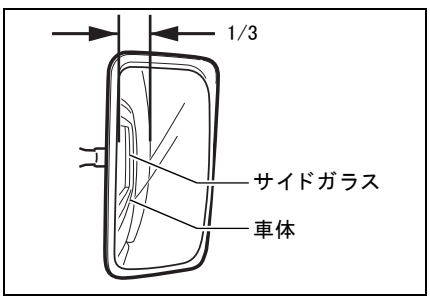
▶ 助手席側バックミラー

・ 左右方向：

鏡の約 1/3 に車体側面が映るようにします。

・ 上下方向：

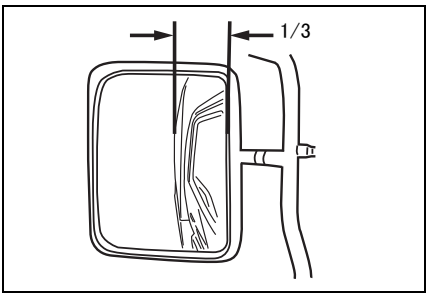
鏡の右側中央付近にサイドガラスが映るようにします。



▶ 運転手席側バックミラー

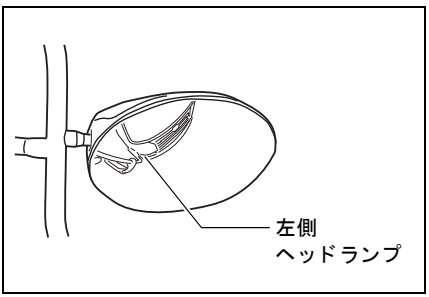
・ 左右方向：鏡の約 1/3 に車体側面が映るようにします。

・ 上下方向：鏡面の右下端部に左側方確認窓前端部が映るようにします。



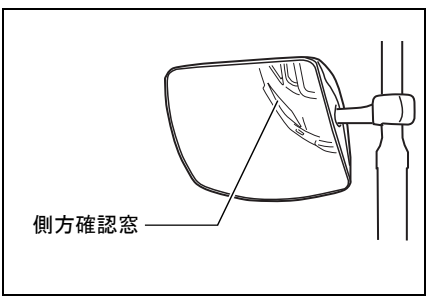
▶ アンダーミラー

・ 鏡面の中心付近に左側ヘッドランプが映るようにします。



▶ サイドアンダーミラー

・ 鏡面の中央付近よりやや右に側方確認窓全体を映します。



⚠ 警告

常にバックミラーに後方視界が確保されていることを確認してください。

エアコン

■使用冷媒

冷媒（ガス）の種類	冷媒（ガス）の規定量
HFC134a	450g

■冷媒（ガス）充てん量の点検

点検時期
1年ごと

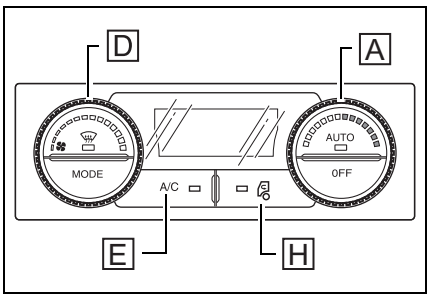
アドバイス

- 日野車のエアコンには環境保護のため、オゾン層を破壊しない冷媒（ガス）を使用しています。ただし、法令により冷媒（ガス）の大気放出は禁止されています。
- エアコンを廃棄する場合、冷媒（ガス）の回収が必要です。なお、補充・交換・回収の際は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

1. エンジン回転数を 1,500 r/min にします。
2. エアコンを作動させます。

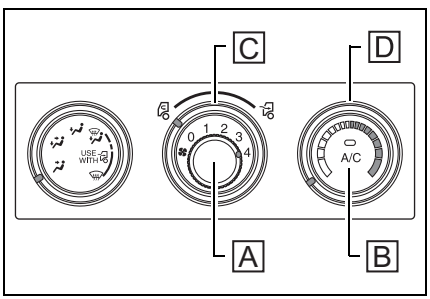
〔フルオートエアコン付き車の場合〕

E を「ON」、D を最大風量、H を押して内蔵の作動表示灯点灯（内気循環）、A を「LO」にします。

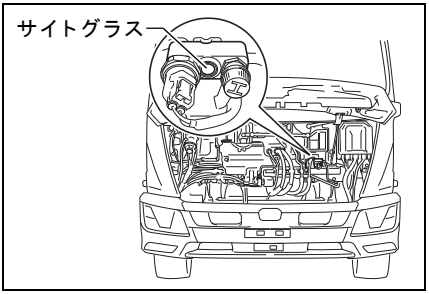


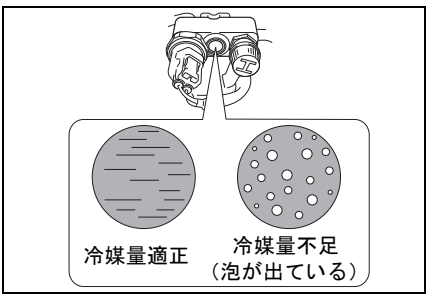
〔マニュアルエアコン付き車の場合〕

B を「ON」、A を「4」位置、C を内気循環の位置、D を左いっぱいに回します。



3. サイトグラスに気泡がないことを確認します。





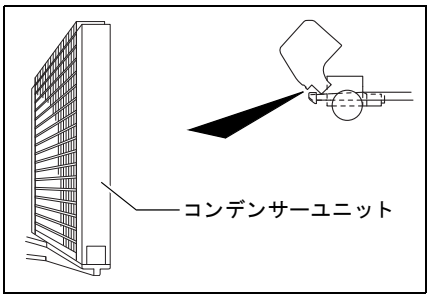
- サイトグラスに気泡が見えないのが正常です。気泡が見えるときは冷媒（ガス）不足ですので、最寄りの日野販売会社の整備工場に冷媒（ガス）の充てんを依頼してください。

＊ 冷媒（ガス）が不足すると冷房能力が低下します。

⚠ 注意

冷媒（ガス）充てんは高圧ガスを取り扱うため、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

■コンデンサーユニットの洗浄



- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したときは、十分に洗浄してください。
- コンデンサーユニットのフィンが泥やほこりで詰まっていると冷却効率が低下したり、腐食の原因になりますので、定期的に水洗いをしてください。

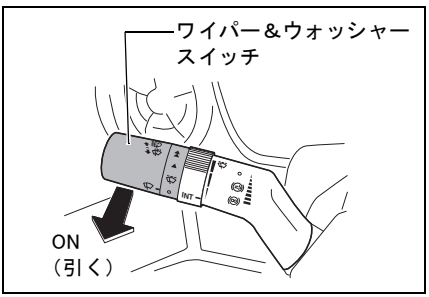
アドバイス

- コンデンサーユニットを水洗いするときは、必ずエアコンを停止してください。
- 洗浄はブラシを使わないでください。強くこするとフィンがつぶれます。
- 洗浄するときは、フィンなどを傷つけないよう注意してください。
- 洗剤は使用しないでください。

ウインドウウォッシャー

■ウインドウウォッシャーの点検

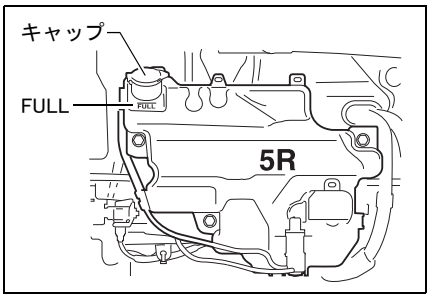
点検時期
1年ごと



・ ワイパー&ウォッシャースイッチを手前に引いて、ウォッシャー液が窓ガラスに噴射するかを点検します。

＊ ウォッシャータンクにウォッシャー液があるにもかかわらず噴射しないときは、ウォッシャーノズルの詰まりが考えられますので、ノズル穴を細い針で清掃し詰まりを取り除いてください。ノズル穴清掃後も噴射しないときは、ウォッシャーモーターなどの不具合ですので最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

■ウォッシャー液の補給



1. フロントパネルを開けます。
2. キャップを取り外してウォッシャー液を補給します。

容量〔参考値〕
4.7 L

■ウォッシャー液の作りかた

ウォッシャー液の原液と水との混合割合は、外気温により異なりますので、下記を参考に原液を薄めてください。

使用地域・季節	混合割合	凍結温度（℃）
通　常	原液 1：水 2	−10 程度
冬　期	原液 1：水 1	−20 程度
厳寒期	原液使用	−50 程度

⚠ 警告

- ウォッシャー液に、冷却液（LLC）を使用しないでください。ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に悪くなり危険です。
- ウォッシャー液の原液には揮発剤が含まれていますので、火気を近づけないでください。火災の原因になります。

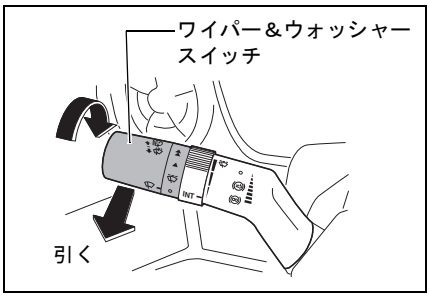
アドバイス

石けん水などを入れると目詰まりや塗装面のしみなどの原因になりますので、使用しないでください。

ワイパー

■ワイパーの点検

点検時期
1 年ごと



- ワイパー＆ウォッシャースイッチを手前に引いて、ウインドウォッシャーを噴射させてからワイパーの払拭状態を点検します。また、「INT」・「LO」・「HI」各位置にして正しく作動するかを点検します。

＊ ワイパーのから拭きはガラス面を傷つけますので、ガラス面が乾いているときは必ずウォッシャー液を噴射してから動かしてください。

- 払拭動作にむらがあったり、ビビリがあるときはワイパーブレードを点検し、劣化している場合は新品と交換してください。

＊ 作動状態が悪いときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

ウォッシャー液に、冷却液（LLC）を使用しないでください。ガラス面に冷却液をかけると視界が大幅に悪くなり危険です。

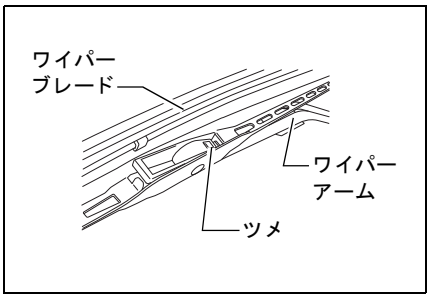
アドバイス

寒冷時、凍結のおそれがあるときや、ワイパーを長時間使用していなかったときは、点検時または作動前にワイパーブレードのゴムがガラスに張り付いていないことを確認してください。

凍結したときは、ぬるま湯をかけて氷をとかします。

ガラスに張り付いたまま作動させるとワイパーブレードが損傷したりモーターが故障するおそれがあります。

■ワイパーブレードの交換



1. ワイパーアームを手前に起こします。
2. ワイパーブレードを取り外す場合は、固定しているツメを押し込みながらワイパーアーム取り付け部の方向に押します。
3. 取り付けは、新品のワイパーブレードをワイパーアームに「カチッ」と音がするまで引き込みます。
4. 取り付け後、ウインドウォッシャーを併用し、ワイパーを作動させて、払拭状態を確認します。

アドバイス

ワイパーブレードを取り外したままアームを倒したり、ワイパーを作動させたりしないでください。
車体やウインドガラスに傷がつくことがあります。

＊ 交換部品は、日野純正部品を使用してください。

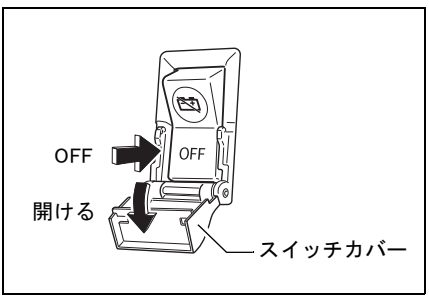
バッテリー

■バッテリーキャリアの引き出し〔消防車〕

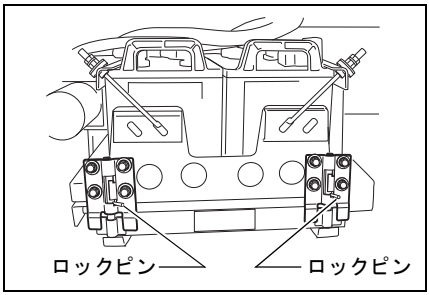
⚠ 注意

- 安全に作業を行うため、バッテリーキャリアの出し入れは、必ず平坦なコンクリート面で行ってください。
- バッテリーを取り外す際は、スタータースイッチを「LOCK」の位置にして 10 分以上経過してから作業を行ってください。10 分以上待たずに作業した場合、電子部品の故障または感電の原因となります。

1. 車両を停車させ、エンジンを止め、スターターキーを「LOCK」の位置にします。
2. バッテリーカットスイッチのスイッチカバーを開け、スイッチの「OFF」側を押します。



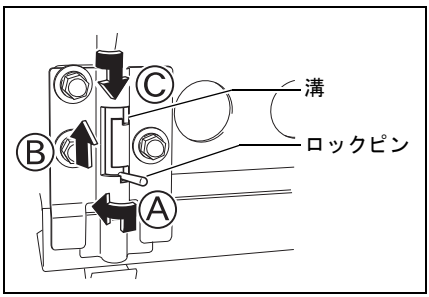
3. バッテリーキャリアの左右 2 カ所のロックピンを下図の A ～ C の矢印に従って、操作します。



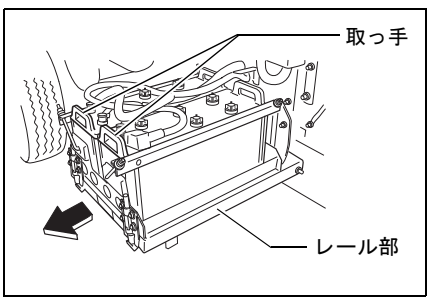
A. ロックピンを少し引き上げながら、矢印 A の方向に動かします。

B. 矢印 B の方向に引き上げます。

C. ロックピンを矢印 C の方向に動かしながら、しっかりと溝にはめ込みます。



4. バッテリー上部にある取っ手を持って、バッテリーキャリアを手前に引き出します。



⚠ 注意

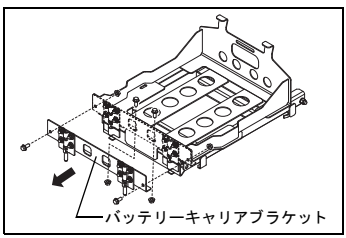
バッテリーキャリアを引き出すときは、必ず取っ手を持って引き出してください。また、バッテリーキャリアを引き出す際に、レール部に手などをはさまないように十分注意してください。

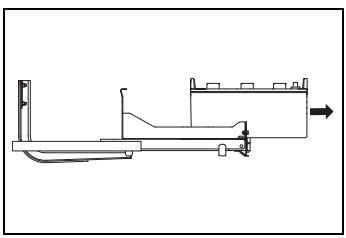
知識

〈サイドレーダーセンサー付き車〉

バッテリーを交換する際、バッテリーキャリアブラケット両端を取り外し、バッテリーを引き出してください。

1. バッテリーキャリアブラケット両端のボルトおよびナットを取り外します。





2. バッテリー交換後、逆の手順でバッテリーキャリアブラケットを取り付けます。

＊ バッテリーキャリアブラケットのボルトおよびナットは再使用しないでください。

締め付けトルク（N・m {kgf・cm}）	
ボルト・ナット	21.7 ～ 40.3 {221 ～ 411}

■ 点検

この車両の電気装置は、12V のバッテリーを 2 個直列に接続した 24V で、マイナス側をアースしています。

・ バッテリーを長持ちさせるために、次の点検を行ってください。

点検時期	
液　量	日常（運行前）点検

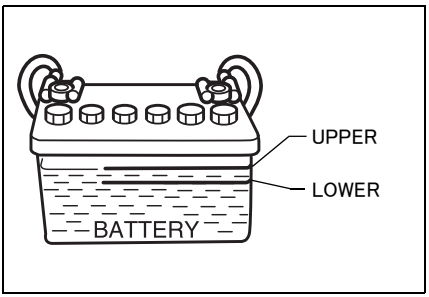
⚠ 危険

バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- バッテリー液は希硫酸ですから、皮膚や衣服に付着するとその部分が侵されますので、十分注意してください。もし、衣服に付着したときは石けんで十分洗い、また、万一皮膚に付着あるいは眼に入ったときは、ただちに清水で十分洗い医師の治療を受けてください。
- バッテリー端子を取り外すときは、必ずスターターキーを「LOCK」の位置にしてください。また、取り外した⊕端子には、絶縁テープを巻いてください。誤って他部に触れるとバッテリーがショートして火災の原因になるおそれがあります。

■液量の点検



- バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が適正範囲にあるかを点検します。
- 液面がケース側面の「UPPER」～「LOWER」の線の間にあれば良好です。
- 液面が「LOWER」の線より下の場合、補充液または蒸留水を補給してください。
- レベルライン表示のないバッテリーの場合は、バッテリー本体の注意事項を確認してください。

⚠危険

バッテリー液量が「LOWER」レベル以下のまま使わないでください。劣化を早めたり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。

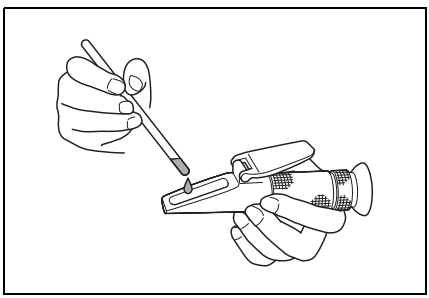
アドバイス

- 補充時、「UPPER」レベルを超えないように注意してください。「UPPER」レベル以上に入れるとバッテリー液があふれ、バッテリー端子などの腐食の原因になります。万一、こぼしたときは、すぐに水できれいに洗い流してください。
- 補充したときは、必ず充電（走行）してください。特に、冬期はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースを破損させるおそれがあります。

■比重の点検

点検時期
3カ月ごと

- バッテリー液の比重は比重計で測定してください。



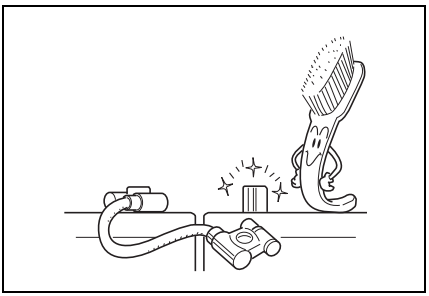
比重（液温 20 ℃）	
1.24 ～ 1.29	良好
1.23 以下	不足（充電する）

- 充電しても比重が 1.24 以上にならない場合は、バッテリーの寿命になりますので新品に交換してください。

■端子部の点検

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと、 自家用 1 年ごと

- 端子部にゆるみや腐食がないかを点検します。
- 白い粉が付着しているときは、湯でよく洗いよく拭き取ります。

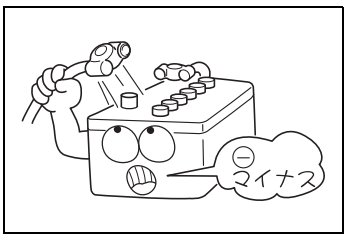


- 点検および清掃後、ゆるみが生じないよう確実に端子を締め付けます。
- 締め付け後、薄くグリースを塗布します。

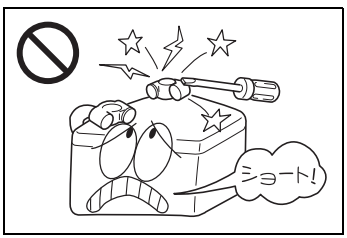
■一般的な注意

⚠警告

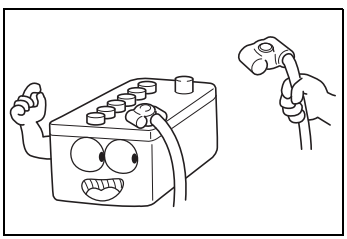
- バッテリーを含め電気系統の点検、整備をするときはスタータースイッチやほかのスイッチを「OFF（LOCK）」にした後、バッテリーの㊀端子を外してから行います。外してから行わないとコンピューターなど電子部品が破損するおそれがあります。



- ㊀側が接続されていると、工具などが㊉端子と車体に触れたときにショートして危険です。また、電気系統の故障の原因になります。

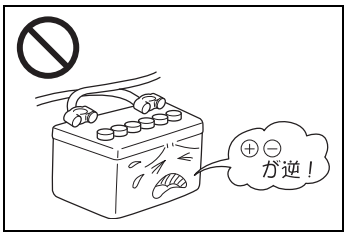


- バッテリーを取り外すときは、必ず㊀端子（アース側）から、取り付けるときは㊀端子を最後にしてください。

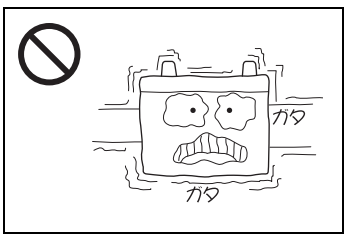


⚠ 警告

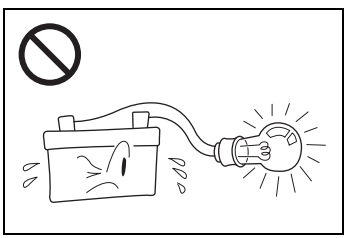
- バッテリーの⊕端子と⊖端子を逆に接続しないでください。⊕⊖を逆にすると、過大電流が流れてオルタネーターのダイオードや車体配線が焼損することがあります。



- バッテリーを車両に取り付けるときは、ガタつきがないように取り付けます。取り付けが不完全ですと走行中の振動でケースや極板を傷めることがあります。

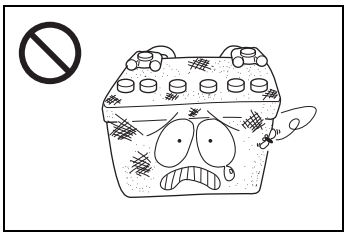


- バッテリーから直接 12V の電源を取り出さないでください。また、24V の電気負荷を追加するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。



⚠ 警告

- バッテリーは常に清潔にしておいてください。汚れたままにしておくと、電解液中に不純物が混入して極板を傷めたり、ふた上面でリーク（漏電）し、バッテリーの寿命を短くすることがあります。
  また、バッテリーコードの端子と接続部外周りに、オイルかグリースを薄く塗っておくと腐食されにくくなります。

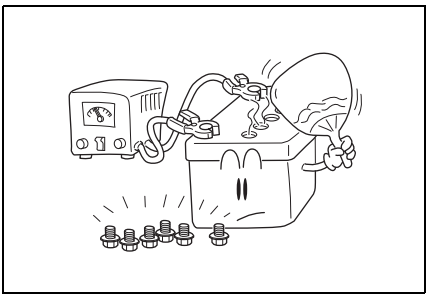


- バッテリーの液口栓を開けたまま清掃しないでください。バッテリー液の中に異物が入り、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。

⚠ 注意

バッテリーを取り外す際は、スタータースイッチを「LOCK」の位置にして 10 分以上経過してから作業を行ってください。10 分以上待たずに作業した場合、電子部品の故障または感電の原因となります。

■充電時の注意



＊ 充電器で充電するときは、車両からバッテリーを取り外すかまたはバッテリーコードを外してから行います。

＊ 液口栓を取り外して、風通しの良い場所で充電してください。

⚠危険

バッテリーからは引火性の水素ガスが発生していますので、バッテリーの近くで火花を飛ばしたりタバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する水素ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。

＊ 急速充電するときは、必ずバッテリーコードを外します。
外さないとオルタネーターのダイオードが焼損することがあります。

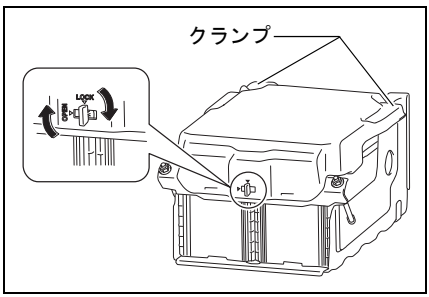
＊ 充電器のクリップをバッテリー端子に接続する際、また取り外す際は、充電器のスイッチを切っておいてください。

■バッテリーカバー取り付け時の注意

・ バッテリーキャリア本体のクランプ（2 カ所）にカバー端部を間違いなく差し込んでください。

・ カバーロックを必ず「LOCK」の位置に合わせて、カバーを確実に固定してください。

・ 取り付け要領を守らないと、カバーが脱落するおそれがあります。

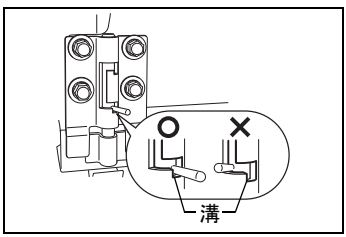


■バッテリーキャリアの格納〔消防車〕

・ 格納は、バッテリーキャリアの引き出しの逆の手順で行ってください。（→ P.13-96）

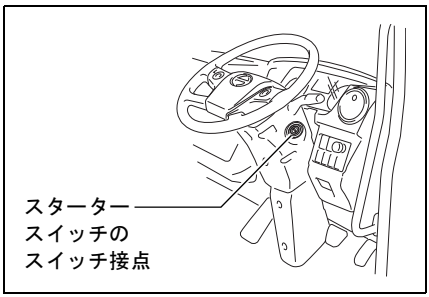
⚠ 警告

- バッテリーキャリア格納の際、ケーブル等の配線をはさみ込まないように注意してください。
  ショートや火災の原因になるおそれがあります。
- バッテリーキャリア格納時は、バッテリーキャリアの左右 2 カ所のロックピンが確実に溝に入っていることを確認してください。ロックピンが溝に入っていない状態のまま走行すると、バッテリーキャリアが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



スタータースイッチのスイッチ接点

スタータースイッチの使用頻度が多い車両は、スイッチ接点を定期的に交換をしてください。



■交換

点検時期
3 年ごと（10 万回ごと）

アドバイス

- スタータースイッチのスイッチ接点の点検・整備は、最寄りの日野販売会社の整備工場で行ってください。
- スタータースイッチのスイッチ接点のみを交換できるのでキーが変わることはありません。

配線関係

■配線関係

＊ 配線止めのクリップのゆるみ、損傷および折れ曲がりなどがないかを点検してください。

＊ 配線関係の不具合があるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

追加配線は行わないでください。やむを得ず灯火器などを追加するときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。不適切な追加配線は火災の原因となるおそれがあり危険です。

■無線関係の取り扱い

・ 無線機を取り扱うには、申請し免許を受けることが法律で定められています。

・ 型式検定合格の無線機を使用するときは、操作のための資格は必要としませんが、無線機の取り付けによる車両電子機器への悪影響も考えられますので、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。

アドバイス

通常車両用無線機の電源は 12V 方式のため、24V の当車両には直接取り付けることはできませんのでご注意ください。

ABS 機器（エアオーバーブレーキ車）

■取り扱い上の注意

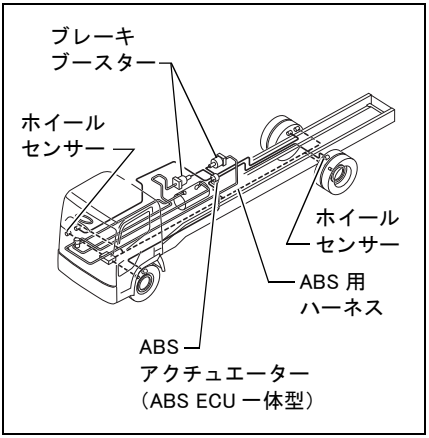
・ 無線機など電波を送受信する機器を設置する場合は、電波法に適合するものを用い、EBS コンピューターおよびハーネスからできるだけ離して設置し、電波法の規定を守って設置し使用してください。

・ 洗車をするときは、高圧の水が直接 ABS のバルブ類やハーネスコネクターにかからないように注意してください。また、コンピューターおよび電気リレーなどには、絶対に水をかけないでください。

・ 積雪路などを走行した後、足周りおよびシャシなどに付いた雪、氷および泥などを落とす場合は、ABS のハーネスを傷つけないよう細心の注意を払ってください。

・ 寒冷時に洗車したり積雪路などを走行したときは、ABS 機器に付着した水滴が凍結するとブレーキの機能を損なう場合がありますので、ただちに ABS 機器の排気孔周辺の水滴を除去してください。

〔エアオーバーブレーキ：FC・FD・GC・GD・FX・GX 車〕

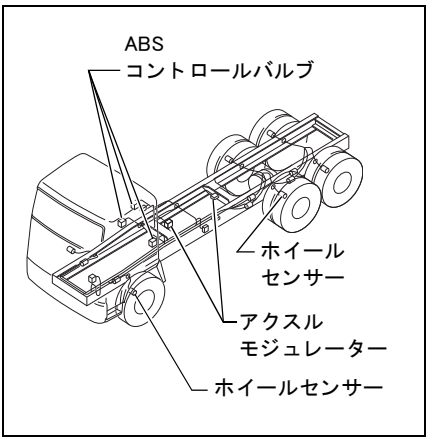


EBS・ABS 機器（フルエアブレーキ車）

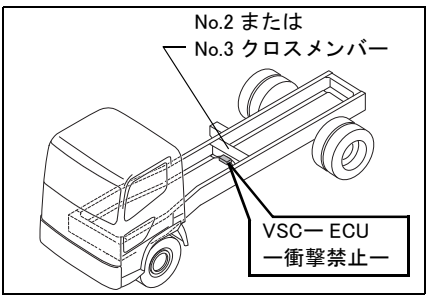
■取り扱い上の注意

- 無線機など電波を送受信する機器を設置する場合は、電波法に適合するものを用い、EBS コンピューターおよびハーネスからできるだけ離して設置し、電波法の規定を守って設置し使用してください。
- 洗車をするときは、高圧の水が直接 EBS・ABS のバルブ類やハーネスコネクターにかからないように注意してください。また、コンピューターおよび電気リレーなどには、絶対に水をかけないでください。
- 積雪路などを走行した後、足周りおよびシャシなどに付いた雪、氷および泥などを落とす場合は、ABS のハーネスを傷つけないよう細心の注意を払ってください。
- 寒冷時に洗車したり積雪路などを走行したときは、EBS・ABS 機器に付着した水滴が凍結するとブレーキの機能を損なう場合がありますので、ただちに EBS・ABS 機器の排気孔周辺の水滴を除去してください。

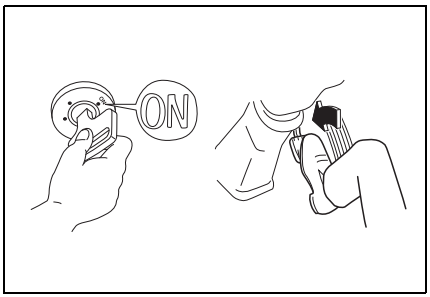
〔フルエアブレーキ：FJ・FE 車〕



・ VSC 付き車は、下図の場所にセンサーを内蔵したコンピュータが搭載されています。精密部品であるため、足のせ等の衝撃を与えないでください。また、洗車をするときは、高圧の水が直接かからないようにしてください。



■ABS バルブからの排気音の点検



＊ スターターキーを「ON」の位置に回す前にブレーキペダルを踏み込んでしまうと排気音の点検はできません。スターターキーを「LOCK」の位置にし再度点検を行ってください。

・ スターターキーを「ON」の位置まで回し、赤と橙の 2 つの (!) ランプが点灯している間に（約 3 秒間）ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んでください。ランプが消灯後にフロントの ABS コントロールバルブの排気孔から数秒のうちに排気音がするかを点検します。

・ 排気音がしない場合は、排気孔が異物付着や凍結などによりふさがれているおそれがありますので、必ず点検して排除してください。

▶ EBS・ABS 機器の排気孔周辺の水滴除去の方法

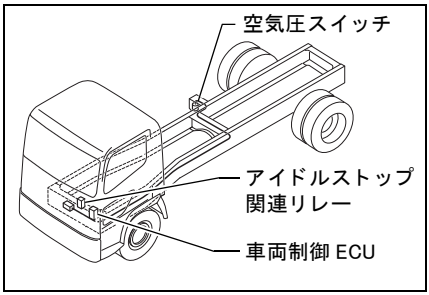
1. スターターキーを「ON」の位置まで回し、赤と橙の 2 つの (!) ランプが点灯している間に（約 3 秒間）ブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。
2. ランプが消灯後にフロントの ABS コントロールバルブよりエアの排気音がしたことを確認します。排気音が聞こえない場合は、1. より再度行います。
3. ブレーキペダルを離し、エンジンを始動させ、エアタンク内の空気圧を基準空気圧まであげます。
4. ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、その後、一気にペダルを離します。この操作を数回繰り返します。

■EBS バルブ（アクスルモジュレーター、トレーラコントロールバルブ）

- 排気孔周辺のオイル付着を確認してください。
  排気孔にオイルが付着している場合は、バルブのゴム部品およびエアドライヤの乾燥剤の劣化が考えられます。
  最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。
- 12 カ月ごとに目視にてバルブ類のゴム部品の劣化を点検してください。点検の結果、異常が認められたときは最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

アイドルストップシステム機器★

〔シャシ電装品（コンピューター・リレー類）の配置〕



アドバイス

- 電装品に水をかけたり強い衝撃を与えたりしないようにしてください。
- コンピューターおよびリレー類の点検・整備は、最寄りの日野販売会社の整備工場で行ってください。
  なお、車型および特別仕様により一部レイアウトが異なる場合があります。

車外騒音に係わる部品

■取り扱いと点検

⚠ 注意

マフラーおよび排気管が損傷または腐食すると、消音機能が低下するおそれがありますので点検し、異常があるときは交換してください。

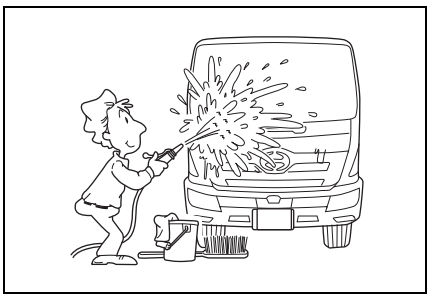
アドバイス

- 騒音カバーなどは、保安基準で決められた規制値を満足させるために取り付けられたものであり、故意に改造したり、取り外したりしないようにしてください。なお、整備のために取り外したときは、必ず元通りに取り付けてください。
- 騒音カバーなどは、損傷や腐食などによる本来の機能劣化を防止するために「メンテナンスノート」にしたがって点検してください。

車のお手入れ

車の外観を美しく保ち、性能・機能を十分に発揮し、長くご使用いただくために、次の手入れを行ってください。

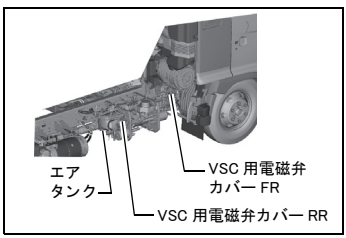
■洗車



・ ホースなどで水をかけながら汚れを落としてください。キャブ周りだけでなく、タイヤハウス、フレーム、シャシスプリング、ラジエーターおよびブレーキ用ナイロンチューブなども十分に洗います。

⚠ 注意

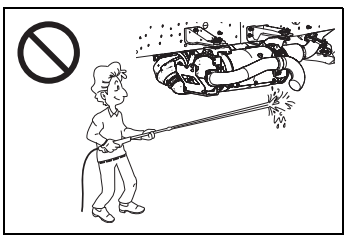
- キャブをチルトして洗車するときは、エンジンの空気取り入れ口に水が入らないように処置してください。エンジン破損の原因になります。
- 高圧洗車機を使用するときは、ノズルの先端を車両から十分に離してください。
- VSC 用電磁弁カバーへの高圧洗浄の直撃は、行わないでください。ノズル先端をカバーに近づけすぎると、カバー内の電磁弁排気部に浸水、凍結によりブレーキの機能を損なうおそれがあります。
  なお、これらの部品の周辺を高圧洗車機を使用して洗浄するときは、ノズル先端を 500 mm 以上離してください。



- シャシ周りハーネスコネクターへの高圧洗浄の直撃は極力行わないでください。シャシ周りのコネクターは防水構造になっていますが、高圧洗浄を行うと防水用のゴムが変形し、コネクター内部への浸水を引き起こします。一度内部に水が入ると、防水構造になっているため外部に水が出なくなり、錆・電食などにより断線する原因になります。
- 下周り、足周りを洗うときは手にケガをしないように注意してください。またハーネスを断線させないように注意してください。

⚠ 注意

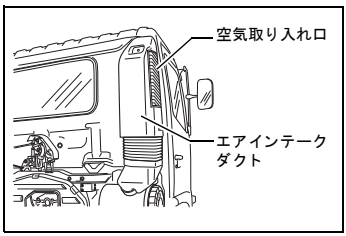
- エンジンルーム内の電気部品ハーネスコネクター・燃料噴射パイプコネクターに水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障や錆などの原因になります。
- 洗車するときは、ワイヤーブラシやたわしなどの硬い物を使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
- 洗車の際は、テールパイプ開口から直接水を入れないでください。排気管内のセンサーに水がかかり、故障の原因となります。



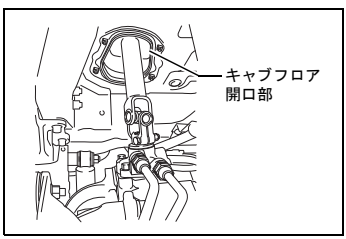
アドバイス

高圧洗車機を使用するときは

- ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
- マフラー内部に水が進入すると、触媒やセンサー破損の原因になります。
- ホースなどで水をかけるときは、エアインテークダクトの空気取り入れ口に水が入らないようにしてください。

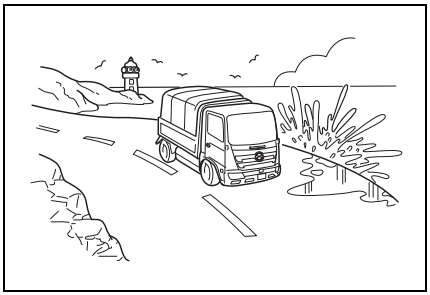


- キャブチルトした状態で、キャブ底面などに水をかけるときは、キャブフロア開口部に直接水が当たらないようにしてください。キャブ室内に水が入るおそれがあります。

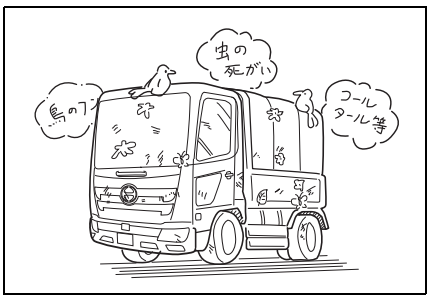


＊ 次のようなときは、必ず洗車してください。

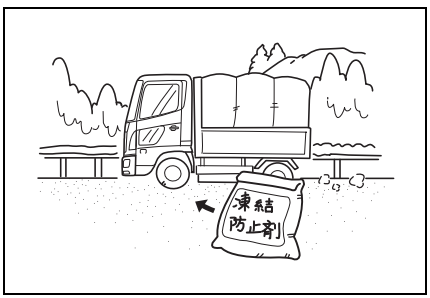
▶ 海岸地帯を走行したとき



▶ 樹液・鳥のフン・虫の死骸やコールタールが付着したとき



▶ 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき



▶ ほこりや泥で汚れたとき



▶ 煤煙・油煙・粉じん・鉄粉および化学物質などの降下の多い場所

アドバイス

特に、海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したときは、ラジエーター・インタークーラーを十分に洗浄してください。汚れたまま放置すると腐食の原因になることがあります。

＊ 高速道路で使用される多量の凍結防止剤が車両下部のフレームの早期腐食を招くおそれがあります。定期的に洗車や補修塗装を行ってください。

＊ 電気配線、電装品、コネクター、エアホーンおよびブレーキ系のエアバルブ、チャンバーなどの洗浄（特に高圧洗浄）は避けてください。
エアホーンにかかったときは、ホーンを 2 ～ 3 度鳴らし、正しく作動することを確認してください。

＊ また、バルブに水がかかったときは、洗車後数回ブレーキペダルを踏んで、ブレーキが効いていることを確かめてください。

＊ 寒冷時にドアのキー穴やゴム部品が凍結して開かなくなることがありますので、洗車後はドア周りなどの水分をよく拭き取ってください。

＊ プラスチックや樹脂部品を、シンナーやガソリンで清掃しないでください。変色や亀裂の原因になります。

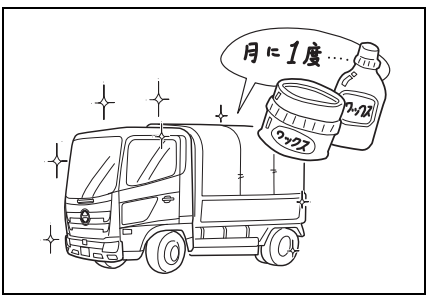
⚠ 警告

- 洗車後、低速でブレーキペダルを踏み、効き具合を確認してください。ブレーキドラムに水が入ると効きが悪くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキの効きが悪いときは、前後の車に十分注意し低速で走行しながら効きが回復するまで数回ブレーキを踏み、ブレーキの湿りを乾かしてください。
- キャブをチルトして洗車するときはエンジンを止めてください。エンジン破損の原因になります。

■ワックスがけ

塗装を長持ちさせるため、月に1回程度のワックスがけをお勧めします。

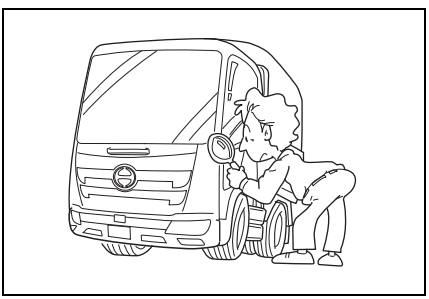
- 洗車後、車体温度がおよそ体温以下になっているときに行ってください。
- コンパウンド（研磨剤）入りのワックスを使用すると、色落ちすることがあります。
- お使いになるワックスの説明をよく読んで正しくお手入れしてください。



■補修塗装

洗車時には塗装、メッキなどに傷や錆がないかを点検します。

傷や錆があるときは、正しいタッチアップ塗装を行ってください。詳細は最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。



■内装の手入れ

- カークリーナーなどでほこりを取り除いてください。また、汚れている個所は水またはぬるま湯を含ませた布で拭き取ります。

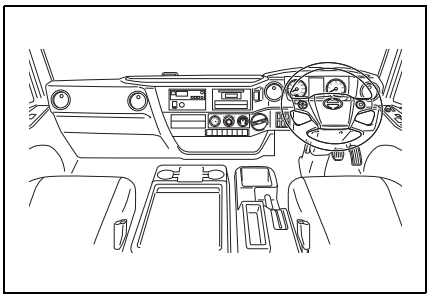
⚠警告

- 室内清掃時、車内の電装部品に水をかけないでください。特に足元のスイッチ、センサー、ハーネスおよびコネクター等が被水するとリークや導通不良が発生し、エンジン制御やエアバッグなど電子制御機器の誤作動や故障の原因になったり、車両火災につながるおそれがあります。また、床が錆びたり、悪臭の原因になります。
- つや出しワックスやつや出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。
  また、ベルトを漂白したり染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、十分な効果が発揮できなくなるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類にはこれらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装のはがれの原因になります。
- 変色・しみ・塗装はがれの原因になりますので、次の溶剤は使用しないでください。
  - シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤
  - シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- つや出しワックスやつや出しクリーナーを使用しないでください。
  インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

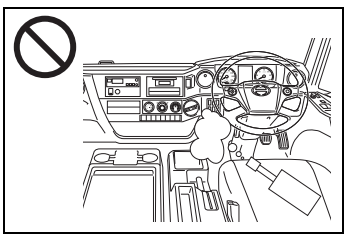
■室内清掃



- 車内を清掃する際は掃除機や箒等をご使用いただき、埃や粉塵が車内に舞わないようにしてください。

⚠ 注意

車内を清掃する際にエアブロー等で汚れを飛ばそうとすると、埃や粉塵が車内の精密部に侵入して装置（インストルメントパネル内側のエアコンユニット側面可動部の作動不良等）の故障を引き起こす可能性があります。



■車の保管場所について

次のような場所での保管は、塗装、メッキの劣化や腐食を起こす原因となりますので、美しさを長く保つためには保管場所にご注意ください。

- 海岸地帯
- 花粉・樹液・鳥のフン・虫の死骸などの付着が多い場所
- 煤煙・油煙・粉じん・鉄粉および化学物質などの降下の多い場所

DPR（排出ガス浄化装置）

■点検

点検時期
1年または250,000 kmごと

＊ 排出ガス浄化装置の本体および本体に取り付いているセンサーの配線やホースについて損傷などがないか点検してください。

＊ 点検時、センサーの配線やホースに損傷（ひび割れ等）があるときは、ただちに交換が必要です。最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

⚠警告

センサーの配線やホースの点検は、走行直後に行わないでください。排気管やマフラー付近が高温になっていて、やけどをするおそれがあります。

アドバイス

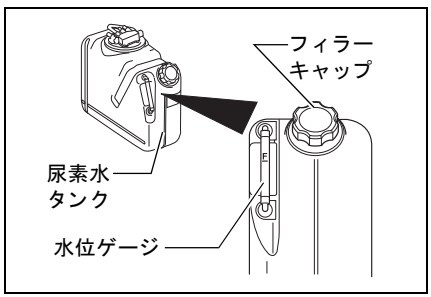
- センサー用ホースは、 約3年ごとに最寄りの日野販売会社の整備工場で交換してください。
- 点検・清掃が行われない場合、DPRおよびエンジンの故障や燃費の悪化の原因となります。
- 排気圧力の点検およびDPRの整備については、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システム

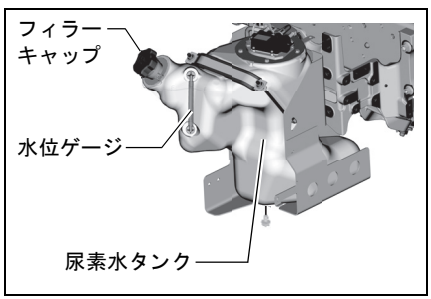
■AdBlue®（尿素水）の給水のしかた

1. フィラーキャップを外します。
2. 規格に適合した AdBlue®（尿素水）をタンク左側面に設けられた水位ゲージを見ながら、尿素水を水位ゲージの黒いラインまで給水します。
3. フィラーキャップを確実に締めます。

〔ボックス型尿素水タンク〕



〔クランク型尿素水タンク〕



■AdBlue®（尿素水）の交換のしかた

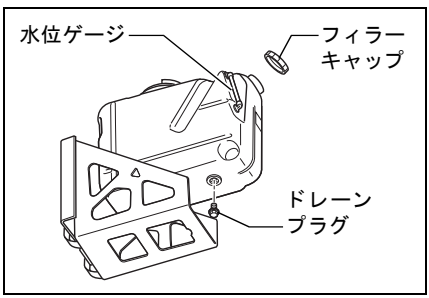
1. ドレーンプラグを外し、尿素水タンクから、AdBlue®（尿素水）を受け皿に排水します。
2. 排水後、ドレーンプラグを締め付けます。

ドレーンプラグの締め付けトルク（N・m {kgf・cm}）	
ボックス型尿素水タンク	4 ～ 6 {41 ～ 61}
クランク型尿素水タンク	10 ～ 11 {102 ～ 112}

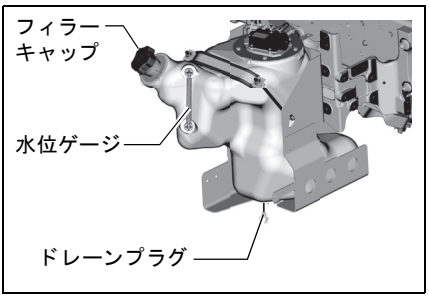
3. フィラーキャップを外し、規格に適合した AdBlue®（尿素水）を 10 L 以上尿素水タンクに給水します。
4. フィラーキャップを確実に締め付けます。

＊ ドレーンプラグの周囲から、AdBlue®（尿素水）のにじみがないかを確認します。

〔ボックス型尿素水タンク〕



〔クランク型尿素水タンク〕

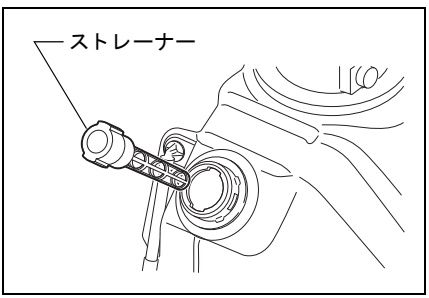


■尿素水タンク給水口ストレーナーの清掃

尿素水の給水時、ストレーナーにゴミの付着、堆積がないことを確認してください。

ゴミの付着、堆積がある場合は清掃を行ってください。

1. フィラーキャップを外します。
2. ストレーナーを引き出して取り外します。



3. ゴミを蒸留水で洗い流します。
4. ストレーナーをパチッと音が鳴るまで挿入し、取り付けます。
5. フィラーキャップを確実に閉めます。

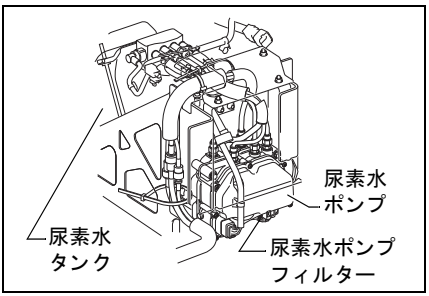
⚠注意

- ストレーナーにゴミの付着、堆積があると、AdBlue®（尿素水）の給水時に給水口から AdBlue®（尿素水）が吹き返すおそれがあります。
- ストレーナーの清掃中に尿素水タンク内にゴミが入らないように、キャップを取り付けておいてください。
- 清掃したストレーナーを取り付けるとき、ストレーナーにゴミが付着していないか確認してください。タンク内にゴミが侵入すると、尿素 SCR システムに異常が発生する場合があります。

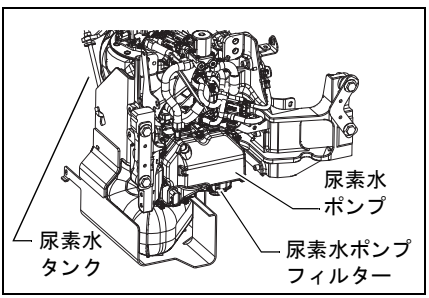
■尿素水ポンプフィルターの交換

尿素水ポンプフィルターは、尿素水ポンプに取り付けられており、尿素水ポンプは、尿素水タンク裏側に取り付けられています。

〔ボックス型尿素水タンク〕



〔クランク型尿素水タンク〕



▶ 交換時期

交換時期
3 年または 300,000 km 走行ごと

⚠ 注意

アフターランが終了するまで尿素 SCR システムは作動しています。

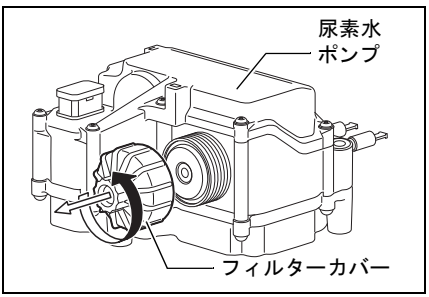
- エンジン停止直後にバッテリーを切ったり、ハーネスなどのコネクタを外さないでください。
- AdBlue®（尿素水）の配管を外さないでください。
- 必ずアフターランが終了したことを確認してから作業を行ってください。
- 尿素水ポンプは精密部品です。尿素水ポンプフィルターの交換時はゴミや異物が入らないように注意してください。
- 作業を行うときは、ほこりや砂などが舞っていない環境で作業をしてください。ほこりや砂が尿素水ポンプ内に入ると故障の原因となるおそれがあります。

▶ 交換要領

アドバイス

- エンジン停止直後は、配管内の AdBlue®（尿素水）を尿素水タンクに戻すため尿素水ポンプが作動しています。エンジン停止後、約 10 分間をおいてから作業を行ってください。
- 尿素水ポンプフィルターを交換するときは、異物の付着を避けるため、軍手などの繊維手袋は使用しないでください。

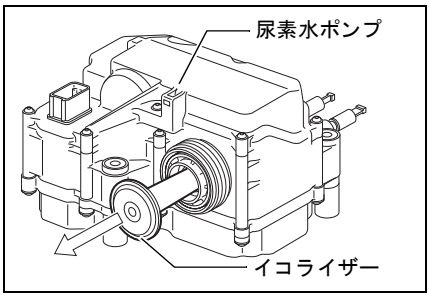
1. 27mm ボックスレンチを使用して、フィルターカバーを左回転させて尿素水ポンプから取り外します。



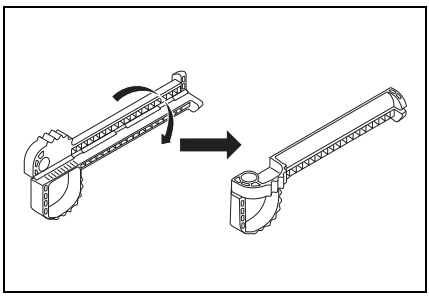
アドバイス

フィルターカバーを取り外す際に、AdBlue®（尿素水）がこぼれるので、容器およびウエスを用意してください。

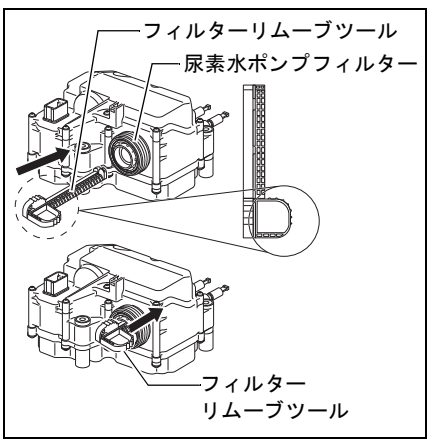
2. 尿素水ポンプからイコライザーを取り外します。



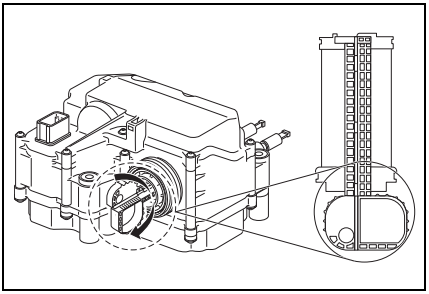
3. フィルターリムーブツールを下図のように折りたたみます。フィルターリムーブツールは中心軸に対し、可動する構造となっています。



4. フィルターリムーブツールを尿素水ポンプフィルターに差し込みます。

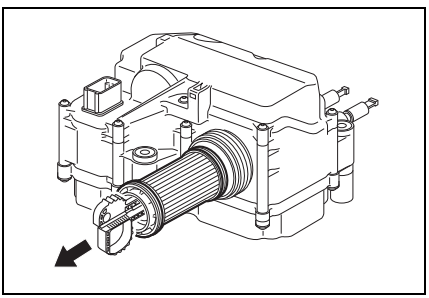


5. フィルターリムーブツールの可動部を下図のよう開きます。

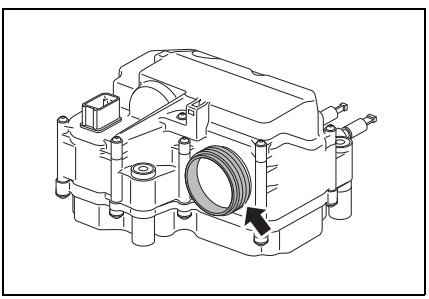


6. 尿素水ポンプから尿素水ポンプフィルターを引き抜きます。

＊ 引き抜く際、尿素水ポンプの損傷を避けるため、尿素水ポンプ表面を支えに使用しないでください。



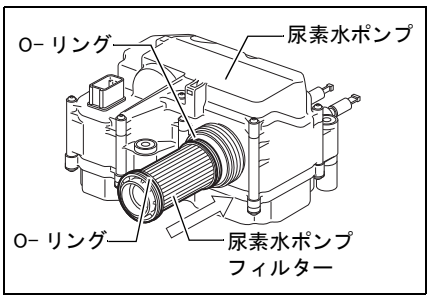
7. 尿素水ポンプ表面を水で清掃します。



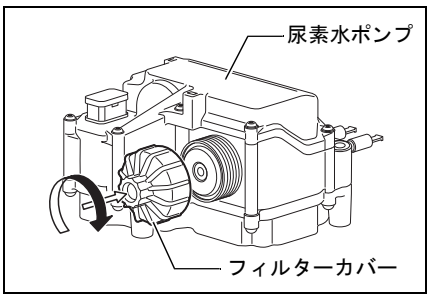
8. 新品の O- リング、尿素水ポンプフィルターおよびイコライザーに交換し、尿素水ポンプに取り付けます。

＊ 取り付けの際に、新品の尿素水ポンプフィルターの O- リングに Mobil velocity No.6 もしくは相当品を塗布してください。

＊ 古い O- リング、尿素水ポンプフィルターおよびイコライザーは再使用しないでください。



9. 27mm ボックスレンチを使用してフィルターカバーを右回転させて尿素水ポンプに取り付けます。



フィルターカバーの締め付けトルク
20 ～ 25 N・m {204 ～ 255 kgf・cm}

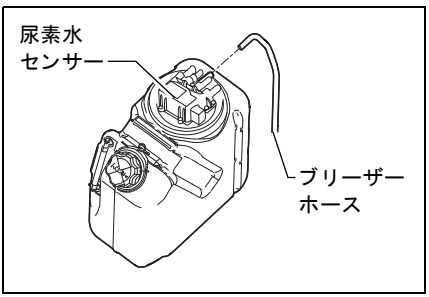
⚠ 注意

尿素水ポンプフィルターおよびイコライザー交換時にドライバーなどで無理やりこじると、尿素水ポンプ本体を損傷させて尿素水漏れを引き起こすことがあります。

■尿素水タンクブリーザーホースの清掃（ボックス型尿素水タンク）

ブリーザーホースがゴミなどで詰まると、AdBlue®（尿素水）の給水時に AdBlue®（尿素水）が吹きこぼれたり、尿素水タンクが変形するおそれがあります。

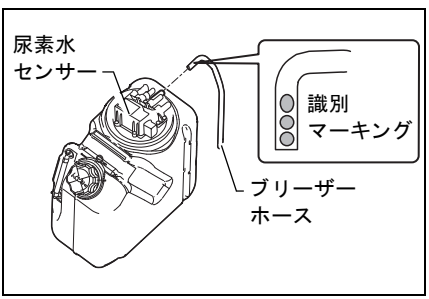
1. ブリーザーホースを取り外します。



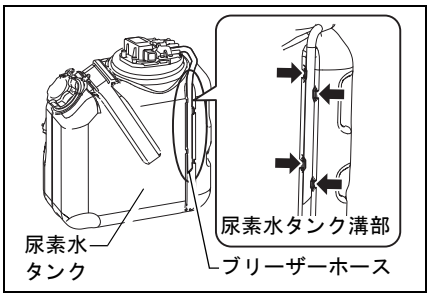
2. ブリーザーホースを蒸留水で洗い流します。
3. ブリーザーホースを取り付けます。

＊ ブリーザーホースは識別マーキングを上面にしてください。

＊ ブリーザーホースは尿素水センサーに突き当たるまで挿入してください。



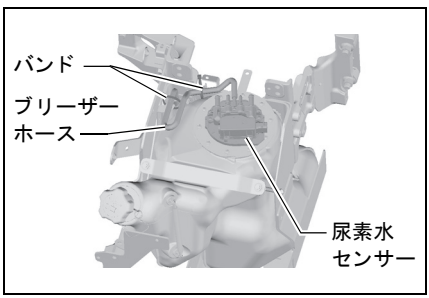
4. ブリーザーホースを尿素水タンク溝部で固定します。



■尿素水タンクブリーザーホースの清掃（クランク型尿素水タンク）

ブリーザーホースがゴミなどで詰まると、AdBlue®（尿素水）の給水時に AdBlue®（尿素水）が吹きこぼれたり、尿素水タンクが変形するおそれがあります。

1. バンド（2 個）を外し、ブリーザーホースを取り外します。

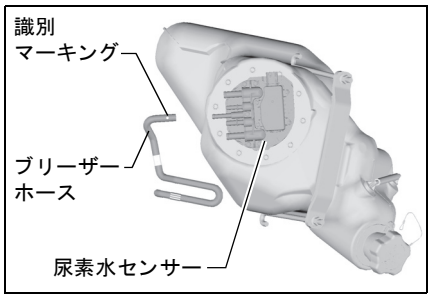


2. ブリーザーホースを蒸留水で洗い流します。

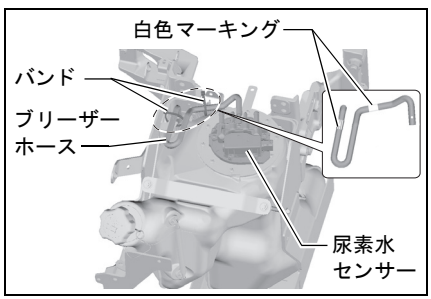
3. ブリーザーホースを取り付けます。

＊ ブリーザーホースは識別マーキングを上面にしてください。

＊ ブリーザーホースは尿素水センサーに突き当たるまで挿入してください。



4. ブリーザーホースの白色マーキングに合わせてバンド（2 個）でブリーザーホースを固定します。



■尿素水、冷却水の漏れの点検

点検時期
3 カ月ごと

- 尿素水タンク、尿素水ポンプ、尿素水インジェクター、尿素水配管から AdBlue®（尿素水）が漏れていないことを確認してください。
- 尿素水タンク、尿素水ポンプ、尿素水インジェクター、尿素水配管から冷却水が漏れていないことを確認してください。

＊ 漏れを発見した場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠ 警告

尿素水、冷却水漏れの点検は、走行直後に行わないでください。排気管、マフラー、冷却水が高温になっており、やけどをするおそれがあります。

■尿素水、冷却水チューブ・ホースの点検

- チューブ・ホースおよびコネクターに亀裂や損傷、折れ曲がりがないか点検してください。
- チューブ・ホースのコネクターが確実に接続されているか点検してください。
- チューブ・ホースの固定用のクリップなどがゆるんでいないか点検してください。

＊ チューブ・ホースおよびコネクターに亀裂や損傷、折れ曲がりがあるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

⚠警告

尿素水、冷却水チューブ・ホースの点検は走行直後に行わないでください。排気管、マフラー、冷却水が高温になっており、やけどをするおそれがあります。

⚠注意

- 故障の原因となるため尿素水タンク内に AdBlue®（尿素水）以外を入れないでください。
- マルチインフォメーションに“ AdBlue 残量少 ”と表示が出たら、早めに AdBlue®（尿素水）を給水してください。警報が出て一定距離を走行するとブザーが鳴り、尿素水位計のウォーニングランプが点灯します。このような状態でスターターキーを「ON」以外の位置にした後、エンジンの再始動ができなくなります。余裕をもって給水するようにしてください。
- マルチインフォメーションに“ AdBlue 残量少 ”または、“ AdBlue 残量少補給して下さい ”と表示されているときには、AdBlue®（尿素水）を 10 L 以上給水してください。それ以下だと警報が消えない場合があります。
- 尿素水タンクに補給するときは、タンク左側面に設けられた水位ゲージの黒いライン以上給水しないでください。この位置を超えると AdBlue®（尿素水）があふれます。
- 車両が傾いた状態で AdBlue®（尿素水）の給水を行うと水位ゲージが満水位を示す前にあふれる場合があります。

⚠ 注意

- AdBlue®（尿素水）があふれてしまったり、補給時にタンクや周辺部品に付着してしまった場合は速やかにウエス等で拭き取ってください。放っておくと白色化します。（これはAdBlue®（尿素水）の尿素成分が結晶化したものです。）結晶化した尿素は乾燥すると白色化し拭き取りにくくなります。取れにくくなった結晶は、お湯を浸したウエスで拭くと取れやすくなります。
- 給水時は、尿素水タンク内にほこり等が入らないように注意してください。尿素水ポンプや配管、尿素水インジェクターの詰まりの原因となります。
- 尿素水タンクのキャップやフィラーに尿素の結晶が付着しキャップが締めにくくなった場合は、無理に締めずにウエス等で結晶を除去してから締めるようにしてください。この際、タンク内にウエスの切れ端等が入らないようにしてください。
- 尿素水タンクのドレーンより抜いたAdBlue®（尿素水）は産業廃棄物として処分してください。
- AdBlue®（尿素水）は凍結すると膨張します。満水位以上に給水をし凍結した場合、タンク破裂の原因となります。（−11 ℃以下で凍結します。）

燃料添加弁

■燃料添加弁の点検

点検時期
1年ごと

＊ DPRの点検と平行して、燃料添加弁の作動を点検してください。

＊ 燃料添加弁の点検・整備については、日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

電気溶接時の注意

キャブやシャシに不用意に電気溶接を行うと、溶接電流がアース回路を逆流し、各種電装品、電子部品を損傷させることがありますので、電気溶接を行う場合は、最寄りの日野販売会社の整備工場または架装メーカーに依頼をしてください。

通信モジュールの取り扱い

通信モジュールは日本国内の電波法の認証に適合しています。車両を日本国外に持ち出すときや車両を廃棄するときは、通信モジュールの電源・制御コネクタを外して電波を出さない状態にする必要がありますので、事前に最寄りの日野販売会社の整備工場へご相談ください。

ドライバー異常時対応システム（EDSS）★

■点検

ドライバー異常時対応システム（EDSS）が正常に作動することを確認するため、次の要領で EDSS 機能テストを行ってください。

点検時期
3ヵ月ごと

● 事前準備

1. 車両を安全なところに停め、パーキングブレーキを引き上げ（作動）、(Ⓟ) ランプの点灯を確認します。
2. ギヤが「ニュートラル」であることを確認します。
3. マルチインフォメーションに“ ⚠ 安全な場所に停車 (ⓘ) EBS・ABS 異常 ”が表示されていない、(ⓘ) ランプが消灯していることを確認します。
4. DPR が燃焼中（再生中）ではないことを確認します。

＊ DPR 再生中は EDSS 機能テストを行わないでください。DPR 再生終了後に行ってください。

知識

「EDSS 機能テスト」は、車両が停車しパーキングブレーキが作動している状態で作動します。

● 点検方法

・ 点検方法は、EDSS 機能テストを参照してください。（→ P.6-38）

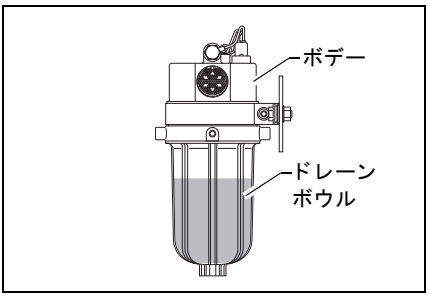
● 点検時に異常が認められた場合

・ 最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

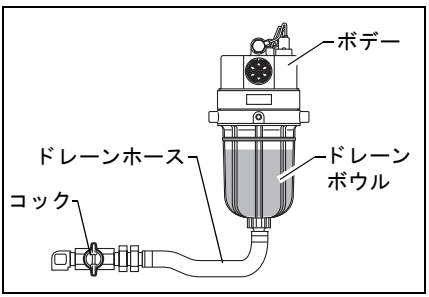
ミストキャッチャー★

エアドライヤーのエキゾースト（パージ）ポートから排出される圧縮エア・ミストをミストキャッチャーのボデー部で捕捉し、ドレーンボウルに溜め、定期的に抜き取って、油分の滴下と汚れを防止する装置です。

〔FE・FJ 車以外〕



〔FE・FJ 車〕



⚠ 注意

捕捉した液体には油分が含まれているため、廃棄処理は環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。

■交換

交 換 時 期
1 年または 60,000 km 走行ごと

- フィルターカートリッジ、O- リングおよびサイレンサーの交換が必要です。

＊ 交換は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

■捕捉液体の抜き取り

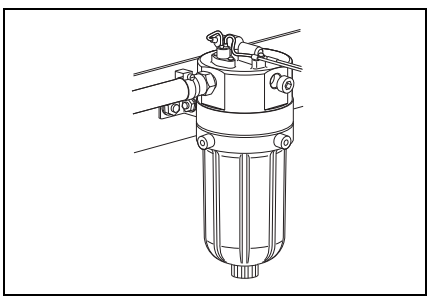
〔FE・FJ 車以外〕

1. 車両を平坦な場所に停め、必ずエンジンを停止させます。

＊ エンジンが回転していると捕捉液体を抜き取るときにエア圧で飛び散るおそれがあります。

2. ミストキャッチャーの下に排油用の容器を用意します。

＊ 安全のため、また、地面を汚さないようにするため捕捉液体は必ず容器に受けてください。



3. 2 角（2 面幅 30 mm）のソケットレンチまたはめがねレンチを使用してドレーンボウルを回し、取り外します。
4. ドレーンボウル内の捕捉液体を排出します。

5. 2 角（2 面幅 30 mm）のソケットレンチまたはめがねレンチを使用してドレーンボウルを取り付けます。

＊ 作業終了後は、捕捉液体の漏れやにじみがないことを確認してください。

締め付けトルク	
ドレーンボウル	44.0 ～ 56.0 N・m {440 ～ 560 kgf・cm}

⚠ 警告

捕捉液体の排出は、必ず捕捉液体の液面がミストキャッチャーのボデー部の底面まで溜まる前に行ってください。捕捉液体の液面が見えなくなるまで溜まると、ミストキャッチャーの排気口からミストや捕捉液体が漏れ、ミストキャッチャーの破損や、火災およびケガなどにつながるおそれがあります。

〔FE・FJ 車〕

1. 車両を平坦な場所に停め、必ずエンジンを停止させます。

＊ エンジンが回転していると捕捉液体を抜き取るときにエア圧で飛び散るおそれがあります。

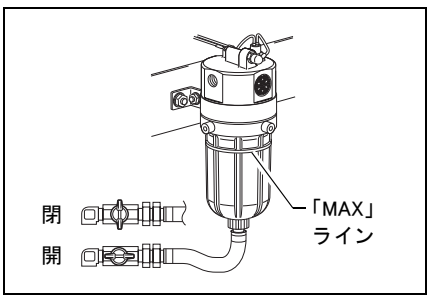
2. ミストキャッチャーの下に排油用の容器を用意します。

＊ 安全のため、また、地面を汚さないようにするため捕捉液体は必ず容器に受けてください。

3. コックを「開」方向にして捕捉液体を排出します。

＊ コックを「開」にしてもドレーンホースから排出されない場合、ドレーンボウルの取り外しが必要です。最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

4. 捕捉液体排出後、コックを「閉」方向にして閉じてください。



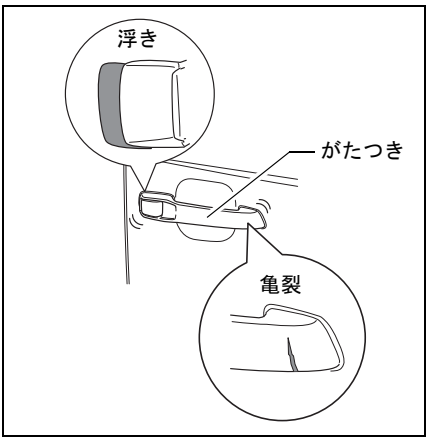
⚠警告

- 捕捉液体の排出は、必ず捕捉液体の液面がミストキャッチャーのドレーンボウル部の「MAX」ラインを超える前に行ってください。捕捉液体の液面が「MAX」ラインを超えて溜まると、ミストキャッチャーの排気口からミストや捕捉液体が漏れ、ミストキャッチャーの破損や、火災やケガにつながるおそれがあります。
- 捕捉液体の排出後は、ドレーン用のコックを必ず閉じてください。開けたままにしておくと、エンジンオイルを含む捕捉液体が路上に廃棄されたり、エア排出音により法律違反となります。

ドアアウトサイドハンドル、グリップの点検

- ドアアウトサイドハンドル、グリップは樹脂でできており、太陽光（紫外線など）の影響により時間の経過とともに材質が変化し徐々に劣化することにより、破損などの原因となる場合があります。
- ドアアウトサイドハンドル、グリップ取り付け部のがたつき、亀裂、浮きなどがないか点検してください。

■点検方法



ドアアウトサイドハンドル、グリップの取り付け部にがたつき、浮きが無いか、また本体に亀裂などが生じていないかを触手および目視点検をしてください。

⚠注意

- ドアアウトサイドハンドル、グリップにぶら下がるなど、過度な力をかけないでください。ドアアウトサイドハンドル、グリップが外れて怪我をするおそれがあります。
- ドアアウトサイドハンドル、グリップ取り付け部のがたつき、浮きおよび本体の亀裂などの異常を発見したときは、そのまま使用を続けず、新品に交換してください。

遮音材および吸音材

お車には、騒音対策のために遮音材および吸音材が取り付けられています。目視にて取付状態および損傷を点検し、異常があるときは最寄りの日野販売会社の整備工場にご連絡ください。

点検時期
1年ごと

給油・給脂 14

純正油脂類 P.14-3
エンジンオイル P.14-4
フライホイール PTO オイル〔消防車〕★ P.14-8
トランスミッションオイル★ P.14-11
オートマチックトランスミッションオイル P.14-14
トランスファーオイル〔FX・GX 車〕..... P.14-16
デファレンシャルオイル P.14-18
パワーステアリングオイル P.14-22
ブレーキフルード★ P.14-23
クラッチフルード★ P.14-25
電動キャブチルトシリンダーオイル★ P.14-26
給脂図 P.14-28
給脂 P.14-32
油脂類一覧表 P.14-39

本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合があります。

定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）と、弊社が指定するメーカー指定点検項目〔シビアコンディション（厳しい使われ方）項目および定期交換部品を含む〕があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。

別冊の「メンテナンスノート」にしたがい日野販売会社の整備工場にお申し付けください。ここでは皆様にも簡単に行える給油・給脂についてまとめましたので、お車を快適にご使用いただくために実施されるよう推奨します。

アドバイス

点検および交換時期に関し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

知識

ここでは本文中の点検時期表記の見方について説明しています。

■ **例**

点検時期
1 新車 1,000 km 走行時
2 その後、事業用 3ヵ月ごと（距離項目）または 5,000 km 走行ごと
3 自家用 6ヵ月ごと（距離項目）
4 ［シビアコンディション項目］

1 新車時から 1,000 km または 5,000 km 走行時に点検・補給を勧めている項目であることを意味しています。

2 事業用自動車の点検が 3 カ月ごとであることと、＊1 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 2,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 2,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

3 自家用貨物車の点検が 6 カ月ごとであることと、＊1 距離項目であることを表しています。初回登録および前回の点検より 4,000 km に満たない場合は、この項目の点検を省略することができます。ただし、次回の点検で、前回の点検からの走行距離が 4,000 km に満たなくても、2 回続けての省略はできません。

4 この項目が＊2 シビアコンディション項目であることを表し、使用条件の厳しい車両は 1 カ月ごとの点検を日野自動車が指定している項目であることを意味しています。

＊1　距離項目

- 自家用貨物車、事業用自動車の定期点検整備項目が法律で設定され、点検期間内の走行距離が短い場合、その点検を省略することができます。
- 事業用自動車では、登録日または前回の定期点検からの走行距離が 2,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

・ 自家用貨物自動車では、登録日または前回の定期点検時からの走行距離が 6 カ月の時点で 4,000 km 以下、12 カ月の時点で 8,000 km 以下の場合に、その項目を 1 回に限り省略することができる点検項目です。

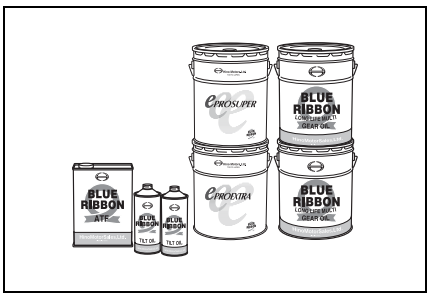
＊ 2　シビアコンディション（厳しい使われ方）項目

定期点検整備は 1 カ月 5,000 km 程度を走行する場合を標準の時期として定めてあります。事業用自動車で特に走行距離が多いなど標準的な使用条件と著しく異なる車両には、シビアコンディション条件を定め、1 カ月ごとの点検・整備および定期交換を日野自動車が推奨しています。

純正油脂類

オイルおよびグリースの定期的な補給および交換は、車両の性能維持・寿命延長・事故防止などのために非常に重要ですので確実に実施してください。

日野純正油脂類は、車両性能を満足するように作られておりますので、定期的な油脂類の補給および交換時は、日野純正油脂類の使用を推奨します。



⚠ 警告

エンジンルーム内に布や手袋、工具類などの置き忘れがないことを確認してください。布などの燃えやすい物は火災の原因になります。また工具類は振動などで飛びはね、部品を損傷させるおそれがあります。

アドバイス

- オイルなどの油脂類の廃棄処理は、環境に留意した方法で行ってください。処理方法を誤ると法律違反になります。
- 点検および交換時期に関し、使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

■オイルの補給および交換時の注意

＊ オイルを補給する際は、補給前にオイル漏れがないかを必ず点検してください。

＊ オイルの補給および交換後は、フィラーキャップ、フィラープラグおよびドレーンプラグ周りに付着したオイルをよく拭き取り、オイル漏れがないかを必ず点検してください。

＊ オイル漏れがあるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

＊ オイル交換時は排油用の容器を必ず準備してください。

＊ 廃油は空地や溝などには絶対に捨てないでください。

⚠警告

周りに垂れたオイルは必ず拭き取っておいてください。そのままにしておくと火災の原因になります。

エンジンオイル

エンジンオイルは、熱や酸化に対して安定していること、温度による粘度変化が少ないことが必要です。

日野純正エンジンオイルは、これらの性能を満足するように作られていますので、車両の使用条件により、適正なオイルを使用してください。

また、夏と冬では粘度の異なったものを使用する必要があります。次の表により適正なオイルを選んで使用してください。（→ P.10-2）

■指定銘柄

オイルの名称	SAE 粘度	使用温度範囲（℃）
日野純正 ブルーリボン ePRO-extra ecogreen	5W-30	-30 ～ +40
日野純正 ブルーリボン ePRO-extra plus	10W-30	-25 ～ +40
日野純正 ブルーリボン ePRO-extra	10W-30	-25 ～ +40

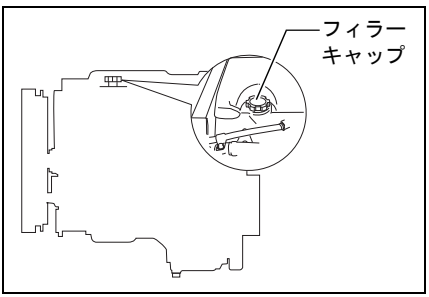
＊ 上記オイルは JASO DH-2 に準拠しています。

アドバイス

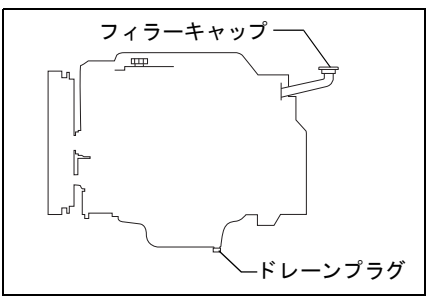
定期的な補給・交換時には日野純正油脂類をご使用ください。指定以外のオイルの使用に起因する故障または破損の修理は保証いたしかねますのでご注意ください。

■補給

1. オイル量が不足しているときは、オイルフィラーキャップを開け、オイルフィラーから指定のエンジンオイルを補給します。



・ ダブルキャブ車は室内の点検口からも補給できます。



⚠警告

- 補給時にオイルをこぼさないようにしてください。排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。
- 運転直後の補給はエンジンや配管等が高温になっていますので、やけどをしないように注意してください。

2. 補給後、10 分程してからオイルレベルゲージでオイル量を点検します。

＊ エンジンオイル量の点検は（→ P.12-7）

知識

エンジンオイル注入口やそのキャップ裏面、およびオイルレベルゲージに白濁した物質が付着している場合があります。この白濁物質は、ブローバイガス中の水分がエンジン内部で結露してエンジンオイルと混合してクリーム状になったものです。短時間の走行や冬期などエンジンの温度が上がらないときに発生しますが、エンジンが温まって水温計が安定する程度の走行によりオイルと水分が分離して元に戻ります。

■交換

指定エンジンオイル別交換時期

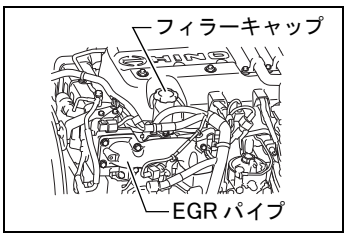
オイルの名称	交換時期	
	A05C	消防車
日野純正 ブルーリボン ePRO-extra ecogreen	1 年 または 25,000 km 走行ごと	1 年 または 300 時間 運転ごと
日野純正 ブルーリボン ePRO-extra plus	1 年 または 40,000 km 走行ごと	1 年 または 500 時間 運転ごと
日野純正 ブルーリボン ePRO-extra	1 年 または 25,000 km 走行ごと	1 年 または 300 時間 運転ごと

＊ 上記オイルは JASO DH-2 に準拠しています。

- 交換時期については、使用するオイルの種類によって異なりますので、新車およびオーバーホール後 1,000 km 走行時（消防車は 60 時間使用後）に交換した後は、上記の表にしたがって定期的に交換してください。
- 距離、使用期間、時間はいずれか早く到達した時点で交換を行ってください。

⚠注意

- 走行後すぐに排油すると、エンジンオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- 走行後は EGR パイプが高温になっていて、やけどのおそれがありますので注意してください。



- エンジン部品の機能を維持するため、エンジンオイルの交換時期を守ってお使いください。交換時期を超えて走行を続けると、エンジン破損や車両火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- 以下の場合は , 走行キロ数に関わらず早めに交換してください。
  - エンジンを高回転・高負荷で多く使用している場合
  - オイルレベル点検時オイルが著しく汚れている場合
  - PTO の使用やアイドリングを長時間行う場合
- エンジンオイルを交換するときは、オイルフィルターエレメントも交換してください。

点検・交換時期に関して

使用期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で点検または交換などを行ってください。

PTO 搭載車などの作業用車両について

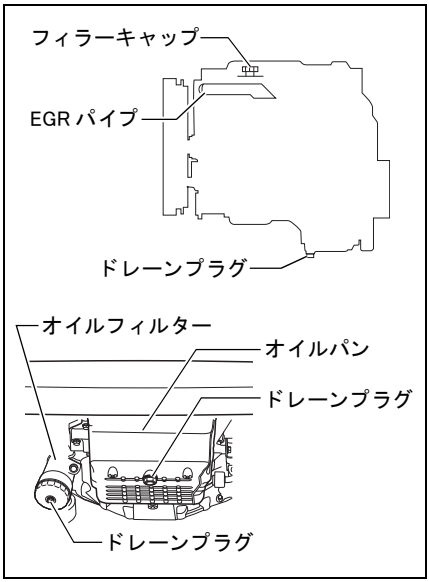
実走行によるオイル劣化に加え、非走行時でも PTO 稼働などによるオイル劣化が発生しますので早めにエンジンオイルを交換してください。交換時期については下記換算式を参照してください。

［交換時期の換算例］
PTO によるエンジン稼働時間を走行距離に換算する例を以下に示します。

①＋ {② × ③ ×10 (km/h)}

例）
①実走行距離・・・10,000 km
② PTO 稼働時間・・・4 時間／日
③稼働日数・・・90 日

10,000 km ＋ {4（時間／日）×90（日）×10 (km/h)} ＝ 13,600 km



1. フィラーキャップとオイルパンのドレーンプラグおよびオイルフィルターのドレーンプラグを取り外して排油します。

＊ 各ドレーンプラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

- オイルが少し温かいうちに行うと容易に排出することができます。

2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付けます。

＊ ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

3. フィラーキャップを外し給油します。

オイル量（L）		
全容量	オイルパン	オイルフィルター
15.5	約 11.5	1.2

＊ ダブルキャブ車は、室内の点検口からも補給できます。

4. 給油後 10 分程してから、オイルレベルゲージでオイル量を点検します。
5. エンジンをかけてアイドリング回転にします。
6. エンジンを止め、30 分以上経過してからオイルレベルゲージでオイル量を点検し、不足しているときは補給します。
   また、ドレーンプラグからオイル漏れがないことを確認してください。

知識

エンジンオイルの交換は、オイルパンカバーを取り外さず行うことができます。オイルパンカバーは、一部車型に装着されています。

フライホイール PTO オイル〔消防車〕★

フライホイール PTO は作動と内部の潤滑にオイルを使用しています。PTO には大きな負荷がかかりますので、熱や酸化に対して安定しており、温度による粘度変化の少ない、適正なオイルを使用してください。

これらには日野純正エンジンオイルを使用されるようお勧めします。

⚠ 警告

- 作業時は必ずエンジンを停止させてください。エンジン回転中は、回転部分に触れたり近づいたりしないでください。手や服などが巻き込まれて思わぬケガをするおそれがあります。
- 作業時は周囲にオイルをこぼさないようにしてください。排気管などにオイルが付着すると、火災の原因になります。こぼしたときは、完全に拭き取ってください。
- 走行後や PTO 運転後すぐに作業すると、PTO 本体やオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

■指定（推奨）銘柄

オイルの名称	SAE 粘度
日野純正ブルーリボン ePRO-extra	10W-30

＊ 上記オイルは JASO DH-2 に準拠する。

■点検・補給

点検時期
50 時間運転または 3 カ月ごと

1. PTO 後方のフィラープラグを取り外します。

＊ フィラープラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

2. フィラープラグのねじ穴からのぞいて、ねじの下端にある段差部分まで油面がきているか、また同時にオイルの汚れ具合も点検します。

・ 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

＊ 補給するときは、入れ過ぎないよう注意してください。

＊ オイルが著しく汚れている場合は、運転時間にかかわらず早めに交換してください。

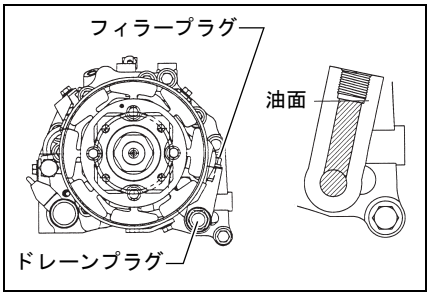
＊ オイルが著しく減っていたり、また逆に増加しているような場合には、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検整備を受けてください。

3. 点検・補給が完了したら、フィラープラグを確実に締めます。

フィラープラグの締め付けトルク
41 N・m {400 kgf・cm}

＊ フィラープラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

4. 試運転を行い、フィラープラグからオイル漏れがないことを確認します。



⚠注意

走行後すぐに点検すると、フライホイール PTO オイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

■交換

交換時期
100 時間運転または 1 年ごと

1. PTO 後方のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油します。

・ オイルが少し温かいうちに行うと容易に排出することができます。

＊ ドレーン穴からオイルが落ちなくなるまで完全に排油してください。

＊ 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

⚠ 注意

走行後すぐに排油すると、フライホイール PTO オイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付けます。

ドレーンプラグの締め付けトルク
41 N・m {400 kgf・cm}

＊ ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

3. フィラープラグのねじ穴からのぞいて、ねじの下端にある段差部分まで油面がくるように給油します。

＊ 給油するときは、油面を確認しながらゆっくりと行ってください。
また、入れ過ぎや不足のないよう注意してください。

オイル量
約 0.67 L

4. 給油が完了したら、フィラープラグを確実に締めます。

フィラープラグの締め付けトルク
41 N・m {400 kgf・cm}

＊ フィラープラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

5. 試運転を行い、各プラグからオイル漏れがないことを確認します。

アドバイス

- 点検や交換作業は、平坦な場所で行ってください。傾いていると、正確なオイル量が測れません。
- オイル量は、少なすぎても多すぎても、PTO の性能が発揮できなくなったり、故障の原因になります。
- PTO を高回転・高負荷で多用している場合や、オイルが著しく汚れている場合は、運転時間にかかわらず早めに交換してください。
- オイルグレードにかかわらず、交換時期は同一です。これは、オイル交換の主な目的の一つに、PTO 作動時に発生する装置内部の摩耗粉の除去があるためです。
- オイルが著しく減っていたり、また逆に増加しているような場合には、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検整備を受けてください。

トランスミッションオイル★

⚠ 注意

オイルの補給・交換後は、車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れにより、トランスミッションを損傷させるおそれがあります。

■指定（推奨）銘柄

車型	オイルの名称
FC FD GC GD FJ FE FX GX	日野純正ブルーリボン ロングライフ マルチギヤオイル GL-5（API 分類）の SAE80W-90

■点検・補給

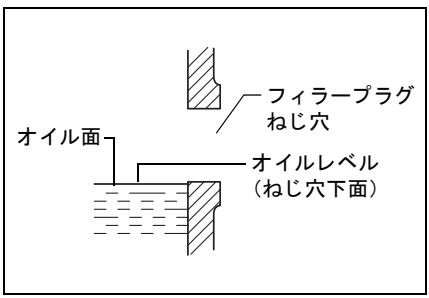
アドバイス

オイル量は、少なすぎても過剰に補給しすぎても、トランスミッションの故障の原因になります。

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 走行ごと 自家用 6 カ月ごと（距離項目） ［シビアコンディション項目］

1. トランスミッションケース側面のフィラープラグを取り外します。
2. オイルがフィラープラグのねじ穴下面（この位置がオイルレベル）まであるかを点検します。

〔オイルレベル〕



・ 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

⚠ 注意

走行後すぐに点検すると、マニュアルトランスミッションオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

■交換

交換時期
新車 1,000 km 走行時 その後、1 年または 60,000 km 走行ごと

1. ギヤケース下部のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油します。

・ オイルが少し温かいうちに行うと容易に排出することができます。

＊ 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

＊ FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX（LX06 および LX61 トランスミッション搭載）車は、ドレーンプラグ穴にオイルストレーナーが挿入されています。排油するときはストレーナーも取り出して洗浄してください。

・ ドレーンプラグはマグネット式になっていますので、マグネットに付いた鉄粉は除去してください。

⚠ 注意

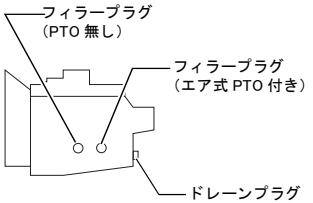
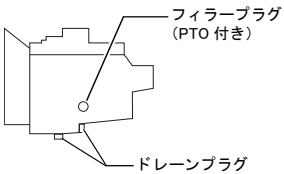
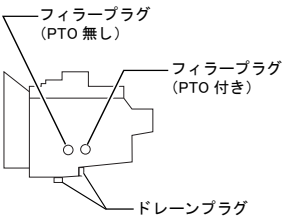
走行後すぐに排油すると、マニュアルトランスミッションオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付けます。

＊ ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

3. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油します。

■トランスミッション組み合わせ、オイル量一覧表

<table>
<tr><th colspan="2">車型</th><th>エンジン
型式</th><th>変速
段数</th><th>オイル量（L）</th><th>フィラープラグ・
ドレーンプラグの位置</th></tr>
<tr><td>FC</td><td>2A</td><td>A05C</td><td rowspan="6">〔LX06〕
6 段</td><td rowspan="4">PTO 無し：約 7.0
エア式 PTO 付き：
約 7.4</td><td rowspan="4">
</td></tr>
<tr><td>FD</td><td>2A</td><td>A05C</td></tr>
<tr><td>GC</td><td>2A</td><td>A05C</td></tr>
<tr><td>GD</td><td>2A</td><td>A05C</td></tr>
<tr><td>FJ</td><td>2A</td><td>A05C</td><td rowspan="2">50 kgf・mPTO 付き：
約 7.0</td><td rowspan="2">
</td></tr>
<tr><td>FE</td><td>2A</td><td>A05C</td></tr>
<tr><td>FX</td><td>2A</td><td>A05C</td><td rowspan="2">〔LX61〕
6 段</td><td rowspan="2">PTO 無し：約 6.4
50 kgf・mPTO 付き：
約 7.1</td><td rowspan="2">
</td></tr>
<tr><td>GX</td><td>2A</td><td>A05C</td></tr>
</table>

＊〔　〕内は、トランスミッションのシリーズ NO. です。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションは、車型によりセレクト位置に P 位置が無いタイプと、P 位置があるタイプの 2 種類があります。

⚠ 注意

オイルレベル調整後、車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れにより、オートマチックトランスミッションを損傷させるおそれがあります。

■指定銘柄

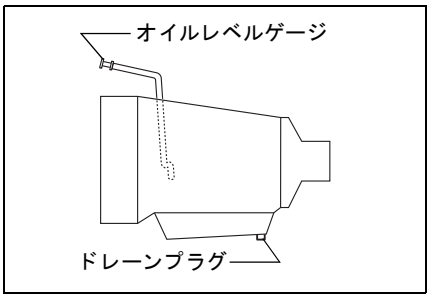
オイルの名称
カストロール　TRANSYND
シェル スパイラックス S6 ATF A295
シェル スパイラックス S6 ATF A668

■点検・補給

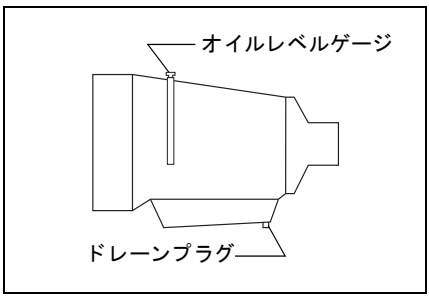
点検時期
新車時 5,000km 走行時
その後、事業用 3 カ月ごと（距離項目）
または 5,000km 走行ごと
自家用 6 か月ごと（距離項目）
［シビアコンディション項目］

＊ 点検は定期的に行い、オイル量が減少しているときは、オイル漏れの点検を行ってください。

〔消防車以外〕



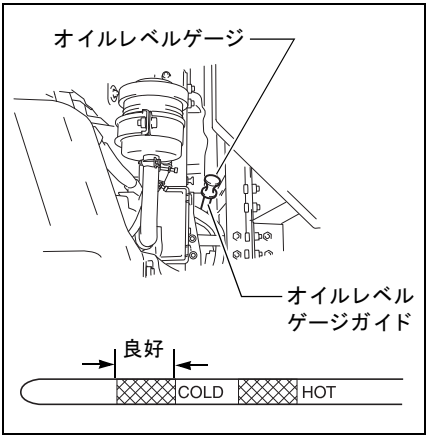
〔消防車〕



アドバイス

- オイル量の点検は必ずセレクトレバーを N（「P」レンジ付き車は P）の位置にし、エンジンをアイドリング回転にしたまま行ってください。
- 油温が上昇するとオイル面も上昇しますので、オイルレベルゲージの指定の範囲以上にオイルを補給しないでください。
- オイル量の点検を行うときは、オイルレベルゲージの周りのゴミやほこりをふき取ってください。
- オイルの補給容器はきれいな物を使用してください。異物が入ると故障の原因になります。

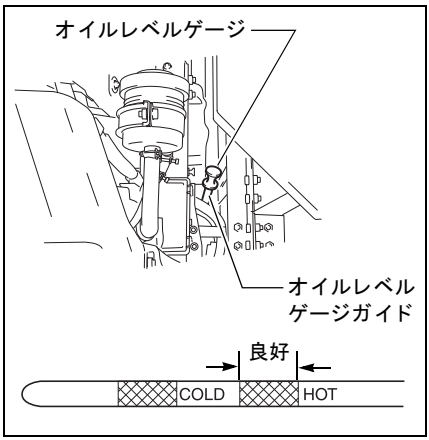
▶ コールドチェック（オイル量点検）



＊ コールドチェックの目的は、ホットチェックできるオイル量があるかどうかを確認するためです。

1. 車両を平坦な場所に停止し、パーキングブレーキを確実に効かせ右足でブレーキペダルを踏んでおきます。
2. 1 分間以上エンジンをアイドリング回転させ、油圧回路のエア抜きと油温を 20 ～ 30 ℃にします。
3. 各油圧回路やクラッチ部にオイルを充満させるために、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車は P）の位置にします。
4. アイドリング回転のままオイルの量と性状（色・臭い・粘度）を点検します。オイル面が COLD の範囲内にあれば良好です。不足しているときはオイルレベルゲージガイドから給油を行い、多すぎるときはすぐに排油せず、次のホットチェックにより判断してください。

▶ ホットチェック（オイル量点検）



＊ 温度の上昇と共にオイル面も上昇するのでホットチェックは、油温が高くなければなりません。

1. 車両を平坦な場所に停止し、パーキングブレーキを確実に効かせ右足でブレーキペダルを踏んでおきます。
2. セレクトレバーを D の位置にしてトランスミッションを作動させ、油温を通常の運転温度（71 ～ 93 ℃）にします。
3. 各油圧回路やクラッチ部にオイルを充満させるために、セレクトレバーを N（「P」レンジ付き車は P）の位置にします。
4. アイドリング回転のままオイルの量と性状（色・臭い・粘度）を点検します。オイル面が HOT の範囲内にあれば良好です。不足しているときはオイルレベルゲージガイドから給油を行い、多すぎるときはドレーンプラグから排油して調整します。

⚠ 注意

オートマチックトランスミッションオイルが高温のときに排油すると、やけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

アドバイス

- ほかのオイルを使用したり、混合したりすると性能低下や焼き付きなどの不具合が発生しますので絶対に使用しないでください。
- オイル量は、少なすぎても過剰に補給しすぎても、オートマチックトランスミッションの故障の原因になります。

■交換

交換時期
4 年または 240,000 km 走行ごと

オイル量（L）	
交換時	約 7.0
全油量	約 12.0

＊ オートマチックトランスミッションオイルの交換は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

トランスファーオイル〔FX・GX 車〕

トランスファーの各ギヤには大きな負荷がかかりますので、良質のギヤオイルを使用する必要があります。

これらの個所には日野純正ギヤオイルを使用されるようお勧めします。

⚠ 注意

オイルの補給・交換後は、車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れにより、トランスファーを損傷させるおそれがあります。

■指定（推奨）銘柄

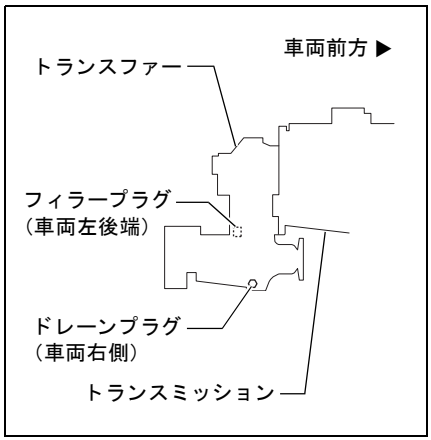
車型	オイルの名称
FX GX	日野純正ブルーリボン ロングライフ マルチギヤオイル GL−5（API 分類）の SAE80W−90

■点検・補給

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 走行ごと 自家用 6 カ月ごと（距離項目） ［シビアコンディション項目］

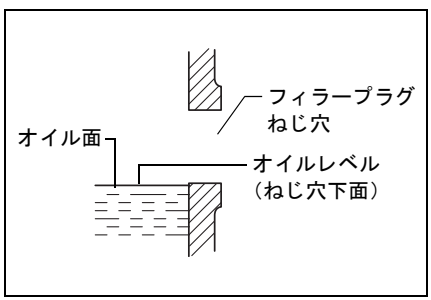
1. トランスファーケースのフィラープラグを取り外します。

〔FX・GX 車〕



2. オイルがフィラープラグのねじ穴下面（この位置がオイルレベル）まであるかを点検します。

〔オイルレベル〕



・ 不足しているときはフィラープラグから補給してください。

⚠注意

走行後すぐに点検すると、トランスファーオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

■交換

交換時期
新車 1,000 km 走行時 その後、1 年または 60,000 km 走行ごと

1. トランスファーケースのドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油します。

・ オイルが少し温かいうちに行うと容易に排出することができます。

＊ 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

・ ドレーンプラグはマグネット式になっていますので、マグネットに付いた鉄粉は除去してください。

⚠ 注意

走行後すぐに排油すると、トランスファーオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付けます。

＊ ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換します。

3. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油します。

車型	オイル量
FX GX	約 1.8 L

デファレンシャルオイル

⚠ 注意

オイルの補給・交換後は、車両の試運転を行いドレーンプラグからオイル漏れのないことを確認してください。オイル漏れにより、デファレンシャルを損傷させるおそれがあります。

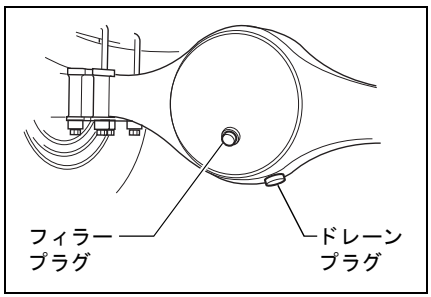
■指定（推奨）銘柄

オイルの名称	ファイナルギヤ型式
日野純正 ブルーリボンスーパーハイポイドギヤオイル GL-5（API 分類）の SAE90 日野純正 ブルーリボン ロングライフ マルチギヤオイル GL-5（API 分類）の SAE80W-90 ブルーリボンスーパーストロングマルチギアオイル	ハイポイドギヤ
日野純正 ブルーリボン LSD オイル GL-5（API 分類）の SAE90	リミテッドスリップデフ★

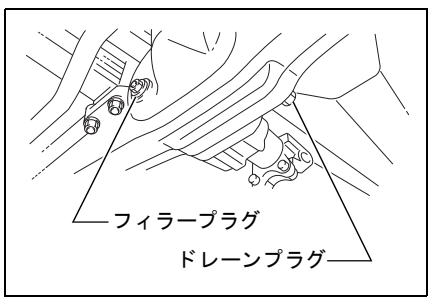
■点検・補給

点検時期
新車 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 走行ごと 自家用 6 カ月ごと（距離項目） ［シビアコンディション項目］

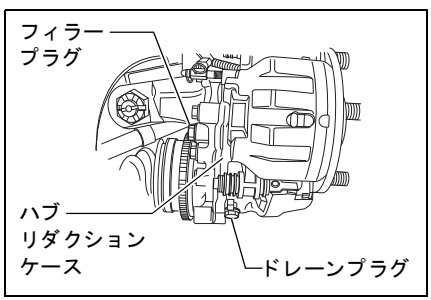
〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車後軸〕



〔FX・GX 車前軸〕
（アクスルハウジング下部）



（ハブリダクションケース下部）



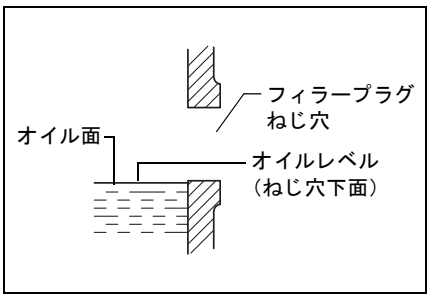
1. アクスルハウジングのフィラープラグを取り外します。

＊ FX・GX 車は前軸のハブリダクションケースのフィラープラグも外します。

2. オイルがフィラープラグのねじ穴下面（この位置がオイルレベル）まであるかを点検します。

＊ FX・GX 車は前軸のハブリダクションケースのフィラープラグも外します。

〔オイルレベル〕



・ 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給してください。

⚠ 注意

走行後すぐに点検すると、デファレンシャルオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

■交換

交換時期
新車 1,000 km 走行時 その後、1 年または 60,000 km 走行ごと

〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車後軸〕

1. アクスルハウジング下部のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外して排油します。

・ オイルが少し温かいうちに行うと容易に排出することができます。

＊ 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

・ ハウジング下部のドレーンプラグはマグネット式になっていますので、マグネットに付いた鉄粉は除去してください。

⚠ 注意

走行後すぐに排油すると、デファレンシャルオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

2. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付けます。

＊ ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

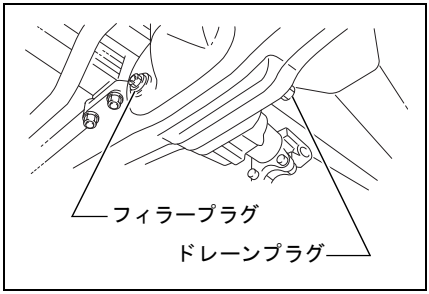
3. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油します。

アドバイス

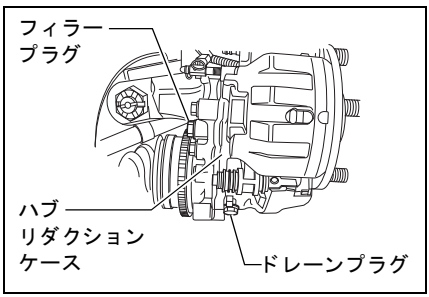
リミテッドスリップデフ付き車には、必ずブルーリボン LSD オイルを使用してください。

〔FX・GX 車前軸〕

（アクスルハウジング下部）



（ハブリダクションケース下部）



1. アクスルハウジング下部のドレーンプラグおよびフィラープラグを取り外します。
2. ホイールナットをゆるめ、フロントタイヤ（左右）を外した後、ハブリダクションケース下部のドレーンプラグおよびフィラープラグを外します。

＊ タイヤの取り扱いについては（→P.13-59）

・ オイルが少し温かいうちに行うと容易に排出することができます。

＊ 各プラグは油温と同じ温度で熱いため注意してください。

・ ハウジング下部のドレーンプラグはマグネット式になっていますので、マグネットに付いた鉄粉は除去してください。

⚠ 注意

走行後すぐに排油すると、デファレンシャルオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。

3. 完全に排油した後、ドレーンプラグを確実に締め付けます。

＊ ドレーンプラグのガスケットは、必ず新品と交換してください。

4. フィラープラグのねじ穴下面までオイルを給油します。

＊ ハブリダクションケース部のオイルを排油するときは 2. の手順から作業を行ってください。

アドバイス

ハブリダクションケースのオイルの補給・交換を行う際は、フィラープラグの近くに ABS センサーおよび ABS センサーリングが付いていますので、ABS センサー、センサーリングにオイルを付着させないよう、ウエスなどで保護した後に作業を行ってください。

■オイル量一覧表

車　型	オイル量(L)	
FC FD	約 3.7	
GC GD FJ FE	約 5.5	
FX GX	前軸	約 3.5
	後軸	約 3.7 〔 SH13 〕
		約 5.5 〔 SH14 〕
	フロントハブリダクションケース	左右各々 約 0.5

＊〔　〕内はデファレンシャルのシリーズ NO. です。

パワーステアリングオイル

■指定（推奨）銘柄

オイルの名称
日野純正ブルーリボン ATF

⚠注意

- オイルは必ず日野純正のオイルを使用してください。異なったオイルを混合すると、作動不良の原因になります。
- オイルの不足や汚れは、パワーステアリングの正常な作動をさまたげ、ハンドル操作に支障をきたします。補給または交換をしてください。

■点検・補給

点検時期
新車 1,000 km および 5,000 km 走行時 その後、事業用 3 カ月ごと（距離項目） 自家用 1 年ごと

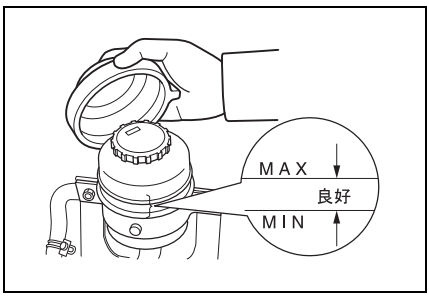
⚠注意

キャップを外す際は、キャップの周りを十分に清掃し、タンク内にゴミや水などが入らないようにしてください。ゴミや水が入ると、作動不良（ハンドルのひっかかり、切れ不良など）の原因になります。

- リザーブタンク内のオイル量が規定の範囲内にあるかを点検します。
- オイル量点検時にオイルの汚れ具合についても点検します。汚れているときは交換が必要です。

⚠注意

異常にオイルが不足するようであれば、オイル漏れが考えられますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。



- オイル面が「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。
- 不足しているときは、「MAX」の線まで補給してください。

■交換

交換時期
新車 5,000 km 走行時 その後、1 年または 60,000 km 走行ごと

- パワーステアリングオイルの交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

オイル量（L）
約 2.0

ブレーキフルード★

■指定（推奨）銘柄

フルードの名称
日野純正ブレーキ＆クラッチフルード BF-3

■ブレーキフルードの取り扱い

⚠警告

- ブレーキフルードは、常に清浄なものを使用してください。異物が混入していると、ブレーキ系統の各装置に傷をつけるだけでなく、機能の障害を引き起こし、ブレーキの効き不良の原因になります。
- ブレーキフルードは、必ず日野純正のブレーキフルードを使用してください。異なったブレーキフルードを混合すると、ブレーキフルードの性状が変化して沸点の低下や部品の錆つきを招くことがあります。ブレーキフルードにほかの鉱物油が混入すると、ブレーキ装置のゴム部品を膨潤させブレーキの効き不良の原因になります。

＊ リザーブタンクのキャップを外すときはキャップの周りを清掃してください。

＊ リザーブタンクに異物が沈殿しているときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

＊ 補給時に使用する容器などに汚れがないかを点検し、汚れているときは洗浄してから使用してください。

＊ 補給の際、こぼれた液が塗装面に付着すると塗装がはがれる原因になりますので、すぐに拭き取ってください。（特に樹脂部品）

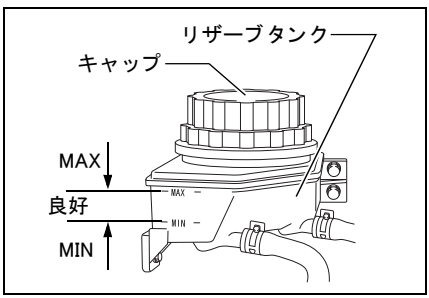
＊ ブレーキフルードは吸湿性が強いため、点検や補給および保管中に水分が混入しないよう取り扱いに注意してください。

＊ リザーブタンクホースに亀裂および傷がないかを点検してください。不具合があるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

■点検・補給

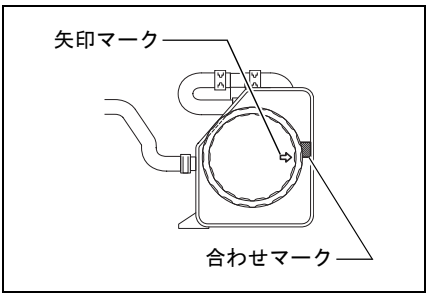
点検時期
日常（運行前）点検時

1. リザーブタンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。



2. 液面が「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。
不足しているときは、配管系に液漏れがないことを確認し、ブレーキフルードを「MAX」の線まで補給します。

3. キャップを約3 N·m{30 kgf·cm}の力で、キャップ上面の矢印マークがタンク上面の合わせマーク位置に来るまで締め付けます。



⚠ 注意

- リザーブタンクのキャップは補給以外の目的では開けないでください。また、補給の際キャップを開けたときは約 3 N · m {30 kgf · cm} の力で、キャップ上面の矢印マークがタンク上面の合わせマーク位置に来るまで確実に閉めてください。
- ブレーキフルードは「MAX」の線を超えて補給しないでください。

＊ リザーブタンクには液面レベル警報用のスイッチが組み込まれていますので、点検や補給に際しては損傷させないよう注意してください。

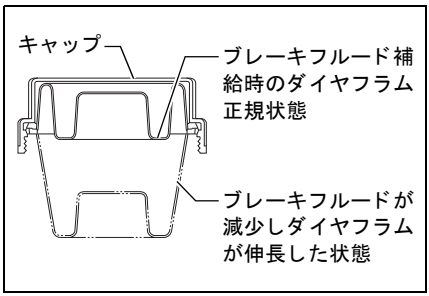
知識

ブレーキライニングまたはパッドの摩耗に伴いブレーキフルードの液面は低下しますが液漏れではありません。

ディスクブレーキ★車は、ドラムブレーキ車に比べ液面の低下度合いがやや大きい傾向にあります。

・ 液面が異常に低下しているときは、パイプなどからの漏れが考えられますので、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

・ ブレーキフルードを補給したときは、キャップ内側のダイヤフラムを正規の状態に戻してからキャップを取り付けてください。



■交換

交換時期
1 年ごと

・ ブレーキフルードは、必ず純正品の新しいものと全量交換してください。また、交換は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

⚠ 警告

ブレーキフルードは長期間使用すると、水分吸収により沸点が大幅に低下し、ベーパーロック現象が発生しやすくなりますので、必ず交換時期に純正品の新しいものと全量交換してください。

ブレーキフルード量
約 1.3 L

クラッチフルード★

■指定（推奨）銘柄

フルードの名称
日野純正ブレーキ＆クラッチフルード BF-3

■クラッチフルードの取り扱い

＊ クラッチフルードは、「ブレーキ＆クラッチフルード」を使用しています。

⚠注意

- クラッチフルードは、常に清浄なものを使用してください。異物が混入していると、クラッチ系統の各装置に傷をつけるだけでなく、機能の障害を引き起こし、クラッチの故障の原因になります。
- クラッチフルードは、必ず日野純正のクラッチフルードを使用してください。異なったクラッチフルードを混合すると、クラッチフルードの性状が変化して沸点の低下や部品の錆つきを招くことがあります。
  クラッチフルードにほかの鉱物油が混入すると、クラッチ装置のゴム部品を膨潤させクラッチの故障の原因になります。

＊ リザーブタンクのキャップを外すときはキャップの周りを清掃してください。

＊ リザーブタンクに異物が沈殿しているときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

＊ 補給時に使用する容器などに汚れがないかを点検し、汚れているときは洗浄してから使用してください。

＊ 補給の際、こぼれた液が塗装面に付着すると塗装がはがれる原因になりますのですぐに拭き取ってください。（特に樹脂部品）

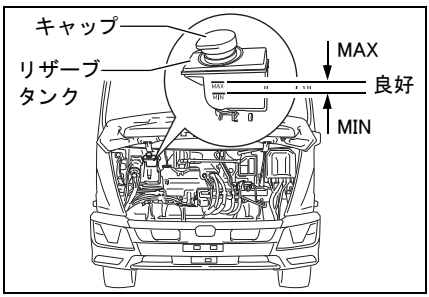
＊ クラッチフルードは吸湿性が強いため、点検や補給および保管中に水分が混入しないよう取り扱いに注意してください。

■点検・補給

点検時期
事業用 3 カ月、自家用 1 年ごと

1. リザーブタンク内の液量が規定の範囲内にあるかを点検します。

〔マニュアルトランスミッション車〕



2. 液面が「MAX」と「MIN」の線の間にあれば良好です。

・ 不足しているときは、配管系に液漏れがないことを確認し、リザーブタンクのキャップを外して、クラッチフルードを「MAX」の線まで補給します。

＊「MAX」の線を超えると、液漏れの原因になりますので注意してください。

■交換

交換時期
1 年ごと

- クラッチフルードは、必ず純正品の新しいものと全量交換します。

＊ 交換は最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

⚠ 注意

クラッチフルードは長期間使用すると、水分吸収により沸点が大幅に低下し、ベーパーロック現象が発生しやすくなりますので、必ず交換時期に純正品の新しいものと全量交換してください。

クラッチフルード量
約 0.3 L

電動キャブチルトシリンダーオイル★

■指定（推奨）銘柄

オイルの名称
日野純正ブルーリボンチルトオイル

アドバイス

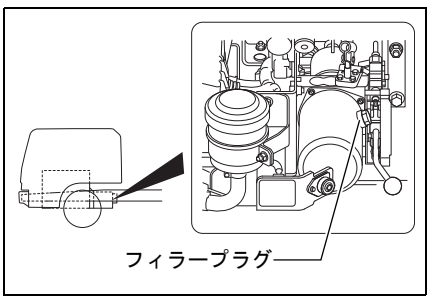
オイルは必ず日野純正のオイルを使用してください。異なったオイルを混合すると作動不良の原因になります。

■点検・補給

点検時期
1 年ごと

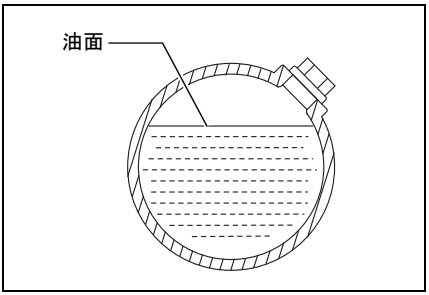
1. キャブチルト電動油圧ポンプのフィラープラグを取り外します。

▶ ダブルキャブ車



2. オイルが規定のオイルレベルまであるかを点検します。

・ フィラープラグのねじ穴下面にあることを確認してください。



・ 不足しているときは、フィラープラグのねじ穴から補給します。

アドバイス

点検や補給するときは、キャブを下げた状態で行ってください。

■交換

交換時期
2 年ごと

・ キャブチルトシリンダーオイルの交換は、最寄りの日野販売会社の整備工場にお申し付けください。

オイル量	
ダブルキャブ	約 0.9 L

給脂図

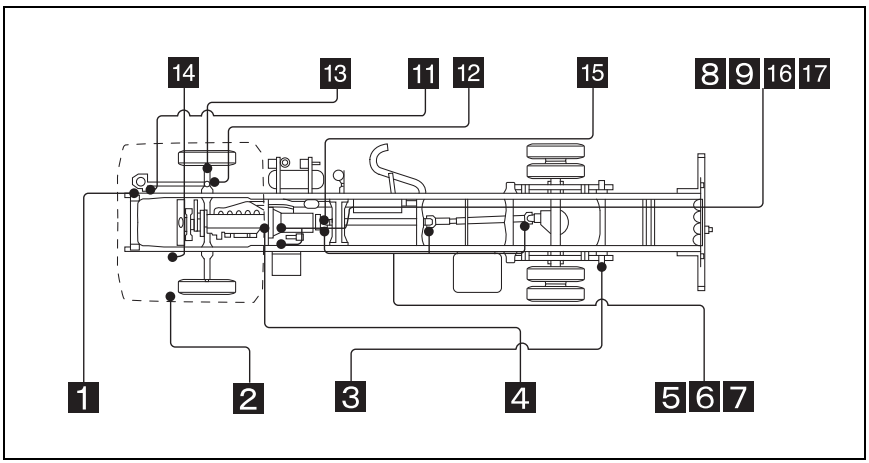
■FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車

アドバイス

給脂時期に期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で給脂をしてください。

グリースの種類	
	シャシグリース 〔日野純正ブルーリボンシャシグリース〕
	リチューム系ベアリンググリース 〔日野純正ブルーリボンベアリンググリース〕

・ ■内番号は、「給脂」の給脂個所を示します。(→ P.14-32)



新車および分解整備後 1,000 km 走行、以後 5,000 km 走行ごと

1 ステアリングシャフトスプライン

1 カ月または 5,000 km 走行ごと

2 スプリングピン

〔前軸・後軸（前）(GC・GD・FJ・FE 車)〕

（左右 2ヵ所）およびシャックルピン

〔前軸（後)〕(左右 4ヵ所)

3 スプリングスライディングシート〔後軸〕(左右 6ヵ所)

 1 カ月または 5,000 km 走行ごと

4 キャブロックリンク本体摺動部

 4,000 km 走行ごと

5 プロペラシャフトユニバーサルジョイント

6 プロペラシャフトスプラインヨーク

7 プロペラシャフトセンターベアリング

 5,000 km 走行ごと

8 クラッチリリーススリーブ

9 クラッチリリースシャフト（左右 2ヵ所）

 6 カ月ごと

11 ドラッグリンクボールジョイント（前後 2ヵ所）

12 タイロッドボールジョイント（左右 2ヵ所）

 6 カ月または 30,000 km 走行ごと

13 キングピン（左右、上下 4ヵ所）

 1 年または 60,000 km 走行ごと

14 キャブチルトトーションバーレバー先端摺動部
〔手動キャブチルト車〕（左右 2ヵ所）

 5,000 km 走行ごと

15 パーキングブレーキスフェリカルジョイント部
〔FC・FD・GC・GD 車のセンターパーキング車〕

 1 年ごと

16 クラッチクレビスピン

17 クラッチリリースレバーブッシュ

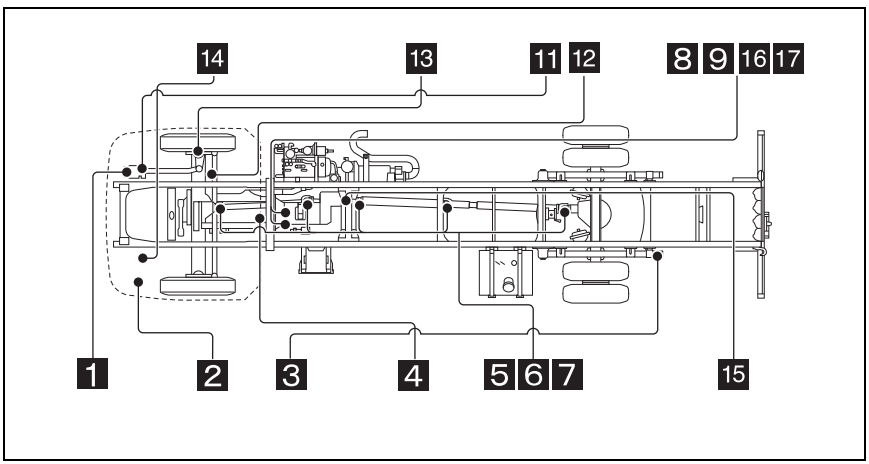
■FX・GX 車

アドバイス

給脂時期に期間と走行距離を併記してあるものは、いずれか早く到達した時点で給脂をしてください。

グリースの種類	
	シャシグリース 〔日野純正ブルーリボンシャシグリース〕
	リチューム系ベアリンググリース 〔日野純正ブルーリボンベアリンググリース〕

・ ■内番号は、「給脂」の給脂個所を示します。(→ P.14-32)



新車および分解整備後 1,000 km 走行、以後 5,000 km 走行ごと

1 ステアリングシャフトスプライン

1 カ月または 5,000 km 走行ごと

2 スプリングピン〔前軸・後軸（前）〕（左右 2ヵ所）
およびシャックルピン〔前軸（後）〕（左右 4ヵ所）

3 スプリングスライディングシート
〔後軸〕（左右 6ヵ所）

1 カ月または 5,000 km 走行ごと

4 キャブロックリンク本体摺動部

 4,000 km 走行ごと

5 プロペラシャフトユニバーサルジョイント

6 プロペラシャフトスプラインヨーク

7 プロペラシャフトセンターベアリング

 5,000km 走行ごと

8 クラッチリリーススリーブ

9 クラッチリリースシャフト（左右 2ヵ所）

 6 カ月ごと

11 ドラッグリンクボールジョイント（前後 2ヵ所）

12 タイロッドボールジョイント（左右 2ヵ所）

 6 カ月または 30,000 km 走行ごと

13 キングピン（左右、上下 4ヵ所）

 1 年または 60,000 km 走行ごと

14 キャブチルトトーションバーレバー先端摺動部
〔手動キャブチルト車〕（左右 2ヵ所）

 5,000 km 走行ごと

15 パーキングブレーキスフェリカルジョイント部〔FX 車〕

 1 年ごと

16 クラッチクレビスピン

17 クラッチリリースレバーブッシュ

給脂

■給脂前の点検

* シャシ各部の給油脂状態が十分であるかを目視などにより点検してください。
* 給油脂部のダストブーツの破損、ルブリケーションフィッティングの脱落およびゆるみなどがないかを目視などにより点検してください。

■給脂時の注意

* グリースの不足は、回転部や摺動部の動きを悪くするばかりでなく早期摩耗によるガタや異音発生および焼き付きの原因になりますので、常にグリースが保持されるようにしてください。
* 給脂はグリースニップルおよび塗布部位の泥やほこりを取ってから行ってください。
* 給脂後あふれ出たグリースは必ず拭き取ってください。

■グリースの種類

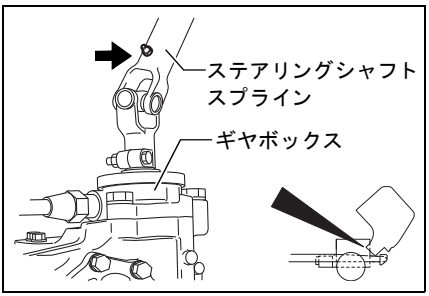
グリースの種類	
	シャシグリース 〔日野純正ブルーリボン シャシグリース〕
	リチューム系 ベアリンググリース 〔日野純正ブルーリボン ベアリンググリース〕

* グリースニップルへの給脂はシール部からはみでるまで行い、給脂後、はみだしたグリースは拭き取ってください。
* グリースの補給が必要な個所のみ記載してあります。分解整備および組み立て時の給脂は、最寄りの日野販売会社の整備工場にご相談ください。
* スプリングピンおよびシャックルピン（2）とプロペラシャフト（5、6、7）以上の給脂個所は車型により異なります。
* ➡ は給脂部分

■新車および分解整備後1,000 km走行、以後 5,000 km 走行ごと

シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
補給 15 mL、交換 80 mL

1 ステアリングシャフトスプライン

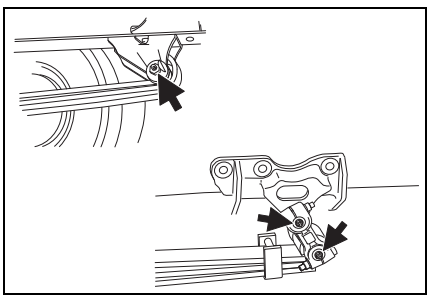


■1 カ月または 5,000 km 走行ごと

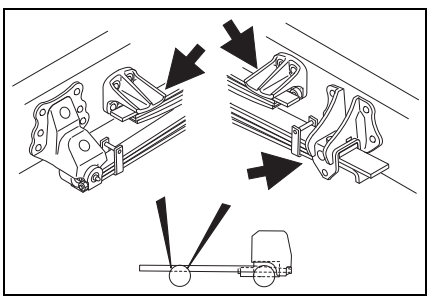
シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
適量塗布 （**2** スプリングピンおよびシャックルピンはグリースがあふれ出るまで。寒冷地は春秋）

2 スプリングピン〔前軸（前）〕（左右 2ヵ所）およびシャックルピン〔前軸（後）〕（左右 4ヵ所）

スプリングピン〔後軸（前）〕（左右 2ヵ所）〔GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車〕



3 スプリングスライディングシート〔後軸〕（左右 6ヵ所）〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車〕

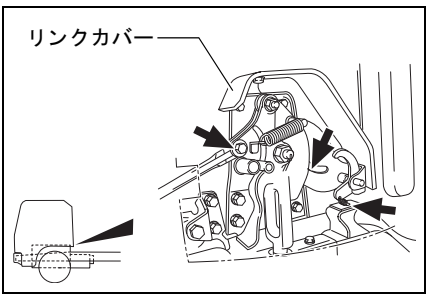


シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
補給 15 mL、交換 80 mL 不足の場合、適量塗布

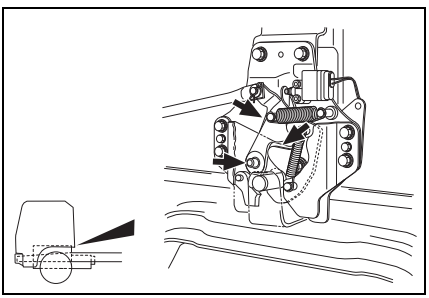
4 キャブロックリンク本体摺動部

＊ 点検はリンクカバーを取り外して行ってください。

〔手動キャブチルト車〕



〔電動キャブチルト車〕



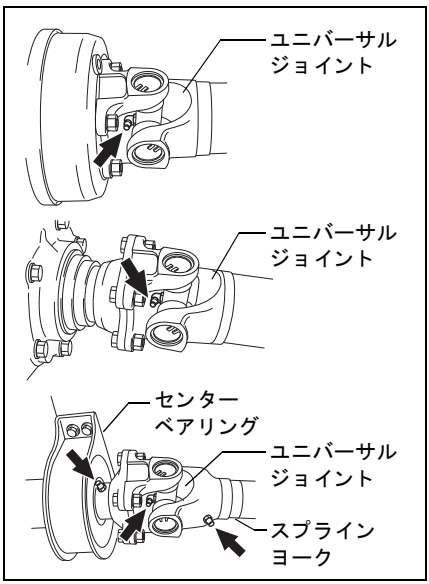
■ 4,000 km 走行ごと

リチューム系ベアリンググリース
日野純正ブルーリボン ベアリンググリース
適量

5 プロペラシャフトユニバーサルジョイント

6 プロペラシャフトスプラインヨーク

7 プロペラシャフトセンターベアリング

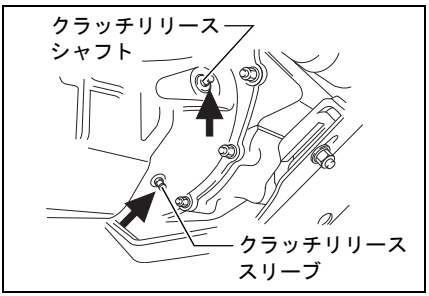


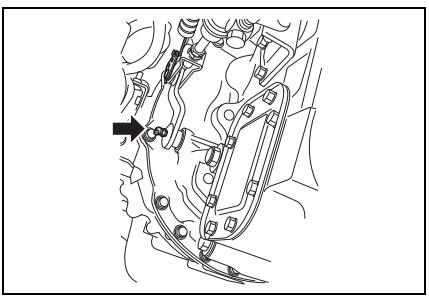
■5,000 km 走行ごと

リチューム系ベアリンググリース
日野純正ブルーリボン ベアリンググリース
適量

8 クラッチリリーススリーブ

9 クラッチリリースシャフト（左右 2ヵ所）





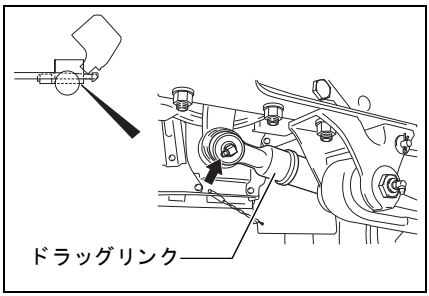
■1 カ月または 5,000 km 走行ごと

シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
グリースがブリーザーから排出する まで

■6 カ月ごと

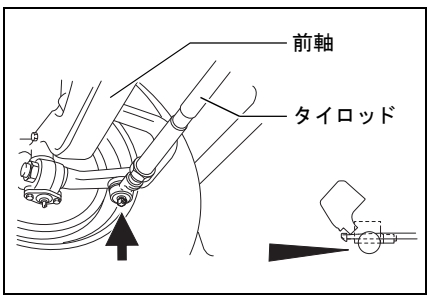
シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
グリースがあふれ出るまで

11 ドラッグリンクボールジョイント（前後 2ヵ所）

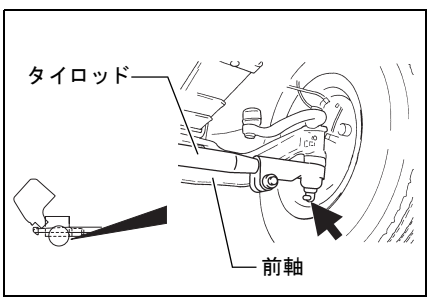


12 タイロッドボールジョイント（左右 2ヵ所）

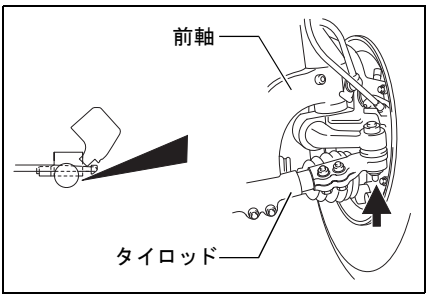
〔FC・FD 車〕



〔GC・GD・FJ・FE 車〕



〔FX・GX 車〕

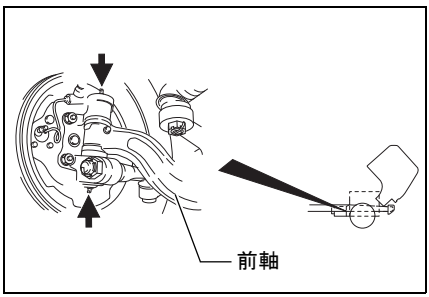


■6 カ月または 30,000 km 走行ごと

シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
グリースがあふれ出るまで。 寒冷地は春秋

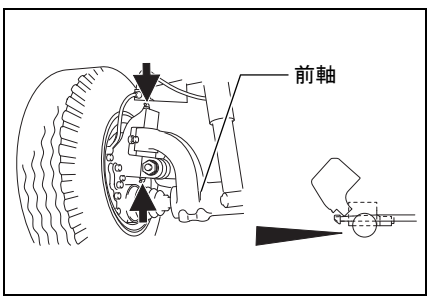
13 キングピン（左右・上下 4ヵ所）

〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE 車〕



〔FX・GX 車〕

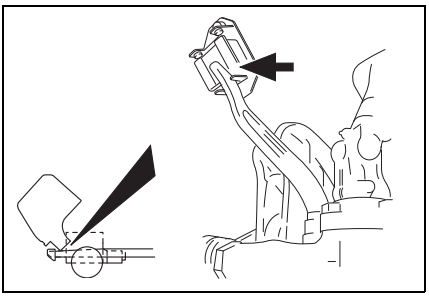
FX・GX 車には、リチューム系ベアリンググリース〔日野純正ブルーリボンベアリンググリース〕またはシャシグリース〔日野純正ブルーリボンシャシグリース〕



■1 年または 60,000 km 走行ごと

シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
適量塗布

14 キャブチルトトーションバーレバー先端摺動部〔手動キャブチルト車〕（左右 2ヵ所）



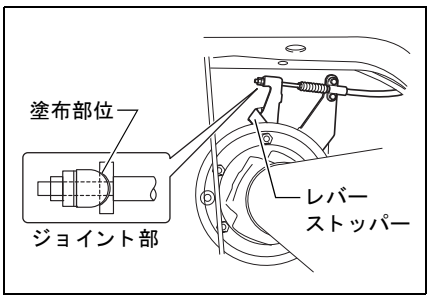
■5,000 km 走行ごと

シャシグリース
日野純正ブルーリボンシャシグリース
適量塗布

15 パーキングブレーキスフェリカルジョイント部〔センターパーキング車〕

＊ ケーブルのねじ部にグリースをつけないでください。

〔FC・FD・GC・GD・FX 車〕

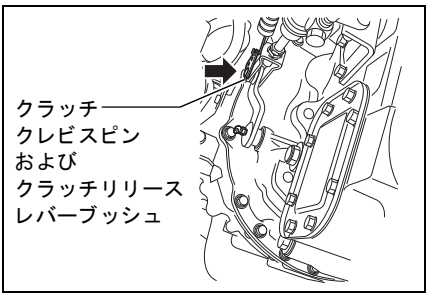


■1年ごと

リチューム系ベアリンググリース
日野純正ブルーリボン ベアリンググリース
適量

16 クラッチクレビスピン

17 クラッチリリースレバーブッシュ



油脂類一覧表

■エンジンオイル

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
日常（運行前）	—	日野純正ブルーリボン ePRO-extra ecogreen A05C［1 年または 25,000 km］ 消防車［1 年または 300 時間］	12-7 14-4
		日野純正ブルーリボン ePRO-extra plus A05C［1 年または 40,000 km］ 消防車［1 年または 500 時間］	
		日野純正ブルーリボン ePRO-extra A05C［1 年または 25,000 km］ 消防車［1 年または 300 時間］	

備考：新車およびオーバーホール後 1,000 km（消防車は 60 時間）で交換

・ 距離、使用期間、時間はいずれか早く到達した時点で交換を行ってください。

● 指定油脂名

名称	SAE 粘度
日野純正ブルーリボン ePRO-extra ecogreen	5W-30
日野純正ブルーリボン ePRO-extra plus	10W-30
日野純正ブルーリボン ePRO-extra	10W-30

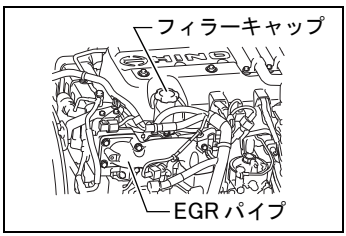
＊ 上記オイルは JASO DH-2 に準拠しています。

● 容量

オイル量（L）	
オイルパン	オイルフィルター
約 11.5	1.2

⚠ 注意

- 走行後すぐに排油すると、エンジンオイルが高温になっていてやけどをするおそれがありますので、時間をおいて温度が下がってから行ってください。
- 走行後は EGR パイプが高温になっていて、やけどのおそれがありますので注意してください。



- エンジン部品の機能を維持するため、エンジンオイルの交換時期を守ってお使いください。交換時期を超えて走行を続けると、エンジン破損や車両火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- 以下の場合は、走行キロ数に関わらず早めに交換してください。
  - エンジンを高回転・高負荷で多く使用している場合
  - オイルレベル点検時オイルが著しく汚れている場合
  - PTO の使用やアイドリングを長時間行う場合
- 定期的な補給・交換時には日野純正油脂類をご使用ください。指定以外のオイルの使用に起因する故障または破損の修理は保証いたしかねますのでご注意ください。

■フライホイール PTO オイル〔消防車〕★

● 時期

点検	交換	記載ページ
50 時間 または 3ヵ月	100 時間 または 1 年	14-8

● 指定（推奨）油脂名

名称	SAE 粘度
日野純正ブルーリボン ePRO-extra	10W-30

＊ 上記オイルは JASO DH-2 に準拠しています。

● 容量

オイル量（L）
約 0.67

■トランスミッションオイル

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 自家用 6 カ月（距離項目） 〔シビアコンディション項目〕	5,000 km	1 年 または 60,000 km	14-11

備考：新車 1,000 km で交換、新車 5,000 km で点検

● 指定〔推奨〕油脂名

車型	オイルの名称
FC FD GC GD FJ FE FX GX	日野純正ブルーリボン ロングライフ マルチギヤオイル GL-5（API 分類）の SAE80W-90

● 容量

車型		変速段数・オイル量（L）
FC	2A	〔LX06〕6 段 PTO 無し：約 7.0 エア式 PTO 付き：約 7.4 50kgf・mPTO 付き：約 7.0
FD	2A	
GC	2A	
GD	2A	
FJ	2A	
FE	2A	
FX	2A	〔LX61〕6 段 PTO 無し：約 6.4 50kgf・mPTO 付き：約 7.1
GX	2A	

＊〔　〕内はトランスミッションのシリーズ NO. です。

■オートマチックトランスミッションオイルおよびオートマチックトランスミッションオイルフィルター

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3 カ月（距離項目）または 5,000 km 自家用 6 カ月（距離項目）〔シビアコンディション項目〕	—	〔オイル〕4 年または 240,000 km 〔フィルター〕4 年または 240,000 km	13-52 14-14

備考：新車 5,000 km で点検

● 指定油脂名

名称
カストロール　TRANSYND
シェル スパイラックス S6 ATF A295
シェル スパイラックス S6 ATF A668

● 容量

オイル量（L）	
オイル交換時	約 7.0
フィルター交換時	約 0.47
全油量	約 12.0

■トランスファーオイル〔FX・GX 車〕

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3 カ月（距離項目）または 5,000 km 自家用 6 カ月（距離項目）〔シビアコンディション項目〕	5,000 km	1 年または 60,000 km	14-16

備考：新車 1,000 km で交換、新車 5,000 km で点検

● 指定〔推奨〕油脂名

車型	名称
FX GX	日野純正ブルーリボン ロングライフ マルチギヤオイル GL-5（API 分類）の SAE80W-90

● 容量

車型	オイル量〔L〕
FX GX	約 1.8

■デファレンシャルオイル

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3 カ月（距離項目） または 5,000 km 自家用 6 カ月（距離項目） 〔シビアコンディション項目〕	5,000 km	1 年 または 60,000 km	14-18

備考：新車 1,000 km で交換、新車 5,000 km で点検

● 指定〔推奨〕油脂名

名称	SAE 粘度
ギヤオイル 日野純正ブルーリボン スーパーハイポイド ギヤオイル （ハイポイドギヤ） GL-5（API 分類）	SAE90
日野純正ブルーリボン ロングライフ マルチギヤオイル （ハイポイドギヤ） GL-5（API 分類）	SAE80W-90
ブルーリボン スーパーストロング マルチギアオイル	SAE80W-90
日野純正ブルーリボン LSD オイル （リミテッド スリップデフ★） GL-5（API 分類）	SAE90

● 容量

車型	オイル量（L）	
FC FD	約 3.7	
GC GD FJ FE	約 5.5	
FX GX	前軸	約 3.5
	後軸	約 3.7 〔 SH13 〕
		約 5.5 〔 SH14 〕
	フロントハブリダクションケース	左右各々 約 0.5

＊〔　〕内はデファレンシャルのシリーズ NO. です。

■パワーステアリングオイル

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3 カ月ごと （距離項目） 自家用 1 年ごと	—	1 年 または 60,000 km	14-22

備考：新車 1,000 km および 5,000 km で点検、新車 5,000 km で交換

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
パワーステアリングオイル 日野純正ブルーリボン ATF

● 容量

オイル量（L）
約 2.0

■ブレーキフルード★〔FC・FD・GC・GD・FX・GX 車〕

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
日常 （運行前）	—	1 年	14-23

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブレーキ＆クラッチフルード （BF-3）

● 容量

オイル量（L）
約 1.3

■クラッチフルード★

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3ヵ月ごと 自家用 1年ごと	—	1年	14-25

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブレーキ＆クラッチフルード （BF-3）

● 容量

オイル量（L）
約 0.3

■電動キャブチルトシリンダーオイル★

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
1年	1年	2年	14-26

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
キャブチルトシリンダーオイル 日野純正ブルーリボンチルトオイル

● 容量

オイル量（L）	
ダブルキャブ	約 0.9

■ステアリングシャフトスプライン

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	5,000 km	—	14-33 1

備考：新車および分解整備後 1,000 km で補給

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

グリース量（mL）
15

■スプリングピン〔前軸・後軸（前）GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車〕〔前軸（後）〕シャックルピン（左右 4ヵ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
1ヵ月 または 5,000 km （寒冷地は春秋）	1ヵ月 または 5,000 km （寒冷地は春秋）	—	14-33 2

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量

■スプリングスライディングシート〔後軸〕（左右 6ヵ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
1ヵ月 または 5,000 km	1ヵ月 または 5,000 km	—	14-33 3

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量塗布

■キャブロックリンク本体摺動部

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	1ヵ月 または 5,000 km	—	14-34 4

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

不足の場合、適量塗布

■プロペラシャフトユニバーサルジョイント

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	4,000 km	—	14-34 5

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

適量

■プロペラシャフトスプラインヨーク

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	4,000 km	—	14-34 6

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

適量

■プロペラシャフトセンターベアリング

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	4,000 km	—	14-34 7

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

適量

■クラッチリリーススリーブ

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3ヵ月 または自家用 6ヵ月 ［シビアコンディション項目］	5,000 km	—	14-35 8

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

適量

■クラッチリリースシャフト（左右 2 カ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用 3ヵ月または自家用 6ヵ月［シビアコンディション項目］	5,000 km	—	14-35 9

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

適量

■ドラッグリンクボールジョイント（前後 2 カ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	6ヵ月	—	14-35 11

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

グリースがあふれ出るまで

■タイロッドボールジョイント（左右 2 カ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	6ヵ月	—	14-35 12

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

グリースがあふれ出るまで

■キングピン（左右・上下 4 カ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	6ヵ月 または 30,000 km （寒冷地は 春秋）	—	14-36 13

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース FX・GX 車： リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース または シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

グリースがあふれ出るまで

■キャブチルトトーションバーレバー先端摺動部〔手動キャブチルト車〕（左右 2 カ所）

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	1 年 または 60,000 km	—	14-37 14

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量塗布

■パーキングブレーキスフェリカルジョイント部〔FC・FD・GC・GD・FX のセンターパーキング車〕

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
—	5,000 km	—	14-37 15

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量塗布

■クラッチクレビスピン・クラッチリリースレバーブッシュ

● 時期

点検	補給	交換	記載ページ
事業用3ヵ月または自家用6ヵ月［シビアコンディション項目］	1年	—	14-38 16、17

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

適量

■クラッチペダルアームジョイントピン〔FC車〕

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量

■エンジンコントロールリンク

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量

■エンジンコントロールジョイント〔FC車〕

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量

■クラッチおよびブレーキペダルシャフト

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
シャシグリース 日野純正ブルーリボンシャシグリース

● 容量

適量

■フロントホイールハブ

● 時期

点検	補給	交換
—	—	1 年 または 50,000 km

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

車型	容量
FC・FD・GC・GD	約 430g（一輪）
FX・GX	—
FJ・FE	約 770g（一輪）

■リヤホイールハブ

● 時期

点検	補給	交換
—	—	1 年 または 50,000 km

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブルーリボン ベアリンググリース

● 容量

車型	容量
FC・FD	約 420 g（一輪）
FX・GX	
GC・GD・FJ・FE	約 800 g（一輪）
ホイールボルト 8 本の GX	

■スターター

給油脂箇所	時期	指定〔推奨〕油脂名	容量（g）
ピニオンケースブッシュ およびグリース溜り	分解点検 洗浄後給脂	極圧グリース 〔協同油脂： マルテンプ AC-N〕	0.8 ～ 1.5
ブラケットセンターブッシュ部 およびグリース溜り			0.8 ～ 1.5
シムワッシャー			0.2 ～ 0.5
アーマチュアフロントブッシュ			0.5 ～ 1.0
シムワッシャー			0.2 ～ 0.5
インターナルギヤ			7.0 ～ 11.0
アーマチュアギヤ			7.0 ～ 11.0
プラネタリーギヤ			7.0 ～ 11.0
インナースリーブブッシュ			0.3 ～ 0.6
ヘリカルスプライン			0.5 ～ 1.0
クラッチケースレバーシフター部		高温グリース 〔JXTG エネルギー： パイロノック No.2〕	1.0 ～ 2.0
ブラケットリヤベアリング ハウジング			0.2 ～ 0.5
プラネタリーギヤブッシュ		極圧グリース 〔協同油脂： マルテンプ AC-N〕	1.0 ～ 2.0
レバーホルダー部			0.4 ～ 0.8
レバーローラーロッド部		高温グリース 〔JXTG エネルギー： パイロノック No.2〕	0.2 ～ 0.5

■オルタネーターベアリング（ニードルベアリングのみ）

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
耐熱グリース〔NSK 製：EA-5〕

● 容量

適量

■クラッチリリースレバー先端部

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブレーキグリース 〔コスモ石油：アンチメルト 2 号 昭和シェル：バリアント M-3 号 JXTG エネルギー：サーマノック 2 号 曙ブレーキ：AKB100〕

● 容量

適量

■パーキングブレーキレッジ面など

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブレーキグリース 〔コスモ石油：アンチメルト 2 号 昭和シェル：バリアント M-3 号 JXTG エネルギー：サーマノック 2 号 曙ブレーキ：AKB100〕

● 容量

適量

■ドラムブレーキおよびパーキングブレーキのブレーキアンカーピン、ブレーキシューホールドワッシャー、シューウェーブのアンカーおよびアジャスター側端部

● 時期

点検	補給	交換
—	30,000 km	—

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
日野純正ブレーキグリース 〔コスモ石油：アンチメルト 2 号 昭和シェル：バリアント M-3 号 JXTG エネルギー：サーマノック 2 号 曙ブレーキ：AKB100〕

● 容量

適量

■クラッチスプラインハブとトランスミッションインプットシャフトスプライン

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
耐摩耗性グリース 〔シェル ルブリカンツジャパン： バリアント ー M〕

● 容量

適量

■クラッチカバー球面座

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
二硫化モリブデングリース 〔住鉱潤滑：モリ LG-S グリース〕

● 容量

適量

■プロペラシャフトスパイダー端面

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 〔日野純正ブルーリボン ベアリンググリース〕

● 容量

適量

■プロペラシャフトベアリングケース内面

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
リチューム系ベアリンググリース 〔日野純正ブルーリボン ベアリンググリース〕

● 容量

適量

■ホイールシリンダー摺動部など

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
防錆油 〔シーシーアイ：CCI#20〕

● 容量

適量

■ディスクブレーキピストンシール・ピストン外周部〔ディスクブレーキ〕★

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称	
FC・FD	組立液 日本グリース：E-2090
FX・GX フロント	ラバーグリース カストロール：H151/59

● 容量

適量

■ディスクブレーキガイドブッシュ外周およびブーツ溝・キャリパーボデーガイドブッシュ係合部内周およびガイドピンブーツ溝、ピストンブーツ溝・ガイドピンブーツ内側・ピストンブーツ内側〔ディスクブレーキ〕★

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称	
FC・FD	ラバーグリース クリューバ SYNTHESO GLK
FX・GX フロント	ラバーグリース ニグループ RM2

● 容量

適量

■ブレーキホイールシリンダーピストン外周・ブーツシール溝部、アジャスティングスクリューのねじ部
ホイールシリンダーのウエッジローラー部
クレビス部

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
ラバーグリース 〔ニグループ RX2〕

● 容量

適量

■ブレーキブースターパワーシリンダー内面およびパワーピストンラバーパッキン摺動部

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
エアマスターペースト コスモ石油 ダイナマックス No.2

● 容量

適量

■ブレーキブースターパワーシリンダー内面およびパワーピストンラバーパッキン摺動部〔FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX〕（リヤ）

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
昭和シェル アルバニア・グリース No.2

● 容量

適量

■エキスパンダー摺動部

● 時期

分解整備時

● 指定〔推奨〕油脂名

名称
グリース 昭和シェル　ダリナグリース 2

● 容量

適量

故障時の処置 15

不調時の原因と処置 P.15-2
アイドルストップシステムの不調時の原因と処置 P.15-19
故障したとき P.15-20
発炎筒（緊急保安炎筒） P.15-21
消火器★ P.15-22
警告灯が点灯したとき P.15-23
メーターが異常を示したとき P.15-23
オーバーヒートしたとき P.15-24
警報ブザーが鳴ったとき P.15-25
ランプ類が点灯しないとき P.15-26
ヒューズを交換するとき P.15-39
ヒュージブルリンクが溶断したとき P.15-44
リレーが故障したとき P.15-46
パーキングブレーキが解除できなくなったとき〔ホイールパーキング車〕.....P.15-48
ブレーキの効きが悪くなったとき P.15-50
走行中エンジンが止まったとき P.15-51
走行中パンクしたとき P.15-51
火災が発生したとき P.15-52
燃料が切れたとき P.15-52
バッテリーがあがったとき P.15-54
けん引するとき、してもらうとき P.15-55

故障を防止するため、正しい運転と日常の手入れおよび定期的な点検・整備を確実に実施してください。

不調が発生したときは、大きな故障になる前に修理してください。

原因が不明なとき、ご自分で整備できないときは、日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

不調時の原因と処置

■エンジンがかからない

▶ スターターが回らない、または回転が低い場合

現象／原因	処置	記載ページ
バッテリーがあがっている。	充電するかまたは交換する。	13-96
バッテリー端子の外れ・ゆるみ・腐食がある。	腐食部を完全に清掃後確実に締め付ける。	13-96
アースが外れている。	確実に取り付ける。	—
スターター、電気系統の故障。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
セレクトレバーが N 、P 位置に無い。（オートマチックトランスミッション）	セレクトレバーを N 、P 位置にし、エンジンを再始動する。	5-19
エンジンオイルの粘度が高すぎる。	適正オイルと交換する。	14-4

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

▶ スターターが正常に回る場合

現象／原因	処置	記載ページ
予熱操作の誤り。	正しく操作する。	5-5
予熱装置の故障。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
燃料がない。	燃料を補給し、エア抜きをする。	15-52
フューエルフィルターが詰まっている。	エレメントを交換し、エア抜きをする。	13-11
チェックエンジンランプまたは MIL が点灯している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	6-96 6-94
燃料系統にエアがたまっている。	エア抜きをする。	15-52
燃料が凍結している。	プレフューエルフィルターの燃料パイプをお湯（60 ℃以下）で暖める。	—
燃料タンクに水がたまっている。	水抜きをする。	—
インテークダクトの空気取り入れ口がシート、幌などでふさがっている。	シート、幌などがバタつかないよう荷台に固定する。	9-17
エアクリーナーが詰まっている。（マルチインフォメーションに ランプが点灯および“ エアクリーナー点検時期 ”が表示されている）	エレメントを清掃するかまたは交換する。	13-21
インテークエアホースにつぶれ、外れ、亀裂がある。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
イモビライザーシステムの異常。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
プレフューエルフィルターのコックが閉まっている。（消防車、ダブルキャブ車）	コックを開ける。	13-14
尿素水タンクの AdBlue® （尿素水）がない。（空タンク）	AdBlue® （尿素水）を補給する。	6-98
AdBlue® （尿素水）の品質異常。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	6-100

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■エンジンが止まらない

現象／原因	処置	記載ページ
スタータースイッチの故障。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■低速回転が不調で止まりやすい

現象／原因	処置	記載ページ
アイドリング回転が低い。	アイドルセットボタンで標準回転数に調整する。	5-9
燃料がない。	燃料を補給し、エア抜きをする。	15-52
フューエルフィルターが詰まっている。	エレメントを交換し、エア抜きをする。	13-11
燃料系統にエアがたまっている。	エア抜きをする。	15-52
インテークダクトの空気取り入れ口がシート、幌などでふさがっている。	シート、幌などがバタつかないよう荷台に固定する。	9-17
エアクリーナーが詰まっている。（マルチインフォメーションに ランプが点灯および“ エアクリーナー点検時期 ”が表示されている）	エレメントを清掃するかまたは交換する。	13-21
インテークエアホースにつぶれ、外れ、亀裂がある。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■エンジンの力がない

現象／原因	処置	記載ページ
フューエルフィルターが詰まっている。	エレメントを交換し、エア抜きをする。	13-11
燃料系統にエアがたまっている。	エア抜きをする。	15-52
軽油以外の燃料を使用している。	指定軽油に交換する。	—
インテークダクトの空気取り入れ口がシート、幌などでふさがっている。	シート、幌などがバタつかないよう荷台に固定する。	9-17
DPR（排出ガス浄化装置）が目詰まりしている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
エアクリーナーが詰まっている。（マルチインフォメーションに ランプが点灯および“ エアクリーナー点検時期 ”が表示されている）	エレメントを清掃するかまたは交換する。	13-21
インテークエアホースにつぶれ、外れ、亀裂がある。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ヒューズが切れている。	ヒューズの点検・交換をする。	15-39
パーキングブレーキが戻っていない。	レバーをいっぱいに戻す。	5-48
ブレーキを引きずっている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
クラッチが滑っている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
チェックエンジンランプまたは MIL が点灯している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	6-96 6-94

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■エンジンがオーバーヒートする

現象／原因	処置	記載ページ
ラジエーターキャップが正常に締まっていない。	冷却水が冷えてから、正しく締めなおす。	13-33
ラジエーターキャップの作動不良。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
冷却水が不足している。	冷却水の漏れがないか点検し給水する。（エア抜きは十分に行うこと）	13-25
ラジエーター前面がゴミなどで詰まっている。	洗浄する。	13-29
ラジエーターが水あかで詰まっている。	洗浄する。	13-32
インタークーラー前面がゴミなどで詰まっている。	洗浄する。	13-20
サーモスタットの作動不良。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ファンベルトがゆるんでいる。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ファンクラッチが故障している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■排出ガスが黒い

現象／原因	処置	記載ページ
チェックエンジンランプまたは MIL が点灯している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	6-96 6-94
DPR（排出ガス浄化装置）の故障。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

· 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■排出ガスが白い

現象／原因	処置	記載ページ
アイドリング回転数が高い。	アイドルセットボタンで標準回転数に調整する。	5-9
エンジンリターダーの故障。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
チェックエンジンランプまたはMILが点灯している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	6-96 6-94

■燃料消費量が多い

現象／原因	処置	記載ページ
燃料が漏れている。	燃料系統を点検し、ゆるみがあるときは正しく締めなおし、最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	13-18
インテークダクトの空気取り入れ口がシート、幌などでふさがっている。	シート、幌などがバタつかないよう荷台に固定する。	9-17
エアクリーナーが詰まっている。（マルチインフォメーションに ランプが点灯および“ エアクリーナー点検時期 ”が表示されている）	エレメントを清掃するかまたは交換する。	13-21
インテークエアホースにつぶれ、外れ、亀裂がある。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
タイヤの空気圧が低い。	標準空気圧にする。	12-14
クラッチが滑っている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ブレーキを引きずっている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
チェックエンジンランプまたはMILが点灯している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	6-96 6-94

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■エンジンオイルの消費量が多い

現象／原因	処置	記載ページ
使用オイルが不適正。	指定（推奨）銘柄の新品オイルに交換する。	14-4
オイルの量が多すぎる。	正規オイル量にする。	12-7
オイルが漏れている。	ボルトおよびナットがゆるんでいるときは増し締めする。	—
オイルの交換時期が遅い。	指定交換時期通りに交換する。	14-4
オイルフィルターが目詰まりしている。	エレメントを交換する。	13-8
暖機運転を省略している。	指定通りに行う。	5-11

■ギヤチェンジが困難

現象／原因	処置	記載ページ
クラッチ液量が不足している。	液量を点検する。配管系のゆるみで液漏れがあるときは最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	14-25
空気圧が不足している。	エンジンの回転を上げてエアを充てんする。	6-5

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■オートマチックトランスミッションギヤが「N」のまま前・後進ギヤに入らない

現象／原因	処置	記載ページ
エンジン回転数が高い。	エンジン回転数を 900 r/min 以下にする。	5-9
オートマチックトランスミッションオイルが不足している。	正規オイル量にする。	14-14
電圧が低い。 （バッテリーの容量が十分ない）	バッテリーを充電するかまたは交換する。	13-96
セレクターの作動不良。	セレクターを交換する。最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ストップランプ回路の断線。	ランプ、スイッチなどの回路を修復する。最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ブレーキペダルを踏んでいない。	セレクトレバーを「N」位置に戻し、ブレーキペダルを踏んでから再度ギヤを入れる。	—
車両が動いている。	セレクトレバーを「N」位置に戻し、車両を止めてから（約 3 km/h 以下）再度ギヤを入れる。	—
アクセルペダルが踏まれている。	アクセルペダルを戻す。	—
コネクターの外れ、または汚れ。	コネクターを点検する。	—
ハーネスの不良。	ハーネスを修理する。最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
オートマチックトランスミッションコンピューターの不良。	コンピューターを交換する。最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■ハンドルの戻りが悪い

現象／原因	処置	記載ページ
ステアリング各部の給脂が不十分である。	給脂する。	14-32

■ハンドルが重い

現象／原因	処置	記載ページ
積荷が前にかたよっている。	正しく積みなおす。	9-16
タイヤの空気圧が低い。	標準空気圧にする。	12-14
パワーステアリングのオイルが不足している。	補給する。	14-22

■走行中ハンドルが振れる

現象／原因	処置	記載ページ
ステアリング関係の連結部がゆるんできている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	13-80
パワーステアリング回路にエアが混入している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
タイヤのバランスが悪い。	バランスを取りなおす。	—
タイヤの空気圧が不均一。	標準空気圧にする。	12-14
タイヤが偏摩耗している。	タイヤを交換する。	12-15
ホイールナットがゆるんでいる。	正規トルクで締め付ける。	13-59

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■ブレーキの効きが悪い

現象／原因	処置	記載ページ
空気圧力が低い。	エンジンの回転を上げてエアを充てんする。	6-5
ライニングとドラムのすきまが大きい。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ライニング（パッド）が使用限度に達している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ライニング（パッド）表面に油脂類が付着している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ブレーキ液系統にエアが混入している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ブレーキ系統からエア漏れまたは液漏れがある。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■ブレーキが引きずる

現象／原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムのすきまが不適正。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■ブレーキが片効きになる

現象／原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムのすきまが不適正。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
タイヤの空気圧が不均一。	標準空気圧にする。	12-14
タイヤの摩耗が不均一。	タイヤを交換する。	12-15
積荷が左右どちらかによっている。	均等になるよう積みなおす。	9-16

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■パーキングブレーキの効きが悪い

現象／原因	処置	記載ページ
ライニングとドラムのすきまが大きい。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	13-41
ライニングが使用限度に達している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ライニング表面に油脂類が付着している。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■空気圧力が減少する

現象／原因	処置	記載ページ
エア系統からエアが漏れている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■ブレーキ液が減少する（FC・FD・GC・GD・FJ・FE・FX・GX 車）

現象／原因	処置	記載ページ
ブレーキ系統から液が漏れている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■しばしばバッテリーがあがる

現象／原因	処置	記載ページ
バッテリー端子の腐食・外れ・ゆるみがある。	腐食部を清掃し確実に取り付ける。	13-96
バッテリー液が不足している。	補給する。	13-96
バッテリーに寿命がきている。	バッテリーを交換する。	13-96
灯火器類ほか電気装置のスイッチを入れたままである。	確実に切るよう心掛ける。	—
バッテリーカットスイッチを常時「ON」にしている。（消防車）	駐車するときはスイッチを「OFF」にする。	5-3
オルタネーターが発電不良を起こしている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
ファンベルトがゆるんでいる。	ファンベルトの張りを正規に調整するかまたは最寄りの日野販売会社の整備工場でベルトを交換する。	13-34
電気負荷の使用が（増設した電気負荷の使用頻度大・夜間低速走行の割合が多いなど）多い。	最寄りの日野販売会社の整備工場と相談してオルタネーターの容量を見直す。	—
アイドリング回転数が低い。	アイドルセットボタンで標準回転数に調整する。	5-9

■ランプがつかない

現象／原因	処置	記載ページ
バルブが切れている。	バルブを交換する。	15-26
ヒューズが切れている。	ヒューズを交換する。交換後さらにヒューズが切れるときは最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	15-39
各部のアース不良。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■走行中異音がする

現象／原因	処置	記載ページ
タイヤの空気圧が不足している。（ウォーン音）	標準空気圧にする。	12-14
タイヤに異物がかみ込んでいる。（ウォーン音）	異物を取り除く。	—
ホイールナットがゆるんでいる。（ガタガタ音）	ゆるんでいるときは正規トルクで締め付ける。	13-73
ファンベルトがゆるんでいる。（ギューン音）	ベルトの張りを正規に調整する。	13-34
エンジンオイルが不足している。（エンジン音が全体にうるさい）	補給する。	14-4
パワーステアリングのオイルが不足している。（ギューン音）	補給する。	14-22
荷物を高く積んでいる。（ゴーゴー音）	積み方を変える。	9-16
排気管・マフラーの取り付け部がゆるんでいる。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

■走行中車両が異常に振動する

現象／原因	処置	記載ページ
プロペラシャフトの各連結部のナットがゆるんでいる。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
プロペラシャフトの振れが大きい。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
プロペラシャフトのユニバーサルジョイント、センターベアリングにガタがある。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■走行中キャブが異常に振動する

現象／原因	処置	記載ページ
キャブチルト用電動油圧ポンプの切り替えレバーが「」（上げ）の位置になっている。	切り替えレバーを「」（下げ、走行）の位置にする。	11-6
シートやキャリアなどに過大な重量物を載せている。	上のせ重量を減らす。	—
ショックアブソーバーから油が漏れている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■キャブが上がらない（電動キャブチルト）

▶ 電動モーターが動かない

現象／原因	処置	記載ページ
連続操作などでモーターが過熱している。	しばらく時間をおいて（モーターを冷やす）から再操作する。	11-6
バッテリーがあがっている。	充電するか交換する。	13-96
ヒューズが切れている。	ヒューズを交換する。交換後さらにヒューズが切れるときは最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	15-39

▶ 電動モーターは動くが上がらない

現象／原因	処置	記載ページ
電動油圧ポンプ切り替えレバーが「」（下げ、走行）の位置になっている。	切り替えレバーを「」（上げ）の位置にする。	11-6
油圧ジョイントから作動油が漏れている。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—
キャブを上げた状態で作動油を補給した。	キャブを下げた状態で油量を点検し、規定レベルにする。	—
エアが混入した。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

· 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■キャブが下がらない（電動キャブチルト）

▶ 電動モーターが動かない

現象／原因	処置	記載ページ
連続操作などでモーターが過熱している。	しばらく時間をおいて（モーターを冷やす）から再操作する。	11-6
バッテリーがあがっている。	充電するか交換する。	13-96
ヒューズが切れている。	ヒューズを交換する。交換後さらにヒューズが切れるときは最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	15-39

▶ 電動モーターは動くが下がらない

現象／原因	処置	記載ページ
電動油圧ポンプ切り替えレバーが「」（上げ）の位置になっている。	切り替えレバーを「」（下げ、走行）の位置にする。	11-6

■キャブがいつもより早く下がる（電動キャブチルト）

現象／原因	処置	記載ページ
油圧系統の故障。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

■ES スタート★が作動しない

現象／原因	処置	記載ページ
メインスイッチが「OFF」になっている。	スイッチを「ON」にする。	5-94
車両が完全に停止していない。	ブレーキペダルを踏み完全に車両を停車させる。	5-94

■ES スタート★が解除しない

現象／原因	処置	記載ページ
発進操作が間違っている。	発進操作を正しく行う。	5-94
解除タイミングの調整不良。	「調整方法」にしたがって適正な状態に調整する。	5-100

· 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

アイドルストップシステムの不調時の原因と処置

■エンジンが自動始動しない

現象／原因	処置	記載ページ
前回エンジンを止めたとき、スターターキーで止めた。	スターターキーでエンジンを始動する。	—
前回エンジンを止めたとき、エンストで止まった。	スターターキーでエンジンを始動する。	—
スターターの噛み合い不良が起きた。	もう一度クラッチ（MT 車）またはブレーキ（AT 車）を踏みなおす。	—
エンジンがかかる前にギヤを入れた。	いったんギヤをニュートラルに戻してからクラッチを踏みなおす。（MT 車のみ）	—

■エンジンが自動停止しない

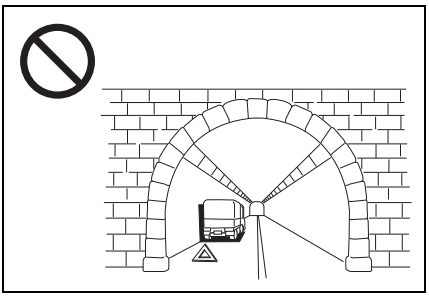
現象／原因	処置	記載ページ
Ⓐ OFF ランプが消灯してから、10 km/h 以上で走行しなかった。	Ⓐ OFF ランプが消灯してから、10 km/h 以上で走行する。	—
空気圧が不足している。	エンジンの回転を上げてエアを充てんする。	—
バッテリーの電圧が低い。	バッテリーを充電する。	13-96
エンジンの冷却水温が低い。	エンジンの冷却水温が適温になるまで十分暖機する。	—
アイドリング回転数が高い。	アイドリング回転数を 1,000 r/min 以下にする。	—
登坂路や高速走行などの高負荷走行直後である。	1 分程度のアイドリング運転を行う。	—
前回、タイヤロックや急停車などして停車した。	急停車とならないように停車する。	—
DPR（排出ガス浄化装置）がクリーニングモード中である。	クリーニングモードが終了すれば正常に自動停止するようになる。	—
アイドルストップシステムの異常。	最寄りの日野販売会社の整備工場へ。	—

・ 記載ページの数字は処置が記載してあるタイトルのページを示します。

故障したとき

■停車時の注意

・ 万一、車両が故障したときは、あわてずにハザードランプを点灯させ、後続車に注意を促してください。そして、徐々にスピードを落とし、ほかの交通のさまたげとならない安全な場所に停車させた後、故障表示をしてください。



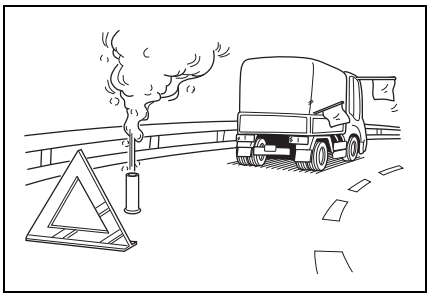
⚠警告

- トンネル内での停車は危険です。できるだけトンネルを出てから停車させてください。
- 停車後は、必ずタイヤの前後に輪止めを掛けてください。パーキングブレーキが効かない故障もあります。
- 高速道路や自動車専用道路では、停車していることが後続車にわかるように、自動車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務づけられています。

■故障車の表示方法

⚠警告

車両故障により停車するときは、必ず故障の表示をしてください。
故障の表示をしないでいると、後続車に追突されるおそれがあります。



表示には、次のような方法があります。

・ ハザードランプを点滅させる。
・ 停止表示板を車両後方に置く。
・ 赤旗の掲示または赤ランプを点灯させる。
・ 白い布などを車外の目立つところに結びつける。
・ 場合によっては、発炎筒（緊急保安炎筒）を着火させる。

知識

停止表示板（停止表示灯）はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。日野販売会社でお求めいただけます。

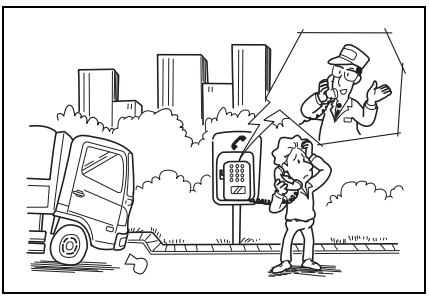
■故障とその処置

・ 故障個所を点検し、整備可能なときは、他車の通行に十分注意して作業してください。
整備が不可能なときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠警告

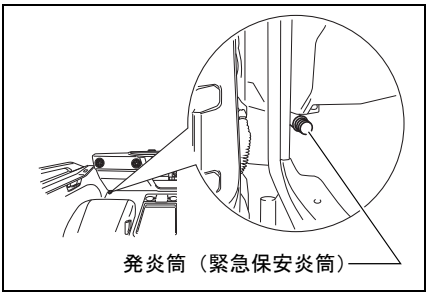
トンネル内での整備は、非常に危険ですので行わないでください。

・ 高速道路では、非常電話でロードサービスに連絡し、その指示にしたがってください。また、危険防止のための処置をした後、車内に残らずガードレールの外に避難してください。



発炎筒（緊急保安炎筒）

・ 踏み切りや高速道路での故障などの非常時に使用します。発炎時間は約 5 分間です。
取り付け位置は、助手席の前側下部（カウルサイド部）で、車両中心側に引くと外れます。



発炎筒（緊急保安炎筒）

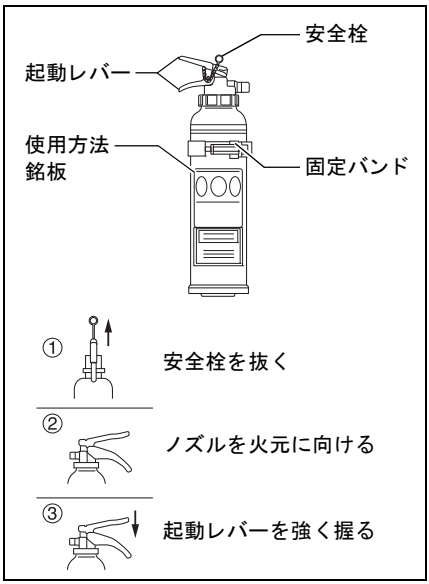
⚠警告

- 炎が 15 cm 程度噴き出します。着火の際、筒先を顔や体に向けないでください。やけどをするおそれがあります。
- お子さまには手を触れさせないでください。いたずらなどにより発火し事故につながるおそれがあります。
- トンネル内では、使用しないでください。煙のために視界が悪くなります。トンネル内ではハザードランプなどを使用してください。
- ガソリンや燃えやすい物のそばでは使用しないでください。引火するおそれがあります。

アドバイス

- 有効期限が発炎筒本体に記載してありますので、期限が過ぎる前に新品と交換してください。
- 使用方法および取り扱いについて発炎筒（緊急保安炎筒）の本体に記載してありますので前もって確認しておいてください。
- 前もって発炎筒（緊急保安炎筒）の脱着方法を確認しておいてください。

消火器★



アドバイス

- 使用方法、用途は消火器に貼ってある銘板で前もって確認しておいてください。
- 有効期限が本体に記載してありますので、期限がすぎる前に新品と交換してください。
- 前もって消火器の脱着方法を確認しておいてください。

＊ 消火器は座席後方のフロア上面に取り付けられています。

警告灯が点灯したとき

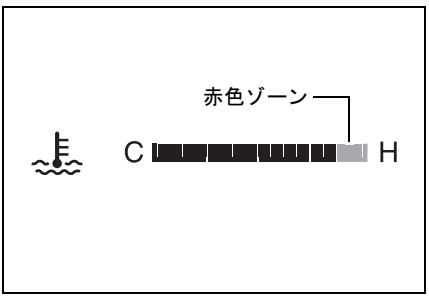
- 警告灯が点灯したときは、6 章 メーター・警告灯・表示灯の見方を参照してください。

メーターが異常を示したとき

- メーターが異常を示したときは、6 章 メーター・警告灯・表示灯の見方を参照してください。

オーバーヒートしたとき

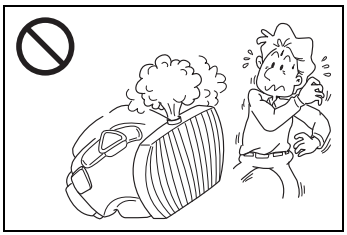
・ 水温計の目盛りが赤色ゾーンを示しマルチインフォメーションに ランプが点灯および“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジンオーバーヒート ”を表示し、同時にブザーが鳴ったときは、エンジンのオーバーヒートです。また、目盛りが赤色ゾーンを示しマルチインフォメーションに ランプが点灯および“ ⚠ 安全な場所に停車 冷却水不足 ”が表示され、同時にブザーが鳴ったときは冷却水不足によるオーバーヒートです。



・ ただちに安全な場所に停車させ、エンジン回転数をアイドリングの状態より若干高めにし、水温計の目盛りが中央付近まで移動するのを確認してください。

⚠ 警告

冷却水が高温のときは絶対にラジエーターキャップを開けないでください。熱湯や蒸気が噴き出して、やけどをするおそれがあり危険です。



・ 冷却水温が下がったらエンジンを止め、以下の点検を行ってください。

1. 冷却水がリザーブタンクの「LOW」の線以上に水位があるか、冷却水量の点検を行ってください。
2. ラジエーターの前面にゴミやビニールなどが付着していないか点検し、付着している場合は洗浄、除去を行ってください。
3. 冷却系統の水漏れがないかを点検します。水漏れなどの異常がなく、冷却水が不足している場合は、冷却水を補給してください。

アドバイス

すぐにエンジンを止めないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

＊ 冷却水の補給は（→ P.13-31）
＊ ラジエーターキャップの取り扱いは（→ P.13-33）

・ 水漏れがあったり、補給してもマルチインフォメーションに ランプが点灯および“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジンオーバーヒート ”を表示したままのときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

アドバイス

- オーバーヒートした高温のエンジンに、水を補給するとエンジンを破損させるおそれがあります。ゆっくりと少しずつ補給してください。
- マルチインフォメーションに ランプが点灯および“ ⚠ 安全な場所に停車 エンジンオーバーヒート ”を表示したときは、走行し続けないでください。エンジン焼き付きの原因になります。

警報ブザーが鳴ったとき

警報ブザーが鳴ったときは、次の部位を確認してください。

・ クーラントレベル（→ P.6-79）
・ オイルプレッシャー（→ P.6-80）
・ 空気圧計（エアプレッシャーゲージ）（→ P.6-5）
・ ブレーキアジャスト（→ P.6-82）
・ ブレーキ液レベル（→ P.6-83）
・ オーバーヒート（→ P.15-24）

ランプ類が点灯しないとき

ランプ類の交換は必ずスターターキーを「LOCK」の位置にし、そのほかのスイッチを「OFF」にしてから行ってください。

＊ LED を使用しているランプが点灯しなくなったときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠ 警告

- ランプ類は規定ワット数以外の物を使用するとレンズやケースの変形、および配線過熱などによる火災の原因になりますので、ランプ類は必ず規定ワット数のものを使用してください。
- 消灯後すぐにランプ類を交換すると、ランプ類が高温になっていてやけどをするおそれがありますので、ランプ類の温度が十分下がったことを確認してから交換作業を行ってください。
- ケガややけどを防ぐため、ランプ類の交換作業は、手袋を着用して行ってください。
- ランプ類の交換時は、金具の形状を正しく合わせて取り付けてください。正しく取り付けないとショートによる火災や配光不良の原因になります。
- ランプ類が故障した状態で走行しないでください。思わぬ事故の原因になります。

アドバイス

- 左右対になっているランプのうち片側のランプが切れた場合、対になっているもう一方のランプも切れる可能性があるため、左右同時に交換することをお勧めします。
- ランプ類を交換するときは、手袋を着用してください。

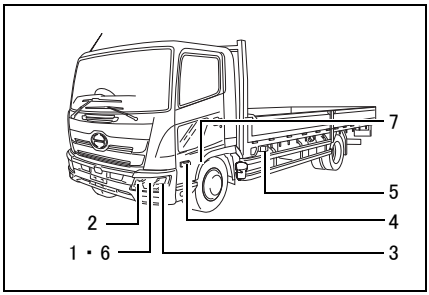
■ランプ一覧表

No.	ランプの名称	容量
1	ハロゲンヘッドランプ（ロービーム／ハイビーム）	24V-75/70W
2	ハロゲンヘッドランプ（ハイビーム）	24V-70W
3	ターンシグナルランプ（フロント）	24V-21W
4	ターンシグナルランプ（フロントサイド）	24V-21W
5	ターンシグナルランプ（サイド）	24V-25W
6	クリアランスランプ	24V-5W
7	ステップランプ	24V-6W
8	ターンシグナルランプ（リヤ）	24V-21W
9	ストップランプ／テールランプ	24V-21/5W
10	ストップランプ	24V-21W
11	バックランプ	24V-21W
12	ライセンスプレートランプ	24V-5W
13	ヒーターコントロールパネルランプ	24V-1.8W

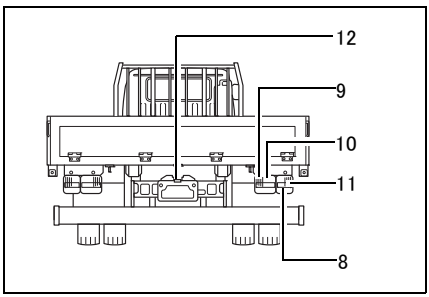
■ランプ位置

イラストの数字は一覧表の No. です。

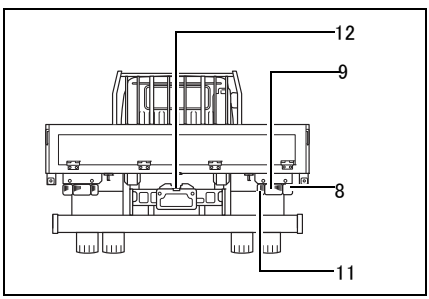
〔消防車以外〕



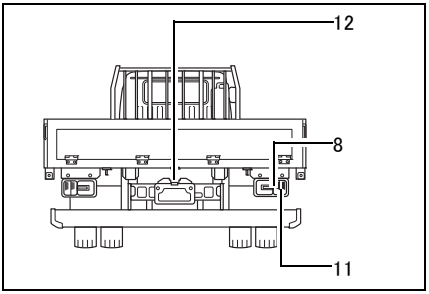
〔3 連リヤコンビネーションランプ（バルブ A 仕様）〕



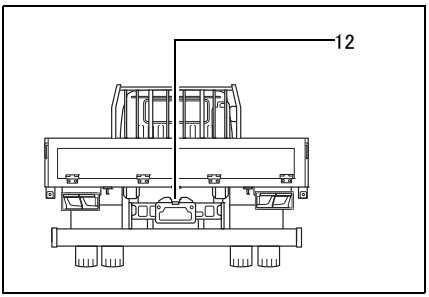
〔3 連リヤコンビネーションランプ（バルブ B 仕様）〕



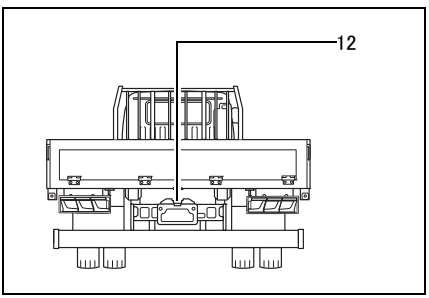
〔3 連リヤコンビネーションランプ（LED 仕様）〕



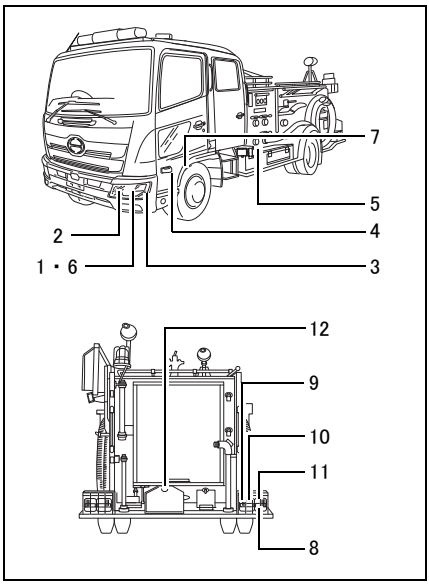
〔2 連リヤコンビネーションランプ（フル LED 仕様）〕



〔3 連リヤコンビネーションランプ（フル LED 仕様）〕



〔消防車〕



■ヘッドランプの交換

▶ LED ランプ（バンパー付きタイプ）

〔下向き（ロービーム）ランプの交換〕

故障等が発生したときは、日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

〔上向き（ハイビーム）ランプの交換〕

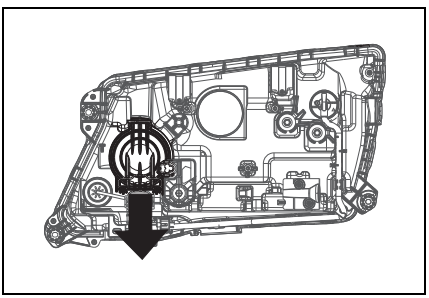
アドバイス

ハロゲンランプ（ヘッドランプ）のバルブのガラス面には手を触れないでください。手の油などが付くと球切れの原因になります。

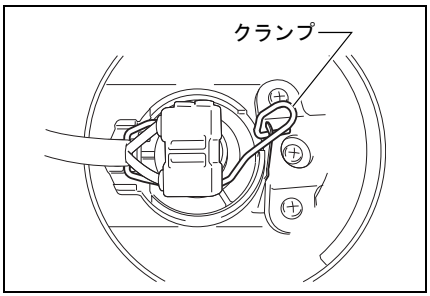
1. キャブをチルトします。

＊ キャブチルトするときは、11 章キャブチルトを参照してください。

2. 上向きランプ後面のロックスプリングを外しカバーを開けます。

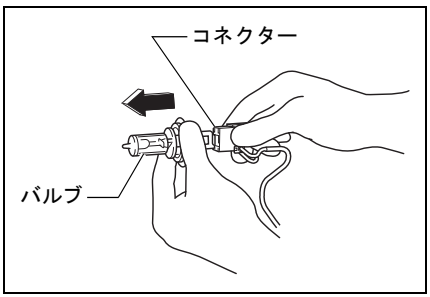


3. クランプを解除して、バルブを取り出します。



4. バルブをコネクターから抜き取り、新品のバルブと交換します。

＊ この際、バルブのガラス面に手を触れないように注意してください。



5. バルブ交換後、逆の手順でバルブをランプ本体に取り付けます。

＊ クランプに電線がかみ込まないようにしてください。

6. カバーのパッキンを確認し、汚れている場合は清掃します。パッキンにひび割れ等があるときは、パッキンを交換します。

＊ パッキンを交換する際には、カバー溝を清掃した後、パッキンを取り付けてください。
また、パッキンはカバー溝に確実に押し込んでください。

7. パッキンが確実にカバーに押し込まれていることを確認してください。

アドバイス

パッキンがずれた状態でカバーをランプ本体に取り付けると、水が入る原因となる可能性があります。

8. カバーをランプ本体に取り付け、ロックスプリングをロックします。
9. キャブを降ろします。

＊ キャブを降ろすときは 11 章キャブチルトを参照してください。

▶ ハロゲンランプ（バンパー付きタイプ）

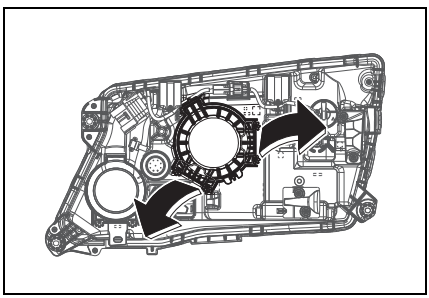
アドバイス

ハロゲンランプ（ヘッドランプ）のバルブのガラス面には手を触れないでください。手の油などが付くと球切れの原因になります。

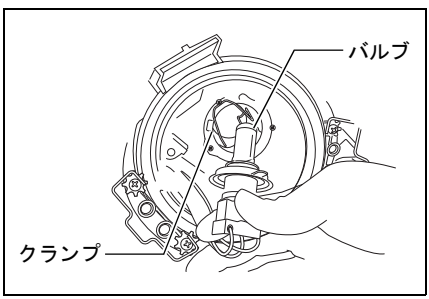
1. キャブをチルトします。

＊ キャブチルトするときは、11 章キャブチルトを参照してください。

2. ヘッドランプ後面のロックスプリング 2 カ所を外し、カバーを開けます。

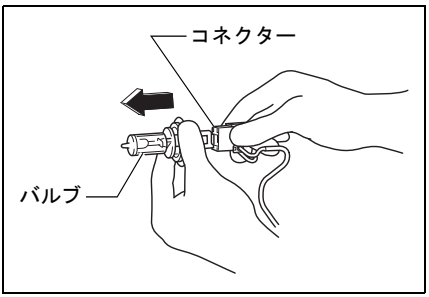


3. クランプを解除してバルブを取り出します。



4. バルブをコネクターから抜き取り、新品のバルブと交換します。

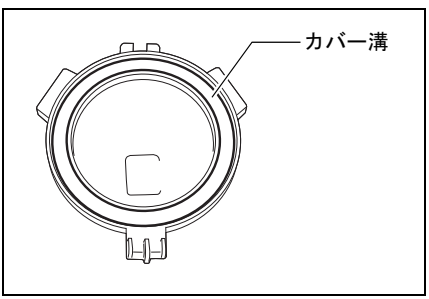
＊ この際、バルブのガラス面に手を触れないように注意してください。



5. バルブ交換後、逆の手順でバルブをランプ本体に取り付けます。

6. カバーのパッキンを確認し、汚れている場合は清掃します。パッキンにひび割れ等があるときは、パッキンを交換します。

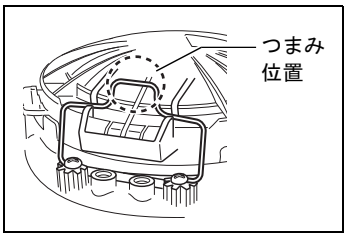
＊ パッキンを交換する際には、カバー溝を清掃した後、パッキンを取り付けてください。
また、パッキンはカバー溝に確実に押し込んでください。



7. カバーをランプ本体にセットして、ロックスプリング 2ヵ所をロックします。

アドバイス

ロックスプリング操作時は、下図のつまみ位置を持って作業してください。つまみ位置以外を持って操作すると、確実にロックされない可能性があります。



8. キャブを降ろします。

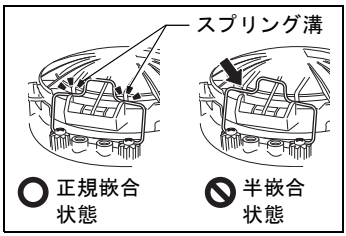
＊ キャブを降ろすときは 11 章キャブチルトを参照してください。

⚠ 警告

ロックスプリングをロックする際には、「パチッ」と音がするまで押し込んでください。ロックが不完全な場合、ランプ内部に水やほこりが浸入し思わぬ故障の原因になったり、火災や感電につながるおそれがあります。

アドバイス

カバー取り付け後、ロックスプリングがカバーのスプリング溝に確実にセットされていることを確認してください。



■フォグランプの交換

▶ LED ランプ

故障等が発生したときは、日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

■クリアランスランプの交換

▶ LED ランプ

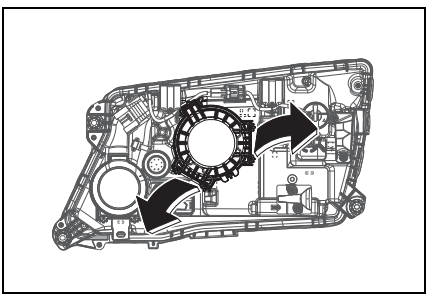
故障等が発生したときは、日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

▶ ハロゲンランプ（バンパー付きタイプ）

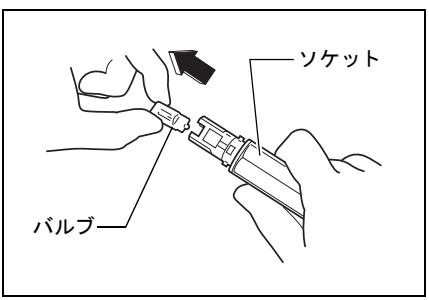
1. キャブチルトします。

＊ キャブチルトするときは、11 章キャブチルトを参照してください。

2. ヘッドランプ後面のロックスプリング 2 カ所を外し、カバーを開けます。



3. ヘッドランプ内のリフレクターに取り付けられているソケットを取り外します。
4. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



5. バルブ交換後、逆の手順でソケットを取り付けます。
6. キャブを降ろします。

＊ キャブを降ろすときは 11 章キャブチルトを参照してください。

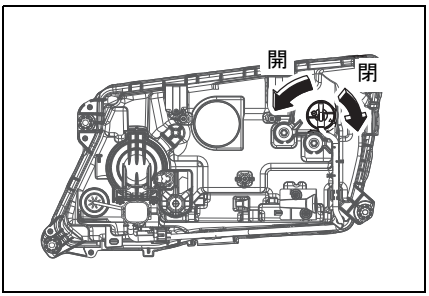
■ターンシグナルランプ（フロント）の交換

▶ ハロゲンランプ（バンパー付きタイプ）

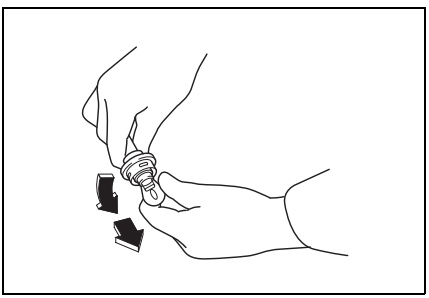
1. キャブチルトします。

＊ キャブチルトするときは、11 章キャブチルトを参照してください。

2. ヘッドランプ後面からソケットを左に回して外します。



3. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



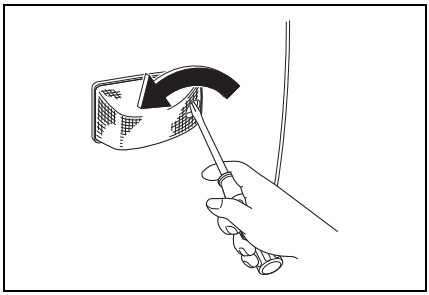
4. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

5. キャブを降ろします。

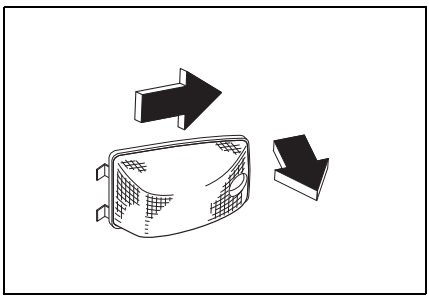
＊ キャブを降ろすときは 11 章キャブチルトを参照してください。

■ターンシグナルランプ（フロントサイド）の交換

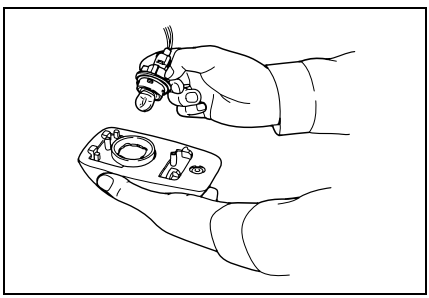
1. ビス１本を外します。



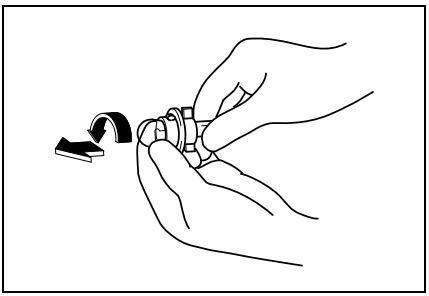
2. ランプを車両進行方向へスライドさせ、ドア面から外します。



3. ランプからバルブをソケットごと取り出します。



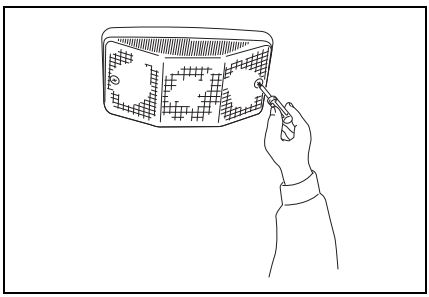
4. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



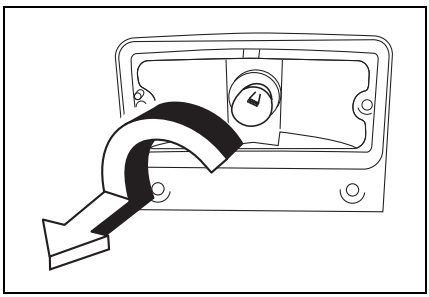
5. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

■ターンシグナルランプ（サイド）の交換

1. ビスを 2 本外し、カバーを取り外します。



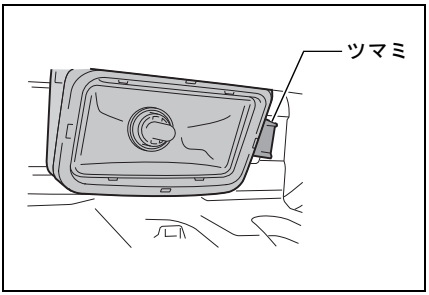
2. バルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



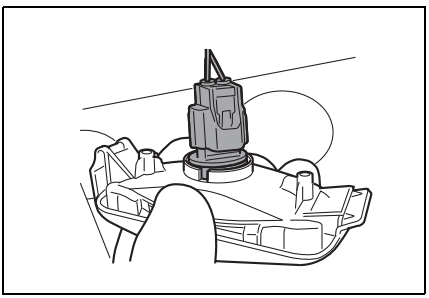
3. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

■ナンバープレートランプの交換

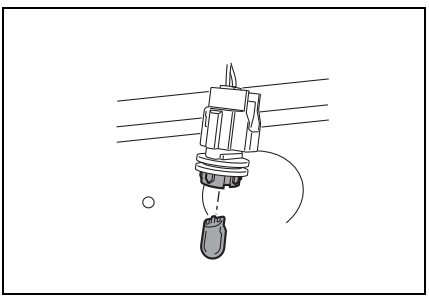
1. ツマミを押してランプを取り外します。



2. ランプからソケットを取り外します。



3. バルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



4. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

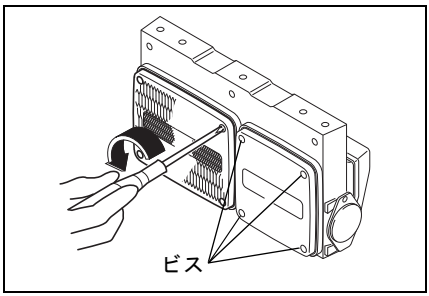
■テールランプ／ストップランプの交換

▶ LED ランプ

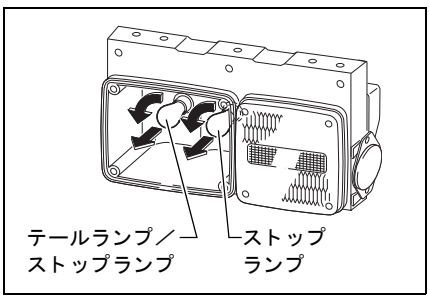
故障等が発生したときは、日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

▶ バルブランプ（バルブ A 仕様）

1. ビス 4 本を外し、カバーを取り外します。



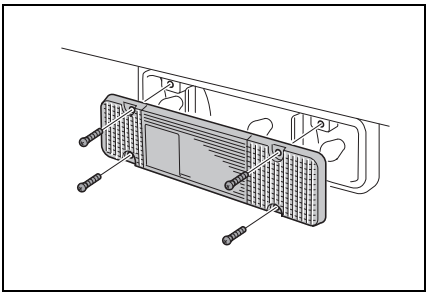
2. バルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



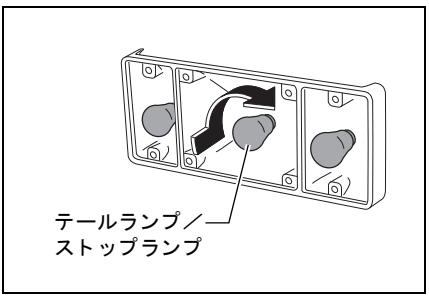
3. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

▶ バルブランプ（バルブ B 仕様）

1. ビス 4 本を外し、カバーを取り外します。



2. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



3. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

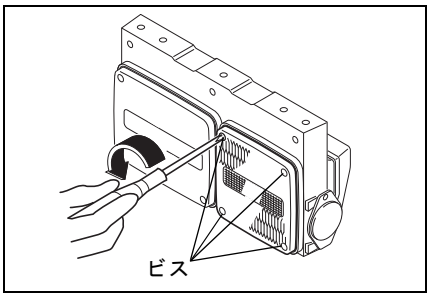
■ターンシグナルランプ（リヤ）バックランプの交換

▶ LED ランプ

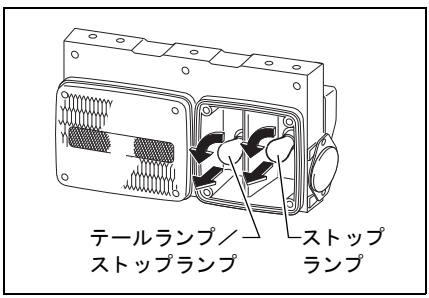
故障等が発生したときは、日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

▶ バルブランプ（バルブ A 仕様）

1. ビス 4 本を外し、カバーを取り外します。



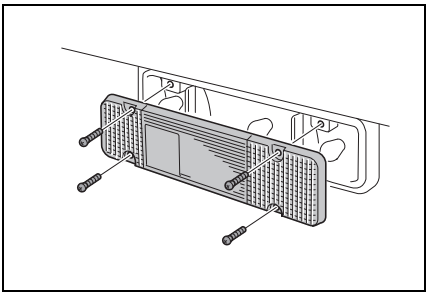
2. バルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



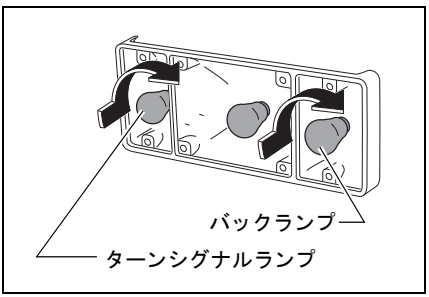
3. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

▶ バルブランプ（バルブ B 仕様）

1. ビス 4 本を外し、カバーを取り外します。



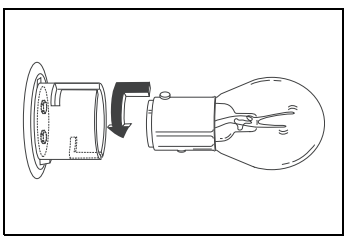
2. ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



3. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

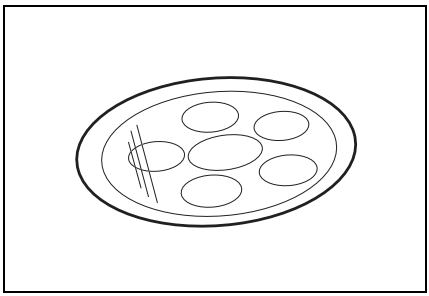
アドバイス

バルブを取り付ける際、バルブ凸部をソケットの凹部の位置に正しく合わせて取り付けます。
無理に取り付けると損傷するおそれがありますので注意してください。



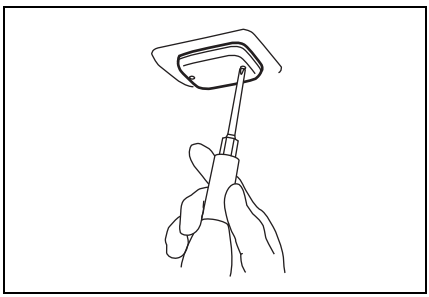
■LED 室内灯の交換

LED ランプのためランプの交換は不要ですが、故障等が発生したときは、日野販売会社の整備工場へご連絡ください。

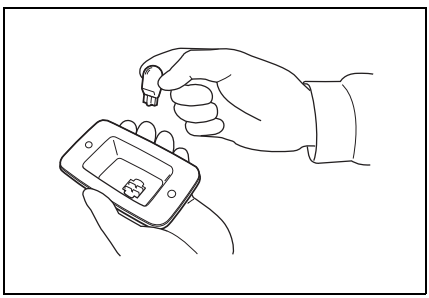


■ステップランプの交換

1. ビスを 2 本外し、カバーを取り外します。



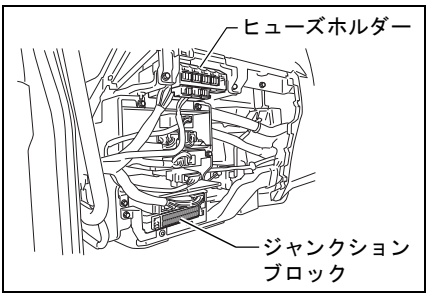
2. バルブを取り外し、新品のバルブと交換します。



3. バルブ交換後、逆の手順で取り付けます。

ヒューズを交換するとき

- ヒューズホルダーおよびジャンクションブロックはインストルメントパネル助手席側カバー内にあります。
- ジャンクションブロック内には予備ヒューズとヒューズ抜き工具（ヒューズプラー）があります。



■ヒューズの交換

1. あらかじめスターターキーを「LOCK」の位置、そのほかのスイッチを「OFF」にします。
2. 該当すると思われるヒューズを取り外し、ヒューズ切れがないことを確認します。切れている場合は交換します。

⚠警告

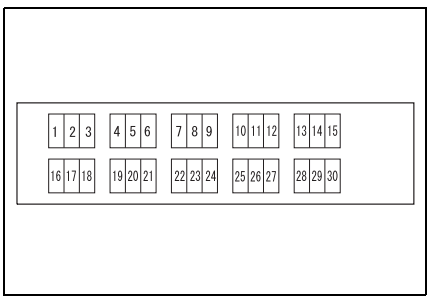
- ヒューズ類は必ず規定のアンペアのものを使用してください。
- 配線の過熱などによる火災の原因になりますので、規定のアンペア以外のヒューズ類もしくはヒューズの代わりとして針金や銅線を使用しないでください。
- スターターキーが「ON」の位置にあるときや走行中はヒューズの交換をしないでください。
  思わぬ故障や事故（ショート・やけど等）の原因になり危険です。

アドバイス

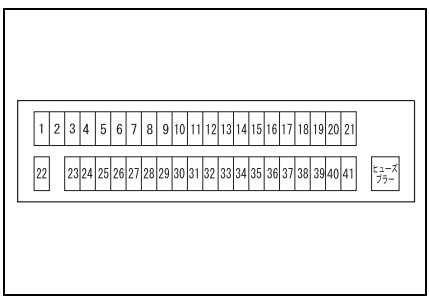
何度もヒューズが切れるときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で点検・整備を受けてください。

■ヒューズブロック

● ヒューズホルダー部



● ジャンクションブロック部



▶ ヒューズブロック一覧表

● ヒューズホルダー

No.	名称	容量	接続している主なシステム または負荷
1	予備電源（常時）	15A	予備電源（常時）
2	コンデンサーファン	10A	エアコン電動ファン
3	ヒーター	20A	ブロアモーター
4	予備電源（テール）	15A	予備電源（灯火器）
5	リヤフォグランプ	15A	リヤフォグランプ
6	ECU 電源（常時）3★	10A	ECU 電源（常時）3
7	予備電源（ACC）	10A	ACC 予備電源
8	ヘッドランプ右ハイビーム	10A	ヘッドランプ右ハイビーム
9	ヘッドランプ左ハイビーム	10A	ヘッドランプ左ハイビーム
10	予備電源(IG)	15A	予備電源（キー連動）
11	ヘッドランプ右ロービーム	10A	ヘッドランプ右ロービーム
12	ヘッドランプ左ロービーム	10A	ヘッドランプ左ロービーム
13	—	—	—
14	—	—	—
15	—	—	—
16	尿素水ヒーター	15A	尿素水ヒーター
17	尿素 SCR システム電源（常時）	20A	尿素 SCR システム電源（常時）
18	ECU 電源（IG）3	10A	ECU 電源（キー連動）3
19	エアサス	10A	エアサスハイトコントロール
20	FMS	10A	FMS
21	ミラーヒーター	15A	ミラーヒーター
22	散布車 3★	15A	凍結防止剤散布車★
23	散布車 2★	15A	凍結防止剤散布車★
24	散布車 1★	20A	凍結防止剤散布車★
25	後席パワーウインド★	20A	後席パワーウインド★
	散布車 6★	15A	凍結防止剤散布車★
26	散布車 5★	15A	凍結防止剤散布車★

No.	名称	容量	接続している主なシステム または負荷
27	後席エアコン★	10A	後席エアコン★
	散布車 4★	20A	凍結防止剤散布車★
28	ヘッドランプクリーナー	10A	ヘッドランプクリーナー
29	エアドライヤー	10A	エアドライヤー
30	シートヒーター	10A	シートヒーター

＊ 車両の仕様等で異なる場合がありますので、必ず車両に貼り付けられたプレートで確認してください。

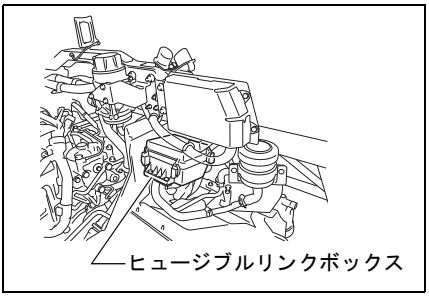
● ジャンクションブロック部

No.	名称	容量	接続している主なシステム または負荷
1	予備ヒューズ	10A	予備
2	予備ヒューズ	15A	予備
3	—	—	—
4	ドアロック	20A	ドアロック
5	テールランプ	10A	テールランプ、クリアランスランプ、ライセンスランプ、オートレベリング、エンドマーカーランプ、サイドマーカーランプ
6	ECU 電源（IG）1	10A	ECU 電源（キー連動）1
7	エアバッグ	10A	エアバッグ
8	ECU 電源（IG）2	10A	ECU 電源（キー連動）2
9	ECU 電源（常時）1	10A	ECU 電源（常時）1
10	IG 電源 3	10A	リモコンミラー
11	ホーン	10A	ホーン
12	IG 電源 2	10A	ウォッシャー
13	オーディオ	10A	ラジオ・ステレオ、タコグラフ
14	ターンシグナルランプ	15A	ターンシグナルランプ
15	スタータースイッチ	20A	スタータースイッチ
16	12V 電源（常時）	10A	12V 電源（常時）
17	12V 電源（IG2）	10A	12V 電源（キー連動）2
18	12V 電源（IG1）	10A	12V 電源（キー連動）1
19	AM 2	10A	スターターリレーコイル
20	AM 1	10A	電源用（ACC、IG）コイル
21	ルームランプ	10A	LED 室内灯
22	予備ヒューズ	20A	予備
23	—	—	—
24	シガレットライター	10A	24V ソケット、12V ソケット、USB ソケット
25	ACC 電源	10A	シガライター、ラジオ・ステレオ、キーレスエントリー★、P ロック★、エアサスハイトコントロール★

No.	名称	容量	接続している主なシステム または負荷
26	オルタネーター	10A	オルタネーター
27	リターダー	10A	リターダー
28	IG 電源 1	10A	BCM
29	ECU 電源（常時）2	10A	ECU 電源（常時）2
30	メーター	10A	メーター
31	エアコン	10A	エアコン
32	PTO	10A	PTO
33	ABS 2	15A	ABS 2
34	ABS 1	15A	ABS 1
35	ワイパー	20A	ワイパー
36	エンジン ECU（メイン）	20A	エンジン ECU（メイン）
37	VCS ECU（常時電源）	10A	車両制御 ECU
38	エンジン ECU（アクチュエーター）	15A	エンジン ECU（アクチュエーター）
39	ストップランプ	10A	ストップランプ
40	パワーウインド	20A	パワーウインド
41	フォグランプ	15A	フォグランプ

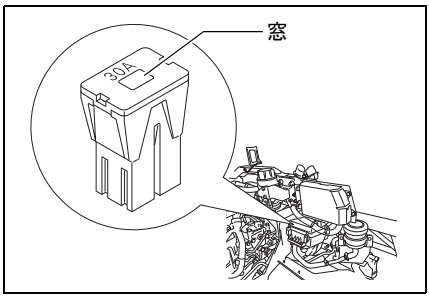
＊ 車両の仕様等で異なる場合がありますので、必ず車両に貼り付けられたプレートで確認してください。

ヒュージブルリンクが溶断したとき



- バッテリーからヒューズボックス間と、バッテリーからオルタネーター間の回路に過大電流が流れたとき、ヒュージブルリンクが溶断し、車体配線を保護する一種の安全ヒューズが、キャブのリヤアーチ付近に取り付けられています。
- ヒュージブルリンク（FL1 ～ FL16）はカセット式で、過電流時は銅合金が溶断するようになっています。

■ヒュージブルリンクの点検

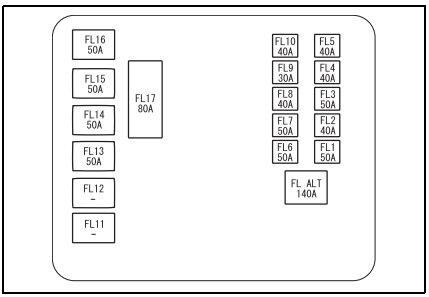


- ヒュージブルリンク本体にある「窓」から溶断がないかを点検します。

⚠ 警告

- 感電するおそれがありますので、ヒュージブルリンクの点検を行うときは、必ず、スターターキーを「LOCK」の位置にしてください。バッテリーカットスイッチ★装着車は、併せてバッテリーカットスイッチを「OFF」にしてください。
- ヒュージブルリンクを外したときは、必ず元の位置に戻してください。通電せず、装置が作動しません。
- 指定容量以外のヒュージブルリンクを使用しないでください。回路の保護ができなくなり配線の加熱などによる火災や装置の故障につながるおそれがあります。
- ヒュージブルリンクを交換した後、さらに溶断を繰り返す場合は、ただちに最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

■ヒュージブルリンクの一覧表



ヒュージブルリンク使用一覧表

種類	FL ケース色	主たる負荷	表示容量
FL ALT	赤	オルタネータ スターターリレー	140A
FL1	赤	ABS 12V 系電源	50A
FL2	緑	ヘッドランプ 架装用電源（IG）	40A
FL3	赤	スターター スイッチ ラジオ ハザード	50A
FL4	緑	エンジン制御 系統電源	40A
FL5	緑	ECU 系電源	40A
FL6	赤	凍結防止剤散布車	50A
FL7	赤	コンデンサファン ブロアモーター 架装用電源（＋ B）	50A
FL8	緑	架装用電源 （ACC、ILL）	40A
FL9	ピンク	テールランプ ドアロック ACC 電源	30A
FL 10	緑	パワーウインド エアコン	40A
FL 11	—	—	—
FL 12	—	—	—
FL 13	赤	排出ガス浄化装置	50A
FL 14	赤	凍結防止剤散布車	50A
FL 15	赤	エアサス リヤパワー ウインド	50A
FL 16	赤	凍結防止剤散布車 ミキサー車 ポンプ車	50A
FL 17	黒	インテーク ヒーター	80A

＊ 車両の仕様等で異なる場合があります。

リレーが故障したとき

⚠警告

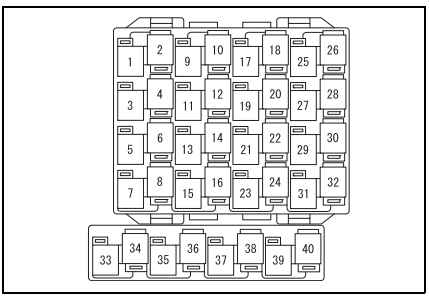
車両火災や感電などの思わぬ事故や故障の原因になりますので、リレーを交換する場合は最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

アドバイス

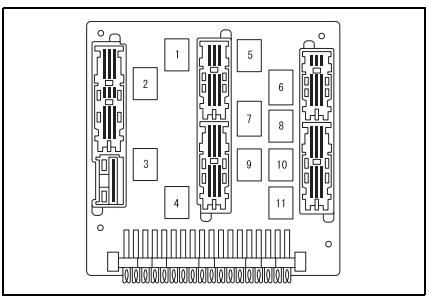
リレーが故障したときは、ただちに安全な場所に停車し、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

■リレーブロック

● リレーホルダー部



● ジャンクションブロック部



■リレーの一覧表

● リレーホルダー部

No.	名称
1	尿素水ホースヒータリレー
2	NOX センサーリレー
3	AT PTO リレー★
4	消防 PTO リレー★
5	エンジン ECU アクチュエーター電源リレー
6	エンジン ECU メインリレー
7	ES スタートバルブカットリレー
8	ES スタートメインリレー
9	スターターカットリレー
10	PTO カットリレー★
11	AT ニュートラルダミーリレー★
12	AT ニュートラルシグナルリレー★
13	AT シグナルリレー★
14	AT ニュートラルリレー★
	MT PTO リレー★
15	アイドルストップスターター ON リレー 2
16	アイドルストップスターター ON リレー 1
17	ヘッドランプリレー（メイン）★
	AHB（オートハイビーム）リレー★
18	ヘッドランプリレー（ディマ）
19	エアコンコンデンサーリレー
20	電源リレー 6
21	路肩灯リレー★
22	消防用バッテリーリレー★
	車幅灯リレー★
23	エアホーンリレー

No.	名称
24	DRL リレー
25	テールランプリレー 2
26	パワーリレー ACC2
27	エアコンリレー
28	ヒーターリレー
29	アイドルストップブロワー送風遅延リレー★
30	アイドルストップクーラー OFF リレー★
31	パーキングリレー★
32	スターターロックリレー★
33	凍結防止剤散布車リレー 2★
34	凍結防止剤散布車リレー 1★
	リヤパワーウインドリレー★
35	凍結防止剤散布車リレー 4★
36	凍結防止剤散布車リレー 3★
37	凍結防止剤散布車リレー 6★
38	凍結防止剤散布車リレー 5★
39	電源リレー 7★
40	ミラーヒーターリレー★

＊ 車両の仕様等で異なる場合があります。

● ジャンクションブロック部

No.	名称
1	フォグランプリレー
2	電源リレー 5
3	電源リレー 3
4	電源リレー 4
5	テールランプリレー 1
6	PTO リレー
7	車両制御アクチュエーターリレー
8	電源リレー 1
9	電源リレー 2
10	バックランプリレー
11	パワーリレー ACC1

＊ 車両の仕様等で異なる場合があります。

パーキングブレーキが解除できなくなったとき〔ホイールパーキング車〕

■手動による解除方法

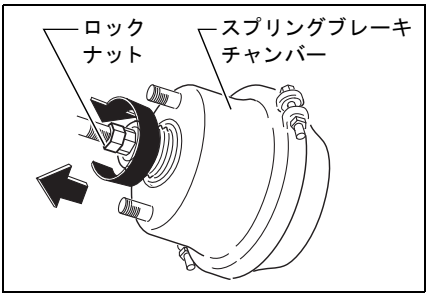
- ブレーキ用エアタンクの空気圧が低下すると、パーキングブレーキレバーを下げてもパーキングブレーキの解除ができなくなります。
- このとき、車両に搭載されているオープンエンドレンチを使用して、次の方法により手動でパーキングブレーキを解除できます。

⚠警告

- スプリングブレーキチャンバーは非分解構造であり強力なスプリングが圧縮状態で内蔵されています。思わぬ事故につながるおそれがありますので、絶対に分解しないでください。整備が必要な場合は必ず最寄りの日野販売会社の整備工場で整備を受けてください。
- 手動で解除するときは、平坦な場所でエンジンを止め、タイヤの前後に輪止めを必ず掛けてください。
- 手動による解除は、車を坂道に止めたときには行わないでください。動き出すおそれがあり危険です。
- 手動による解除は、車を緊急に移動させるとき以外は行わないでください。
  車を移動した後、すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
- 手動で解除した後は、パーキングブレーキは効きません。すみやかに最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
- メカニカルリリースする際は、全てのチャンバーを解放してください。

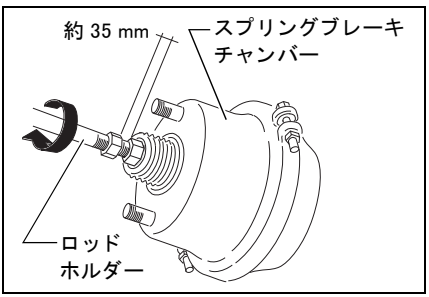
〔FC・FD・GC・GD・GX 車〕

1. ロックナットをゆるめます。



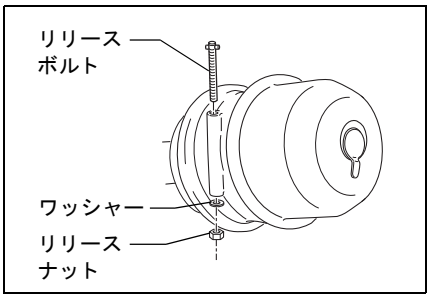
2. ロッドホルダーをいっぱいまで（約 35 mm）ねじ込み方向に回します。これでスプリングブレーキが解除されます。

＊ 必ず両輪とも行ってください。

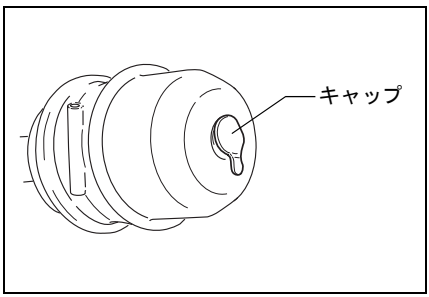


〔FE・FJ 車〕

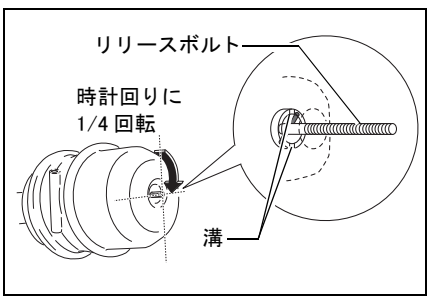
1. スプリングブレーキチャンバーのサイドに設けてあるリリースナットを外しリリースボルトを取り外します。



2. スプリングブレーキチャンバー後端のキャップを外します。

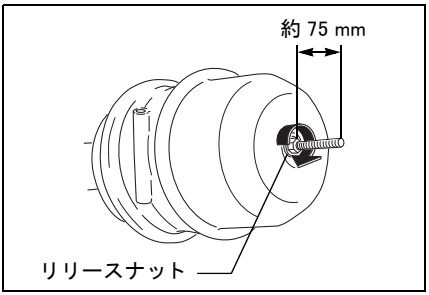


3. スプリングブレーキチャンバー後端からリリースボルトの溝を狙って奥まで差し込み、時計回りに 1/4 回転回し、手で軽く引っ張って溝にフックが掛かったことを確認します。



4. リリースナットとワッシャーを組み付け、リリースナットをいっぱいまで（約 75 mm）ねじ込み方向に回します。これでスプリングブレーキチャンバーが解除されます。

＊ 必ず両輪とも行ってください。



⚠ 警告

スプリングブレーキチャンバー後端のキャップを外した場合は、作業終了後、キャップを「パチン」と音がするまで確実に装着して（はめ込んで）ください。キャップを装着しなかったり、装着が不完全なままにしておくと、スプリングブレーキチャンバー内に水や泥が入り、内蔵されているスプリングが錆びたり、破損したりするおそれがあります。

知識

キャップをはめ込む際、かたくてはめ込みにくい場合は、先の丸い棒状のものでキャップの中央を傷つけないようにして押し込むと、はめ込みやすくなります。

ブレーキの効きが悪くなったとき

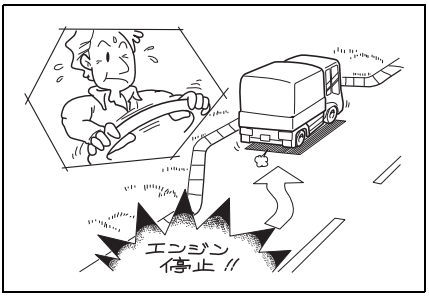


- ブレーキペダルを強く踏み、さらにエキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★、ギヤシフトダウン、パーキングブレーキを併用し、ただちに安全な場所に停車させてください。停車後、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

⚠ 警告

停車後は、絶対に車を動かさないでください。ブレーキの効きが低下している状態での走行は危険です。

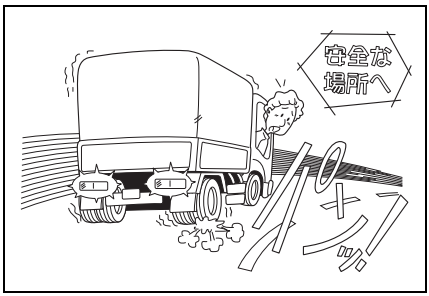
走行中エンジンが止まったとき



・ 走行中、エンジンが止まったときは、あわてずに、ブレーキペダルを踏みながら減速し、安全な場所に停車させて点検してください。また、パワーステアリングが作動しなくなるためハンドルが急に重くなりますので、通常より強い力でハンドルを操作してください。

・ 走行中に燃料切れでエンジンが止まったときは、燃料系統にエアが入ってしまい、燃料を補給しただけでは始動できません。燃料系統のエア抜きは（→ P.15-52）

走行中パンクしたとき



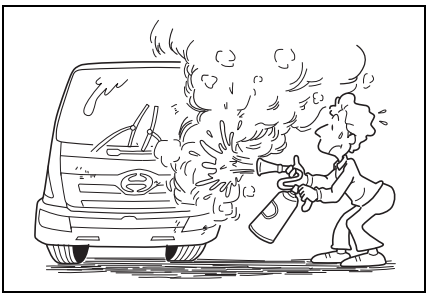
・ 急ブレーキを避け、ハンドルをしっかり握り、ハザードランプで後続車に注意を促してください。そして、徐々にスピードを落とし、安全で平坦な場所に停車させて、タイヤの交換をしてください。

⚠ 警告

- 急ブレーキをかけないでください。急ブレーキをかけるとハンドルを強くとられ大変危険ですので絶対に行わないでください。
- パンクしたままで走行しないでください。そのまま走行を続けると、タイヤがバースト（破裂）などを起こすおそれがあり危険です。

＊ タイヤの取り扱いは（→ P.13-59）

火災が発生したとき



- ただちに安全な場所に停車させて、スターターキーを「LOCK」の位置に戻してエンジンを止め、消防署に通報してから、消火器★などで消火してください。
- 消火できない場合は、ただちに車から離れて安全な場所に避難してください。

＊ 発炎筒（緊急保安炎筒）の取り扱いは（→ P.15-21）

＊ 消火器★の取り扱いは（→ P.15-22）

燃料が切れたとき

燃料切れでエンストしたときや、フューエルフィルターエレメントなどを交換したときは、燃料系統に空気が混入し、燃料を補給しただけではエンジンを始動できません。次の手順でエア抜きを行ってください。

■エア抜きのしかた

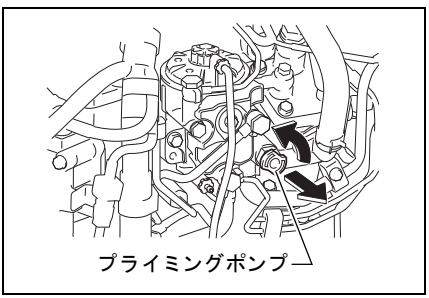
⚠ 警告

- プライミングポンプは作業終了後、確実に締め付けてください。
  ゆるむと燃料漏れ、破損のおそれがあり危険です。
- 燃料漏れは火災の原因になり危険です。漏れがあるときは、各接続部のガスケットの交換または増し締めをしてください。
- 安全のため、地面を汚さないためにも、燃料は必ず容器に受けてください。
- エンジン各部に燃料がかかったときは、よく拭き取ってください。火災の原因になり危険です。
- 作業中はタバコの火などを近づけないでください。引火のおそれがあり危険です。

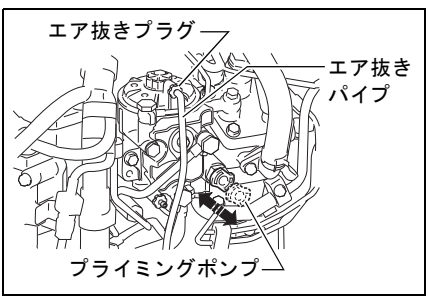
⚠ 注意

- 部品取り付け時は、部品間の接続部にごみがないことを確認してから取り付けてください。
- プライミングポンプによるエア抜きを行った後でも、燃料系統の空気が抜けきれず、エンジンがかかりにくい場合があります。スターターは 15 秒以上連続して回すと、保護機能が働き一旦自動停止します。1 度でエンジンがかからないときは、バッテリーの機能回復のため「ACC」の位置に戻し、30 秒ほど待ってからかけなおしてください。

1. プライミングポンプを左に回し、引き出します。



2. フューエルフィルターのエア抜きプラグをゆるめた後、エア抜きパイプの下にウエスなどを当て、プライミングポンプを前後または上下に動かし燃料を送ります。



3. エア抜きパイプから気泡の混じっていない燃料が出てきたら、エア抜きプラグを締め付けます。

エア抜きプラグの締め付けトルク
7.0 N・m {70 kgf・cm}

4. プライミングポンプを前側に押し付け、ピストンがスムーズにねじ込めることを確認しながら右にいっぱいに締め付けます。

アドバイス

プライミングポンプのピストンを格納する際、無理にねじ込むとかみ込みを起こすことがありますので注意してください。

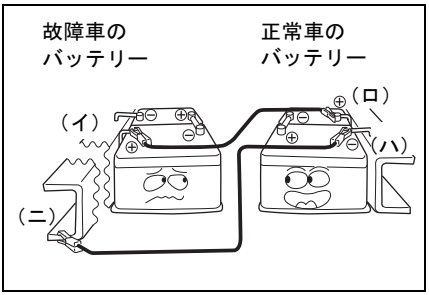
5. エア抜き完了後、漏れた燃料を拭き取り、エンジンをかけて燃料漏れがないことを確認します。

＊ サプライポンプ関係に異常が認められたときは、最寄りの日野販売会社の整備工場で必ず点検・整備を受けてください。

バッテリーがあがったとき

■補機用バッテリー（24 V）

バッテリーあがりのために、ブースターケーブルで他車のバッテリーと接続してエンジンを始動させるときは、必ず次の順序で行ってください。



⚠危険

- ブースターケーブルをつなぐ前に故障車のバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が「LOWER」レベル以下で充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあり危険です。補充してから行ってください。
- 最後の接続時にはスパークが発生することがあり危険ですので、バッテリーからできるだけ離れた位置に接続してください。

1. 良好なバッテリー側の車両（正常車）のエンジンを停止させます。
2. 赤色ブースターケーブルのクリップを故障車のバッテリーの⊕端子（イ）に接続します。
3. 他方を正常車のバッテリーの⊕端子（ロ）に接続します。
4. もう一方の黒色ブースターケーブルのクリップを正常車の⊖端子（ハ）に接続します。
5. 最後に他方を故障車のバッテリーからできるだけ離れたフレームかエンジンブロック（ニ）に接続します。
6. ブースターケーブルの各クリップが確実に接続されていることを確認後、正常車のエンジンを始動してから、故障車のエンジンを始動させます。

＊ 寒冷時でエンジンがかかりにくいときは、正常車のエンジンを始動させ数分たってから、故障車のエンジンを始動させてください。

7. エンジン始動後、ブースターケーブルを接続の逆の順序で取り外します。

⚠警告

引きがけや坂道で車を動かしてエンジンをかけないでください。追突事故につながるおそれがあり危険です。

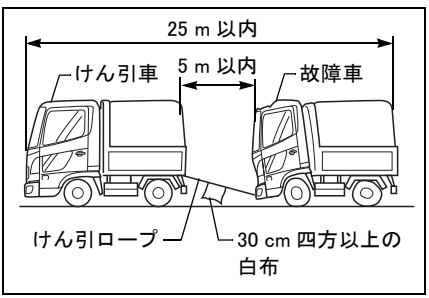
・ オートマチックトランスミッション車は、車を引いたり押したりしてエンジンをかけることはできません。

けん引するとき、してもらうとき

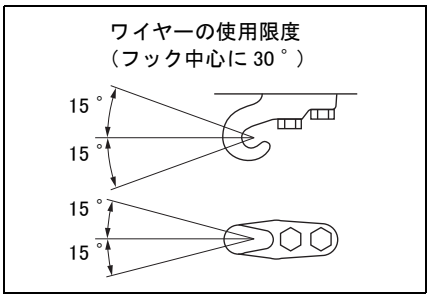
故障または事故などでけん引するときあるいはしてもらうときは、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。
なお、やむを得ずけん引するとき、またはしてもらうときは、次の点に注意してください。

■けん引前の準備

- けん引車と故障車の車間距離を 5 m 以内にします。
- けん引ロープの中間の見やすい個所に 30 cm 四方以上の白布を付けます。
- けん引車前端から故障車後端までの長さを 25 m 以内にします。



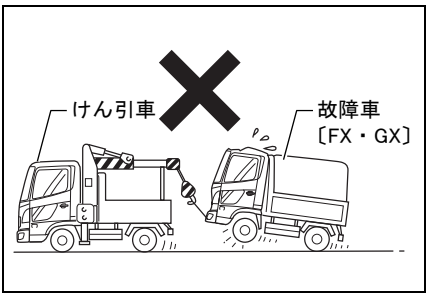
- 故障車の荷物はすべて降ろします。
- けん引ロープは強度のあるものを使用し、けん引車後端のフックと故障車前端のフックに外れないように掛けます。
- けん引フックはロープの掛け方によりフックの強度が異なりますので安全のため使用範囲内（角度）でご使用ください。



■けん引時の注意

- 故障車のエンジンが回るときは、必ず回しておきます。エンジンを止めておくとブレーキが効かなくなるばかりか、ハンドル操作が異常に重くなり危険です。
- 故障車のエンジンが回らないときは、けん引専用車（レッカー車）でけん引してください。
- 故障車のチェンジレバー、セレクトレバー★またはギヤセレクターを N の位置にします。
- 故障車のスターターキーは「ON」の位置にしておきます。
- 急発進を避け、ロープをたるませないようにします。
- FX・GX 車（フルタイム 4WD）は、けん引されるときに、センターデフロック装置をロックにしないでください。
ロックしたままでけん引すると、ブレーキをかけた状態と同じような現象が発生し運転しにくくなります。

・ FX・GX 車（フルタイム 4WD）のときは、2 輪を持ち上げてのけん引は行わないでください。2 輪を持ち上げてけん引すると駆動系部品が破損するおそれがあります。



・ けん引専用車以外でけん引するときの最高速度は 30 km/h です。高速道路でのけん引はできません。

アドバイス

車速が高いとトランスミッションを損傷させるおそれがあります。

・ 急激な力がかかる使い方（溝に落ちた車をけん引するときなど）をするときは、フックでのけん引を避けて、アクスルなどを用いてけん引します。

⚠ 注意

オートマチックトランスミッション車をけん引するときは必ず後輪を持ち上げて行ってください。なお、後輪を持ち上げずにワイヤーロープなどでけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。外さないでけん引するとトランスミッション焼き付きの原因になります。

・ オートマチックトランスミッション車は、車を引いたり押したりしてエンジンをかけることはできません。

・ プロペラシャフトを取り外したときは、エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキ、エンジンリターダー、電磁式リターダー★が効きません。また FC・FD・GC・GD・FX 車はパーキングブレーキも効きません。けん引時には十分注意してください。

・ トランスミッション、トランスファー★デファレンシャルギヤなど内部に故障があるときやセンターデフロック装置★のロックが解除されないときは、けん引せずに、最寄りの日野販売会社の整備工場に連絡してください。

サービスデータ 16

サービスデータ

■アイドリング回転数（→ P.5-9）

エンジン型式	標準アイドリング回転数 (r/min)
A05C	550

■エアタンク内の空気圧［エアプレッシャーゲージ］（→ P.6-5）

車型	基準空気圧 ×100 kPa {kgf/cm^2}
FC・FD・GC・GD・FX・GX （エアオーバーブレーキ車）	7.8 ～ 8.8 {8.0 ～ 9.0}
FE・FJ（フルエアブレーキ車）	9.0 ～ 10.0 {9.2 ～ 10.2}

■空気圧力の上がり具合（→ P.12-26）

基準値
6 分以内

＊ アイドリング時 0 ～ 540 kPa {0 ～ 5.5 kgf/cm^2} までの時間

■エアコン用コンプレッサーベルト（→ P.13-35）

基準値 (mm)
11

＊ ベルトの中央を 98 N {10 kgf} の力で押したときのたわみ量

■タイヤの空気圧（→ P.12-14）

基準値
本文参照

■タイヤの溝の深さ限度（→ P.12-16）

基準値
本文参照

■内側と外側タイヤの外径差（→ P.13-68）

基準値 (mm)
8 以内

■ホイールナット締め付けトルク（→ P.13-73）

締め付けトルク （N・m {kgf・cm}）	
JIS 方式 6 本ボルト	400 ～ 480 {4,000 ～ 4,800}〔インナー・アウター〕
JIS 方式 8 本ボルト	550 ～ 600 {5,500 ～ 6,000}〔インナー・アウター〕
ISO 方式 8 本ボルト	550 ～ 600 {5,500 ～ 6,000}
ISO 方式 10 本ボルト	

■アクスルシャフト締め付けトルク（→ P.13-80）

締め付けトルク （N・m {kgf・cm}）
85 ～ 107 {870 ～ 1,100}

■冷却水（→ P.13-26）

車型		トランスミッション	冷却水容量（L）
FC	2A	MT 車	21
		AT 車	21.5
FD	2A	MT 車	21
		AT 車	21.5
GC	2A	MT 車	21
		AT 車	21.5
GD	2A	MT 車	21
		AT 車	21.5
FJ	2A	MT 車	21
FE	2A	MT 車	21
		AT 車	21.5
FX	2A	MT 車	21
GX	2A	MT 車	21
ダブルキャブ車	2A	MT 車	21
		AT 車	21.5

車型		トランスミッション	冷却水容量（L）
消防車	2A	MT 車	23.5
		AT 車	24

＊ MT 車：マニュアルトランスミッション車

＊ AT 車：オートマチックトランスミッション車

■フットブレーキドラムとライニングのすきま（→ P.13-41）

車 型	ホイール	基準値（mm）
FC・FD・GC・GD・FJ・FE	フロント	0.1 ～ 1.0
	リヤ	
FX・GX	リヤ	

■クラッチペダルの遊び（→ P.13-47）

基準値 (mm)	限度 (mm)
52 ～ 65	35

■ブレーキペダルの遊び（→ P.13-37）

基準値 (mm)
1 ～ 4

■ハンドルの遊び［円周上］（→ P.13-80）

基準値 (mm)	限度 (mm)
15 ～ 35	50

■エアコン冷媒（ガス）規定量（→ P.13-91）

基準値 (g)
450（HFC134a）

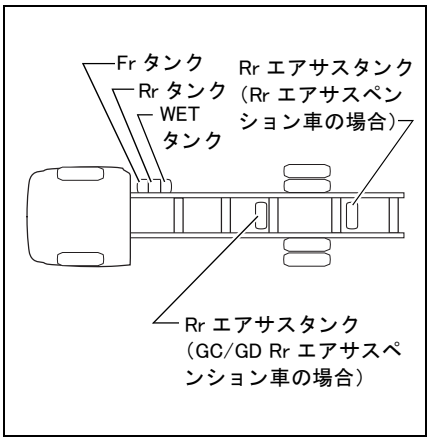
■ランプ（→ P.15-27）

ランプの名称	容量
ハロゲンヘッドランプ（ロービーム／ハイビーム）	24V-75/70W
ハロゲンヘッドランプ（ハイビーム）	24V-70W
ターンシグナルランプ（フロント）	24V-21W
ターンシグナルランプ（フロントサイド）	24V-21W
ターンシグナルランプ（サイド）	24V-25W
クリアランスランプ	24V-5W
ステップランプ	24V-6W
ターンシグナルランプ（リヤ）	24V-21W
ストップランプ／テールランプ	24V-21/5W
ストップランプ	24V-21W
バックランプ	24V-21W
ライセンスプレートランプ	24V-5W
ヒーターコントロールパネルランプ	24V-1.8W
LED 室内灯	24V-4.8W

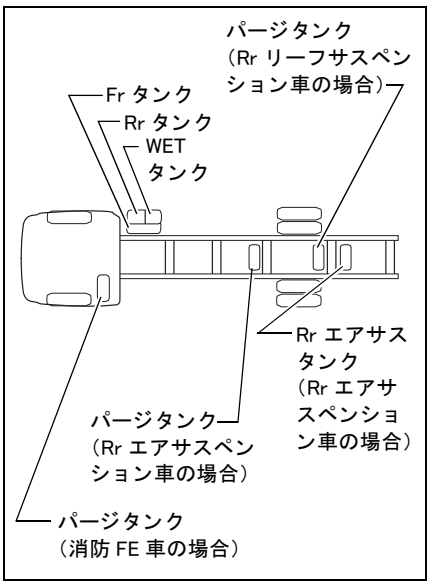
■メーカー標準設定エアタンクレイアウト図

＊ ボデーメーカーによる改造がある場合は、この限りではありません。

▶ FC・FD・GC・GD・FX・GX 車



▶ FE・FJ 車



さくいん

五十音順さくいん
..... さくいん –2

五十音順さくいん

あ

アイドルストップシステム★〔オートマチックトランスミッション車〕 P.5-126
アイドルストップシステム★〔マニュアルトランスミッション車〕....P.5-121
アイドルストップシステム機器★ P.13-106
アイドルストップシステムの不調時の原因と処置 P.15-19
アイドルストップ時のブレーキ保持★（オートマチックトランスミッション車） P.5-102
アイドルセットボタン P.5-9
アクセサリーソケット P.8-39
安全・快適走行のために P.1-10
安全に関する情報 P.8-15
アンテナ P.8-3

い

ES スタート（坂道発進補助装置）★ P.5-94
ETC 2.0（自動料金収受システム）★ P.8-16
EBS・ABS ウォーニング（フルエアブレーキ車） P.6-87
EBS・ABS 機器（フルエアブレーキ車） P.13-104
EBS・ABS 表示停止ウォーニング（フルエアブレーキ車） P.6-90
イモビライザー機能付きキー P.3-2
インタークーラー P.13-20

う

ウインドウウォッシャー P.13-93
ウインドウウォッシャーの液量・噴射状態 P.12-19
ウォーニングランプ・インジケーターランプ P.6-72
運転席 SRS エアバッグウォーニングランプ P.6-92
運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置） P.5-53
運転席 SRS エアバッグ（シートベルト補助拘束装置）について P.1-28
運転前に P.1-2

え

エアインテークラバーホースの点検〔消防車〕 P.12-33
エアクリーナー P.13-21
エアコン P.13-91
エアスプリング★ P.13-84
エアタンク内のたまり水 P.12-5
エアドライヤー P.13-45
エアフィルター P.13-24
エアブレーキバルブの排気音 P.12-27
エアプレッシャーウォーニング P.6-81
ASR（アンチスリップレギュレーションシステム）★ P.5-117
AHB（オートハイビーム）リレー★ P.13-19
ABS ウォーニング（エアオーバーブレーキ車） P.6-86
ABS 機器（エアオーバーブレーキ車） P.13-103
ABS 表示停止ウォーニング（エアオーバーブレーキ車） P.6-87
エキゾーストパイプおよびマフラーの点検〔消防車〕 P.12-34
エキゾーストブレーキスイッチ P.5-73
エキゾーストブレーキ点検スイッチ P.5-74
エキゾーストブレーキの作動 P.12-28
エコツリー★ P.6-27
エコモードスイッチ★ P.5-79
エコランプ P.6-26
FS クルーズ★ P.5-142
FS スピードリミッター★ P.5-130

FX・GX 車〔フルタイム 4WD 車〕運転時の注意 P.9-14
MIL P.6-94
LED 室内灯 P.8-35
エンジンオイル P.14-4
エンジンオイルの漏れ〔消防車〕 P.12-30
エンジンオイルの量 P.12-7
エンジンオイルフィルター P.13-8
エンジンオイルフィルターウォーニング P.6-81
エンジンのかかり具合・異音 P.12-22
エンジンのかけ方 P.5-5
エンジンの調子〔消防車〕 P.12-29
エンジンの止め方 P.5-13
エンジンリターダースイッチ P.5-75

お

オイルパンヒーター用コンセント〔消防車〕 P.5-8
オイルプレッシャーウォーニング P.6-80
オーディオを上手にお使いいただくために P.8-2
オートハイビーム（AHB）★ P.5-66
オートマチック車★を運転するにあたって P.1-17
オートマチックトランスミッション P.5-19
オートマチックトランスミッションオイル P.14-14
オートマチックトランスミッションオイルの漏れおよびにじみ P.12-29
オートマチックトランスミッションオイルフィルター P.13-52
オーバーヒートウォーニング P.6-78
オーバーヒートしたとき P.15-24
お子さまを乗せるときの気配り P.1-22
音楽ファイルを聞く P.8-11

か

各種設定 P.8-6
各パイプジョイントの増し締め〔消防車〕 P.12-34
各プーリーの取り付けボルトの緩み〔消防車〕 P.12-33
火災が発生したとき P.15-52
架装ウィングメイン（ウィング仕様車）スイッチ★ P.5-92
架装庫内灯（ウィング仕様車）スイッチ★ P.5-91
架装マーカー灯スイッチ★ P.5-91
架装路肩灯スイッチ★ P.5-90

き

キーナンバープレート P.3-4
キーレスエントリー（応答式）★ P.3-6
基本操作について P.8-5
給脂 P.14-32
給脂図 P.14-28

く

空気圧力の上がり具合 P.12-26
クーラントレベル（冷却水不足）ウォーニング P.6-79
クーリングファンセンターボルトの取り付け状態および緩み〔消防車〕 P.12-32
クラッチ P.13-46
クラッチフルード★ P.14-25
車のお手入れ P.13-107
車の点検について P.2-3
クローズドベンチレータ P.13-10

け

計器類の点検〔消防車〕 P.12-35
警告灯が点灯したとき P.15-23
警報ブザーが鳴ったとき P.15-25

けん引するとき、してもらうとき P.15-55

こ

故障したとき P.15-20
これは危ない！気をつけて P.1-24
コンソールボックス類 P.8-42

さ

サイトアラウンドモニターシステム★ P.5-216
左右任意エアサスハイトコントロール★ P.5-254
散光灯スイッチ★ P.5-90
サンバイザー★ P.8-38

し

シート P.4-2
シートヒーター★ P.4-8
シートベルト P.4-9
シートベルト未装着警報ランプ（運転席側） P.6-92
知っておいていただきたいこと P.1-36
遮音材および吸音材 P.13-128
車外騒音に係わる部品 P.13-107
車載工具 P.13-6
シャシスプリング P.13-83
車線逸脱警報装置★ P.5-166
車台番号・エンジン番号 P.2-6
ジャッキアップ P.13-54
車両への乗り降り P.3-15
手動キャブチルト★ P.11-2
純正油脂類 P.14-3
消火器★ P.15-22
ショックアブソーバ P.13-87
新車時の取り扱い P.2-6

す

スキャニングクルーズⅡ（車間クルーズ）★ P.5-148
スターター過熱ウォーニング★ P.6-93
スタータースイッチ P.5-4
スタータースイッチのスイッチ接点 P.13-102
スターターモーター P.13-19
ステアリング P.13-80
ステアリングスイッチ★ P.8-4
ステップランプ P.8-38
ストップランプウォーニング P.6-85
スピードリミッター★ P.5-92

せ

前日または前回運行中の異状箇所 P.12-4
センターデフロックスイッチ〔FX・GX車〕 P.5-88

そ

走行時の注意 P.9-3
走行中エンジンが止まったとき P.15-51
走行中パンクしたとき P.15-51
側方確認窓 P.3-14

た

ターンシグナルスイッチ P.5-71
タイヤの異常な摩耗 P.12-15
タイヤの亀裂・損傷 P.12-15
タイヤの空気圧 P.12-14
タイヤの取り扱い P.13-59
タイヤの溝の深さ P.12-16
タコグラフ★ P.6-23
暖機システム P.5-11
ダンプ★ P.5-109

ち

チェックエンジンランプ P.6-96
チャージウォーニングランプ P.6-91
駐・停車時の注意 P.9-15
駐・停車するとき P.1-20

つ

通信モジュールの取り扱い P.13-123
積荷 P.9-16

て

DPR ウォーニング P.6-97
DPR（排出ガス浄化装置）.....P.13-113
DPR（排出ガス浄化装置）の取り扱い P.1-30
ディスクホイールの取り付け状態 P.12-17
低速走行・加速の状態 P.12-28
デジタルタコグラフ（シンプルタイプ）★ P.6-11
手すりの取り扱い★ P.3-16
デファレンシャル P.13-53
デファレンシャルオイル P.14-18
電気溶接時の注意 P.13-123
点検・調整作業にあたっての注意 P.13-4
点検にあたっての注意 P.12-3
電磁式リターダーコントロールレバー・エキゾーストブレーキスイッチ★ P.5-77
電動キャブチルト★.....P.11-6、13-88
電動キャブチルトシリンダーオイル★ P.14-26

と

ドアアウトサイドハンドル、グリップの点検 P.13-127
ドアガラスの開閉 P.3-11
ドアの開閉 P.3-10
ドアの施錠・解錠 P.3-4
冬期・夏期の取り扱い P.10-2
ドライバー異常時対応システム（EDSS）★ .....P.5-205、13-124
ドライバーモニターⅡ★ P.5-171
トラブルシューティング P.8-12
トランスファー［FX・GX 車］ P.13-53
トランスファーオイル〔FX・GX 車〕 P.14-16
トランスミッション P.13-51
トランスミッションオイル★.....P.14-11
トランスミッションオイルストレーナー★ P.13-52
トランスミッション PTO（パワーテイクオフ）★ P.5-105

に

荷台★ P.3-19
尿素 SCR システムウォーニング P.6-103
尿素 SCR（尿素選択式還元触媒）システム .....P.1-34、13-114
尿素水残量ウォーニング P.6-98
尿素水品質ウォーニング P.6-100

ね

燃料が切れたとき P.15-52
燃料残量ウォーニング P.6-91
燃料タンク・タンクバンド・パイプホース P.13-18
燃料添加弁 P.13-122
燃料の量・漏れ〔消防車〕.....P.12-30

は

パーキングブレーキ解除用工具 P.13-7
パーキングブレーキが解除できなくなったとき〔ホイールパーキング車〕 P.15-48

パーキングブレーキ〔センターパーキング車〕.....P.13-50
パーキングブレーキレバー.....P.5-48
パーキングブレーキレバーの作動〔ホイールパーキング車〕.....P.12-21
パーキングブレーキレバーの引きしろ〔センターパーキング車〕.....P.12-20
灰皿.....P.8-42
排出ガス浄化装置再生スイッチ.....P.5-80
配線関係.....P.13-103
ハザードスイッチ.....P.5-71
発炎筒（緊急保安炎筒）.....P.15-21
バックアイ★.....P.5-228
バックブザー減音スイッチ.....P.5-258
発進アイドルアップ★.....P.5-93
発進時の注意.....P.9-3
発進前の準備.....P.9-2
バッテリー.....P.13-96
バッテリー液の量.....P.12-13
バッテリーがあがったとき.....P.15-54
バッテリーカットスイッチ〔消防車〕.....P.5-3
パワーステアリングオイル.....P.14-22
パワーミラースイッチ.....P.5-86
ハンズフリー.....P.8-15
ハンドル.....P.5-52

ひ

PCS（プリクラッシュセーフティ）★.....P.5-174
ヒュージブルリンクが溶断したとき.....P.15-44
ヒューズを交換するとき.....P.15-39
標識認識システム.....P.5-196

ふ

ファンベルト.....P.13-34
ファンベルトの緩み・損傷.....P.12-11
VSC ウォーニング.....P.6-90
VSC（ビークルスタビリティコントロール）.....P.5-119
V ー ロッド★.....P.13-86
フォグランプスイッチ★.....P.5-73
吹き出し口.....P.7-2
不調時の原因と処置.....P.15-2
フットブレーキ〔全車〕.....P.13-36
フットブレーキ〔ディスクブレーキ〕.....P.13-43
フットブレーキ〔ドラムブレーキ〕.....P.13-40
フューエルフィルター.....P.13-11
フューエルフィルター水位（水抜き）ウォーニング.....P.6-84
フライホイール PTO オイル〔消防車〕★.....P.14-8
フライホイール PTO（パワーテイクオフ）★〔消防車〕.....P.5-107
ふらつき警報★.....P.5-170
Bluetooth® 機器.....P.8-13
フルオートエアコン★.....P.7-3
ブレーキアジャストウォーニング.....P.6-82
ブレーキ液の量★.....P.12-5
ブレーキ液レベルウォーニング.....P.6-83
ブレーキの効きが悪くなったとき.....P.15-50
ブレーキの効き具合.....P.12-27、13-44
ブレーキブースターの点検★.....P.13-45
ブレーキフルード★.....P.14-23
ブレーキロック（作業用補助制動装置）★.....P.5-114
プレフューエルフィルター.....P.13-14
フロントスピーカー.....P.6-104
フロントパネルの開閉.....P.3-17

へ

ペダル類 P.5-15
ヘッドランプウォッシャースイッチ★ P.5-62
ヘッドランプ光軸調整スイッチ★ P.5-72

ほ

ホーンボタン P.5-53
保証について P.2-2

ま

Myドライブマスター P.6-24
マニュアルエアコン★ P.7-12
マニュアルトランスミッション P.5-16
マルチインフォメーションシステム P.6-28

み

ミキサー★ P.5-114
ミストキャッチャー★ P.13-125
ミラー P.13-89
ミラーの調整の仕方 P.5-84
ミラーヒータースイッチ★ P.5-88

め

メーターが異常を示したとき P.15-23
メーター類 P.6-4
メーター類・ランプ類の配置 P.6-3

ゆ

USBソケット★ P.8-40
油脂類一覧表 P.14-39

よ

予熱装置異常ウォーニング★ P.6-93
4WD車★を運転するにあたって P.1-19

ら

ライティングスイッチ P.5-62
ライトセンサー系ウォーニング P.6-85
ライニング、パッド摩耗ウォーニング★ P.6-84
ラジエーターキャップ P.13-33
ラジエーターキャップの装着状態〔消防車〕 P.12-32
ラジオを聴く P.8-9
ランプ類が点灯しないとき P.15-26
ランプ類の点灯または点滅具合 P.12-24
ランプ類の汚れ・損傷 P.12-6

り

リヤエアサスハイトコントロール★ P.5-246
リレーが故障したとき P.15-46

れ

冷却水 P.13-25
冷却水の漏れ〔消防車〕 P.12-31
冷却水の量 P.12-9
レボタコグラフ★ P.6-23

わ

ワイパー P.13-94
ワイパー&ウォッシャースイッチ P.5-59
ワイパーの拭き取り状態 P.12-23
ワイパーマニュアルストップスイッチ★ P.5-61

お買い上げいただきましたお車についてのお問い合わせ、ご相談がございましたら、下記の要領でご相談ください。

- まず、お買い上げいただいた販売会社の整備工場受付にご相談ください。
- 販売会社が誠意をもって対応いたしますが、ご説明などで不十分な点がございましたら下記の日野自動車『お客様相談窓口』にご相談ください。

日野自動車株式会社 『お客様相談窓口』
〒 191-8660　東京都日野市日野台 3 丁目 1 番地 1

フリーダイヤル：0120-106558
受付時間：月曜日～金曜日　午前 9:00 ～ 12:00　午後 1:00 ～ 5:00
（ただし、弊社休業日を除きます）

中型トラック
レンジャー
取扱説明書

発行

日野自動車株式会社

2026 年 7 月　初版発行
2026 年 7 月 OM-RGAL26JPNJH-AALLA

不許複製

2026 年 7 月 HTS(A)
Part No. 01999-E0650